



オンラインヘルプ

MOBOTIX MxManagementCenter 2.9.2

©2025 MOBOTIX AG



目次

目次	2
MxMC 2.9.2 の新機能は?	5
サポート	7
基礎 / 入門	9
MxManagementCenter 機能概要	9
カメラ機能の概要	11
スマート・データ・システム	12
録音のエクスポート	12
ドア・ステーションの操作	21
システム・セキュリティのチェック	25
サーマル・ダッシュボード	28
MxMC ビュー	29
ライブビュー	30
プレイバック・ビュー	30
グリッド・ビュー	31
グラフィック・ビュー	32
グリッド再生	33
スマートなデータ検索ビュー	34
コンポーネント・ビュー	35
AIカメラアプリの見方	37
インフォ・ビュー	37
コンフィギュレーション概要	38
プログラム構成と運営コンセプト	46
デバイスバー	48
カメラバーとカメラグループバー	52
アラームバー	54
エクスポート・バー	58
コントロールとボタン	59
セットアップ	61
基本的なインストール概要	62
カメラ、デバイス、ソースの追加	63
カメラの追加	63
デバイスとソースの追加	72

カメラグループの設定	75
ユーザーの追加	78
カメラの基本設定	80
カメラの基本設定 一般設定	85
カメラの基本設定 時間	87
カメラの基本設定 画像設定	89
カメラの基本設定 録画	92
カメラの基本設定 MxActivitySensor	94
カメラの基本設定 ネットワーク	95
システム・セキュリティのチェック	98
既存プロジェクトのインポート	101
インポート用MXUファイルの作成	103
バックアップとエクスポート	105
マネジメント	109
グループの見解	110
ドアステーションの設定	117
ネットワーク環境	123
カメラ構成	125
カメラとカメラグループ	125
カメラ設定	131
マルチカメラ構成	145
ユーザー管理	146
ユーザー設定	149
ユーザータイプ	154
スーパーバイザー設定	154
週間プロフィール	157
好み	159
ジョイスティックの調整	176
コンポーネント設定	177
カメラ設定	177
ファイルサーバーの設定	212
スマートなデータソース	218
MxThinClient の設定	221
ソフトボタンの設定	224
プロジェクト情報設定	227
ライセンス	228
MxMC ライセンス	228
カメラアプリのライセンス	230

MOBOTIX ストレージ・デバイスの統合	237
アプリケーションの使用	245
ライブ監視	246
ライブビューでの作業	246
グリッドビューでの作業	253
グラフィック・ビューでの作業	258
ドア・ステーションの操作	260
マルチモニターでの作業	263
さまざまなネットワーク環境での作業	266
アラーム処理	268
での研究 MxMC	273
再生ビューでの検索と再生	273
グリッド再生での検索と再生	285
スマート・データ・システム	287
ヒストグラム・バー	292
ポストビデオ動体検知(ポストVM)による検索	295
バックドア・イベントの検索と再生	303
録音のエクスポート	306
ジョイスティックの使用 MxMC	315
ジョイスティックの一般的な使い方	315
MOBOTIX PTZキーボードの統合 MxManagementCenter	316
サーマルダッシュボードの使用	319
システム構成	327
コンフィギュレーション概要	327
グラフィカルな操作	335
トラブルシューティング	336
行動ログ	336

MxMC 2.9.2 の新機能は?

高度な電子メール通知

- 特定のイベントやデータ内容に関するEメール通知オプションが、プログラムの様々な場所で利用できるようになりました。[健康チェック](#), ページ 192ご覧ください。
- アクションログおよびカメラ接続の喪失イベントは電子メールで送信できます。[監視](#), ページ 164参照してください。
- 臨界温度値を超えた場合などのイベントに対してEメール通知を送信することができます。[サーマル・ダッシュボード](#), ページ 28参照。
- スマートデータ検索の結果は、自由に設定可能な間隔でCSVファイルとして電子メールで送信することができます。スマートデータ検索結果のメール送信は、「[表示](#)」>「[スマートデータ検索](#)」で設定できます。[スマート・データ・システム](#), ページ 287参照してください。

プロジェクト情報

可変プロジェクト情報は、コンポーネントビューで追加できます。プロジェクト情報は、オプションでEメール通知に追加できます。[プロジェクト情報設定](#), ページ 227」を参照してください。

カメラのファームウェアチェックの改善

コンポーネント・ビューでは、ファームウェアが古いIoTカメラは、カメラ・リストで記号  で表示されます。[コンポーネント・ビュー](#), ページ 35参照してください。

MOBOTIX MOVE および ONVIF-S/G カメラの SD カード録画の再生

SD カード録画が設定されているMOBOTIX MOVE およびONVIF-S/G カメラでは、再生を有効にできます。[再生ビューでの検索と再生](#), ページ 273再生を参照してください。

MOBOTIX IoTカメラの工場出荷時のSSL証明書は、デフォルトで信頼済みとして分類されます。

ユーザ・エクスペリエンスを向上させるため、新しく追加された MOBOTIX IoT カメラの出荷時 SSL 証明書はデフォルトで信頼されます。このため、MxMC でこれらのカメラを表示する際、SSL 証明書を手動で信頼する必要があるポップアップ・ウィンドウは表示されません。

MxActivitySensorONE サポート

さらに、MxManagementCenter **MxActivitySensorONE**アプリをスマート・データ・ソースとしてサポートしている。[スマートなデータソース, ページ 218](#)」を参照。

サポート

テクニカルサポートが必要な場合は、MOBOTIX 販売店にご連絡ください。販売店が対応できない場合は、サポートチャンネルに連絡し、可能な限り迅速にお答えします。

インターネットにアクセスできる場合は、MOBOTIX ヘルプデスクを開き、追加情報やソフトウェアのアップデートを見つけることができます。アクセスしてください:

www.mobotix.com > [サポート](#) > [ヘルプデスク](#)



基礎 / 入門

この章では、MxMC の機能の概要と、オンラインヘルプの使用方法について説明します。また、MxMC のプログラム構造と操作コンセプトについても説明します。

MxManagementCenter 機能概要

MxManagementCenter は、完全なビデオ監視システムをセットアップして使用するためのビデオ管理ソフトウェアで、さまざまなタスクやユーザーグループに対応するさまざまな機能を備えています：

エリア 特徴

カメラ カメラ台数無制限、階層的なカメラ・グループの定義、異なるシステム環境(異なる
の管 ネットワーク・アドレスなど)
理

ライブビデオ監視 個々のカメラおよび自由に定義可能なグリッド・ビューの表示(同時に最大80台のカメラを表示可能)、ユーザ定義のグラフィックおよび情報表示、カメラの自動切り替え(カメラ・シーケンサおよびグループ・シーケンサ)、マルチモニタのサポート(MxThinClientデバイスを使用して、使用可能な表示デバイス数をさらに拡張可能)、ライブ画像の手動録画(ライブ・レコーダ)

アラーム処理 新しいイベントに対する視覚的および聴覚的な警告、アラーム・フィルタリング(特定の種類のアラームに対する特定のアラーム)、カメラのバックグラウンド監視

リサーチ分析録音再生 再生ビューでの個々のカメラの検索および再生、複数のカメラの時間同期検索(グリッド再生)、選択したカメラの最新のアラーム画像による特別検索ビュー、カメラを使用した直接またはファイル・サーバーへの直接接続によるデータの調査および再生、ライブ表示中の最新のアラーム画像の高速表示(インスタント再生)、半球カメラ画像の後続歪み補正、特殊検索機能(後続ビデオ動体検出、ヒストグラム、スマート・データ・システム)

スマート検索 スマートデータ検索ビューを使用して、記録されたすべてのイベントと関連画像を検索します。

ト
デー
タ・シ
ステ
ム,
ペー
ジ
287

データエクスポート 録画の単一または複数の時間範囲を同時にエクスポート、カメラまたはファイルサーバーへの直接接続によるデータのエクスポート、個々の画像領域のエクスポート(後続のPTZ)、可変フレームレートでのエクスポート、音声付きまたは音声なしの解像度

ドアステーションの機能 ベル信号とライブ双方向通信、ドアの開閉、照明の切り替え、メールボックス・メッセージの再生

シ
の機
能

セキュリティ機能 ユーザーとユーザー権限の定義、スーパーバイザー機能(デュアル・コントロール)、システム・セキュリティ・チェック、ヘルス・チェック

特別 特殊機能実行用ソフトボタン、アクションログ、リモートコントロール
プログ
ラム
機能

プログ 機能の異なるビューの高速切り替え、ドラッグ&ドロップによるカメラの高速表示、
ラム タッチスクリーン操作対応、さまざまなプログラム動作設定
運営

カメラ機能の概要

MxMCにより、MOVEカメラと、互換インターフェースを提供する他社製カメラを統合して操作することができます。ただし、すべてのカメラタイプでの全機能が使用できるわけではありません。次の表は、さまざまなカメラタイプで使用できる機能の簡単な一覧です。MOBOTIX ONVIF-S/G MxMC

機能	MOBOTIX カメラ	MOBOTIX MOVEカメラ	ONVIF-S/G カメラ
カメラ設定	はい	いいえ	いいえ
アラーム処理	はい	いいえ	いいえ
録音アクセス	無制限	MOBOTIX NAS経由のみ	MOBOTIX NAS経由のみ
録音再生	無制限	前進再生のみ	前進再生のみ
輸出	無制限	MJPEGおよびH.264のみ(H.264は対応ライセンスが必要)	MJPEGおよびH.264のみ(H.264は対応ライセンスが必要)
スマートデータ検索	はい	いいえ	いいえ
特殊検索機能 (ポストVM、ヒストグラム、 スマートデータ)	はい	いいえ	いいえ
システム・セキュリティの チェック	はい	いいえ	いいえ
PTZ	カメラPTZ	メカニカルPTZ	メカニカルPTZ
その後の半球画像の等 化	はい	いいえ	いいえ
ライブレコーダー	はい	いいえ	いいえ
カメラグループ	無制限	グループ機能	グループ機能

機能	MOBOTIX カメラ	MOBOTIX MOVEカメラ	ONVIF-S/G カメラ
ドア・ステーションの機能と スイッチング機能	はい	いいえ	いいえ
MxThinClient デバイス	はい	いいえ	いいえ
スナップ写真	はい	いいえ	いいえ

スマート・データ・システム

MOBOTIX スマート・データ・システムにより、MxMC の取引は、取引時に録画されたビデオとリンクさせることができます。スマートデータ検索を使えば、録画されたすべてのイベントと関連画像を検索できます。検索結果は、「重要」とマークされたイベントに絞り込むことができます。検索結果は、カメラ名、タイムスタンプ、イベント・トリガのタイプを含むリストまたはプレビュー画像として表示されます。イベント画像からイベントの録画を直接再生できます。スマート・データ検索ビューから再生ビューまたはエクスポート・ビューに簡単にアクセスできます([スマートデータ検索ビューでの検索](#), ページ 287再生を参照)。

注! MOBOTIX スマートデータシステムをサードパーティシステム(キャッシュポイントシステムなど) に使用するには、スマートデータライセンスを購入する必要があります。P7 IoTアプリのデータにはライセンスは必要ありません。MOBOTIX IoTアプリ・インターフェースは、デフォルトでMxMC に統合されています。

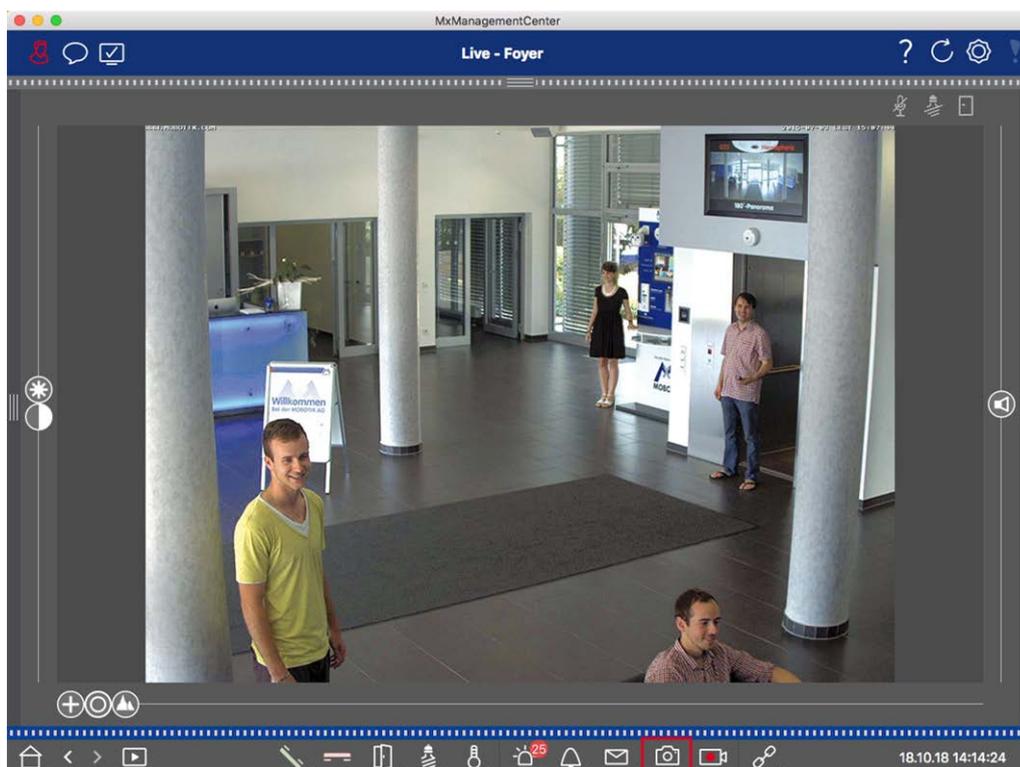
注! スマートデータ検索ビューは、MOBOTIX MOVE カメラおよびONVIF-S 互換インターフェースを提供する他社製カメラでは使用できません。カメラの機能の違いについては、以下を参照してください。 [カメラ機能の概要](#), ページ 11.

録音のエクスポート

再生ビューを使用すると、1 台のカメラから録画したビデオデータをエクスポートでき、グリッド再生では複数のカメラから一度にエクスポートできます。エクスポート・バーを使用して、複数のクリップを1つのエクスポートにまとめます。スナップショット機能を使用して、個々の画像を保存できます。

スナップショット画像の保存

スナップショット画像は、表示されているカメラのライブ表示と再生表示、および表示されているすべてのカメラのグリッド表示とグリッド再生で作成できます。



図。1: スナップショット画像の保存

これを行うには、コマンドバーのスナップショット  ボタンをクリックします。デフォルトでは、画像はユーザ・アカウントの画像フォルダに保存されます。保存先のパスおよび保存画像の設定は、**MxManagementCenter > 設定 > スナップショット画像 (Mac)** または **ファイル > 設定 > スナップショット画像 (Windows)** メニュー項目で選択できます。

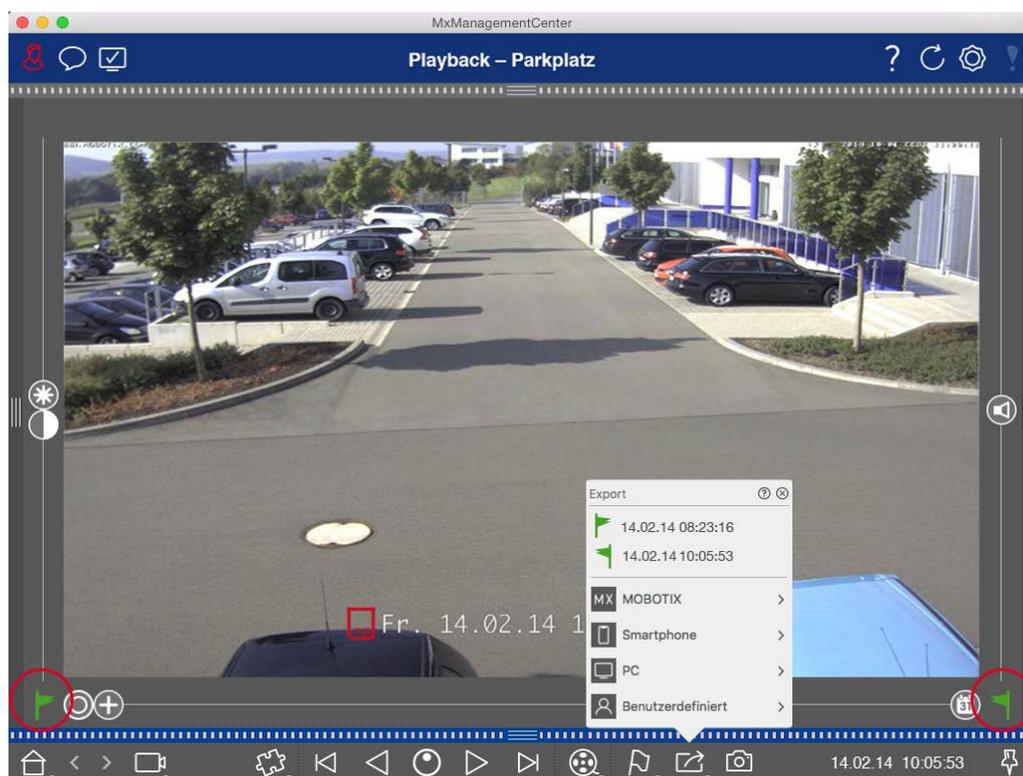
カメラ録画のエクスポート

プレイバック・ビューでは、録画 (イベント録画または連続録画) の時間範囲を設定して、エクスポート用に選択することができます。

1. プレイバック・ビューを開く。
2. カメラバーまたはデバイスバーから目的のカメラをドラッグします。
3. 該当する録音の開始部分を探す。
4. エクスポート範囲を指定します。このエクスポートには2つの可能性があります：

ビジュアルマーカーを使用してエクスポート範囲を選択します：

1. 左の  にあるグレーの旗をクリックしてクリップの開始をマークします。
2. エクスポートしたいクリップの終わりまで録音を再生します。右側のグレーの旗をクリックして、クリップの終わりをマークします。両方の旗が緑色になります。
3. **Export** をクリックし、エクスポート・プロファイルを選択する。

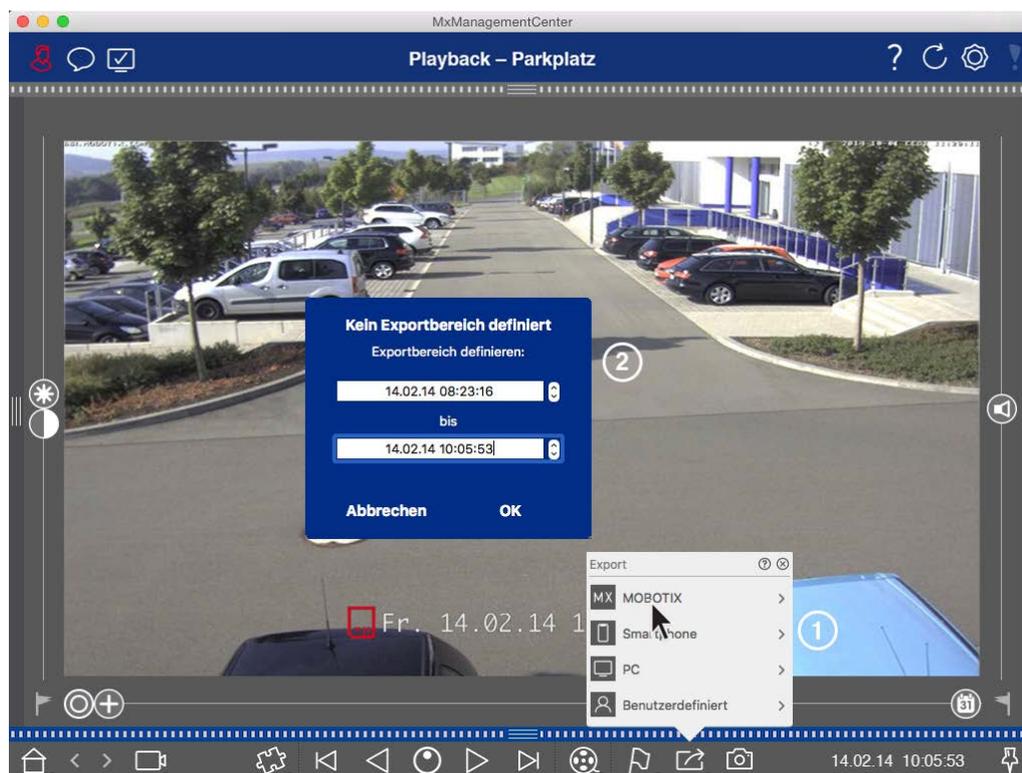


4. エクスポート・ダイアログ・ボックスが表示されます。エクスポート先のフォルダを選択し、ファイル名を入力します。

手動でエクスポート範囲をキャプチャします:

まず、"エクスポート・フラグ"を使って、エクスポート・エリアがまだ設定されていないことを確認する。すでにエクスポート・エリアが定義されている場合は、それを削除することができます。フラグを右クリックし、"**Delete Time Range**"を選択します。

1. **エクスポート**  をクリックします。次に、目的のエクスポート・プロファイル① をクリックします。エクスポート範囲を定義するためのダイアログ・ボックスが表示されます。



2. 輸出範囲の指定②.
3. **OK**をクリックし、**[保存]**をクリックします。

注! エクスポートダイアログで**Automatically Import After Export**チェックボックスを選択すると、エクスポートされたクリップは自動的にカメラバーとデバイスバーの**Clips & Recordings**セクションに追加されます。

カメラグループ録画のエクスポート

グリッド再生では、録画(イベントまたは連続録画)の時間範囲を設定して、複数のカメラからエクスポートするために選択することができます。

1. グリッド再生を開く。
2. グループバーまたはデバイスバーから目的のカメラグループをドラッグ&ドロップします。
3. フォーカス・ウィンドウ内のカメラの関連する録画の開始を検索します。同時に、検索はグループ内の他のカメラにも拡張され、フォーカス・ウィンドウの録画に最も近い関連性のある録画がタイルに表示されます。
4. エクスポート範囲を指定します。このエクスポートには2つの可能性があります:

ビジュアルマーカを使用してエクスポート範囲を選択します:

1. 左の旗をクリックしてクリップの開始をマークします。
2. エクスポートしたいクリップの終わりまで録音を再生します。右側の旗をクリックして、クリップの終わりをマークします。両方の旗が緑色になります。

3. このグループのすべてのカメラをエクスポートする代わりに、1台または複数のカメラを選択してエクスポートすることもできます。を右クリックします。左上隅のカメラ画像に円が表示されます。対応する円をクリックして、必要なカメラを選択します(①)。
4. 次に、エクスポート()をクリックし、エクスポート・プロファイル(②)を選択します。エクスポート・ダイアログ・ボックスが表示されます。

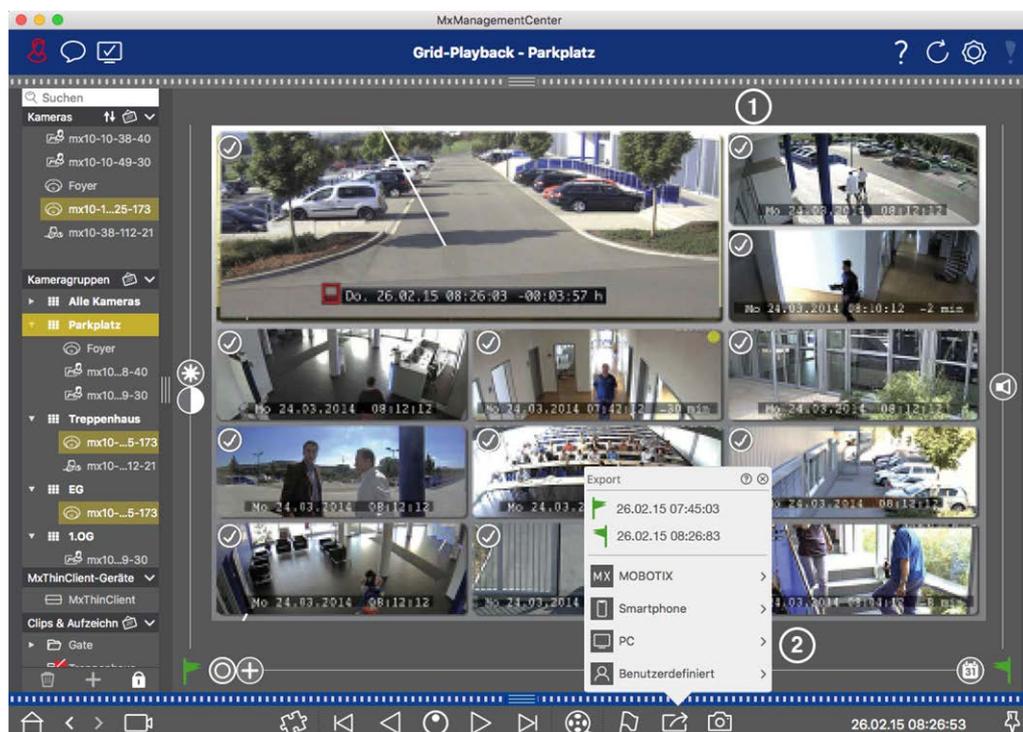


図. 2: ビジュアルマーカで輸出範囲を選択

5. ターゲットフォルダを選択し、ファイル名を入力します。

手動でエクスポート範囲をキャプチャします:

"エクスポート・フラグ"を使って、まだエクスポート・エリアが設定されていないことを確認する。すでにエクスポート・エリアが設定されている場合は、それを削除することができます。フラグを右クリックし、"Delete Time Range"を選択します。

1. エクスポート範囲を定義する前に、タイトルに表示されるすべての録音をエクスポートしたくない場合は、選択範囲を制限することができます。これを行うには、**Export** を右クリックします。左上隅のタイトルに円が表示されます。対応する円をクリックして、必要なカメラを選択します(①)。
2. **Export** をクリックし、エクスポート・プロファイル②を選択する。エクスポート範囲を定義するためのダイアログ・ボックスが表示されます。



図. 3: 輸出範囲を手動でキャプチャ

3. 輸出範囲の指定③.
4. **OK**]をクリックし、**[保存]**をクリックします。

注! Automatically Import After Exportオプションを有効にすると、エクスポートしたクリップが自動的にグループバーに追加されます。

エクスポートバーから録音をエクスポートする

エクスポートバーでは、カメラの録画やMXGクリップをドラッグ&ドロップで素早く簡単に取り込み、録画リストを作成して、その後にエクスポートすることができます。このバーから、録画時間範囲を結合クリップとしてエクスポートできます。クリップは再生ビュー、グリッド再生、スマートデータ検索ビューで追加できます。エクスポート後、クリップは自動的に削除されません。プログラムを終了すると削除されます。

プレイバックビューに書き出し用のクリップを追加する

1. カメラバーまたはデバイスバーから目的のカメラまたはクリップをドラッグします。
2. 興味のある録音を探す。

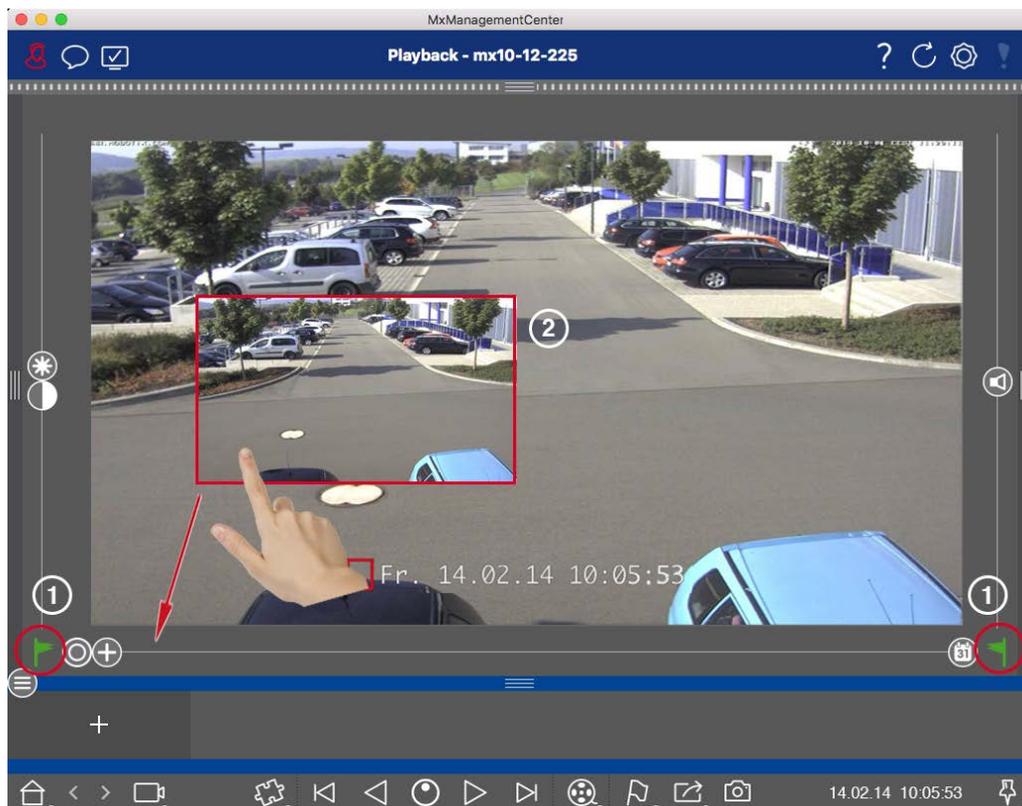


図. 4: プレイバックビューに書き出し用のクリップを追加する

3. 左側の  にある灰色の旗をクリックして、時間範囲の開始をマークします。エクスポートしたいクリップの終わりまで録音を再生します。右側の灰色のフラグ  をクリックして、時間範囲の終了をマークします。どちらのフラグも緑色になりました。①
最初に終了マーカ(右側の灰色のフラグ)を設定してから、録画を最初から再生して、開始マーカ(左側の灰色のフラグ)を希望のポイントに設定することができます。
4. 録画の画像をクリックし、録画の縮小画像が表示されるまでその位置を維持する②。
5. この画像を(開いているかどうかに関係なく)アラームバーにドラッグします。エクスポート・バーが自動的に開き、そこに画像を保存できます。

グリッド再生での書き出し用クリップの追加

グリッド再生のエクスポート・バーは、異なるカメラの連続した時間範囲を結合するのに便利です。

1. 目的のカメラをグリッド内のフォーカス・ウィンドウにドラッグし、該当する録画を見つけます。
2. 左側の  にある灰色の旗をクリックして、時間範囲の開始をマークします。エクスポートしたいクリップの終わりまで録音を再生します。右側のグレーの旗() をクリックして、時間範囲の終わりをマークします。両方のフラグが緑色になります。

3. フォーカス・ウィンドウの録画画像をクリックし、縮小された画像が表示されるまでその位置を維持します。この画像を(開いているかどうかに関係なく)アラームバーにドラッグします。エクスポート・バーが自動的に開き、そこに画像を保存できます。
4. 時間範囲の終了マーカを設定すると、他のすべてのカメラの録画は同じ時刻を表示するように再配置されます。一連のイベントの次の録画があるカメラをフォーカス・ウィンドウにドラッグします。上記のようにクリップの開始と終了をマークし、録画をエクスポート・バーにドラッグします。
5. エクスポートしたいすべての録音を追加するまで、この手順を繰り返します。

エクスポート・バーで複数のカメラの時間範囲を追加することもできます。

1. グループ・バーまたはデバイス・バーから希望のカメラ・グループをドラッグし、関連する録画を検索します。
2. 上記のようにクリップの開始と終了をマークします。他のカメラの録画はそれに応じて再配置されます。
3. **Export**  を右クリックする。録画の左上にチェックマーク付きの選択ボックスが表示されます。特定のカメラの録画範囲をリストに追加しない場合は、そのカメラの選択ボックスのチェックを外します。
4. フォーカス・ウィンドウの録画画像をクリックし、縮小された画像が表示されるまでその位置を維持します。この画像を(開いているかどうかに関係なく)アラームバーにドラッグします。エクスポート・バーが自動的に開き、そこに画像を保存できます。選択したクリップがエクスポート・バーにコピーされます。
5. エクスポートしたいすべての時間範囲を追加するまで、この手順を繰り返します。

また、選択したトランザクションの個々のプレビュー画像のクリップをエクスポートバーに追加することもできます：

1. **プレビュー画像**セクションのトランザクションプレビュー画像をドラッグし、エクスポートバーにドロップします。

注! If the following image is shown in the player view, there is no video data saved for the selected export period.

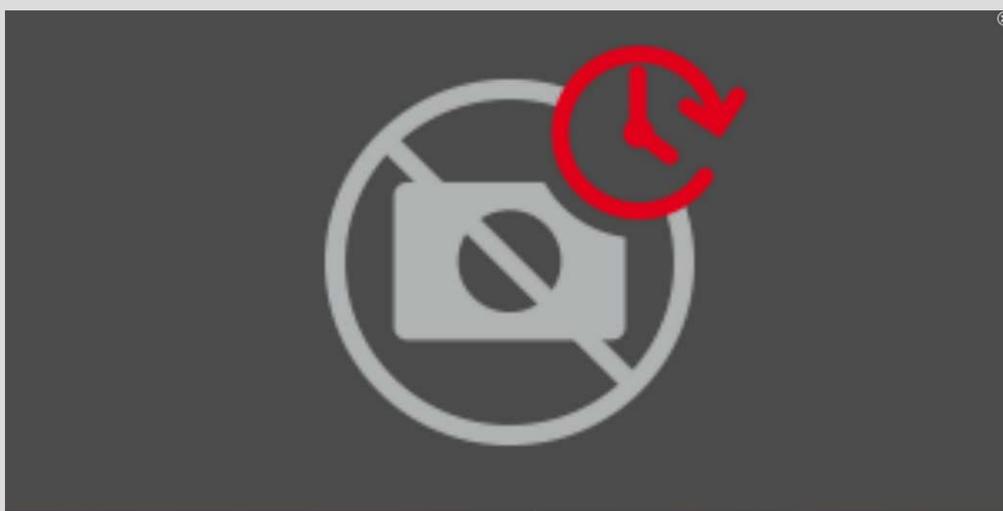
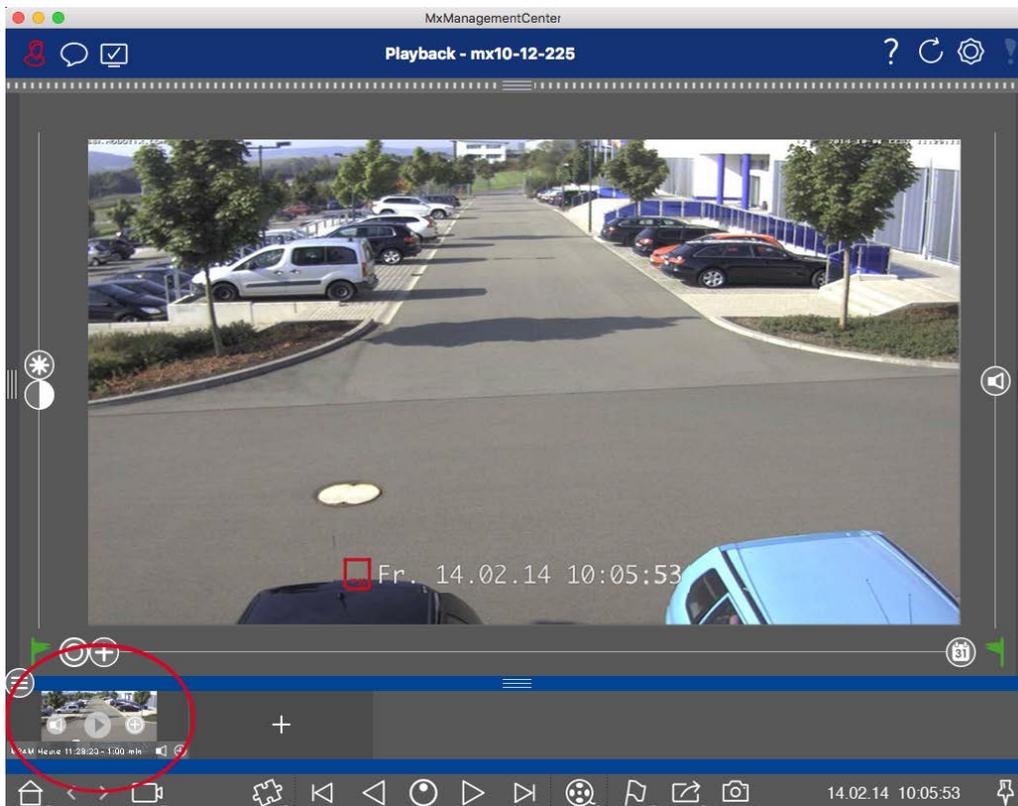


図. 5: エクスポート可能なビデオデータがない

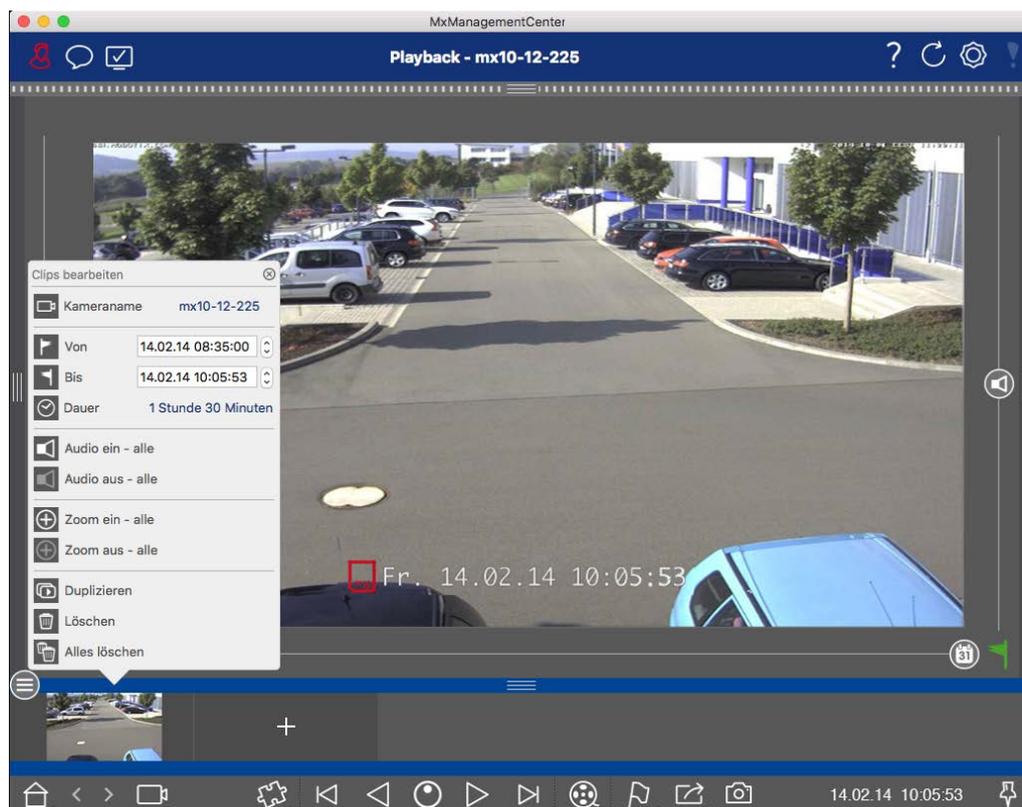
クリップの編集

再生時に歪み補正やズーム機能を使用した録音を書き出しバーに追加した場合、そのクリップをズーム付きで書き出すか、ズームなしで書き出すかを選択できます。同様に、クリップをオーディオ付きで書き出すことも、オーディオなしで書き出すこともできます。書き出すには、マウスポインタを書き出しバーの録画の上に移動します。3つのアイコンが表示されます：



- :
 をクリックすると、クリップがズームなしでエクスポートされます。アイコンは無効になります。
- : デフォルトでは、クリップは音声付きでエクスポートされます(音声録音されている場合)。音声なしでエクスポートするには、 をクリックします。アイコンは無効になります。
- :
 をクリックしてください。

クリップを右クリックすると、コンテキストメニューが表示されます：時間範囲の手動調整、すべてのクリップのオーディオとズームの有効化/無効化、クリップの複製、1つまたはすべてのクリップの削除。



クリップのエクスポート

Export  をクリックし、MOBOTIX を選択して MXG クリップをエクスポートします。AVI、MP4、または MKV ファイルを作成するには、別のプロファイルを選択します。ただし、データソース(例: MOBOTIX NAS)によっては、すべてのエクスポートプロファイルが利用できるわけではありません。

エクスポートダイアログで保存先パスを選択し、ファイル名を入力します。ファイル選択ダイアログの

Automatically Import After Export チェックボックスをオンにすると、エクスポート後に MXG クリップが自動的にエクスポートバーに追加されます。

ドア・ステーションの操作

ドア・ステーションは MxManagementCenter と統合して操作することもできます。このため、カメラのプログラム機能に加えて、ドア・ステーション固有の機能が提供されます。

注!

ドア・ステーションの機能は、MOBOTIX MOVE カメラおよび ONVIF-S/G 互換インターフェースを提供する他社製カメラではサポートされていません。カメラの機能の違いの概要については、以下を参照してください:

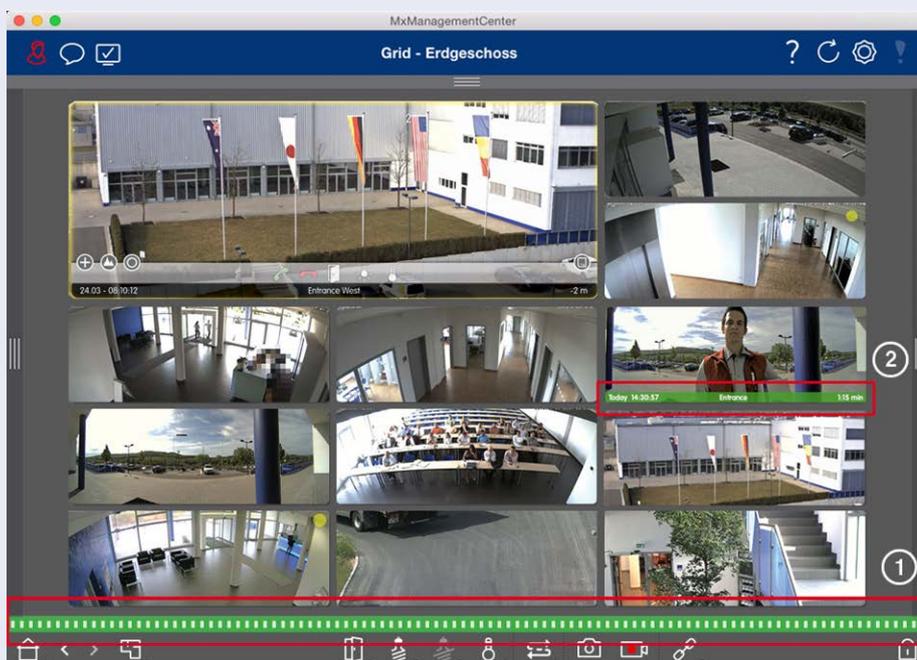
- [カメラ機能の概要, ページ 11。](#)
- [ドアステーションの設定, ページ 117](#)

ベル信号

誰かがドアベルを鳴らすと、アプリケーションのさまざまな場所に表示することができる。

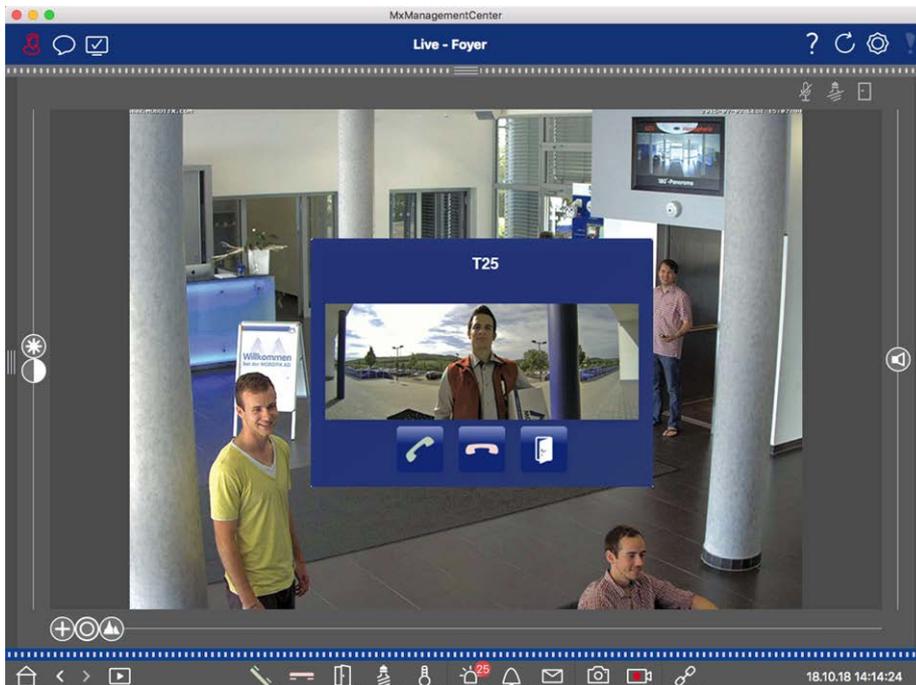
どこで? 説明

アラームバーとアラーム情報バー
 ベル・イベントは、[アラーム] および [アラーム情報] バーが緑色で表示されます。このためには、[カメラの設定]ダイアログでドア・ステーションのベル・イベントがアラームとして設定されている必要があります。アラームバー① はMxManagementCenter の下部にあり、アラーム情報バー② は対応するドア・カメラのカメラ画像の下にあります。



どこで? 説明

ドアベルが鳴ると、どのビューにいても、鳴動通知が表示されます。このためには、カメラ設定ダイアログで通知 ドア・ステーションのベル・イベントがアラームとして設定されていること、およびヘッダで[通知]  が無効になっていないことが前提条件となります。



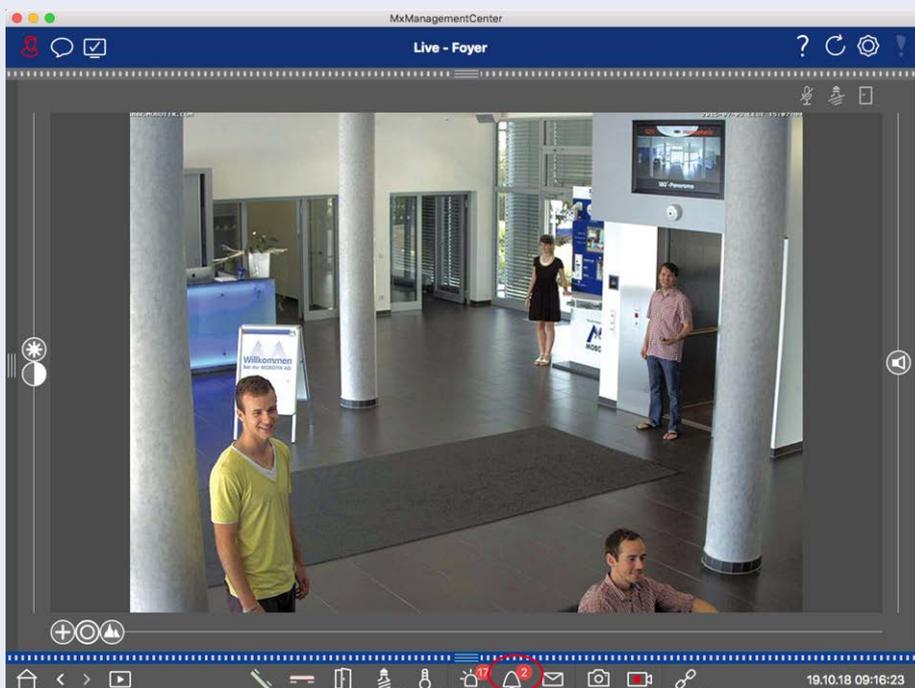
注!

アプリケーションヘッダの通知  をクリックすることで、管理者が通知を一時的に無効にすることができます。

どこで? 説明

鐘のアイコン()の横のカウンターが1つ増える。

コンの
カ
ウンター



ベル信号の設定

ドアステーションの設定, ページ 117」で、どの信号オプションを組み合わせ、どこで設定できるかを確認します。

オープンドアとスイッチライト

ドア・カメラが正しく設定されている場合、MxMC を使用してドアを開け、照明を切り替えることができます。これを行うには、ライブビューのコマンドバーおよびグリッドビューのフォーカスボックスのコマンドバーで、 および  キーを使用します。

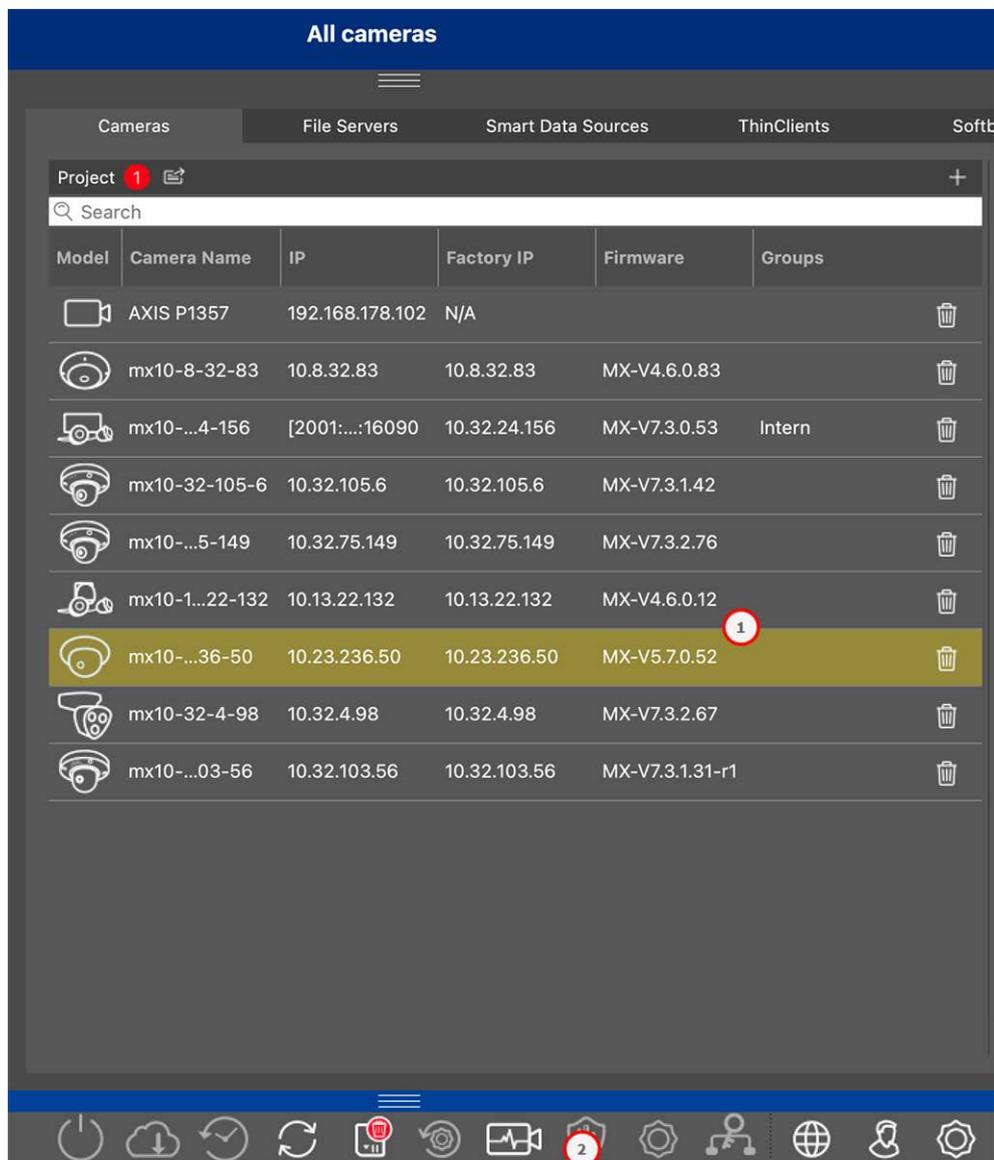
システム・セキュリティのチェック

システムの基本設定が完了したら、セキュリティを確認することをお勧めします。セキュアシステムウィザードはコンポーネント・ビュー, ページ 35カメラツールバーにあります。このウィザードは、カメラのセキュリティ設定を分析し、一般的なベストプラクティスに基づき、その状態を評価します。テスト基準が満たされていない場合、カメラを保護するための対策が表示されます。

注! システム・セキュリティ・チェック機能は、MOBOTIX MOVE カメラおよびONVIF-S/G 互換インターフェースを提供する他社製カメラでは使用できません。カメラの機能の違いの概要については、[カメラ機能の概要, ページ 11](#)参照してください。

システム・セキュリティの設定を確認する

1. メニュービューでコンポーネントビューを開く。
2. 必要なカメラを選択する①。



3. カメラツールバー② で、 **Secure System** をクリックします。以下の基準がチェックされます：
 - meinsm]パスワードをMOBOTIX カメラの標準または ONVIF ユーザーアカウントで使用する。サイバー攻撃者が標準の "meinsm "パスワードを推測するのは簡単です。
 - **パブリック・アクセスを有効にする**: パブリック・アクセスを有効にすると、パスワードなしでさまざまなカメラ機能を使用できます。
 - **HTTPウェブサーバーを起動**: HTTPを使用すると、パスワードや画像などのユーザーデータを含むデータが暗号化されずにネットワーク経由で送信される可能性があります。

チェックの結果は、**Secure System**ダイアログにカメラごとに表示されます。接続エラーなどでカメラのチェックが行われなかった場合もすべて表示されます。

状態**説明**

⊗ セキュアな状態ではありません	安全でないとされた基準が少なくとも1つあった。
⊙ ソフトウェアが古すぎます	カメラのソフトウェアを確認し、必要であればアップデートしてください。
⊗ 接続エラー	カメラへのネットワーク接続を確認し、セキュリティチェックを再度実行してください。
Ⓜ サポートされていません	ウィザードを使用して、カメラを解析または保護することはできません。
⊙ セキュアに保持されています	カメラは安全であり、これ以上の処置は必要ない。

4. **システムの保護**]ダイアログで、[**次へ**]をクリックします。安全でないステータスになったカメラは、3つの基準のどれを満たしたか、およびカメラを適切に保護するために必要な対策とともに表示されます：

基準 説明

パスワード 標準の "meinsm "パスワードを使用しているカメラの全ユーザアカウントのパスワードを変更します。パスワードが一度も変更されていないONVIFユーザも含まれます。

パスワード 新しいパスワードを入力し、確認します。適切なパスワードは少なくとも8文字です。パスワードには、小文字、大文字、数字、特殊文字を使用できます ( を参照)。これらの条件を満たさないパスワードを設定すると、テキストフィールドの周囲に赤枠が表示されます。有効なパスワードを入力すると、枠は緑色に変わります。

新しいパスワードは自動的に MxMC プロジェクト・データに入力されます。

SSL 暗号 暗号化されていない HTTP 経由のカメラ接続を無効にし、HTTP 接続のみを受け付けるようにカメラを設定します。

化 TCP ポートと SSL 設定は、必要に応じて、MxMC プロジェクトデータで自動的に更新されます。リモート URL 経由で接続されているカメラの場合、TCP ポートは更新されません。リモート URL 接続の場合、ルータのポート転送を適切な設定に変更する必要がある場合があります。

HTTP を無効にすると、ネットワーク・メッセージなどのさまざまなサービスが動作しなくなることに注意してください。

パブリックアクセス カメラのウェブ・インターフェースおよびAPIへのパスワード入力を必要としないアクセスを無効にします。

5. ダイアログ・ボックスでOKをクリックする。選択したセキュリティ対策が実行されます。選択したカメラまたはカメラグループのセキュリティ状態が再度分析され、各カメラの結果が表示されます。

サーマル・ダッシュボード

MOBOTIX MxManagementCenter のThermal Dashboardは、主に温度が重要なプロセスのライブモニタリングに使用され、MOBOTIX Thermal-TRカメラから供給される温度値を中心とした温度カーブのその後の分析も可能です:

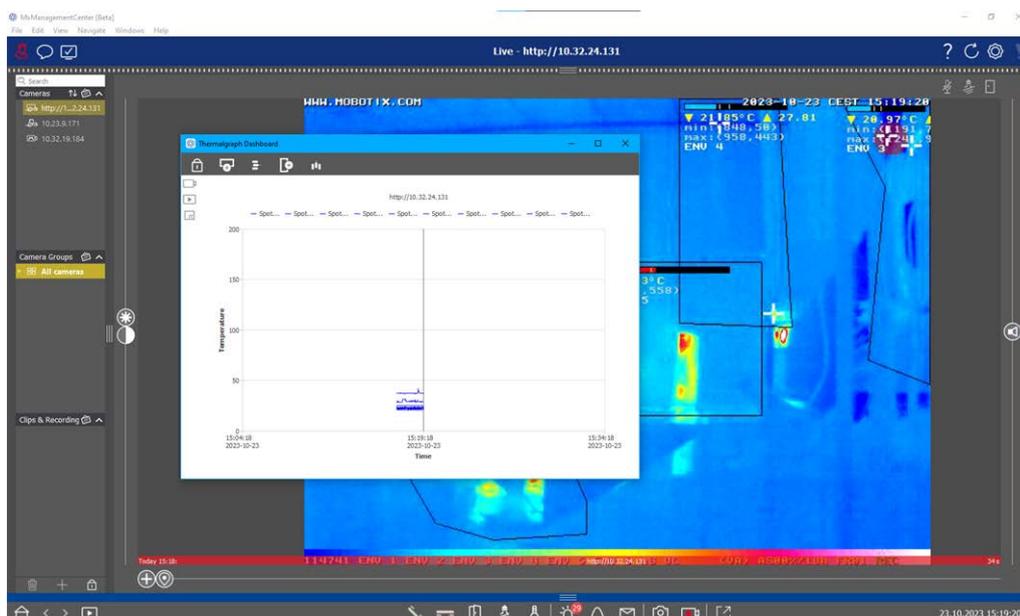
- 温度が重要なプロセスのグラフィカルなライブ監視とモニタリング。
- その後の温度履歴の分析。

注! Thermal Dashboardを有効にするにはライセンスが必要です([「ライセンス, ページ 228」](#)を参照)。

サーマル・ダッシュボードの主な機能は以下の通り:

- ライブモードと再生モードでの温度グラフ表示
- 再生ナビゲーション - 温度グラフのある時点から再生ビューの同じ時点へ、またその逆も簡単に切り替えられる。
- いくつかの閾値を定義し、超えた場合、下回った場合に視覚的なアラームが可能 - システム・ログ・ファイルへのロギングを含む。
- カメラ参照画像と選択した曲線図のプロットを含むCSVフォーマットでの温度データのエクスポート
- 熱グラフは別 ウィンドウで表示される
- サーマルグラフに表示する温度線を自由に定義できる。
- 柔軟な表示オプション - 凡例の表示、自由に選択可能な線の色とラベル。
- 臨界温度を超えた場合などには、電子メールによる通知を送信することができる。

[サーマルダッシュボードの使用, ページ 319](#)参照)。



図。6: サーマル・ダッシュボード

MxMC ビュー

ビューの基本構造は常に同じである。しかし、各ビューには、それぞれの機能領域に対応する追加要素が含まれています。以下のビューが利用可能です:

- グリッド・ビュー, ページ 31
- グラフィック・ビュー, ページ 32
- ライブビュー, ページ 30
- プレイバック・ビュー, ページ 30
- グリッド再生, ページ 33
- スマートなデータ検索ビュー, ページ 34
- コンポーネント・ビュー, ページ 35
- AIカメラアプリの見方, ページ 37
- インフォ・ビュー, ページ 37
- コンフィギュレーション概要, ページ 327

ライブビュー

ライブ表示では、個々のカメラのライブ画像を操作できます。例えば、ドアを開けたり、照明を切り替えたりすることができます。

画像エリア内の対象物を認識しやすくするために、ライブビューのライブ画像をズームしたり、画像エリアを移動 (PTZ) したりすることができます。ライブビューのスライダー (▲) を使用して、これらの画像セクションを素早く読み込むために、いくつかの画像位置がすでに設定されています。デュアル・カメラの場合、プログラムには (◐) スライダーも表示されます。このスライダーを使用して、右、左、または両方の画像センサーのライブ画像を表示します。

半球カメラのライブ画像を表示する場合、さまざまな表示モードを選択できます (スライダー●)。

また、ライブ表示でドア・ステーション・カメラの設定を行うこともできます (ボイス・メールボックスのアナウンスなど)。

ライブビューでの作業、ページ 246 参照してください。

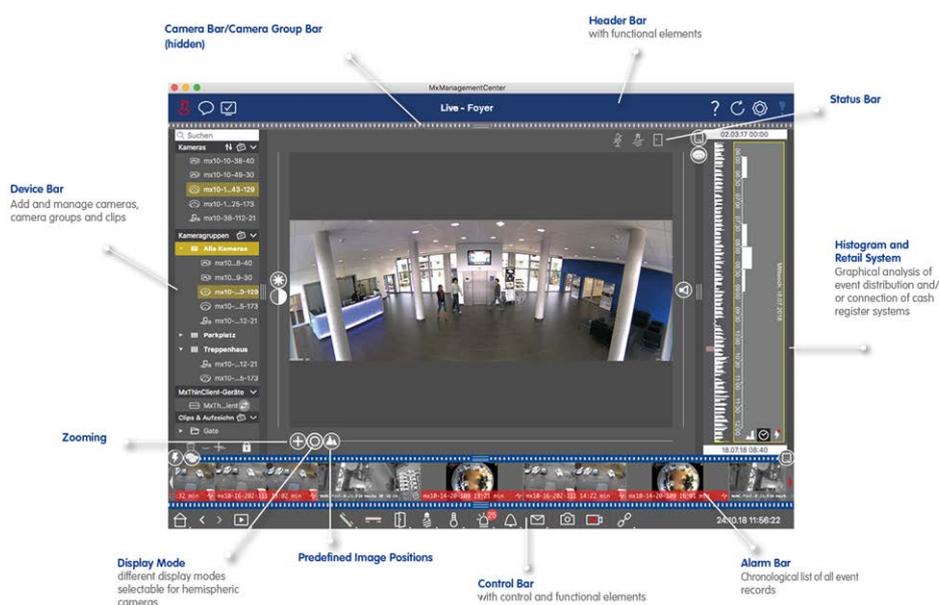


図. 7: ライブビュー

プレイバック・ビュー

Playback ビューでは、録音を検索し、見つかったシーケンスをすばやく簡単に再生できます。様々なオプションがあります。検索方法は、特定のイベントの録画を検索するか、特定の時間のイベントを検索するかによって異なります。

イベントを検索する場合は、適切な再生モード (イベント画像のみなど) (Ⓜ) を選択し、再生を開始します。

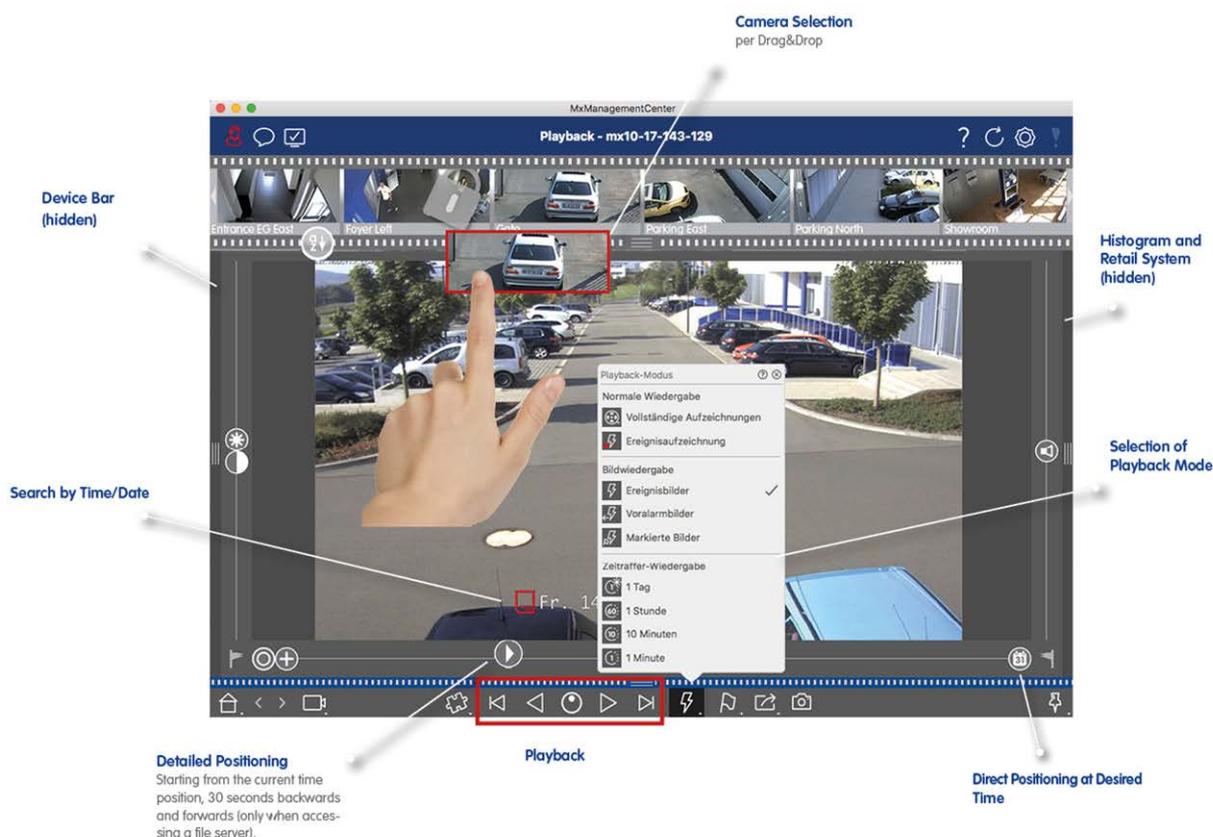
(戻るまたは進む) または、

(前/次の画像) ボタンを使用して、シーケンスをジャンプします。

特定の時点のイベントを検索する場合は、特定の時間を検索するか、「タイムリープ」とタイムラプス再生を使用して検索を実行できます。さらに、任意の日時を再生し、その時点を保存して、他のカメラの録画からその時点の出来事をすばやく検索できます。

録画は、異なる速度で前方または後方に再生することができ、個々のイベントを簡単に検索することができます。

再生ビューでの検索と再生、ページ 273 参照してください。



図。8: プレイバック・ビュー

グリッド・ビュー

グリッド表示は、ライブ画像のグリッドとフォーカス・ウィンドウで構成されます。このグリッド表示は、グループの全カメラの概要を素早く把握するのに最適です。最も関心のあるカメラ画像をフォーカス・ウィンドウにドラッグできます。カメラの操作には、下部のコントロールを使用します。

カメラがイベントを登録すると、そのカメラが現在のグループ内にあるかどうかに関係なく、常にそのことに気付きます。カメラのライブ画像の下部にあるアラーム情報バーは、グループ内のイベントを通知します。グリッド表示の

下部にあるアラーム情報バーには、接続されているすべてのカメラのイベントが表示されます。イベントを調査するには、[グリッド]表示のライブ画像またはアラームバーのイベント画像をフォーカス・ウィンドウにドラッグします。グリッドビューでの作業、ページ 253参照してください。



図. 9: グリッド・ビュー

グラフィック・ビュー

グラフィック表示でフロア・プラン(グランド・プラン) を定義し、カメラまたはカメラ・グループを実際の位置に合わせて配置できます。アラームが発生すると、対応するカメラのアイコンが赤くなります(ベルが鳴ると緑になります)。カメラ・アイコンの上にマウス・ポインタを移動すると、トリガしたカメラのライブ画像が表示され、状況をすばやく監視できます。

コマンド・バーの**グループ・ボタン**を使用して、表示されているカメラに関係なく、複数のカメラの照明を一度にオン/オフしたり、複数のドアを開けたり、グループの1台または複数のカメラに対して複数のスピーカーでアナウンスを流したりできます。さらに、グループ・ボタンを右クリックして、ショートカット・メニューを開くと、現在のグループに属さないカメラを制御できます。

作業を簡単にするために、コマンドバーからフロアプラン上に要素をドラッグし、フロアプラン内で直接クリックして操作することができます。

他のカメラ・グループのカメラのライブ画像をグラフィック表示で監視する場合、これらのライブ画像をフロア・プラン上に一時的にドラッグできます。

グラフィック・ビューでの作業、ページ 258参照してください。



図。10: グラフィック・ビュー

グリッド再生

あるカメラがイベントを登録し、その時間にそのカメラグループ内の他のカメラが録画していたかどうか、またどのような録画をしていたかを知りたい場合、グリッド再生を使用して、複数のカメラの録画を同期して表示できます。

フォーカス・ウィンドウのカメラは先頭のカメラです。そのため、イベントや特定の状況を見つけるためにこのカメラの録画を参照する場合、または録画を再生する場合、再生が一時停止されるとすぐに、他のカメラは先頭のカメラに追従します。プログラムは常に先頭のカメラのタイムスタンプに最も近いイベント画像を表示します。他のカメラの時刻が先頭のカメラの時刻と異なる場合、その差はイベント画像の下の枠に表示されます。

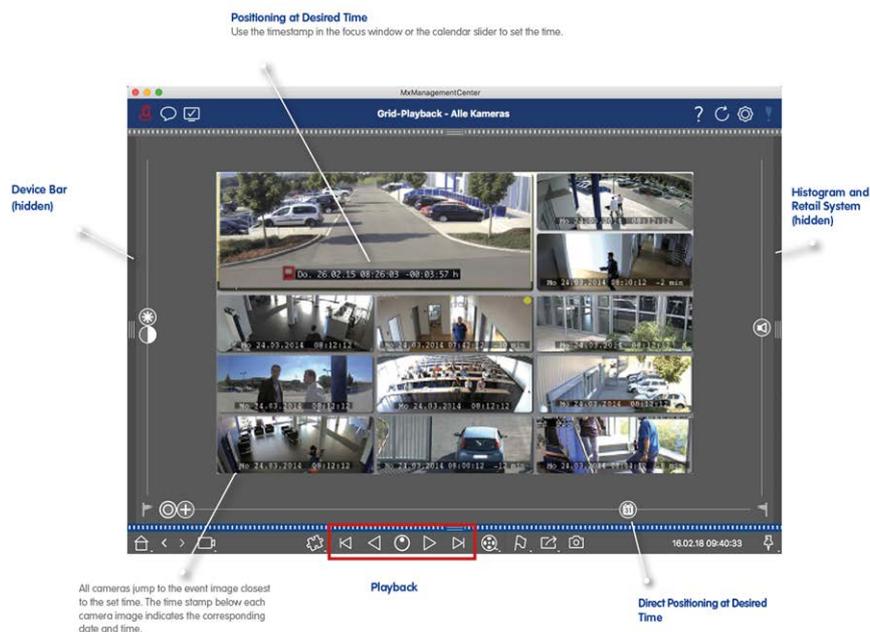


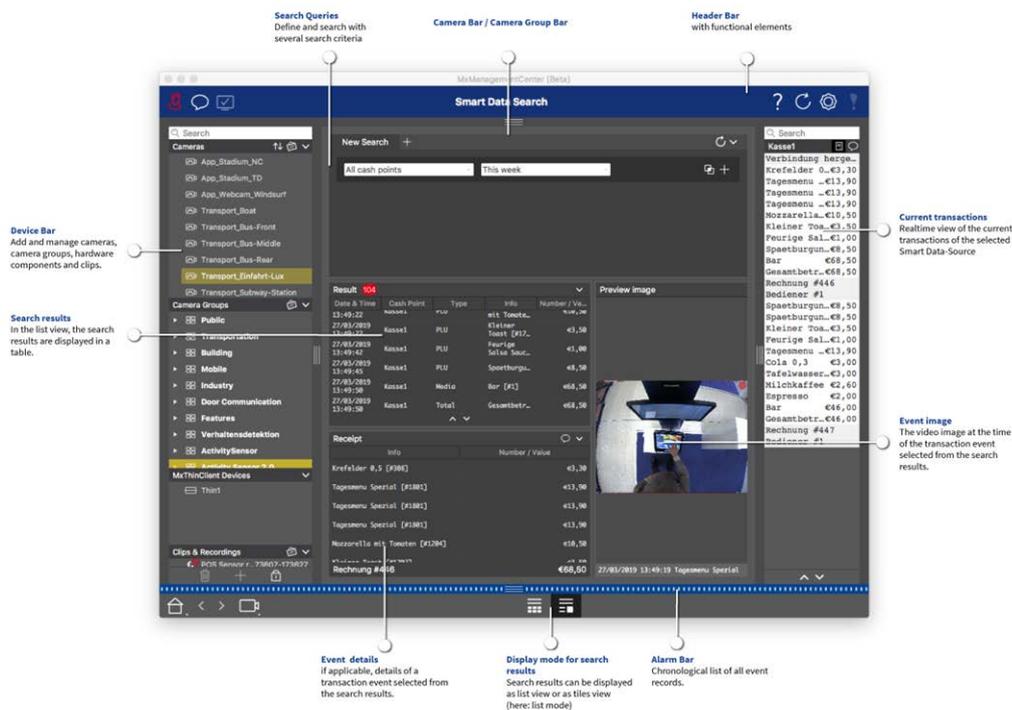
図. 11: グリッド再生

スマートなデータ検索ビュー

MOBOTIX Smart Data Systemにより、MOBOTIX カメラからのイベントデータ、MOBOTIX IoTアプリのイベント、またはPOSシステムなどのトランザクションデータを、MxMC の関連ビデオ録画にリンクすることができます。これにより、目立つ行動を迅速に発見し、確認することができます。

スマートデータ検索ビューでは、詳細な検索を実行できます(スマートデータ検索ビューでの検索, ページ 287 参照)。高度な検索オプションと完全なビデオドキュメントは、POSシステム、ビデオベースのナンバープレート認識、入退室管理システムなどの包括的な概要を維持するのに役立ちます。スマートデータソースは、スマートなデータソース, ページ 218 設定で追加および設定できます。

スマートデータ検索ビューには、ビデオ動体検出後の検索も含まれます(「ポストビデオ動体検知(ポストVM)による検索, ページ 295)」を参照)。



図。12: スマートなデータ検索ビュー

コンポーネント・ビュー

コンポーネント・ビューでは、以下のコンポーネントを管理できます:

- カメラ
- ビデオ録画を保存するためのファイルサーバー。
- MOBOTIX P7 Apps(ライセンス不要)、POSシステム、ナンバープレート認識システムなどから取引データを読み取ることができるスマートデータソース(ライセンスが必要)。
- MxThinClientsを使用すると、MOBOTIXカメラのライブ画像をHDMI接続のモニターやテレビに表示できます。

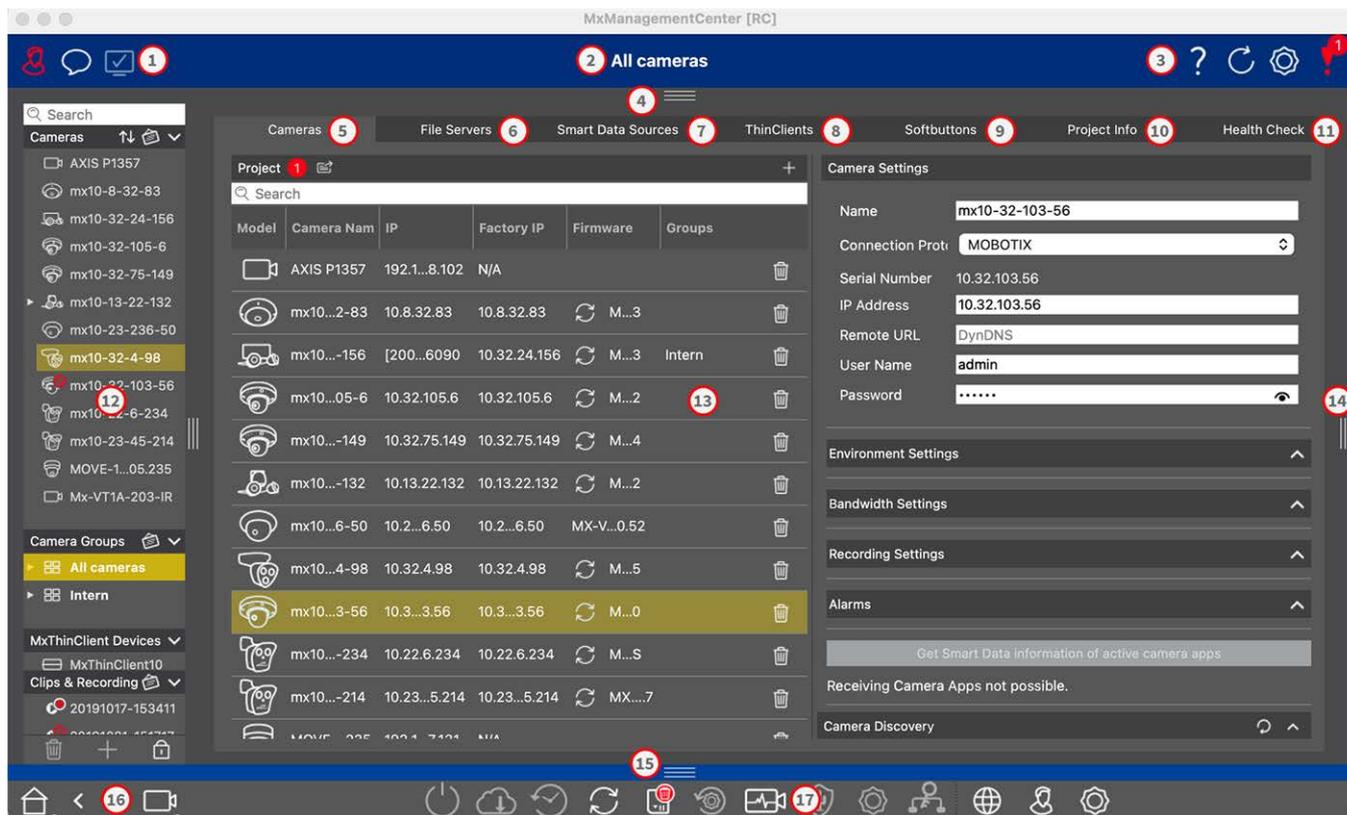
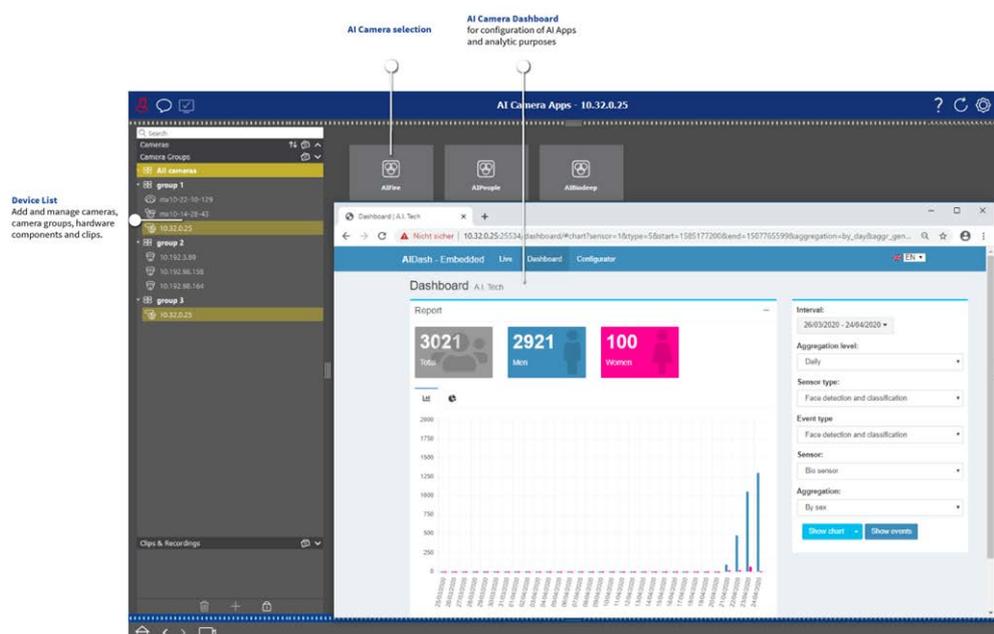


図. 13: コンポーネント・ビュー

- ① ユーザー管理, ページ 146/通知/帯域幅
- ② ヘッダーバー
- ③ コンテキストヘルプ/更新/ネットワーク環境, ページ 123/接続監視
- ④ カメラバーとカメラグループバー, ページ 52
- ⑤ カメラ設定, ページ 177
- ⑥ ファイルサーバーの設定, ページ 212
- ⑦ スマートなデータソース, ページ 218
- ⑧ MxThinClient の設定, ページ 221
- ⑨ ソフトボタンの設定, ページ 224
- ⑩ プロジェクト情報設定, ページ 227
- ⑪ 健康チェック, ページ 192
- ⑫ デバイスバー, ページ 48
- ⑬ 設定エリア。
- ⑭ スマート・データ・バー
- ⑮ ヒストグラム・バー
- ⑯ ホームビュー/前のビュー/次のビュー/セレクトビュー
- ⑰ コンポーネントビュー - カメラツールバー, ページ 187

AIカメラアプリの見方

AI Camera Apps ビューでは、MxMC 内に AI Apps Web GUI を表示し、対応する AI App を設定したり、統計・分析目的で Apps Dashboard を開いたりすることができます。



図。14: AIカメラアプリの見方

インフォ・ビュー

各カメラグループに情報ページを追加して、このカメラグループの操作に関する特別な説明やアラーム発生時の通知チェーンの説明などを表示できます。情報表示で情報を表示するには、情報をまとめてPDFまたはJPGファイルに保存し、グループ管理ダイアログボックスでそのファイルを読み込みます。

ウェブサーバーに表示されている最新の情報を表示したい場合は、情報ビューでこれを行うこともできます。編集モードを有効にして、URLを情報ビューに引き込むだけです。

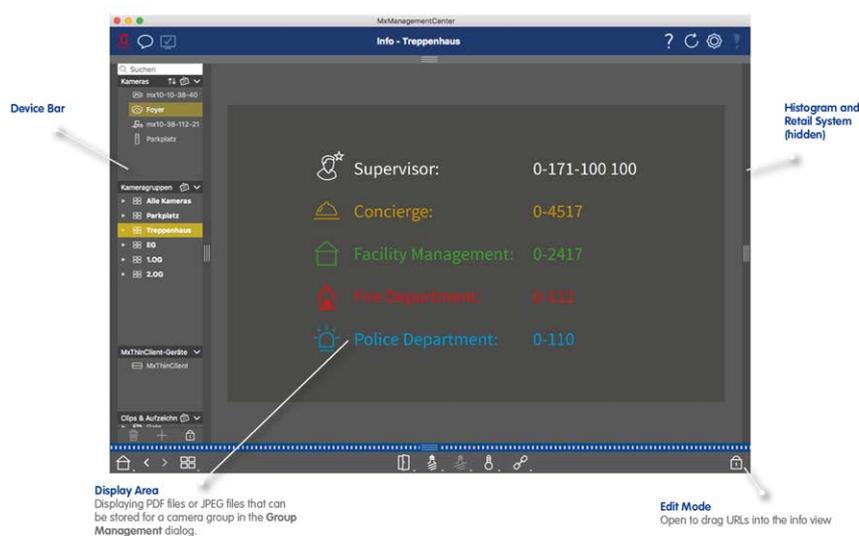


図. 15: インフォ・ビュー

コンフィギュレーション概要

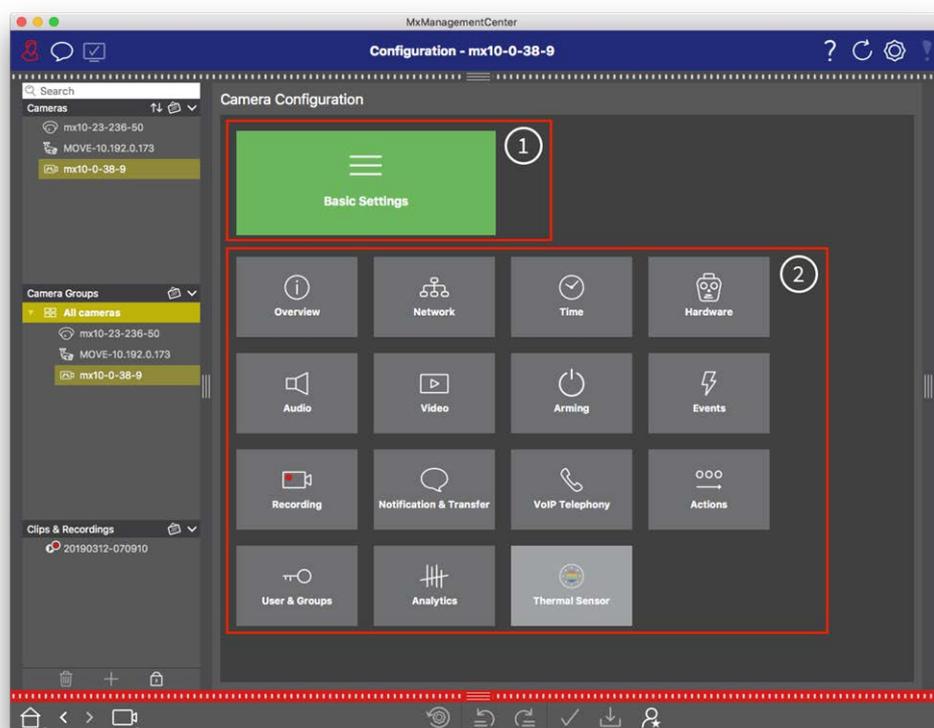
設定]ビューでは、MOBOTIX カメラに直接アクセスして設定できます。一般に、この表示は基本設定セクションと設定グループを含む詳細設定セクションに分かれています。

下部のコントロールは、変更した設定を永久に保存したり、パラメータ値を工場出荷時の設定にリセットするなどの操作に使用できます。

設定は一度に1台のカメラに対して行われます。右側の設定バーでは、カメラまたはカメラグループを変更することなく、グループの複数のカメラの設定を同時に変更できます。

注! 設定]ビューは、MOBOTIX MOVE カメラおよびONVIF-S/G 互換インターフェイスを提供する他社製カメラではサポートされていません。カメラの機能の違いの概要については、[カメラ機能の概要](#)、ページ 11参照してください。

カメラ設定ビューの構造



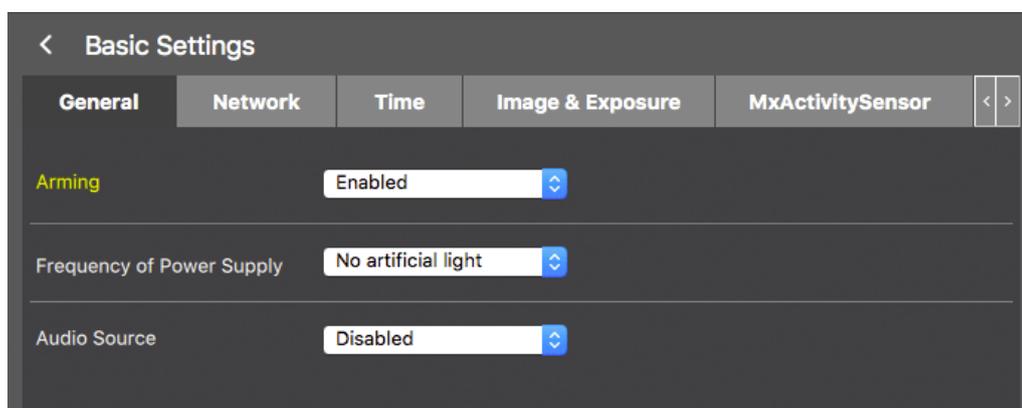
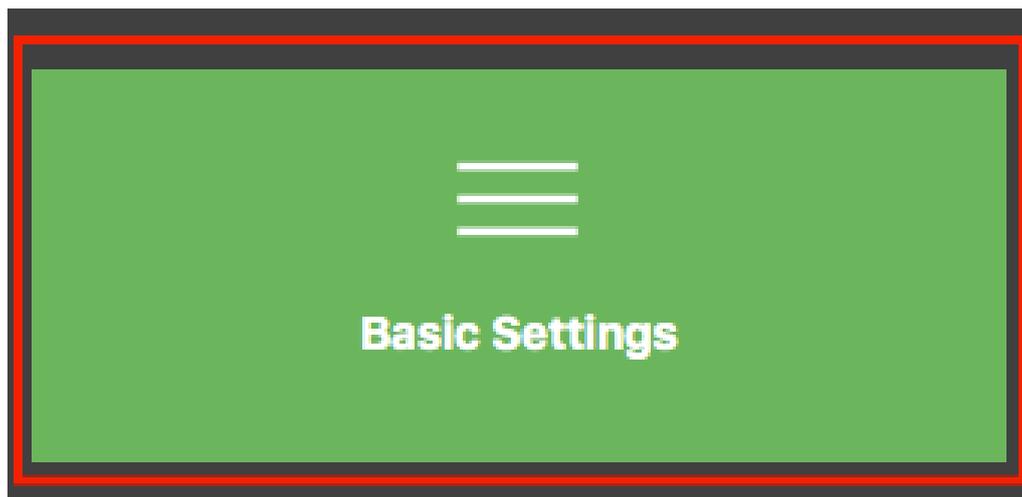
図。16: カメラ設定ビューの構造

基本設定

基本設定①には、カメラおよびカメラシステムの設定に重要な基本設定が含まれています。基本設定には以下の領域があります：

- 一般設定、
- ネットワーク
- 時間だ、
- 画像設定、
- MxActivitySensorと記録。

それぞれのトピック・エリアのパラメータはタブでグループ化されています。各タブについては、[カメラの基本設定](#)、[ページ 80](#)参照してください。



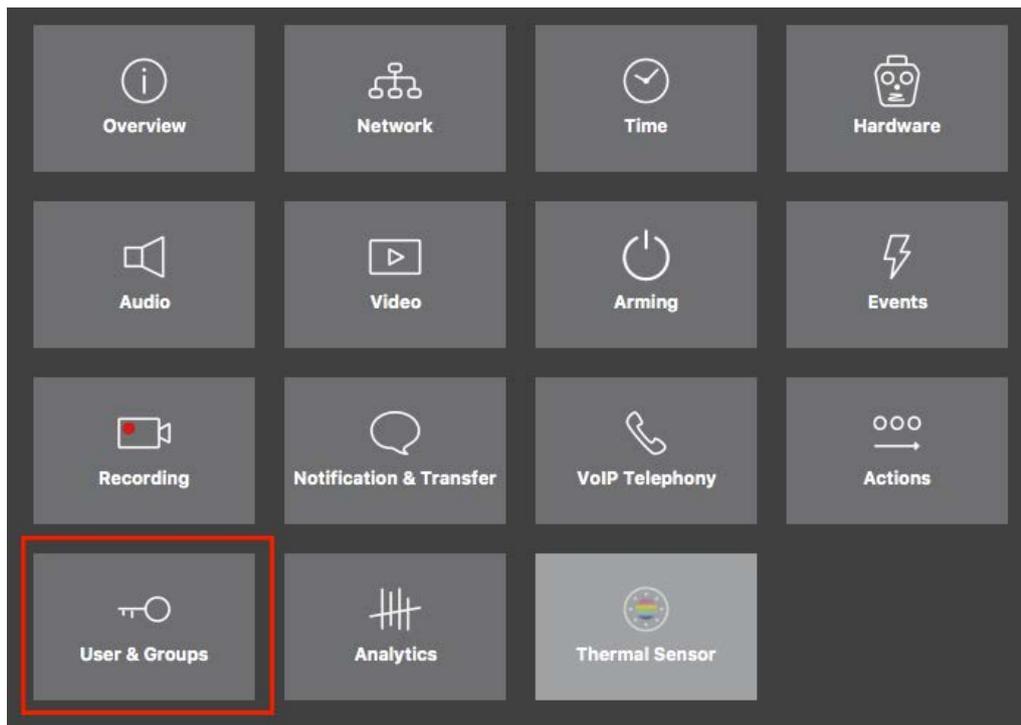
図。17: 基本設定

高度な設定

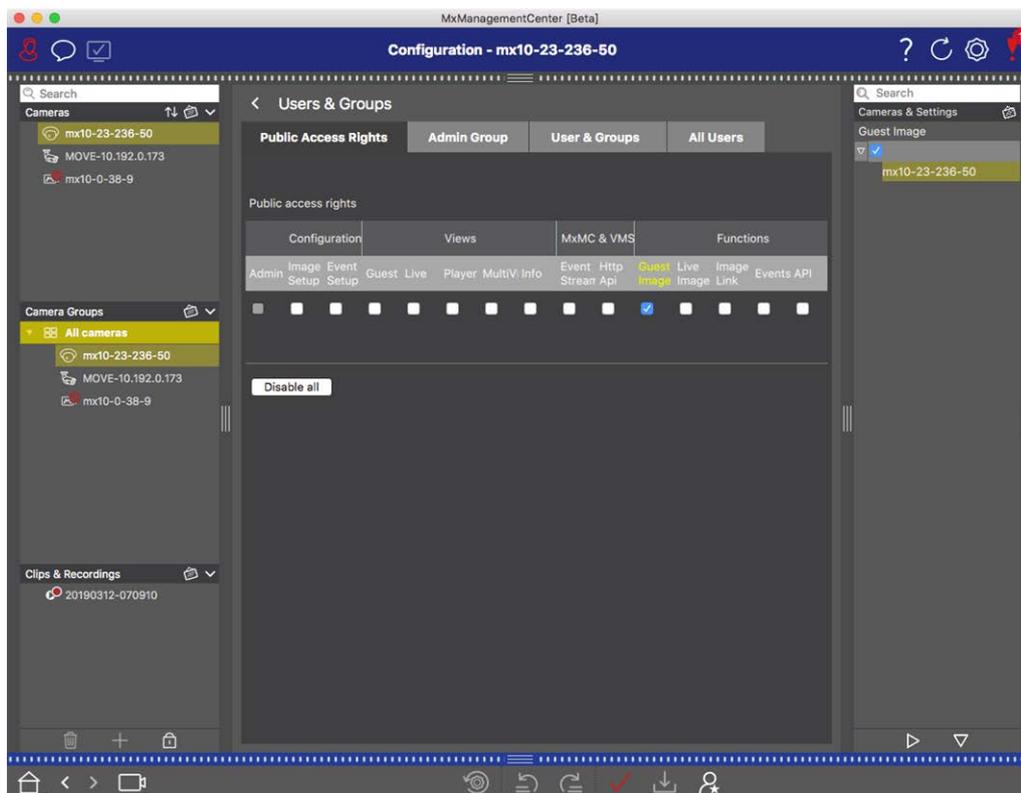
利用可能な設定パラメータは、テーマごとにタイル② にグループ化されています。タイルをクリックすると、トピックエリアと関連するサブトピックのタブが開きます。

トピックの中には、露光ウィンドウや検出エリアを定義するためのものなど、グラフィカルな設定項目があります。これらの設定項目の操作方法の詳細については、「[グラフィカルな操作, ページ 335](#)」を参照してください。

個々の被写体領域の設定オプションおよびパラメータに関する広範な情報は、現在のところ、カメラのヘルプページからのみ入手できます。**CMD+Shift+H**(Mac) / **CTRL+Shift+H**(Windows) を押すと、MxMC からカメラのヘルプ目次に直接アクセスできます。



図。18: 高度な設定



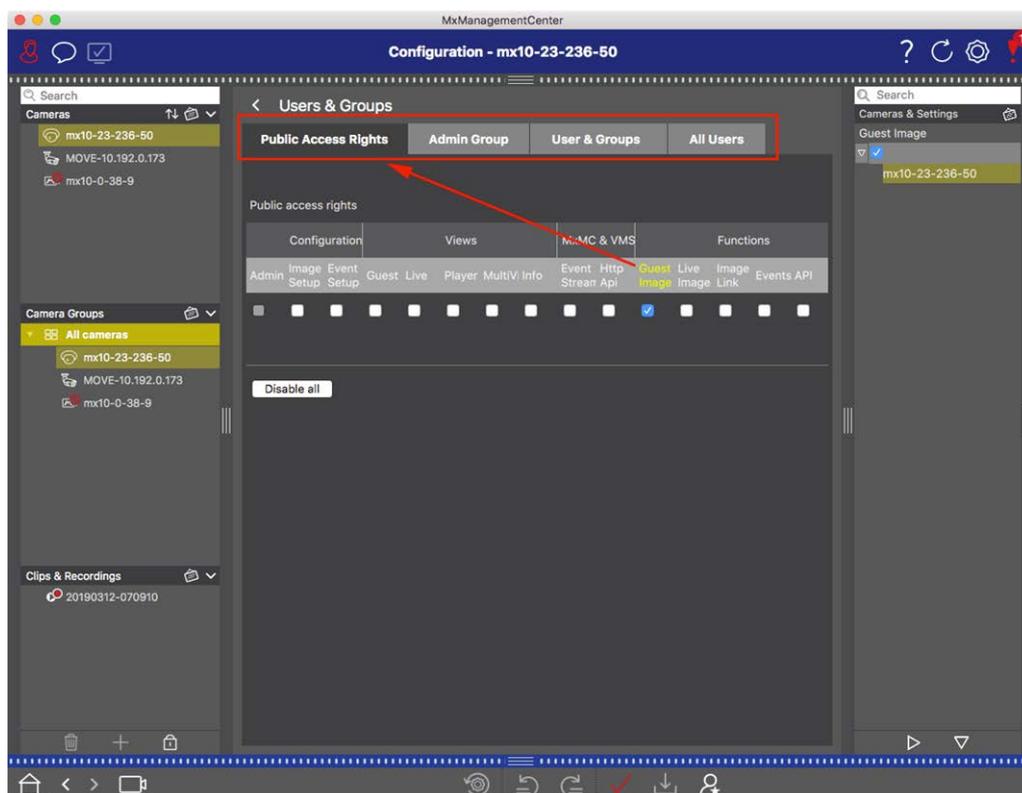
図。19: 詳細設定 - ユーザーとグループ

詳細設定の設定

注意！ ユーザー設定を変更すると、カメラにアクセスできなくなることがあります。知らないユーザやパスワードを削除したり、移動したりしないようにしてください！

1. それぞれのタブをクリックすると、対応するトピックエリアが開きます。
2. トピックごとに必要な設定を行う。

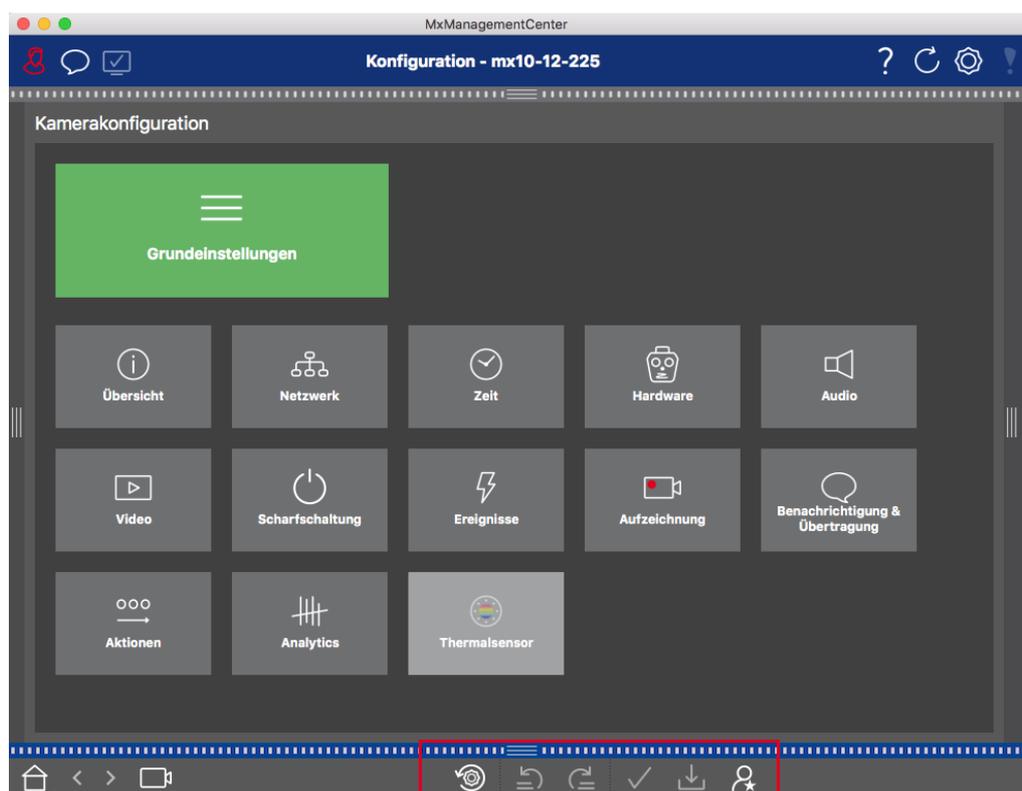
注！ 表の該当するトピックエリアをクリックすると、詳細設定設定の各トピックエリアの情報ページが開きます。



図。20: 詳細設定 - ユーザーとグループ

変更した設定の適用と保存

注意！ ユーザー設定を変更すると、カメラにアクセスできなくなることがあります。知らないユーザやパスワードを削除したり、移動したりしないようにしてください！



図。21: 変更した設定の適用と保存

ビューの下部にあるコントロールを使って、変更した設定を永久保存したり、パラメータ値を工場出荷時の設定にリセットしたりすることができます：

工場出荷時設定へのリセット

現在のカメラタブのすべてのパラメータを工場出荷時設定にリセットするには、 をクリックします。

最後の変更の取り消し/やり直し

 をクリックすると、前回の変更を取り消すことができます。元に戻した変更をやり直すには、 をクリックしてください。

変更を適用する

Enter] キーを押すか、[Configuration] ビューで新しい値を選択することで変更できます。

値が変更されると、コマンドバーのチェックマークが赤くなり、変更がまだ実行されていないことを示します。この変更を行うには、 をクリックします。

設定の保存

パラメータ値が変更されると、[設定を保存]  アイコンがコマンドバーで赤くなります。初期状態では、変更内容は常にカメラに一時的に保存されます。次の再起動後も現在の設定が使用されるように、変更は永久に保存する必要があります。

1. そのためには、**Store configuration**  をクリックします。プロンプトが表示されます。プロンプトで「Store」をクリックします。
2. 変更を保持したくない場合は、**Discard**をクリックします。これにより変更が破棄され、最後に永久保存された全体設定が復元されます。

エキスパート設定

コンフィギュレーションのさまざまなセクションには、MxMC を使用した日常的な作業には必要のないパラメータを変更するための追加設定が用意されています。これらの設定は、各セクションのエキスパート設定としてまとめられていることに注意してください。エキスパート設定を開くには、 をクリックします。

設定バーで複数のカメラのパラメータ値を変更する

注意！ ユーザー設定を変更すると、カメラにアクセスできなくなることがあります。知らないユーザやパスワードを削除したり、移動したりしないようにしてください！

設定] 表示では、**1 台**のカメラのパラメータを入力できます。設定バーを使用して、グループ内の他のカメラで使用できるパラメータ値を確認できます。また、別のカメラまたはカメラグループに切り替えることなく、グループ内の1台または**複数**のカメラの設定を変更できます。

グループ内の他のカメラのパラメータ値のチェック

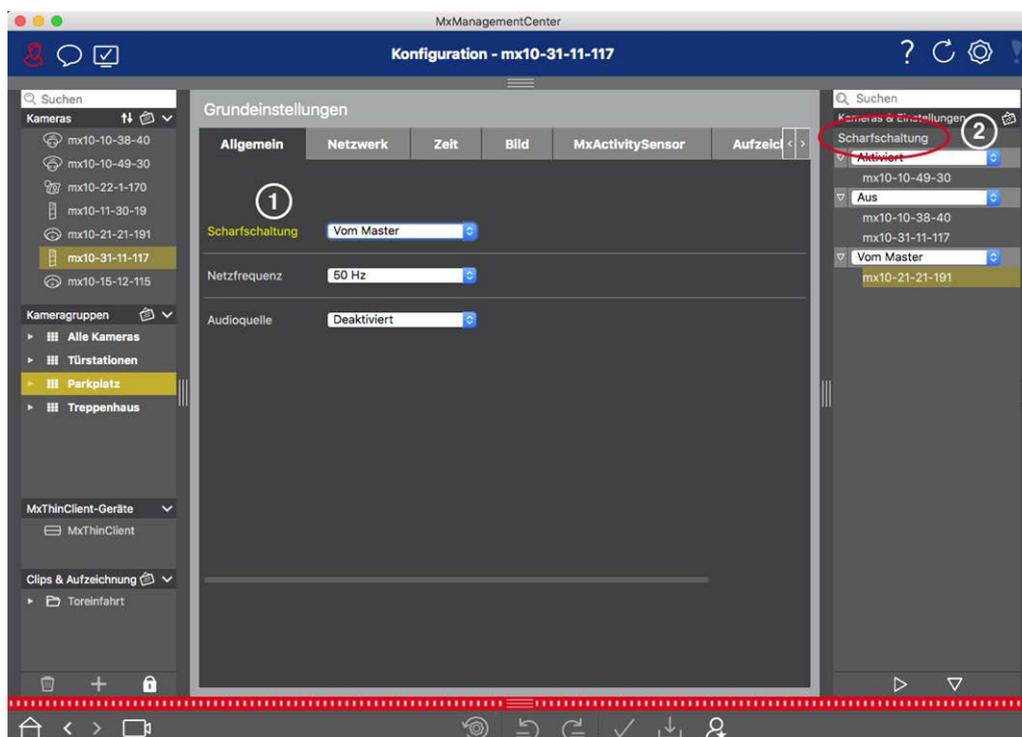


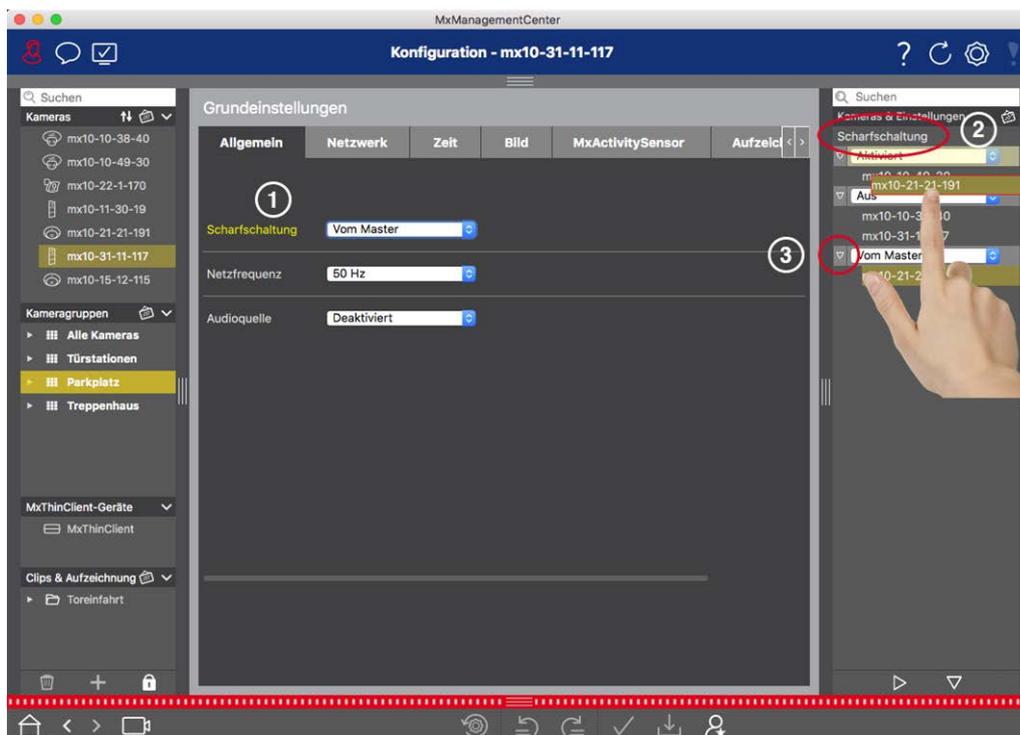
図. 22: グループ内の他のカメラのパラメータ値のチェック

例

複数カメラのアーミングをチェック

1. 該当するパラメータ名をクリック①。
2. 黄色に変わり、設定バーにはこのグループのカメラに定義されたこのパラメータに関連するすべての値が表示されます②。

1台のカメラまたは複数のカメラの値の変更



図。23: 1台のカメラまたは複数のカメラの値の変更

例

設定バーを使って値を変更する

1. コンフィギュレーションビューの該当するパラメータ名① をクリックする。黄色に変わり、[設定]バーにこのグループのこのパラメータに関連するすべての値が表示されます②。この値が設定されているカメラは、個々の値に割り当てられます。
2. 目的のカメラをハイライトし、設定したいパラメータ値の上にドラッグします。ドラッグ先の領域が黄色に変わります。
3. 複数のカメラに同じ値が設定されていて、この値を変更したい場合は、設定バー③ のパラメータ選択フィールドをクリックします。次に、必要な値を選択します。

プログラム構成と運営コンセプト

プログラム構成

MxManagementCenter は、さまざまなユーザーグループ向けの機能を提供する：

- **システム管理者 (インストーラ)：**
このユーザーグループは、MxMC を使用して、アプリケーション本体、カメラ、レコーダー、その他のコンポーネントで構成される監視システムを構築および設定します。
- **エンドユーザー：**
ライブビデオ監視、録画の検索や再生、ビデオのエクスポートなど、監視業務にアプリケーションを使用します。

このように2つのユーザーグループによって実行されるタスクは異なるが、プログラムの構造と運営コンセプトはほぼ同じである。

運営コンセプト

プログラム・ウィンドウ

ユーザーグループがタスクを完了するための複数のビューがある。これらは、メニューバー、タスクのほとんどが実行されるメインエリア、開閉可能な4つのバー、上部のヘッダーバー、プログラムウィンドウ下部のコマンドバーで構成される。

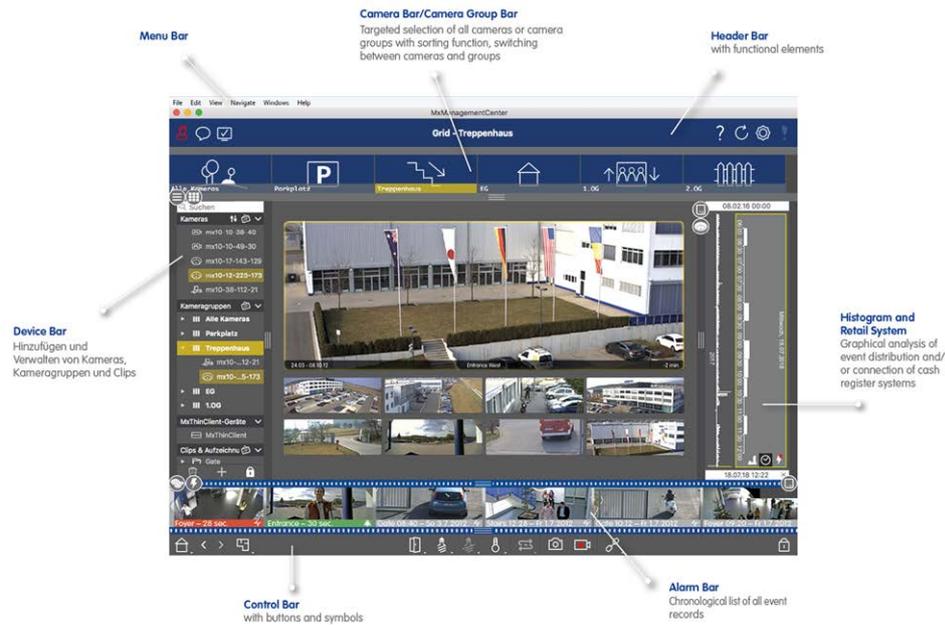
以下の機能バーが利用できる：

- [デバイスバー, ページ 48](#)
- [カメラバーとカメラグループバー, ページ 52](#)
- [アラームバー, ページ 54\(\[スマートデータ検索ビューでの検索, ページ 287\]\(#\)含む\)](#)
- [エクスポート・バー, ページ 58\(\[ヒストグラム・バー, ページ 292\]\(#\)含む\)](#)

[カメラの基本設定, ページ 80](#)、カメラまたはカメラ・グループを変更せずに、グループ内の複数のカメラの設定を変更する機能があります。

下部にあるコマンドバーには、現在のビューに関連するアイコンとボタンが含まれています。ヘッダーバーとメニューバーの内容は、すべてのビューで同じです。

注！ Windowsでメニューバーが表示されない場合は、Altキーを押すことで表示されます。



図。24: プログラム・ウィンドウ

MxMC は、マルチモニターでの作業、ページ 263操作 マルチモニターでの作業、ページ 263ことができます。例えばライブ画像をダブルクリックすると、セカンドモニターに表示されます。複数のモニターが接続されている場合、それらは認識され、必要に応じて選択することができます。

デバイスバー

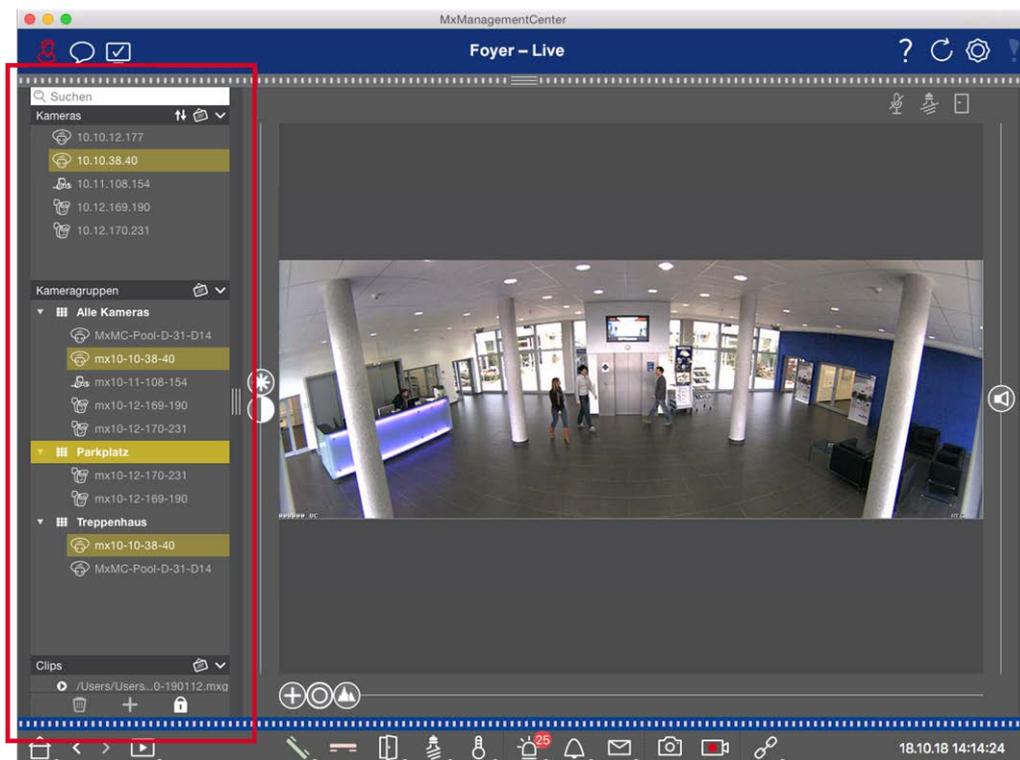


図. 25: デバイスバー

MxManagementCenter の左端にあるデバイス・バーは、カメラ・グループの作成、カメラおよびクリップの追加とグループ化の中心的な場所です。ツリー構造になっているため、各ブランチを開いたり閉じたりして階層構造を見ることができ、各プロジェクトの内容や構成をすばやく把握できます。

カメラの追加、グループの作成、クリップのインポート

1. をクリックして、デバイスバーの下部にある編集モードを開きます。
2. 次に、 をクリックする。デバイスとソースの追加、ページ 72ダイアログが開きます。

カメラグループへのカメラの追加

1. をクリックして、デバイスバーの下部にある編集モードを開きます。
2. カメラセクションから目的のカメラをカメラグループセクションの該当するグループにドラッグ&ドロップします。

注! カメラを1つのグループに割り当てた場合、最初のグループから他のグループにドラッグすることで、この割り当てを他のグループにコピーできます。

3. カメラを希望のグループに割り当てたら、 をクリックして編集モードを解除します。

グループ機能の設定

1.  をクリックして、デバイスバーの下部にある編集モードを開きます。
2. グループ名の上にマウスポインタを合わせると、3つのアイコンが表示されます。3つのアイコンが表示されます。 をクリックする。
3. **Group Functions**ダイアログが開きます。
4. それぞれのチェックボックスをオンにして、必要な機能をカメラに割り当てます。
5. すべてのグループ機能を定義したら、 をクリックして編集モードを解除することができます。

カメラの削除、グループからのカメラの削除、グループの削除

カメラの削除

1.  をクリックして、デバイスバーの下部にある編集モードを開きます。
2. カメラをカメラセクションから  にドラッグします。
3. カメラを削除したら、 をクリックして編集モードを停止します。

注！ カメラ・セクションからカメラを削除すると、そのカメラのグループ割り当ても削除されます。

グループからカメラを削除する

1.  をクリックして、デバイスバーの下部にある編集モードを開きます。
2. カメラをカメラ・グループ・セクションから  にドラッグします。
3. グループからカメラを削除したら、 をクリックして編集モードを停止します。

グループの削除

1.  をクリックして、デバイスバーの下部にある編集モードを開きます。
2. カメラグループをカメラグループセクションから  にドラッグします。
3. 次に、 をクリックして編集モードを有効にします。

デバイスバーの操作

画面を設定する

デバイスバーのカスタマイズやデバイスバー内のアイテムの配置をサポートする様々な機能があります。

特徴 **説明**

開閉セクション セクションを閉じるには  をクリックし、再び開くには  をクリックする。



セクションの移動 セクションの上部にマウスを移動すると、 アイコンが表示され、マウスポインタが移動カーソルに変わります。これで、セクションをクリックして上下にドラッグすることができます。



表示オプションの設定 カメラの一覧表示方法(カメラ名、IP アドレス、工場出荷時 IP アドレス、参照画像)を選択できます。カメラ]および[カメラグループ]セクションで異なる表示オプションを設定できます。クリップの場合、名前またはパスでクリップを一覧表示できます。

  をクリックし、希望の表示オプションを選択する。

カメラの選別 カメラセクションでは、リストの並べ替えができます。  をクリックし、希望の並べ替えモードを選択します。

プロジェクトデータの編集

カメラ/グループバーに表示するお気に入りを設定し、カメラとグループの名前を変更します。

特集 **説明**

カメラとグループからお気に入りを選択 カメラ・バーおよびカメラ・グループ・バー **カメラバーとカメラグループバー, ページ 52**カメラ・バーおよびカメラ・グループ・バーの表示されたカメラは、異なるフィルタ基準(例えば、お気に入り)でフィルタできます。ただし、お気に入りを使用する前に、デバイス・バーで目的のカメラとグループにお気に入りのラベルを付ける必要があります。

☆ [編集] モードをオンにするには、 をクリックします。カメラまたはグループ名の上にマウス・ポインタを移動します。いくつかのアイコンが表示されます。☆ をクリックします。次に、 をクリックして、編集モードを停止します。

名前編集 デバイス・バーを使用して、カメラとグループの名前をすばやく変更できます。  をクリックして、編集モードを起動します。変更したいカメラ名またはグループ名をクリックします。名前をもう一度クリックし、必要に応じて編集します。  をクリックして、編集モードを停止します。

ナビゲーションビューのターゲット選択

特集 説明

ビューの選択
デバイス・バーでは、カメラのグループまたは1台のカメラの特定の表示を選択できます。マウス・ポインタをカメラまたはグループ名の上に移動します。カメラまたはグループ名のどちらにマウスポインタを合わせただかによって、異なるアイコンが表示されます。使用するビューのアイコンをクリックします。

カメラビュー

-  ライブビュー
-  再生ビュー
-  スマートデータ検索ビュー

グループの見解

-  グリッドビュー
-  グラフィックビュー
-  グリッド再生
-  さらなるビュー(スマートデータサーチビュー、インフォビュー)

各カメラステータスの概要

カメラ名またはカメラIPアドレスの横のアイコンは、カメラの現在のステータスを示します。

アイコン 説明

-  カメラが作動していない。
-  カメラが届かない。
-  カメラのパスワードが間違っています。
-  プライバシーモードが有効。
-  古いファームウェア(4.0未満)、古いカメラモデル(M/D/V12、M/D/Q22M)、またはプロキシの問題による機能制限(ライブ画像アクセスのみ)。
-  カメラのパスワードでは管理者アクセスは許可されません。
-  このカメラには免許がない。

カメラバーとカメラグループバー

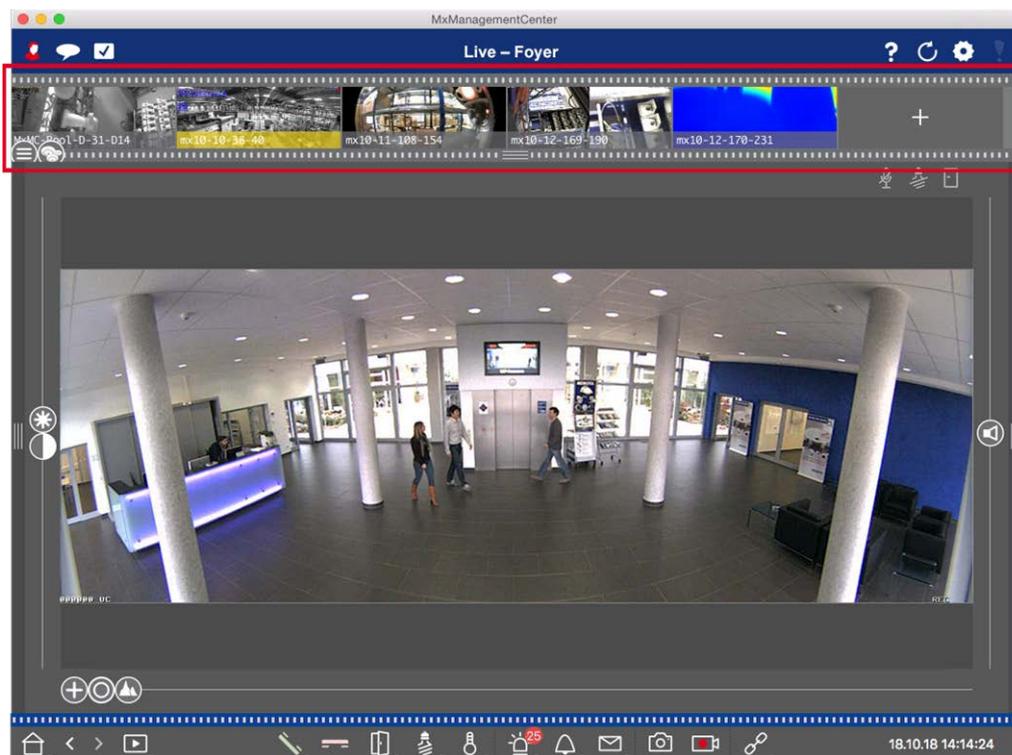


図. 26: カメラ・バーとカメラ・グループ・バー

MxManagementCenter

また、カメラ・バーのカメラ画像のアイコンは、対応するカメラの現在のステータスを示します：

バーの高さおよび画像のサイズは、2行分をカバーするように増やすことができます。バーの高さ、つまり画像のサイズを2行分大きくすることができます。

カメラバー

カメラ・バーには、カメラ追加時にカメラから転送された画像と共にカメラが表示されます。カメラの追加時にキャプチャされたカメラ名は、カメラ画像の下部にあるグレーの情報バーに表示されます。

カメラの選別

デフォルトでは、カメラはデバイス・バーに追加された順番に従って表示されます。カメラを見つけやすくするために、この順序を変更し、カメラを並べ替えることができます。フレーム下部の境界線にあるスライダー (☰) を希望の位置に移動します：

- ☰ 不変順序
- abc アルファベット順ソート
- IP IPアドレス順

カメラの状態を表示

カメラ画像に表示できるカメラの状態は以下のとおりです：

-  カメラがアクティブでない
-  カメラが届かない。
-  カメラパスワードの間違い
-  プライバシーモードが有効
-  古いファームウェア(4.0未満)、古いカメラモデル(M/D/V12、M/D/Q22M)、またはプロキシの問題による機能制限(ライブ画像アクセスのみ)。
-  カメラのパスワードでは管理者権限が与えられません。

カメラの選択

カメラをシングル・クリックまたはドラッグ・アンド・ドロップで選択します。選択したカメラの情報バーが黄色に変わります。

グループまたはカメラバーへの切り替え

バーの上部の枠をクリックすると、個々のカメラを表示するカメラ・バーからカメラ・グループを管理するグループ・バーに切り替えることができます。

グループまたはカメラバー

グループ・バーには、カメラ管理セクションで設定された参照画像またはアイコンのカメラ・グループが表示されます(カメラグループの設定, ページ 75)。カメラグループの作成時に入力した名前は、参照画像またはアイコンの下部に表示されます。

カメラグループ表示の並べ替え

カメラ・グループはデバイス・バーに追加された順序に従って表示されます。この順序を変更し、カメラグループをアルファベット順に並べ替えることができます。

これを行うには、スライダがアルファベット順に並べ替えられるようになるまで、下部のフレーム境界のスライダ()を動かします。。

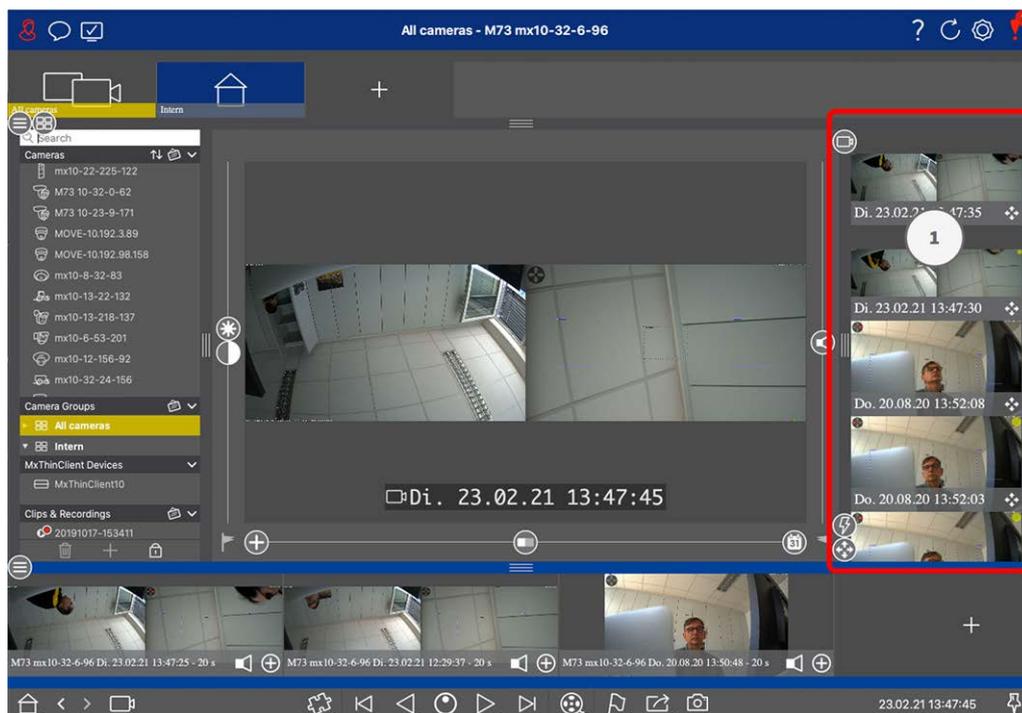
カメラグループの選択

希望のカメラグループをクリックします。選択したカメラグループの情報バーが黄色に変わります。

カメラバーへの切り替え

バーの上部の枠をクリックすると、カメラ・グループを表示するグループ・バーから個別のカメラを管理するカメラ・バーに切り替わります。

アラームバー



アラームバー①は、MxManagementCenterの右側にあります。未通知のアラームイベントが発生すると、赤くなります。これは、[カメラ設定]ダイアログボックスで[アラーム]オプションが有効になっており、アラームをトリガするイベントタイプが有効になっている場合にのみ発生します。

開いている[アラーム]バーの下部の枠をクリックすると、[エクスポート]バーが開きます。ドラッグ・アンド・ドロップを使用して、エクスポート・バーで録画を収集し、エクスポートすることができます。

注！ ユーザー設定によっては、ユーザーが権限を持つイベントのみがアラームバーに表示されます(ユーザー設定, ページ 149参照)。

新しいアラームの認識と確認

バーが非表示の場合、新しいアラートは赤枠の枠線  で表示されます。バーが開いている場合、イベント画像の情報バーが赤くなります。ドアベルが鳴ると、バーの色が緑色に変わります



新しいアラームを確認するには、イベント画像を右クリックし、[確認]を選択します。すべての新しいアラームを一度に確認するには、[すべて確認]を選択します。

アラーム画像のフィルタリング

アラームバーのアラーム画像は時系列にソートされます。イベント画像は、カメラ、グループ、イベント・タイプでフィルタできます。グループ/カメラ・スライダと イベント・タイプ・スライダの2つのスライダがあります ()。フィルタを設定するには、希望する結果が表示されるまでスライダを動かします:

- グループ/カメラ:グループ ,カメラ

■ イベント アイコン	イベントの種類	説明
	MxActivitySensor	特定の画像領域で人や物が動き続けるとトリガーされる。
	ビデオモーションセンサー	あらかじめ定義されたモーションウィンドウ内の動きによってトリガーされる。
	行動検出	センサーは画像内の追跡対象物の異なる行動プロファイルに反応する。記録された行動プロファイルからの逸脱によってトリガーされる。
	ショックセンサー	カメラへの衝撃(破壊行為など)で作動。
	イルミネーション	指定照度を超えるか下回るとトリガーされる。
	マイク	マイクで拾った音が設定音量を超えると発動。
	PIRセンサー	パッシブ赤外線センサーが、センサーエリア内を移動する熱シグネチャを持つ物体を検知。設定されたしきい値を超えるとトリガーされます。
	温度	特定の温度しきい値を超るか下回るとトリガーされる。
	アクショングループの終了	アクショングループの実行完了によってトリガーされる。
	内部イベント	カメラ内部イベントによるトリガー
	MxMessageSystem	MxBus、またはネットワーク経由でMxMessageSystemからメッセージを受信するとトリガーされる。
	メタイベント	メタ・イベントがトリガー
	信号イベント	ユーザー定義信号の状態変化によってトリガーされる。
	時間イベント	ある時点でトリガーがかかる。
	着信イベント	ドアベルの作動によりトリガーされる。
	メールボックス・メッセージ	ボイスメールボックスのメッセージを残すとトリガーされる。
	ドアステーションのイベント	ドアを開けると発動。
	RFIDカードが拒否される	無効なRFIDカードの使用によりトリガーされる。

イベント アイコン	イベントの種類	説明
	暗証番号拒否	無効な暗証番号の入力によりトリガーされる。
	すべてのイベント(デフォルト)	フィルタなし - すべてのイベントが表示されます

録音の再生

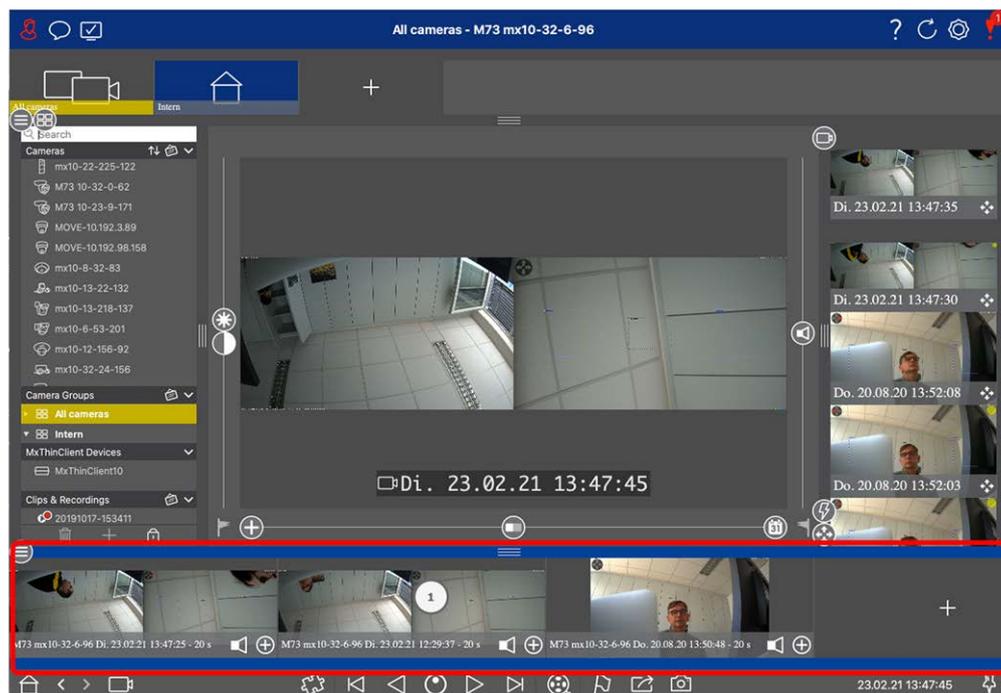
- アラームバーからアラーム録画を直接再生するには(インスタント再生)、アラーム画像の上にマウスポインタを移動し、▶ をクリックします。
- 再生ビューでアラームを再生するには、アラーム画像の上にマウスポインタを移動し、⏮ をクリックして再生ビューに切り替えます。

アラームの解除

カメラ設定]ダイアログボックスまたは [アラームバー] を使用して、アラームを停止できます。

- 特定のカメラおよびイベント・タイプのアラームを停止する:
アラーム画像を右クリックし、[アラームとして停止] を選択します。
- カメラのすべてのイベント・タイプのアラームを無効にします。
アラーム画像を右クリックし、[このカメラのすべてのアラームを停止] を選択します。

エクスポート・バー



エクスポート・バー①は、MxManagementCenterの下部にあります。イベント頻度の分布を視覚化する[ヒストグラム・バー](#)、[ページ 292](#)含まれています。

開いているエクスポート・バーのフレームをクリックすると、ヒストグラム・バーが開きます。エクスポート・バーは、その後のエクスポートのために録画を素早く簡単に収集する方法を提供します。

エクスポート・バーの基本機能

エクスポートバーはすべてのビューで開くことができ、すでに追加されているクリップはバーで編集することができます。クリップを右クリックします。以下の機能のショートカットメニューが開きます：

- :手動で時間範囲を調整する
- :すべてのクリップのオーディオとPTZのオン/オフ
- :クリップの複製
- :クリップの削除

クリップは再生ビュー、グリッド再生、およびスマートデータ検索ビューで追加できます(「[録音のエクスポート](#)」, [ページ 306](#))を参照)。

注! エクスポートバーは、エクスポート後に自動的に削除されるのではなく、アプリケーションを閉じるときのみ削除されます。

コントロールとボタン

アイコン、スライダー、ボタンは、ビューを操作するために利用可能です。

エレメント 説明

アイコン  アイコンは主にグラフィックビューで使用されます。アイコンは、あらかじめ定義された機能か、自由に定義することができます(ハイパーリンク)。アイコンはグラフィック・ビューに自由に配置することができます。これらのボタンをクリックすると、ドアを開けるなどの機能が直接実行されます。カメラの機能を制御するために使用されるアイコンは、ドア・ステーションのドア・アイコンに「ドアがロックされています」など、ステータスを示します。

ボタン  ボタンはコマンドバーやヘッダーバーなど、アプリケーションの様々な場所に表示されます。アイコンと同様に、ボタンをクリックすると直接機能が実行されます。ボタンの下に小さな白い三角形が付いているボタンは、追加オプションを提供するショートカットメニューを示しています。ショートカットメニューは、右クリック、ロングクリック、または三角形をクリックすることで開くことができます。

スライダー   スライダーも操作のためにいろいろなところで使われています。スライダーをクリック&ドラッグすることで、直近の記録をスクロールさせるなどの操作が可能です。スライダーをクリックすることで、設定可能な項目が一覧表示され、選択することができます。

コントロールとボタンの名前は、マウスポインタをその上に移動すると表示されます。ヘッダーバーのクエスチョンマークアイコン() をクリックすると、クイックヘルプへのリンクを含む説明が表示されます。

注! MxMC、一度に複数のカメラを選択できる場合があります。**CMD + クリック**(Mac) または**CTRL + クリック**(Windows) を使用します。

セットアップ

MxManagementCenter (英語) ベースのビデオ監視システムのセットアップはコストがかかるため、通常は管理者 / システムインストーラーが行います。このセクションでは、**管理者とシステム設置者**を対象に、システムを効率的に設定するために実行する必要があるタスクの概要を説明します。

ただし、これらのタスクのすべてが基本的な設置に必須であるわけではありません(「基本的な設置」を参照)。[基本的なインストール概要, ページ 62](#)).

ステップ	説明
カメラの追加, ページ 63	ウェルカムウィザードまたはデバイスバーでのカメラの統合 アラームフィルタの設定 録画パスの設定
カメラグループの設定, ページ 75	カメラグループの作成 グループへのカメラの追加 グループ機能の定義
ユーザーの追加, ページ 78	ユーザーの作成 パーミッションの割り当て

ステップ	説明
カメラの基本設定, ページ 80	一般設定 ネットワーク 時間 画像設定 MxActivitySensor 録画
システム・セキュリティのチェック, ページ 189	システムのセキュリティ設定を確認する システムを保護する
バックアップとエクスポート, ページ 105	設定を保存する
既存プロジェクトのインポート, ページ 101	MxControlCenter ファイル(INI ファイル) のインポート MxEasy ファイル(NDB ファイル) のインポート

基本的なインストール概要

セットアップセクションでは、システムのセットアップに必要な手順を説明します。ただし、基本的なインストールでは、すべてのステップが必須というわけではありません。以下のリストは、基本的なインストールで最も重要なステップの概要です。

ステップ	説明
カメラの追加, ページ 63	MxMC を初めて起動すると、ようこそウィザードが開き、自動的にMOBOTIX カメラの検索が開始されます。ローカル・ネットワーク内のカメラが自動的に検出され、リストされます。 カメラはデバイス・バーにも追加できます。ローカルネットワーク内のカメラも自動的に検出され、ここに表示されます。ローカルネットワーク外のカメラは手動で追加する必要があります(デバイスとソースの追加, ページ 72 参照)。
カメラグループの設定, ページ 75	カメラグループを作成して、カメラをグループ化します。グループ化することで、監視エリア全体が常に一目でわかるようになります。 カメラを希望のグループに割り当てる。 グリッドビューとグラフィックビューのレイアウトを設定する。
ユーザーの追加, ページ 78	カメラの追加とグループ分けが完了したら、ユーザとその他の管理者を作成し、アクセス権を設定します。

ステップ	説明
MxMC ライセンス, ページ 228	キャッシュポイントシステムとの統合など、業界特有のソリューションや特殊な機能は、ライセンスの対象となります。これらを使用するには、購入したライセンスを有効にする必要があります。
カメラの基本設定, ページ 80	メインの待機オプションが有効になっていることを確認します(「カメラの基本設定一般設定, ページ 85。時間を同期させ(「カメラの基本設定時間, ページ 87」を参照)、録画のアームを設定し(「カメラの基本設定録画, ページ 92」を参照)、必要に応じて録画先を指定します(「カメラの追加, ページ 63」を参照)。
システム・セキュリティのチェック, ページ 189	システムの基本設定が完了したら、セキュリティをチェックすることをお勧めする。
バックアップとエクスポート, ページ 105	最後に、設定を保存してください。(ローカルにプロジェクトファイルとして設定を保存することができます。) Device Backup機能を使用すると、システム全体の設定を保存することができます。

カメラ、デバイス、ソースの追加

このセクションでは、カメラ、デバイス、その他のソースを追加および設定するために必要な手順について説明します。

カメラの追加

カメラとドア・ステーションは、ようこそウィザードで統合するか、デバイス・バーに追加できます。これらのカメラには、MOBOTIX MOVE カメラや、ONVIF-S/G 互換インターフェースを提供するサードパーティ製カメラも含まれます。

ウェルカムウィザードとカメラの統合

MxMC を初めて起動すると、ようこそウィザードが開き、自動的にカメラの検索が開始されます。検索されたカメラの台数は、[追加] ボタンの横に表示されます。MOBOTIX ネットワーク上のカメラの台数が変更された場合、この台数は自動的に更新されます(新しいカメラの接続 / 既存のカメラの切断など)。

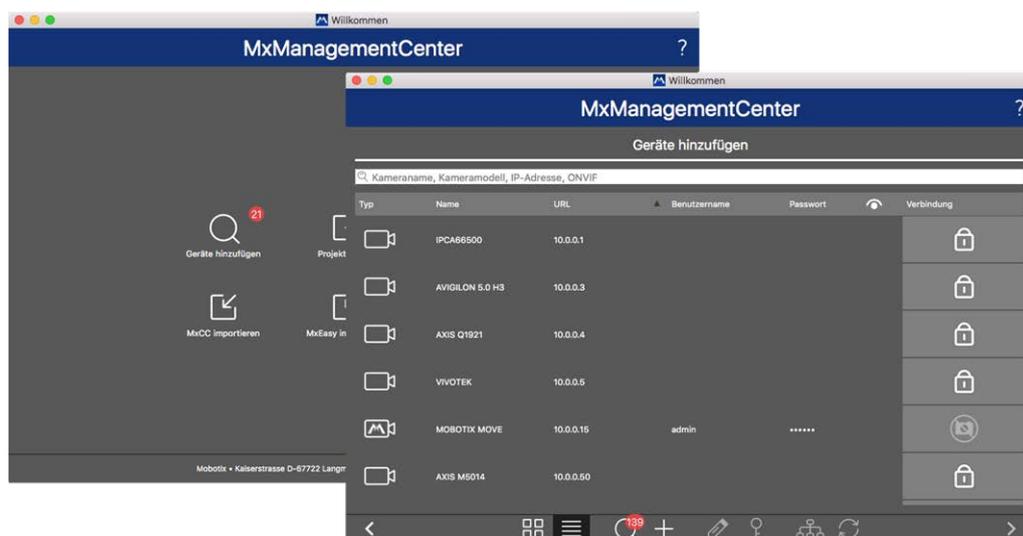


図. 27: ウェルカムウィザードとカメラの統合

1.

見つかったカメラはすべてリストまたはタイルで表示されます。カメラをリストで表示するか、タイルで表示するかは、

タイル または **リスト** のいずれかのボタンをクリックして決定します。

2. それぞれのカメラのステータスが自動的にテストされ、表示されます:

- 🚫 = 見つかったIPアドレスまたは入力されたIPアドレスではカメラを操作できません。
- 🌐 = カメラがコンピュータとは別のネットワークにある。
- 🔄 = カメラのファームウェアが最新ではありません。
- 🔒 = カメラはパスワードで保護されています。
- 👤 = 誤ったユーザーデータが入力されました。
- 📷❌ = プレビュー画像がありません。

3. 統合したいカメラを選択します。

- 選択したカメラの一部がパスワードで保護されている場合は、**カメラ・アクセスの変更 (Change Camera Access)** をクリックし、ユーザ名とパスワードを入力します。
- 選択したカメラの一部が正しいネットワークにない場合は、**ネットワーク設定の編集** 🌐 をクリックします。ここで、IPアドレスを自動的に決定するか、固定IPアドレスを使用するかを選択できます。
 - **IPアドレスの自動決定** お使いのコンピュータがDHCPサーバ(DSLルータなど)から自動的にIPアドレスを取得する場合、システムがカメラのIPアドレスを自動的に決定することも理にかなっています。**IPアドレスを自動的に取得するオプションを有効にします。**
 - **固定IPアドレスの使用** コンピュータに固定IPアドレスを割り当てている場合は、カメラにも固定IPアドレスを割り当てることをお勧めします。IPアドレスとサブネットマスクを入力します。

4. **適用** をクリックし、カメラが再設定されるのを待ちます。

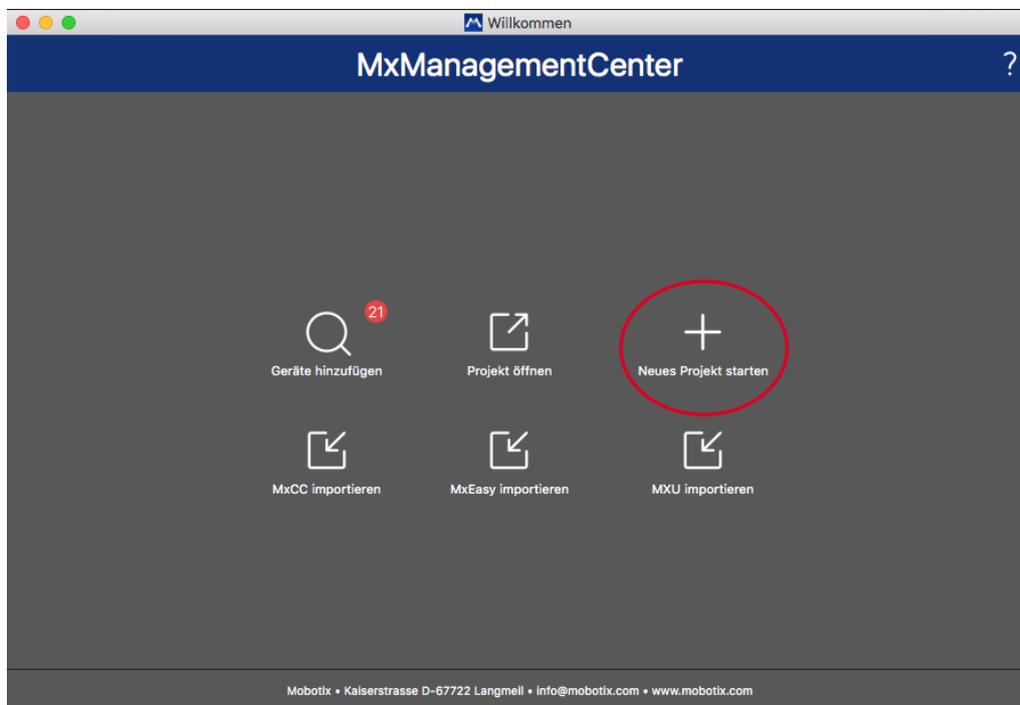
注！ プレビュー画像の代わりに  アイコンが表示される場合は、ユーザーデータが正しくないため、カメラを再設定できません。この場合、ユーザーデータを修正して再度設定してください。

5. 選択したカメラの台数は、**[次のページ]** ボタンの近くに表示されます。次のページに進みます。

6. **完了** をクリックします。選択したカメラが統合されました。

注！ **新規プロジェクトの開始** をクリックすると、アプリケーションが直接開き、デバイス・バーを使用してカメラを追加できます。

デバイス・バーによるカメラの追加



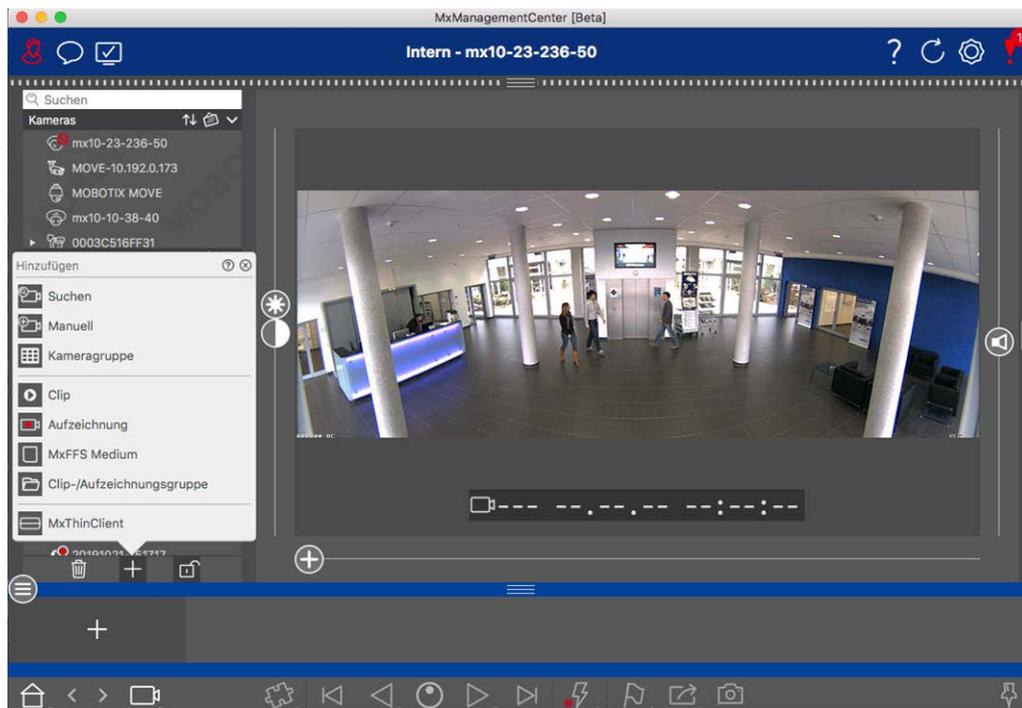
図。28: デバイス・バーによるカメラの追加

MxMCを初めて起動すると、自動的にようこそウィザードが開き、カメラとドア・ステーションの追加ができます。デバイス・バーを使用して追加することもできます。ウェルカム] ウィザードの代わりにデバイス・バーを使用する場合は、ダイアログで**[新規プロジェクトの開始]** をクリックします。これにより、MxMC がライブ表示され、デバイス・バーが開きます。

1.  をクリックして、デバイスバーの下部にある編集モードを開きます。
2. 次に、**+** をクリックする。**Add and Import**ダイアログが開きます。

セットアップ

カメラ、デバイス、ソースの追加



-  ローカル・ネットワーク内のカメラの追加
ローカル・ネットワーク内のすべてのカメラとドア・ステーションを自動的に検出して表示できます。
-  手動によるカメラの追加
ローカルネットワーク外(例えばインターネット上)のカメラは手動で追加する必要があります。

多数のカメラのデータを取り込む

マルチカメラ設定 ダイアログでは、MxMC で使用される認証データと環境設定を多数のカメラに対してワンステップで変更できます。

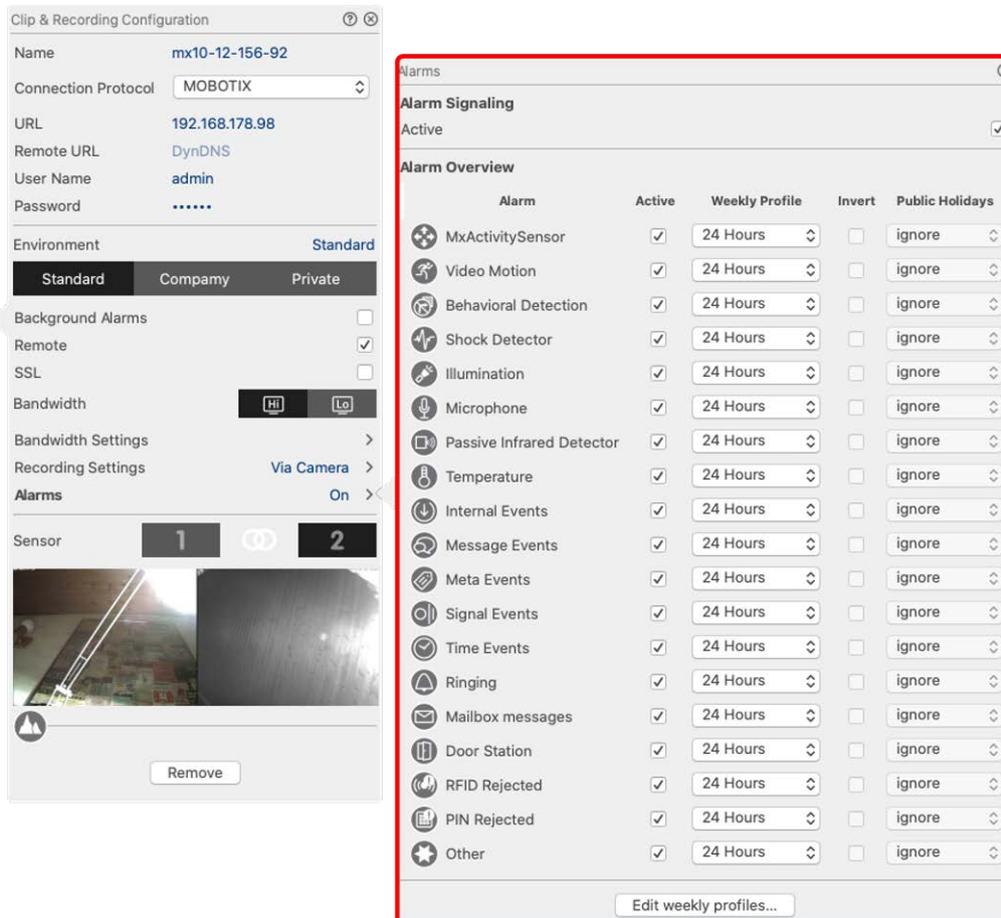
1. これを行うには、 をクリックして、デバイスバーの編集モードを開きます。
2. 必要に応じてカメラを選択します。
Mac: **CMD + クリック**、Windows: **CTRL + クリック**
3. 選択したカメラの1台を右クリックします。マルチカメラの設定ダイアログが開きます([マルチカメラ構成](#), ページ 145参照)。

アラームフィルターの設定

注! MOVE カメラ(MOBOTIX) およびサードパーティ製カメラ(ONVIF-S/G 対応インターフェース)の場合、アラーム機能はありません。カメラの機能の違いについては、[カメラ機能の概要](#), ページ 11参照してください。

アラームにつながるイベントは、アラームバー、アラーム情報バー([アラームバー](#), ページ 54および [アラーム処理](#), ページ 268参照) およびその他のUIアイテムの背景色を赤に変更します。カメラ設定ダイアログで特定のカメラの信号をトリガするイベントタイプを設定できます。

1. デバイスバーを開くには、バーの下部にある  をクリックします。
2. 次に、個々のカメラを右クリックするか、カメラ名の上にマウス・ポインタを置くと表示される  アイコンをクリックします。
3. **Alarms**をクリックして、必要な設定を調整します。**Alarm Events**ダイアログが開きます。



図。29: アラームフィルターの設定

4. アラームオプションが有効になっていることを確認してください。
5. アラームを作成するイベントタイプを選択します。

6. さらに、アラームをトリガーするイベントタイプごとに週プロフィールを選択できます。他の週プロフィールが選択されていない限り、設定は月曜 00:00 から日曜 24:00 まで有効です。

- 新しい週間プロフィールを作成するには、**Edit weekly profiles**をクリックします。**週間プロフィールダイアログ**が開きます。**週末**プロフィール(土曜 00:00 ~ 日曜 24:00) など、いくつかの定義済みプロフィールが利用できます。
- プロフィールを追加するには、**+** をクリックします。説明を入力する。次に、マウスを使用して、表内のアクティブな時間をハイライトします。アクティブな時間ブロックのサイズを変更するには、時間ブロックをクリックし、それに応じて枠を移動します。ブロックをクリックして選択し、新しい位置にドラッグします。タイムブロックを削除するには、**×** をクリックします。

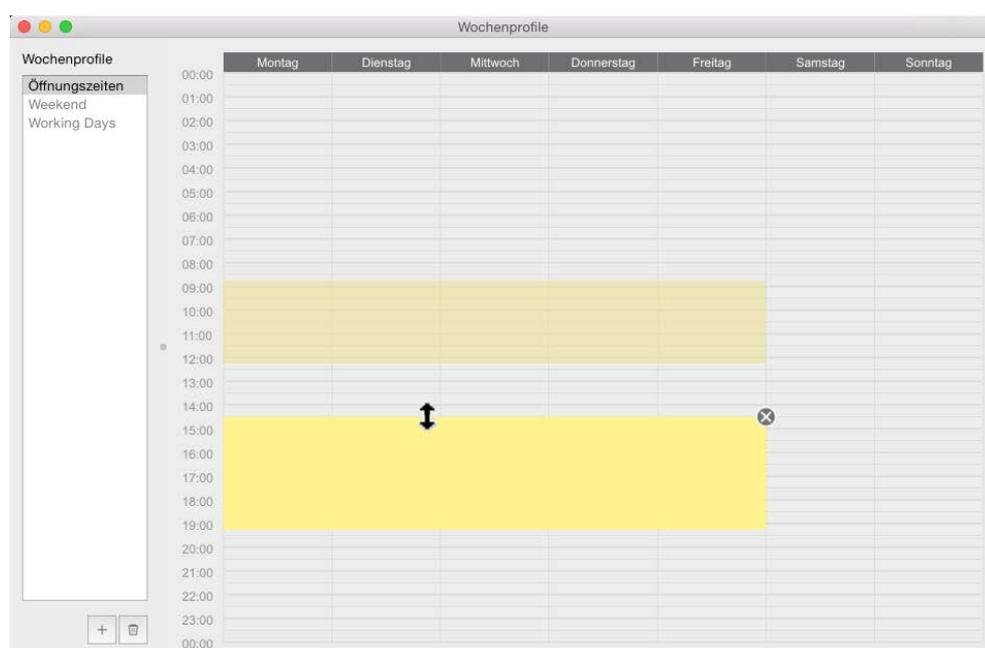


図. 30: アラームフィルターのプロフィール

7. 既存のプロファイルの説明を変更できます。名前を右クリックして上書きしてください。
8. 週間プロフィールを選択するには、イベントタイプの隣にある**週間プロフィールドロップダウンリスト**をクリックし、希望のプロフィールを選択します。
9. カレンダーのアイコンをクリックすると、週間プロフィールの設定を簡単に反転できます。例えば、営業時間を設定したプロフィールを作成し、閉店時間に合わせてアラームを作動させたい場合、**Invert weekly profile** チェックボックスをクリックすると、プロフィールが反転して使用されます。

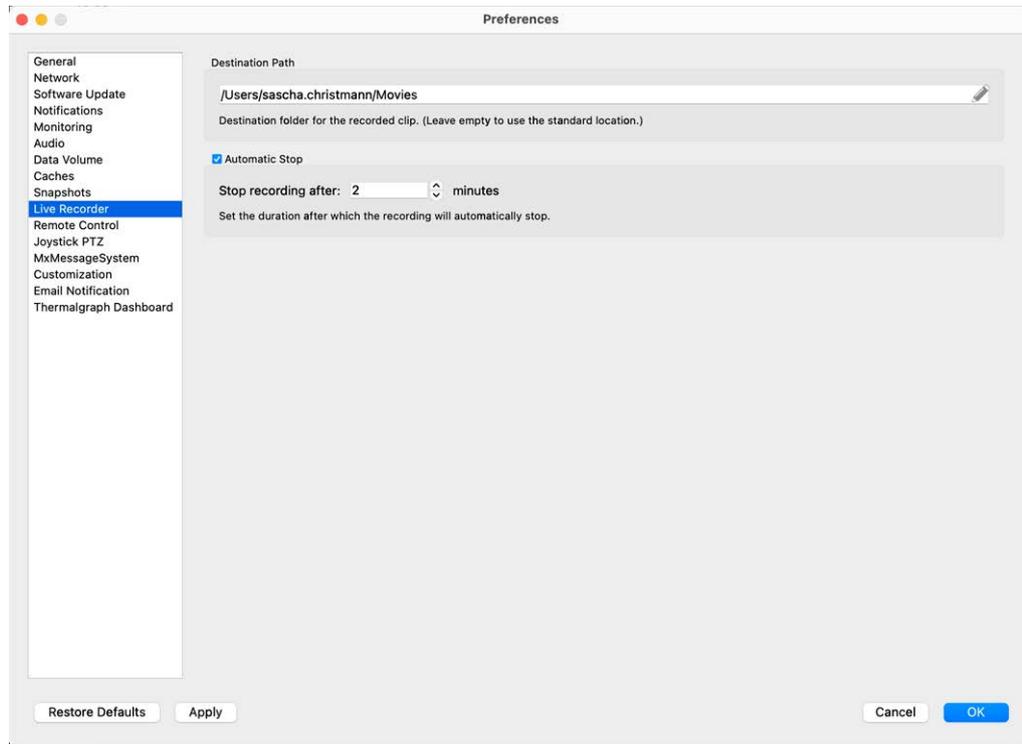
録音パスの設定

このプログラムでは、以下の方法で保存された録画にアクセスできます: カメラ経由の録画へのアクセス(リモート再生)、録画が保存されているローカル・ディレクトリへのアクセス、またはファイル・サーバへの直接アクセス。

カメラ(MOBOTIX) 経由でアクセスする場合、追加の設定は必要ありません。録画に直接アクセスする場合(ファイル・サーバまたはローカル・ディレクトリ)、録画パスを定義し、カメラに割り当てる必要があります。直接アクセスには、再生速度が非常に速い(最大60倍)という利点があります。

注！ ONVIF-S/G 互換インターフェースを提供するMOBOTIX MOVE カメラおよび他社製カメラの録画は、MOBOTIX NAS にのみ保存できます。これを行うには、まずMOBOTIX NAS を設定し、MxMC で録画パスを設定します。

録音パスの定義



図。 31: 録音パスの定義

1. メニュー **MxManagementCenter > Preferences > Live Recorder**(Mac) または **File > Settings > Live Recorder**(Windows).
2. をクリックし、希望の名前を入力します。この名前で、カメラ設定ダイアログで録画パスを選択できます。

3. Select the type:

■ ローカル

このコンピュータまたは接続されたネットワークドライブ上のローカルフォルダを含みます。フォルダのパスを手動で入力するか、入力フィールドにフォルダをドラッグ&ドロップするか、ローカルまたはリンクされたフォルダを選択します。

パス: カメラで作成された録画フォルダを含むパスを選択する必要があります。

■ ネットワーク共有

ファイルサーバー上の共有フォルダーに直接アクセスするプログラムです。この場合、コンピュータ、フォルダ、およびアクセスデータを入力する必要があります。

ファイルサーバー (IP): 共有ファイルサーバーのIPアドレスまたはDNS名。

ディレクトリ:

重要: パスの末尾がカメラの工場出荷時IPアドレスを含むフォルダの前であることを確認します。

ユーザー名/パスワード: ネットワーク共有のアクセスデータ。

■ MOBOTIX NAS

データはNAS上の共有フォルダに直接アクセスされる。MOBOTIX

ファイルサーバー (IP): MOBOTIX NASのIPアドレスまたはDNS名とポート。

ディレクトリ: MOBOTIX NAS上の共有の名前。**重要:** パスの末尾がカメラの工場出荷時IPアドレスを含むフォルダの前であることを確認。

ユーザー名/パスワード: MOBOTIX NASのアクセスデータ。

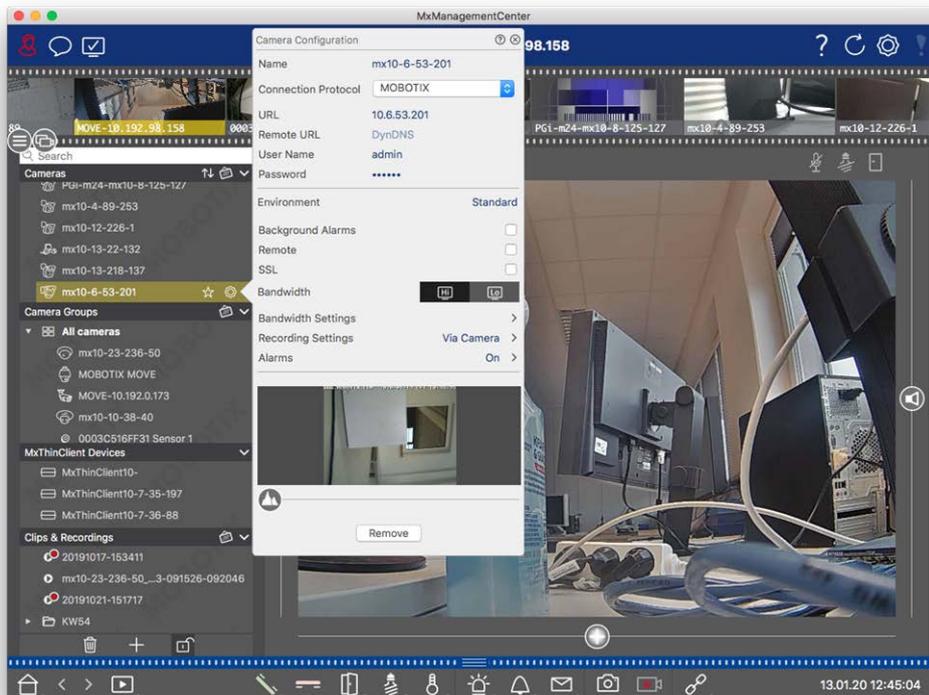
■ MOBOTIX NAS (ONVIF-S/G) 録画はNASでアクセスされる。

ONVIF-S/G MOBOTIX

ファイルサーバー (IP):

User Name/Password: ファイルサーバーのアクセスデータ。

カメラへの録画パスの割り当て



図。32: カメラへの録画パスの割り当て

1. デバイスバーのカメラ設定ダイアログを開きます。バー下部の  をクリックします。
2. 次に、個々のカメラを右クリックするか、カメラ名の上にマウス・ポインタを置くと表示される  アイコンをクリックします。
3. 録画設定で適切な録画パスを選択します。以下のオプションがあります：
 - **カメラ経由**: カメラ(MOBOTIX) 経由でアクセスする場合、これ以上の設定は必要ありません。
 - **ローカルパス**: 適切な録画フォーマットを設定します: 録画が MxFFS アーカイブに保存されている場合は、MxFFS を使用します。録画が従来の MOBOTIX フォルダ/ファイル構造に保存されている場合は、MxFileServer を使用します。次に、[**device Directory**] テキストボックスにローカル・ディレクトリを入力します。

注! テキストフィールドのペンのアイコンをクリックすると、ファイル選択ダイアログが開きます。

- **ファイルサーバー**: ファイル・サーバ・アクセスが使用されている場合、MxMC は、指定されたファイル・サーバのパスから、対応する録画のあるサブ・フォルダを検索します。検索が完了すると、[**デバイスディレクトリ**] 選択ボックスでこのカメラのフォルダを選択できます。
- **MOBOTIX NAS**: MOBOTIX NAS にアクセスする場合は、**デバイスディレクトリ** 選択ボックスで適切なカメラ IP を選択します。

デバイスとソースの追加

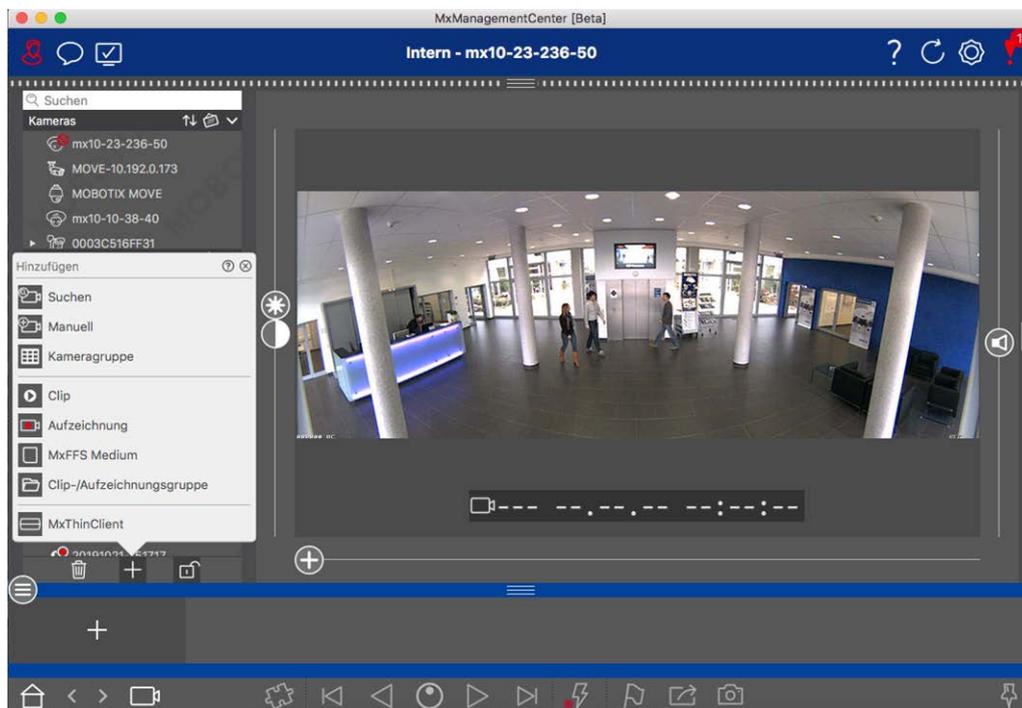


図. 33: デバイスとソースの追加

必要なアクションを選択します:

ローカルネットワークにカメラを追加する

ローカル・ネットワーク内のすべてのカメラとドア・ステーションが自動的に検出されます。

1.  をクリックします。ようこそウィザードが開き、ローカル・ネットワークで検出されたすべてのカメラのリストが表示されます。
2. 追加したいカメラを選択します (Macの場合は**CMD**クリック、Windowsの場合は**CTRL**クリックで複数のカメラを選択できます)。
3. ユーザー名とパスワードを指定する。 。複数のカメラを選択した場合、すべてのカメラにこのユーザー名とパスワードが適用されます。
4.  をクリックし、[完了] をクリックします。新しいカメラはすべてデバイス・バーのカメラ・セクションに表示され、すでにカメラのライブ画像を見ることができます。
5. これで個々のカメラのデータが完成しました。カメラ設定ダイアログを開きます。ダイアログボックスを開くには、個々のカメラを右クリックするか、カメラ名の上にマウスポインタを置くと表示される  アイコンをクリックします。カメラ設定ダイアログが開きます (カメラ設定, ページ 131 参照)。
6. カメラ設定ダイアログでカメラデータを完全に入力したら、ダイアログを閉じます。次に、  をクリックしてデバイスバーの編集モードを解除します。

カメラを手動で追加する

ローカルネットワーク外のカメラ(インターネット上など)は手動で追加する必要があります。

1.  をクリックします。カメラ設定ダイアログが開きます。
2. カメラのアクセスデータを入力します:
名前: カメラ名を入力します。
URL: カメラのIPアドレス。
リモートURL: ローカルネットワーク外からカメラにアクセスするには、カメラの対応する外部アドレス(DynDNS名など)を入力します。リモートオプションも有効にしてください。
ユーザ名、パスワード: カメラのユーザ名とパスワードを入力します。
3. **カメラ設定, ページ 131**の説明に従って、ネットワークデータを完成させ、アラーム通知を設定します。
4. カメラ設定ダイアログのデータを完全に入力したら、ダイアログを閉じます。次に、 をクリックして、デバイスバーの編集モードを解除します。

カメラグループの作成

1. カメラグループを作成するには、 をクリックします。グループ設定ダイアログが開きます。
2. **カメラグループの設定, ページ 75**の説明に従ってデータを入力します。
3. グループ設定ダイアログのデータを完全に入力したら、ダイアログを閉じます。次に、 をクリックしてデバイスバーの編集モードを解除します。

クリップのインポート

MxMC を使ってエクスポートした MxPEG クリップを再生できます。。Load Clipsダイアログが開きます: 必要な MXG ファイルを選択し、Open をクリックします。クリップがデバイスバーのクリップセクションに表示されます。

録音のインポート

この機能により、MOBOTIX カメラによって生成されたストレージパスを追加することができます。

1. **録音**をクリックする。
2. カメラの録画構造が保存されているディレクトリを選択し、**[開く]**をクリックします。

録画はデバイスバーの**クリップ&録画**セクションに表示されます。

MxFFSミディアム

この機能により、MxFFS フォーマットで録画された、USB ポートに接続された MOBOTIX ストレージ・デバイスにアクセスすることができます。

注! MxFFS メディアを読み込むには、管理者権限でMxManagementCenter を起動する必要があります (「[MOBOTIX ストレージ・デバイスの統合, ページ 237](#)」を参照)。管理者権限がない場合、記憶媒体は認識されません。

1. **MxFFS Medium**をクリックする。
2. 目的のディレクトリを選択し、「開く」をクリックする。

MxFFS形式の録画はデバイス・バーの**クリップと録画**セクションに表示されます。

クリップの作成

クリップや録画はグループにまとめることができます。

1. **クリップ / 録画グループの作成**をクリックします。
2. グループ名を指定する。
3. 必要なクリップや録音をグループに移動します。

MxThinClientsの接続

ここで MxThinClient の設定を編集します。MxThinClient は、MOBOTIX カメラのライブ画像を HDMI 接続のモニターまたはテレビに表示するためのコンパクトなソリューションです。

Name

ここに MxThinClient の名前を入力します。

URL

ThinClientのURLまたはIPアドレスを入力します。

ユーザ名

ここに MxThinClient ユーザのユーザ名を入力します。

パスワード

ThinClientユーザのパスワードをここに入力します。

表示解像度

MxThinClientのモニターに表示するカメラ画像の解像度を選択します。

カメラ表示

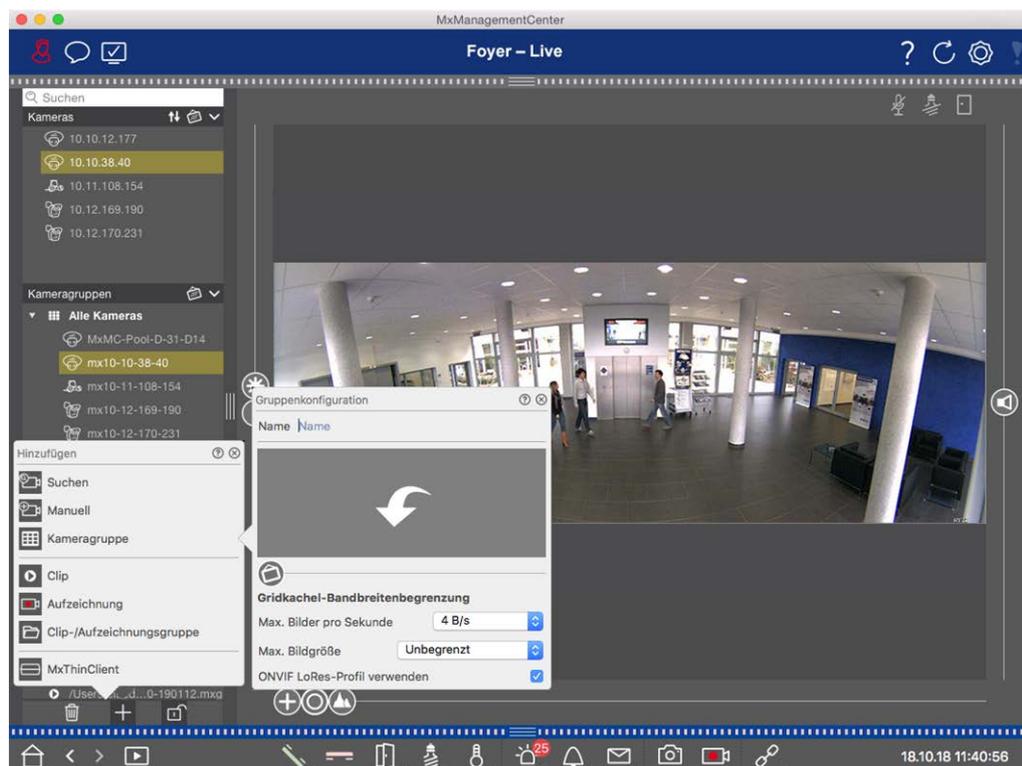
ここで、割り当てられたカメラ画像をThinClientのモニターに表示する時間を選択します。選択した時間が経過すると、ThinClientは設定した内容(シーケンス、静止画像など)を表示します。

MxThinClients は、コンポーネント・ビュー(「[コンポーネント・ビュー, ページ 35](#)」を参照)からも追加できます。

カメラグループの設定

個々のカメラをカメラ・グループにまとめることができます。例えば、同じフロアにあるすべてのカメラを1つのグループにまとめることができます。これにより、監視エリア全体を一目で確認でき、アラームが発生した場合は、関連するカメラにすばやくアクセスできます。

カメラグループの作成



図。34: カメラグループの作成

1. バーの下部にある  をクリックして、デバイスバーの編集モードを開きます。次に、  をクリックします。Add and Importダイアログが開きます。
2.  をクリックする。グループ設定ダイアログが開きます。
3. グループ名を入力し、必要であれば、後でグループバーでグループを表すために使用される画像またはアイコンを追加します。そのためには、グレーのフィールドをクリックし、事前定義されたアイコンのいずれかを選択します。独自の画像を使用したい場合は、「カスタム」をクリックしてください。
4. 背景画像を追加します:  の位置に達するまで、スライダー  を右に動かします。グレーのフィールドの矢印をクリックし、背景画像のファイルを選択します(例えば、平面図など)。
5. カメラ・グループに情報ページを追加して、このカメラ・グループの特別な説明を表示できます。  の位置に達するまで、スライダー  を右に動かします。グレーのフィールドの矢印をクリックして、使用するファイルを選択します。

6. **グリッド・タイルの帯域幅制限**: グリッド表示に非常に多くのカメラを表示すると、パフォーマンスが低下することがあります。これを避けるために、グリッド・フレーム内のライブ画像のフレーム・レートを制限できます。この制限は、フォーカス・ウィンドウに表示されているカメラには適用されません。

UseONVIF-S/G LoRes Profile: このチェックボックスを使用して、MOBOTIX MOVE カメラおよびONVIF-S/G 互換インターフェースを提供する他社製カメラのフレームレートを制限します。このチェックボックスをオンにすると、これらのカメラの LoRes プロファイルとして [帯域幅設定] でキャプチャされたタイルのライブ画像の設定が使用されます。

7. ダイアログ内のデータを完全に入力したら、ダイアログを閉じます。次に、 をクリックしてデバイスバーの編集モードを解除します。

カメラグループへのカメラの追加

カメラを追加し、カメラグループを作成したら、カメラを適切なグループに割り当てます。

1. バーの一番下にある をクリックして、デバイスバーの編集モードを開きます。
2. 対応するカメラを目的のグループにドラッグ・アンド・ドロップします。
3. カメラを希望のグループに割り当てたら、 をクリックして編集モードを解除します。

グループビューのレイアウト設定

カメラ・グループの表示と操作には、グリッド表示(ラスタ形式で任意の基準でカメラをグループ化)とグラフィック表示(グラフィック背景上のカメラの現実的な配置)の2つの表示があります。各カメラ・グループには、グリッド表示でグリッド・レイアウトを定義し、グラフィック表示で背景画像(建物の平面図など)上にカメラを配置するオプションがあります。

注!

グループを作成し、まだカメラを追加していない場合、アプリケーションはグループとデバイスバーにアイコン  を表示します。

グリッド表示のレイアウト設定

カメラグループを作成して最初にグリッド表示を開くと、グループに属するカメラはデフォルトで以下のグリッドレイアウトで表示されます:

- カメラ画像のアスペクト比は4:3。
- グリッド表示はオートグリッドモードです。自動グリッド・モードでは、MxMC は、指定されたカメラ画像フォーマット、フォーカス・ウィンドウのサイズ、およびカメラの台数に応じて、使用可能なスペースを可能な限り分散しようと常に試みます。ウィンドウのサイズを変更すると、グリッド・レイアウトは自動的に適応します。
- フォーカス・ボックスには、グループ上部のデバイス・バーにあるカメラが表示されます。
- フォーカスウィンドウのサイズはカメラ画像の2倍。

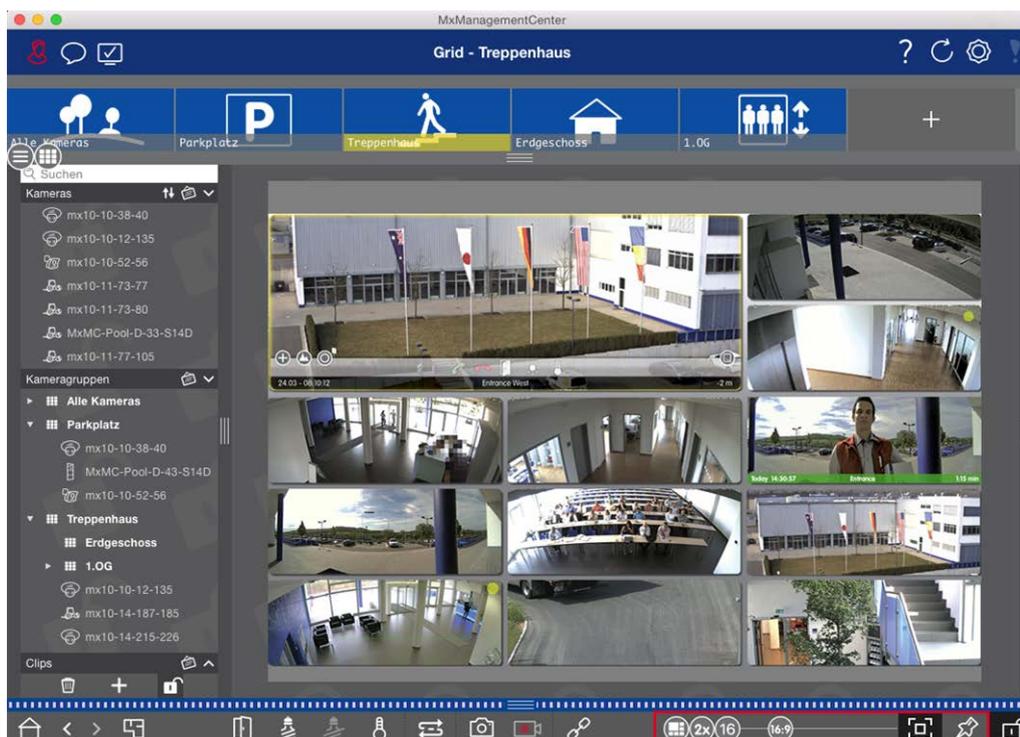


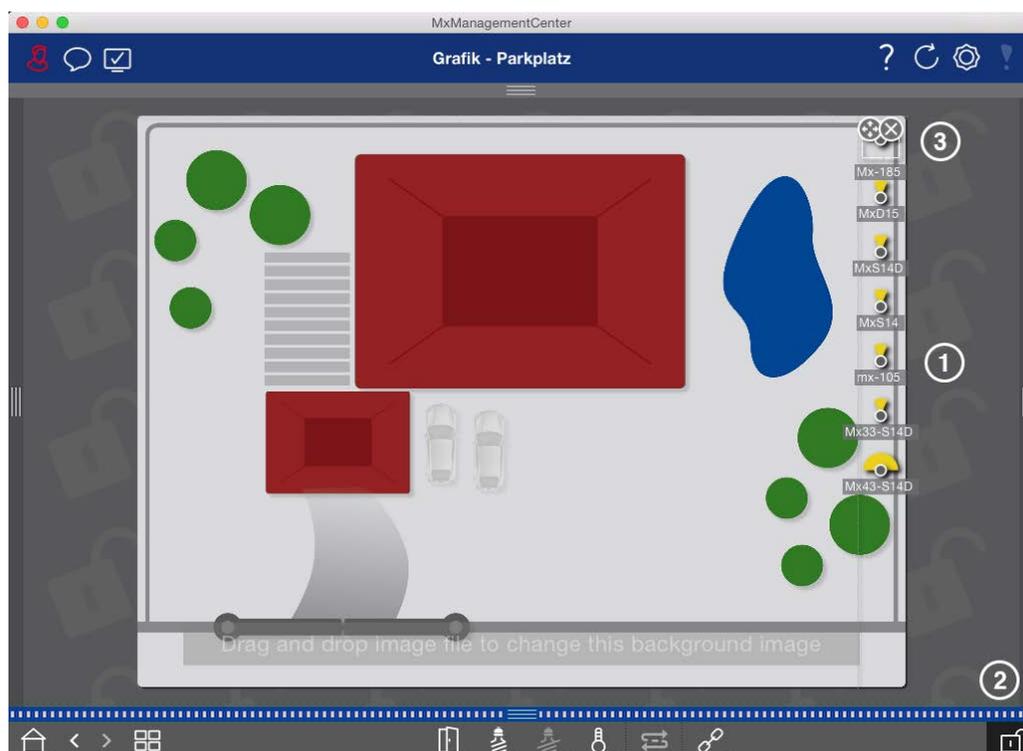
図. 35: グリッド・ビューのレイアウト設定

- カメラ画像の形式やフォーカス・ウィンドウのサイズを変更するには、コマンド・バーの  をクリックして編集モードを開きます。バーの下部には、グリッド・レイアウトを調整するための以下のスライダーが表示されます:
 -  = カメラ画像とフォーカス・ウィンドウのフォーマット (4:3、16:9、8:3)
 -  = フォーカス・ウィンドウのサイズ(カメラ画像の1倍、2倍、...、8倍)
 -  = カメラの最大台数
- スライダーを希望の設定に動かす。編集モードを閉じるには、  をクリックします。

こちらをご覧ください: [グループの見解](#), ページ 110

グラフィックビューレイアウトの設定

カメラグループの作成後、初めてグラフィック表示を開くと、そのグループ内のすべてのカメラが、以前に定義した背景画像の右端にカメラアイコン() とともに表示されます。



図。36: グラフビューレイアウトの設定

1. 背景画像上の実際の位置に合わせてカメラを配置するには、 をクリックして編集モードを開きます。
2. カメラアイコンの上にマウスポインタを移動します。つのアイコンが表示されます。
3.  をクリックし、カメラアイコンを希望の場所にドラッグします。
4.  をクリックして変更を保存する。

こちらをご覧ください: [グループの見解](#), ページ 110

ユーザーの追加

カメラの追加とグループ分けが完了したら、ユーザを設定します。一般ユーザ、管理者、監督者など、特定のアクセス権と設定権を持つ異なるユーザタイプ [ユーザータイプ](#), ページ 154) を定義できます。タイムスケジュールに基づいて、アクセス権を定義します。

注意! 管理者はすべての権限を持つ。

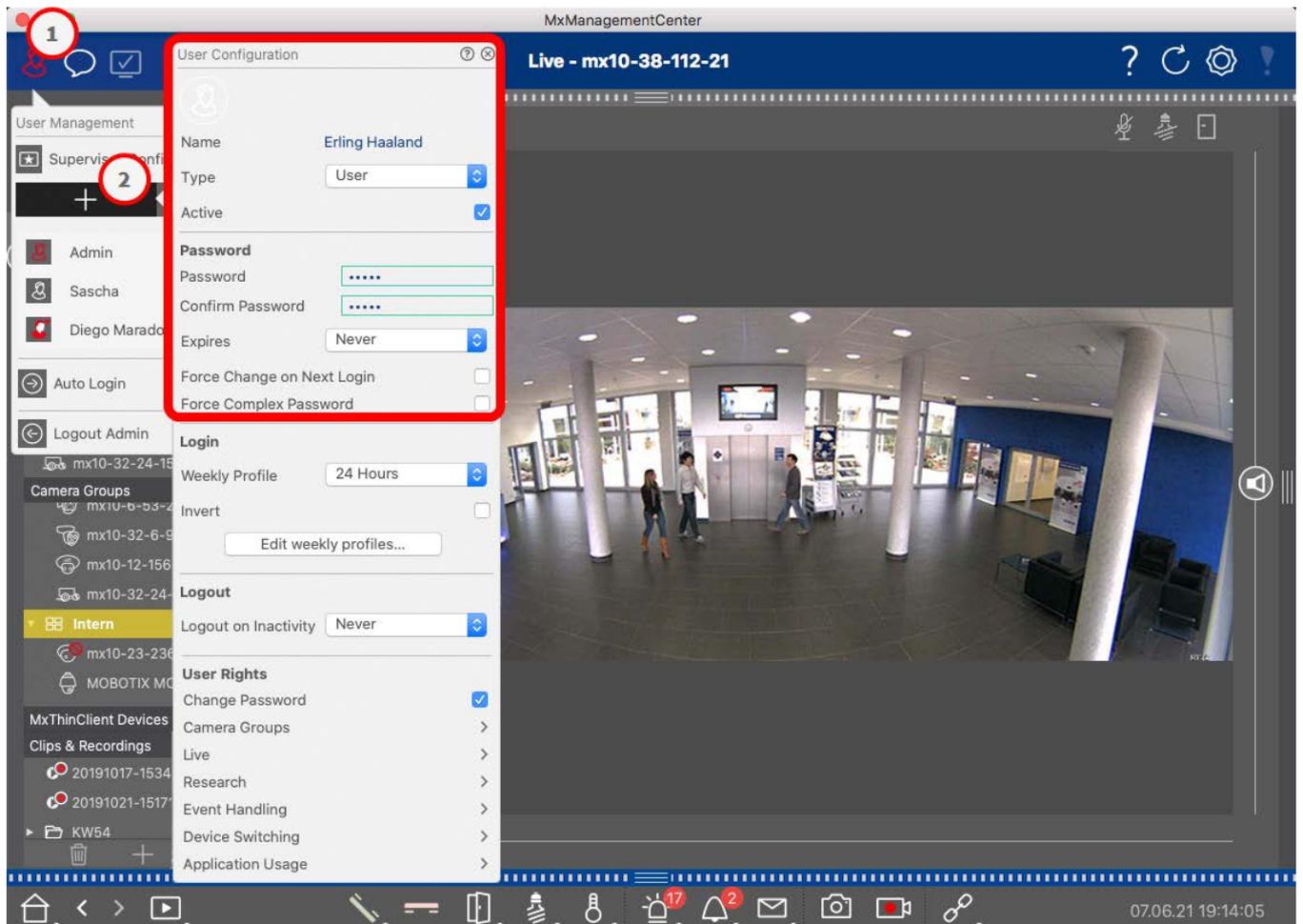


図. 37: ユーザー設定

ユーザーは、**ユーザー管理**セクションで管理することができます。**ユーザー管理**セクションを開くには、ヘッダーバーの  ① をクリックしてください。

以下の手順は、デフォルト設定でユーザーを素早く追加する方法を示しています。詳細については**ユーザー管理**、[ページ 146](#)。

ユーザーの追加

ユーザーを追加するには、**ユーザー管理**を開き、**追加アイコン**  ② をクリックします。

ユーザー基本設定

1. 対応するユーザー名を入力します。
2. ユーザータイプを選択します:**ユーザー**、**管理者**、または**監督者**。

注! ユーザータイプはデフォルトで**User**に設定されています。

3. ユーザーがロックインできるようにするには、**Active**オプションをチェックします。

パスワード

1. パスワードを入力し、確認する。
2. 強制複雑パスワードオプションは、ユーザーが強力なパスワードのみを設定できるようにします。

強力なパスワードの条件

- 少なくとも8文字
- 小文字と大文字を含む
- 数字を含む
- 少なくとも1つの特殊文字を含む! @ #?]
- このユーザーアカウントで使用された最後の13個のパスワードのうちの1つであってはならない。

注! 条件を満たさないパスワードを設定しようとすると、テキストフィールドの周りに赤枠が表示されます。

その他の設定はユーザータイプによって異なります。詳しくは[ユーザー管理](#), ページ 146

カメラの基本設定

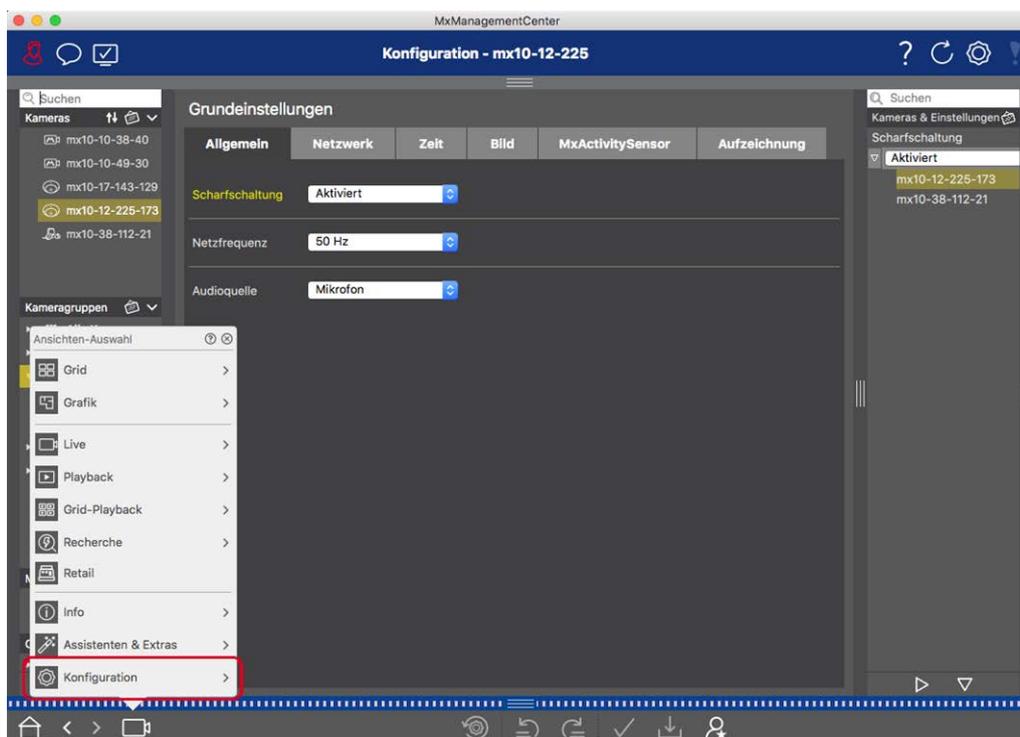
MxMC では、カメラで直接設定を調整できます。設定オプションの一部は、緑の**基本設定**タイルの下の設定ビューにまとめられています。この領域には、試運転に重要または必要なすべてのトピックが含まれます。高度な機能」とは異なり、カメラの基本設定はライセンスを必要としないため、いつでも使用できます。

注! MOBOTIX MOVE カメラおよび準拠のインターフェイスを提供する他社製カメラは、を使用して設定できません。カメラの機能の違いについては、「[ONVIF-S/G MxMCカメラ機能の概要](#), ページ 11」を参照してください。

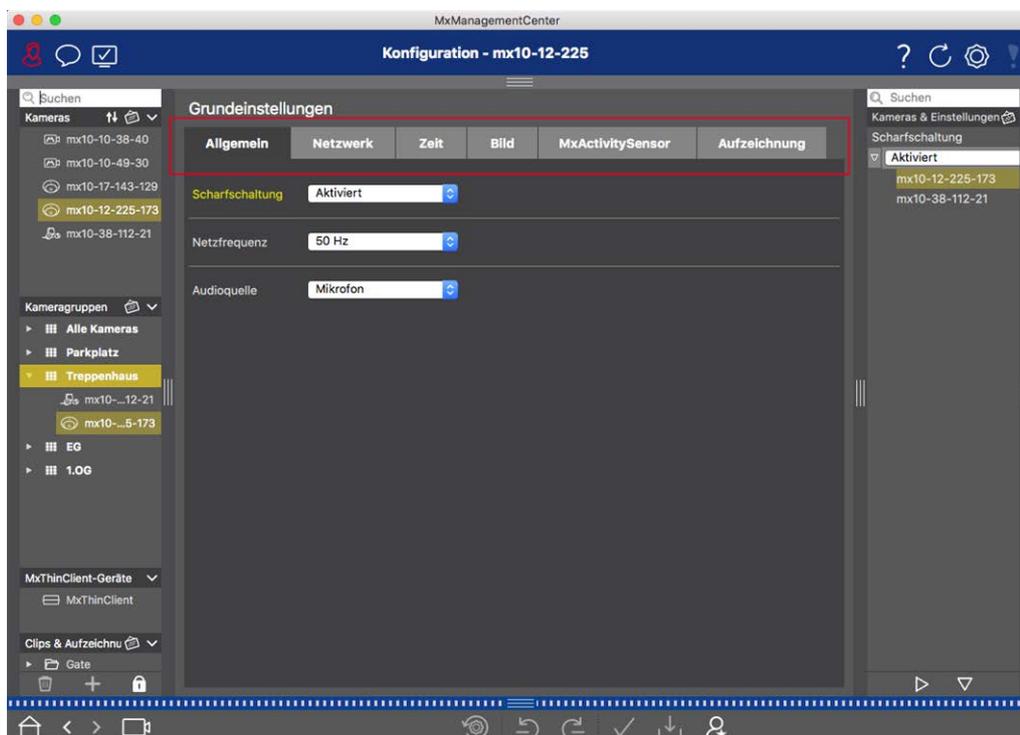
基本設定を開く

1. コマンドバーのナビゲーションキーを右クリックして、Configurationビューを開きます。Configurationビューを選択します。

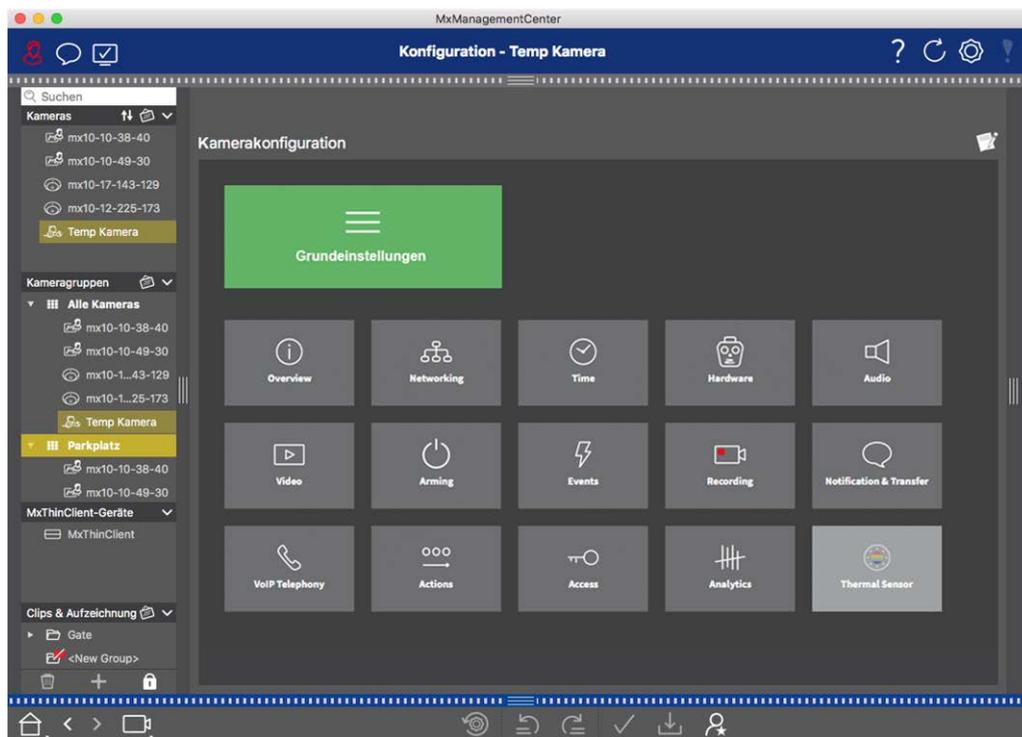
注! このビューを開くと、常にカメラグループの設定がロードされます。



2. 高度な機能」を使用するライセンスを購入していない場合、デフォルトで「基本設定」セクションが開きます。

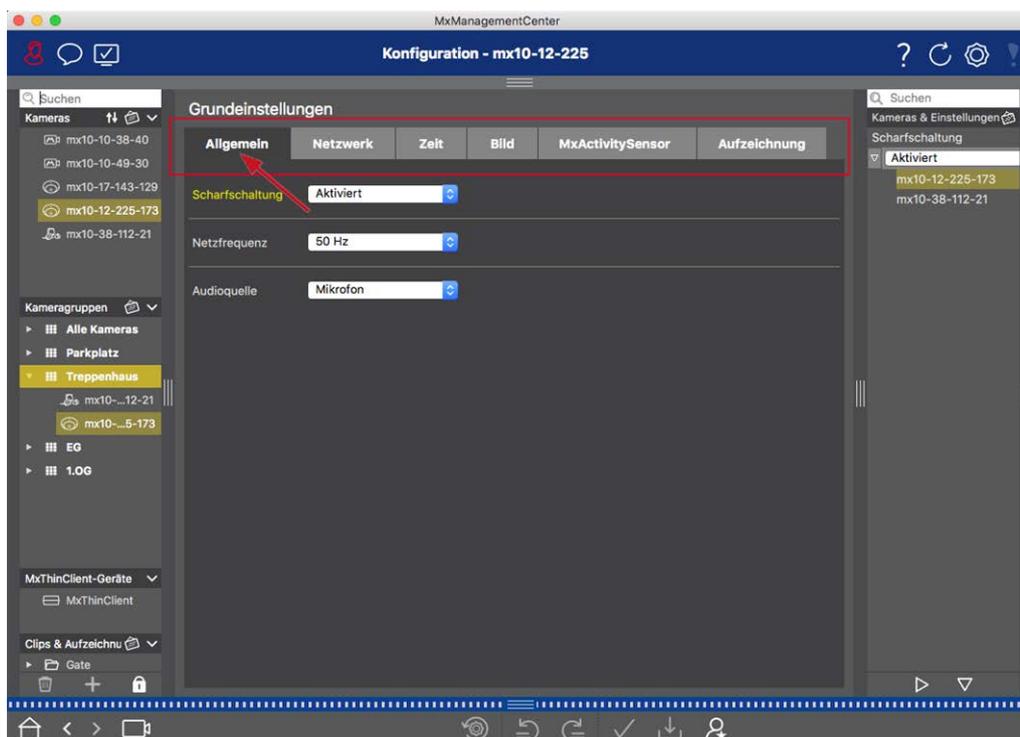


3. 高度な機能」ライセンスを購入した場合、設定ビューの入力ページが開きます。基本設定タイルをクリックします。



基本設定の構成

1. それぞれのタブをクリックすると、対応するトピックエリアが開きます。
2. 設定の編集に関するより詳細な情報は、以下の表に記載されています。表の該当するトピックエリアをクリックすると、基本設定の各トピックエリアの情報ページが開きます。



デフォルト設定

関連パラメータ

カメラの基本設定 一般設定, ページ 85

アラーム、電源周波数、オーディオソース

カメラの基本設定 ネットワーク, ページ 95

内部ホスト名、BOOTP/DHCP、セカンドIPアドレス

カメラの基本設定 時間, ページ 87

タイムサーバーを使用して自動的に同期する。

カメラの基本設定 画像設定, ページ 89

画像サイズ、JPEG画質、カメラ選択、表示モード、インストール、露光ウィンドウ、露光プログラム、最大露光時間

カメラの基本設定 MxActivitySensor, ページ 94

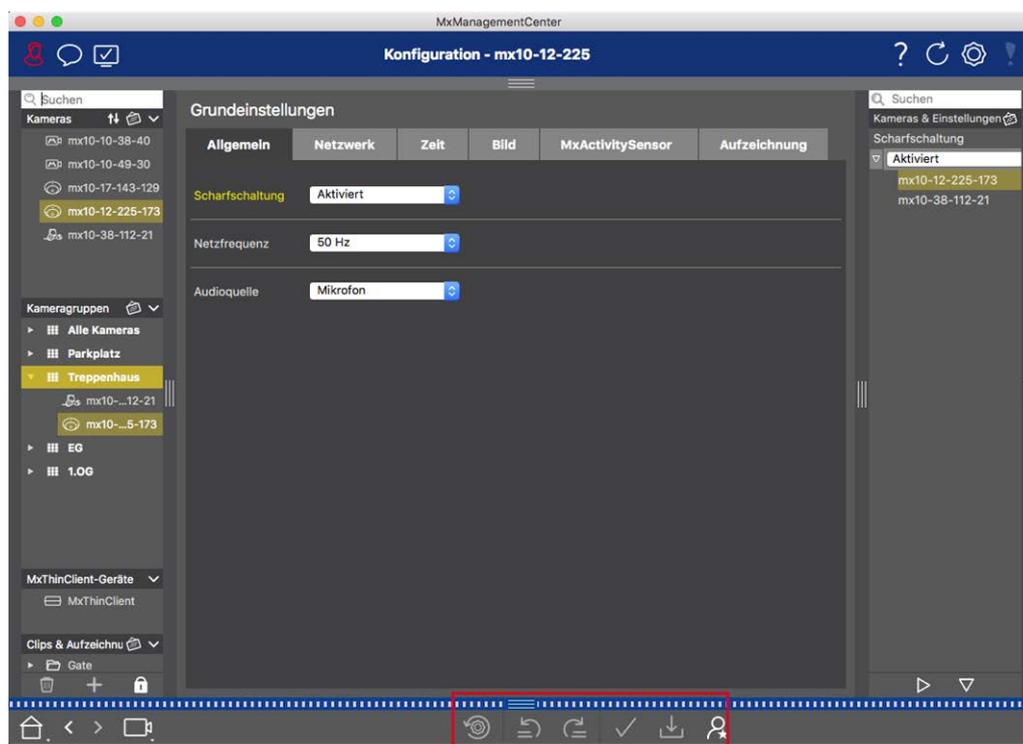
アクティブ、プロファイル名、イベントデッドタイム、検出エリアの編集

カメラの基本設定 録画, ページ 92

アーミング、録画モード

変更した設定の適用と保存

コンフィギュレーション・ビューの下部にあるコントロールは、変更した設定を恒久的に保存したり、パラメータ値を工場出荷時の設定にリセットするなどのアクションを実行するために使用できます。



変更の適用

通常、[設定]ビューでの変更は、新しい値を入力または選択した時点で有効になります。ここで行われた変更は、ネットワーク設定に問題を引き起こす可能性があるため、自動的に採用されません。代わりに、コマンドバーの[変更の適用] ✓ アイコンが赤くなり、変更がまだ有効になっていないことを示します。変更を適用するには、✓ をクリックします。

設定の保存

パラメータ値が変更されると、[設定の保存] アイコン ↓ がコマンドバーで赤くなります。設定の変更は常にカメラに一時的に保存されます。次の再起動後も現在の設定が使用されるように、変更は永久に保存する必要があります。

1. **Store Configuration** ↓ をクリックします。プログラムはシステムプロンプトを開く。プロンプトで「Store」をクリックします。
2. 変更を保持したくない場合は、Discardをクリックします。これにより変更が破棄され、最後に永久保存された全体設定が復元されます。

工場出荷時設定へのリセット

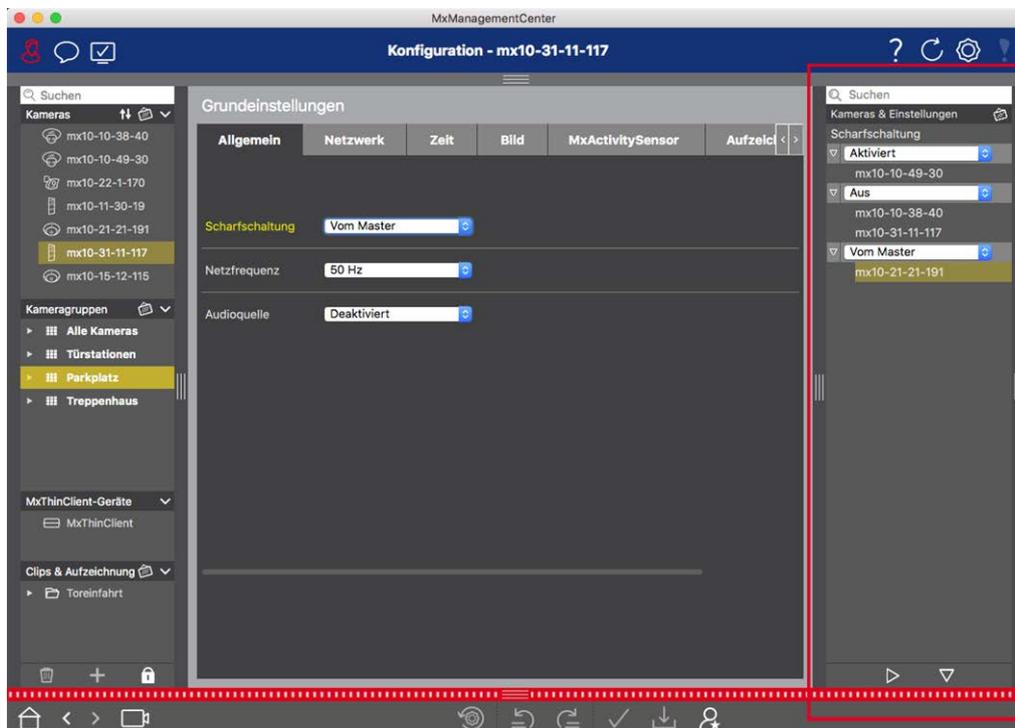
開いているタブのパラメータ値を工場出荷時の設定にリセットすることができます。🔄。

変更の取り消しまたは繰り返し

直近の変更を取り消すには、↶ をクリックします。最後の変更を繰り返すには、↷ をクリックしてください。

設定バーで複数のカメラのパラメータ値を変更する

右側の設定バーでは、カメラやカメラグループを変更することなく、グループ内の複数のカメラの設定を変更できます。



カメラの値を変更する

1. コンフィギュレーションバーがまだ開いていない場合は、アプリケーションの右余白をクリックして開きます。
2. 基本設定]の目的のパラメータ名をクリックします。黄色に変わり、設定バーにこのグループのこのパラメータに関連するすべての値が表示されます。この値が設定されているカメラは、個々の値に割り当てられます。
3. 目的のカメラをハイライトし、設定したいパラメータ値の上にドラッグします。ドラッグ先の領域が黄色に変わります。

複数のカメラの値を変更する

複数のカメラに同じ値が設定されていて、この値を変更したい場合は、設定バーのパラメータ選択フィールドをクリックします。その後、同じように設定されたカメラのパラメータ値を一度に変更します。

カメラの基本設定 一般設定

カメラの操作に関する一般的なトピックは、一般設定にあります。

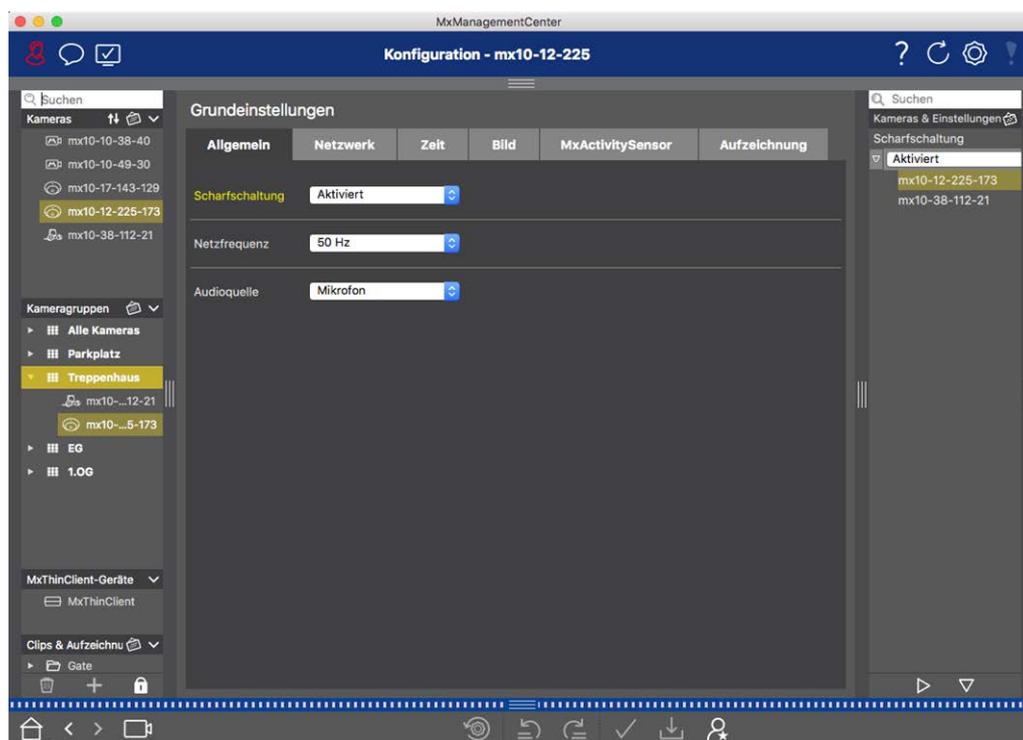


図. 38: カメラの設定一般設定

動作待機

イベントを処理し、アクションや通知を実行し、画像や音声データを記録するには、メインのアーミング機能を起動する必要があります。

パラメータ 説明

有効 カメラは常に武装している。

オフ カメラの電源が入っていない: 画像の保存、アクション、メッセージがない。

CS アーミングは、カメラで事前に設定する必要があるカスタム信号によって制御されます。カメラはカスタム信号を使用して、例えば、信号入力をアーミングのメインスイッチとして使用できます。

マスターよ
り マスター・カメラが待機しているときのみ、カメラは待機します。

こちらも
参照のこ
と:

- [レコーディング](#)
- [MxActivitySensor](#)

電源周波数

カメラの露光制御が電源の周波数に合っていない場合、人工照明の光源が画像の干渉につながる可能性があります。このパラメータでは、各国の電源周波数に合わせてカメラを設定し、干渉を防止します。

パラメータ	説明
人工照明なし	カメラを(人工照明ではなく)日照条件で使用する場合は、「人工照明なし」設定を使用することもできます。
50 Hz	ヨーロッパの工場出荷時の設定は50Hzです。
60 Hz	カナダ、米国、日本では電源周波数を60Hzに設定してください。

オーディオ・ソース

希望のオーディオソースを選択します。カメラのマイクを使用するだけでなく、外部音声ソースを統合することも可能です。音声ソースは、双方向通信や音声データの録音などに使用します。

カメラの基本設定時間

日付と時刻は、手動で設定することも、コンピュータから採用することも、タイムサーバを使用して継続的に同期させることもできます。タイムサーバを使用する場合、インターネット上のタイムサーバ、ローカルネットワーク上のタイムサーバサービス、または別のMOBOTIXカメラを使用して時計を同期させることができます。この場合、カメラのタイムサーバをカメラのウェブUI管理メニューで設定する必要があります(管理メニュー > カメラの管理 > 時間と日付 > カメラをタイムサーバとして使用)。

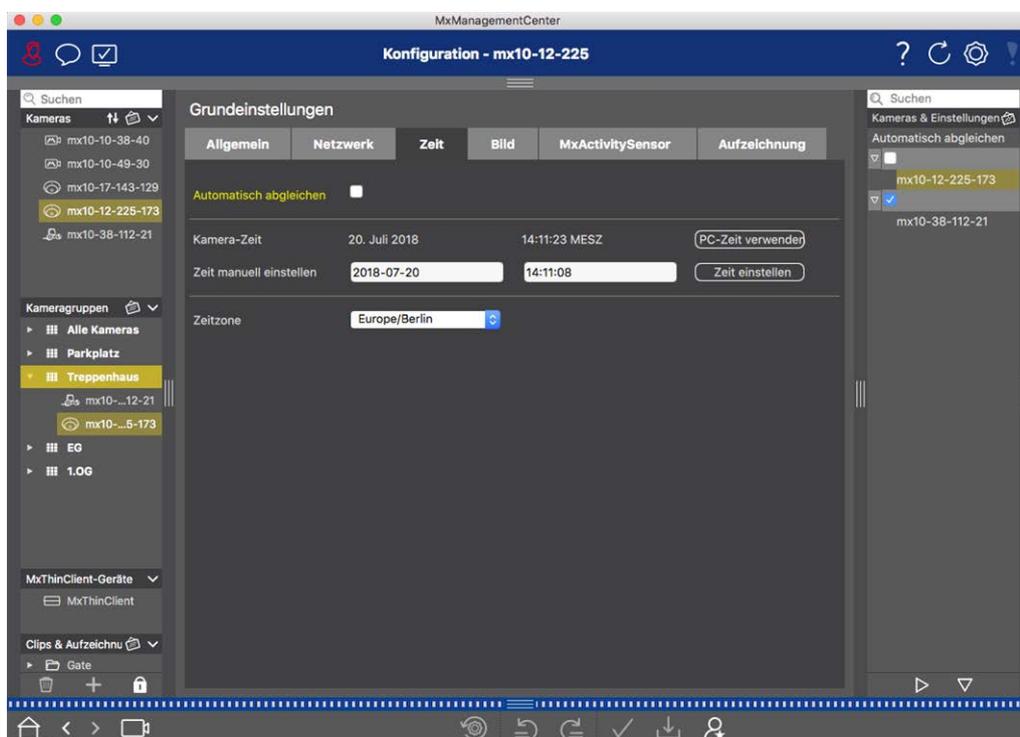


図. 39: カメラの基本設定時間

タイムサーバーを使った自動同期

タイムサーバーを使用したカメラの同期には2つのプロトコルが使用できます：NTPとタイムプロトコルです。

パラメータ	説明
タイムサーバーとタイムサーバーアドレス	<ul style="list-style-type: none">■ NTP: このプロトコルでは、カメラは1つまたは複数のNTPタイムサーバと継続的に同期します。NTPプロトコルを選択した場合、タイムサーバアドレスに最大5つのタイムサーバを入力できます。これらのサーバはRFC 1305で指定されたプロトコルをサポートしている必要があります。タイムサーバアドレスの右側にある緑の点は、タイムサーバにアクセス可能で、NTPサービスを提供していることを示します。カメラがタイムサーバに接続し、ドットが緑色になるまでしばらく時間がかかります。■ 時間プロトコル: このプロトコルでは、カメラは6時間ごと(および再起動時)に同期します。タイムプロトコル(RFC 868)を選択した場合、タイムサーバのアドレスをこのボックスに入力します。サーバはRFC 868で指定されたプロトコルをサポートしている必要があります。
現在時刻	現在のカメラの表示時間
タイムゾーン	カメラの設置場所に適したタイムゾーンを選択します。

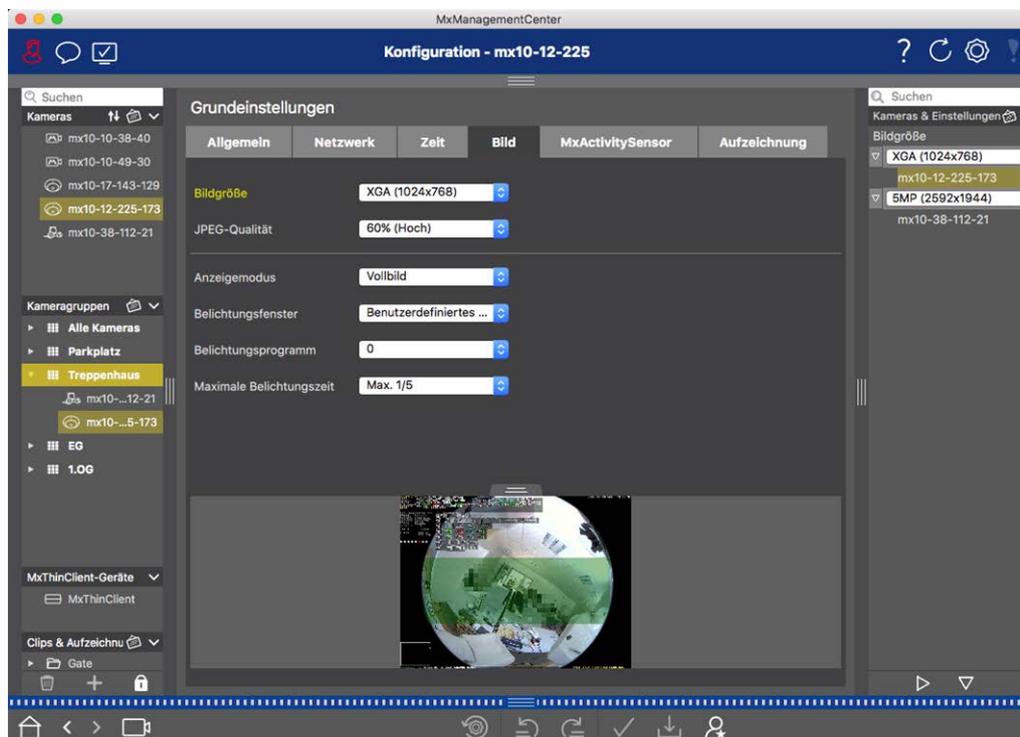
自動調整しない

日付と時刻が自動的に設定されている場合、またはコンピュータから採用されている場合は、自動同期を解除します。

パラメータ	説明
現在時刻	現在のカメラの時刻を表示 カメラの時刻がコンピュータの時刻と異なる場合は、「 PCの時刻を使用 」をクリックしてコンピュータの時刻を採用します。
手動で時間を設定する	手動で日付と時刻を設定するために必要なデータをキャプチャし、 Set time をクリックして入力を確定する。
タイムゾーン	カメラの設置場所に適したタイムゾーンを選択します。

カメラの基本設定 画像設定

カメラのライブ画像を表示するには、このタブでカメラ・ビュー、画像および露出を設定し、ライブ画像で直接カスタム露出ウィンドウを作成および編集できます。



図。40: 画像設定

JPEG画質

JPEG画質は画質だけでなく、カメラが生成するJPEGファイルとMxPEGファイルのファイルサイズにも影響します。圧縮率を60% (デフォルト) にすると、通常、ほとんどの用途に適した高品質の画像が得られます。この値が20%より低いと、画像内にピクセレーションが見られます。70%より高い値では、非圧縮のオリジナル画像との違いはほとんど見えません。ただし、ファイルサイズは100kB以上 (640x480ピクセルの画像の場合) に増加する可能性があります。

カメラ選択

デュアルカメラでは、画像表示時に使用する画像センサを選択します: 右画像センサ、左画像センサ、両方の画像センサ、またはデナイト自動切り替え。両方のセンサーの画像設定を行う場合は、まずライブ画像プレビュー・ウィンドウの左または右のチェックボックスを使用して設定するセンサーを選択し、必要な設定を入力します。

表示モード

カメラの機種によって、さまざまな表示モードがあります。

半球型以外のすべてのカメラ

- **フル画像**:カメラのライブ画像全体が表示されます。
- **レンズ補正**:このオプションは、カメラのライブ画像の一部を表示します(レンズ補正あり)。このオプションはL22レンズでのみ使用できます。
- **ピクチャー・イン・ピクチャー**:このオプションは、一方のカメラ・センサーの小さな画像を、もう一方のカメラ・センサーの大きな画像に挿入して表示します。この設定は、MOBOTIX デュアルモデルでのみ利用可能です。
- **ピクチャ・イン・ズーム**:このオプションでは、大きなライブ・カメラ画像の右下隅にライブ・カメラ画像全体の小さなバージョンが表示されます。これにより、ライブ画像をズームしても、画像全体が表示されます。
- **イベント・イン・ピクチャ**:このオプションでは、大きなライブカメラ画像の右下隅に最新のイベント画像の小さなバージョンが表示されます。

半球モデル

- **フル画像**:イメージセンサーの全体(歪んだ)フル画像が表示されます。
- **ノーマル**:補正された画像が表示されます。この画像はパンやチルトが可能です。これは半球カメラの工場出荷時の設定です。
- **サラウンド**:このオプションは、4つの画像セクション(各基線方向:N、E、S、W)を1つのジョイントビューに表示します。PTZアクションを使用して、4つのビューを互いに独立して変更できます。
- **パノラマ**:このオプションは、左の壁から右の壁まで、部屋全体の歪み補正された画像(補正された180°パノラマビュー)を表示します。アスペクト比(幅と高さの比率)は8:3です。
- **パノラマフォーカス**:この表示モードは、パノラマビュー(アスペクト比8:3)と2つの小さな画像(それぞれアスペクト比4:3)を1つの大きな画像に合成します。
- **ダブルパノラマ**:このモードでは、画像の北半分をパノラマ表示し、画像の南半分をアスペクト比(幅と高さ)4:3で表示します。このビューが意味を持つのは、天井に取り付けられたMOBOTIX Hemispheric モデルのみです。両方のパーシャルビュー(北と南)は、PTZコマンドを使用して互いに独立して変更できます。

インストール

MOBOTIX Hemisphericカメラの設置位置は、壁、天井、床のいずれかに設定できます。取付位置は、2つのアクティブ・イメージ・センサを持つカメラの左右のレンズに対して別々に設定します。

露出ウィンドウ

ライブカメラ画像の適正な露出 / 明るさを確保するために設定されます。

カスタム

カスタム露光ウィンドウの作成と編集**カスタム**オプションを選択し、ライブ画像プレビューでウィンドウをクリックします。

アクション	説明
露光ウィンドウの作成	マウスポインタを使ってウィンドウを描く。
露光ウィンドウの移動	露光ウィンドウを左クリックし、希望の位置に移動させる。
露光ウィンドウの変更	 のアイコンが表示されるまで、白い "ハンドル" の上にマウスポインタを移動させる。マウスを左クリックし、ウィンドウをドラッグして大きくしたり小さくしたりします。
露光ウィンドウの削除	 をクリックする。
露出測光からエリアを除外する	露出測光から除外する位置に、適切なサイズのウィンドウを引き出します。ウィンドウ内をクリックし、2つのアイコンが表示されるまでマウスボタンを押したままにします。  をクリックして除外ウィンドウを決定します。ウィンドウが赤くなります。

可視画像領域

この設定により、現在表示されている画像セクションを露光ウィンドウとして使用することができます。

定義済み

あらかじめ定義された多数の露光ウィンドウを使用できます: 対応するウィンドウを選択すると、ライブ画像に表示されます。定義済みの露光ウィンドウは、常に全画像領域、つまりセンサーの画像全体に適用されます。

1. **画像全体**: 画像全体。
2. **Quarter(クォーター)**: 画像中央の露光窓で、表示可能な画像領域の4分の1をカバーする。
3. **中央**: 画像中央に1つの露光ウィンドウ。
4. **スポット**: 画像中心に1つの小さな露光ウィンドウ。
5. **Top**: 画像上部にある1つの水平露光ウィンドウ。
6. **中央**: 画像中央に1つの水平露光ウィンドウ。
7. **底面**: 画像下部の1つの水平露光ウィンドウ。
8. **右**: 画像の右端にある1つの垂直露光ウィンドウ。
9. **垂直**: 画像中央に1つの垂直露光ウィンドウ。
10. **左**: 画像の左端にある1つの垂直露光ウィンドウ。
11. **右と左**: 画像の左右にある2つの垂直露光ウィンドウ。

露出プログラム

これらのパラメータは、可能な限り短い露光時間と、可能な限り小さいハードウェア絞りのバランスに影響します。目的は、動体の鮮明な画像(短い露光時間、高増幅)とできるだけ少ない画像ノイズ(長い露光時間、

低増幅) の間の公正な妥協点に到達することです。

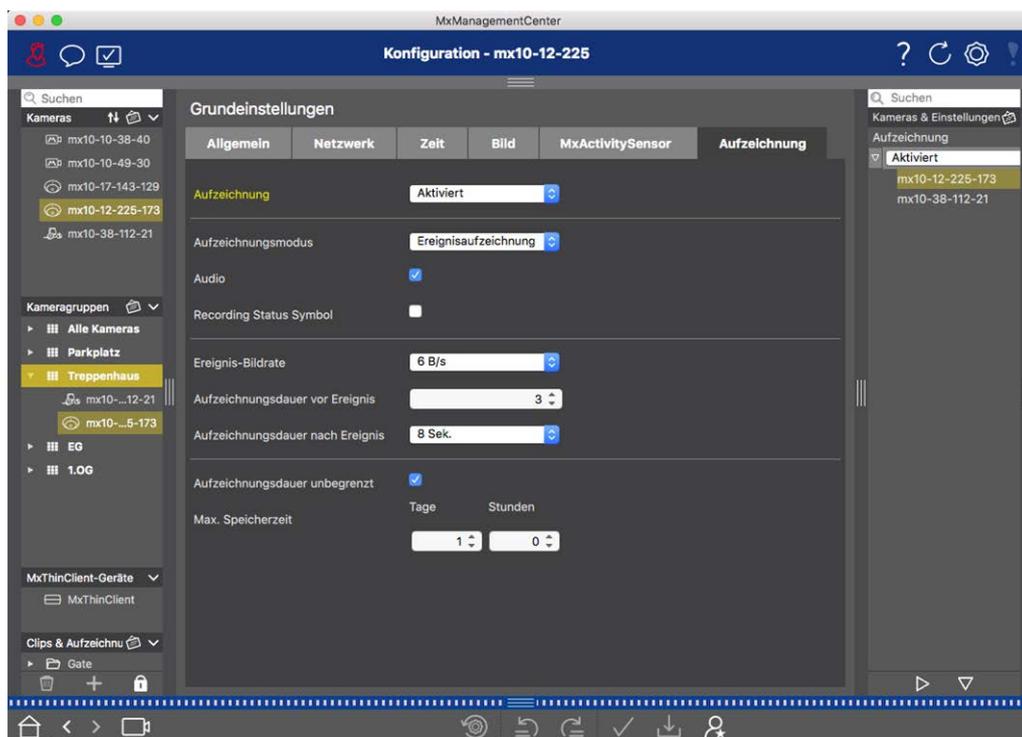
- 0: デフォルトのプログラム
- 否定的: このプログラムは、動きのブレを減らすために露光時間を短くする。
- ポジティブ: 非常に明るい環境での露光に影響はない。

最大露光時間

このパラメータは、カメラが使用する最長露光時間を決定します。この設定により、照明条件の低下による動体ブレを回避したり、特に許容したりすることができます。モーションブラーリングを避けたい場合は、最長の露光時間を短くしてください。光量が少ない状況でも良好な露出(動体ブレあり)の画像を生成したい場合は、最大露光時間を長くすることができます(最大1/1 = 1秒など)。

カメラの基本設定録画

このタブでは、録画モードの選択や録画速度の設定など、最も重要な録画設定を行うことができます。



アーミング: イベント制御のアーミング機能はカメラの録画を処理します。ただし、最初に録画を行うには、**カメラのメイン・アーミング**を起動する必要があります。

パラメータ 説明

オフ

それ以降のパラメータは表示されません。

有効

カメラの録画機能が有効になります(初期設定)。

CS

録画はカスタム信号(CS)によって起動される。

マスターより カメラの録画機能は、マスター・カメラでも録画が有効になっている場合にのみ有効になります。

録画モード: イベントとストーリー画像の録画タイプを選択できます。パラメータの使用可否は選択した録画モードによって異なります。

録音タイプ パラメータ

スナップ

このオプションは、個々のアラーム前後の画像(JPEG画像)を保存しますが、音声はありません。

ショット記録

スナップショット間隔: このオプションは、個々のアラーム前画像とアラーム後画像の間の時間を決定します。ゼロから10分(最大)までの値を設定できます。

アラーム前の画像: イベント前に記録された画像の数。

アラーム後の画像: イベント後に記録された画像の数。

保存期間は無制限: デフォルトでは、保存期間は無制限に設定されています。このオプションを無効にすると、時間や日数で表される**最大保存期間**を選択できます。

保存期間の最大値は、画像やビデオクリップの保存期間を示します。

イベント記録

このオプションは、MxPEGコーデックを使用し、可変フレームレートとオプションのオーディオデータを使用して、イベントごとにクリップファイルを保存します。

音声データを記録する: カメラで利用可能な場合、音声データも記録できます。このオプションを**アクティブ**に設定すると、音声記録が有効になります。

イベントフレームレート: 記録速度(fps)。

イベント前の録画時間: イベント発生前の録画ストリームに含める時間(秒)。

イベント後の録画時間: イベント発生後、録画ストリームに含める時間(秒または分)。

保存期間は無制限: デフォルトでは、保存期間は無制限に設定されています。このオプションを無効にすると、時間や日数で表される**最大保存期間**を選択できます。

保存期間の最大値は、画像やビデオクリップの保存期間を示します。

連続録画

ビデオと(オプションで)オーディオデータをMxPEGクリップとして継続的に保存します。

音声データの記録: イベント録画と同様に、カメラからの音声データはフレームレートに関係なく同じ品質で録画されます。このオプションを**アクティブ**に設定すると、マイクが作動します。

フレームレート: 連続録画時の録画速度。

保存期間は無制限: デフォルトでは、保存期間は無制限に設定されています。このオプションを無効にすると、時間や日数で表される**最大保存期間**を選択できます。

保存期間の最大値は、画像やビデオクリップの保存期間を示します。

カメラの基本設定 MxActivitySensor

MxActivitySensor は、カメラ内部のビデオ動体検出器で、動体検出時に不要な干渉（風に揺れる木など）を遮断しながら、動体検出の方向と対象物のサイズを識別できます。デフォルトで、MOBOTIX カメラには、事前に定義された MxActivitySensor プロファイルが付属しています。

このタブでは、プロファイルの有効化と無効化、プロファイル名の変更、イベントデッドタイムの調整、検出範囲の変更、新しいエリアの定義ができます。

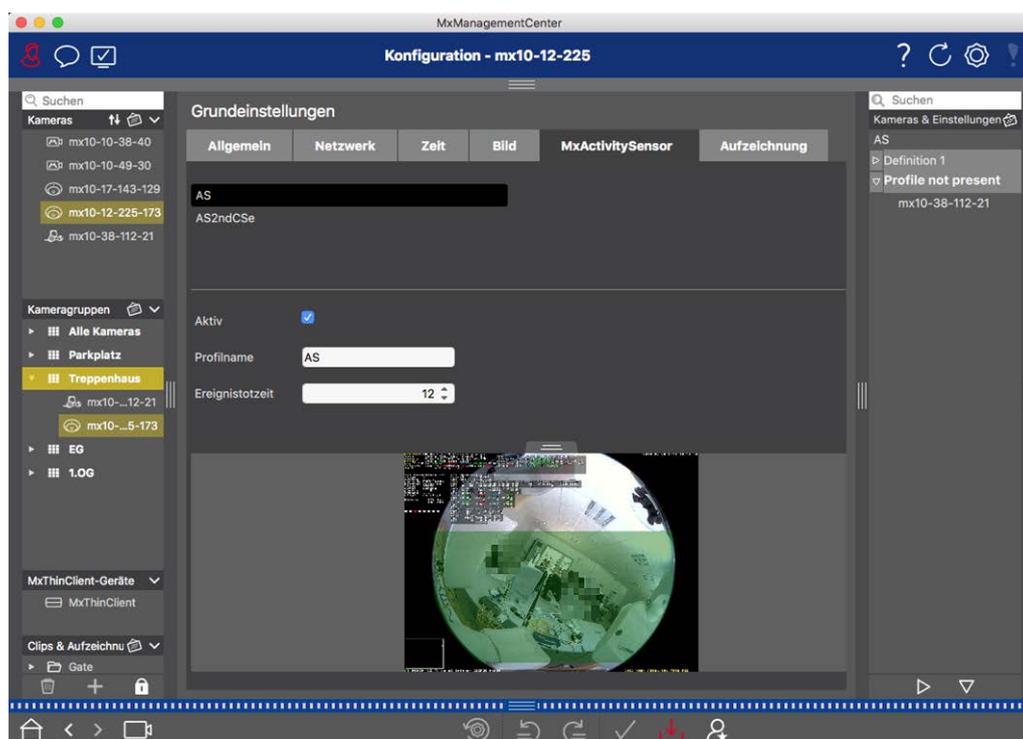


図. 41: MxActivitySensor

アクティブ

MxActivitySensor プロファイルは、一般設定でアラーム機能が有効になっているときにも有効になります。

プロフィール名

プリセットのプロファイル名を変更できます。

イベントのデッドタイム

イベントデッドタイムは、イベント発生後、同じプロファイルからの新しいイベントが検出されない時間（0～3600秒）を定義します。イベント・デッドタイムを定義することで、例えば、複雑な動作（人がアクティブな画像領域内を歩く）が複数のイベントをトリガすることを避けることができます。プリセットのイベント・デッドタイム（5秒）を調整できます。

検出エリアの編集

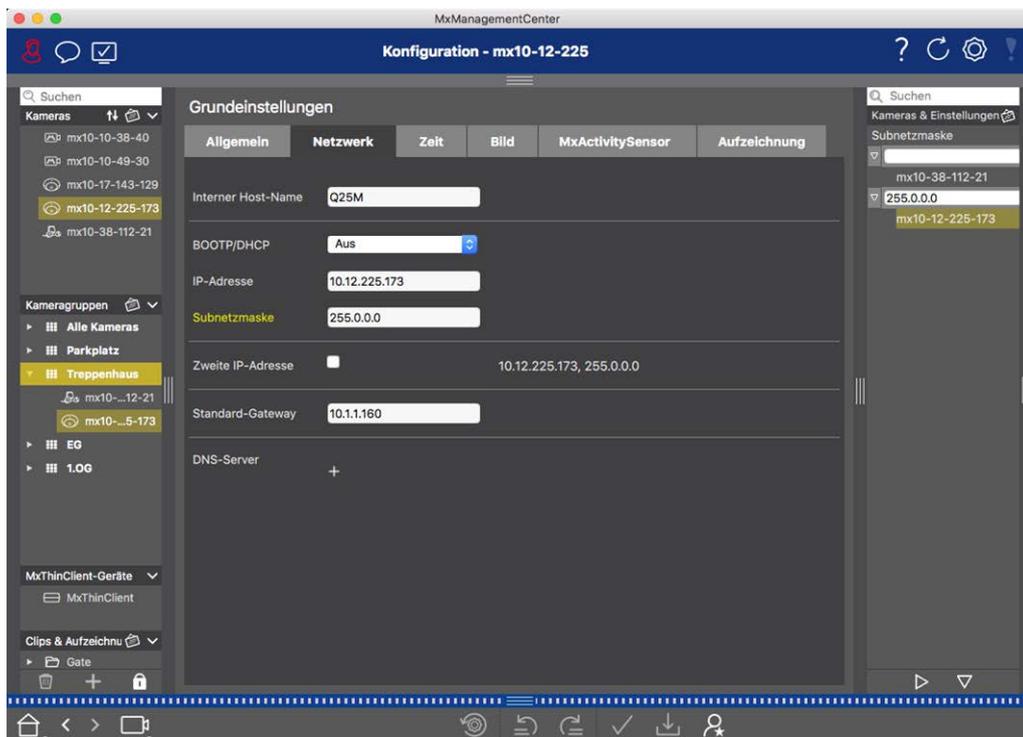
デフォルトの検出領域を調整したり、追加の画像領域を定義するには、以下の手順に従います：

ライブ画像プレビューで緑色の検出エリアをクリックします。

アクション	説明
検出エリアの形状を変更する	 アイコンが表示されるまで、マウスポインタを白い「ハンドル」のいずれかに合わせます。マウスの左ボタンをクリックしたままフレームをドラッグし、検出エリアを大きくしたり小さくしたりします。
検出エリアの移動	検出エリアを左クリックし、希望の位置に移動させる。
検出エリアの回転	 をクリックし、マウスボタンを押したまま、検出エリアを時計回りまたは反時計回りに回転させる。
検出エリアの形状を変更する	 をクリックしてポリゴンモードに切り替えます。角に白いコーナーポイントが表示されます。コーナーポイントをドラッグして好きな位置に移動します。白い線上または検出領域で右クリックすると、新しいコーナーポイントを挿入できます。コーナーポイントを削除するには、点を右クリックします。次に  をクリックします。
検出ウィンドウの削除	 をクリックする。
検出ウィンドウの作成	マウスを使って、まだ他のウィンドウで覆われていない領域に新しいウィンドウを引き出します。
分析から地域を除外する	分析から除外する位置に適切なサイズのウィンドウを開く。ウィンドウ内をクリックし、2つのアイコンが表示されるまでマウスボタンを押したままにする。  をクリックして除外ウィンドウを決定する。ウィンドウが赤くなる。

カメラの基本設定 ネットワーク

ネットワークインターフェースの設定により、カメラが「外部」と通信する方法、およびローカルネットワークの外部からカメラにアクセスする方法が決まります。パラメータ値を変更する場合、設定画面の他のタブのように変更した値が自動的に適用されないことに注意してください。変更を有効にするには、コマンドバーの  をクリックする必要があります。



内部ホスト名

ホスト名は、アクセス可能なネットワーク内の一意のカメラ名です。

BOOTP/DHCP

BOOTP と DHCP は、IP アドレスをネットワークで管理し、自動的に割り当てるためのプロトコルです。カメラはこれらを使用して、ネットワーク設定を自動的に取得できます。

パラメータ **説明**

オフ カメラのネットワーク設定を手動で行います。IPアドレスとサブネットマスクのボックスに適切な情報を入力し、必要に応じて標準ルートまたはゲートウェイとDNSサーバを変更します。

IPアドレス: IPアドレスを使用してネットワーク内のカメラにアクセスできます。どのIPアドレスが使用可能かはネットワーク管理者にお問い合わせください。

サブネットマスク: コンピュータがネットワーク内で通信できるようにするには、IPアドレスに一致するサブネットマスクを入力する必要があります。どのサブネットマスクを使用するかは、ネットワーク管理者が教えてください。

デフォルト・ゲートウェイ:

ゲートウェイは個々のネットワーク間のリレーの役割を果たし、これらのネットワーク間のデータトラフィックを調整します。使用するゲートウェイのIPアドレスを入力します。

DNSサーバー:

ドメインネームサービス(DNS)は、コンピュータ名をIPアドレスに解決します。ネットワーク上にDNSがある場合、DNSサーバーのIPアドレスを3つまで指定できます。これは、他の設定(FTP、電子メール)でIPアドレスの代わりに名前を使用してコンピュータをアドレス指定する場合にのみ必要です。

クライアントルートを、BOOTP/DHCPによって自動的に決定され、設定されます。

アン
ト・
モー
ド

This camera provides DHCP service to clients on the local network. The IP address of the camera will be **192.168.0.19** with subnet mask **255.255.255.0** by default.

Default Gateway:

使用するゲートウェイのIPアドレスを入力。

DNSサーバー:

ドメインネームサービス(DNS)は、コンピュータ名をIPアドレスに解決します。ネットワーク上にDNSがある場合、DNSサーバーのIPアドレスを3つまで指定できます。これは、他の設定(FTP、電子メール)でIPアドレスの代わりに名前を使用してコンピュータをアドレス指定する場合にのみ必要です。

追加IPアドレス

カメラは2つの異なるネットワーク設定を管理できます。このチェックボックスを有効にすると、工場出荷時設定のIPアドレスとサブネットマスクも使用され、カメラは常にアクセス可能な状態になります。

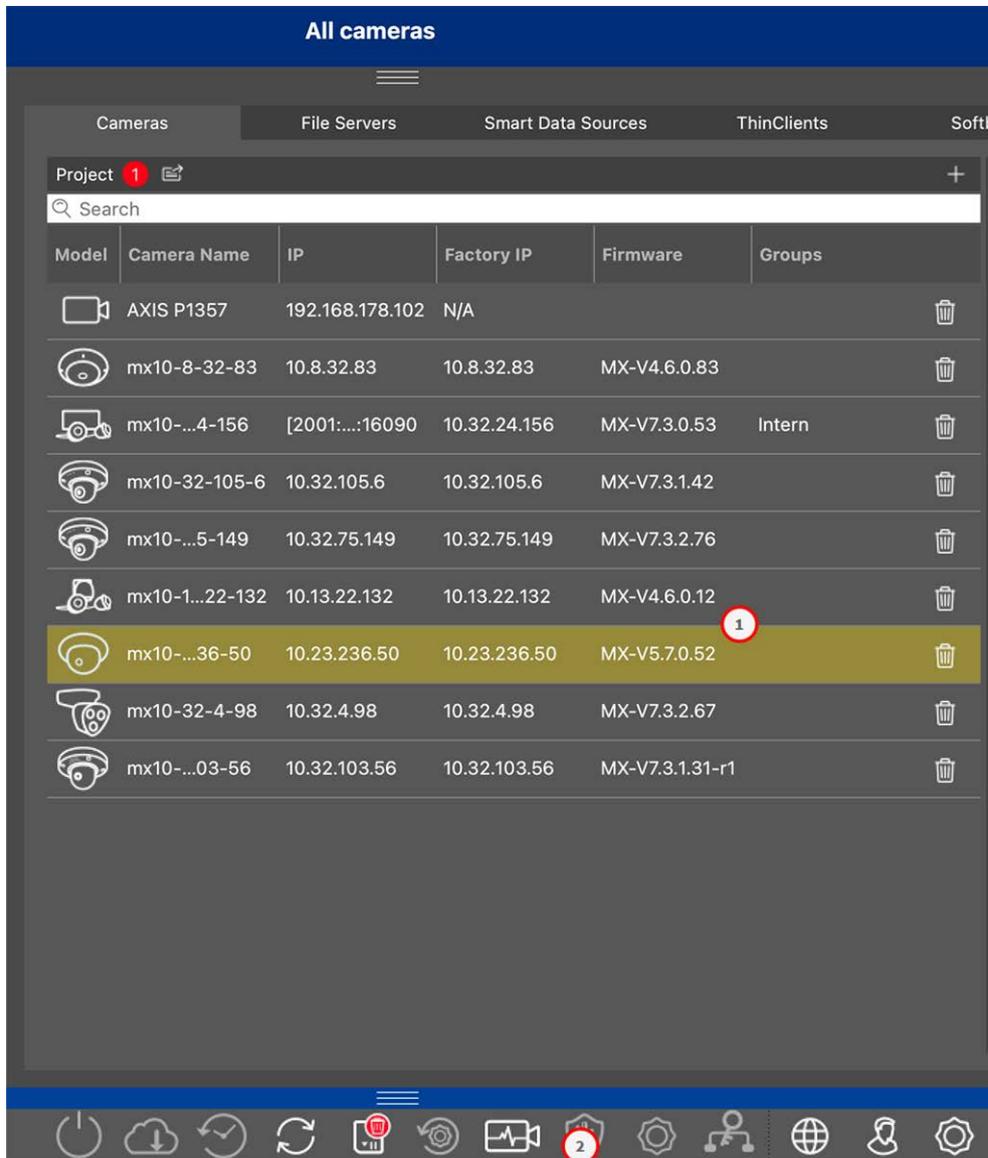
システム・セキュリティのチェック

システムの基本設定が完了したら、セキュリティを確認することをお勧めします。[セキュアシステムウィザード](#)は [コンポーネント・ビュー](#), [ページ 35](#)カメラツールバーにあります。このウィザードは、カメラのセキュリティ設定を分析し、一般的なベストプラクティスに基づき、その状態を評価します。テスト基準が満たされていない場合、カメラを保護するための対策が表示されます。

注！ システム・セキュリティ・チェック機能は、MOBOTIX MOVE カメラおよびONVIF-S/G 互換インターフェースを提供する他社製カメラでは使用できません。カメラの機能の違いの概要については、[カメラ機能の概要](#), [ページ 11](#)参照してください。

システム・セキュリティの設定を確認する

1. メニュービューでコンポーネントビューを開く。
2. 必要なカメラを選択する①。



3. カメラツールバー② で、 **Secure System** をクリックします。以下の基準がチェックされます：
 - meinsm」パスワードをMOBOTIX カメラの標準または ONVIF ユーザーアカウントで使用すること。サイバー攻撃者が標準の "meinsm "パスワードを推測するのは簡単です。
 - **パブリック・アクセスを有効にする**：パブリック・アクセスを有効にすると、パスワードなしでさまざまなカメラ機能を使用できます。
 - **HTTPウェブサーバーを起動**：HTTPを使用すると、パスワードや画像などのユーザーデータを含むデータが暗号化されずにネットワーク経由で送信される可能性があります。

チェックの結果は、**Secure System**ダイアログにカメラごとに表示されます。接続エラーなどでカメラのチェックが行われなかった場合もすべて表示されます。

状態	説明
❌ セキュアな状態ではありません	安全でないとされた基準が少なくとも1つあった。
🔄 ソフトウェアが古すぎます	カメラのソフトウェアを確認し、必要であればアップデートしてください。
🔴 接続エラー	カメラへのネットワーク接続を確認し、セキュリティチェックを再度実行してください。
🚫 サポートされていません	ウィザードを使用して、カメラを解析または保護することはできません。
✅ セキュアに保持されています	カメラは安全であり、これ以上の処置は必要ない。

4. **システムの保護**]ダイアログで、[**次へ**]をクリックします。安全でないステータスになったカメラは、3つの基準のどれを満たしたか、およびカメラを適切に保護するために必要な対策とともに表示されます：

基準 説明

パスワード 標準の "meinsm "パスワードを使用しているカメラの全ユーザアカウントのパスワードを変更します。パスワードが一度も変更されていないONVIFユーザも含まれます。
ド 新しいパスワードを入力し、確認します。適切なパスワードは少なくとも8文字です。パスワードには、小文字、大文字、数字、特殊文字を使用できます (🚫 を参照)。これらの条件を満たさないパスワードを設定すると、テキストフィールドの周囲に赤枠が表示されます。有効なパスワードを入力すると、枠は緑色に変わります。
 新しいパスワードは自動的に MxMC プロジェクト・データに入力されます。

SSL 暗号化 暗号化されていない HTTP 経由のカメラ接続を無効にし、HTTP 接続のみを受け付けるようにカメラを設定します。
 TCP ポートと SSL 設定は、必要に応じて、MxMC プロジェクトデータで自動的に更新されます。
 リモート URL 経由で接続されているカメラの場合、TCP ポートは更新されません。リモート URL 接続の場合、ルータのポート転送を適切な設定に変更する必要がある場合があります。
 HTTP を無効にすると、ネットワーク・メッセージなどのさまざまなサービスが動作しなくなることに注意してください。

パブリックアクセス カメラのウェブ・インターフェースおよびAPIへのパスワード入力を必要としないアクセスを無効にします。

5. ダイアログ・ボックスでOKをクリックする。選択したセキュリティ対策が実行されます。選択したカメラまたはカメラグループのセキュリティ状態が再度分析され、各カメラの結果が表示されます。

既存プロジェクトのインポート

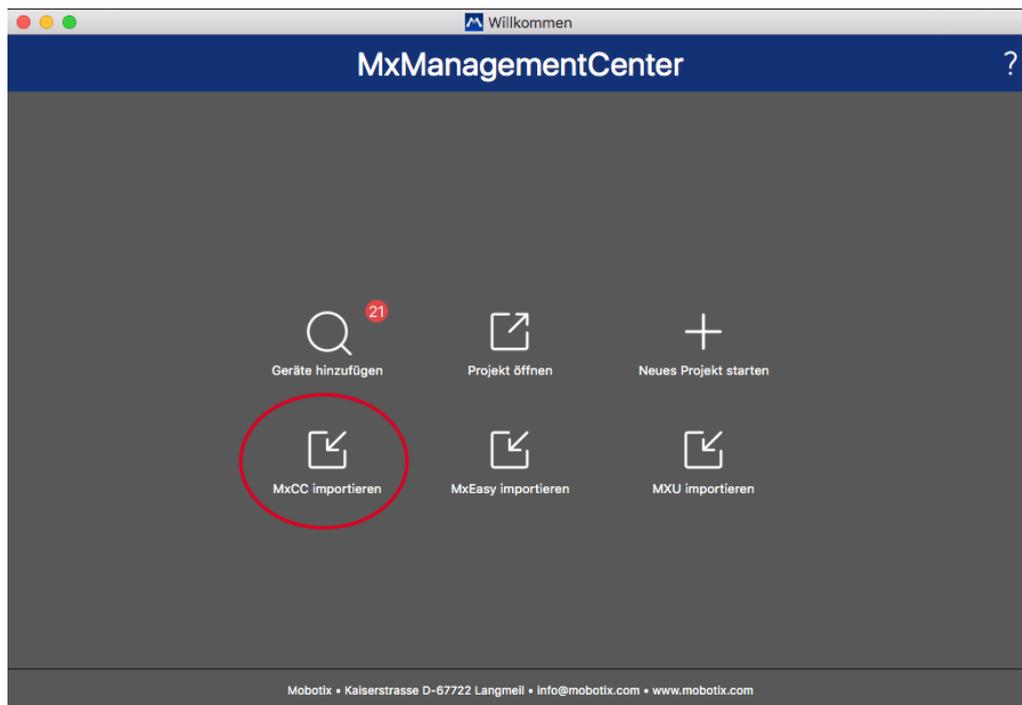
MxControlCenter または MxEasy を既に使用している場合は、MxControlCenter から既存の **MxControlCenter.ini** ファイルを、または **MxEasy** インストールから **MxEasy.ndb** カメラ・リストをインポートできます。どちらの場合も、MxControlCenter (MxCC) または MxEasy に統合されているカメラは、アクセス・データとともに自動的に MxManagementCenter 。

さらに、手動で作成した MXU 形式のリストを使用して、多数のカメラおよびカメラグループを MxMC にすばやく統合できます。MXU ファイルの内容を正しくエクスポートするために、リスト作成時にフォーマットの特定の規則に従う必要があります。

MxControlCenter からの設定のインポート

MxCC ファイルをインポートする際、以下のことが考慮されます：

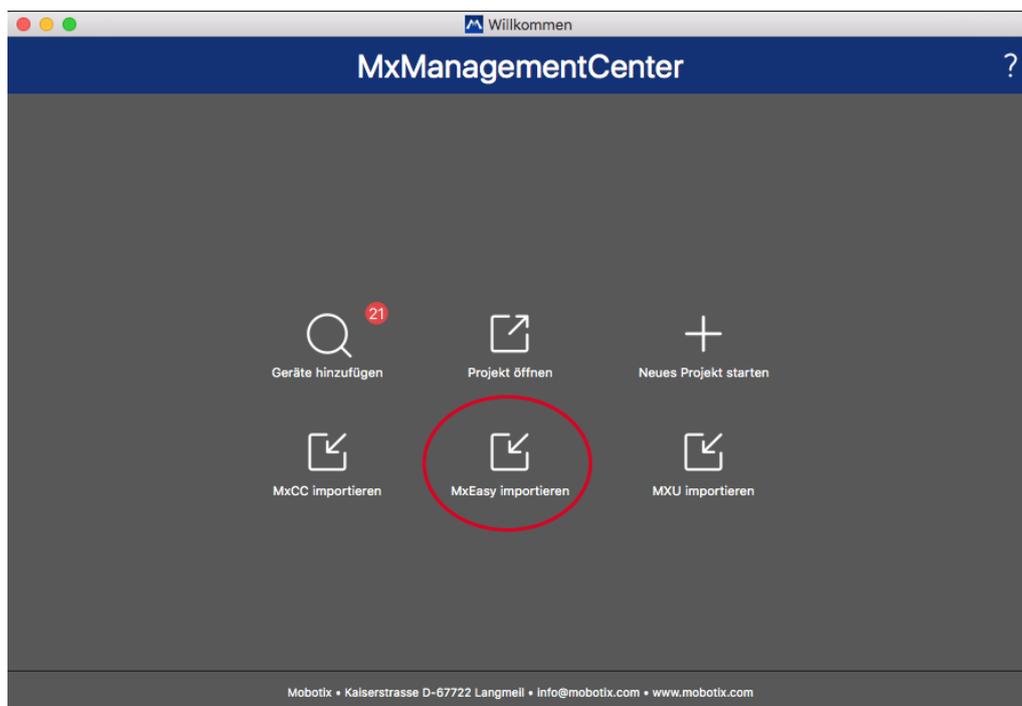
- MxCC で定義されたレイアウトは、MxMC のグループとして作成されます。
- MxCC の背景レイアウト (背景グラフィックとカメラ・シンボルの定義を含む) は、関連グループのグラフィック・ビューに転送されます。
- グローバル・パスワードが割り当てられている場合、ユーザ名を持たないすべてのカメラにこのパスワードが入力されます。
- 使用するハイパーリンクごとに、MxMC にソフトボタンが作成される。
- さらに、MxCC からのツリー構造がデバイス・バーに表示され、MxCC で設定されたファイル・サーバが MxMC 設定に作成されます。



図。42: MxControlCenterからの設定のインポート

1. ファイル > ウェルカムメニューから ウェルカムウィザードを開きます。
2. **MxCCのインポート**をクリックする。現在のプロジェクトを保存するかどうかを決めます。
3. 目的のINIファイルをインポートする。

MxEasy からの構成のインポート



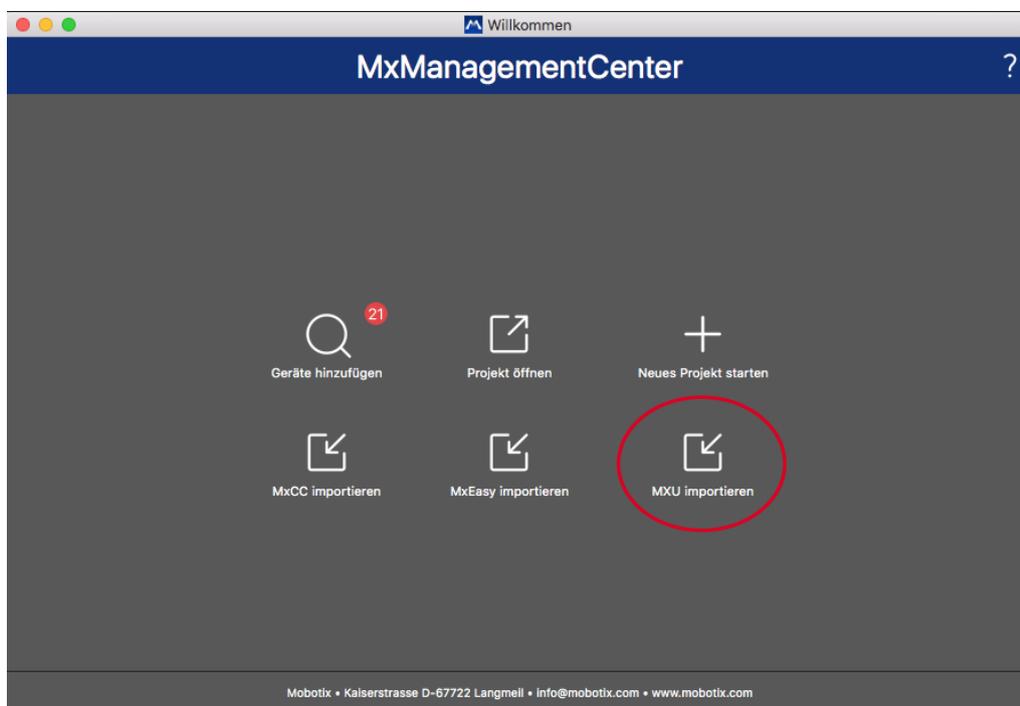
図。43: MxEasy からの構成のインポート

1. ファイル > ウェルカムメニューから ウェルカムウィザードを開きます。
2. **MxEasy のインポート** をクリックします。現在のプロジェクトを保存するかどうかを決定します。
3. 目的のNDBファイルをインポートする。

MXUファイルのインポート

手動で作成したMXU形式のリストを使用して、多数のカメラおよびカメラグループをすばやく追加できます。MXUファイルの内容を正しくエクスポートするために、リスト作成時に様々なフォーマットルールを守る必要があります (インポート用MXUファイルの作成, ページ 103参照)。

注意! このリストはプロジェクトのインポートに取って代わるものではありません。このインポートでは、レイアウトを割り当てたカメラやカメラグループの設定などのプログラム設定がインポートされます。



1. Welcome ウィザードでカメラとカメラグループをインポートするには、**Import MXU**をクリックします。必要に応じて、既存のプロジェクトを保存できます。
2. MXUファイルを開く。
3. MXUファイルからカメラとグループを設定全体に置き換えるのか、追加するだけにするのかを決めます。

インポート用MXUファイルの作成

MXUファイルを使用して、多数のカメラおよびカメラグループをMxMCに素早く追加できます。このようなMXUファイルを生成するには、いくつかのフォーマット仕様に従う必要があります。

単純なインポートのフォーマット

カメラの簡単なインポートには以下の形式が必要です:

- フォーマットされていないUTF-8テキスト
- 名前<TAB>IP<TAB>ユーザ名<TAB>パスワード<CR LF/LF> 以下の構造を持つ1つまたは複数のカメラ行。
- カメラライン内の要素は **TAB**をセパレータとして使用する必要があります。
- 改行は次のいずれかです。 **CR LF**(Windows) または **LF**(UNIX) である。
- コメント行の前には//を付ける。
- カメラ名は一意である必要があり、同じ名前のカメラが複数回追加されることはありません。

例:

```
メインエントランス 10.6.37.25 admin meinsm サイドエントランス 10.6.15.206 admin meinsm エ
ントランスゲート 10.6.23.132 admin meinsm
```

高度なインポートのフォーマット

拡張フォーマット

カメラ、グループ、クリップ、グラフィックおよびグリッド表示の設定の高度なインポートのために、ファイルは以下の形式を使用する必要があります:

- 1行目は常に#EXTMXU
- 追加コマンドはすべて#EXTで始めなければならない。

例:#EXTGROUP:ドアステーション

高度なインポート用コマンド

#EXTMXU	ファイルの先頭を示すマーカー
#EXTGROUP:name:f:r:icon:map:info エクストラグループ	グループ "name "が作成され、以降のカメラはすべてこのグループに追加されます。 f:大きなフォーカスウィンドウ (0=0x、1=1x、2=2x...) r:タイル比率 (0=4:3、1=HD、2=8:3) アイコン: 数値の場合は内部グループアイコンのインデックス、それ以外の場合は*.mxuファイルに対応するファイル名。 マップ背景画像のファイル名 info: 情報ページのファイル名
#EXTGROUP:	名前が指定されていない場合 ("All cameras "を除く)、それ以上のカメラはグループに追加されません。

#EXTCLIP:クリップMXG	カメラのデモクリップが追加されます。クリップは*.mxuファイルと同じディレクトリに保存する必要があります。
#EXTMJPEG:name:クリップMXG	name" を持つ MxPEG クリップが追加されます。これはMXGファイルの絶対パスを参照します。
#EXTCURRENTCAMERA:名前	カメラを選ぶ。
#EXTCURRENTGROUP:名前	グループを選択する。
#EXTSUBGROUPS:名前	以下のグループ(それぞれ名前が行になっている)がサブグループとしてグループ「name」に追加される。
#EXTINFO:コメント	コメント欄
#エクステンド	ファイルの終わり、それ以降の行はすべて無視される。

例:

注!

SSLを有効にするには、カメラのURLの前に**https://**。

```
#EXTMXU // SSL を有効にするには、カメラの URL の前に "https://" を追加する
https://10.3.31.125 admin meinsm https://10.3.31.126 admin meinsm
#EXTGROUP:Doorstations:2:2:2 メインエントランス 10.6.37.25 admin meinsm サイドエントラ
ス 10.6.15.206 admin meinsm #EXTGROUP:Indoor:2:2:3 Building East
https://10.3.31.251 admin meinsm Building West https://10.7.25.186 admin
meinsm Staircase https://10.6.115.57 admin meinsm Canteen https://10.12.32.65
admin meinsm #EXTGROUP:Outdoor:2:2:4 Parking Visitors 10.5.46.39 admin meinsm
駐車場 従業員 10.10.231.107 admin meinsm #EXTGROUP:Dual Cams:2:2:10 チェックアウト 1
10.10.106.26 admin meinsm チェックアウト 2 10.10.152.225 admin meinsm チェックアウト 3
10.13.242.195 admin meinsm #EXTGROUP:Faststreams:2:0:11 一階 10.2.2.169 admin
meinsm 二階 10.2.104.130 admin meinsm 三階 10.3.11.51 admin meinsm エレベーター
10.3.209.198 admin meinsm #EXTGROUP:Clips:2:2:groupIcon.png:groupMap.jpg
#EXTCLIP:FiremanMXG #EXTCLIP:PoleMXG #EXTCURRENTCAMERA:メインエントランス
#EXTCURRENTGROUP:Doorstations #EXTEND
```

バックアップとエクスポート

すべてのカメラの追加、カメラのグループ化、ユーザの作成、アクセス許可の設定、システム・セキュリティの確認など、システムの設定が完了したら、設定をプロジェクトとして保存します。リモート・コントロール・ポートのようなローカル・インストールにのみ関連する設定を除いて、すべてが保存されます。

セットアップ

バックアップとエクスポート

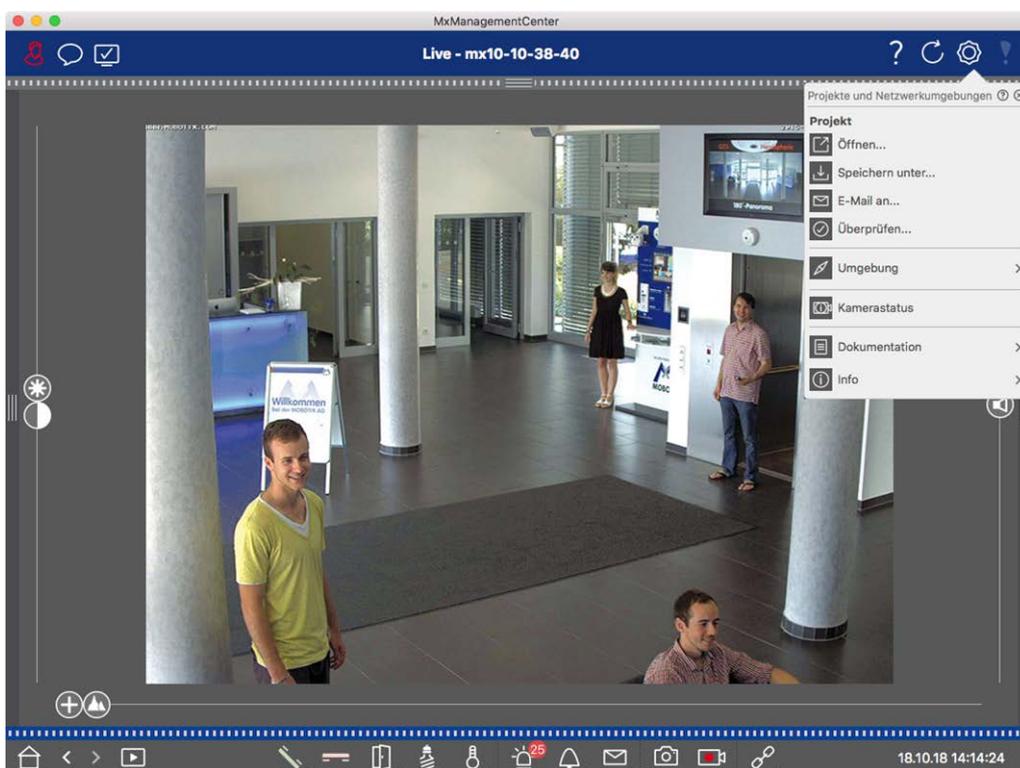
保護されたシステム設定は、アプリケーションから直接電子メールで送信できます。各カメラの暗号化されたアクセスデータ(ユーザ名とパスワード)を含めることもできます。MxMC でプロジェクトを開くと、これらのアクセスデータが自動的に使用されます。アクセスデータを提供しない場合、各カメラのユーザ名とパスワードを手動で入力する必要があります。

すべてのカメラとカメラグループの表形式の概要をMxMC からすばやくエクスポートして、MXU ファイル形式で保存できます。表には、カメラとその IP アドレス、カメラグループと関連するカメラが表示されます。

さらに、プロジェクト データをエクスポートして、MOBOTIX LIVEアプリで簡単にインポートすることができます。

プロジェクトの保存

1. ヘッダーバーの  をクリックします。プロジェクトとネットワーク環境ダイアログが開きます。
2. **Save As** をクリックし、ダイアログを完成させる。



電子メールによるプロジェクトの提供

ヘッダーバーで、**Projects and Environments**  をクリックし、**Email to** をクリックします。これにより、プロジェクトファイルが生成され、新しいEメールの添付ファイルとしてメールソフトに転送されます。

注!

このためには、適切に設定された電子メールクライアントが必要です。

MXUファイルのエクスポート

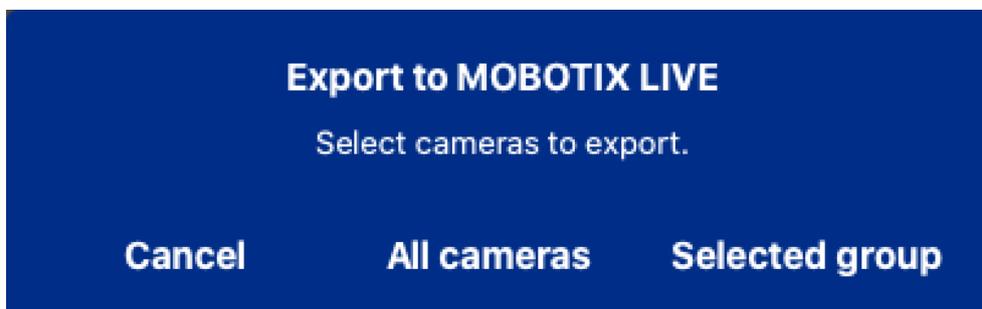
MxMC、MXU形式のリストを使用して、多数のカメラ、カメラグループ、デバイス、録画/クリップを簡単に追加できます。現在のプロジェクトデータに基づいてMXUファイルを作成するには、以下の手順に従います：

1. メニューバーから**File > Export MXU...**を選択します。
2. **保存**をクリックする。表がMXUファイルとして保存されます。

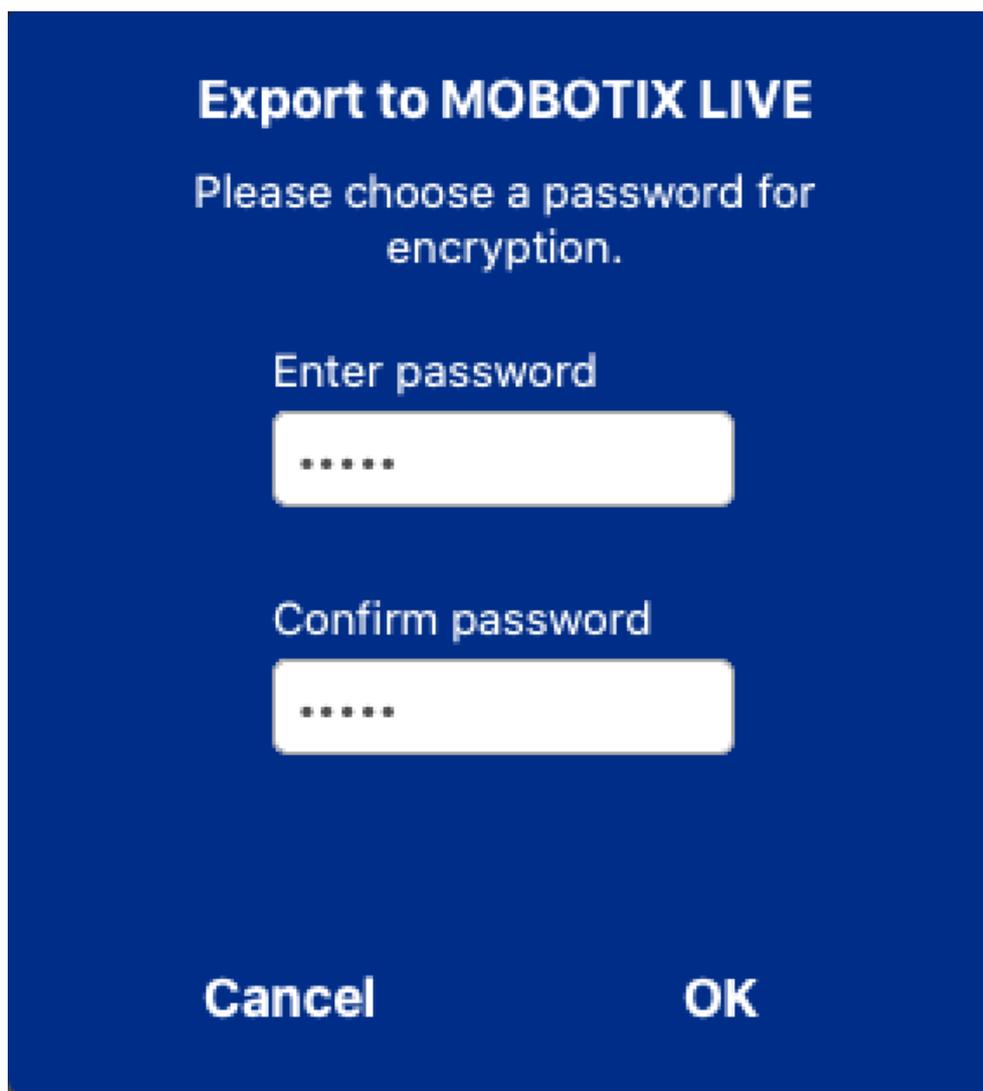
MOBOTIX LIVEアプリ用にプロジェクトデータをエクスポート

MOBOTIX LIVE アプリのプロジェクト・データをエクスポートするには、以下の手順に従ってください：

1. オプションで、エクスポートする特定のカメラグループを選択します。
2. メニューで、**ファイル > MOBOTIX Live**に**エクスポート**を選択します。
3. **すべてのカメラ**]または **選択したグループ**]をクリックします。



4. エクスポートデータを暗号化するためのパスワードを入力・確認し、「OK」をクリックします。



Export to MOBOTIX LIVE

Please choose a password for encryption.

Enter password

.....

Confirm password

.....

Cancel **OK**

5. 保存場所を指定し、エクスポートファイルを保存します。

マネジメント

このセクションでは、MxMC を使用してシステムを管理する**管理者**について説明します。

トピックス	説明
グループの見解, ページ 110	グリッド表示のレイアウト編集、グラフィック表示のレイアウト編集、グループ機能の割り当て、カメラグループの情報の保存、ライブ画像のフレームレートの制限
ドアステーションの設定, ページ 117	ベル設定、ボイスメールボックス設定
ネットワーク環境, ページ 123	環境の作成と管理、各環境のネットワークデータのカスタマイズ
カメラとカメラグループ, ページ 125	カメラの管理、カメラグループの管理、他社製カメラの統合と管理
ユーザー管理, ページ 146	一般ユーザー権限、ユーザー権限の管理

トピックス	説明
好み, ページ 159	一般設定、ネットワーク、ソフトウェア更新、通知、監視、オーディオ、データ量、キャッシュ、スナップショット画像、ライブレコーダー、リモートコントロール、ジョイスティックPTZ、MxMessageSystem
システム・セキュリティのチェック, ページ 189	メンテナンス機能、セキュリティ機能
ライセンス管理	ライセンスの有効化、ライセンスの管理

グループの見解

最初のインストール後、グループビューの調整が必要になる場合があります。このセクションでは、より詳細なGridビューとGraphicビューの設定、および一般的なグループパラメータについて説明します。

グリッド・ビュー・レイアウトの編集

カメラ・グループを作成する際、グリッド・レイアウト(カメラを配置するグリッド)はデフォルト値に基づいて作成されますが、カスタマイズすることができます。これを行うには、コマンド・バーまたはデバイス・バーの  をクリックします。コマンド・バーには、グリッド・レイアウトを設定するためのいくつかのコントロールが表示されます。

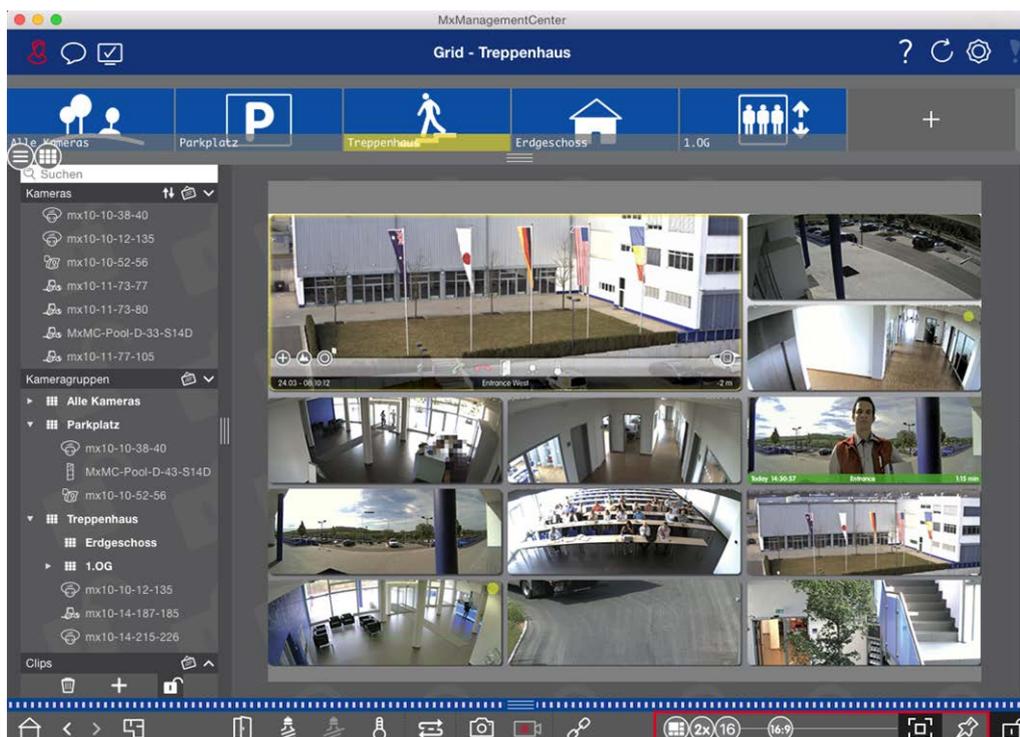


図. 44: グリッド・ビュー・レイアウトの編集

最初のステップとして、カメラ画像のフォーマットやフォーカス・ウィンドウのサイズを変更する前に、ウィンドウのサイズを変更したときにグリッド・レイアウトを自動的に調整するか、タイルのサイズと位置を手動で定義するかを決めます。

オートグリッドモードの使用

オートグリッドモード  はデフォルトで使用されます。オート・グリッド・モードでは、MxMC、指定されたカメラ画像のアスペクト比 (4:3、16:9、8:3)、フォーカス・ウィンドウのサイズ、およびカメラの台数に応じて、利用可能なスペースを可能な限り分散しようと常に試みます。これにより、グリッド・レイアウトは自動的に変更に適応します。オートグリッドモードでは、以下のスライダーでグリッドレイアウトを変更できます：

-  :カメラ画像とフォーカスウィンドウのフォーマット (4:3、16:9、8:3)
-  :フォーカス・ウィンドウのサイズ(カメラ画像の1倍、2倍、...、8倍)
-  :最大カメラ台数

スライダーを希望の設定に動かす。編集モードを閉じるには、 をクリックします。

マニュアルモードの選択

マニュアル・モード  では、選択したカメラ画像のフォーマット (4:3、16:9、8:3) に基づいて、個々のタイルのサイズと位置を設定します。オートグリッドモードとは対照的に、マニュアルモードではレイアウトは自動調整されません。オートグリッドモードからマニュアルモードに切り替えるには、スライダー  を  の位置に達するまで右に動かします。マニュアルモードでは、以下のスライダーを使用できます：

- 8:3 = カメラ画像とフォーカス・ウィンドウのフォーマット (4:3、16:9、8:3)
- 16 = カメラの最大台数

1. スライダーを希望の設定に動かす。
2. タイルを別の位置に移動するには、マウスポインタをタイルの上に移動します。⊕ をクリックし、タイルを希望の位置にドラッグします。より良いオリエンテーションのために、青い枠が目標位置を示します。
3. 選択したフォーマットに基づいてタイルのサイズを設定するには、二重矢印が表示されるまでタイルの境界線上にマウスポインタを移動します。タイルを希望のサイズにドラッグします。
4. 編集モードを閉じるには、🏠 をクリックする。

グラフィック・ビュー・レイアウトの編集

背景画像のカメラ位置を変える

グラフィック表示では、平面図や平面レイアウトなどの背景画像を定義できます。グループ内のカメラを実際の位置に合わせて配置できます。カメラグループのグラフィック表示を初めて開くと、グループのすべてのカメラが背景画像①の右側の余白にアイコン📍として表示されます。

カメラの位置を調整するには、🏠 をクリックして、編集モード②を開きます。マウス・ポインタをカメラ画像の上に移動します。③つのアイコンが表示されます。⊕ をクリックし、カメラのアイコンを希望の位置にドラッグします。編集モードを終了するには、🏠 をクリックします。編集モードを終了すると、変更した設定は自動的に保存されます。

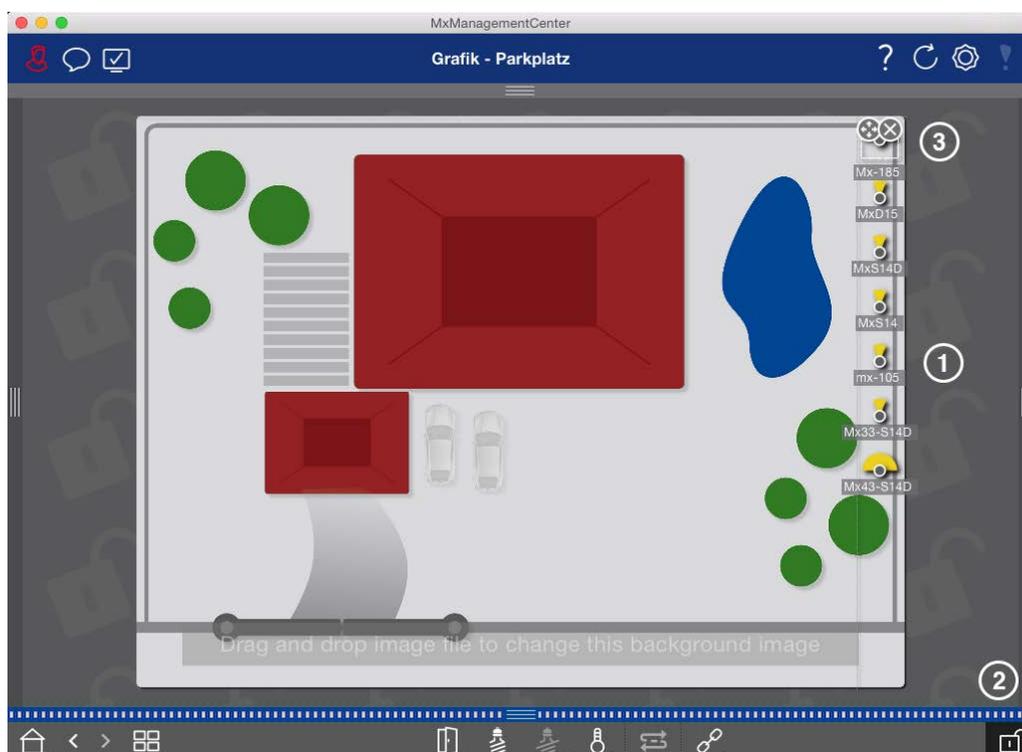
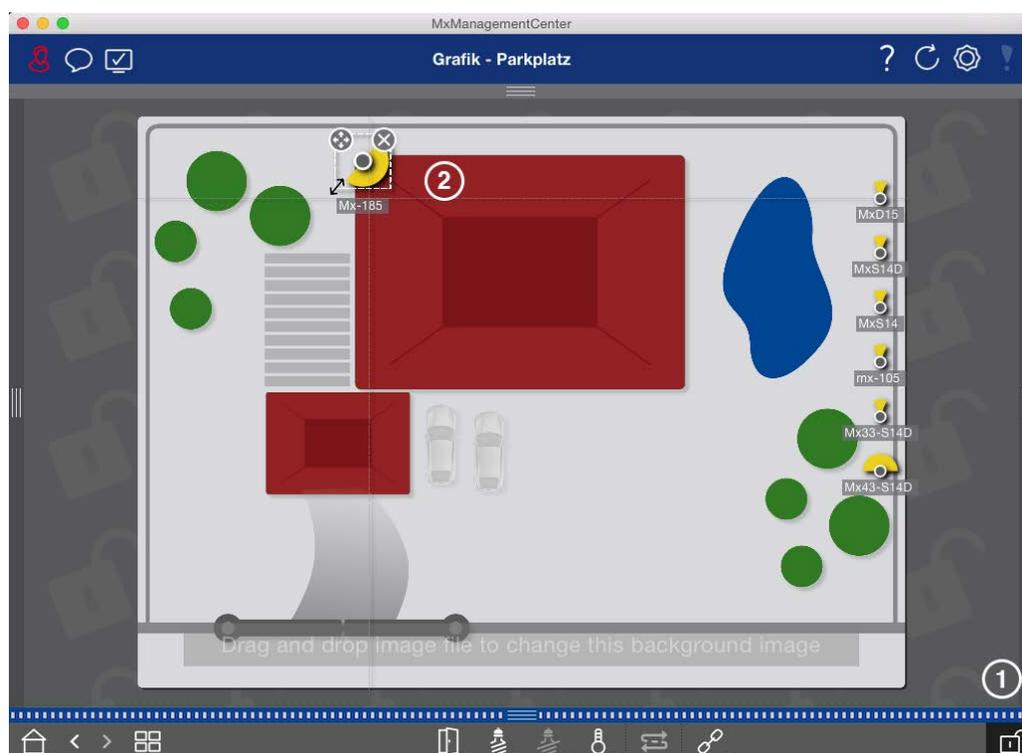


図. 45: 背景画像のカメラ位置を変える

カメラアイコンの編集

📷 をクリックして、編集モード① を開きます。カメラ画像の上にマウス・ポインタを移動します。カメラ・アイコンの周りに正方形の点線が表示されます。カメラアイコンを大きくしたり小さくしたりするには、正方形の右端または左端をクリックして、内側または外側に引っ張ります(②)。カメラアイコンの向きを変更するには、手の形が表示されるまでマウスポインタをアイコンに合わせます。マウス・ボタンを押したまま、カメラ・アイコンをその軸の周りに回転させます。編集モードを終了するには、🏠 をクリックします。編集モードを終了すると、変更した設定は自動的に保存されます。



図。46: カメラアイコンの編集

追加カメラ・グループを背景画像にドラッグ

追加したカメラグループをカメラグループの背景画像(フロアプラン)上に配置できます。追加したカメラグループのカメラがイベントを検出し、このカメラの背景アラームが有効になっている場合、カメラグループのアイコンが赤または緑に変わります(ベルイベント)。グループアイコンをクリックして、カメラグループのグリッド表示を開きます。

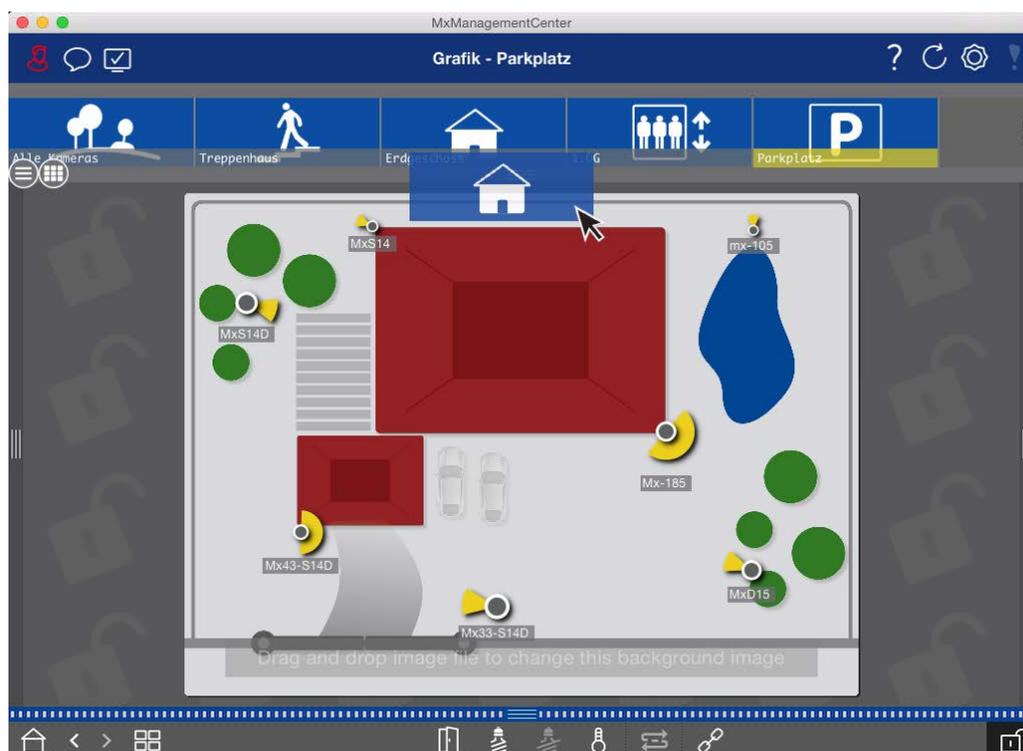


図. 47: 追加カメラ・グループを背景画像にドラッグ

編集モード  を開き、グループまたはカメラ・バーから必要なカメラ・グループをフロアプラン上にドラッグします。編集モードを閉じるには、 をクリックします。編集モードを終了すると、変更した設定は自動的に保存されます。

背景画像にコントロールを配置する

グラフィック・ビューの下部にあるコマンド・バーには、いくつかのコントロールがあります。例えば、ライトを制御するようにカメラが設定されている場合、グラフィック・ビューでこのカメラのライトを切り替えることができます。これらのコントロールを背景画像(平面図)上にドラッグし、クリックするだけで対応する機能を実行できるので、後で簡単に操作できます。



図。48: 背景画像にコントロールを配置する

編集モード  を開きます。ショートカットメニューを開くには、目的の操作機能を右クリックします。次に、マウスポインタをフロアプランにドラッグします。編集モードを閉じるには、 をクリックします。編集モードを終了すると、変更した設定は自動的に保存されます。

グループ機能の割り当て

注!

グループ機能は、MOBOTIX MOVE カメラおよびONVIF-S/G 互換インターフェースを提供する他社製カメラではサポートされていません。カメラ機能の違いについては、「[カメラ機能の概要](#), ページ 11」を参照してください。

グリッド、グラフィック、および情報表示では、グループ機能を使用して、現在選択されているグループ内の1台のカメラに対して照明をオンにしたり、ドアを開けたり、アナウンスを流したりすることができます。

また、[照明をスイッチ]および[ドアを開く]グループ機能は複数のカメラに割り当てることができるため、1回のクリックで複数の照明をオンにしたり、複数のドアを開いたりすることができます。

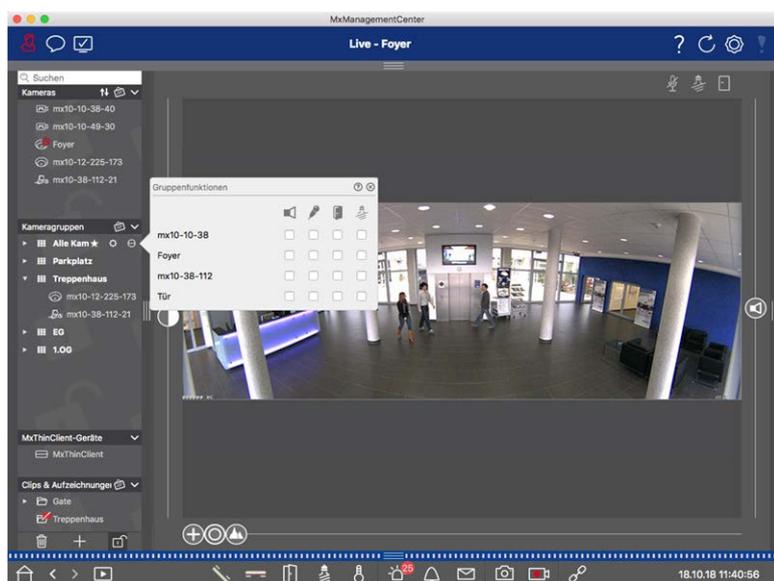


図. 49: グループ機能の割り当て

グループ機能を割り当てるには、以下の手順に従います:

1. バーの一番下にある  をクリックして、デバイスバーの編集モードを開きます。
2. グループ名の上にマウスポインタを合わせると、3つのアイコンが表示されます。3つのアイコンが表示されます。 をクリックする。Group Functionsダイアログが開きます。
3. それぞれのチェックボックスをオンにして、必要な機能をカメラに割り当てます。
4. すべてのグループ機能を定義したら、 をクリックして編集モードを解除することができます。

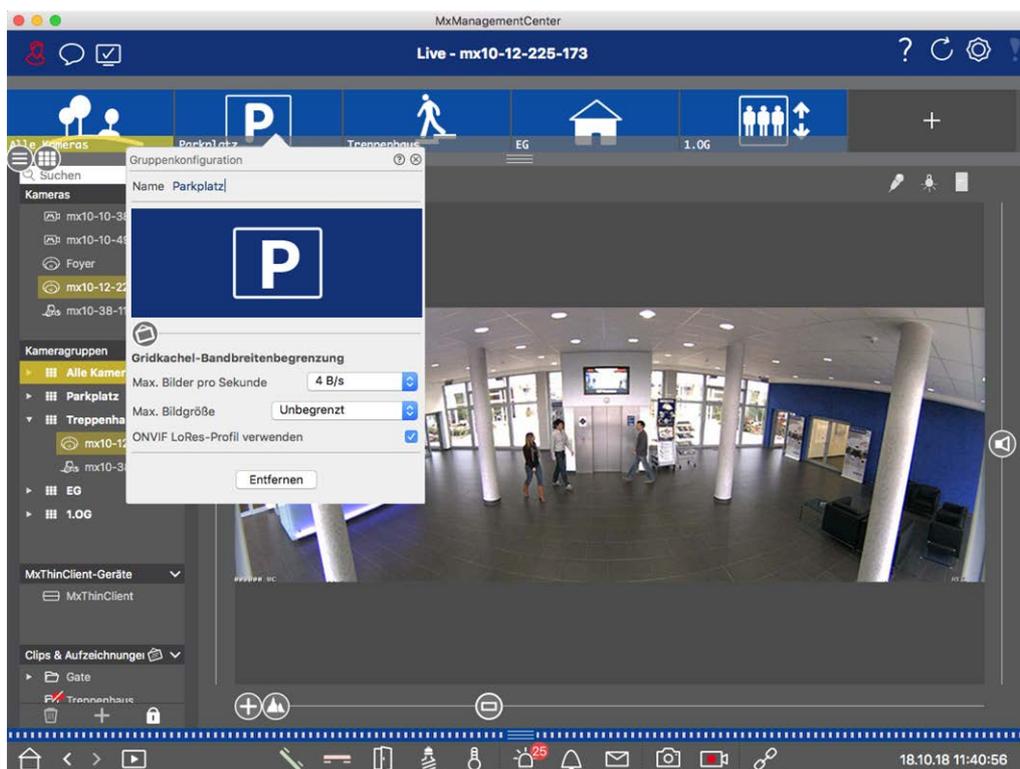
カメラグループの情報追加

情報ページをカメラ・グループに割り当てて、そのカメラ・グループに対する特別な指示などを表示できます。

1. バーの一番下にある  をクリックして、デバイスバーの編集モードを開く。次に、 をクリックし、 をクリックします。グループ設定ダイアログが開きます。
2.  の位置に達するまで、スライダー  を右に動かす。
3. グレーのフィールドの矢印をクリックし、使用するファイルを選択します。

ライブ画像のフレームレートを制限する

グリッド表示に非常に多くのカメラを表示すると、パフォーマンスが低下することがあります。これを避けるために、タイル内のライブ画像のフレームレートを制限できます。この制限は、フォーカス・ウィンドウに表示されるカメラには適用されません。



図。50: ライブ画像のフレームレートを制限する

1. 上部の灰色の枠をクリックして、グループまたはカメラ・バーを開きます。カメラのグループ表示に切り替えるには、枠線をもう一度クリックします。
2. グループアイコンを右クリックし、最大フレーム数/秒と最大画像サイズを選択します。
3. **ONVIF-S/G LoRes Profile** を使用します: このチェックボックスを使用して、MOBOTIX MOVE カメラおよび ONVIF-S/G 互換インターフェースを提供するサードパーティ製カメラのフレームレートを制限します。このチェックボックスを有効にすると、これらのカメラの LoRes プロファイルとして帯域幅設定でキャプチャされたタイルのライブ画像の設定が使用されます。

ドアステーションの設定

MxMC が呼び出し音やメールボックスの通知に回答する方法はいくつかあります。ここでは、これらの通知オプションを設定する方法について説明します。

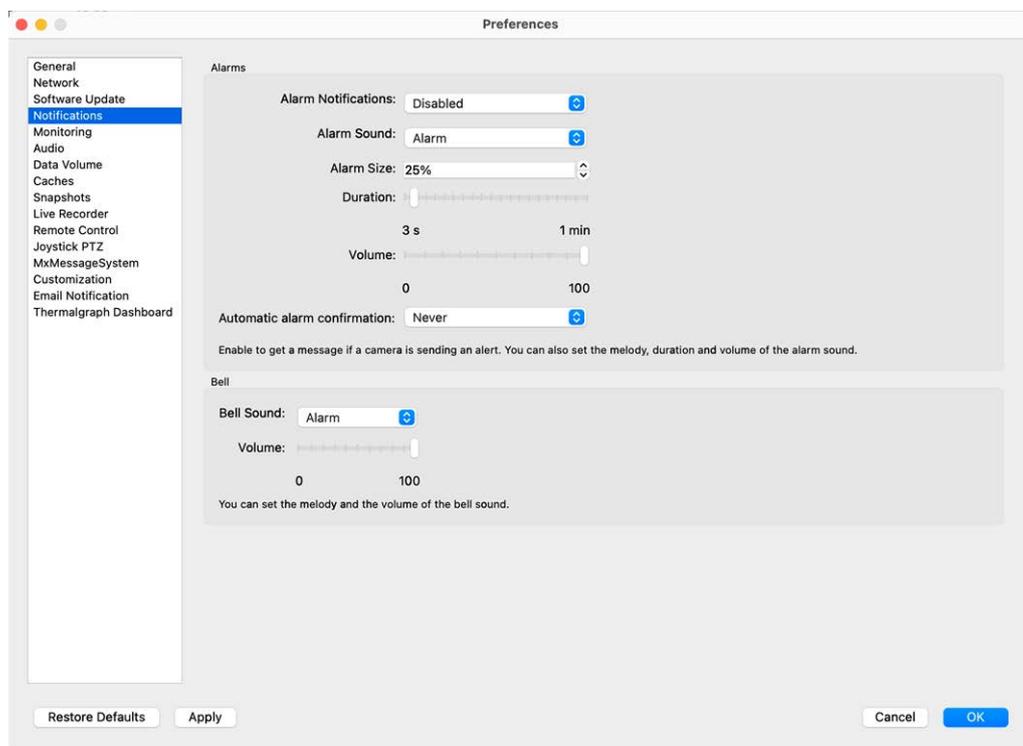
注! ドア・ステーションの機能は、MOBOTIX MOVE カメラおよび ONVIF S 互換インターフェースを提供する他社製カメラではサポートされていません。カメラ機能の違いの概要については、「[カメラ機能の概要, ページ 11](#)」を参照してください。

こちらも参照のこと:

- ドア・ステーションの操作, ページ 260
- ドアステーション・ウィザード, ページ 209

ベル設定

着信音の設定



図。 51: 着信音の設定

1. メニュー**MxManagementCenter > Preferences**(Mac) または**File > Preferences**(Windows) で**Notifications** をクリックします。
2. 希望の着信音を選択し、音量を調整する。

ベル・シグナルの設定

ベルが鳴ると、MxManagementCenter のさまざまな場所に表示することができます。どの信号オプションを組み合わせ、どこで設定できるかについては、以下の表を参照してください。

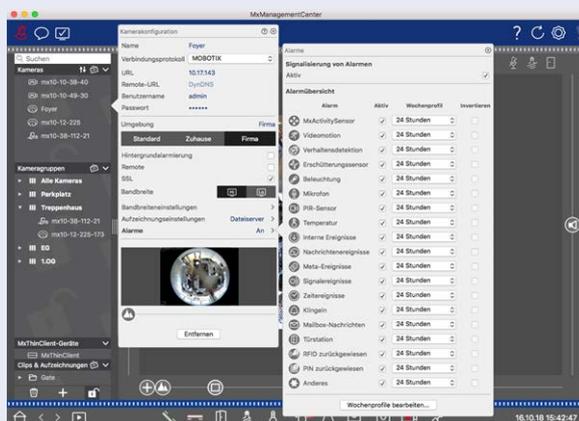
注! ベル通知を機能させるには、カメラ設定でアラーム信号を有効にし、ベル・プロファイルを設定し、MxMC で正しいベル・プロファイルを選択する必要があります。

通知

アラームバー、アラーム情報バー、ドアベル通知、ライブビューのベルアイコンのカウンター

設定

これらの場所でドアベルが鳴るようにアラーム通知を設定する必要があります。



1. これを行うには、[カメラ] バーで該当するカメラを右クリックして、[カメラ設定] ダイアログ・ボックスを開きます。
別の方法として、[デバイス] バーで  をクリックし、該当するカメラを右クリックして、ダイアログ・ボックスを開くこともできます。
2. アラームをクリックし、アラーム通知とドアベルの着信音を有効にします。

着信音オフ

着信音の音量を "0" に設定することで、着信音をオフにすることができます(「着信音の設定」を参照)。

ベルアイコンのカウンターのみ

アラームダイアログボックスでドアベルの鳴動を無効にすると、ベルアイコンのカウンターだけが毎回1ずつ増加します。

1. これを行うには、[カメラ] バーで該当するカメラを右クリックして、[カメラ設定] ダイアログ・ボックスを開きます。
別の方法として、[デバイス] バーで  をクリックし、該当するカメラを右クリックして、ダイアログ・ボックスを開くこともできます。
2. アラーム] をクリックし、ドアベルの鳴動を停止します。

完全にオフ

ベルを完全にオフにするには、「ベル設定」  の「ベル」チェックボックスをオフにします(「ベルを完全にオフにする」を参照)。

ベル・プロファイルの選択

ベル・プロファイルは基本的に、ドア・ステーションで誰かがベルを鳴らした場合の反応を制御します。カメラには事前に設定されたベル・プロファイルがいくつか用意されています。

プロフィール 説明

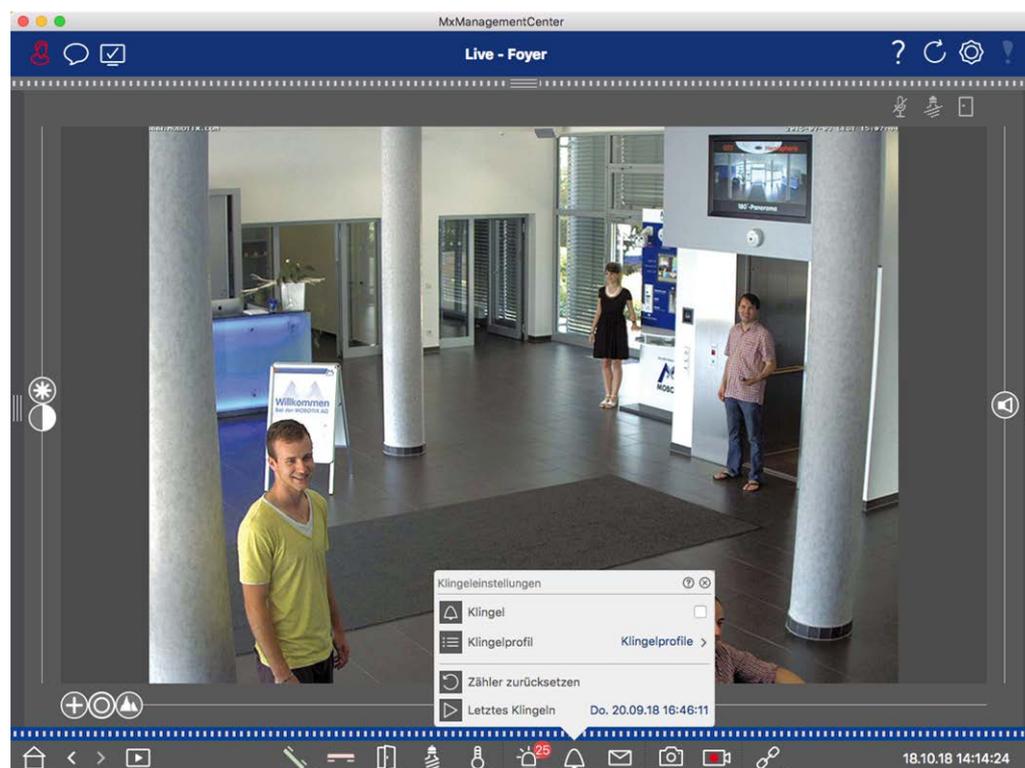
電話呼び出しなし MxMC 他のすべてのリモートステーションは反応しません。つまり、誰かが呼び出し音を鳴らしても気づきません(視覚的にも音でも)。

呼び出し 誰かがドアベルを鳴らすと聞こえます。訪問者はメッセージを残すことはできません。

呼び出しとメールボックス 誰かがドアベルを鳴らすと、その音が聞こえます。設定されたリモート・ステーションが一定時間内に応答しない場合、ドア・ステーションは事前に録音されたアナウンスを再生し、訪問者はメッセージを残すことができます。

ボイスメールボックス 呼び出し音が鳴ると、ドア・ステーションはすぐにアナウンスを再生し、訪問者はメッセージを残すことができます。

アナウンスのみ 呼び出し音が鳴ると、ドア・ステーションは直ちにアナウンスを再生します。訪問者はメッセージを残すことはできません。



図。52: ベル・プロファイルの選択

1. ドア・ステーションのライブ表示に切り替えます。
2. ライブビューで、ベルアイコン  を右クリックし、ベル設定を開きます。

3. ベル・プロフィールをクリックし、リストから必要なプロフィールを選択します。

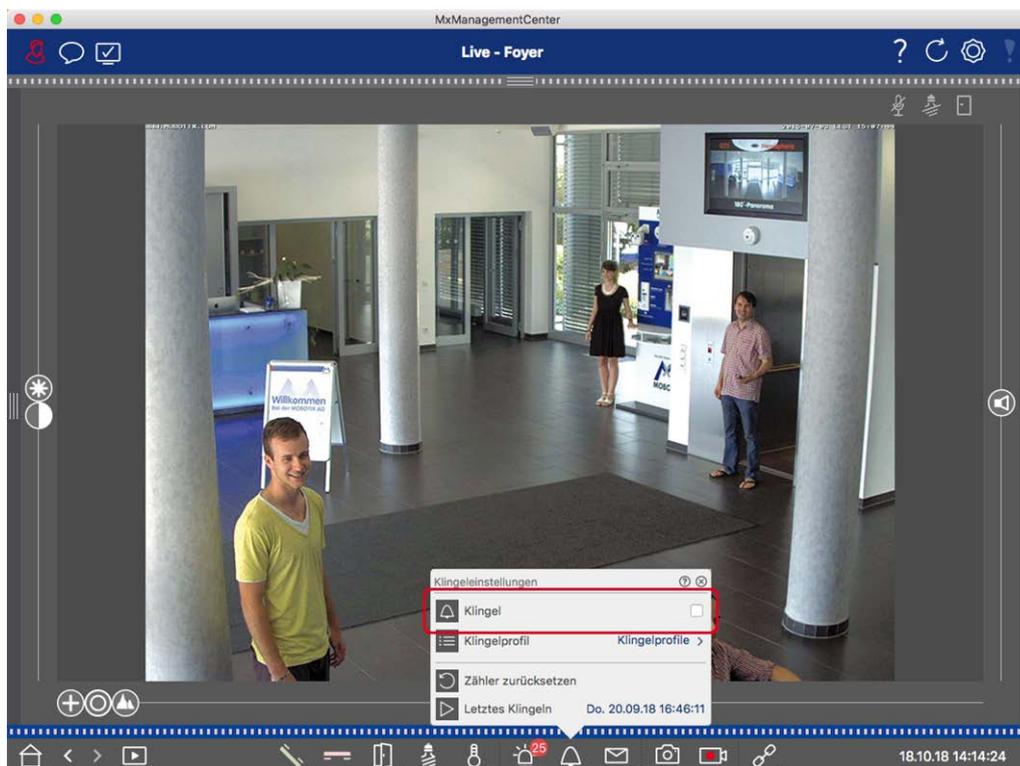
呼び出し音カウンターのリセット

ライブビューのベルアイコン()の横にあるカウンターは、ドアベルが鳴るたびに、鳴ったことに反応したかどうかに関係なく、インクリメントされます。カウンターをリセットすると、呼び出し音を聞き逃したかどうかを認識しやすくなるため、定期的にカウンターをリセットすることをお勧めします。カウンターをリセットすると、最後にリセットされたのが何年前かが表示されます。

1. ドア・ステーションのライブ表示に切り替えます。
2. ライブビューで、ベルアイコン  を右クリックし、ベル設定を開きます。
3. カウンターのリセットをクリックします。
4. カウンターはリセットされ、ベル設定  ボタンの横に表示されなくなりました。

ベルを完全にオフにする

ドアベルに邪魔されたくない場合は、特定のベルまたは連絡先番号を無効にできます。この場合、呼び出し音はどのリモートステーションにも通知されず、「呼び出し音カウンター」も増加しません。この場合、不在の訪問者について通知されることはなく、訪問者はメッセージを残すことができません。



図。53: ベルを完全にオフにする

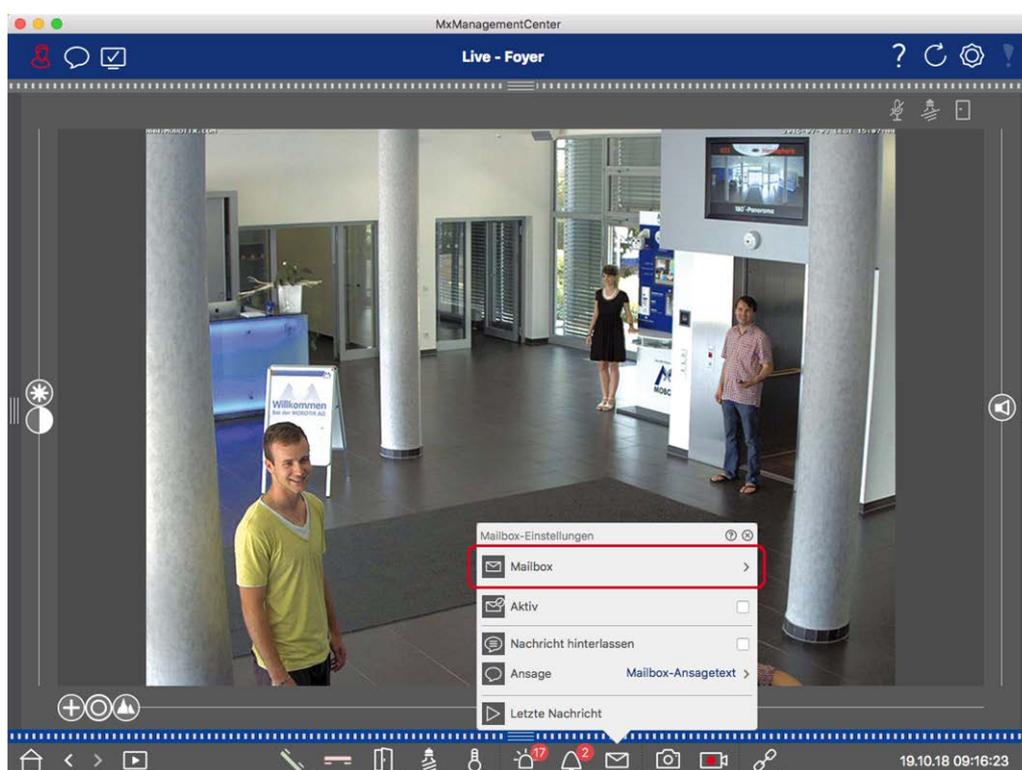
1. ライブビューで、ベルアイコン  を右クリックし、ベル設定を開きます。
2. ベルのチェックボックスを無効にする。

メールボックスの設定

音声メールボックスの選択

インストールされているオプションとドア・ステーションの構成により、複数のベル・ボタンまたはMOBOTIX キーパッド・モジュールがインストールされている場合は、複数の連絡先番号があります。これらのベルまたは連絡先番号には、それぞれメールボックスがあります。対応するメールボックスは、リスト(ベル名の下)に表示されます。

注! メールボックス機能で行ったすべての設定は、常に選択したメールボックスに適用されます。また、新着メッセージカウンターはこのメールボックスにのみ適用されます。別のメールボックスのメッセージと録音を取得するには、まずそのメールボックスを選択してください。



図。54: 音声メールボックスの選択

1. ライブビューで音声メールボックスアイコン  を右クリックし、メールボックス設定を開きます。
2. 音声メールボックスをクリックして、リストから希望のメールボックスを選択します。

音声メールボックスごとにベル・プロフィールを選択できます。この方法については、[ベルプロフィールを選択するを参照してください](#)。

音声メールボックスの起動とウェルカムメッセージの選択

1. **Active**チェックボックスを有効にする。
2. **アナウンス**ボタンをクリックしてください。訪問者に流すアナウンスを選択します。

メッセージを有効にする

訪問者にメッセージを残すことを許可する場合は、「**メッセージを残す**」オプションを有効にしてください。

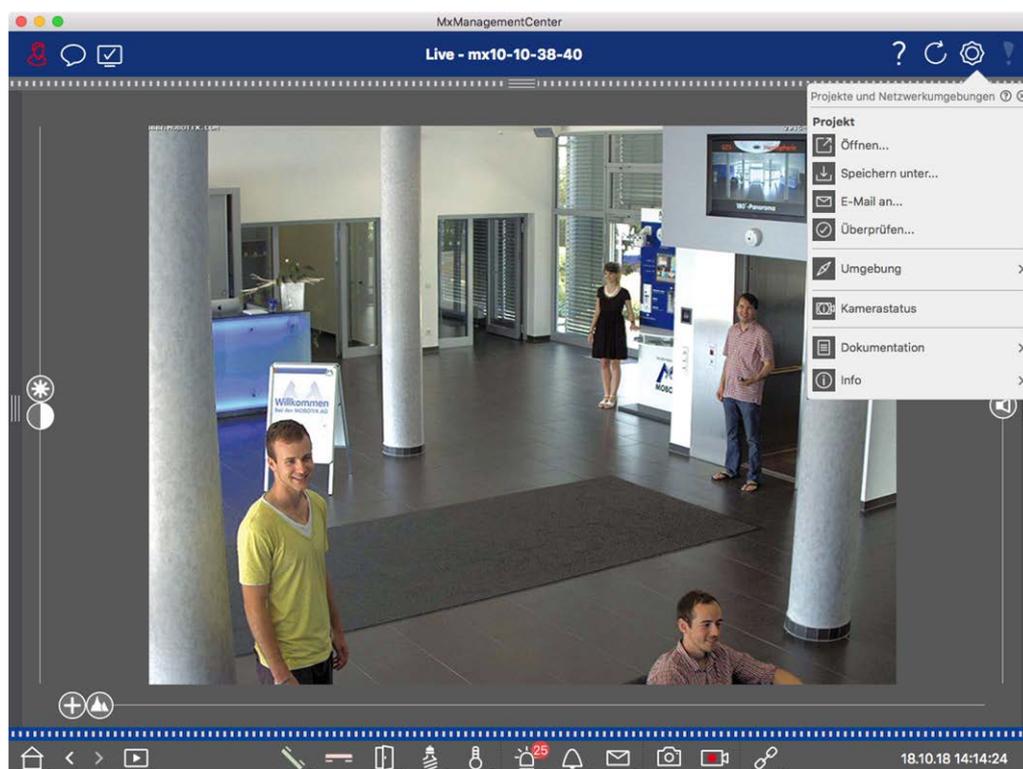
ネットワーク環境

MxManagementCenter を使用すると、さまざまな場所からカメラにアクセスできます。例えば、ローカル・エリア・ネットワーク (LAN) 経由で自宅のカメラを監視したり、設定済みのインターネット経由のDynDNSアクセス経由で移動中にカメラを監視したりできます。この2つの方法では、異なるネットワーク・アクセス・データを使用する必要があります。毎回ネットワーク・アクセス・データを変更する必要がないように、MxManagementCenter で対応するネットワーク・アクセス・データに異なるネットワーク環境を設定できます。異なる環境に切り替えると、カメラに接続するためのネットワーク・アドレス・データが自動的に切り替わります(「[さまざまなネットワーク環境での作業, ページ 266](#)」を参照)。

環境の構築と管理

環境づくり

1. ヘッダーバーのをクリックします。プロジェクトとネットワーク環境ダイアログが開きます。
2. **Environment**をクリックし、をクリックします。これで "New Environment "という名前で環境が追加されます。適当な名前を付けてください。



図。55: 環境づくり

名前の変更と環境の削除

1. **Network Environments**ダイアログボックスを開きます。
2. 名前の編集  をクリックする。名前をハイライトして上書きする。
3. 環境の削除 削除したい環境の横にある  をクリックする。環境の右にある赤い削除ボックスをクリックする。

各環境のネットワークデータを設定する

環境に関するさまざまなネットワーク設定は **環境設定, ページ 135**ダイアログで設定できます。これを行うには、カメラバーで個々のカメラを右クリックするか、**デバイスバー, ページ 48**編集モードを開き、個々のカメラを右クリックします。

セクション Environment は現在のネットワーク環境を表示します。プログラムを初めて起動すると、標準環境が表示されます。既存のネットワーク環境はすべて青いバーに表示されます。使用したい環境をクリックしてください。次に、この環境に必要なネットワーク設定を行います。

1. バックグラウンドアラーム呼び出し選択した環境でカメラへのイベントストリーム接続を常時確立するかどうかを指定します。イベント・ストリームの常時接続が不要な場合、または不要な場合(低帯域幅ネットワークで MxMC を使用する場合など)は、このオプションを無効にできます。このオプションを無効にすると、アプリケーションはカメラのライブ・ストリームの表示やカメラ経由の録画など、必要な場合にのみイベント・ストリーム接続を開きます。この場合、接続が確立されている間、アラームはこのカメラに対してのみ表示されます。

2. リモート遠隔地からカメラにアクセスする場合のみ、このオプションをオンにします(DynDNS経由など)。
3. SSL: 選択した環境で暗号化された接続を使用する場合は、このオプションをオンにします(推奨設定)。カメラでHTTPSを有効にする必要があることに注意してください(ブラウザのAdmin Menu > Network Configuration > Web Server > HTTPS Settings)。
4. 帯域幅: この環境で使用する帯域幅を選択します:
HiRes: 画像はカメラの設定を使って転送されます。
LoRes: LoRes: LoRes用の好み, ページ 159設定で定義されたフレームレート、解像度、画質で画像が配信されます。

カメラ構成

このセクションでは、カメラを設定するための基本的なオプションについて説明します。

カメラとカメラグループ

ここでは、カメラおよびカメラグループの管理について説明します。カメラのネットワークデータの変更、カメラグループ間のカメラの交換などが含まれます。

注! これらの管理機能を実行するには、管理者権限が必要です。

カメラの管理

カメラデータの編集

カメラのアクセスデータとネットワークデータを変更するには [カメラ設定, ページ 131](#)ダイアログを開きます。

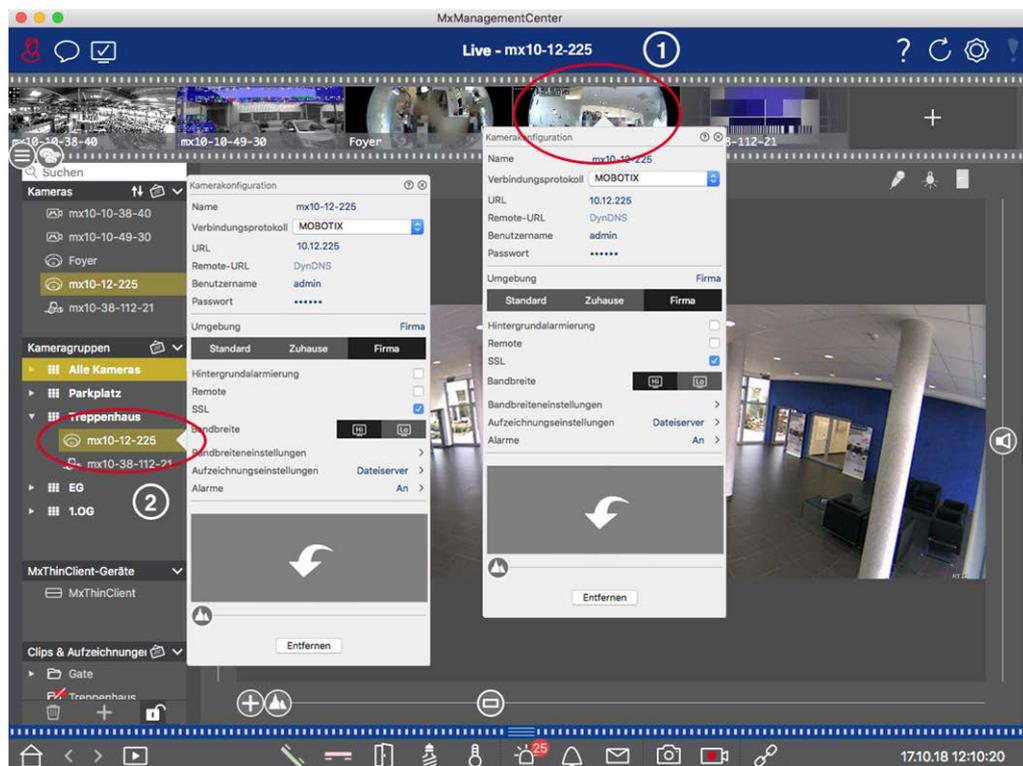


図. 56: カメラデータの編集

1. カメラ・バー① で目的のカメラを右クリックするか、デバイス・バーの編集モードを開き、対応するカメラ② を右クリックします。カメラ設定ダイアログが開きます。
2. 必要に応じてデータを編集する。

複数カメラのカメラデータの編集

マルチカメラ設定ダイアログでは、MxMC で使用される認証データと複数のカメラの環境設定をワンステップで変更できます。

1. これを行うには、 をクリックして、デバイスバーの編集モードを開きます。
2. 必要に応じてカメラを選択します。
Mac: **CMD + クリック**、Windows: **CTRL + クリック**
3. 選択したカメラの1台を右クリックします。マルチカメラ構成, ページ 145ダイアログが開きます。

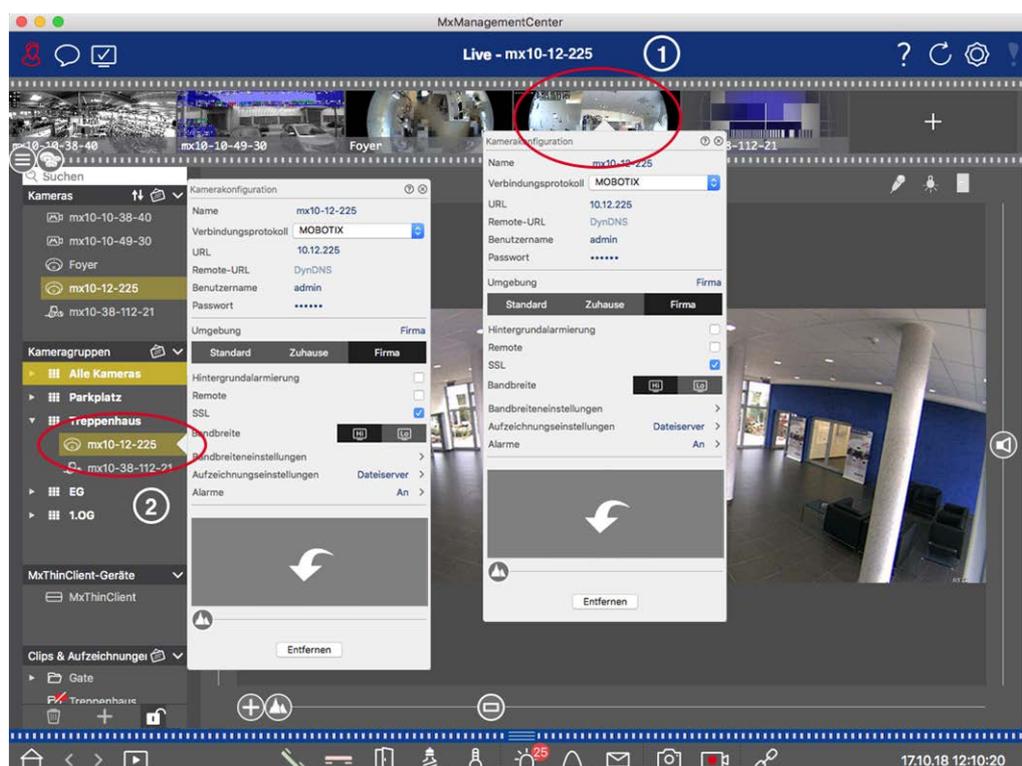
カメラのバックグラウンドアラームの有効化/無効化

注! バックグラウンドアラームは、MOBOTIX MOVE カメラおよびONVIF-S 互換インターフェースを提供する他社製カメラではサポートされていません。カメラ機能の違いの概要については、「カメラ機能の概要, ページ 11」を参照してください。

オプションが有効になっている場合、MxMC がライブ・ストリームを表示しているかどうかに関係なく、アプリケーションはカメラへのイベント・ストリーム接続を維持します。イベント・ストリーム接続を使用して、カメラはイベント情

報をMxMC に送信します。**カメラの追加**, ページ 63). イベント・ストリームの常時接続が不要な場合、または不要な場合 (カメラの台数が非常に多いシステムでシステム負荷が高い場合、または低帯域幅のネットワークでMxMCを使用する場合など) は、このオプションを無効にできます。

MxMC このオプションを無効にすると、アプリケーションは、カメラのライブ・ストリームまたはカメラ経由の録画を表示する場合など、必要な場合にのみイベント・ストリーム接続を開きます。この場合、接続が確立されている間、アラームはこのカメラに対してのみ表示されます。工場出荷時設定では、このオプションはオフになっています。



1. カメラ設定ダイアログを開くには、カメラバー① で対応するカメラを右クリックするか、デバイスバーで編集モードを開き、対応するカメラ② を右クリックします。カメラ設定ダイアログが開きます。
2. バックグラウンドアラーム機能を解除/有効にする。

カメラの削除

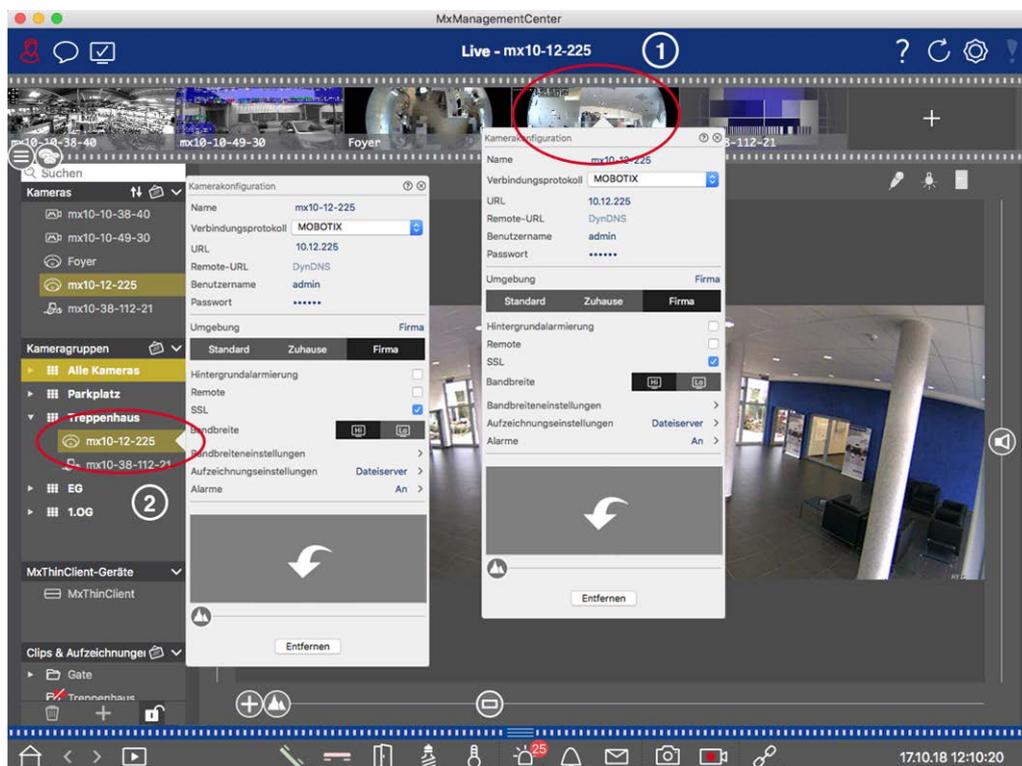


図. 57: カメラの削除

1. カメラ・バー① で対応するカメラを右クリックしてカメラ設定ダイアログを開くか、デバイスバーの編集モードを開き、対応するカメラ② を右クリックします。カメラ設定ダイアログが開きます。
2. 削除をクリックしてください。

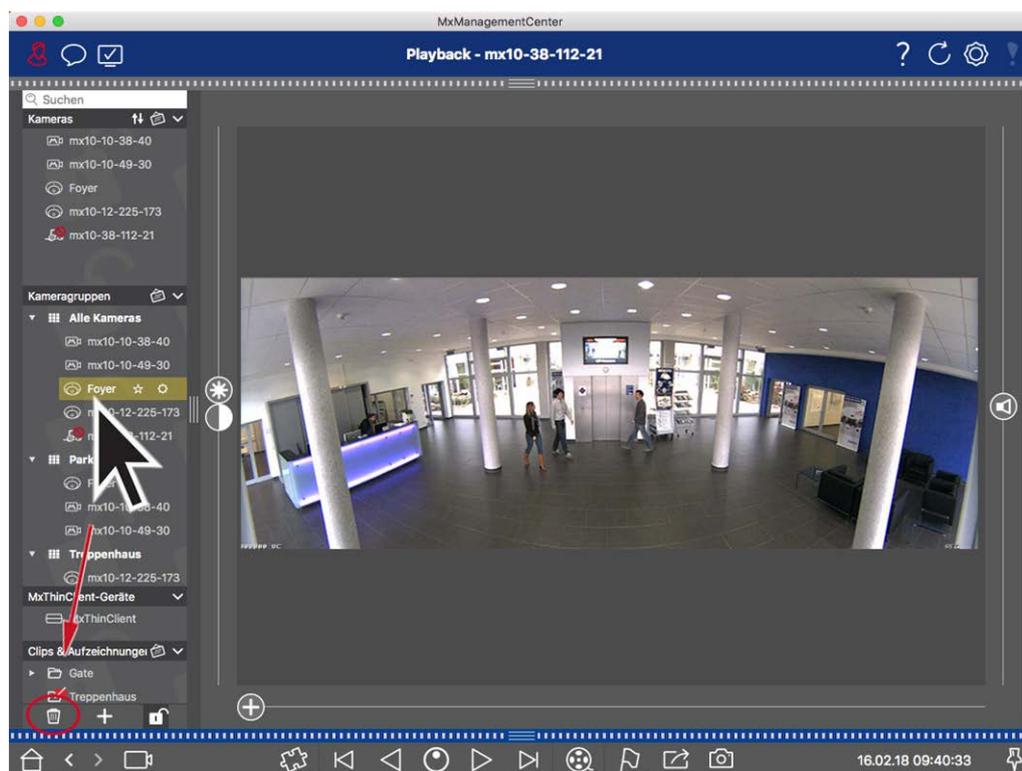
カメラグループの管理

カメラグループ間でのカメラの移動

デバイス・バーでは、カメラをグループからグループへ素早くドラッグ・アンド・ドロップできます。

1. デバイス・バーで、 をクリックして編集モードを開き、カメラをドラッグ・アンド・ドロップします。
2.  をクリックして編集モードを閉じる。

カメラグループからのカメラの削除

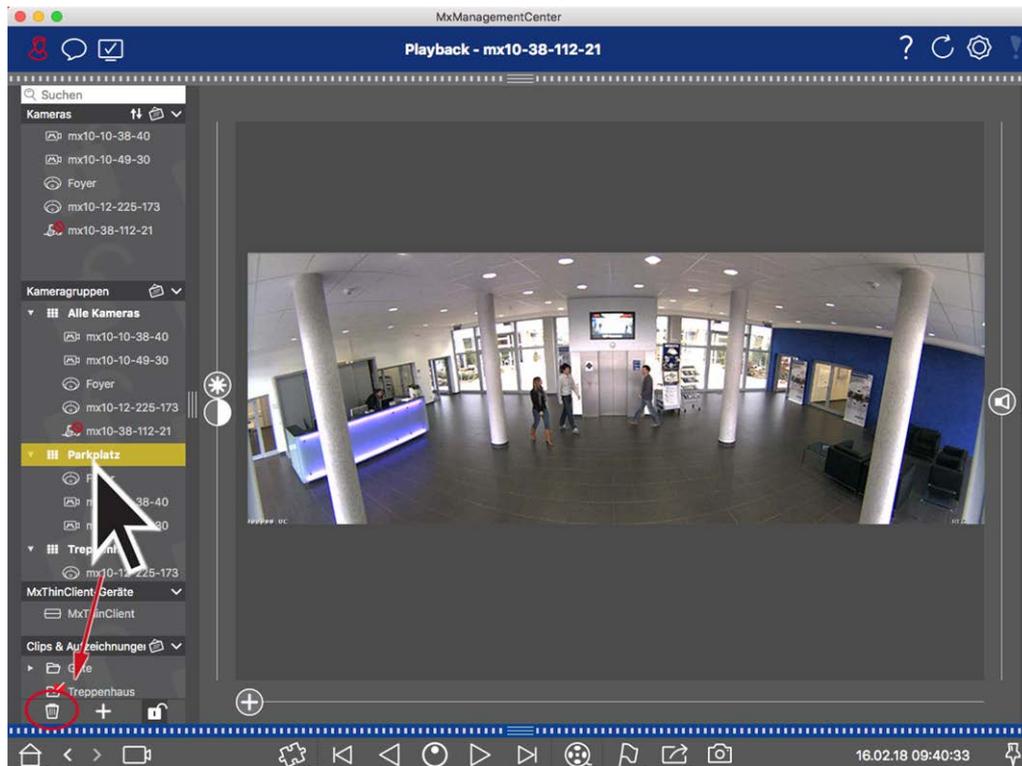


図。58: カメラグループからのカメラの削除

1.  をクリックして、デバイスバーの編集モードを開きます。
2. カメラを適切なグループから  にドラッグ・アンド・ドロップします。
3. グループからカメラを削除したら、 をクリックして編集モードを停止します。

カメラグループの削除

カメラグループを削除しても、グループに割り当てられているカメラは削除されません。



図。59: カメラグループの削除

1.  をクリックして編集モードを起動する。
2. 対応するセクションからグループを  にドラッグする。
3. 次に、 をクリックして編集モードを有効にします。

カメラ設定

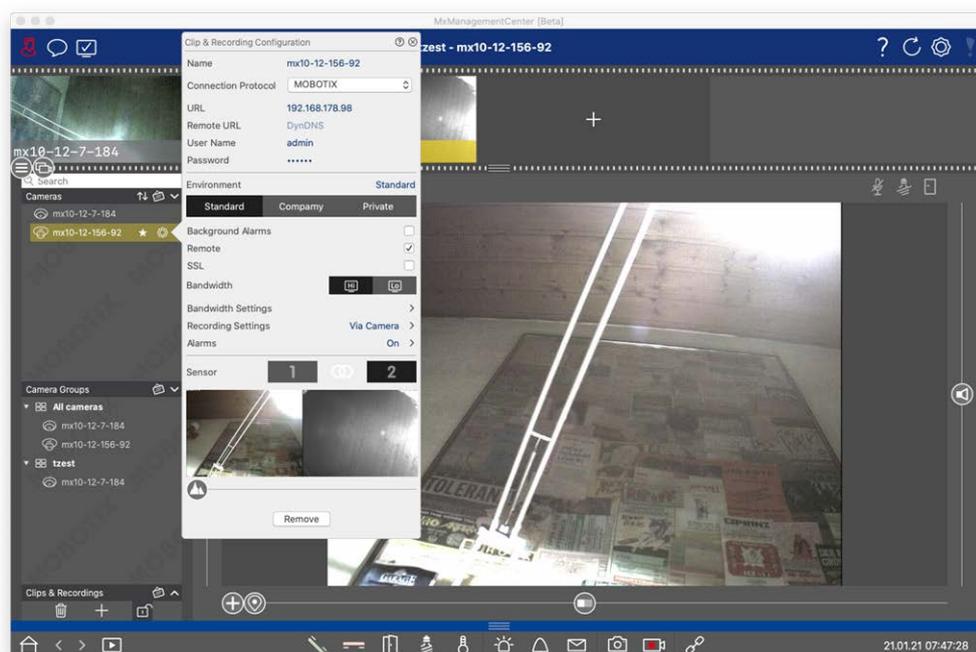


図. 60: カメラ設定

MxMC で使用できるカメラは、使用目的に応じて設定する必要があります。カメラ設定ダイアログを開いてカメラデータを入力・編集します。

複数のカメラを一括設定する場合は、SHIFT キーを押しながらカメラを選択します。

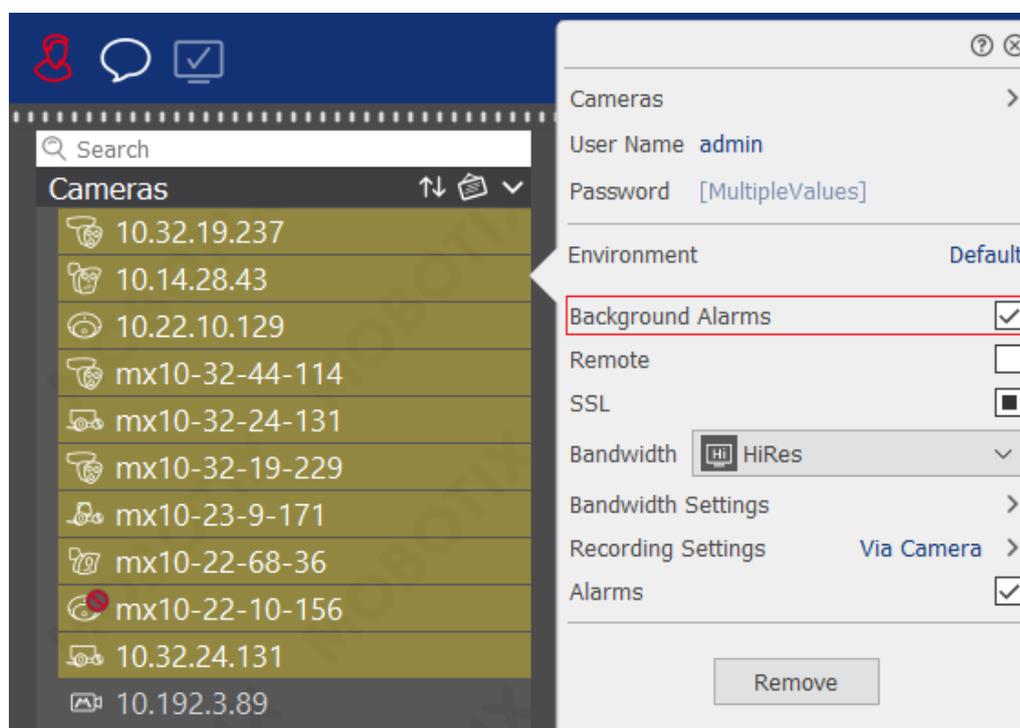


図. 61: 複数カメラの一括設定

カメラアクセスデータの設定

Clip & Recording Configuration

Name mx10-12-156-92

Connection Protocol MOBOTIX

URL 192.168.178.98

Remote URL DynDNS

User Name admin

Password

Environment **Standard**

Standard Compamy Private

Background Alarms

Remote

SSL

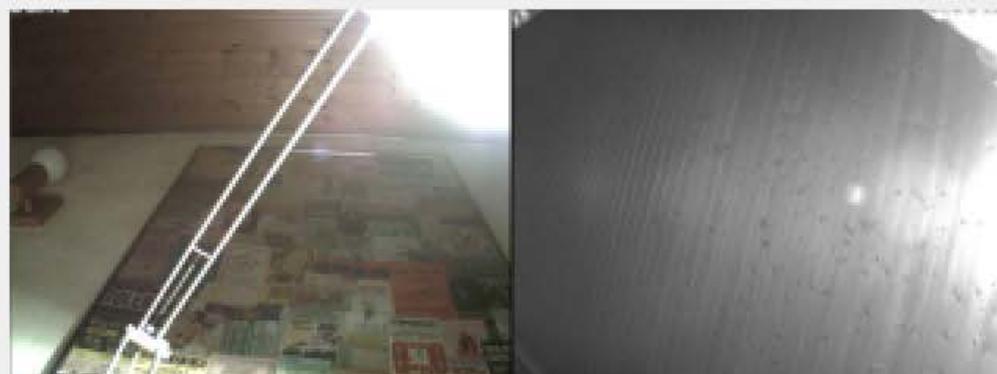
Bandwidth **Hi** Lo

Bandwidth Settings ><

Recording Settings **Via Camera** >

Alarms **On** >

Sensor **1**  **2**



図。62: カメラアクセスデータの設定

名前カメラ名が自動的に表示されます。必要に応じて、カメラごとに個別の名前を入力できます。

接続プロトコル: 接続プロトコル: MxMC でカメラとの接続を確立するには、カメラ製造元の使用可能なインターフェースに応じて、適切な接続プロトコルを選択する必要があります。ようこそウィザードでカメラを統合した場合、対応するプロトコルが自動的に使用されます。カメラを手動で追加する場合は、適切なプロトコルを選択します。以下のプロトコルを使用できます:

MOBOTIX: MOBOTIX IoT カメラとの接続を確立するには、このプロトコルを選択します。

MOBOTIX Pelco-Dと: The requirements to use Pelco-D protocol are:

MOBOTIX MxBus または RS232モジュール付きIoTカメラMxBus

Pelco-D対応のPTヘッド

シリアル・インターフェースを有効にして、カメラソフトウェアで設定する必要があります(パラメータ設定については、カメラの取扱説明書、パン・チルトヘッドのマニュアルを参照してください)。

MOBOTIX MOVE: MOBOTIX MOVE カメラとの接続を確立するには、このプロトコルを選択します。

ONVIF-S/G:このプロトコルを選択して、ONVIF-S/G 対応カメラに接続します。

Axis PTZ: AxisPTZ制御のカメラに接続するには、このプロトコルを選択します。

MOBOTIX 顔検出:このプロトコルを選択して、P7 カメラ Face Detect App に接続します。MOBOTIX
MOBOTIX

URL: IPアドレスはBonjour経由で自動的に検出されるか、手動で入力される。MxMC、IPv4とIPv6の両方の標準をサポートしている。

例 IPv6アドレス(角括弧内)とポート指定(最後のコロンの後): [2001:db8:10::1a]:16090

リモートURL: ローカルネットワーク外からカメラにアクセスするために追加する場合、対応するカメラの外部アドレス(DynDNS名など)を入力できます。

注! ローカルネットワーク外からカメラにアクセスする前に、[環境設定](#)、[ページ 135](#)設定でリモートオプションを有効にする必要があります。

ユーザ名、パスワード: カメラの追加時に入力したデータにアクセスします。

環境設定

Clip & Recording Configuration

Name: mx10-12-156-92

Connection Protocol: MOBOTIX

URL: 192.168.178.98

Remote URL: DynDNS

User Name: admin

Password:

Environment Standard

Standard	Compamy	Private
----------	---------	---------

Background Alarms

Remote

SSL

Bandwidth Hi Lo

Bandwidth Settings >

Recording Settings Via Camera >

Alarms On >

Sensor 1 2



図。63: カメラネットワーク環境の設定

環境:現在のネットワーク環境を表示します。初回起動時は標準環境が表示されます。既存のネットワーク環境はすべて青いバーに表示されます。使用したい環境をクリックしてください。次に、この環境で使用するネットワーク設定を入力します。環境を定義するには、[ネットワーク環境](#), [ページ 123](#)参照してください。

バックグラウンドアラーム:チェックすると、MxMC がライブ・ストリームを表示しているかどうかに関係なく、MxMC はカメラへのアクティブなイベント・ストリーム接続を維持します。

イベント・ストリーム接続を使用すると、カメラはイベント情報をMxMC に送信し、設定に応じてアラームとして表示します([カメラの追加](#), [ページ 63](#)参照)。イベント・ストリームの常時接続が不要な場合、または不要な場合は、このオプションを無効にできます(非常に多くのカメラを使用するシステムでシステム負荷が高い場合、または低帯域幅ネットワークでMxMCを使用する場合など)。

MxMC このオプションを無効にすると、アプリケーションは、カメラのライブ・ストリームまたはカメラ経由の録画を表示する場合など、必要な場合にのみイベント・ストリーム接続を開きます。この場合、接続が確立されている間、アラームはこのカメラに対してのみ表示されます。工場出荷時設定では、このオプションは無効になっています。

注! バックグラウンドアラームは、MOBOTIX MOVE カメラおよびONVIF-S 互換インターフェースを提供する他社製カメラではサポートされていません。カメラ機能の違いについては、「[カメラ機能の概要](#)」を参照してください。

リモート 遠隔地からカメラにアクセスする場合は、このオプションをオンにします(DynDNS経由)。

SSL:カメラとの接続を暗号化する場合は、このオプションをオンにします。デフォルトでは、MxMC とカメラ間の接続は暗号化されません。カメラでHTTPSを有効にする必要があることに注意してください([ブラウザのAdmin Menu > Network Configuration > Web Server > HTTPS Settings](#))。

注! このオプションは、MOBOTIX MOVE カメラおよび ONVIF S 互換インターフェースを提供する他社製カメラではサポートされていません。カメラの機能の違いについては、「[カメラ機能の概要](#), [ページ 11](#)」を参照してください。

帯域幅:カメラからの画像をデフォルトでHiResまたはLoResのどちらで取得するかを選択します。HiResおよびLoRes接続に使用される値(フレームレート、画像サイズ、画質)は、「[帯域幅の設定](#)」(MOBOTIX IoTカメラ) および「[接続の設定](#)」(MOBOTIX MOVEカメラ) で設定します。

帯域幅設定 (MOBOTIX カメラ)

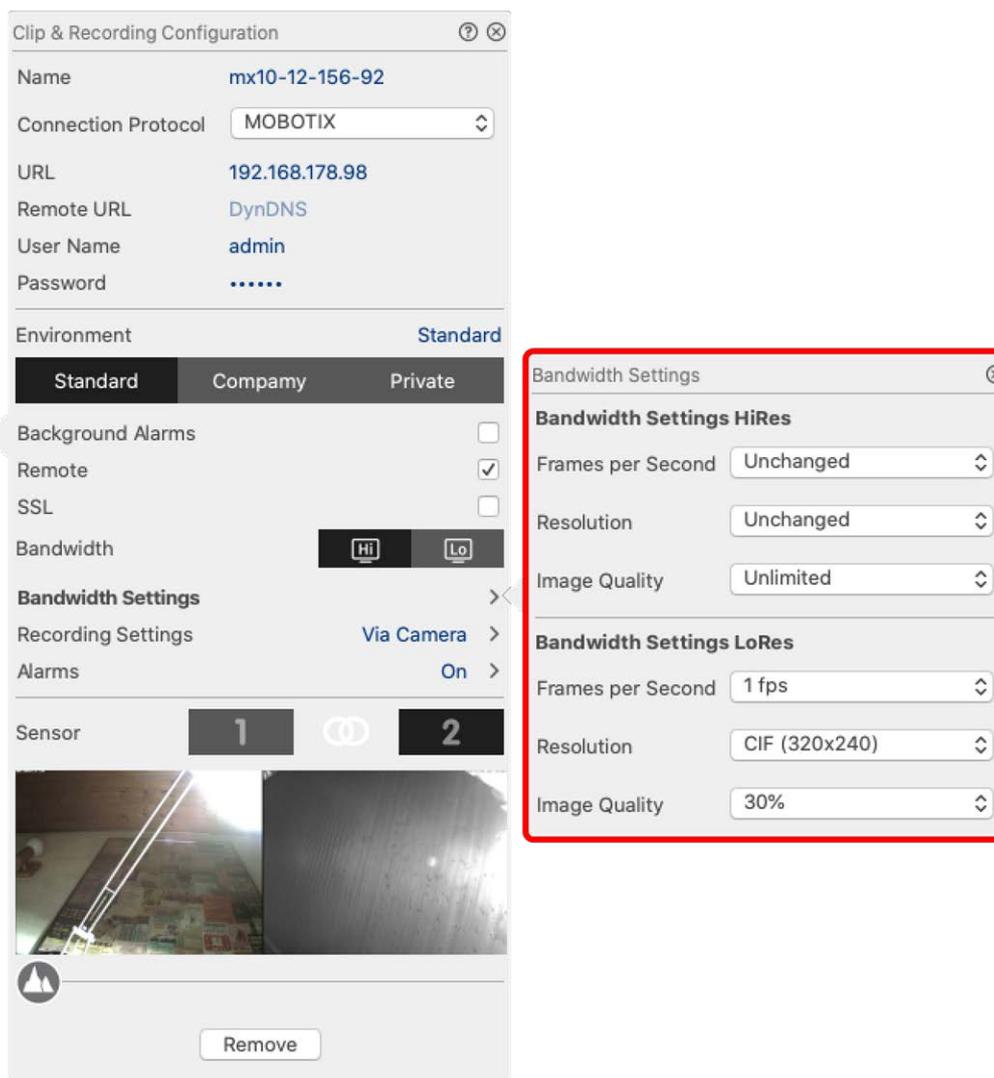


図. 64: 帯域幅設定 (MOBOTIX カメラ)

HiResおよびLowResビデオプロファイルの帯域幅設定を指定するには、以下の値を設定します:

- フレームレート(単位 : フレーム/秒
- 決議
- 画質

接続設定 (MOBOTIX MOVE/ONVIF-S/G カメラ)

注意! MOBOTIX カメラの帯域幅設定とは対照的に、MOBOTIX MOVE /ONVIF-S/G カメラのメディアプロファイルの変更はカメラで直接行われます。そのため、この変更はこれらのプロファイルを使用するすべてのアプリケーションに影響します。

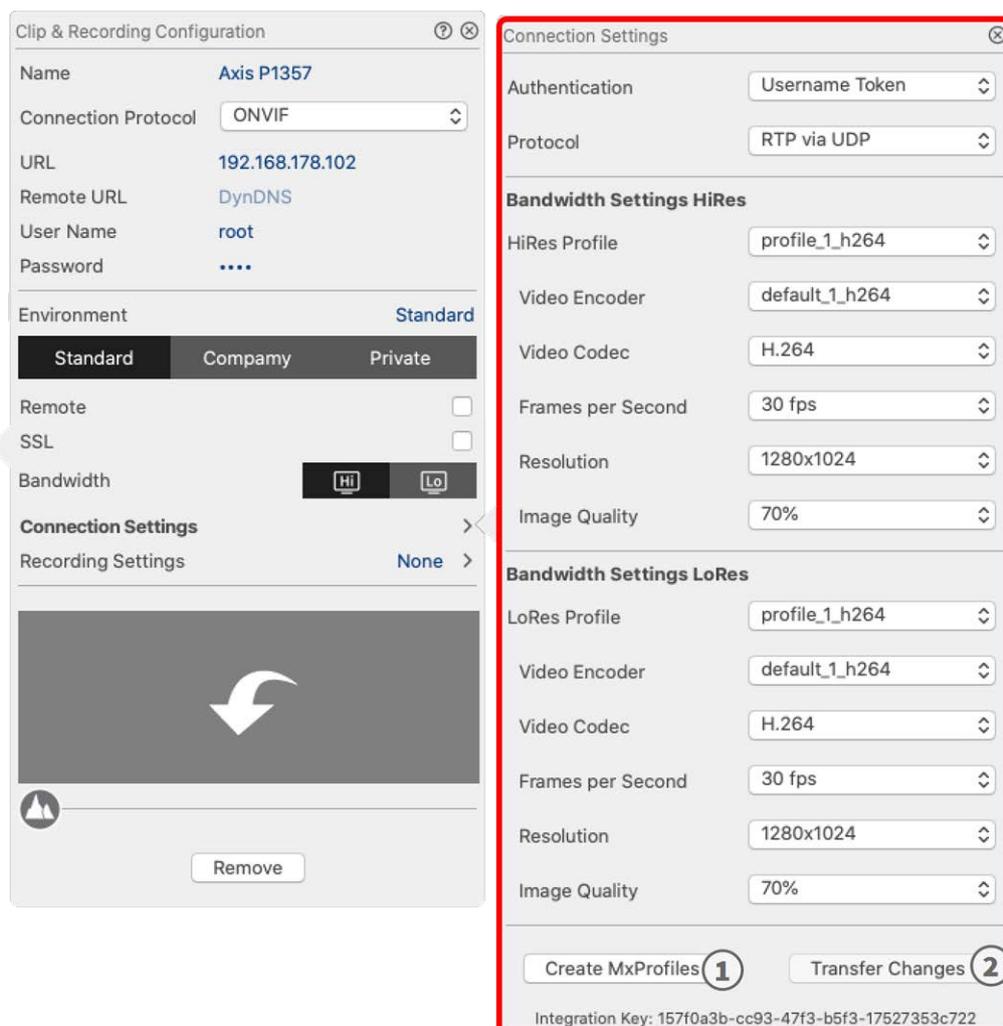


図. 65: 接続設定 (MOBOTIX MOVE/ONVIF-S/G カメラ)

指定できる:

認証方法以下から選択

- ユーザー名トークン
- ダイジェスト

HiResおよびLowResビデオプロファイルの帯域幅設定を指定するには、以下の値を設定します。

- **HiRes/LoResプロファイル**。カメラのONVIF-S/G プロファイルとして定義される:
- **ビデオエンコーダープロファイル**
- **ビデオコーデック**
- **フレームレート**(単位 : フレーム/秒
- **決議**
- **画質**

Create MxProfile ① (**Mxプロファイルの作成**) をクリックして、カメラのMOBOTIX 環境に最適化されたプロファイルを作成します。デフォルトでは、MxManagementCenter、HiRes用の**MxHiQuality**とLoRes用の**MxLoQuality**という2つのプロファイルが作成されます。

変更を転送する(Transfer changes ②) をクリックして、読み込んだプロファイルの変更をカメラに転送します。

録音設定

保存された録画は、接続プロトコルに応じてさまざまな方法でアクセスできます。

MOBOTIX :

- **カメラ経由 (MOBOTIX)** : カメラは録画へのアクセスを扱います。
- **ローカルパス** : ローカルパス(録画はローカルコンピュータでアクセスされます) 。
- **FileServer** : ファイルサーバーは、MxMC (「[ファイルサーバーの設定, ページ 212](#)」を参照) で設定すると選択できるようになる。

MOBOTIX MOVE / ONVIFカメラ使用時 :

- **MOVEレコーダー** : 定義されたMOBOTIX NAS 経由で録画にアクセス。アクセスデータはファイルサーバー設定で定義できます([ファイルサーバーの設定, ページ 212](#)参照) 。

アラーム通知の設定と変更

注! アラーム機能は、MOBOTIX MOVE カメラおよびONVIF-S 互換インターフェースを提供する他社製カメラではサポートされていません。カメラ機能の違いの概要については、「[カメラ機能の概要, ページ 11](#)」を参照してください。

このセクションでは、対応するイベントがトリガーされた場合にアラームを発生させるイベントタイプを選択できません。アラームは以下の場所に表示されます:

- **アラームバー**が赤または緑(ドアベル)に変わり、アラーム画像がアラームバーに表示されます。
- **アラーム情報バー**は、ライブ画像で赤または緑(ドアベル)に点灯します。
- **アラーム設定**により、アラート用のビジュアルおよびサウンド通知を設定できます(Mac:**MxManagementCenter > 設定**、Windows:**ファイル > 設定**) 。

1. **Alarms** をクリックします。**Alarm Events**ダイアログが開きます。

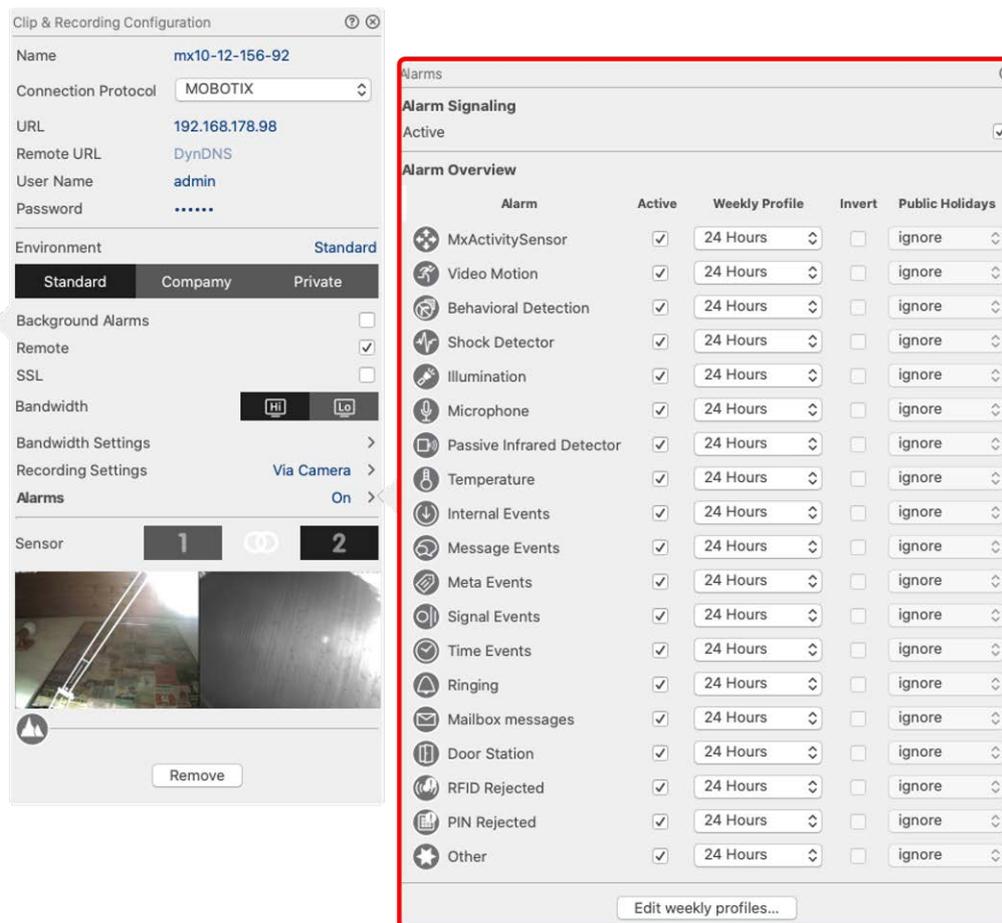


図. 66: アラーム通知の編集

2. アラームシグナルをアクティブにする。
3. アラームをトリガーするイベントタイプを選択します。
4. さらに、アラームをトリガーするイベントタイプごとに週プロファイルを選択できます。他の週プロファイルが選択されていない限り、設定は月曜 00:00 から日曜 24:00 まで有効です。
 - 新しい週間プロファイルを作成するには、 をクリックします。週間プロファイルダイアログが開きます。Weekendプロファイル(土曜00:00～日曜24:00)など、いくつかの定義済みプロファイルが利用できます。
 - プロフィールを追加するには、 をクリックします。説明を入力します。表内のアクティブな時間帯をハイライトします。アクティブな時間ブロックのサイズを変更するには、時間ブロックをクリックし、それに応じて枠を移動します。ブロックをクリックして選択し、新しい位置にドラッグします。タイムブロックを削除するには、 をクリックします。
 - 既存のプロファイルの説明を変更できます。名前を右クリックして上書きしてください。
5. 週間プロフィールを選択するには、イベントタイプの隣にある週間プロフィールドロップダウンリストをクリックし、希望のプロフィールをハイライトします。カレンダーアイコンが白くなります。

- 週間プロフィールの設定を簡単に反転するには、カレンダーアイコンをクリックします。例えば、営業時間を設定したプロフィールを作成し、閉店時間に合わせてアラームを作動させたい場合、カレンダーアイコン  をクリックしてプロフィールを反転させます。アイコンが赤くなります。

センサー設定 (MOBOTIX カメラ)

Clip & Recording Configuration

Name: mx10-12-156-92

Connection Protocol: MOBOTIX

URL: 192.168.178.98

Remote URL: DynDNS

User Name: admin

Password:

Environment: Standard

Standard | Compamy | Private

Background Alarms:

Remote:

SSL:

Bandwidth: Hi | Lo

Bandwidth Settings >

Recording Settings: Via Camera >

Alarms: On >

Sensor: 1 | 2 | 1



144 / 342

図。67: センサー設定 (MOBOTIX カメラ)

注! センサー設定は、2つの光学センサーを備えたMOBOTIX カメラでのみ利用可能です。

MxManagementCenter でセンサーの統合方法を指定できます。

- センサー 1 または 2① をクリックして、センサー名を編集します。
- センサーの統合アイコン② をクリックして、両方のセンサーを 1 台のカメラとして統合し、MxMC に統合します。
- 統合センサーアイコン③ をクリックして、両方のセンサーの統合を解除します。各センサーはMxMC で個別に設定可能なカメラとして統合されます。
- 選択したセンサーのプレビュー画像として最近のビデオフレームを設定するには、プレビューフィールド④ をクリックします。

マルチカメラ構成

マルチカメラ設定ダイアログボックスにより、MxMC で使用される認証データと多数のカメラの環境設定を一度に変更できます。ダイアログを開くと、アプリケーションはカメラの現在の設定を表示します。フィールドには "multiple values"(複数の値) と表示されるか、1つのオプションに複数の異なる設定がある場合、 のチェックボックスにマイナス記号が表示されます。

設定オプションの意味

項目の意味はフィールドタイプによって異なる。そこで以下の表では、フィールドタイプごとに可能なエントリーとその意味を簡単に説明する。

フィールドタイプ	現在のステータス
	すべてのカメラはadminというユーザ名を持っています。 カメラには異なるユーザー名があります。
	
<input checked="" type="checkbox"/>	この設定はすべてのカメラで有効になっています。
<input type="checkbox"/>	この設定はすべてのカメラで無効になっています。
	カメラには異なる設定がある。
	すべてのカメラの帯域幅設定として「HiRes」が設定されています。
	カメラは異なる価値観を持っている。

設定の編集

マルチカメラ設定ダイアログのフィールドと設定は、カメラ設定ダイアログのフィールドと設定とほぼ同じです。異なる点は、設定の編集方法です。したがって、ここでは編集についてのみ説明します。設定の一般的な意味については、ヘルプの[カメラアクセスデータの入力と編集](#)を参照してください。

カメラ設定ダイアログとは異なり、マルチカメラ設定ダイアログではまだ保存されていない設定をリセットできます。フィールドの種類によって、使用できる方法が異なります。

フィールド 説明

タイプ

ユーザー名などの設定のテキストボックスを変更すると、右側に小さな十字が表示されます。十字をクリックすると、その項目が元の値にリセットされます。

ダイアログを閉じると、以前の設定が復元されます。

選択ボックスで**Several Values**を選択した場合、ダイアログを閉じると前の設定に戻ります。

セッティングに関する注意事項

以下のフィールドを処理する際には、これらの特別な機能に従わなければならない:

■ 録画パス

ローカルパス: ローカルパスオプションはすべてのカメラで選択できます。カメラ設定ダイアログで各カメラのパスを個別に入力する必要があることに注意してください(「[ネットワークデータの入力と編集](#)」の「録画パス」を参照)。

録画パス: 録画パス: 録画パスを選択すると([ネットワークデータの入力と編集の録画パス](#)を参照)、MxMCは自動的に各カメラのデバイスディレクトリを検索します。プログレス・バーがOKに変われば、検索は完了です。事前にダイアログを閉じた場合は、カメラ設定ダイアログで各カメラのデバイスディレクトリを入力する必要があります。

■ アラーム

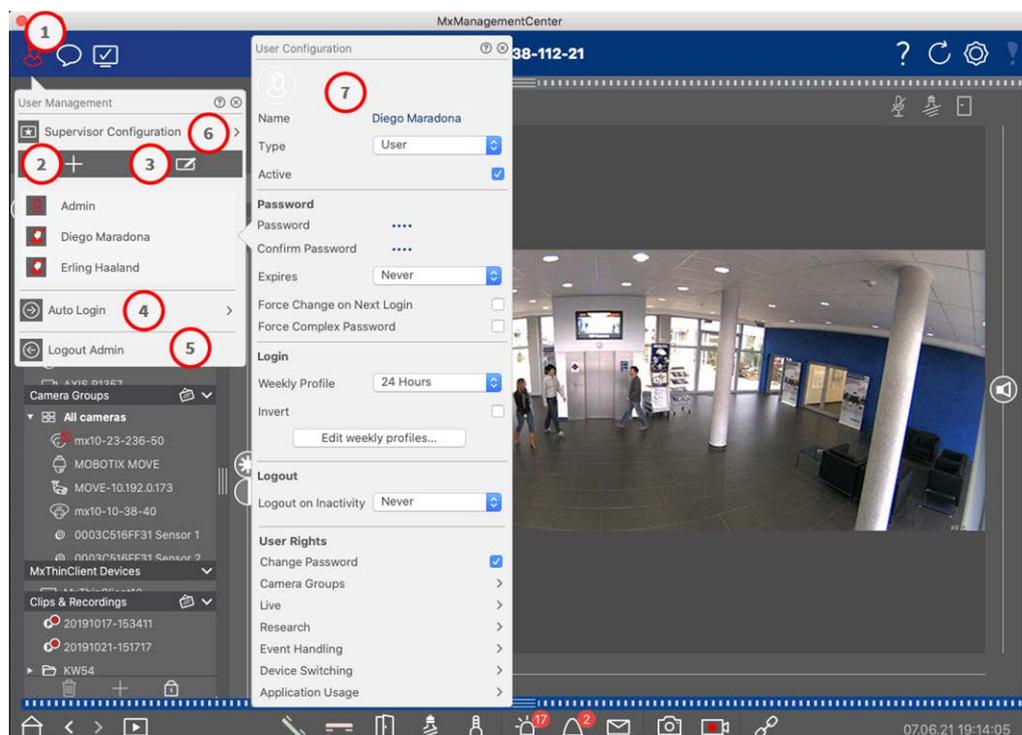
アラーム]オプションは、すべてのカメラのアラーム通知をオンまたはオフにします。イベントタイプのアラーム設定は、カメラごとに個別に設定する必要があります。そのためには、[カメラ設定ダイアログ](#)を使用します([アラーム通知の設定と変更](#)を参照)。

ユーザー管理

MxManagementCenter のユーザー設定セクションでは、すべてのユーザーを管理者が管理することができます。3種類のユーザーを管理することができます:

- 管理者
- ユーザー
- スーパーバイザー

詳細は[ユーザータイプ](#), ページ 154参照。



図。68: ユーザー設定

ユーザー設定セクションを開くには、ヘッダーバーの  ① をクリックします。

ユーザーの追加

1.  アイコン② をクリックしてユーザーを追加する。
2. 対応するユーザー名を入力します。
3. ユーザータイプを選択します: **ユーザー**、**管理者**、または**監督者**。

注! ユーザータイプはデフォルトで**User**に設定されています。

4. パスワードを入力し、確認する。
5. **強制複雑パスワードオプション**は、ユーザーが**安全なパスワードのみ**を設定できるようにする。

注! 安全なパスワードは、少なくとも8文字で、小文字と大文字で構成され、少なくとも1つの特殊文字、1桁の数字、1文字を含みます。さらに、このユーザーアカウントで最後に使用された13個のパスワードのうちの1つであることはできません。条件を満たさないパスワードを設定しようとすると、テキストフィールドの周りに赤枠が表示されます。

その他の設定はユーザータイプによって異なります。詳しくは[ユーザー設定](#), ページ 149.

ユーザーの削除

アイコン③ をクリックし、削除したいユーザーの隣にある  をクリックします。

注! デフォルトの管理者は削除できません。

ユーザー設定

ユーザー設定⑦ は、新規ユーザーを追加するとき、または既存のユーザーをクリックするときに表示されます。設定の詳細については、[ユーザー設定](#), ページ 149参照してください[ユーザー設定](#), ページ 149

自動ログイン

自動ログインオプション④ では、MxManagementCenter の起動時に自動的にログインするユーザーを選択できます。

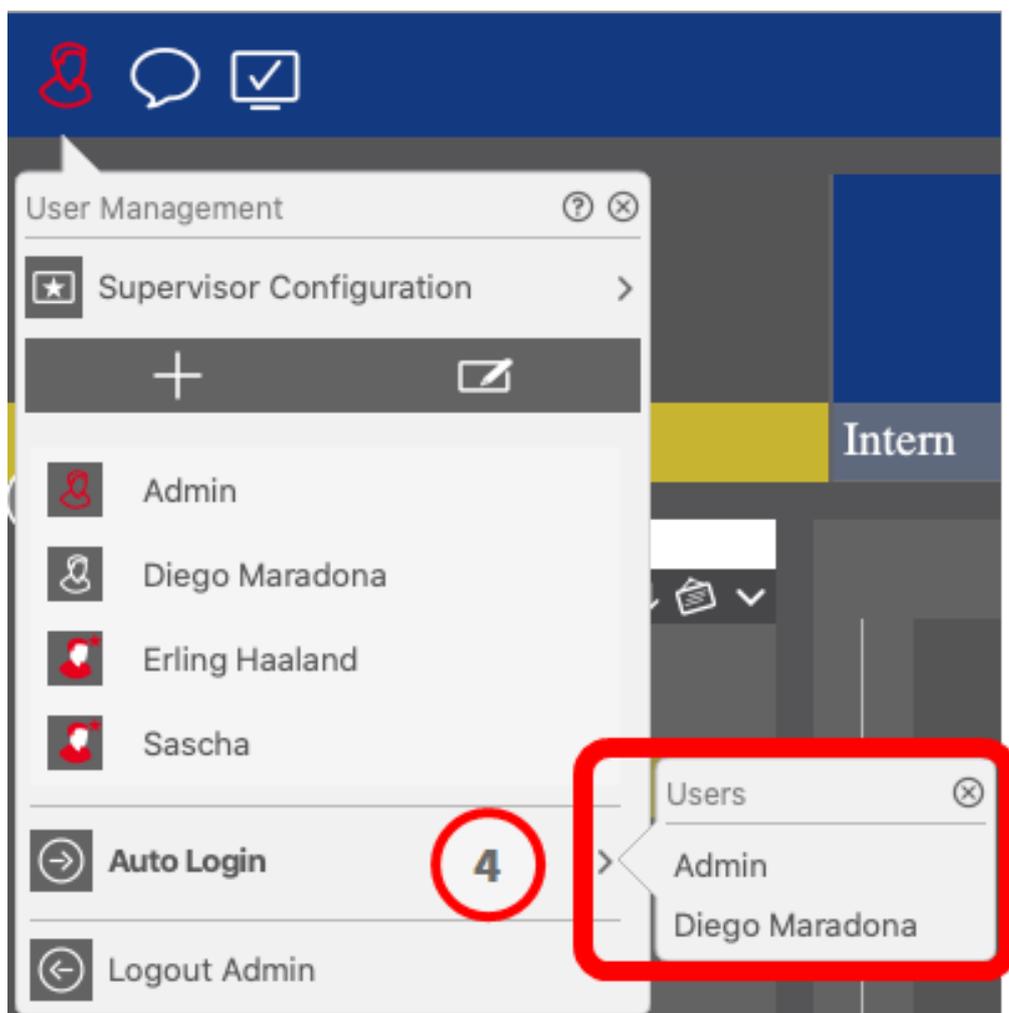
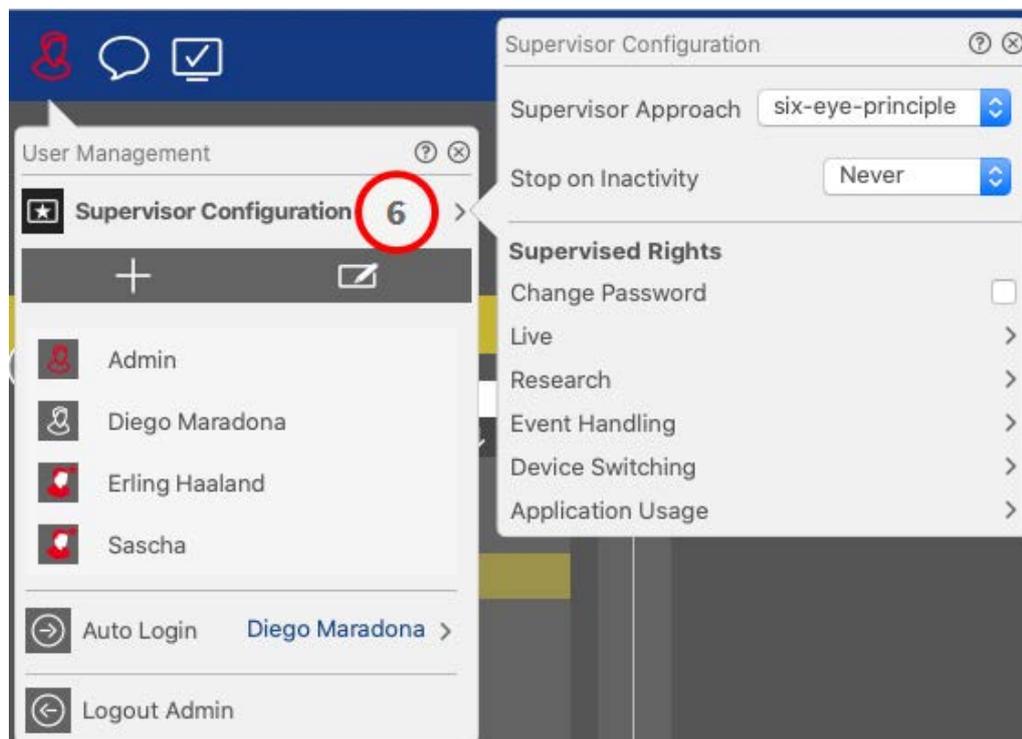


図. 69: 自動ログイン

監督

スーパーバイザーは、通常のユーザーがアクセス権を持たない機能を実行することができます。これらの機能は、スーパーバイザーモードを開始することで一時的に使用できるようになります。スーパーバイザー・アプローチとスーパーバイザー権限の詳細については、「[スーパーバイザー設定, ページ 154](#)」を参照してください。



図。70: スーパーバイザー設定

1. **Supervisor Configuration** をクリックして、スーパーバイザーの設定を編集します(「[スーパーバイザー設定, ページ 154](#)」を参照)。
2. さらに、このユーザーが何分間操作されなかったら自動的にログアウトするかを指定することもできます。

注! 録画が再生ビューまたはグリッド再生で再生されている間、MxMC は、指定された時間が経過しても自動的にスーパーバイザーモードを終了しません。

3. パスワード入力後にアクセスできる機能を選択します。

ユーザー設定

ユーザー設定には[ユーザー管理, ページ 146](#)ダイアログからアクセスできます。設定はユーザータイプによって異なります([ユーザータイプ, ページ 154](#)参照)。

新規ユーザーを追加する場合、または既存のユーザーをクリックする場合、以下の設定を編集することができます:

基本設定

The screenshot shows a 'User Configuration' window with the following details:

- Name:** Diego Maradona
- Type:** User (selected from a dropdown menu)
- Active:**

図. 71: ユーザー基本設定

以下の基本設定が可能です:

名前: 名前ログイン画面などに表示されるユーザー名を入力してください。

タイプ: ユーザータイプを選択します([ユーザータイプ](#), ページ 154参照)。

アクティブにする: ユーザーをアクティブにする場合はチェックします(デフォルト)。

パスワード

The screenshot shows the password configuration section with the following details:

- Password:** [Redacted]
- Confirm Password:** [Redacted]
- Expires:** Never (selected from a dropdown menu)
- Force Change on Next Login:**
- Force Complex Password:**

図。72: ユーザーパスワードの設定

パスワード: ログインパスワードを入力します。

パスワードの確認 パスワードを繰り返します。

有効期限: パスワードを頻繁に更新する期間を選択します。

次回ログイン時に強制変更: 次回ログイン時にパスワードを変更する必要があるかどうかを確認します。

Force Complex Password(複雑なパスワードの強制): パスワードが以下の条件を満たす必要があるかどうかをチェックする。

強力なパスワードの条件

- 少なくとも8文字
- 小文字と大文字を含む
- 数字を含む
- 少なくとも1つの特殊文字を含む! @ #?]
- このユーザーアカウントで使用された最後の13個のパスワードのうちの1つであってはならない。

注! 条件を満たさないパスワードを設定しようとすると、テキストフィールドの周りに赤枠が表示されます。

ログイン

注! 管理者は常にすべての権利とMxMCへのアクセス権を持っているため、管理者を作成する際にはこのセクションは表示されません。

The screenshot shows a configuration window titled 'Login'. It contains the following elements:

- Weekly Profile:** A dropdown menu currently displaying '24 Hours' with a blue arrow icon on the right.
- Invert:** A checkbox that is currently unchecked.
- Edit weekly profiles...:** A button located below the 'Invert' checkbox.

図。73: ログイン

週間プロフィール: Weekly Profileを選択すると、ユーザーはプロフィールで指定された時間帯にのみシステムにアクセスできるようになります。

注! プロファイル「24時間」はデフォルトで設定されている。これは、ユーザーが常にMxMCにアクセスできることを意味する。

反転: チェックすると、選択した週プロフィールで定義されているアクセス時間が反転します。

週間プロフィールを編集する 週間プロフィールの編集を作成または編集する場合はクリックしてください。ダイアログが開き、**Weekly profiles**と**Holidays**のオプションが表示されます。詳しくは[週間プロフィール](#), ページ 157をご覧ください。

ログアウト

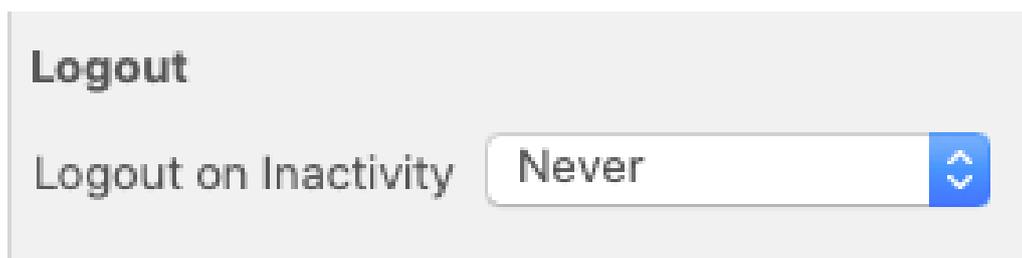


図. 74: ログアウト

非アクティブ時のログアウト: 無操作状態が何分続くと自動的にログアウトするかを選択します。

ユーザーの権利

すべての新規ユーザは、初期状態ではすべての可能なユーザ権限を持っています。**ユーザ権限**セクションで、特定のユーザが使用できない権限を無効にします。

注! 管理者は常にすべての権利とMxMCへのアクセス権を持っているため、管理者を作成する際にはこのセクションは表示されません。



Change Password:ログインパスワードの変更を許可する場合にチェックします。

カメラグループユーザーがアクセスできるカメラグループを選択します。

ライブ:ライブモードで使用できる機能を選択します:

- トーク
- 受話
- カメラPTZ
- 帯域幅の変更

研究:リサーチモードで使用できる機能を選択します:

- オーディオ再生
- プレイバック
- スマートデータ検索ビュー
- ヒストグラム・バー
- 輸出
- ライブレコーダー

イベント処理:ユーザーが処理できるイベントを選択します:

- アラームの確認
- すべてのアラームを確認する
- アラームの確認とコメント
- すべてのアラームの確認とコメント
- イベントフィルターの変更
- Event Types:
 - [アラームバー, ページ 54](#)表示される選択されたイベント。

デバイス切り替え:ユーザーが切り替え可能なデバイスを選択します:

- ドア
- 照明
- ハイパーリンク

アプリケーションの使用:ユーザーが使用できるMxManagementCenter のモジュールを選択します:

- ヘッダーバー
- ツールバー
- デバイスバー
- カメラバー

- グループ・バー
- アラームバー
- 輸出バー
- MxThinClient デバイス
- クリップス
- 行動ログ
- スイッチ環境
- プライバシーモード
- AIカメラアプリ

ユーザータイプ

管理者:管理者は、MxMC の設定と使用に関するすべての権限を持ちます。

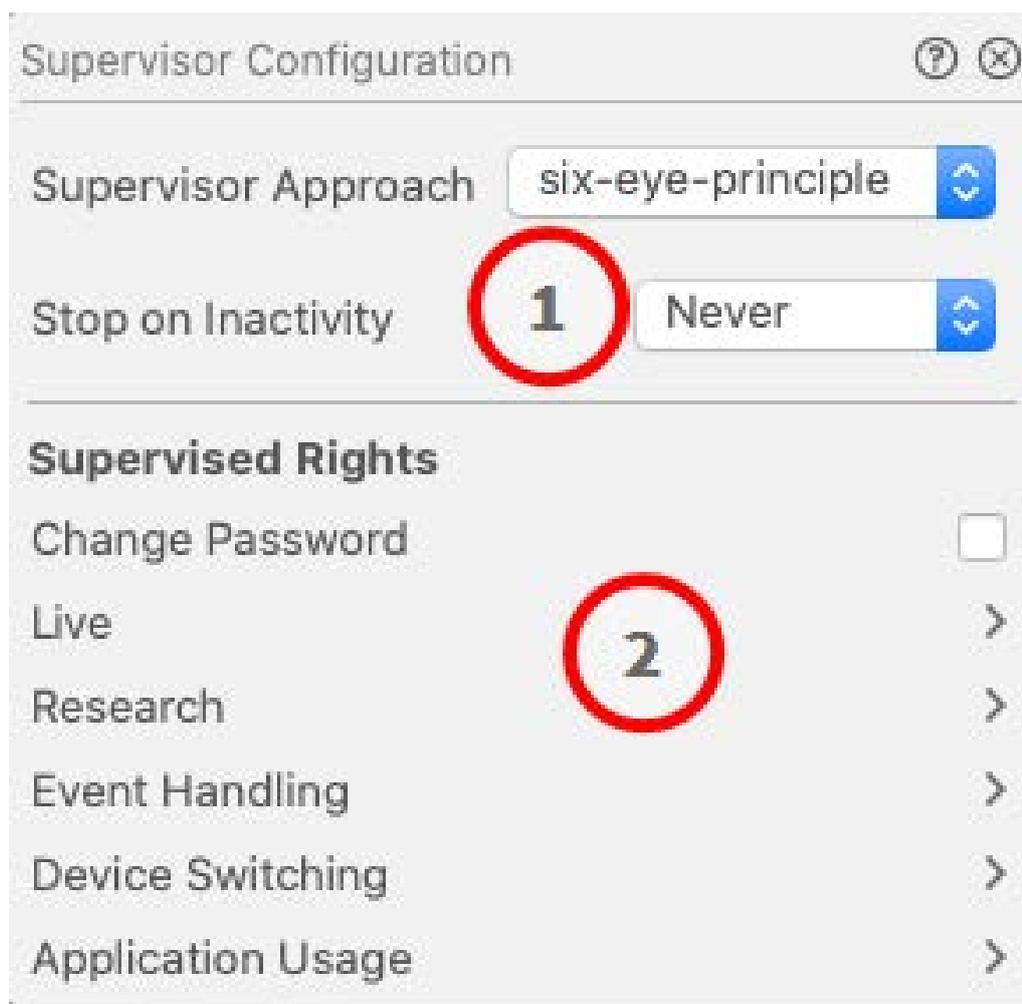
ユーザー:ユーザーは管理者のみが追加できます。一般ユーザーはMxMC を設定することはできません。ユーザー権限に応じて、システムを使用することができます、

監督:スーパーバイザーは管理者のみが追加できます。スーパーバイザーになると、一般ユーザーが権限を持たない機能を実行することができます。スーパーバイザーは、一般ユーザーの他に一時的にログインすることができます。例えば、四つの目の原則に基づいて録画のみを見ることができます。スーパーバイザーは管理者権限を持ちません。[スーパーバイザー設定, ページ 154](#)参照してください。

[ユーザー管理, ページ 146](#)参照のこと。

スーパーバイザー設定

スーパーバイザー設定には、[ユーザー管理, ページ 146](#)ダイアログからアクセスできます。設定はユーザータイプによって異なります([ユーザータイプ, ページ 154](#)参照)。



図。75: スーパーバイザー設定

☑ Supervisor Configurationでは、以下の設定が可能です:

基本設定

以下の基本設定①:

スーパーバイザーのアプローチ監督アプローチを選択

- 無効(デフォルト): スーパーバイザーモードの起動は不可
- 四つの目の原則: スーパーバイザーモードは、現在のユーザーに加えてスーパーバイザーがログインした場合にのみ開始できる。
- six-eye-principle: スーパーバイザーモードは、現在のユーザーに加えて2人のスーパーバイザーがログインした場合にのみ起動できる。

非アクティブ時に停止: 非アクティブ時にスーパーバイザーモードを自動的に終了する時間を選択します。

監督された環境

Supervised Rightsセクション②では、スーパーバイザーモードで使用可能な機能を有効にすることができます。

パスワードの変更:現在のユーザーのパスワードの変更を許可する場合はチェックする。

ライブ:ライブモードで使用できる機能を選択します:

- トーク
- 受話
- カメラPTZ
- 帯域幅の変更

研究:リサーチモードで使用できる機能を選択します:

- オーディオ再生
- プレイバック
- スマートデータ検索ビュー
- ヒストグラム・バー
- 輸出
- ライブレコーダー

イベント処理:ユーザーが処理できるイベントを選択します:

- アラームの確認
- すべてのアラームを確認する
- アラームの確認とコメント
- すべてのアラームの確認とコメント
- イベントフィルターの変更

デバイス切り替え:ユーザーが切り替え可能なデバイスを選択します:

- ドア
- 照明
- ハイパーリンク

アプリケーションの使用:ユーザーが使用できるMxManagementCenterのモジュールを選択します:

- ヘッダーバー
- ツールバー
- デバイスバー
- カメラバー
- グループ・バー
- アラームバー
- 輸出バー

- MxThinClient デバイス
- クリップス
- 行動ログ
- スイッチ環境
- プライバシー モード
- AIカメラアプリ

週間プロフィール

ユーザー管理, ページ 146、プロフィールのタイムスケジュールに従ってMxMC へのアクセスを許可するウィークリー・プロフィールをユーザーに選択することができます。以下の手順では、週次プロファイルと休日を編集する方法を説明します。

週間プロフィールの編集

週末プロファイル(土曜00:00～日曜24:00)と営業日プロファイル(月曜00:00～金曜24:00)です。

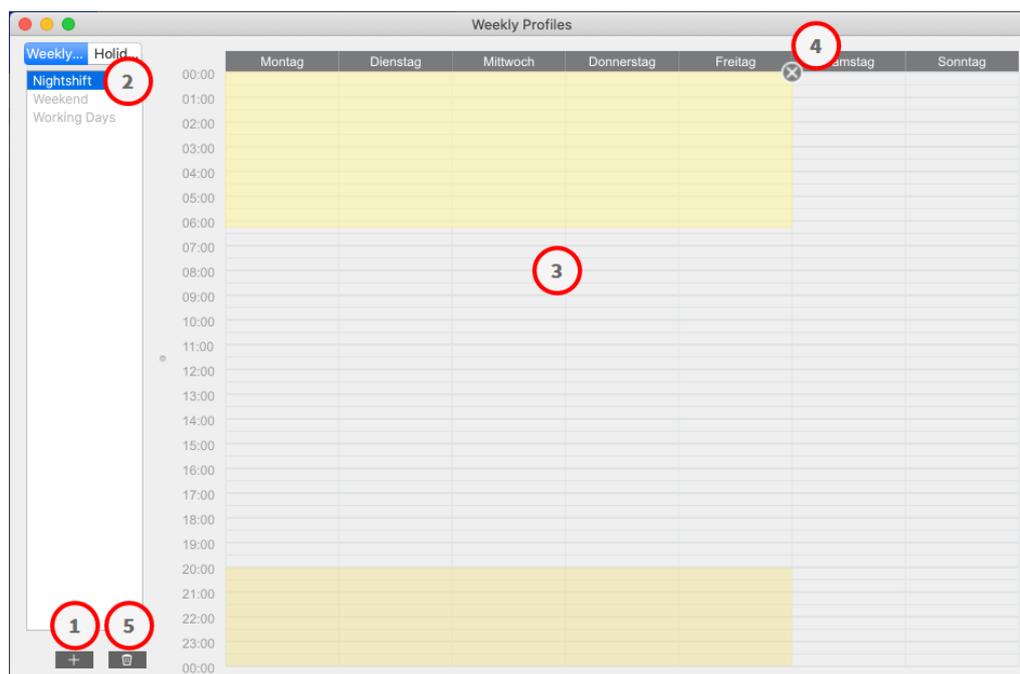


図. 76: 週刊プロフィール編集部

週間プロフィールを編集するには、以下のオプションがあります：

週間プロフィールの追加

1. **+**① をクリックする。
2. 名前を入力②。

3. In the time table ③

- マウスをドラッグして、アクティブなタイムブロックを指定します。
- アクティブなタイムブロックのサイズを変更するには、タイムブロックをクリックし、それに応じてボーダーを移動します。
- ブロックを移動するには、新しい位置までドラッグします。

週間プロフィールの編集

1. Select the profile ② .

- 既存のプロファイルの名前を変更するには②、名前をダブルクリックして上書きします。

2. To modify the time schedule in the time table ③

- マウスをドラッグして、アクティブなタイムブロックを指定します。
- アクティブなタイムブロックのサイズを変更するには、タイムブロックをクリックし、それに応じてボーダーを移動します。
- ブロックを移動するには、新しい位置までドラッグします。
-  ④ をクリックしてタイムブロックを削除します。

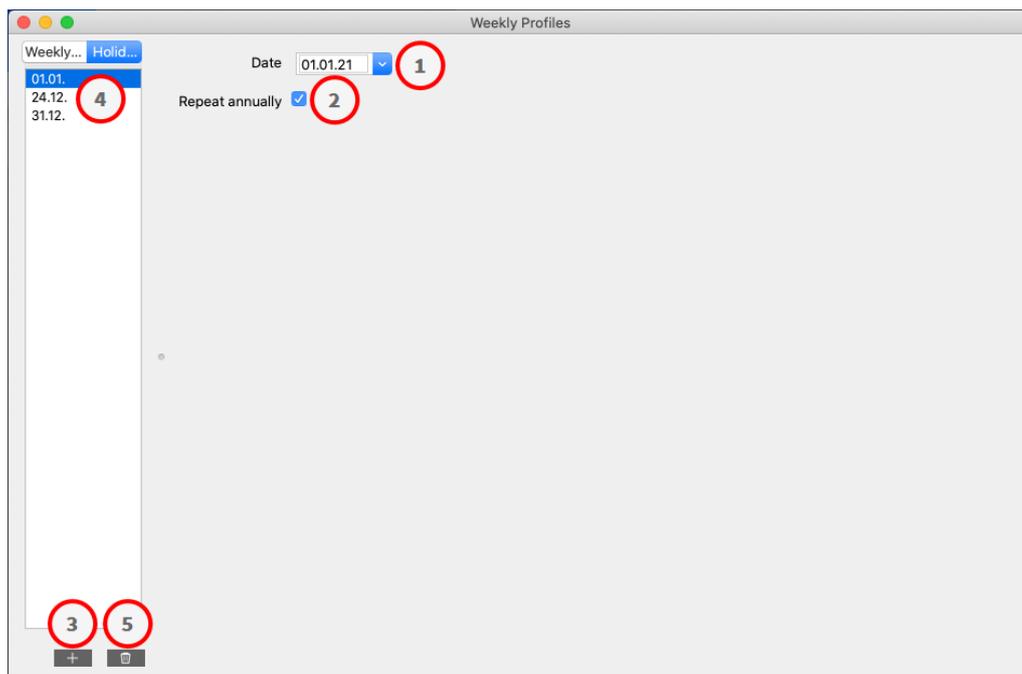
週間プロフィールの削除

1. プロファイルを選択 ② 。

2. ゴミ箱アイコン  ⑤ をクリックしてください。

休日の編集

週間プロフィールの「営業日」から除外される休日を定義することができます。



図。77: ホリデーエディター

休日の追加

1. 休日の日付を入力または選択①。
2. チェック毎年繰り返す② 必要であれば。
3. ③ をクリックする。

休日の編集

1. ④ を選択する。
2. 休日の日付を変更する①。
3. チェック毎年繰り返す② 必要であれば。

休日の削除

1. ④ を選択する。
2. ⑤ をクリックする。

好み

MxManagementCenter の一般的なプログラム設定は、メニュー**MxManagementCenter > Preferences**(Mac) または**File > Preferences**(Windows) で変更できます。設定は以下のセクションで編集できます:

一般

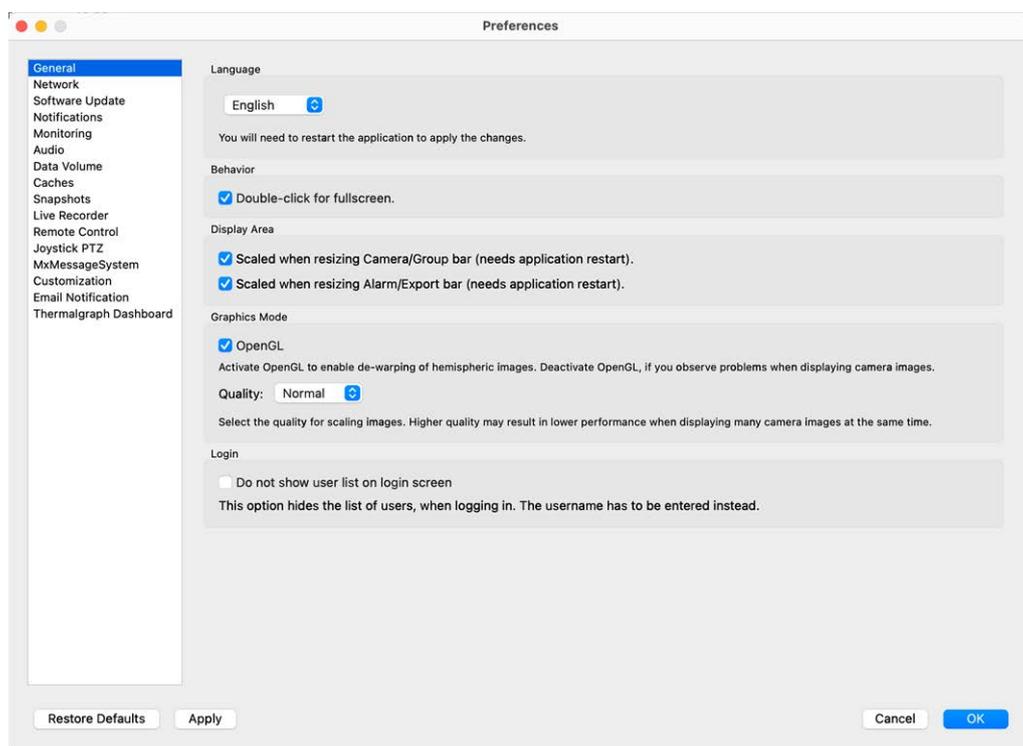


図. 78: 一般設定

言語:プログラムの言語を設定します。変更を適用するには、ソフトウェアを再起動する必要がある場合があります。

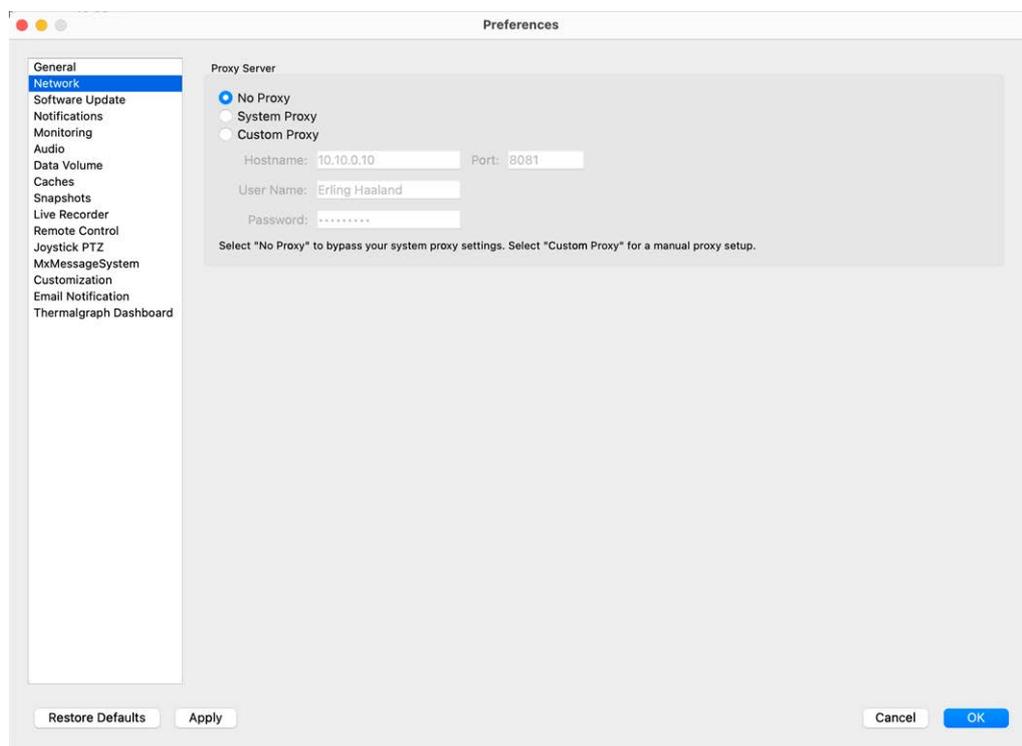
動作:このオプションを無効にすると、ダブルクリックによってメインモニターや他のモニターにフルスクリーン表示が表示されるのを防ぐことができます。

表示領域:カメラ/グループ・バーまたはアラーム/エクスポート・バーを使用している場合、バーの幅を変更できます。このような場合、このオプションを使用して、表示領域のサイズを自動的に変更します。

グラフィックモード:半球画像を歪み補正する。OpenGLモードの前提条件は、OpenGL V2.1をサポートするグラフィックカードです。OpenGL V2.1は転送された半球画像の実際の歪み補正を行うからです。お使いのグラフィックカードがこのモードをサポートしていない場合、またはカメラ画像を表示する際に問題が発生する場合は、OpenGLを非アクティブにします。

ログイン Do not show user list on login screen(ログイン画面にユーザーリストを表示しない) をチェックすると、ログイン画面のユーザーリストが非表示になります。

ネットワーク



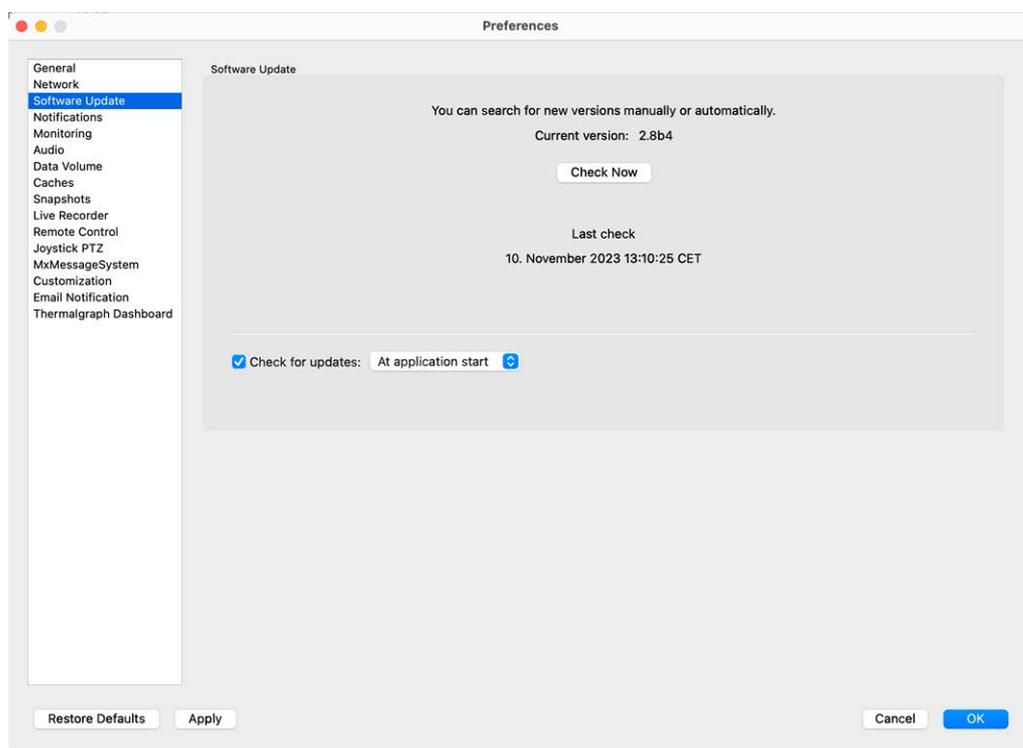
図。79: ネットワーク

プロキシサーバー:ここで必要なプロキシを選択します。

プロキシなし、直接接続が確立されます。

System Proxyは、定義された例外を含め、システムのプロキシ設定を適用する。

ソフトウェア・アップデート

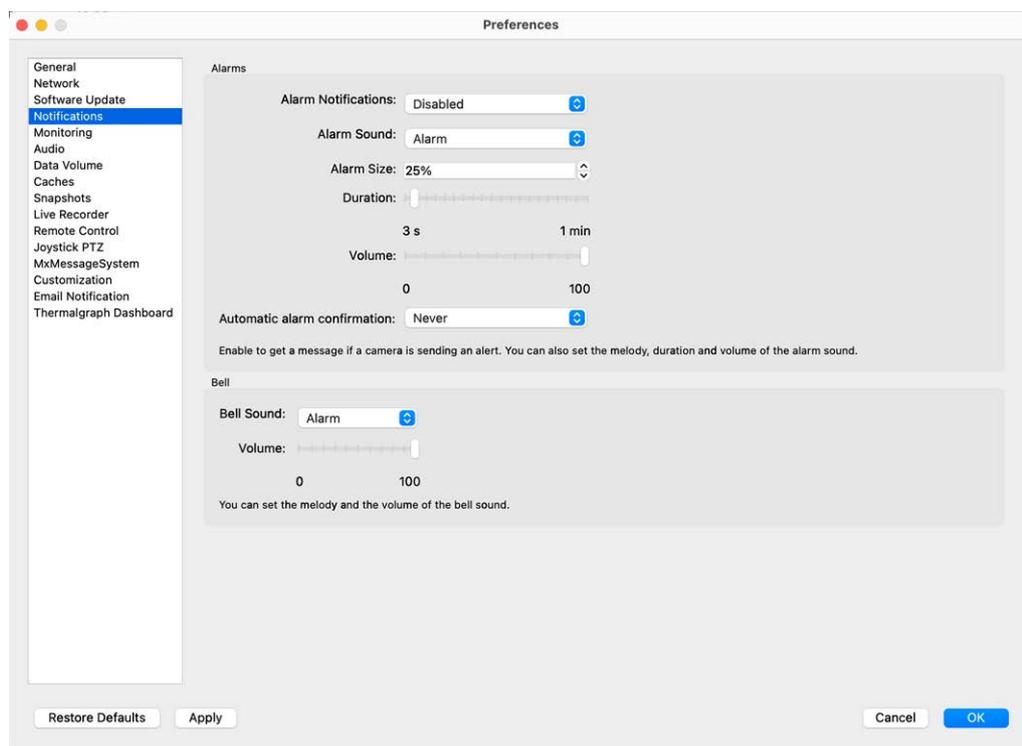


図。80: ソフトウェア・アップデート

MxMC アップデート機能を使用して、新しいバージョンのプログラムを自動的に検索することができます。これを行うには、**Check for Updates** チェックボックスをチェックし、ポーリング間隔を設定します。アップデート機能にはインターネット接続が必要です。

新しいバージョンの検索は、手動で行うこともできます。その場合は、「**今すぐ検索**」をクリックしてください。新しいプログラム・バージョンが利用可能な場合、ここに表示されます。

通知

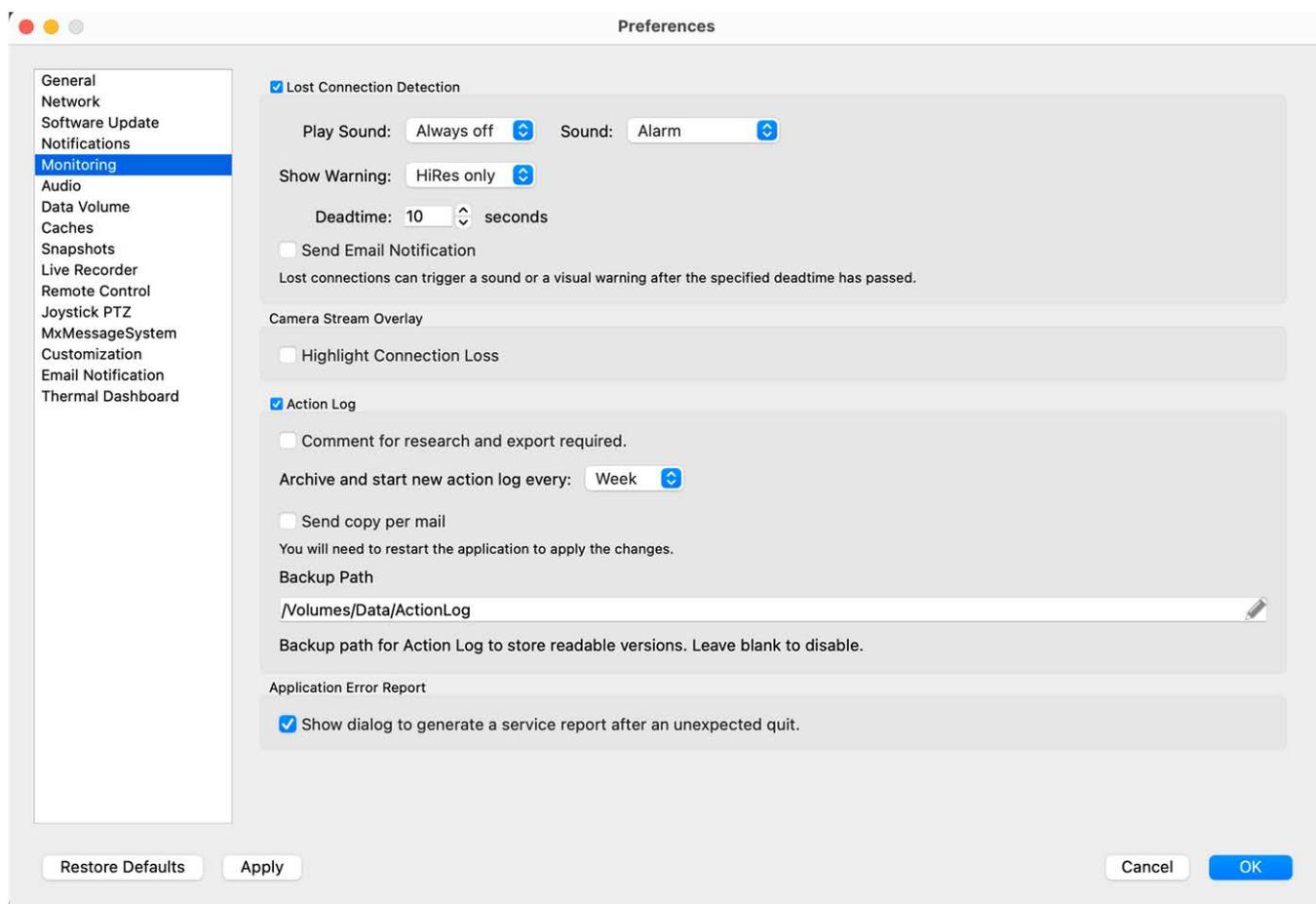


図。 81: 通知

アラームアラームバーまたはアラーム情報バーのイベント通知に加え、新しいアラームを知らせるアラーム通知やアラーム音を設定できます。アラームを受信するには、アラーム通知を有効にします。希望のアラーム音を選択し、継続時間と音量を設定します。

ベルベル: ベルが鳴ると、鳴動通知が表示されます。このオプションを使用して、通知の着信音を選択し、音量を調整します(「ドア・ステーションの操作, ページ 260」を参照)。

監視



図。82: 監視

接続の切断:カメラへの接続が失われた場合(ネットワーク障害またはカメラ・アクセス・データの変更など)、アプリケーションは警告を送信できます。

接続損失検出:カメラへの接続が切断された場合のMxMCの動作を指定します。

- **サウンドを再生します:**警告音を再生するかどうかを選択します。**HiResのみ**オプションを使用すると、警告音は関連するカメラがHiResモードの場合にのみ再生されます([カメラ設定, ページ 131](#)参照)。
- **サウンド接続切断時に再生するサウンド**を選択します。
- **警告を表示する:**警告を表示するかどうかを選択します。**HiResのみ**オプションを使用すると、関連するカメラがHiResモードの場合にのみ警告が表示されます([「カメラ設定, ページ 131」](#)を参照)。
- **デッドタイム:**警告がトリガーされるまでの接続中断時間を定義します。
- **電子メール通知を送信する:**失われた接続の検出に関する電子メール通知を送信できるかどうかをチェックします。

注! ヘルスチェックの結果をEメールで送信するには、Eメール送信を有効にし、プログラム環境設定の基本要件として設定する必要があります([Eメール通知, ページ 174](#)参照)。

アクションログ: MxMC は、再生 やエクスポート の開始、サウンドのアクティブ化など、あらゆるアクションを記録できます。つまり、すべてのユーザーアクションをログすることができ、法的な目的のためにイベントのチェーン全体を配信することができます。この機能を有効にした後、有効にするためにアプリケーションを再起動する必要があります。アクションログは、メニュー「ファイル」>「アクションログ」からアクセスできます。アクションログは、例えば、トラブルシューティングの目的で使用することができます([行動ログ](#), ページ 336参照)。

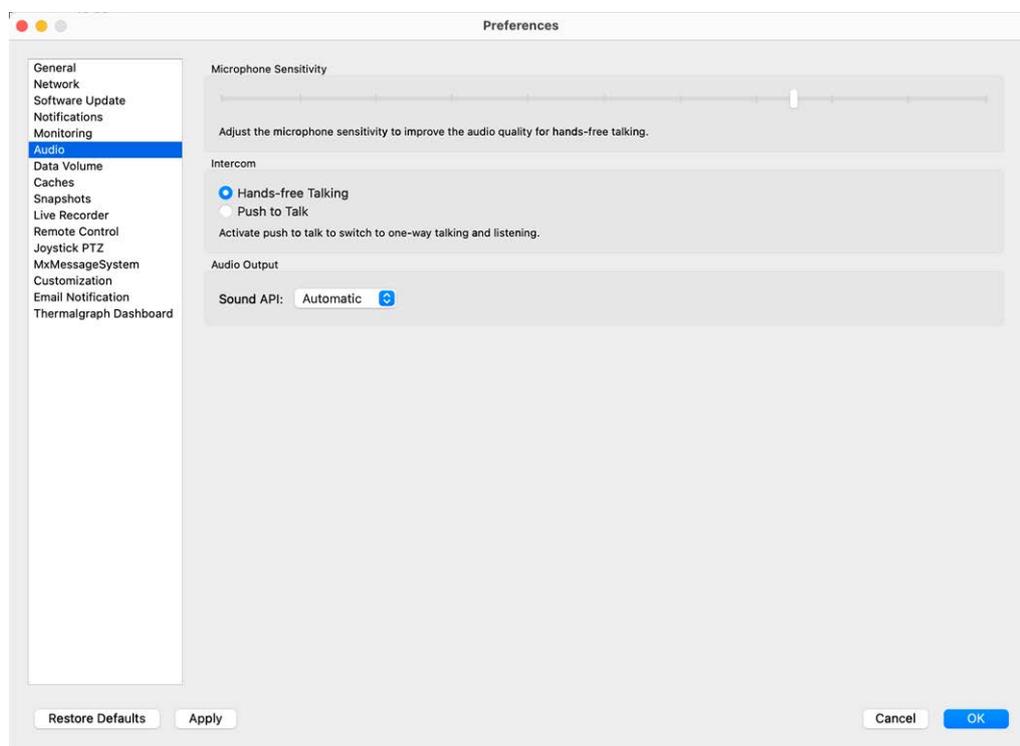
- **アクションログを毎回アーカイブし、新しいログを開始する:** アクションログをアーカイブし、新しいログを作成する間隔を指定する。
- **メールごとにコピーを送信する:** 設定した間隔に従ってアクションログのコピーを送信する場合はチェックを入れます。

注! ヘルスチェックの結果をEメールで送信するには、Eメール送信を有効にし、プログラム環境設定の基本要件として設定する必要があります([Eメール通知](#), ページ 174参照)。

- **バックアップパス:** オプションで、アクションログをPDFおよびCSV形式、暗号化されたMXL形式で保存するためのバックアップパスを指定します。バックアップを無効にするには、パスを空白のままにします。

アプリケーション・エラー・レポート: 予期せぬプログラムの終了後、通常サービスレポートが作成されます。これを望まない場合は、[ダイアログを表示](#)]チェックボックスをオフにしてください。

オーディオ



図。 83: オーディオ

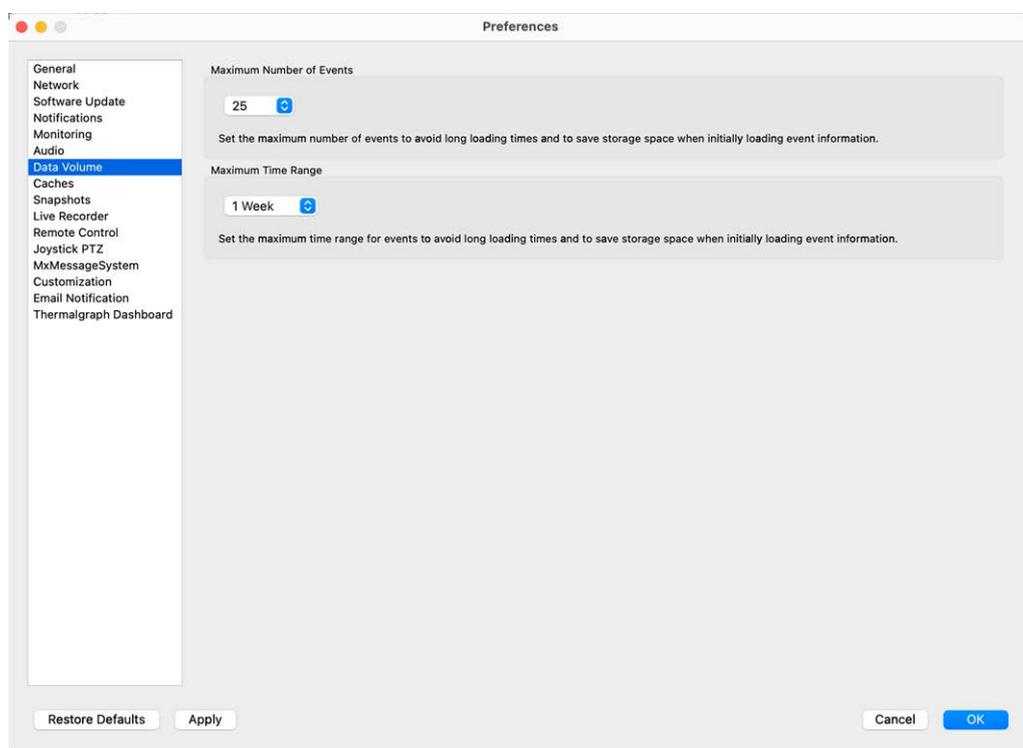
マイク感度: スライダーを使用して、カメラマイクからの音声録音の感度を設定します。デフォルトの設定はインターホン接続用に最適化されているため、ドア・ステーションの周囲が非常に騒がしいか、非常に静かな場合にのみ使用してください。

送受話

- **ハンズフリー通話**: 双方向の音声通話が可能です。
- **プッシュトゥートーク** 周囲が非常に騒がしい場合や、インターホンの問題が解決しない場合に選択します。

オーディオ出力: システム要件に応じてサウンドAPIを選択します。

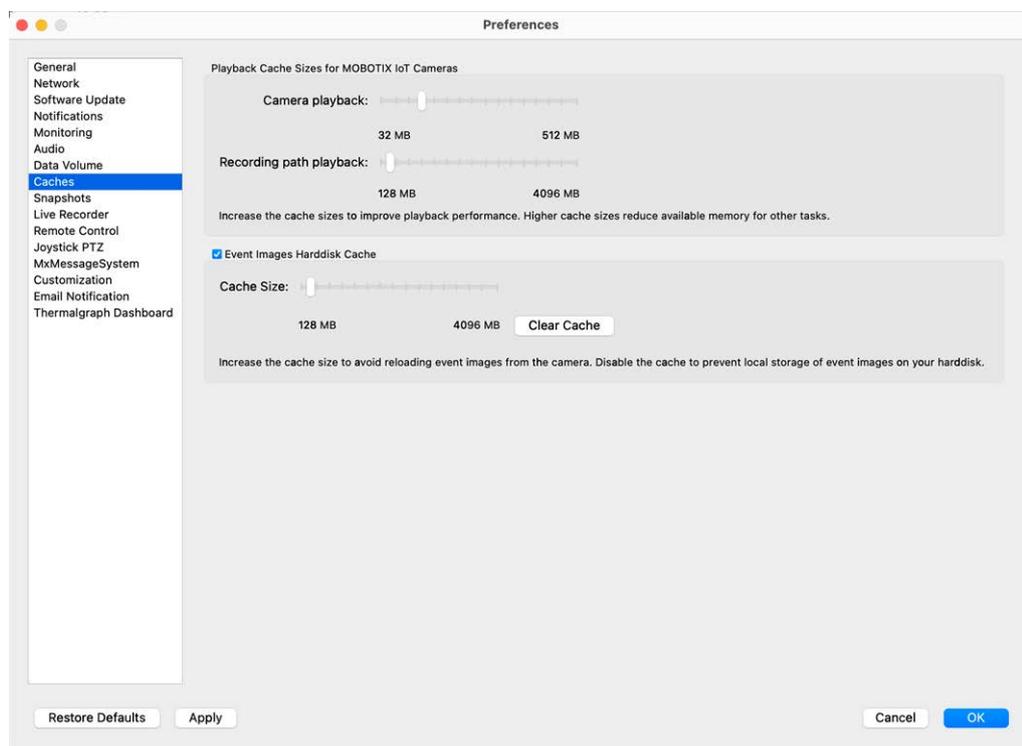
データ量



図。84: データ量

最大イベント数/最大時間範囲: イベント数と時間範囲は、アプリケーションの次回起動後に MxMC が過去のイベント情報を検索する範囲を制御します。この設定はライブビューのイベントカウンタとイベントビューのイベントプレビュー画像に適用されます。これにより、イベント情報を最初に読み込む際の長い読み込み時間を回避し、ストレージ容量を節約できます。

キャッシュ

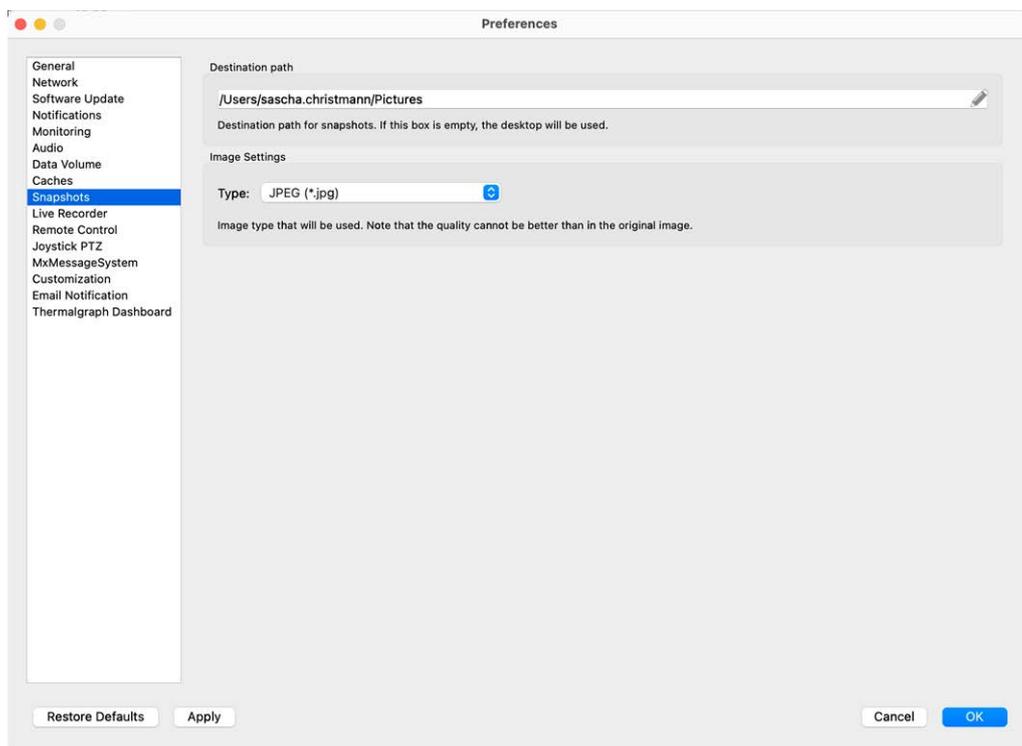


図。85: キャッシュ

レコーディング・パスのキャッシュ・サイズ: 再生のパフォーマンスを向上させるために、ここで再生の内部キャッシュサイズを設定できます。これはカメラ経由の再生とファイルサーバからの再生の両方に適用されます。ここで設定したキャッシュサイズは、他のプロセスで使用可能なRAMを減らし、他のアプリケーションのパフォーマンスに影響する可能性があることに注意してください。

イベント・イメージのハードディスク・キャッシュ: イベント画像をより速くロードし、ネットワーク負荷を軽減するために、イベント画像のディスクキャッシュを増やすことができます。システムにイベントイメージをディスクに保存させたくない場合は、**Event Images Harddisk Cache**チェックボックスをオフにします。

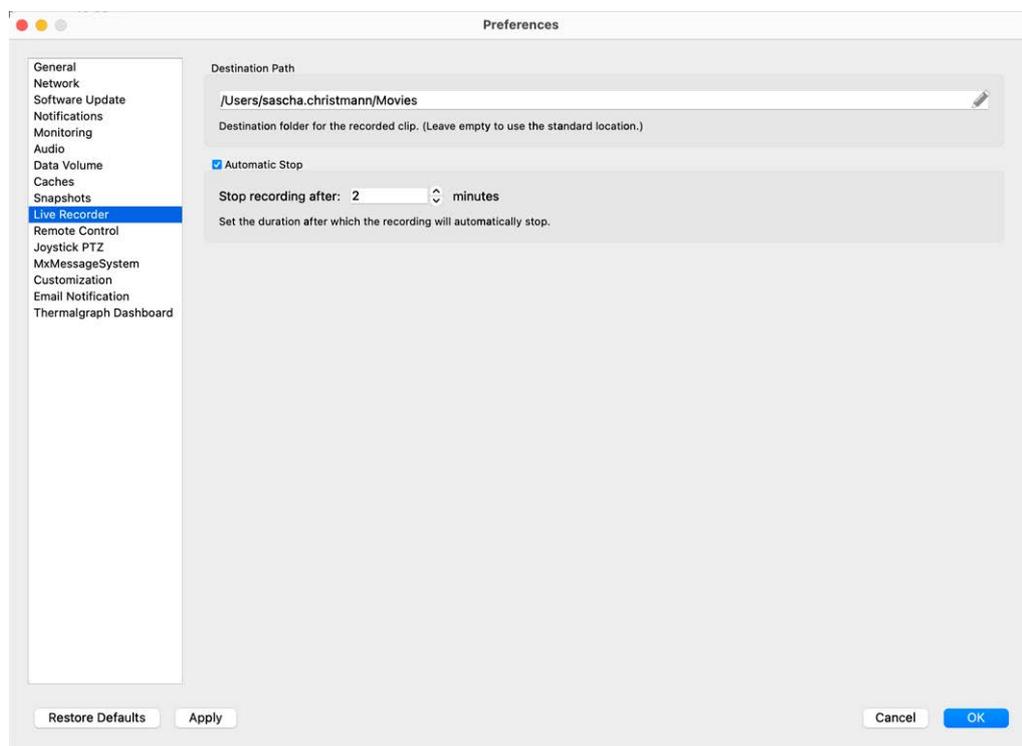
スナップ写真



図。86: スナップショット画像

個々のカメラ画像をスナップショットファイルとして保存できます。設定では、スナップショット画像の保存先パスと画質を編集できます。フォルダを指定しない場合、ファイルはデスクトップに作成されます。

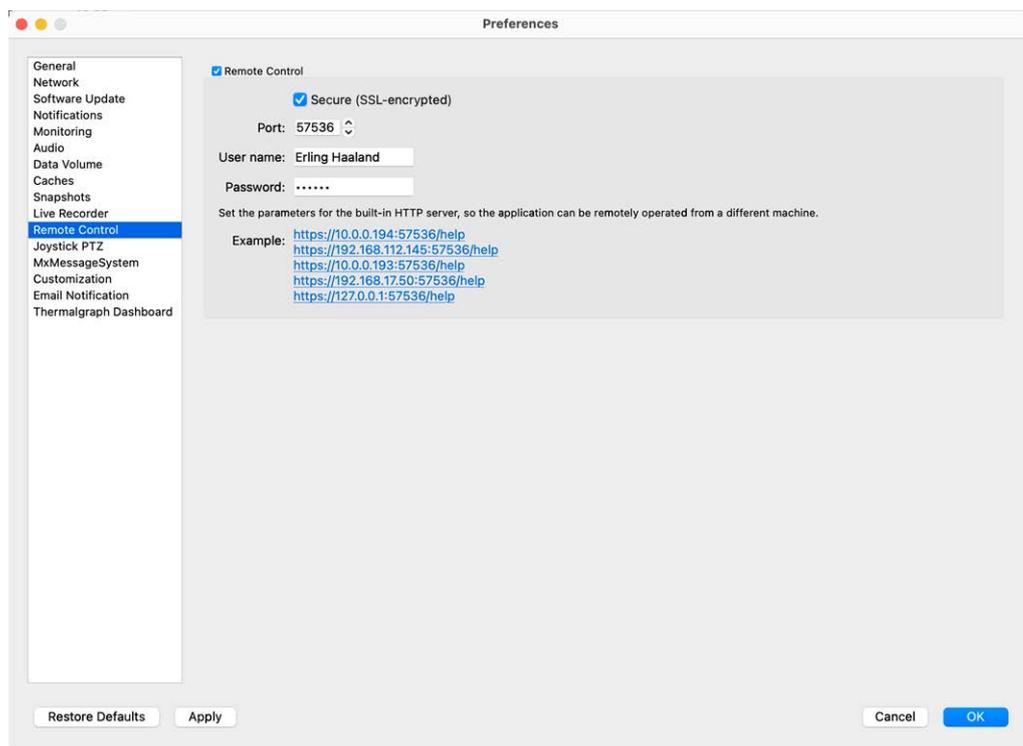
ライブレコーダー



図。87: ライブレコーダー

録画したい不審な状況を観察した場合、グリッドビューだけでなくライブビューでも手動録画を開始できます。ライブ画像で状況を把握しながら、画像が記録され、MXGファイルとして保存されます。ここで、クリップの保存場所と記録時間を設定できます。フォルダを指定しない場合、MXGファイルはデスクトップに作成されます。

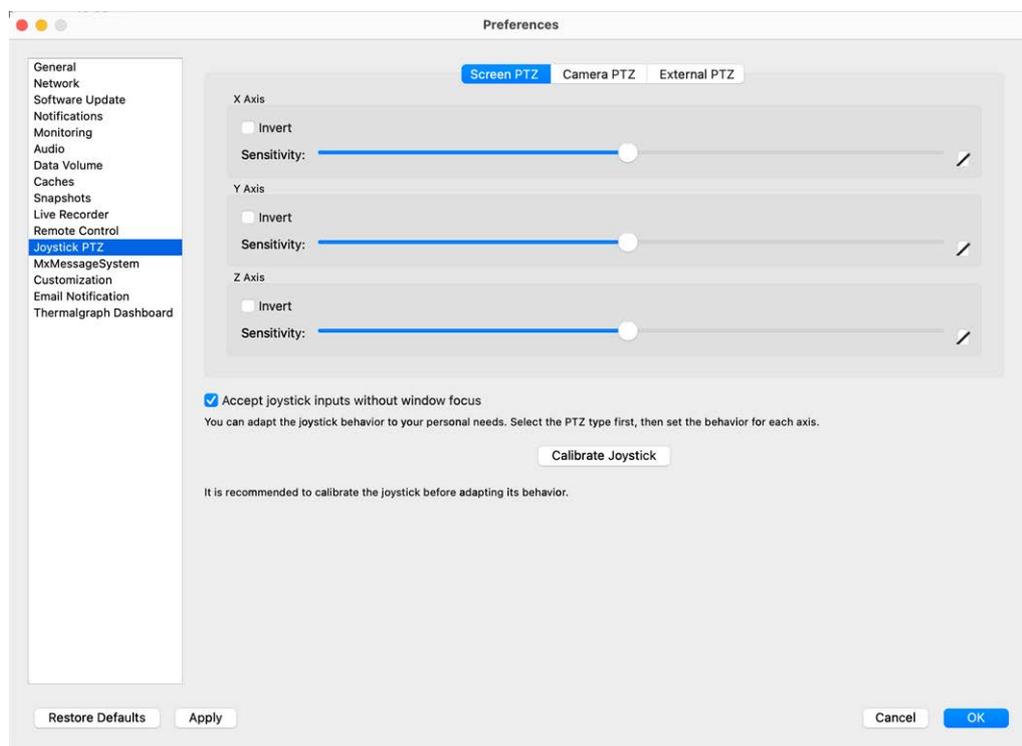
リモコン



図。88: リモコン

MxMC は、HTTPリクエストを使って他のプログラムからリモートコントロールできます。この機能を使用したい場合は、この機能を有効にし、適切なポートを設定してください。例のリンクをクリックすると、実行可能なコマンドのリストが表示されます。

ジョイスティックPTZ



図。89: ジョイスティックPTZ

ジョイスティックの動作を個人の要件に合わせてすることができます。まずPTZタイプを設定し、次に各軸の動作を設定します。

PTZタイプ

- **スクリーンPTZ:** PTZアクションはアプリケーション内で行われます。つまり、現在のライブ画像の表示画像セクションのみが変更されます。ズームは現在のカメラ画像の録画には影響しません。
- **カメラPTZ:** ズーム動作はカメラ上で実行され、フル画像モードで録画している場合を除き、録画にも影響します。
- **外部PTZ:** 異なるメーカーのカメラを使用する場合、このダイアログでジョイスティックの動作を設定できません。

軸

- **X軸:** 水平移動
- **Y軸:** 垂直方向の動き
- **Z軸:** ズーム

Invert

このオプションを使用して、その軸のジョイスティックアクションを反転させます。

感度

PTZアクションの反応が遅すぎる場合、感度を上げることができます。反応が速すぎる場合は、感度を下げてください。

Progression

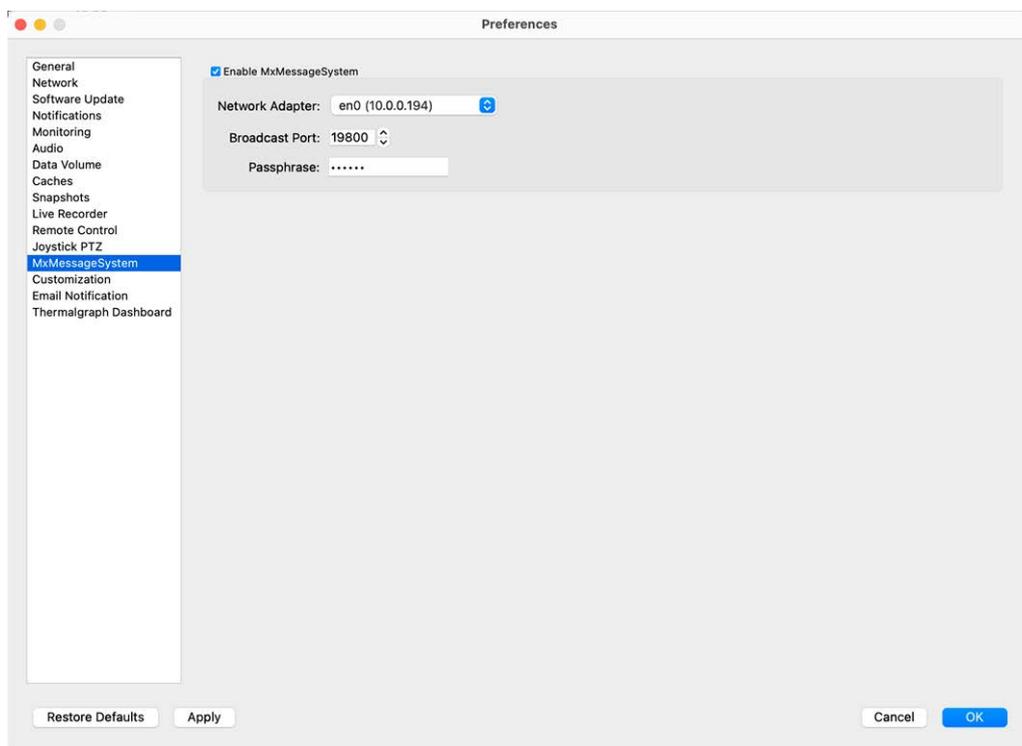
ジョイスティックの動きの進行を変更するには、 ボタンをクリックします。初期設定はリニアです。

ジョイスティックの較正

外付けのジョイスティックを使用する場合は、カメラ画像内でコントロールが正確に機能するように、MxMCで較正する必要があります ([ジョイスティックの一般的な使い方](#), [ページ 315 ジョイスティックの調整](#), [ページ 176 参照](#))。

注! MOBOTIX PTZキーボードを使用する場合は、[MOBOTIX PTZキーボードの統合 MxManagementCenter](#), [ページ 316](#) 参照してください。

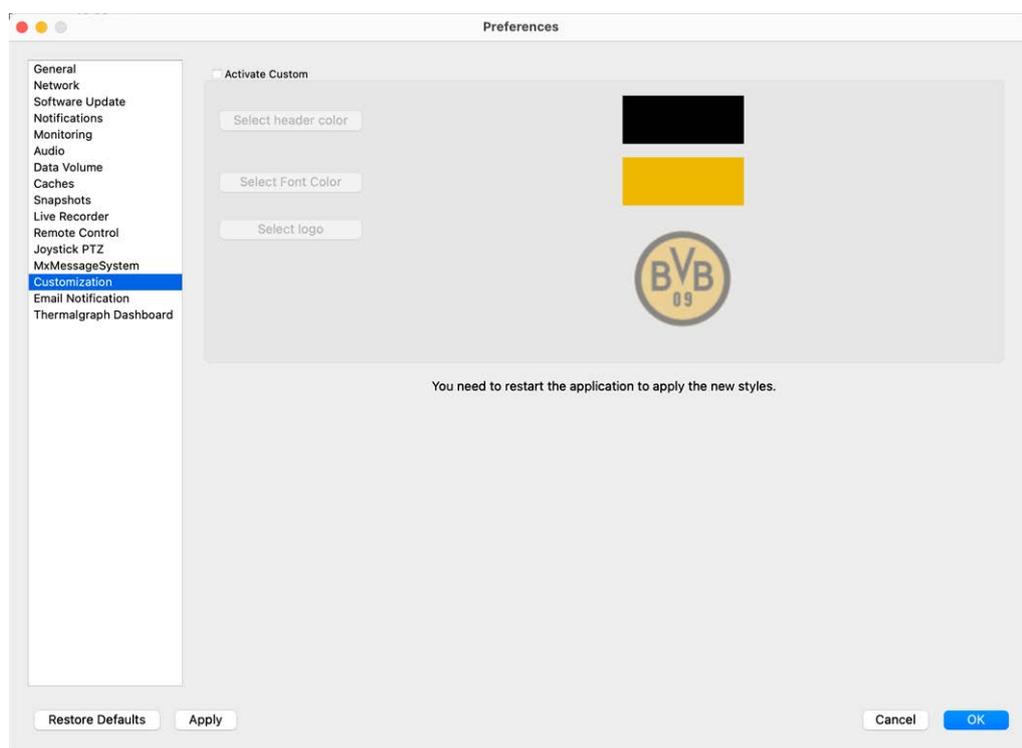
MxMessageSystem



図。90: MxMessageSystem

この設定は現在、MxThinClientに必要です。カメラのライブ画像はMxMessageSystemを介してMxThinClientに切り替えられるため、まずここでMxMessageSystemをアクティブにする必要があります。MxThinClientと同じパラメータが設定されていることを確認します。

カスタマイズ



図。91: カスタマイズ

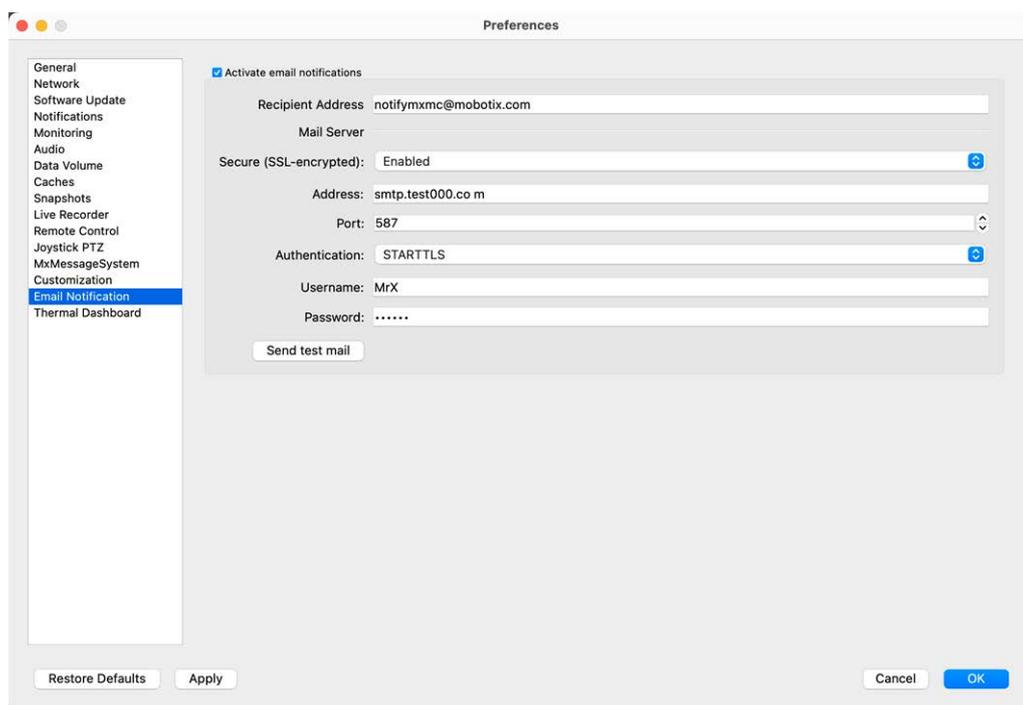
この設定により、MxMC をニーズに合わせて光学的に適応させることができます。ヘッダーの原色とそこに表示されるフォントを自由に選択できます。また、個別のロゴを追加することもできます。

ヘッダーカラーの選択: クリックしてヘッダーカラーを個別に選択します。

フォントカラーの選択: クリックするとフォントカラーを個別に選択できます。

ロゴを選択します: ヘッダーの個別ロゴとして表示するグラフィックファイルをクリックして選択します。選択可能なファイル形式はEmail Notification、PNG、GIFです。

Eメール通知



図。92: Eメール通知

電子メール通知機能により、MxMC は、接続されているすべてのMOBOTIX IoT カメラの健康チェック、ページ 192 結果を電子メールメッセージで送信できます。

注！ 該当するMOBOTIX IoT カメラのバックグラウンドアラーム機能を有効にする必要があります (「バックグラウンドアラーム: チェックすると、MxMC がライブ・ストリームを表示しているかどうかに関係なく、MxMC はカメラへのアクティブなイベント・ストリーム接続を維持します。」、ページ 137」を参照)。

Eメール通知を有効にします: チェックするとEメール通知が送信されます。

受信者アドレス: メッセージの送信先メールアドレス。

メールサーバー

セキュア(SSL暗号化): SMTPS によるメッセージの暗号化を有効または無効にします。

アドレスメールサーバーのアドレスを入力します。

Port: メールサーバーが使用するポート。

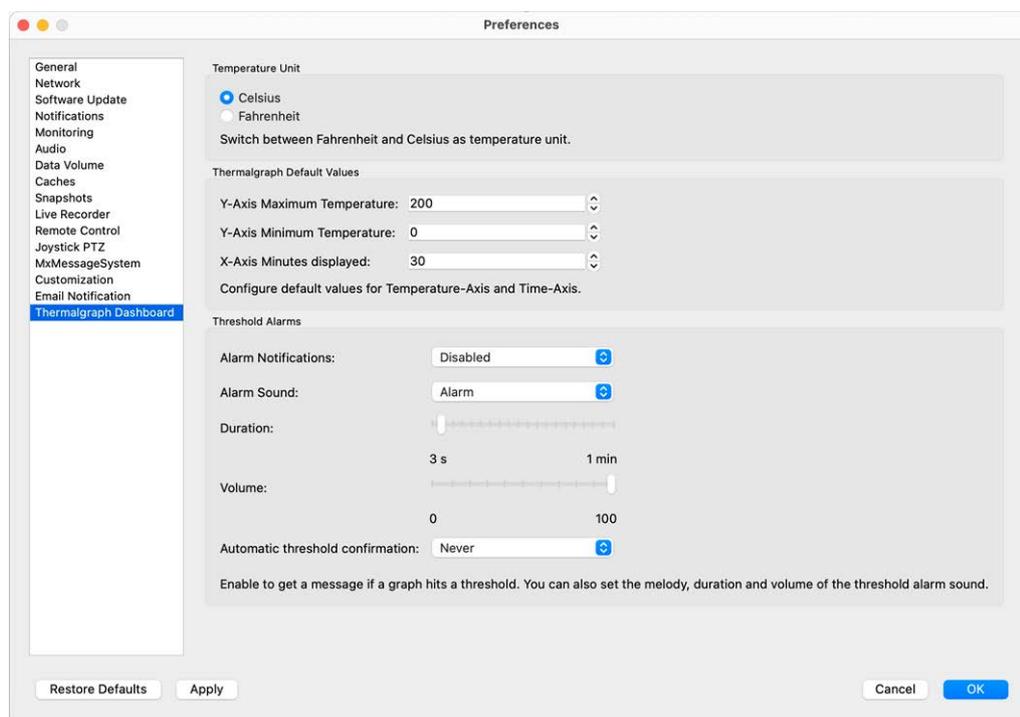
認証: メールサーバーにコンタクトする際に使用する認証方法。「Secure (SSL暗号化)」が有効な場合は、STARTTLSに設定する必要があります。

ユーザー名: メールの送信元メールアドレスのユーザー名で、通常は送信者のメールアドレスです。

パスワード: ユーザーEメールアカウントのパスワード。

テストメールを送信します: クリックするとテストメールが送信され、メールサーバーが正しく設定されているか確認できます。

サーマル・ダッシュボード



図。93: サーマル・ダッシュボード

MOBOTIX MxMC のサーマルダッシュボードは、MOBOTIX のサーマルカメラ機能を補完するものです:

- 温度が重要なプロセスのライブモニタリングと監視。
- その後の温度履歴の分析。

温度単位: 温度ダッシュボードに表示する温度単位を選択します:

- 摂氏
- 華氏

サーマルグラフのデフォルト値: 熱グラフの軸のデフォルト値の範囲を設定する(X軸 = 時間、Y軸 = 温度)。

注! 指定された値は、すべての新しいグラフのデフォルト値である。既存のグラフは変更されない。

閾値アラーム: グラフがしきい値に達した場合のアラーム通知を設定します。参照

アラーム通知: アラーム通知の有効/無効を選択します。

アラーム音: アラーム時に鳴らす音を選択します。

持続時間アラーム音の継続時間: 継続時間を設定します。

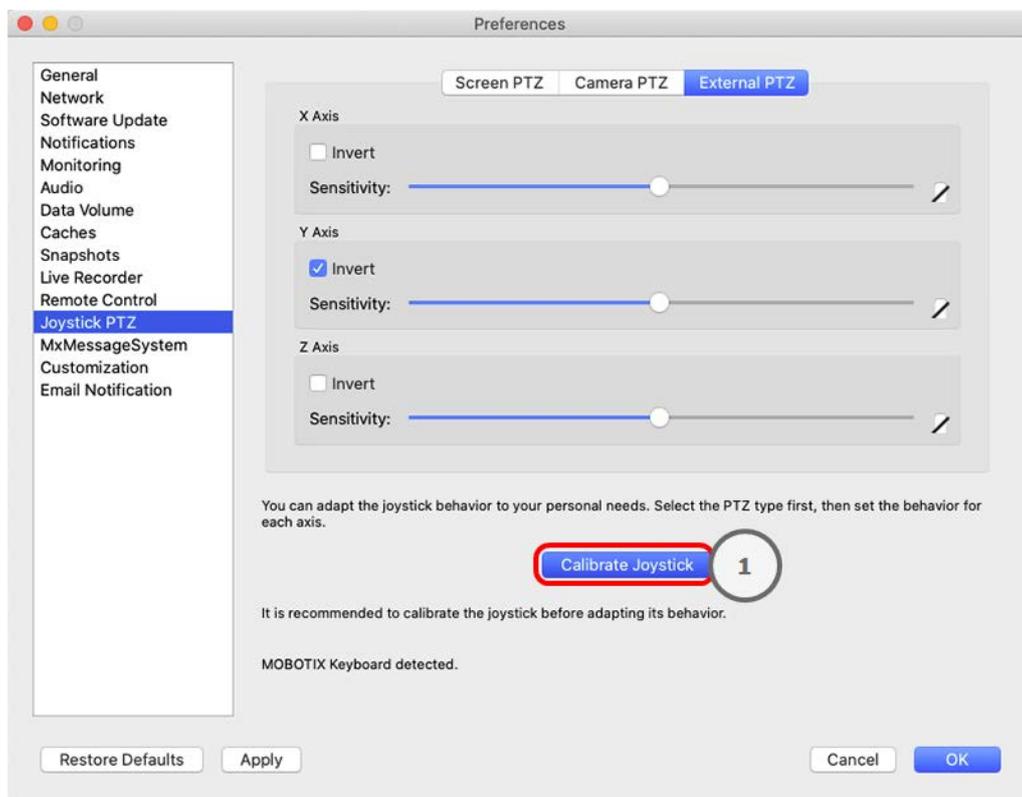
音量アラーム: 音量を設定します。

自動しきい値確認: アラームが自動的に確認されるまでの時間を指定します。

ジョイスティックの調整

外部ジョイスティックを使用する場合は、MxMC でキャリブレーションを行い、カメラ画像内で正確にコントロールが機能するようにする必要があります。

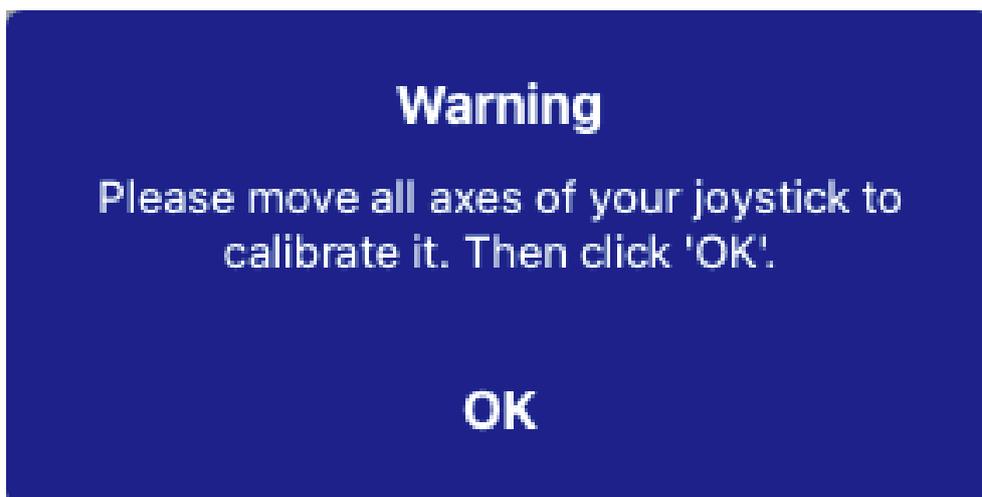
ジョイスティックの調整



図。94: ジョイスティックの調整

1. メーカーの指示に従ってジョイスティックを取り付けます。
2. ジョイスティックのキャリブレーション(Calibrate Joystick) をクリックします。通知が表示されます。

3. ジョイスティックのすべての軸を動かし、**OK**をクリックします。



コンポーネント設定

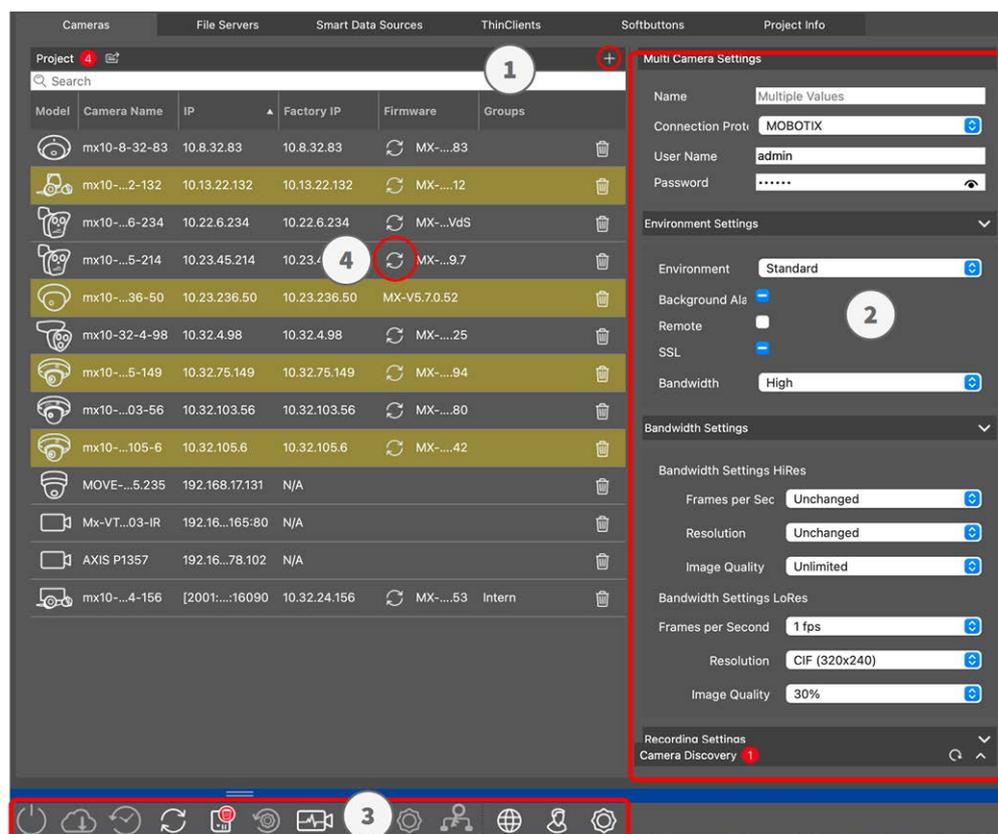
コンポーネント・ビューでは、以下のコンポーネントを管理できます：

- MxMC ([カメラ設定, ページ 177](#)参照) で利用可能なカメラ。
- ビデオ録画の保存に使用するファイルサーバー(「[ファイルサーバーの設定, ページ 212](#)」を参照)。
- スマート・データ・ソース(一般的なソースにはライセンスが必要) MOBOTIX P7 Apps(ライセンス不要)、POSシステム、ナンバープレート認識システムなどから取引データを読み込むことができます([スマートなデータソース, ページ 218](#)参照)。
- MxThinClients を使用すると、MOBOTIX カメラのライブ画像を HDMI 接続のモニタまたはテレビに表示できます(「[MxThinClient の設定, ページ 221](#)」を参照)。
- ソフトボタンは、追加デバイスの切り替えやHTTPリクエストの送信に使用できます(「[ソフトボタンの設定, ページ 224](#)」を参照)。

カメラ設定

コンポーネント・ビュー, [ページ 35](#)カメラ・セクションでカメラを管理できます。

MxMC で使用できるカメラは、使用目的に応じて設定する必要があります。そのため、[カメラ設定ダイアログ](#)を開いてカメラデータを入力および編集します。



カメラの追加

1. **+** アイコン① をクリックしてカメラを追加します。
2. **カメラ設定**, ページ 179エリア② でカメラを設定します。

カメラの削除

1. カメラリストでカメラを選択し、**🗑️** アイコンをクリックします。
2. カメラの削除を確認します。

カメラのファームウェアのアップデート

ファームウェアが古い IoT カメラは、カメラリスト④ に記号 **🔄** で表示されます。

1. カメラリストでカメラを選択
2. **コンポーネントビュー - カメラツールバー**, ページ 187 ③ の **🔄** アイコンをクリックし、対応するファームウェアファイルを選択します。

カメラ設定

Camera Settings

Name:

Connection Prot:

Serial Number:

IP Address:

Remote URL:

User Name:

Password:

1. 設定するカメラを選択します。
2. カメラ設定エリアでカメラを設定します。

注!

複数のカメラを一括設定する場合は、SHIFT、CTRL(Windows) またはCmd(Mac) キーを押したままカメラを選択します。

The screenshot shows a web interface for managing cameras. On the left, there is a table of cameras with columns for Model, Camera Name, IP, Factory IP, Firmware, and Groups. Several rows are highlighted in yellow, indicating they are selected. On the right, there is a 'Multi Camera Settings' panel with various configuration options.

Model	Camera Name	IP	Factory IP	Firmware	Groups
mx10-8-32-83		10.8.32.83	10.8.32.83	MX-...83	
mx10-...2-132		10.13.22.132	10.13.22.132	MX-...12	
mx10-...6-234		10.22.6.234	10.22.6.234	MX-...VdS	
mx10-...5-214		10.23.45.214	10.23.45.214	MX-...9.7	
mx10-...36-50		10.23.236.50	10.23.236.50	MX-V5.7.0.52	
mx10-32-4-98		10.32.4.98	10.32.4.98	MX-...25	
mx10-...5-149		10.32.75.149	10.32.75.149	MX-...94	
mx10-...03-56		10.32.103.56	10.32.103.56	MX-...80	
mx10-...105-6		10.32.105.6	10.32.105.6	MX-...42	
MOVE-...5.235		192.168.17.131	N/A		
Mx-VT...03-IR		192.16...165:80	N/A		
AXIS P1357		192.16...78.102	N/A		
mx10-...4-156		[2001...16090	10.32.24.156	MX-...53	Intern

The settings panel on the right includes:

- Multi Camera Settings:** Name (Multiple Values), Connection Prot (MOBOTIX), User Name (admin), Password (.....).
- Environment Settings:** Environment (Standard), Background Ale, Remote, SSL, Bandwidth (High).
- Bandwidth Settings:**
 - Bandwidth Settings HiRes:** Frames per Sec (Unchanged), Resolution (Unchanged), Image Quality (Unlimited).
 - Bandwidth Settings LoRes:** Frames per Second (1 fps), Resolution (CIF (320x240)), Image Quality (30%).
- Recording Settings:** Camera Discovery (1).

図。95: 複数カメラの一括設定

名前カメラ名が自動的に表示されます。必要に応じて、カメラごとに個別の名前を入力できます。

接続プロトコル: 接続プロトコル: MxMC でカメラとの接続を確立するには、カメラ製造元の使用可能なインターフェースに応じて、適切な接続プロトコルを選択する必要があります。[ウェルカムウィザードとカメラの統合, ページ 63](#)カメラを統合した場合、対応するプロトコルが自動的に使用されます。カメラを手動で追加する場合は、適切なプロトコルを選択します。以下のプロトコルを使用できます:

- **MOBOTIX:** MOBOTIX IoT カメラとの接続を確立するには、このプロトコルを選択します。
- **MOBOTIX Pelco-Dと:** The requirements to use Pelco-D protocol are:
 - MOBOTIX MxBus または RS232モジュール付きIoTカメラMxBus
 - Pelco-D対応のPT-Head
 - シリアル・インターフェースを有効にして、カメラソフトウェアで設定する必要があります(パラメータ設定については、カメラの取扱説明書、パン・チルトヘッドのマニュアルを参照してください)。
- **MOBOTIX MOVE:** MOBOTIX MOVE カメラとの接続を確立するには、このプロトコルを選択します。
- **ONVIF-S/G:**このプロトコルを選択して、ONVIF-S/G 対応カメラに接続します。
- **Axis PTZ:** AxisPTZ制御のカメラに接続するには、このプロトコルを選択します。
- **MOBOTIX 顔検出:**このプロトコルを選択して、P7 カメラ Face Detect App に接続します。MOBOTIX MOBOTIX

IPアドレス: IPアドレスはBonjour経由で自動的に検出されるか、手動で入力される。MxMC、IPv4とIPv6の両方の標準をサポートしている。

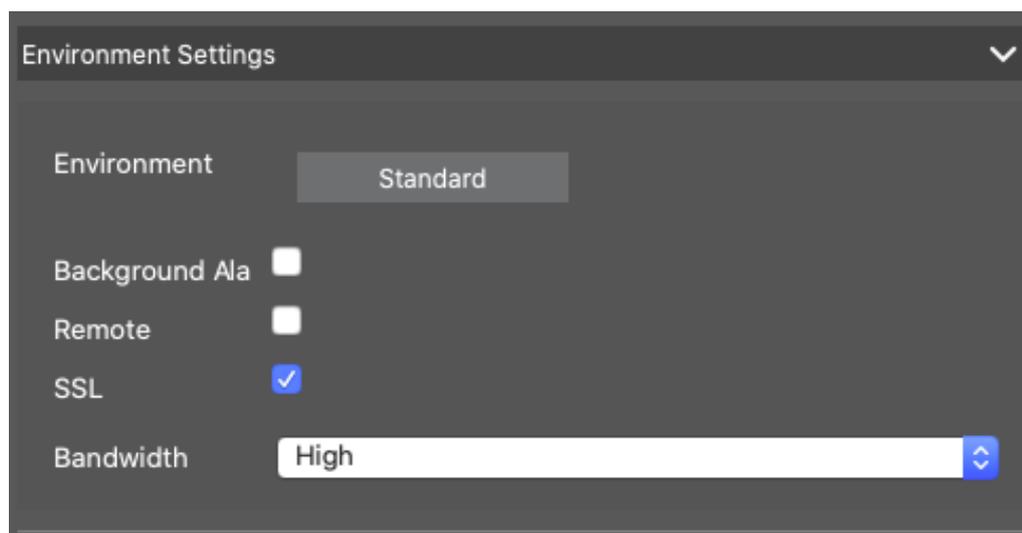
例 IPv6アドレス(角括弧内)とポート指定(最後のコロンの後): [2001:db8:10::1a]:16090

リモートURL: ローカルネットワーク外からカメラにアクセスするために追加する場合、対応するカメラの外部アドレス(DynDNS名など)を入力できます。

注! ローカルネットワーク外からカメラにアクセスする前に、[環境設定, ページ 181](#)設定でリモートオプションを有効にする必要があります。

ユーザ名、パスワード: カメラの追加時に入力したデータにアクセスします。

環境設定



環境:現在のネットワーク環境を表示します。初回起動時は標準環境が表示されます。既存のネットワーク環境はすべて青いバーに表示されます。使用したい環境をクリックし、その環境のネットワーク設定を入力します。環境を定義するには、[ネットワーク環境](#)、[ページ 123](#)参照してください。

バックグラウンドアラーム:このオプションを有効にすると、MxMC がライブ・ストリームを表示しているかどうかに関係なく、アプリケーションはカメラへのアクティブなイベント・ストリーム接続を維持します。

イベント・ストリーム接続を使用すると、カメラはイベント情報をMxMC に送信し、設定に応じてアラームとして表示します([カメラの追加](#)、[ページ 63](#)参照)。イベント・ストリームの常時接続が不要な場合、または不要な場合は、このオプションを無効にできます(非常に多くのカメラを使用するシステムでシステム負荷が高い場合、または低帯域幅ネットワークでMxMCを使用する場合など)。

MxMC このオプションを無効にすると、アプリケーションは、カメラのライブ・ストリームまたはカメラ経由の録画を表示する場合など、必要な場合にのみイベント・ストリーム接続を開きます。この場合、接続が確立されている間、アラームはこのカメラに対してのみ表示されます。工場出荷時設定では、このオプションは無効になっています。

注! このオプションは、MOBOTIX MOVE カメラおよびONVIF-S 互換インターフェースを提供する他社製カメラではサポートされていません。カメラ機能の違いについては、「[カメラ機能の概要](#)」を参照してください。

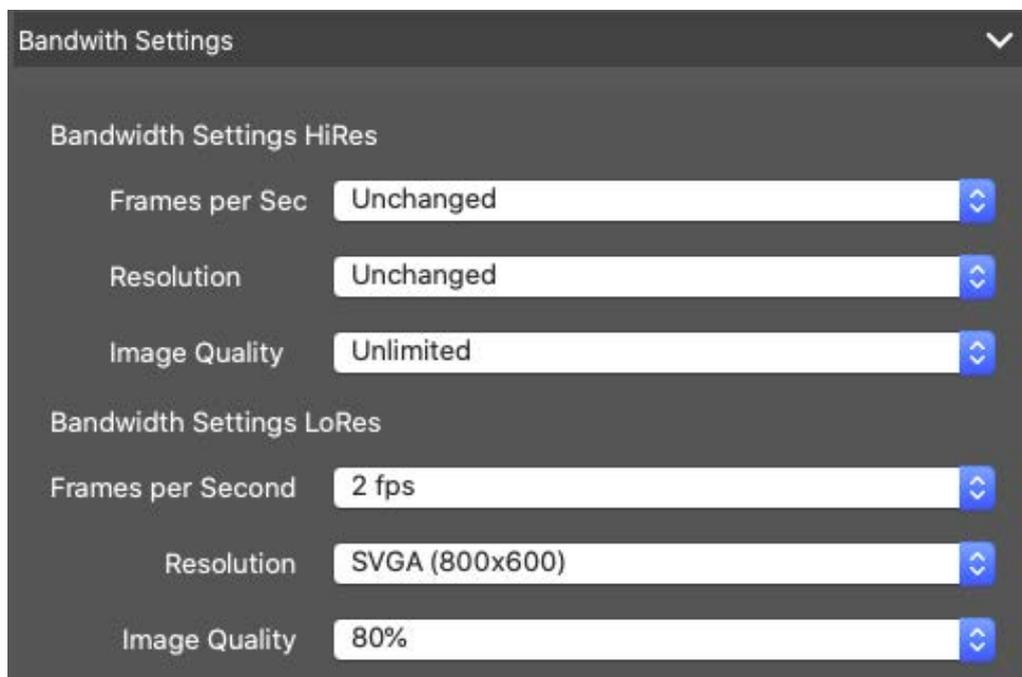
リモート 遠隔地からカメラにアクセスする場合は、このオプションをオンにします(DynDNS経由)。

SSL:カメラとの接続を暗号化する場合は、このオプションをオンにします。デフォルトでは、MxMC とカメラ間の接続は暗号化されません。カメラでHTTPSを有効にする必要があることに注意してください([ブラウザのAdmin Menu > Network Configuration > Web Server > HTTPS Settings](#))。

注! このオプションは、MOBOTIX MOVE カメラおよび ONVIF S 互換インターフェースを提供する他社製カメラではサポートされていません。カメラの機能の違いについては、「[カメラ機能の概要](#)」を参照してください。

帯域幅 : カメラからの画像をデフォルトで**HiRes**または**LoRes**のどちらで取得するかを選択します。HiResおよびLoRes接続に使用される値(フレームレート、画像サイズ、画質)は、「**帯域幅設定**」(MOBOTIX IoTカメラ)および「**接続設定**」(MOBOTIX MOVEカメラ)で設定します。

帯域幅設定 (MOBOTIX カメラ)



HiResおよびLowResビデオプロファイルの帯域幅設定を指定するには、以下の値を設定します：

- フレーム変換速度(フレーム/sec)
- 決議
- 画質

接続設定 (MOBOTIX MOVE/ONVIF-S/G カメラ)

注意! MOBOTIX カメラの帯域幅設定とは対照的に、MOBOTIX MOVE /ONVIF-S/G カメラのメディアプロファイルの変更はカメラで直接行われます。そのため、この変更はこれらのプロファイルを使用するすべてのアプリケーションに影響します。

Connection Settings

Authentication Username Token

Protocol RTP via TCP

Bandwidth Settings HiRes

HiRes Profile

Video Encoder

Video Codec

Frames per Second

Resolution

Image Quality

Bandwidth Settings LoRes

LoRes Profile

Video Encoder

Video Codec

Frames per Second

Resolution

Image Quality

Create MxProfiles 1

Transfer Changes 2

指定できる:

認証:これらの認証方法のいずれかを選択します:

- ユーザー名トークン
- ダイジェスト

HiResおよびLowResビデオプロファイルの帯域幅設定を指定するには、以下の値を設定します。

- HiRes/LoResプロファイル。カメラのONVIF-S/G プロファイルとして定義される:
- ビデオ・エンコーダー
- ビデオコーデック
- フレーム変換速度(フレーム/sec)
- 決議
- 画質

Create MxProfile^① (**Mxプロファイルの作成**) をクリックして、カメラのMOBOTIX 環境に最適化されたプロファイルを作成します。デフォルトでは、MxManagementCenter、HiRes用の**MxHiQuality**とLoRes用の**MxLoQuality**という2つのプロファイルが作成されます。

変更を転送する(Transfer changes^②) をクリックして、読み込んだプロファイルの変更をカメラに転送します。

録音設定

保存された録画は、接続プロトコルに応じてさまざまな方法でアクセスできます。

MOBOTIX :

- **カメラ経由 (MOBOTIX)** :カメラは録画へのアクセスを扱います。
- **ローカルパス**: ローカルパス(録画はローカルコンピュータでアクセスされます) 。
- **FileServer**:ファイルサーバーは、MxMC (「[ファイルサーバーの設定, ページ 212](#)」を参照) で設定すると選択できるようになる。

MOBOTIX MOVE / ONVIFカメラ使用時:

- **MOVEレコーダー**: 定義されたMOBOTIX NAS 経由で録画にアクセス。アクセスデータはファイルサーバー設定で定義できます([ファイルサーバーの設定, ページ 212](#)参照) 。

アラーム

注! アラーム機能は、MOBOTIX MOVE カメラおよびONVIF-S 互換インターフェースを提供する他社製カメラではサポートされていません。カメラ機能の違いの概要については、「[カメラ機能の概要, ページ 11](#)」を参照してください。

このセクションでは、対応するイベントがトリガーされた場合にアラームを発生させるイベントタイプを選択できません。アラームは以下の場所に表示されます:

- **アラームバー**が赤または緑(ドアベル) に変わり、アラーム画像がアラームバーに表示されます。
- **アラーム情報バー**は、ライブ画像で赤または緑(ドアベル) に点灯します。
- **アラーム設定**により、アラート用のビジュアルおよびサウンド通知を設定できます (Mac:**MxManagementCenter > 設定**、Windows:**ファイル > 設定**) 。

1. アラームをクリックする。



2. アラームをトリガーするイベントタイプを選択します。

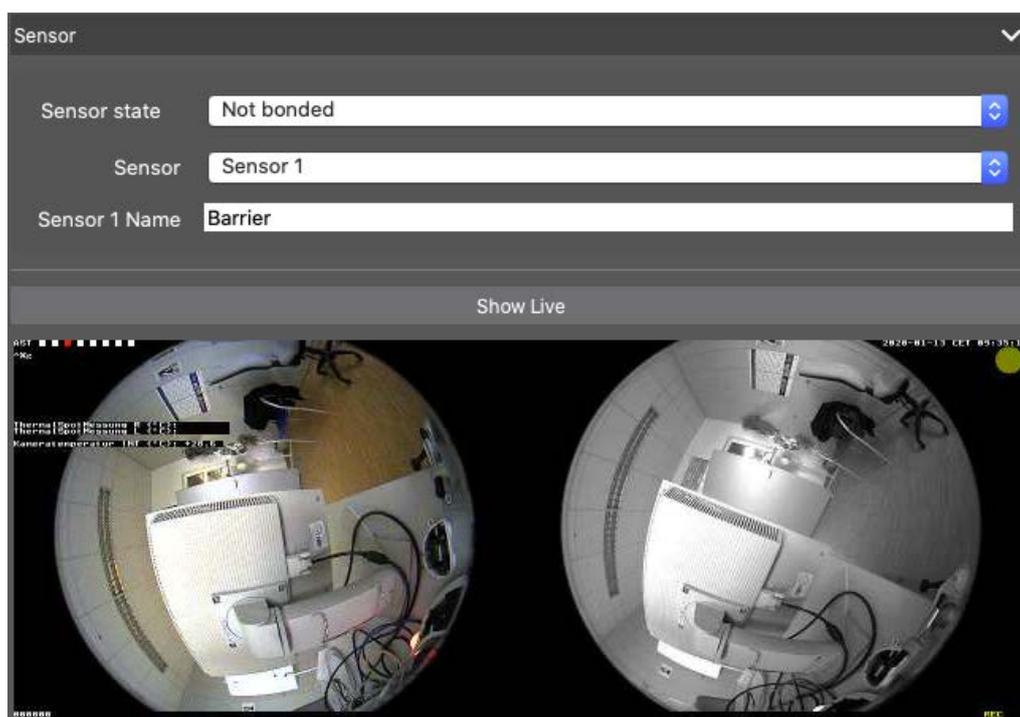
3. さらに、アラームをトリガーするイベントタイプごとに週プロファイルを選択できます。他の週プロファイルが選択されていない限り、設定は月曜 00:00 から日曜 24:00 まで有効です。

- 新しい週間プロファイルを作成するには、 をクリックします。週間プロファイルダイアログが開きます。
Weekendプロファイル(土曜00:00～日曜24:00)など、いくつかの定義済みプロファイルが利用できます。

- プロフィールを追加するには、**+** をクリックします。説明を入力します。表内のアクティブな時間帯をハイライトします。アクティブな時間ブロックのサイズを変更するには、時間ブロックをクリックし、それに応じて枠を移動します。ブロックをクリックして選択し、新しい位置にドラッグします。タイムブロックを削除するには、**×** をクリックします。
 - 既存のプロファイルの説明を変更できます。名前を右クリックして上書きしてください。
4. 週間プロフィールを選択するには、イベントタイプの隣にある**週間プロフィールドロップダウンリスト**をクリックし、希望のプロフィールをハイライトします。カレンダーアイコンが白くなります。
 5. 週間プロファイルの設定を簡単に反転するには、カレンダーアイコンをクリックします。例えば、営業時間を設定したプロファイルを作成し、閉店時間に合わせてアラームを作動させたい場合、カレンダーアイコン **31** をクリックしてプロファイルを反転させます。アイコンが赤くなります。

センサー設定 (MOBOTIX カメラ)

注！ センサー設定は、複数の光学センサーを搭載したMOBOTIX カメラでのみ利用可能です。



MxManagementCenter でセンサーの統合方法を指定できます。

- センサー 1 または 2 を選択①、センサー名を編集する。
- "Combined"② を選択すると、両方のセンサーが1つのカメラとして統合され、MxMC。
- 選択したセンサーのプレビュー画像として最近のビデオフレームを設定するには、プレビューフィールド③ をクリックします。

アクティブなカメラアプリのSmartData情報を取得する

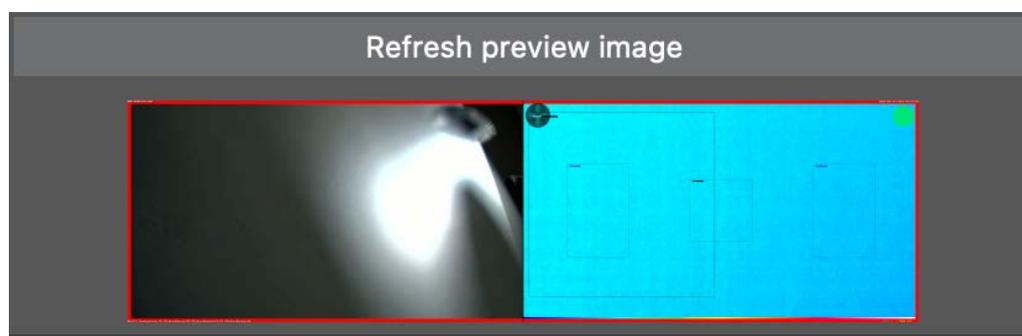
カメラで利用可能なアプリのすべてのスマート・データ情報を取得できます。アプリと関連データ(イベントなど) はスマート・データ・ソースとして利用できます(スマートなデータソース, ページ 218参照)。

Get SmartData information of active camera apps

注! この機能を使用するには、最低でもカメラのファームウェアV7.3.1.54が必要です。

プレビュー画像を更新

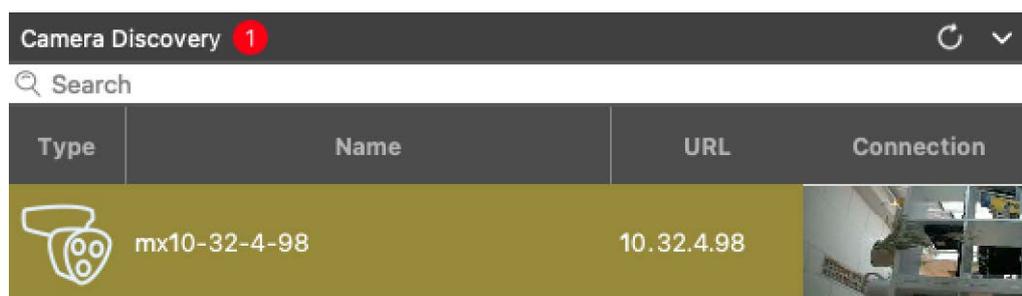
クリックすると、現在のライブ画像に基づいて選択したカメラのプレビュー画像が更新されます。



注! この機能を使用するには、最低でもカメラのファームウェアV7.3.1.54が必要です。

カメラ・ディスカバリー

ネットワークで新しいカメラが検出されると、ここに表示されます。



コンポーネントビュー - カメラツールバー

カメラツールバーから、カメラソフトウェアの主な機能に簡単にアクセスできます。



該当する機能を使用するカメラを選択します。

ア 説明 / 機能
イ
コ
ン

 選択したデバイスを再起動する。

 選択した装置をバックアップします。カメラまたはグループのカメラの現在の設定を保存できます。各バックアップに名前を入力できます。

 デバイスの復元。目的のバックアップファイルをクリックして選択します。

 選択したデバイスを更新します。

をクリックして、ファイルシステムからカメラのファームウェアを選択してインストールします。

一度に多くのカメラにソフトウェア・バージョンを適用できます。MOBOTIX ダウンロード・ディレクトリ (www.mobotix.com > サポート > ダウンロードセンター > マーケティング&ドキュメンテーション) から希望のソフトウェア・バージョンをダウンロードします。次に、[デバイスの更新] をクリックして、*.mpl ファイルを開きます。新しいソフトウェアがカメラにアップロードされます。更新が完了すると、カメラは自動的に再起動します。

注! インストールするソフトウェアは、グループ内のすべてのカメラに対応している必要があります。そうでない場合は、アップデートを実行できません。

 選択したデバイスのSDカードをフォーマットする

3つのフォーマットオプションがあります:

- クイックフォーマット
- セキュアフォーマット (遅い)
- MxAnalytics/Appボリュームを使ったクイック・フォーマット

注! MxAnalyticsまたはアプリの機能を使用するには、**MxAnalytics/アプリのボリュームでクイック・フォーマット**を選択する必要があります。

 選択したデバイスを工場出荷時の設定にリセットする。

リセット処理中に、セキュリティ設定(ユーザ名とパスワード)およびネットワーク設定もリセットするかどうかを選択できます。その後、カメラは自動的に再起動します。

注! カメラを工場出荷時設定にリセットしても、プロジェクトデータは自動的に更新されません。手動で更新する必要があります。

ア 説明 / 機能

イ
コ
ン



選択したデバイスのヘルスチェック。

クリックするとヘルスチェックモードに切り替わります。

MOBOTIX カメラは、システム・ステータスを独自に常時チェックします。ヘルスチェックの結果は、**コンポーネント表示**の新しいタブで表示されます。

[健康チェック](#), [ページ 192](#)参照。



セキュアシステム

選択したデバイスを保護するためにクリックします。

この機能は、管理者がカメラシステムを保護する際に役立ちます。攻撃される可能性のあるポイントを表示し、カメラへの不正アクセスや暗号化されていないアクセスを防止します。

[システム・セキュリティのチェック](#), [ページ 189](#)参照してください。



ドア・ステーションの初期化

この機能は、選択されたデバイスがドア・ステーションの場合にのみ使用できます。

ドア・ステーションのウィザードは、選択したドア・ステーションの基本的な設定手順をガイドします。

[ドアステーション・ウィザード](#), [ページ 209](#)」も参照してください。



SSL証明書

クリックすると、選択したデバイスの SSL 証明書が更新されます。

SSLは、ウェブサイトとブラウザ間(または2つのサーバ間)で送信されるデータを暗号化することで、インターネット接続を保護するための標準的な技術です。この機能により、管理者は選択したカメラにSSL証明書をアップロードまたは作成することができます。

[SSL証明書の管理](#), [ページ 194](#)参照してください。



ライブを見る

クリックすると、選択したカメラのライブ画像がウェブ・ブラウザに表示されます。



管理者を表示する

クリックすると、選択したデバイスの管理概要ページがウェブブラウザに表示されます。



ショーの設定

クリックすると、選択したデバイスのセットアップ概要ページがウェブブラウザに表示されます。

システム・セキュリティのチェック

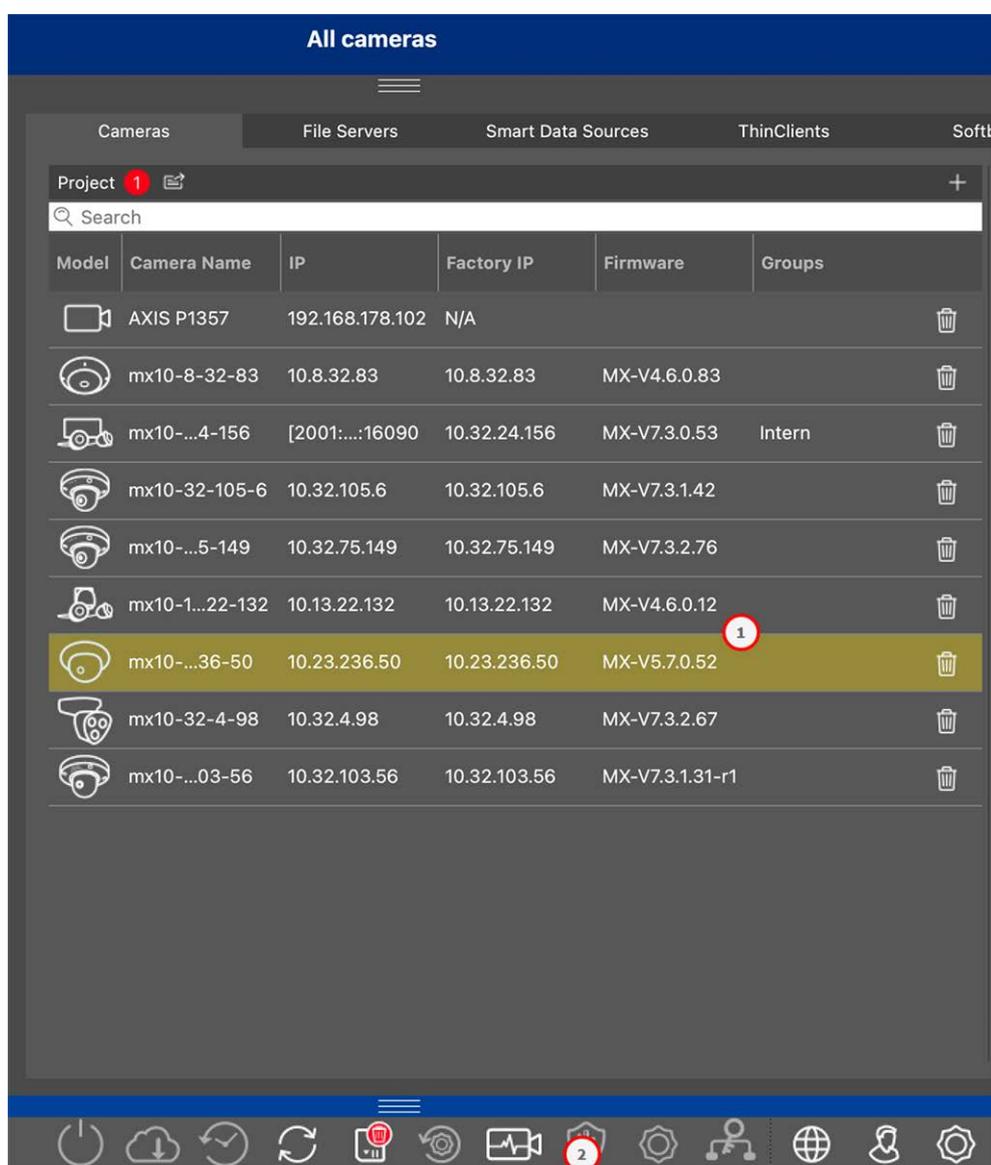
システムの基本設定が完了したら、セキュリティを確認することをお勧めします。**セキュアシステムウィザード**は**コンポーネント・ビュー**, [ページ 35](#)カメラツールバーにあります。このウィザードは、カメラのセキュリティ設定を分析し、

一般的なベストプラクティスに基づき、その状態を評価します。テスト基準が満たされていない場合、カメラを保護するための対策が表示されます。

注！ システム・セキュリティ・チェック機能は、MOBOTIX MOVE カメラおよびONVIF-S/G 互換インターフェースを提供する他社製カメラでは使用できません。カメラの機能の違いの概要については、[カメラ機能の概要](#)、[ページ 11](#)参照してください。

システム・セキュリティの設定を確認する

1. メニュービューでコンポーネントビューを開く。
2. 必要なカメラを選択する①。



3. カメラツールバー② で、 **Secure System** をクリックします。以下の基準がチェックされます：

- meinsmJパスワードをMOBOTIX カメラの標準または ONVIF ユーザーアカウントで使用する。サイバー攻撃者が標準の "meinsm "パスワードを推測するのは簡単です。
- **パブリック・アクセスを有効にする**:パブリック・アクセスを有効にすると、パスワードなしでさまざまなカメラ機能を使用できます。
- **HTTPウェブサーバーを起動**:HTTPを使用すると、パスワードや画像などのユーザーデータを含むデータが暗号化されずにネットワーク経由で送信される可能性があります。

チェックの結果は、**Secure System**ダイアログにカメラごとに表示されます。接続エラーなどでカメラのチェックが行われなかった場合もすべて表示されます。

状態	説明
⊗ セキュアな状態ではありません	安全でないとされた基準が少なくとも1つあった。
🔄 ソフトウェアが古すぎます	カメラのソフトウェアを確認し、必要であればアップデートしてください。
⊗ 接続エラー	カメラへのネットワーク接続を確認し、セキュリティチェックを再度実行してください。
ⓘ サポートされていません	ウィザードを使用して、カメラを解析または保護することはできません。
✔ セキュアに保持されています	カメラは安全であり、これ以上の処置は必要ない。

4. **システムの保護**]ダイアログで、[**次へ**]をクリックします。安全でないステータスになったカメラは、3つの基準のどれを満たしたか、およびカメラを適切に保護するために必要な対策とともに表示されます:

基準 説明

パスワード 標準の "meinsm "パスワードを使用しているカメラの全ユーザアカウントのパスワードを変更します。パスワードが一度も変更されていないONVIFユーザも含まれます。

ド 新しいパスワードを入力し、確認します。適切なパスワードは少なくとも8文字です。パスワードには、小文字、大文字、数字、特殊文字を使用できます ( を参照)。これらの条件を満たさないパスワードを設定すると、テキストフィールドの周囲に赤枠が表示されます。有効なパスワードを入力すると、枠は緑色に変わります。

新しいパスワードは自動的に MxMC プロジェクト・データに入力されます。

SSL 暗号化 暗号化されていない HTTP 経由のカメラ接続を無効にし、HTTP 接続のみを受け付けるようにカメラを設定します。

化 TCP ポートと SSL 設定は、必要に応じて、MxMC プロジェクトデータで自動的に更新されます。

リモート URL 経由で接続されているカメラの場合、TCP ポートは更新されません。リモート URL 接続の場合、ルータのポート転送を適切な設定に変更する必要がある場合があります。

HTTP を無効にすると、ネットワーク・メッセージなどのさまざまなサービスが動作しなくなることに注意してください。

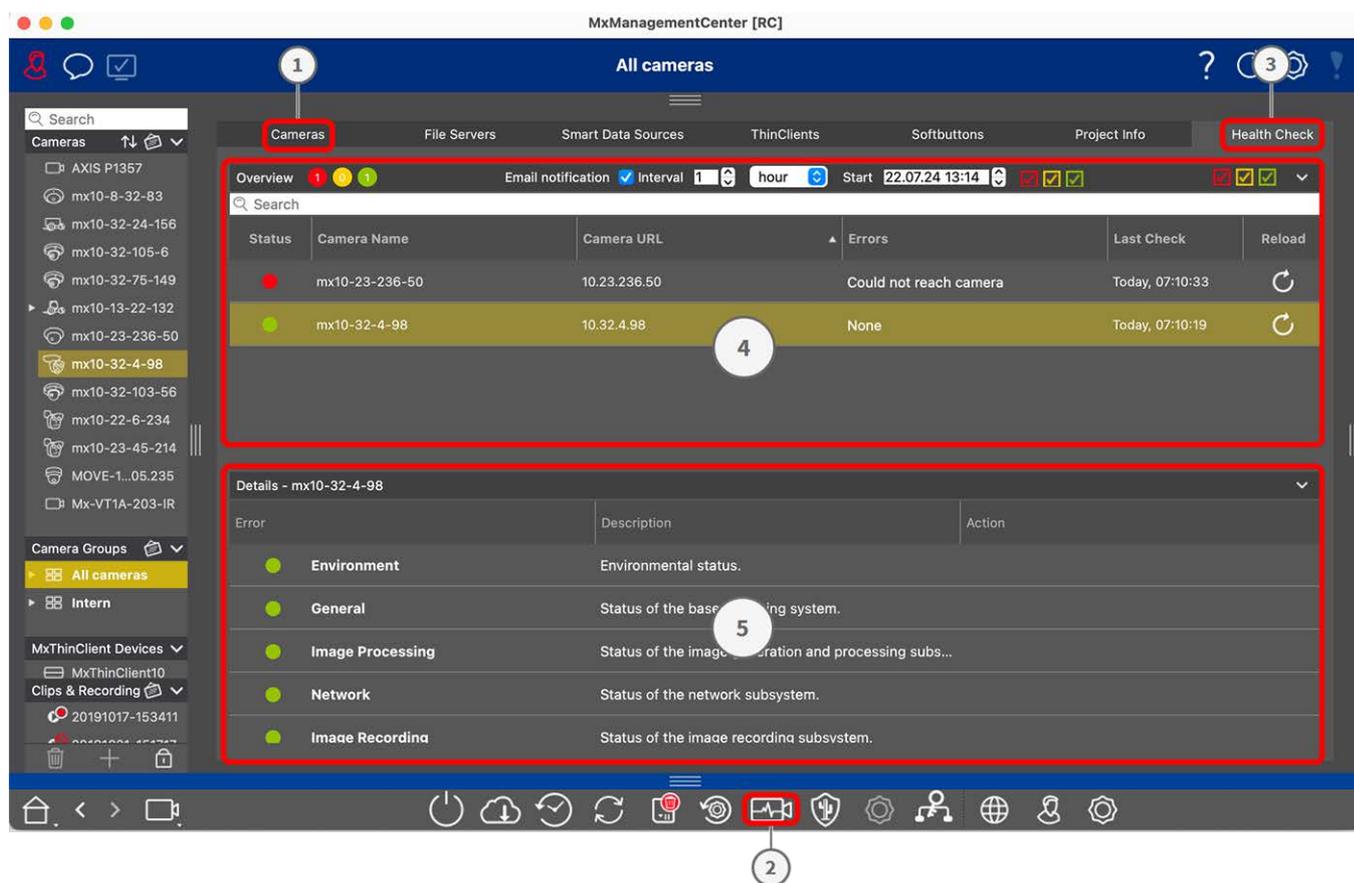
パブリックアクセス カメラのウェブ・インターフェースおよびAPIへのパスワード入力を必要としないアクセスを無効にします。

5. ダイアログ・ボックスで**OK**をクリックする。選択したセキュリティ対策が実行されます。選択したカメラまたはカメラグループのセキュリティ状態が再度分析され、各カメラの結果が表示されます。

健康チェック

MOBOTIX カメラは、システム・ステータスを独自に常時チェックします。ヘルスチェックの結果は、[コンポーネント・ビュー, ページ 35](#)確認できます。

注! ヘルスチェックの結果をEメールで送信するには、Eメール送信を有効にし、プログラム環境設定の基本要件として設定する必要があります([Eメール通知, ページ 174](#)参照)。



図。96: 健康チェック

ヘルスチェックの実施

1. コンポーネント・ビューで、「カメラ」① をクリックします。
2. カメラツールバーで  ヘルスチェック ② をクリックします。
3. カメラ内部のチェックデータが照会され、[ヘルスチェック]タブ③ に表示されます。

健全性チェックダイアログでは、MOBOTIX カメラの適切な動作または機能ステータスの概要が表示されます。ヘルスチェックは2つのエリアに分かれています：

概要④：電子メール通知オプション([メール通知設定](#), ページ 194参照) および色分けされたシステム・ステータス・レポートによるポーリングされたカメラの検査領域の概要：

赤 = エラー:ヘルスチェックの重大な問題、通信 / 接続エラー。

オレンジ = 警告:1つ以上の機能領域が警告を発する。

緑 = OK:すべての機能領域が正常に動作している。

概要領域は、ポーリングされたカメラのうち何台がエラー状態または警告状態にあるかを示します(①)。

表行には、スキャンされた各領域のエラーメッセージと警告の概要を含む、各カメラのシステムの健全性が表示されます(②)。

詳細⑤：Detailed listing of the system state of the camera in the checked areas, which is displayed by clicking on the Camera bar in the overview area.

メール通知設定

① 有効にすると、以下の設定に従って電子メール通知を送信できる:



メール通知 ①: Eメール通知を送信する間隔を設定します。

Interval ②: 通知を定期的を送信する間隔を日または週で指定します。

Start ③: 最初の通知を送信する時間を設定します。

Health Check Status④: 送信するヘルスチェックの結果またはステータスを選択します。

赤 = エラー:ヘルスチェックの重大な問題、通信 / 接続エラー。

オレンジ = 警告:1つ以上の機能領域が警告を発する。

緑 = OK:すべての機能領域が正常に動作している。

注!

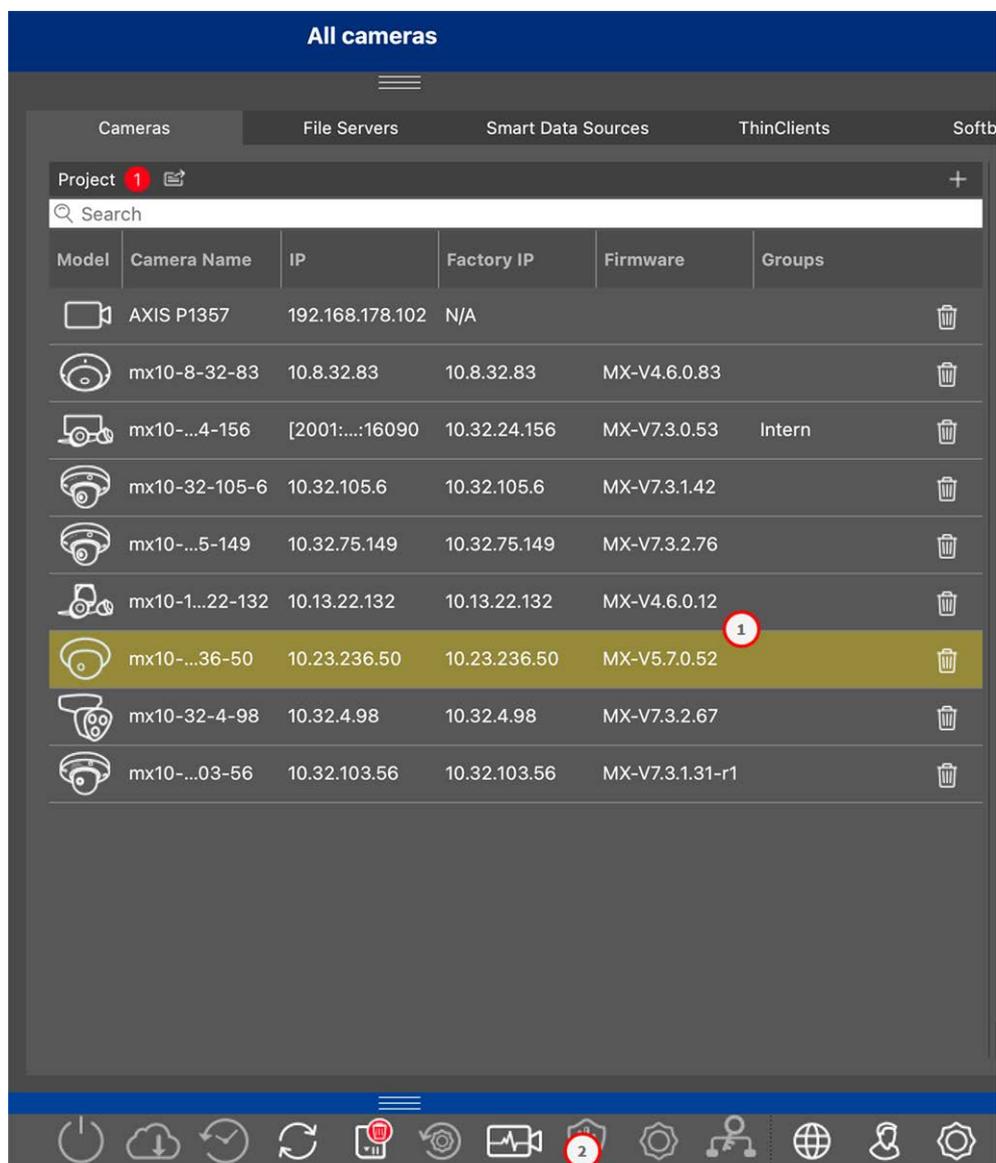
- メールの件名は、健康診断データの要約である、
- メールの内容はHTML形式です。最初にサイト、次にヘルスチェックの日付、チェックしたカメラの台数、そして要約が記載されます。主な内容は、各カメラのヘルスチェックのデータを含む表です。

SSL証明書の管理

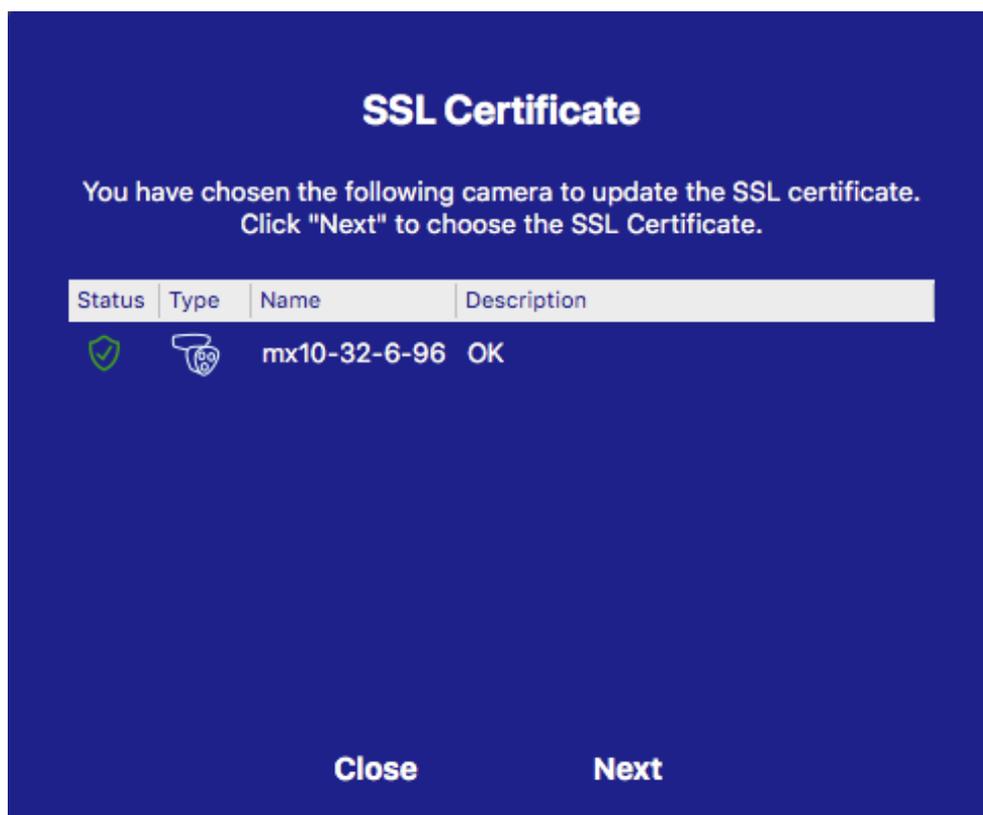
SSLは、ウェブサイトとブラウザ間(または任意の2台のコンピュータ間)で送信されるデータを暗号化することにより、インターネット接続を保護するための標準的な技術です。この機能により、管理者は選択したカメラにSSL証明書をアップロードまたは作成することができます。

SSL証明書をカメラにアップロードする

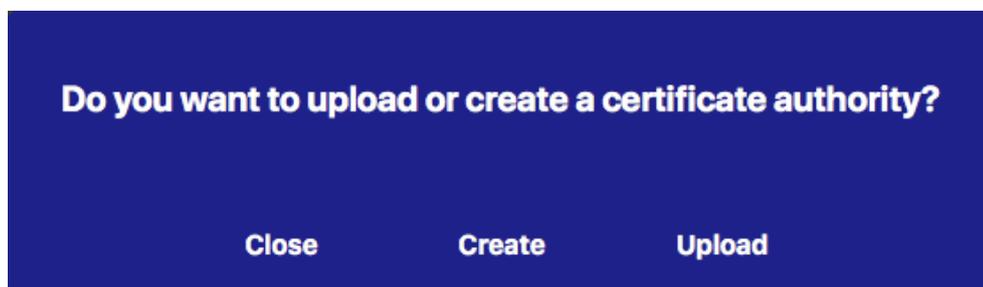
1. メニュービューでコンポーネントビューを開く。
2. 必要なカメラを選択する①。



3. カメラツールバー② で、 **Secure System** をクリックします。SSL証明書ウィザードが表示されます:



4. カメラのステータスがOKの場合は、[Next]をクリックします。
5. プライベートキーを含む既存のSSLルート証明書をアップロードするには、[アップロード]をクリックします。



6. 既存の証明書、秘密鍵を選択し、証明書のパスワードを入力する。

Upload Certificate Authority

Select Certificate

werkstatt/SSL-Certificates/testRootCertificate.0

Select Private Key

/werkstatt/SSL-Certificates/testPrivateKey.pem

Enter Password

.....

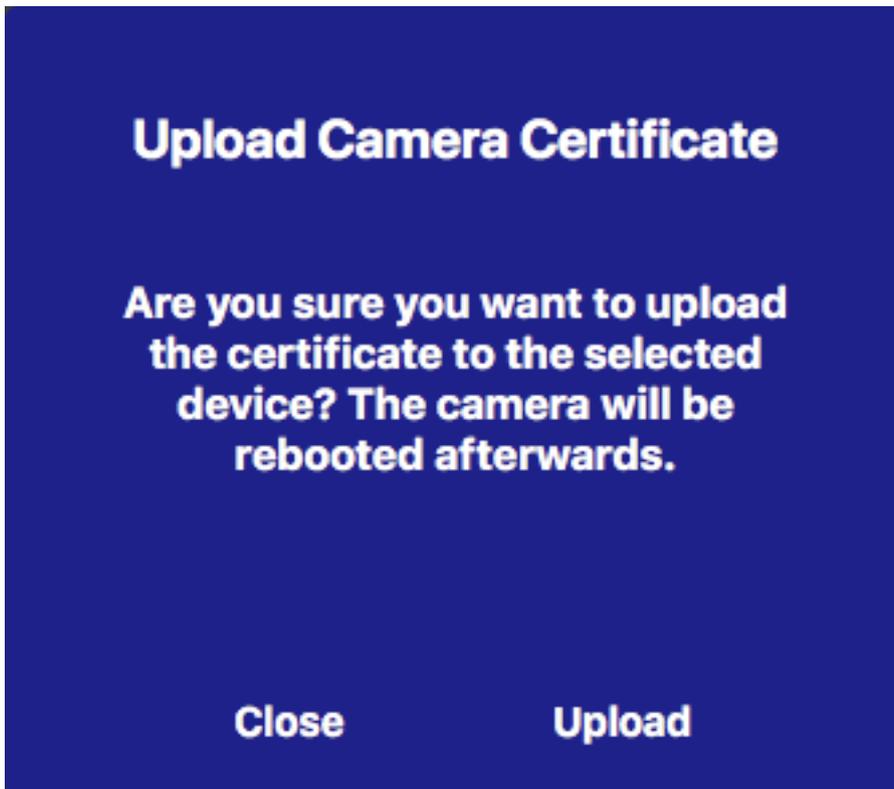
Verify data

Close **Next**

7. **Verify Data**をクリックします。データの検証に成功した場合は、**[次へ]**をクリックします。

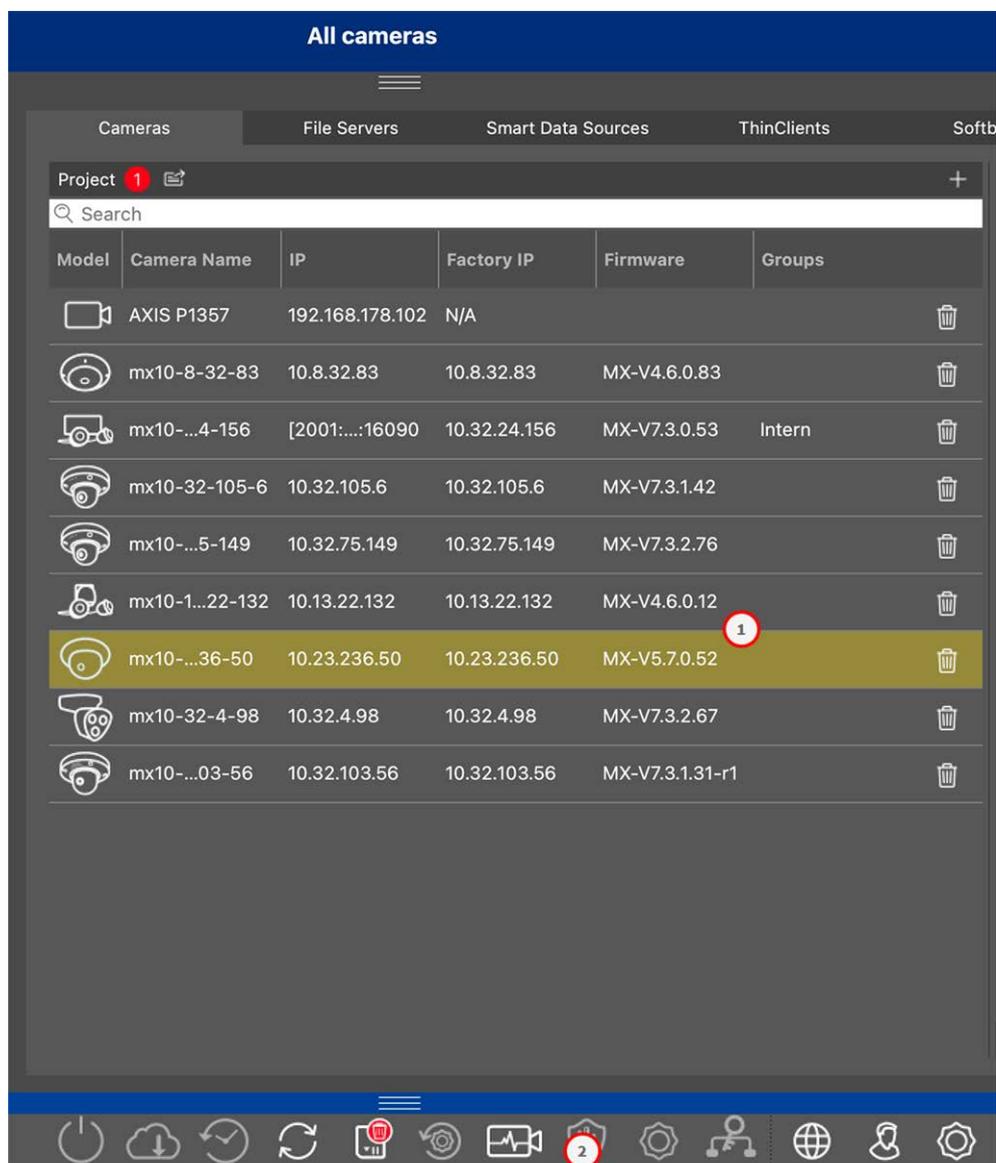
注！ データ検証に失敗した場合は、証明書を確認してください。

8. **アップロード**をクリックします。アップロードの成功またはエラーの概要が表示され、カメラが再起動されます。
アップロードの成功とエラーの概要, ページ 205参照してください。

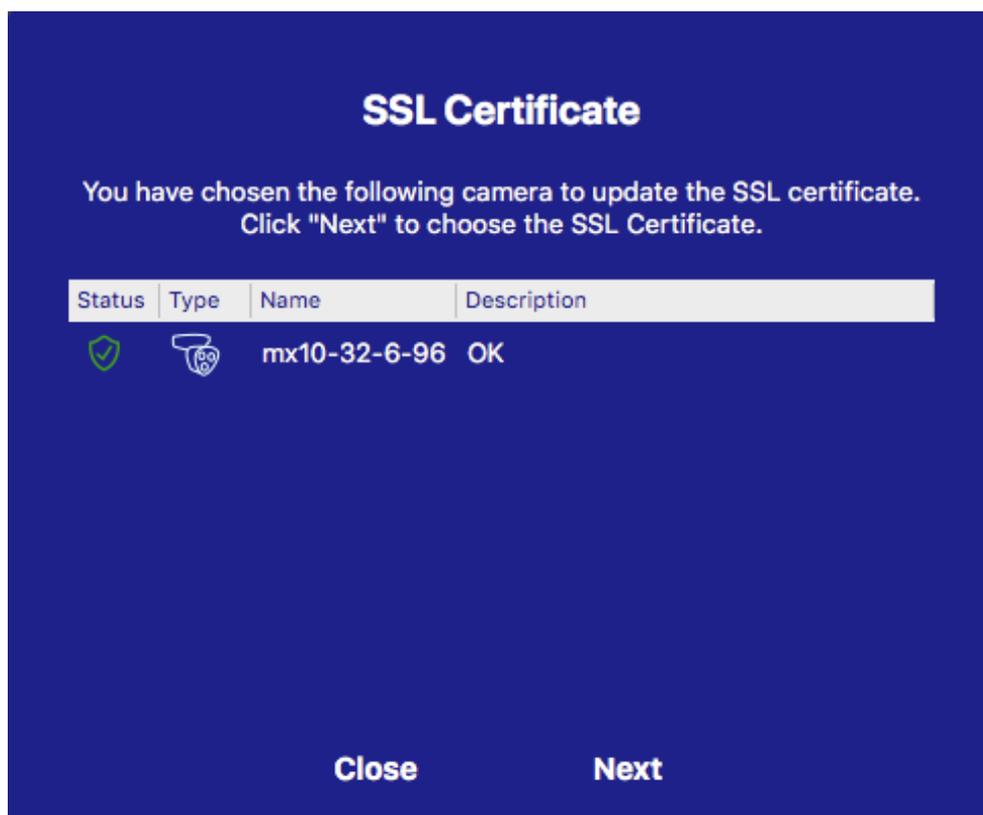


SSL証明書の作成

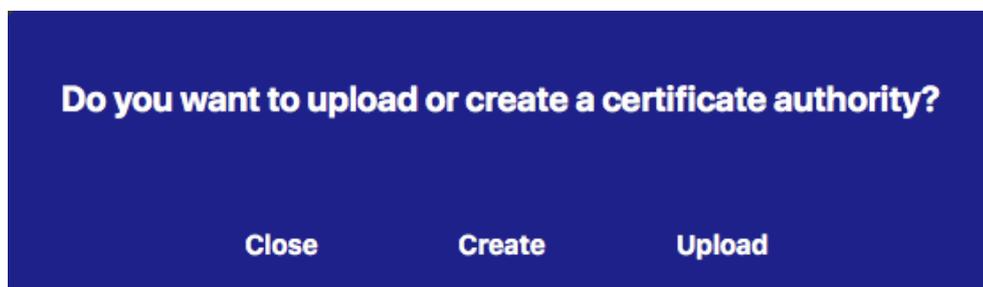
1. メニュービューでコンポーネントビューを開く。
2. 必要なカメラを選択する①。



3. カメラツールバー② で、 **Secure System** をクリックします。SSL証明書ウィザードが表示されます:



4. カメラのステータスがOKの場合は、[Next]をクリックします。
5. **Create**をクリックして、秘密鍵を含むSSLルート証明書を新規作成します。



6. 秘密鍵の「Key Name」と「Key Password」を入力し、「Create and Save」をクリックする。

Create Private Key

Key Name

TestSSLkey

Set Key Password ⓘ

.....

Confirm Password

.....

Create and save

Close **Next**

7. 秘密鍵を保存したら、「Next」をクリックします。認証局の作成ダイアログが表示されます。

8. 少なくとも必須項目を入力し、「**Generate Cert**」をクリックする。

Create Certificate Authority

Common Name*	testRootCertificate
Country (2 letter code)	DE
State	RLP
Locality	Langmeil
Organization	MOBOTIX AG
Unit	Team Technical Docu
Email-Adress	testemail@mobotix.com
Validity Duration* ** (in days)	3650

* : Field is mandatory!

** : Validity Duration has to be equal or greater than 397 days.

ATTENTION

If there are other MxMCs in your project, save the certificate now and distribute it!

All data correct! Certificate Authority was created.

Generate Cert



Backup Cert

Close

Next

9. オプションで、SSL証明書のバックアップを作成することができます。**Backup Cert**をクリックすると、証明書ファイルを保存するディレクトリを選択できます。

注！ 証明書をプロジェクト内の他のMxManagementCenter インスタレーションに配布する必要がある場合など、証明書のバックアップを推奨します。

10. **次へ**をクリックする。
11. **秘密鍵**の「Key Name」と「Key Password」を入力し、「Create and Save」をクリックする。、ページ 201定義した証明書パスワードを入力する。

Upload Certificate Authority

Select Certificate

werkstatt/SSL-Certificates/testRootCertificate.0

Select Private Key

)/werkstatt/SSL-Certificates/testPrivateKey.pem

Enter Password

.....

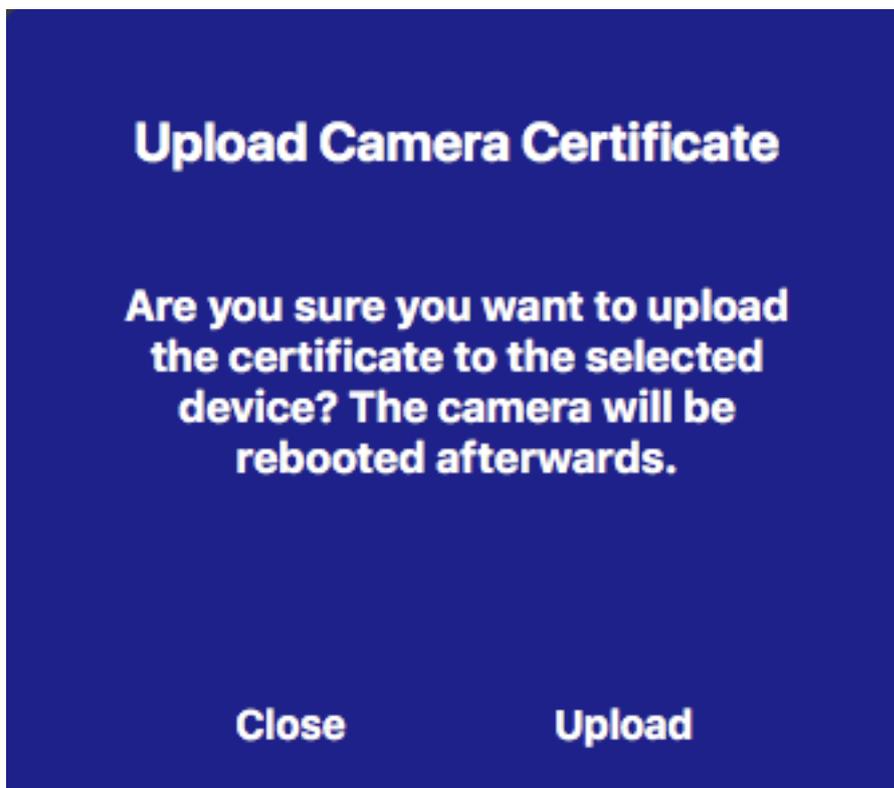
Verify data

Close **Next**

12. **Verify Data**をクリックします。データの検証に成功した場合は、**[次へ]**をクリックします。

注！
データ検証に失敗した場合は、証明書を確認してください。

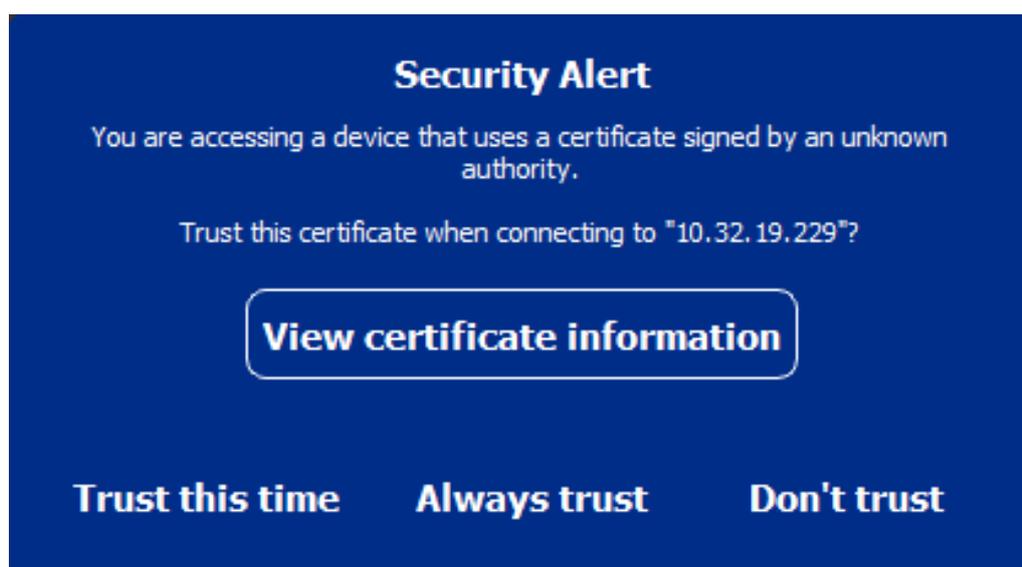
13. **アップロード**をクリックします。アップロードの成功またはエラーの概要が表示され、カメラが再起動されます。アップロードの成功とエラーの概要, ページ 205参照してください。



アップロードの成功とエラーの概要

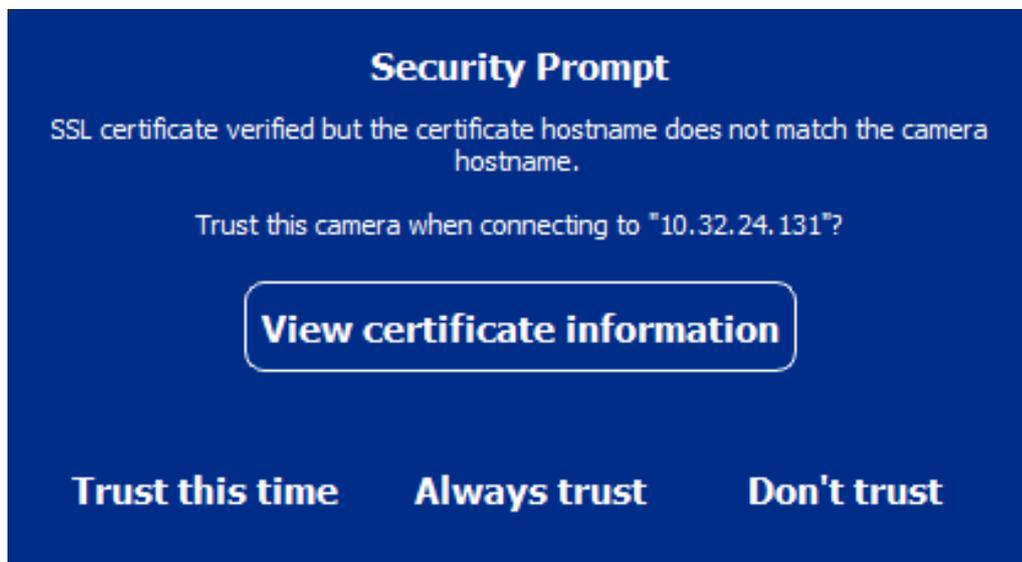
証明書が検証できませんでした

MxMC「Certificates」フォルダに一致するルート証明書がありません。



証明書のホスト名がカメラのホスト名と一致しません。

この現象は、カメラにMOBOTIX工場出荷時証明書が残っているにもかかわらず、工場出荷時証明書とは異なるホスト名を使用して接続している場合に発生する可能性があります。



4台以上のカメラがSSLエラーを報告する。

4台以上のカメラ接続が同時にSSLエラーを報告した場合、信頼できないカメラのリストが表示されます。

Security Alert

The following devices are using certificates that should not be trusted.

Type	Name	URL	Info
	M15_10-14-28-43	10.14.28.43	
	M26_10-22-68-36	10.22.68.36	
	M73_10-32-19-237	10.32.19.237	
	Q24_10-8-107-218	10.8.107.218	
	Q26_10-22-10-129	10.22.10.129	
	S26_10-23-9-171	10.23.9.171	

Select camera to view certificate information.

Trust these certificates when connecting?

Trust this time
Always trust
Don't trust

SSL証明書の情報を表示する

SSLエラーが発生した場合、証明書の詳細情報を表示できるようになりました。

Certificate information

Field	Value
Hostname(s)	10.22.10.30,
Common Name	mx10-22-10-30
Country	DE
Issuer Name	MX-ProduktionSubCA-1
Locality	
Organisation	MOBOTIX AG
Organisation Unit	MX-PKI
State	Rheinland-Pfalz
Email-Adress	
Valid from	2016-12-23T20:34:55Z
Valid to	2036-12-18T20:34:55Z
Duration	7300 days

Close

1台のカメラでSSLエラー

1. 「証明書情報の表示」をクリックします。

SSLエラーのある複数のカメラのリスト

1. カメラリストでカメラを選択します。
2. 右側の感嘆符アイコンをクリックする①。関連する証明書情報が表示されます。

ドアステーション・ウィザード

ドア・ステーション・ウィザードは、選択したドア・ステーションの基本的な設定を案内します。[コンポーネント・ビュー](#), [ページ 35](#)カメラ・ツールバーからアクセスできます。

こちらも参照のこと:

- [ドアステーションの設定](#), [ページ 117](#)
- [ドア・ステーションの操作](#), [ページ 260](#)

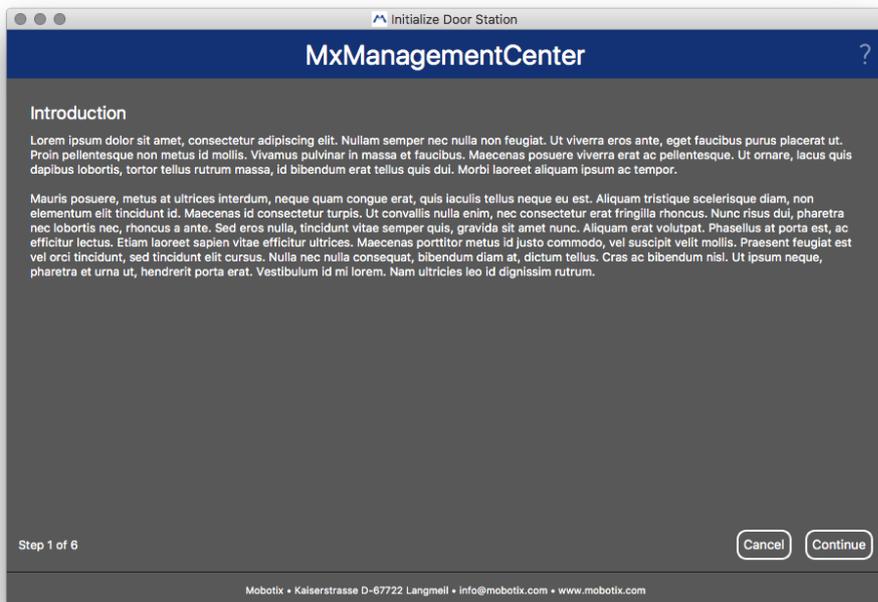
基本要件

- デバイスが最新のソフトウェアで動作していることを確認してください。そうでない場合、コンフィギュレーションに失敗する可能性があります。
- 設定する追加ドア・ステーション(S1x、S2x カメラを含む) を [デバイス・バー](#) にリストする必要があります。
- すべてのドア・ステーションにデフォルト・パスワード "meinsm" を適用します。これを行うには、[セキュア・システム・ウィザード](#) を使用します。
- 設定する MxDisplay デバイスにデフォルトのパスワード "meinsm" を適用します。

ステップ・バイ・ステップ

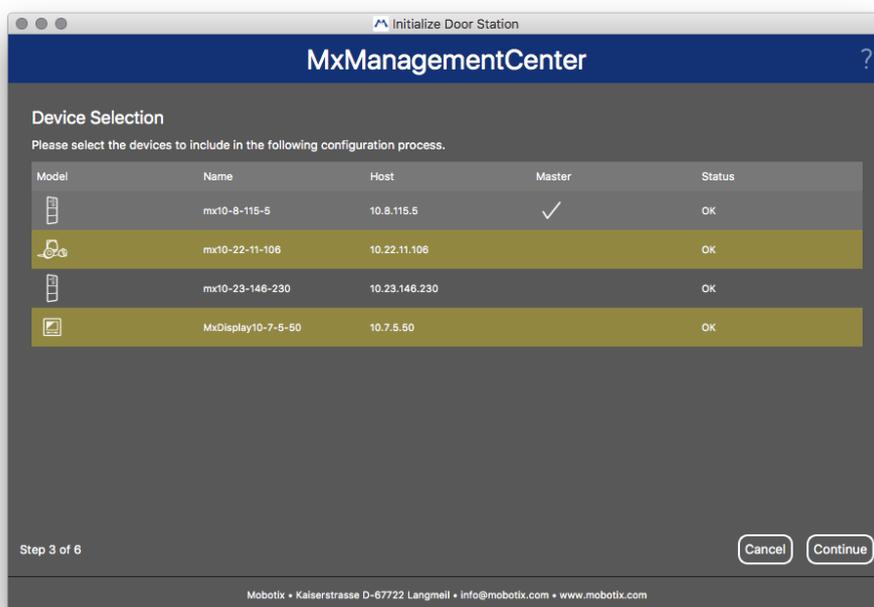
1. メニュービューでコンポーネントを開く。
2. 関連するドア・ステーション(カメラ) の [デバイス] バーまたは [カメラ / グループ] バーを選択して、 [ドア・ステーションの初期化] をクリックします。ドア・ステーション・ウィザードが起動します。

3. 紹介文を読み、さらに設定を行うための基本的な要件を満たしていることを確認します。**Continue**をクリックします。

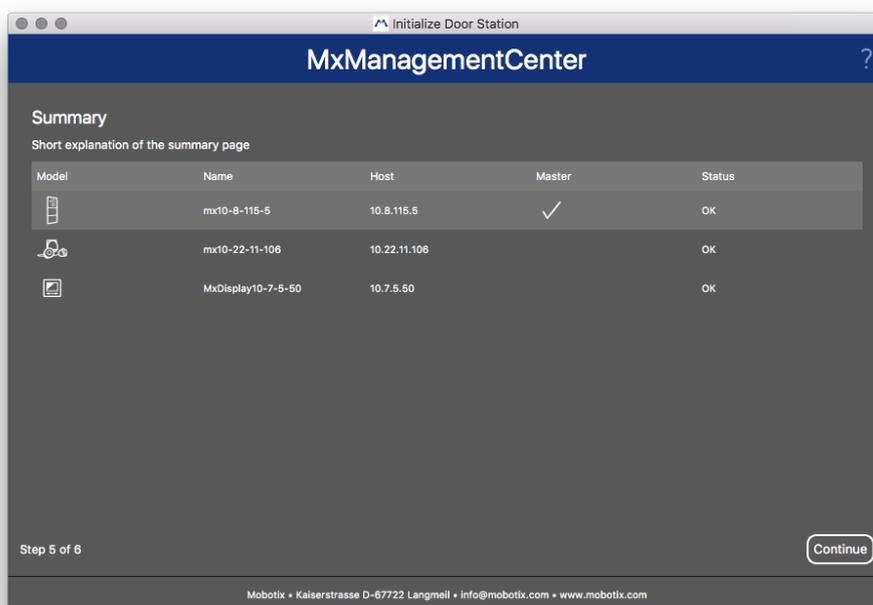


4. Select the devices you want to configure and click **続ける**. The Selected devices will be configured. This can take while.

注！ 適切なソフト ウェアを持つデバイスのみ選択 できます。マスター・ドア・ステーションは選択解除 できません。

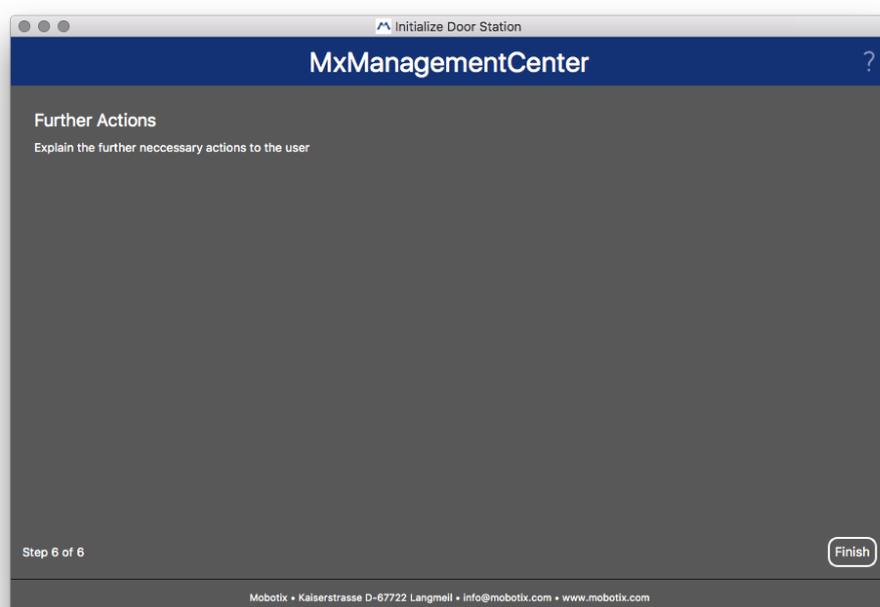


5. 設定されたデバイスの概要を確認し、**Continue**をクリックします。



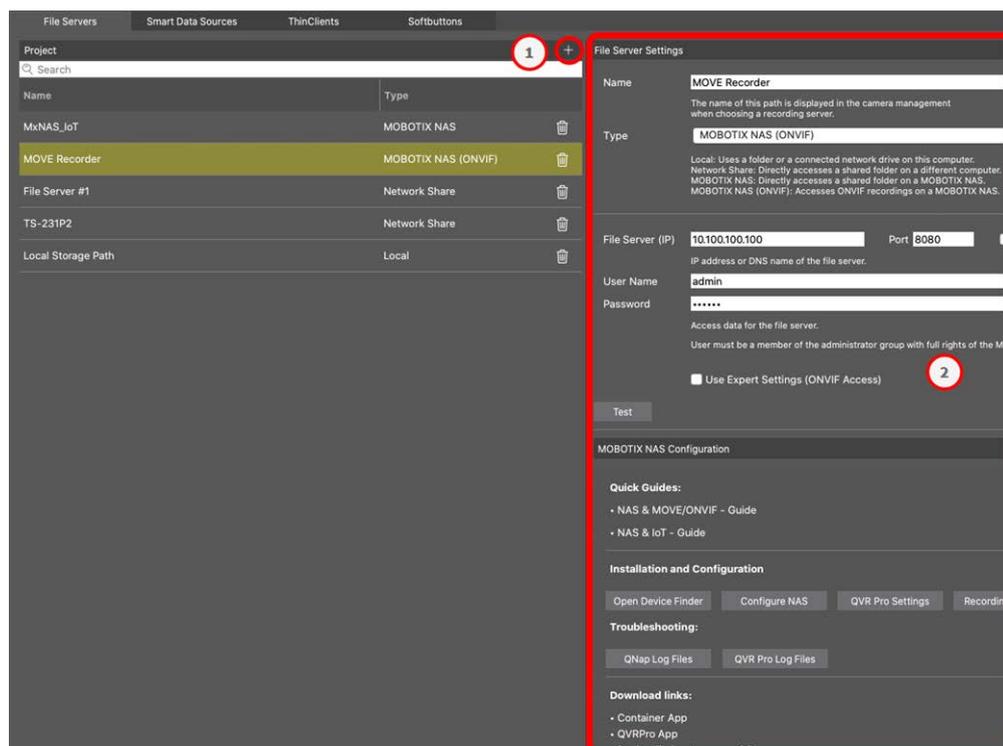
6. 次の残りの設定手順に従って、[Finish]をクリックします。

- ドアステーション RFID モジュールの初期化
- リモート・ステーションとしてMxBell を追加
- アドレスとリモートステーション間のすべての関係を定義する
- I/O配線の設定
- すべてのドア・ステーション(カメラ)の最終設定
- MxDisplayのセットアップ



ファイルサーバーの設定

保存された画像には2つの方法でアクセスできます:カメラ経由でアクセスする方法と、録画が保存されているファイル・サーバに直接アクセスする方法です。直接アクセスする場合は、ここで録画パスを作成し、カメラに割り当てます。[録音設定, ページ 140](#)または[録音設定, ページ 184](#)参照)。



ファイルサーバーの追加

1. **+** アイコン① をクリックし、ファイルサーバーの種類を選択する。
2. ファイルサーバー設定エリア② でファイルサーバーを設定する。

ファイルサーバーの設定

Name:

ここにファイルサーバの名前を入力します。この名前を使用して、カメラ設定ダイアログのパスを録画パスとして選択します。

タイプ

- **ローカル**: このコンピュータまたは接続されたネットワーク・ドライブ上のローカル・ディレクトリを含みます。ディレクトリのパスを手動で入力するか、テキストボックスにディレクトリをドラッグ&ドロップするか、ディレクトリを選択します。
- **ネットワーク共有**: ファイルサーバー上の共有フォルダーに直接アクセスします。この場合、コンピュータ、フォルダ、アクセスデータを入力する必要があります。
- **MOBOTIX NAS**: MOBOTIX NAS上の共有フォルダーにあるデータに直接アクセスする。
- **MOBOTIX NAS (ONVIF-S/G)**: の録画は、NAS にインストールする必要がある QVR Pro ビデオ管理ソフトウェアによってアクセスされます。ONVIF-S/G MOBOTIX

ローカル

The screenshot shows the 'File Server Settings' dialog box. The 'Name' field is 'Local Storage Path'. Below it is a description: 'The name of this path is displayed in the camera management when choosing a recording server.' The 'Type' dropdown is set to 'Local'. Below it is a list of options: 'Local: Uses a folder or a connected network drive on this computer.', 'Network Share: Directly accesses a shared folder on a different computer.', 'MOBOTIX NAS: Directly accesses a shared folder on a MOBOTIX NAS.', and 'MOBOTIX NAS (ONVIF): Accesses ONVIF recordings on a MOBOTIX NAS.' The 'Path' field is '/storage'. There is a 'Test' button at the bottom left.

パス: カメラが作成した録画フォルダを含むパスを選択します。

ネットワーク共有

The screenshot shows the 'File Server Settings' dialog box. The 'Name' field is 'File Server #1'. Below it is a description: 'The name of this path is displayed in the camera management when choosing a recording server.' The 'Type' dropdown is set to 'Network Share'. Below it is a list of options: 'Local: Uses a folder or a connected network drive on this computer.', 'Network Share: Directly accesses a shared folder on a different computer.', 'MOBOTIX NAS: Directly accesses a shared folder on a MOBOTIX NAS.', and 'MOBOTIX NAS (ONVIF): Accesses ONVIF recordings on a MOBOTIX NAS.' The 'File Server (IP)' field is '10.0.0.11'. Below it is a description: 'IP address or DNS name of the computer with the share.' The 'Directory' field is 'RECORDINGS'. Below it is a description: 'Name of the share on the computer.' The 'User Name' field is 'MRX'. The 'Password' field is masked with dots. Below it is a description: 'Access data for the network share.' There is a 'Test' button at the bottom left.

ファイルサーバー (IP) : 共有ファイルサーバーのIPアドレスまたはDNS名。

ディレクトリ: ファイルサーバー上の共有名。

注! パスの末尾がカメラの工場出荷時IPアドレスを含むフォルダの前であることを確認してください。

ユーザー名/パスワード: ネットワーク共有のアクセスデータ。

MOBOTIX NAS

データはMOBOTIX NAS上の共有フォルダに直接アクセスする。

Name
The name of this path is displayed in the camera management when choosing a recording server.

Type
Local: Uses a folder or a connected network drive on this computer.
Network Share: Directly accesses a shared folder on a different computer.
MOBOTIX NAS: Directly accesses a shared folder on a MOBOTIX NAS.
MOBOTIX NAS (ONVIF): Accesses ONVIF recordings on a MOBOTIX NAS.

File Server (IP)
IP address or DNS name of the computer with the share.

Directory
Name of the share on the computer.

User Name

Password
Access data for the network share.

ファイル・サーバー(IP) : MOBOTIX NAS の IP アドレスまたは DNS 名とポート。

ディレクトリ Name of the share on the MOBOTIX NAS.

注! パスの末尾がカメラの工場出荷時IPアドレスを含むフォルダの前であることを確認してください。

ユーザー名/パスワード: MOBOTIX NAS のアクセスデータ。

モボティックス・ナス(オンビフ)

ONVIF-S/G の録画は、MOBOTIX NASにインストールする必要があるQVR Proビデオ管理ソフトウェアによってアクセスされる。

Name
The name of this path is displayed in the camera management when choosing a recording server.

Type
Local: Uses a folder or a connected network drive on this computer.
Network Share: Directly accesses a shared folder on a different computer.
MOBOTIX NAS: Directly accesses a shared folder on a MOBOTIX NAS.
MOBOTIX NAS (ONVIF): Accesses ONVIF recordings on a MOBOTIX NAS.

File Server (IP) **Port** Use SSL
IP address or DNS name of the file server.

User Name
Password
Access data for the file server.
User must be a member of the administrator group with full rights of the MOBOTIX NAS!

Use Expert Settings (ONVIF Access)

File Server (IP) **Port** Use SSL
IP address or DNS name of the file server.

User Name
Password
Access data for the file server.

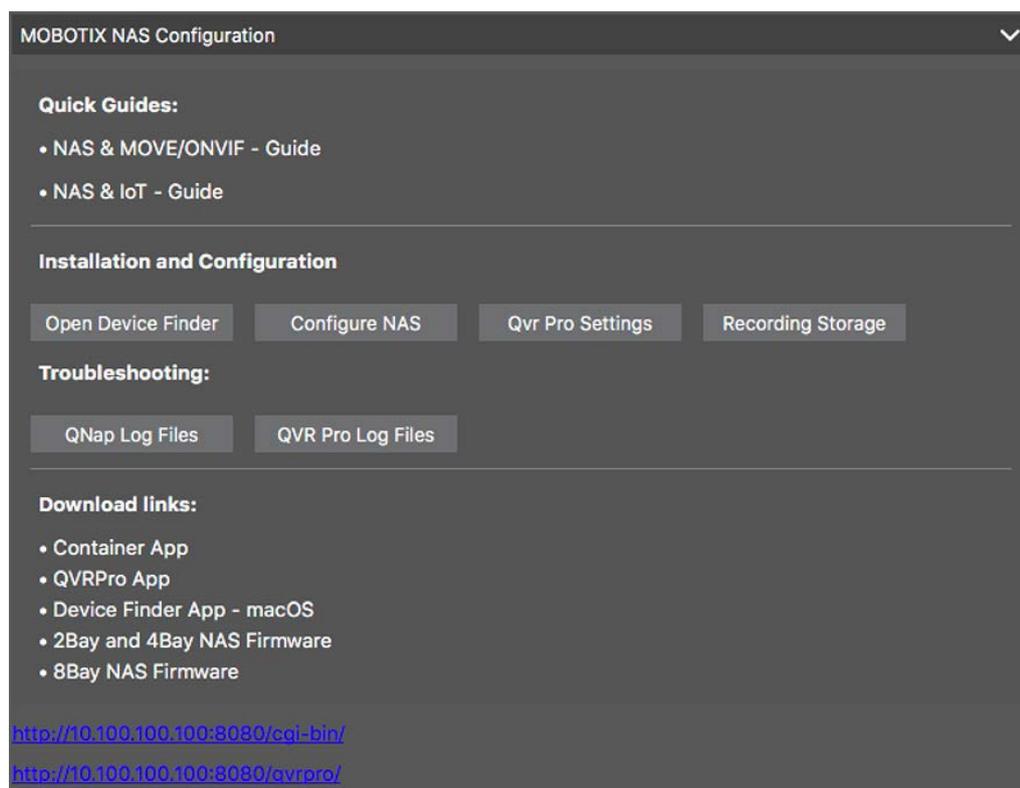
図. 97: MOBOTIX NASの設定

ファイルサーバー(IP) :ファイルサーバーのIPアドレスまたはDNS名。

ユーザー名/パスワード :ファイルサーバーのアクセスデータ。

エキスパート設定(ONVIF-S/G アクセス) を使用します :ONVIF-S/G アクセスに特別なアクセスデータが必要な場合は、ここに入力してください。

MOBOTIX NASの構成



図。98: MOBOTIX NASの構成

MOBOTIX NASまたはMOBOTIX NAS(ONVIF) システムの構成と保守には、以下の機能を使用できます。

クイックガイド

MOBOTIX NASシステムのインストールまたは構成 マニュアルをダウンロードするためのリンク

インストールと設定

- **デバイス・ファインダーを開きます:** デバイス・ファインダーは、ネットワーク内のMOBOTIX NAS システムを検出し、初期設定を容易にします。
- **NAS を構成する:** MOBOTIX NAS システムの Web インターフェイスを開き、NAS デバイスを構成できます。
- **QVR Pro 設定:** ビデオ管理ソフトウェアQVR Proのウェブインターフェイスを開きます。このソフトウェアは MOBOTIX NAS システムに最初にインストールする必要があります。
- **録画ストレージスペース:** MOBOTIX NAS システムの Web インターフェイスを開き、ビデオ録画の保存領域を設定するインターフェイスを表示します。
- **トラブルシューティング**ここでは、MOBOTIX NASシステムまたはQVR Proソフトウェアのログファイルをダウンロードできます。

- **ダウンロードリンク**インストール、設定、メンテナンスに役立つリソースへのリンク。

コンテナ・アプリ: MOBOTIX NASシステムにQVR Pro Appをインストールするには、Container Appが必要です。

QVR Proアプリ: MOBOTIX NASシステム上のMOBOTIX MOVEまたはONVIFカメラからの録画を管理するためのソフトウェア。

Device Finder App - macOS:ネットワーク内のMOBOTIX NAS システムを見つけるには、Device Finder Appを使用します。

2Bay および 4Bay NAS ファームウェア: MOBOTIX NAS システムの最新ファームウェア。

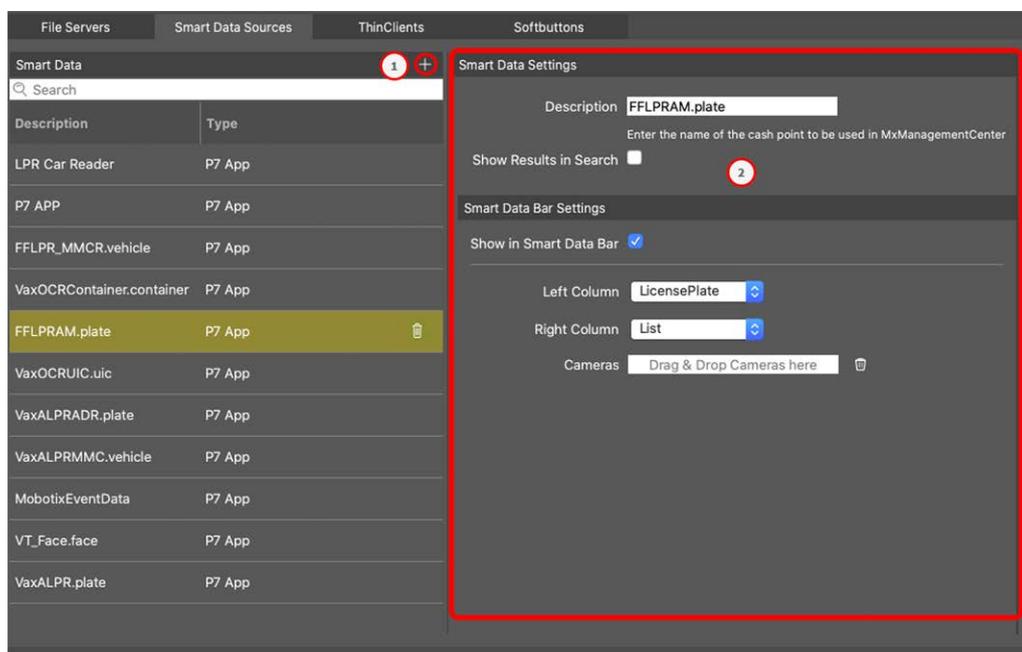
8Bay NASファームウェア: MOBOTIX NAS システムの最新ファームウェア。

スマートなデータソース

MOBOTIX スマートデータシステムを使えば、例えばPOSシステムやネイティブMOBOTIX IOTアプリからの取引データを、MxMC の取引記録ビデオにリンクすることができる。スマートデータは、広範囲に組み合わせ、検索、フィルタリングすることができる([スマートデータ検索ビューでの検索, ページ 287参照](#))。

注! A license is required to activate the general Smart Data interface from which you can read transaction data, e.g. from POS systems or third party license plate recognition systems.

MOBOTIX IOT Appsからのスマートデータの使用にはライセンスは必要ない。



図。99: スマートデータの設定

スマートデータソースの追加

1. **+** アイコン① をクリックし、スマートデータ・タイプを選択する。
2. スマートデータ設定エリアでスマートデータソースを設定する②。

スマートデータソースの設定

注! 外部のスマート・データ・ソース(キャッシュ・ポイントなど) にはライセンスが必要です。

一般設定を編集し、スマート・データ・バーでのスマート・データの表示方法を定義します。

図。100: スマート・データ・ソースの設定

注! To use MOBOTIX P7 Apps as Data Sources the minimum firmware version on the MOBOTIX IoT Camera is 7.1.2.24.

カメラのユーザ・インターフェースで以下の手順に従って、MxMC のスマート・データ・インターフェースでカメラが正しく動作するように準備します:

1. *Admin Menu*(管理者メニュー) > *Smart Data Configuration*(スマート データ設定) に進み、*Add Smart Data source*(スマート データソースの追加) をクリックします。
2. P7アプリの識別子を入力してください:
Vaxtor: VaxALPR.プレート
FFグループFFLPR.プレート
ヴィザージュVT_Face.face
3. *Set*をクリックする。
4. カメラを保存し、再起動する。
5. *Setup Menu*(セット アップ・メニュー) > *General Event Settings*(一般 イベント 設定) に進み、*Arming*(作動開始) を有効にします。
6. *Set*をクリックする。
7. *Setup Menu*(セット アップメニュー) > *Recording*(録画) を選択します:
アラーム= 有効
録画 (REC) = 連続録画、2fps
8. *Set*をクリックする。
9. *Setup Menu* > *Certified App Settings*に移動し、"Active "をチェックする。
10. *Set* ボタンをクリック

スマート データ設定

■ バージョン

スマート データソースの対応するバージョンを選択します。

■ 説明

スマート・データ・ソースの意味のある名前をここに入力します。この名前で、ソースを識別し、MxMC で選択して調査することができます。

■ 結果を検索に表示

検索結果にデータを表示させたい場合は、このオプションをチェックしてください([スマート データ検索ビューでの検索](#), ページ 287参照)。

スマート・データ・バーの設定

- スマートデータバーに表示

スマート・データ・バーを開く、ページ 287データを表示したい場合は、このオプションをチェックしてください。

- 左列

左の列に表示するデータを選択します。

- 右列

右の列に表示するデータを選択します。

- カメラ

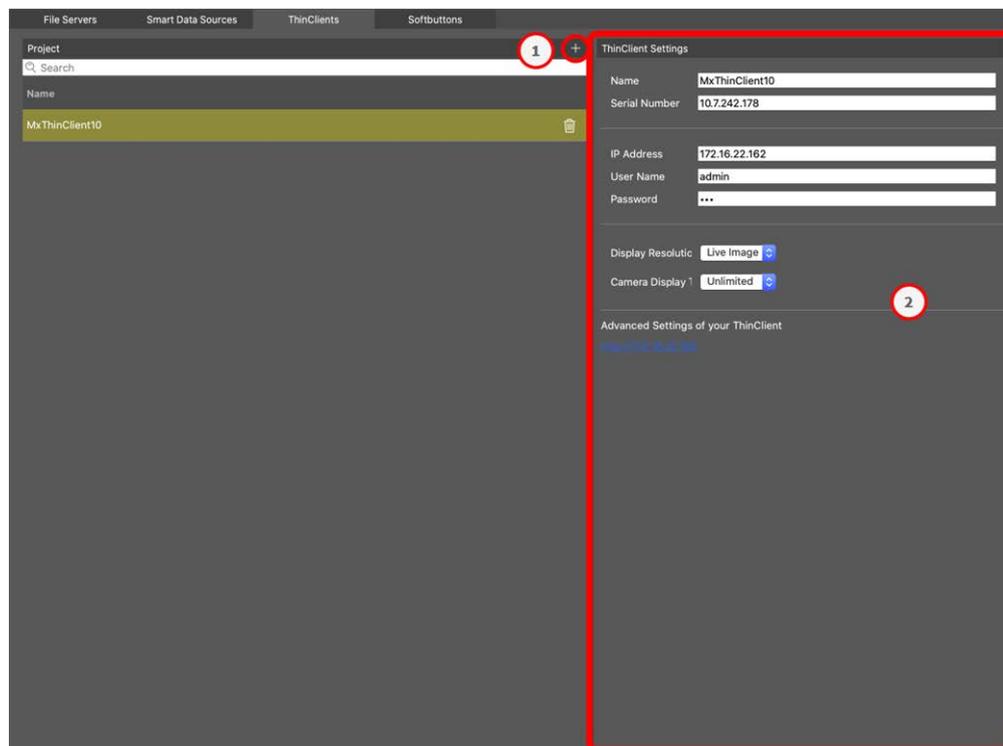
イベント・データをスマート・データ・バーに表示するカメラまたはカメラ・グループをフィールドにドラッグ・アンド・ドロップします。複数のデバイスを追加した場合、それらの名前はセミコロンで分割されてカメラ・フィールドに表示されます。

CTRLキーを押しながら、複数のカメラまたはカメラ・グループを選択します。

注! ビデオソースとデータソースは同一である必要はない。

MxThinClient の設定

MxThinClient デバイスを使用すると、MOBOTIX カメラのライブ画像を HDMI 接続のモニタまたはテレビに表示できます。



図。101: MxThinClientの設定

MxThinClientの追加

1.  アイコン① をクリックする。
2. シンクライアント設定領域で MxThinClient を設定します②。

MxThinClient の設定

ここでMxThinClientの設定を編集します。

ThinClient Settings

Name	<input type="text" value="MxThinClient10"/>
Serial Number	<input type="text" value="10.7.242.178"/>

IP Address	<input type="text" value="172.16.22.162"/>
User Name	<input type="text" value="admin"/>
Password	<input type="password" value="..."/>

Display Resolutic	<input type="text" value="Live Image"/>
Camera Display	<input type="text" value="Unlimited"/>

 Message system is deactivated.
Please enter a valid file server IP to access the settir

Advanced Settings of your ThinClient

<http://172.16.22.162>

ThinClient Discovery  

図。102: MxThinClientの設定

Name

MxThinClient の名前を入力します(スペースは使用しないでください)。

URL

MxThinClientのURLまたはIPアドレスを入力します。

ユーザ名

ここに MxThinClient ユーザのユーザ名を入力します。

パスワード

ThinClientユーザのパスワードをここに入力します。

表示解像度

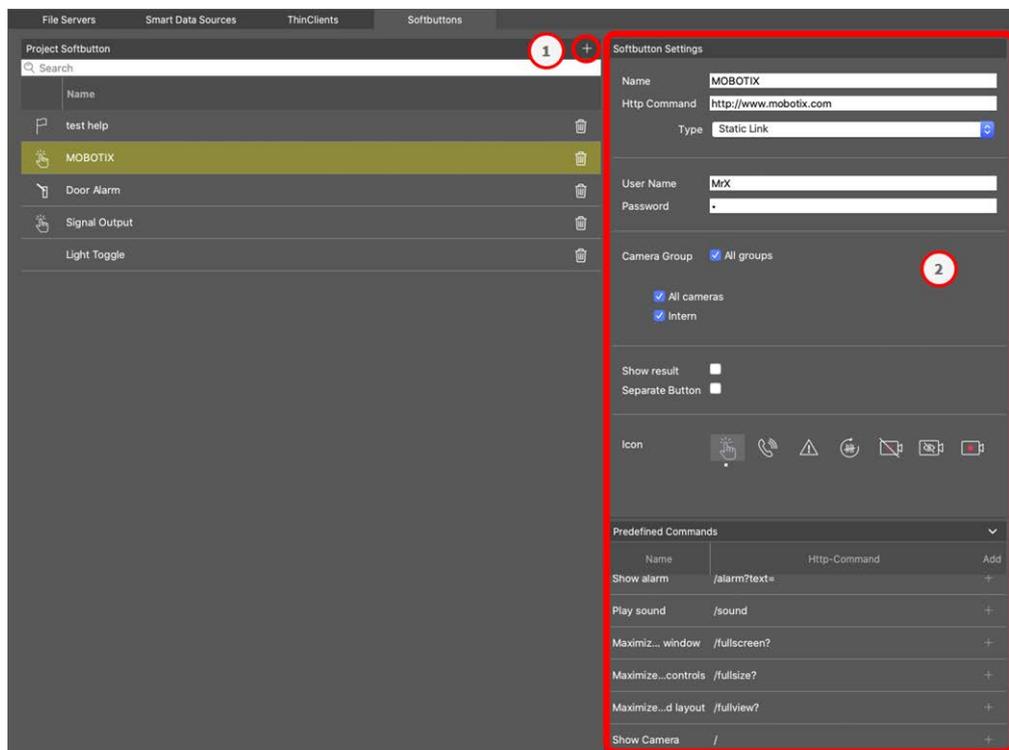
MxThinClientのモニタに表示するカメラ画像の解像度を選択します。

カメラ表示

ここで、割り当てられたカメラ画像をThinClientのモニタに表示する時間を選択します。選択した時間が経過すると、ThinClientは設定した内容(シーケンス、静止画像など)を表示します。

ソフトボタンの設定

ソフトボタンは、カメラやその他の外部デバイスにHTTPリクエストを送信するために使用できます。ソフトボタンの編集では、ハイパーリンクのボタンアイコンを個別に選択することも、すべてのハイパーリンクを実行するボタンを1つに設定することもできます。



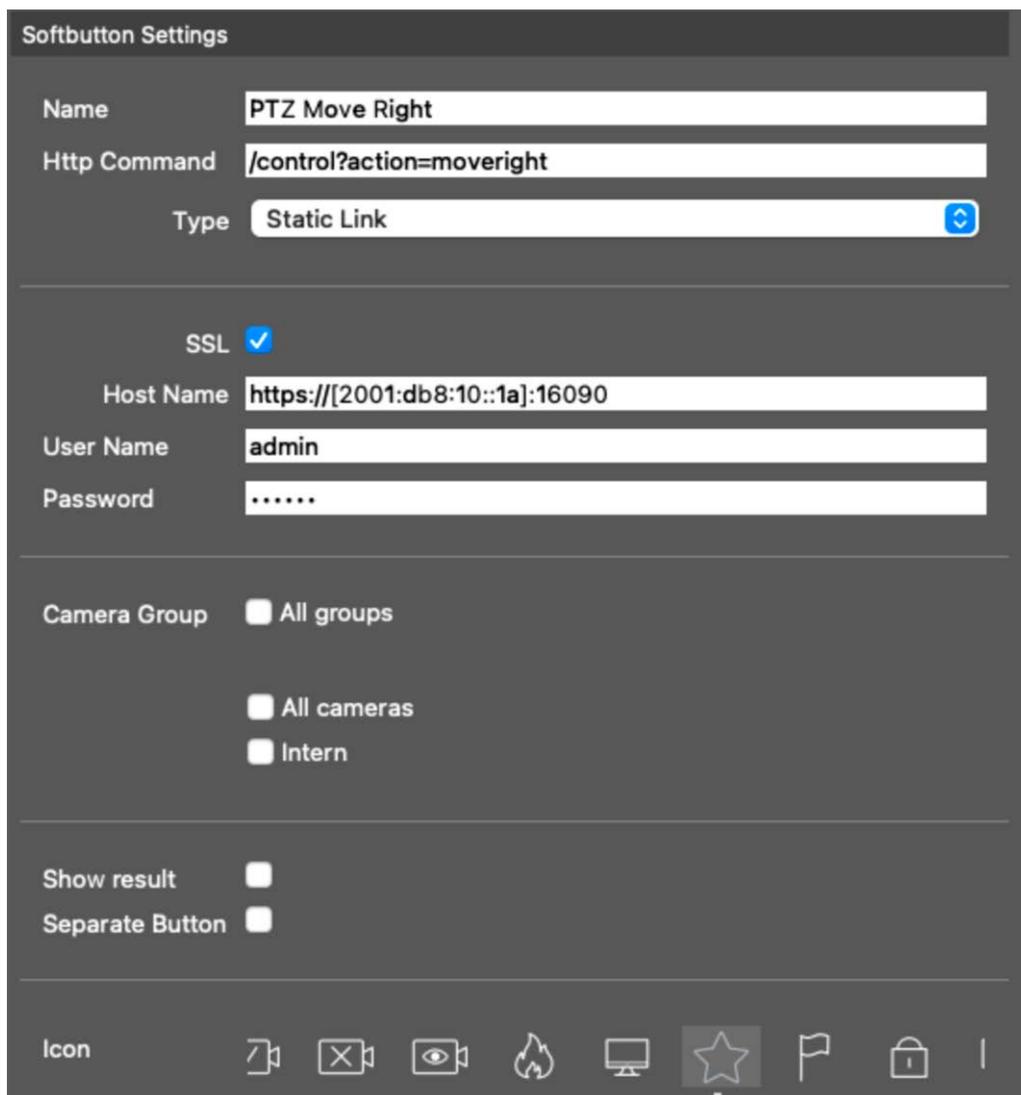
図。103: ソフトボタンの設定

ソフトボタンの追加

1.  アイコン① をクリックする。
2. ソフトボタン設定エリアでスマートデータソースを設定する②。

ソフトボタンの設定

ソフトボタンの編集はこちら



Softbutton Settings

Name

Http Command

Type

SSL

Host Name

User Name

Password

Camera Group All groups

All cameras

Intern

Show result

Separate Button

Icon         

図。104: ソフトボタンの設定

- **名前**:ソフトボタンの名前を入力します。
- **HTTPコマンド**:外部デバイスまたはデバイスのグループに送信するHTTPコマンドを入力します。

- **タイプ:** Select the type of HTTP Command. Available types are:
 - **静的リンク:** 完全なURLが必要。例: "https://www.mobotix.com")
 - **カメラ・コマンド:** HTTPコマンドは選択したカメラにのみ送信されます。
 - **グループコマンド:** HTTPコマンドは選択したカメラグループに送信されます。
- **SSL:** 安全な接続を使用するために有効にします。
- **ホスト名:** 接続するネットワーク機器のIPアドレス。MxMC はIPv4とIPv6の両方の規格に対応している。
 例 IPv6アドレス(角括弧内)とポート指定(最後のコロンの後): [2001:db8:10::1a]:16090
- **ユーザー名:** このフィールドは、Type "Static Link"が選択されている場合のみ利用可能です。必要に応じてユーザー名を入力してください。
- **パスワード:** このフィールドは、タイプ「スタティック・リンク」が選択されている場合のみ利用可能である。必要であればパスワードを入力してください。
- **カメラグループ:** ソフトボタンを表示するカメラグループを選択します。
- **結果を表示する:** ソフトボタンをクリックして、HTTPリクエストの結果を別のブラウザウィンドウに表示するかどうかをチェックします。
- **ボタンを分ける:** ソフトボタンをソフトボタンメニューの代わりにツールバーに表示するかどうかをチェックします。
- **アイコン:** ソフトボタンで表示するアイコンを選択します。

定義済みコマンド

定義済みコマンドは、定義済みの名前とHTTPコマンドを持つソフトボタン機能のコレクションです。

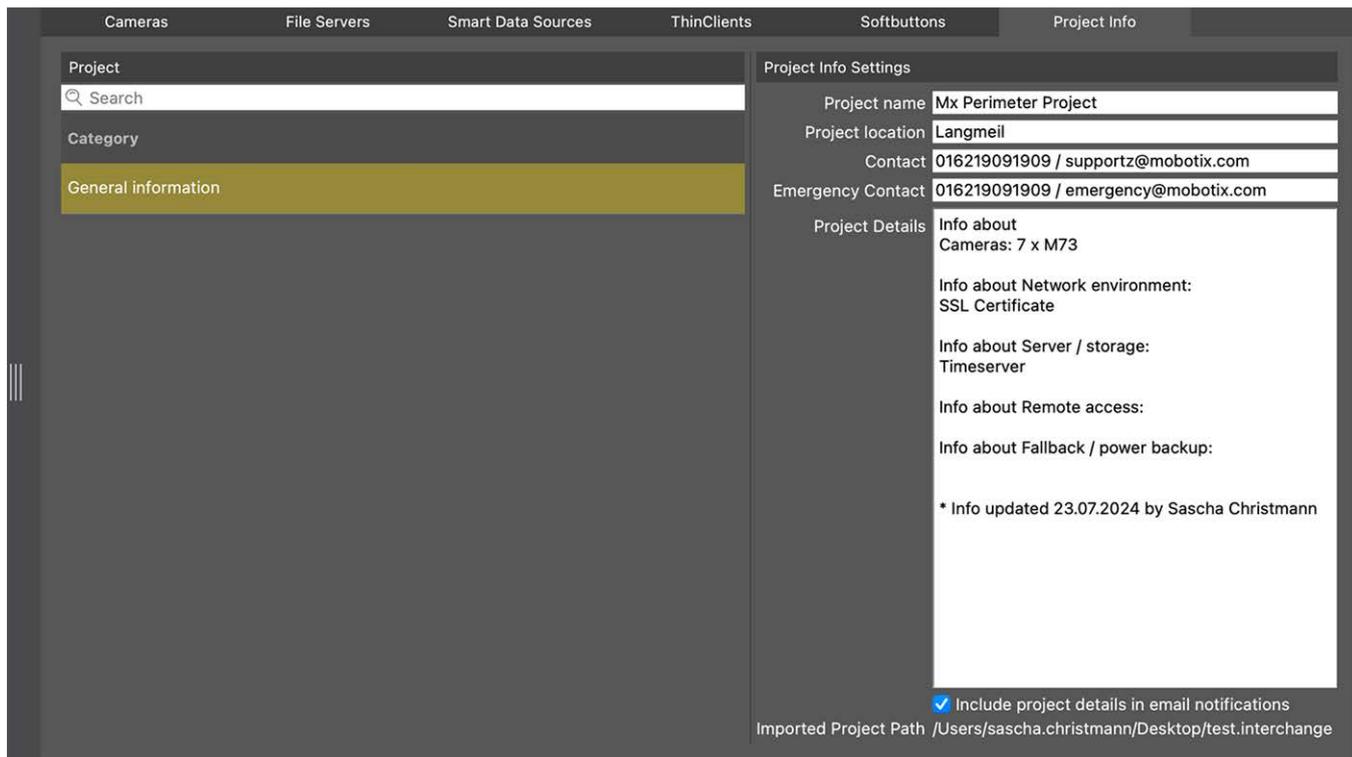
Predefined Commands		
Name	Http-Command	Add
Show alarm	/alarm?text=	+
Play sound	/sound	+
Maximiz... window	/fullscreen?	+
Maximize...controls	/fullsize?	+
Maximize...d layout	/fullview?	+
Show Camera	/	+
Show Image	/	+

図。105: ソフトボタンの設定

定義済みコマンドを追加するには、 をクリックし、ボタンを設定します([ソフトボタンの設定](#) 参照)。

プロジェクト情報設定

プロジェクト固有の情報は、MxMC に保存し、必要に応じて追加情報として通知メールに追加することができます。



The screenshot displays the 'Project Info Settings' window. On the left, a sidebar shows 'Project Info' selected. The main area is divided into 'Project Info Settings' and 'Project Details'. Under 'Project Info Settings', there are fields for Project name, Project location, Contact, and Emergency Contact. Under 'Project Details', there are sections for 'Info about Cameras', 'Info about Network environment', 'Info about Server / storage', 'Info about Remote access', and 'Info about Fallback / power backup'. A checkbox 'Include project details in email notifications' is checked. At the bottom, the 'Imported Project Path' is shown as /Users/sascha.christmann/Desktop/test.interchange.

設定できるプロジェクト情報は以下の通り:

- **プロジェクト名**: カメラプロジェクトの名前を入力します。
- **プロジェクトの場所**: プロジェクトの場所に関する簡単な情報を入力してください。
- **連絡先**: 連絡先情報を入力してください。電話番号やメールアドレスなど。
- **緊急連絡先**: 緊急連絡先を入力してください。電話番号やメールアドレスなど。
- **プロジェクトの詳細**: プロジェクトの詳細を入力してください。例: 設置されているカメラ、環境、リモートアクセスオプションなどの情報。
- **Eメール通知にプロジェクトの詳細を含める**: このオプションにチェックを入れると、すべてのメール通知にプロジェクトの詳細が送信されます。
- **インポート・プロジェクト・パス**: 現在のプロジェクトがバックアップからインポートされる場合、パスが表示されます。

ライセンス

特定の機能を使用するには、アクティベーションまたはライセンスの購入が必要です。これには以下の機能のライセンスが含まれます：

- **Smart Data:** 業界固有のソリューションや、POSシステムとの統合などの特別な機能。
- **H.264 De-/Encoder:** H.264フォーマットのビデオを表示およびエクスポートします。
- **他社製カメラ** MOBOTIX 以外のメーカーのカメラを統合できます。
- **サーマル・ダッシュボード** Thermal Dashboardは、MOBOTIX サーマルカメラからのデータを視覚化し、温度が重要なプロセスのライブモニタリングと監視をサポートします。

ライセンスの有効化については、「[MxMC ライセンス, ページ 228](#)」を参照してください。

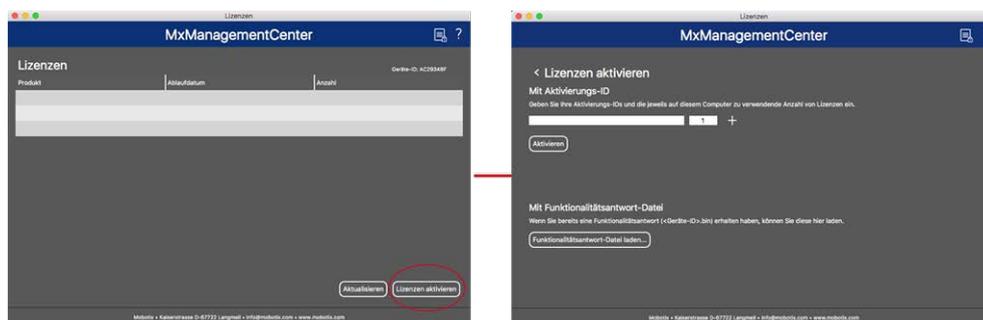
MOBOTIX P7シリーズのカメラモデルでは、アプリを使用することができる。例えば、アプリは人工知能のアルゴリズムでサポートされる画像解析のための拡張機能を提供します。各種アプリはカメラにプリインストールされており、有効なライセンスキーで使用できるようにする必要があります([カメラアプリのライセンス, ページ 230](#)参照)。

MxMC ライセンス

ライセンスの有効化

アクティベーションIDを購入し、受け取った後、MxMC：

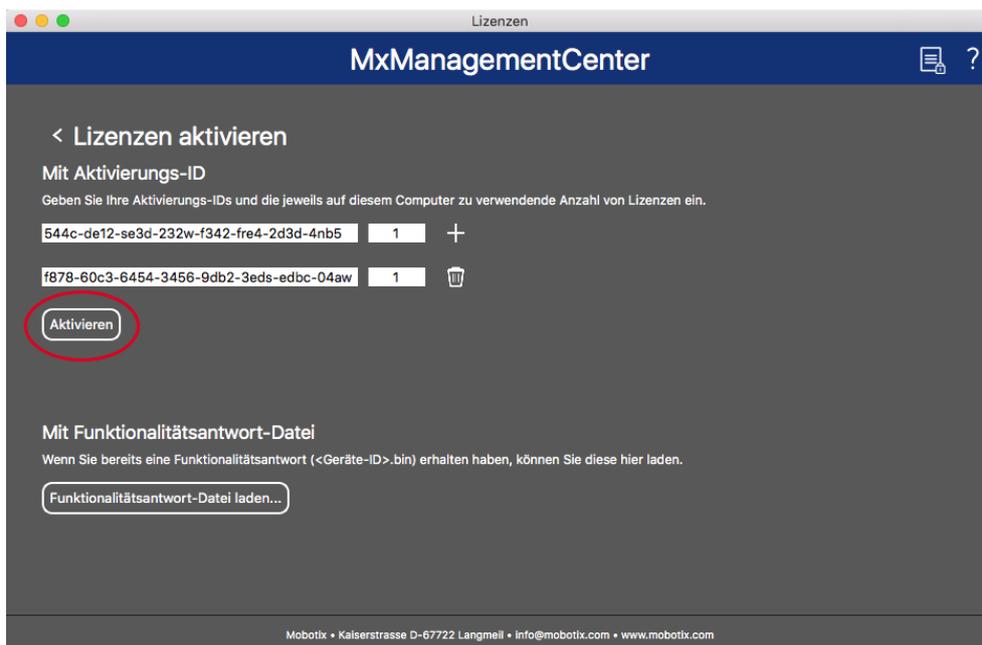
1. Open the License Management (**ウィンドウ > ライセンス** menu item) and click on **ライセンスの有効化**.



ライセンスの有効化

2. 有効なアクティベーションIDを入力し、このコンピュータにインストールされるライセンス数を確定します。
3. 製品を追加ライセンスする場合は、**+** をクリックします。新しい行に対応するアクティベーションIDを入力し、希望するライセンス数を入力します。
4. 行を削除するには、**✖** をクリックします。

5. When you are finished entering all activation IDs, click on **アクティブにする**. MxMC connects to the license server for activation. It needs to establish an Internet connection.

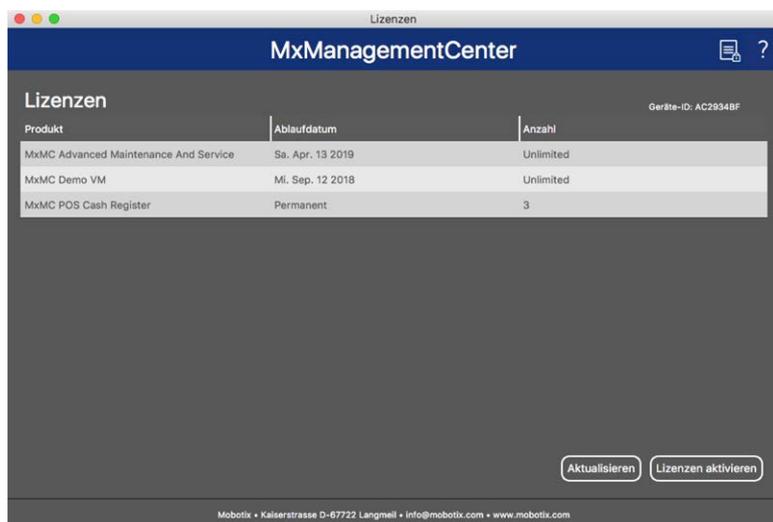


図。106: ライセンスキーの入力

- **アクティベーションに成功した場合**
 アクティベーションに成功した場合は、変更を適用するために再度サインインする必要があります。または、**ライセンス管理** に戻ることもできます。

- **アクティベーションに失敗しました(インターネット接続がありません)**
 MxMC アクティベーションのためにライセンスサーバーに接続します。インターネット接続を確立する必要があります。インターネット接続がない場合は、エラーメッセージが表示されます。
 このファイルにより、ライセンスを購入したパートナー/インストーラが、ライセンスサーバー上に機能レスポンス(.bin ファイル)を生成できます。このような応答を受け取った場合は、**[Activate Licenses]**ウィンドウを開きます (**[Window] > [Licenses] > [Activate Licenses]**メニュー)。
 機能レスポンスファイルをロードしたら、変更を適用するために再度ログインする必要があります。または、**<** をクリックして**License Management**に戻ることもできます。

ライセンスの管理



図。107: ライセンスの管理

ライセンス管理では、このコンピュータでアクティベートされたすべてのライセンスのリストを表示できます。ライセンス管理を開くには、メニューバーの[ウィンドウ] > [ライセンス]をクリックします。

指定 説明

製品 ライセンスされた機能の名前。

有効期限 この欄は、ライセンスが一時的なものかどうか、ライセンス期間がいつ終了するかを示しています。

数字 製品の購入ライセンス数。

デバイスID 使用するデバイスの MxMC が決定する一意の識別子。デバイス ID をメモしておき、ライセンシング中に問題が発生した場合にアクセスできるようにしておきます。

サーバーとのライセンスの同期

プログラムを起動しても、コンピュータ上のライセンスとライセンスサーバーは自動的に比較されません。このため、[更新]をクリックしてサーバーからライセンスを再読み込みする必要があります。

ライセンスの更新

一時ライセンスを更新するには、[Activate Licenses] をクリックします。ライセンスの更新/有効化に使用するダイアログボックスが表示されます。

注! ライセンスの同期と更新には管理者権限が必要です。

カメラアプリのライセンス

MOBOTIX P7シリーズのカメラモデルでは、アプリを使用することができる。アプリは、例えば、人工知能のアルゴリズムによってサポートされる画像解析のための拡張機能を提供します。各種アプリはカメラにプリインストールさ

れており、有効なライセンスキーで使用できるようにする必要があります。

カメラアプリを起動するには2つの方法があります：

- カメラがインターネットに接続されている場合は、[オンライン・アクティベーション](#)、ページ 231お勧めします。
- カメラがインターネットに接続されていない場合は、[オフライン・アクティベーション](#)、ページ 233使用します。

オンライン・アクティベーション

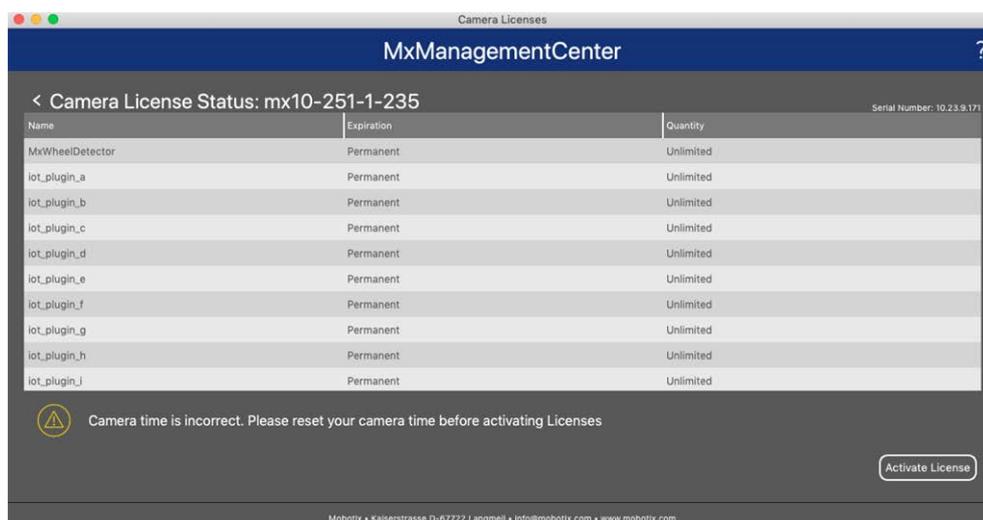
注！ オンライン認証では、カメラがインターネットに接続され、ライセンスサーバにアクセスできる必要があります。また、カメラをオフラインでライセンス認証することもできます([オフライン・アクティベーション](#)、ページ 233参照)。

アクティベーションIDを受け取ったら、MxMC：

1. メニュー「**ウィンドウ**」>「**カメラアプリライセンス**」を選択します。
2. アプリをライセンスするカメラを選択し、**[選択]** をクリックします。



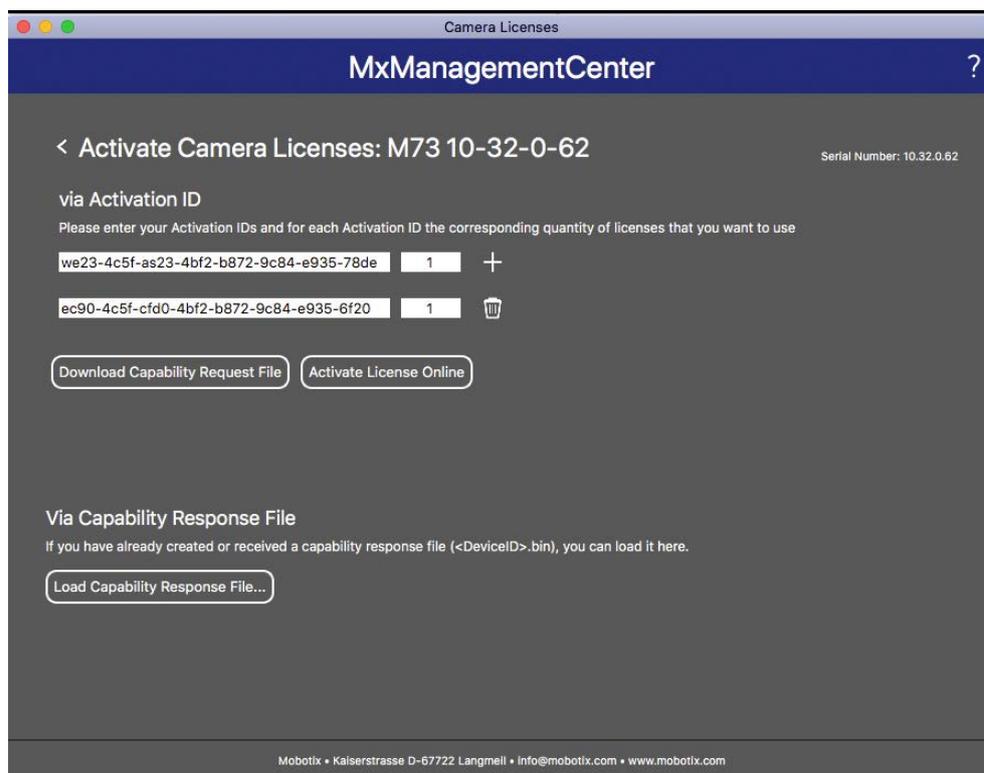
3. An overview of the licenses installed on the camera may be displayed. Click **ライセンス認証**.



注！ 必要であれば、カメラに設定されている時間を修正してください。

- 有効なアクティベーションIDを入力し、このコンピュータにインストールするライセンス数を指定します。
- 別の製品のライセンスを取得する場合は、**+** をクリックします。新しい行に、適切なアクティベーションIDと必要なライセンス数を入力します。
- 必要に応じて、**🗑️** をクリックして行を削除します。

7. すべてのアクティベーション ID を入力したら、[Activate License Online] をクリックします。アクティベーション中、MxMC はライセンス サーバーに接続します。これにはインターネット 接続が必要です。



アクティベーション成功

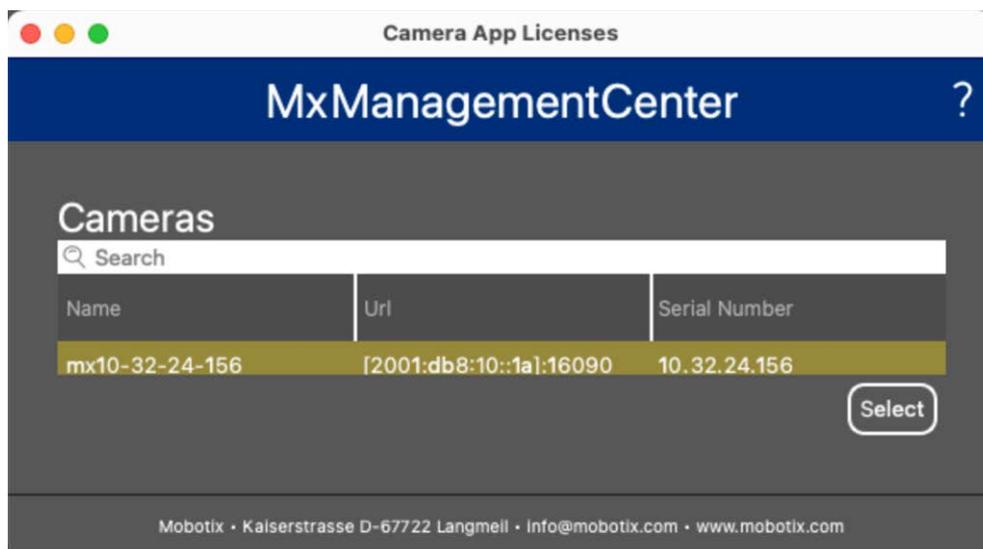
アクティベーションに成功した後、変更を適用するには新しいログインが必要です。または、ライセンス管理 [<](#) に戻ることもできます。

オフライン・アクティベーション

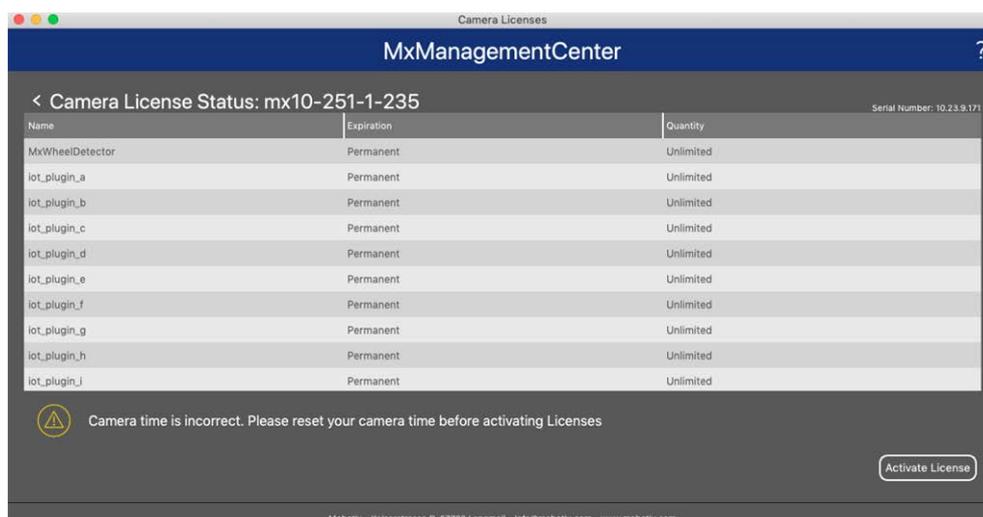
注! カメラがインターネットに接続されている場合は、[オンライン・アクティベーション](#)、[ページ 231](#)をお勧めします。

オフラインでアクティベーションを行う場合、ライセンスを購入したパートナー/インストーラは、ライセンスサーバ上でキャパビリティレスポンス(binファイル) を生成し、ライセンスをアクティベーションすることができます。

1. メニュー「ウィンドウ」>「カメラアプリライセンス」を選択します。
2. アプリをライセンスするカメラを選択し、「選択」をクリックします。



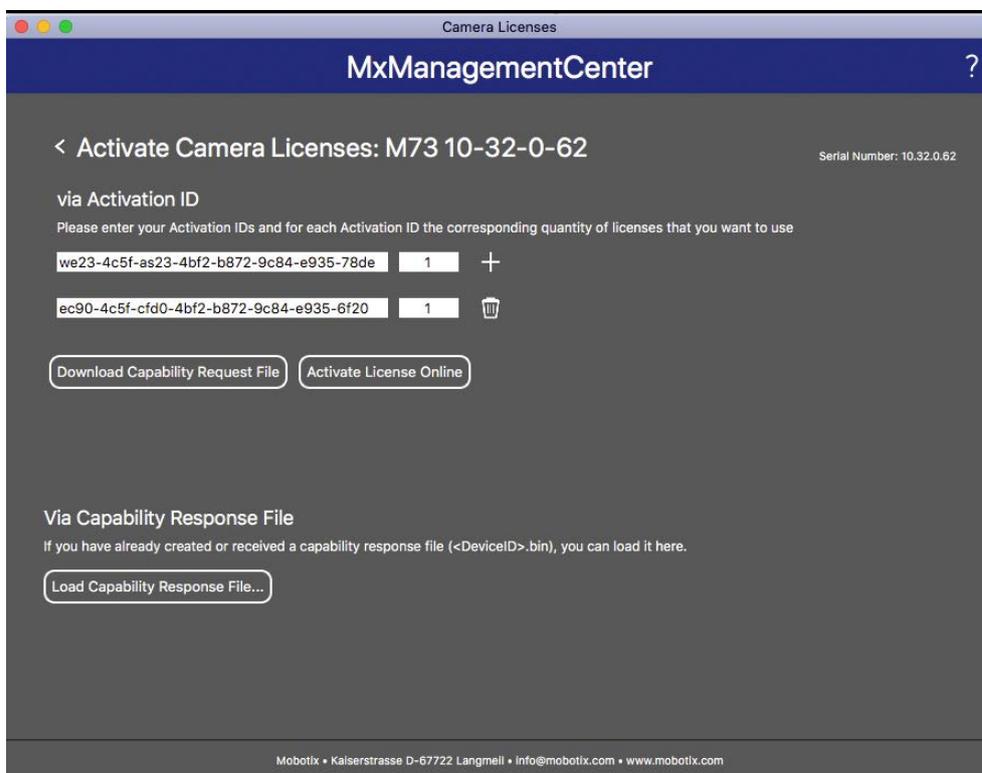
3. An overview of the licenses installed on the camera may be displayed. Click **ライセンス認証**.



注！ 必要であれば、カメラに設定されている時間を修正してください。

4. 有効なアクティベーションIDを入力し、このコンピュータにインストールするライセンス数を指定します。
5. 別の製品のライセンスを取得する場合は、**+** をクリックします。新しい行に、適切なアクティベーションIDと必要なライセンス数を入力します。
6. 必要に応じて、**🗑️** をクリックして行を削除します。

7. すべてのアクティベーションIDを入力したら、[**Download Capability Request File(.lic)**]をクリックし、パートナー/インストーラに送信します。このファイルにより、ライセンスを購入したパートナー/インストーラは、ライセンスサーバ上にケイパビリティ応答ファイル(.bin)を生成できます。



8. Load**Capability Response File**をクリックし、指示に従ってください。

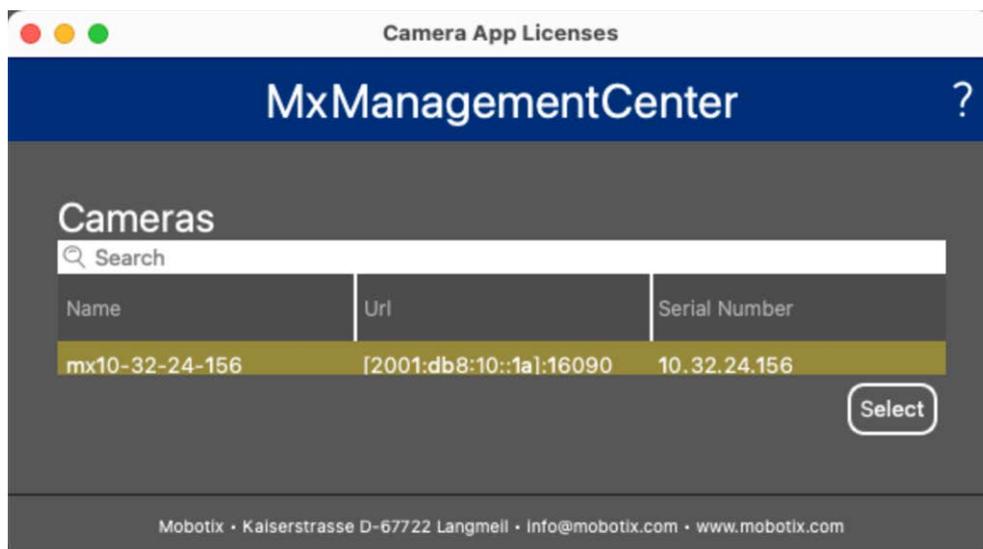
アクティベーション成功

アクティベーションに成功した後、変更を適用するには新しいログインが必要です。または、ライセンス管理  に戻ることもできます。

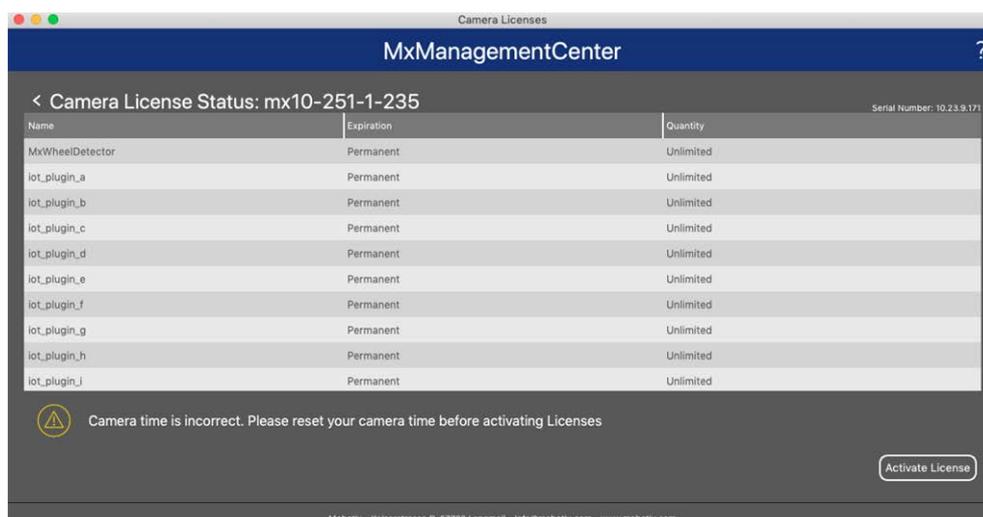
ライセンスの管理

ライセンス管理画面では、カメラで有効化されたすべてのライセンスの概要が表形式で表示されます。

1. メニュー「ウィンドウ」>「カメラアプリライセンス」を選択します。
2. アプリをライセンスするカメラを選択し、「選択」をクリックします。



3. カメラにインストールされているライセンスの概要が表示されます。



フィールド 説明
名

名称 ライセンスされたアプリの名前。

製品 ライセンスアプリの特徴

有効期限 ライセンスの期限

**フィールド 説明
名**

数量 製品の購入ライセンス数。

シリアル MxMC、使用するデバイスに対して決定される一意のID。ライセンシング中に問題が発生した場合は、デバイスIDをご用意ください。

サーバーとライセンスの同期

プログラム起動時、コンピュータとライセンスサーバ間のライセンスの自動比較は行われません。そのため、[更新]をクリックしてサーバーからライセンスを再ロードします。

ライセンスの更新

をクリックして一時ライセンスを更新し、[Activate Licenses]をクリックします。ライセンスの更新/有効化のダイアログが開きます。

注! ライセンスの同期と更新には管理者権限が必要です。

MOBOTIX ストレージ・デバイスの統合

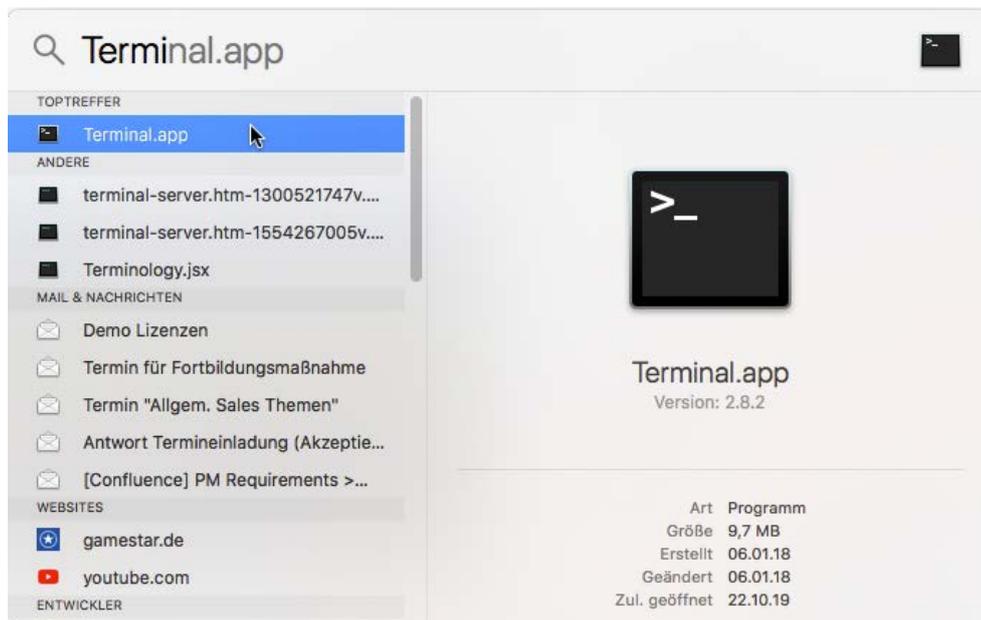
MxManagementCenter を使用すると、USB ポートに接続されたMOBOTIX ストレージ・デバイスに MxFFS フォーマットの録画でアクセスできます(「[デバイスとソースの追加](#)」を参照)。このためには、MxManagementCenter を管理者権限で起動する必要があります。管理者権限がない場合、ストレージ・メディアは認識されません。

注! MOBOTIX カメラからSDカードを取り外すには、カメラのマニュアルを参照してください。

MAC

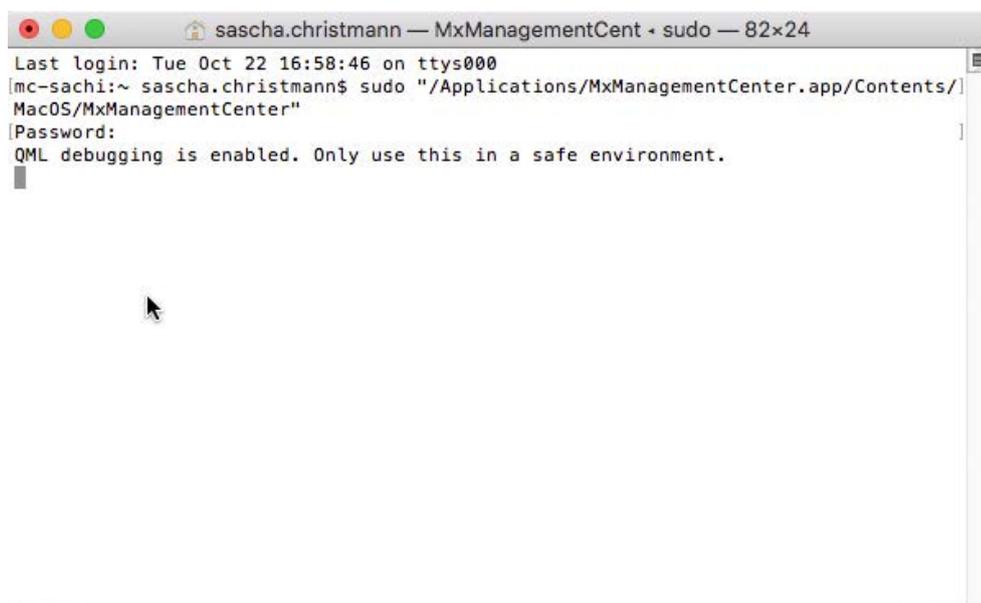
以下の手順は、ログオンしているユーザーがコンピュータの管理を許可されているか、必要な管理者権限を持っていることを前提としています。そうでない場合は、システム管理者にお問い合わせください。

1. USBポートのあるMOBOTIX ストレージデバイスをMACに接続します。
2. Start the **端末アプリ** (e.g. via the spotlight search with CMD+space key).



図。108: ターミナルアプリの起動

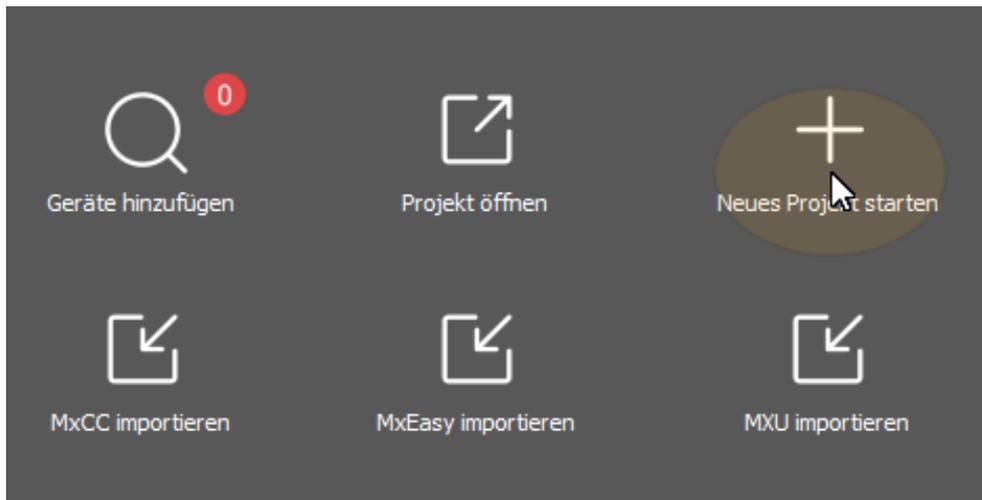
3. **sudo "/Applications/MxManagementCenter.app/Contents/MacOS/MxManagementCenter"** と入力します。ENTERで確認します。
4. Enter the password for the current user. Confirm with ENTER.



ターミナル

MxManagementCenter は管理者プロファイルで開始され、新規インストールと同様にまだ設定されていません。

4. Start a new project.



MxMC 管理者プロフィール

5. デバイスバーの下部にある  をクリックして編集モードを開きます。

6. Click . The **追加とインポート** menu opens.

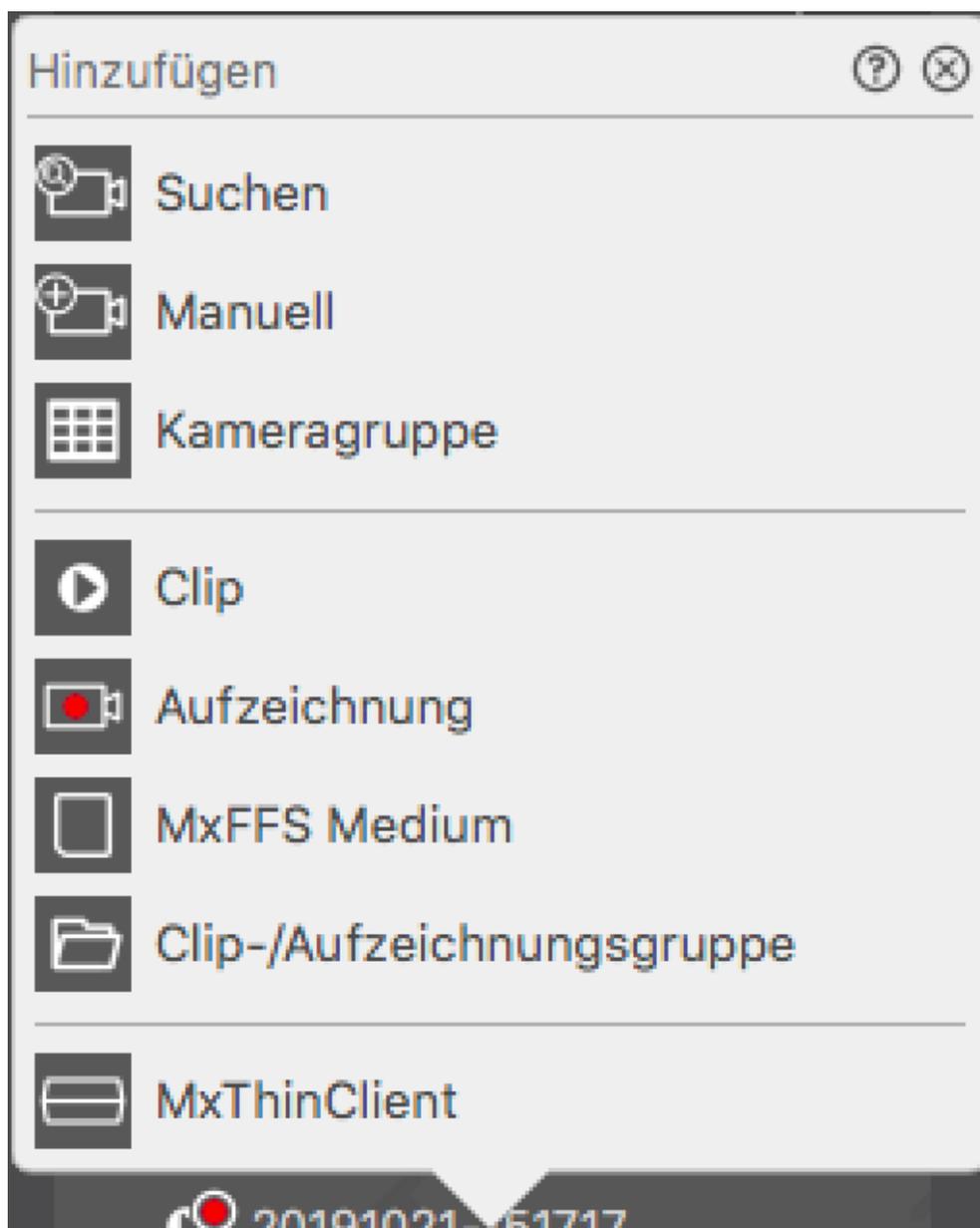


図. 109: 追加/インポートメニュー

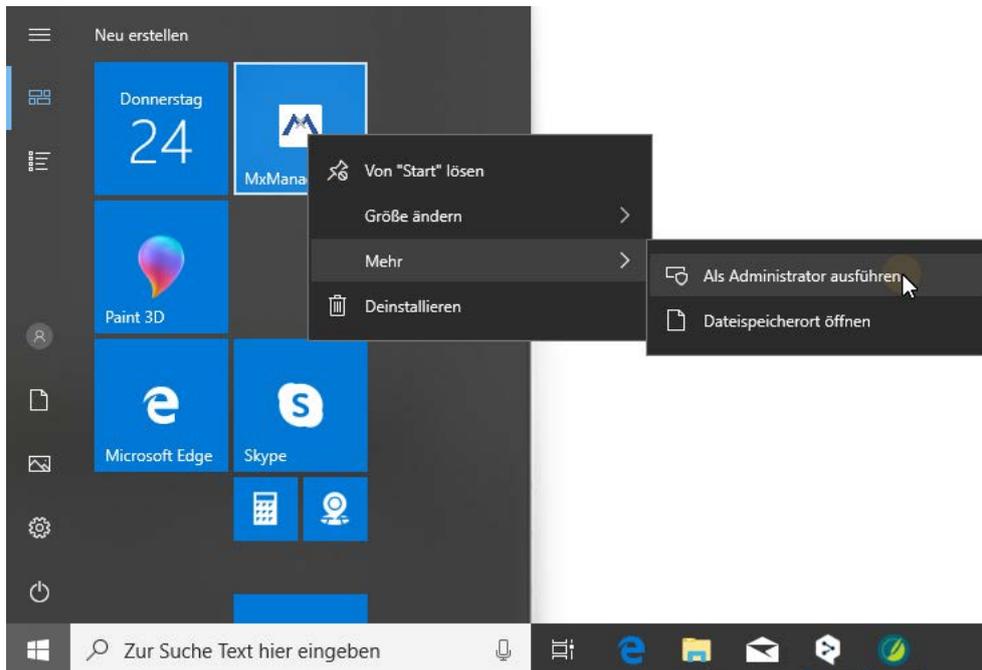
7. **MxFFS Medium**] をクリックします。MxFFS フォーマットの録画が保存されている USB ポートが検索されます。

注! 大容量のストレージを持つデータキャリアでは、この処理に数分かかることもある。

ウィンドウズ

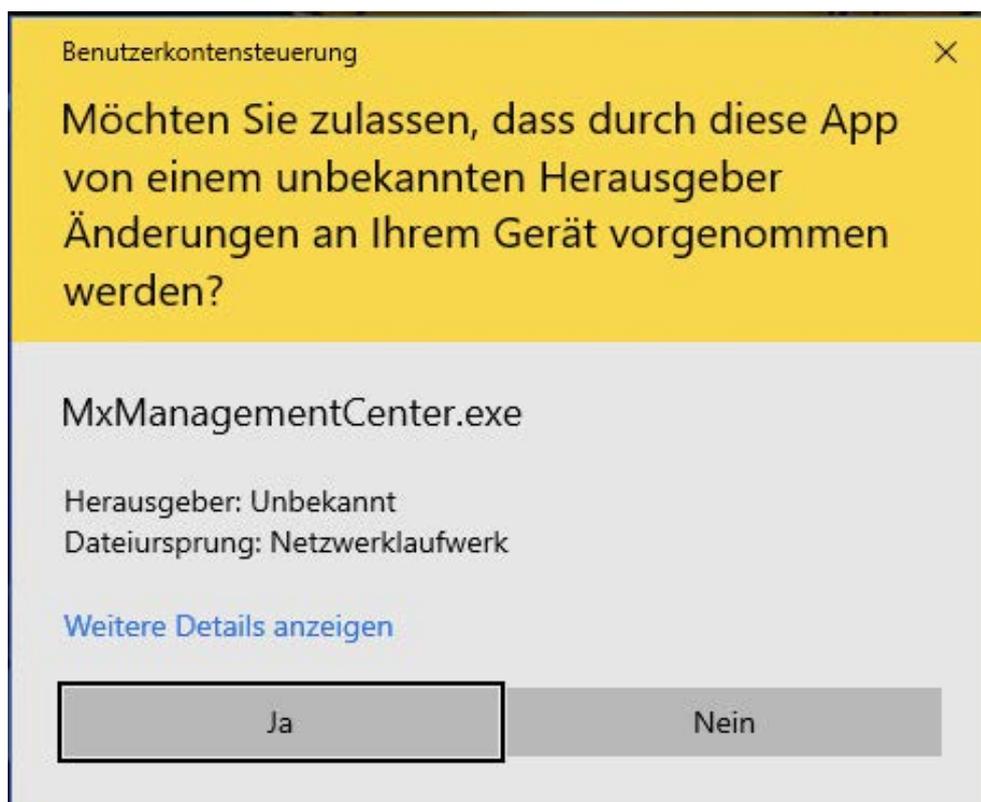
以下の手順は、ログオンしているユーザーがコンピュータの管理を許可されているか、必要な管理者権限を持っていることを前提としています。そうでない場合は、システム管理者にお問い合わせください。

1. USBポートのあるMOBOTIX ストレージデバイスをMACに接続します。
2. Right-click the executable file or a shortcut of the MxManagementCenter.



図。110: Windowsスタートメニュー

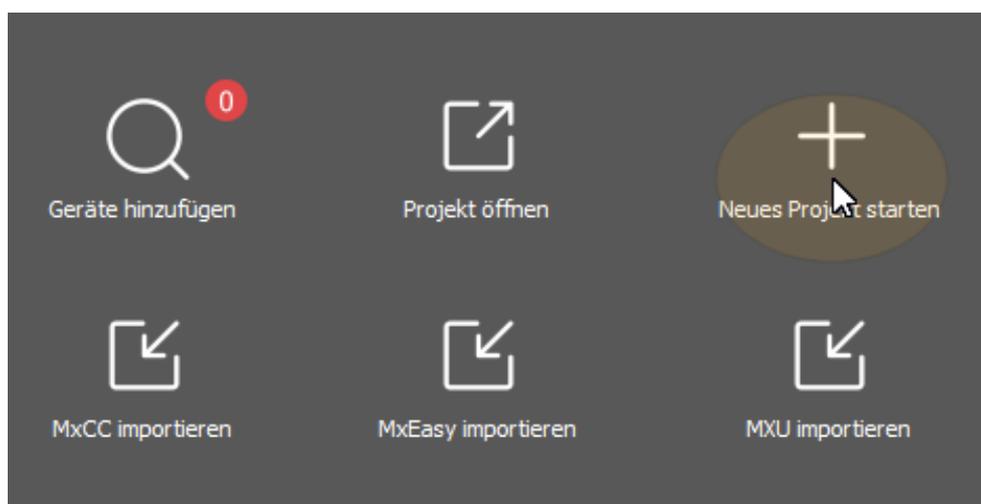
3. If necessary, activate the User Account Control query with はい.



図。111: Windowsのユーザーアカウント制御

MxManagementCenter は管理者プロファイルで起動し、新規インストールと同様にまだ構成されていません。

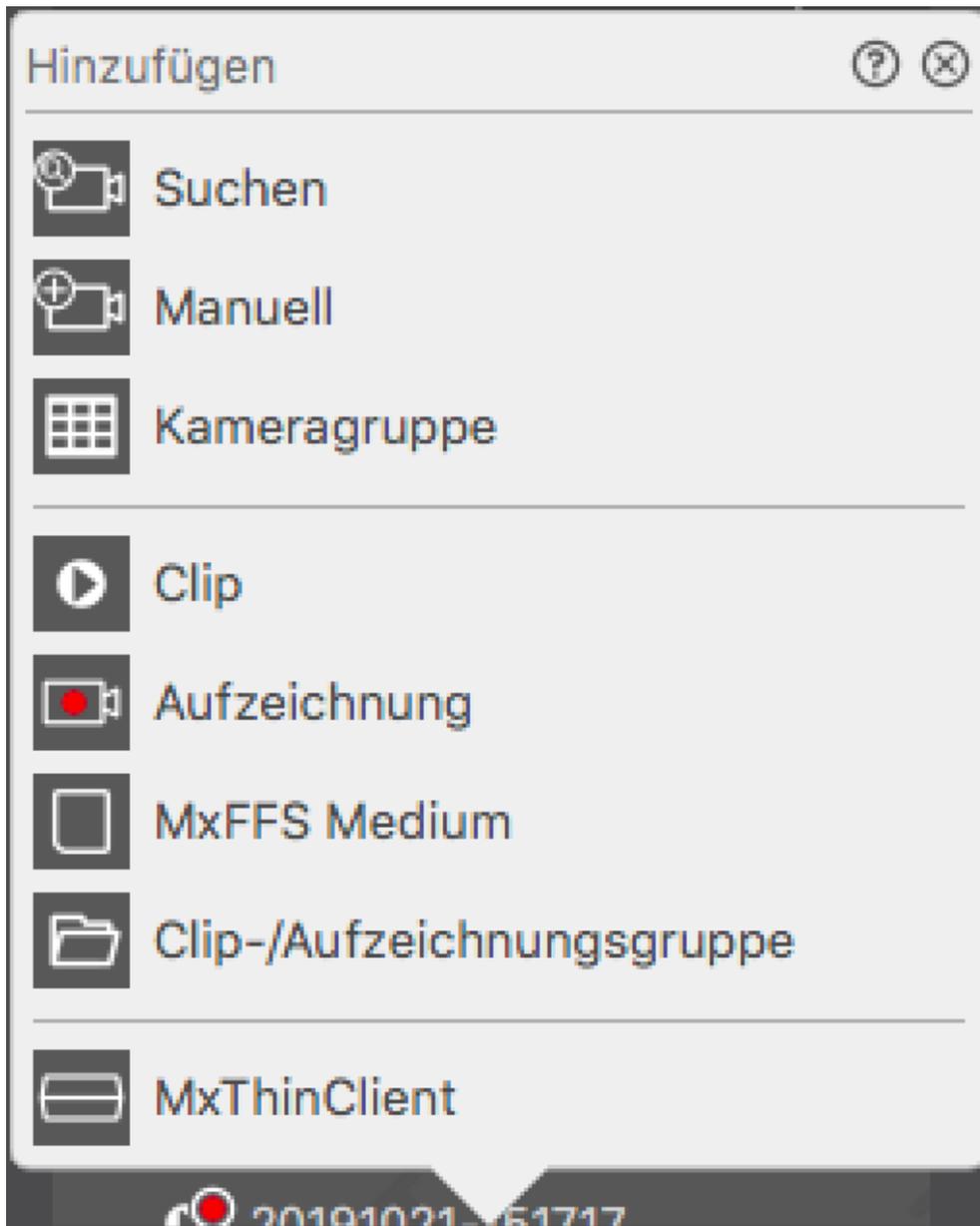
4. Start a new project.



MxMC 管理者プロファイル

5. デバイスバーの下部にある  をクリックして編集モードを開きます。

6. Click **+**. The **追加とインポート** menu opens.



追加/インポートメニュー

7. **MxFFS Medium**] をクリックします。MxFFS フォーマットの録画が保存されている USB ポートが検索されます。

注! 大容量のストレージを持つデータキャリアでは、この処理に数分かかることもある。

アプリケーションの使用

このセクションはユーザー向けです。1台または複数のカメラの監視から記録の検索まで、MxMC の日常的な操作について説明します。

地域

トピックス

ライブ監視

- ライブビューでの作業
- グリッドビューでの作業
- グラフィックビューでの作業
- ドア・ステーションの使用
- マルチモニターでの作業
- さまざまなネットワーク環境での作業
- サーマル・ダッシュボード, ページ 28

アラーム処理

- アラーム通知
- アラーム通知の設定
- アラーム画像のフィルタリング
- アラーム録画の再生

で検索 MxMC

- プレイバック・ビューでの検索と再生
- グリッド再生ビューでの検索と再生

- スマート・データ・システム, ページ 287
- ヒストグラム・バー, ページ 292
- ポストビデオ動体検知 (ポストVM), ページ 296
- バックドア・イベントの検索と再生
- 録音のエクスポート
- サーマル・ダッシュボード, ページ 28

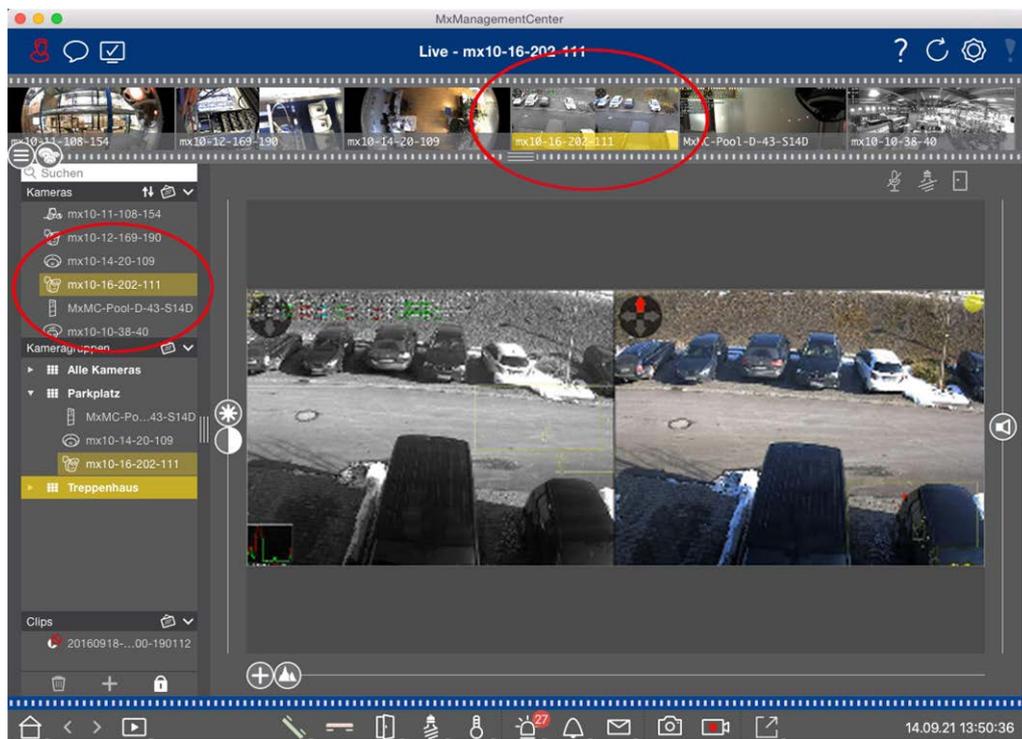
ライブ監視

このセクションでは、ライブ監視の基本的なシナリオとオプションについて説明する。

ライブビューでの作業

ライブ表示では、個々のカメラのライブ画像を操作できます。また、ドアの開閉や照明の切り替えなど、様々な機能の切り替えも可能です。

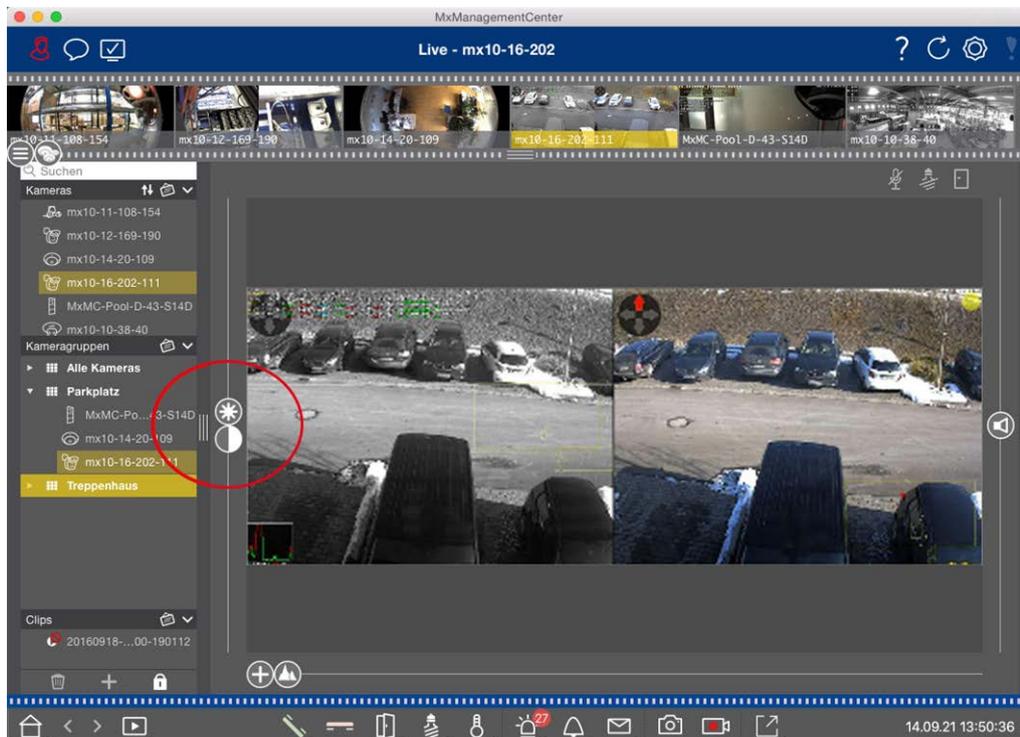
カメラの展示



図。112: カメラの表示

カメラを表示するには、デバイスまたはカメラ・バーを使用します。表示するには、[デバイス]バーから目的のカメラを表示領域にドラッグ・アンド・ドロップするか、[カメラ]バーで目的のカメラをクリックします。表示されたカメラには、[デバイス]バーと[カメラ]バーに黄色いバーが表示されます。

画像設定のカスタマイズ



図。113: 画像設定のカスタマイズ

明るさ☀️ およびコントラスト🌑 コントロールを使用して、表示されているカメラの画像表示を現在の環境に合わせて調整します。

対応するスライダーを上または下に動かします。新しい設定は、現在のカメラに自動的に保存されます。デフォルト値は、対応するスライダーをダブルクリックして復元できます。

注! 画像設定を調整しても、カメラの設定には影響しません。これらは変更されません

PTZアクションの実行

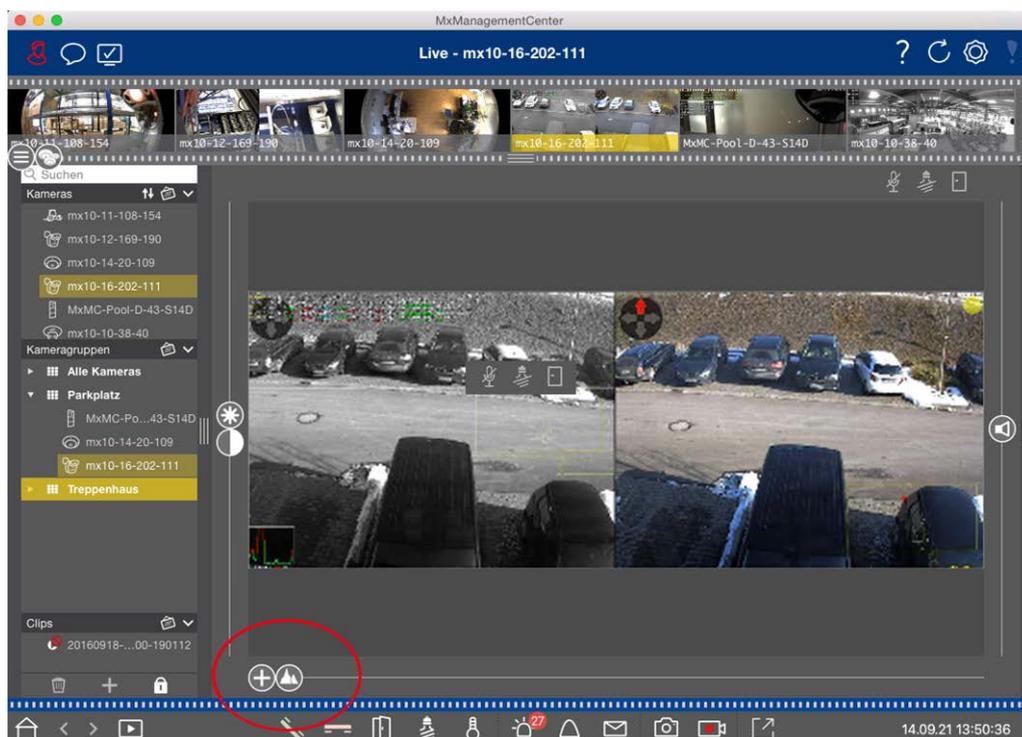


図. 114: PTZアクションの実行

注! セカンダリモニタでは、1台のカメラ画像はマウスホイールでズームするか、マウスボタンを押したままパンすることしかできません。PTZコントロールは、MxMCメイン画面またはグリッドビューのセカンダリモニタでのみ使用できます。

画像セクションのオブジェクトを識別しやすくするために、ライブ画像をズームしたり、結果の画像領域を移動することができます(PTZ)。

プログラムは、デュアル・カメラの  スライダーも表示します。このスライダーを使用して、右、左、または両方の画像センサーのライブ画像を表示します。

半球カメラのライブ画像を表示する場合、さまざまな表示モードを設定できます(スライダー )。

ズームと動画セクション

スライダー()またはマウスホイールでズームできます。スライダーによるズームは、コンピュータ上でのみ行われます。つまり、現在のライブ画像の画像セクションのみが変更されます。

他の画像セクションを見るには、マウスを使ってライブ画像を移動します。

カメラでPTZアクションを実行する場合、カメラPTZに切り替えることもできます。この場合、PTZアクションはカメラのライブ画像に適用され、録画にも影響します(ただし、カメラがフル画像を録画していない場合のみ)。この機能を使用するには、スライダ()をクリックし、点滅するまで押し続けます。これで、必要に応じてズーム・レベルを調整できます。設定を保存するには、スライダーをもう一度クリックし、スライダーの点滅が止まるまで押し続けます。

画像セクションの選択と調整

画像セクションの選択

特定の画像セクションに素早くピントを合わせるには、カメラにあらかじめ設定されている工場出荷時の画像ポジションのいずれかを使用します。

- プレビュー 、詳細 、概要 、注目点 
- 上 、下 、左 、右 

カメラは選択した位置に移動します。PTZアクションはカメラで実行され、録画にも影響することに注意してください(カメラがフル画像を録画しない場合のみ)。適切な位置が見つかるまで、 スライダーを次の位置に移動します。

画像セクションの調整

工場出荷時にあらかじめ設定されている画像位置を調整することができます。位置を選択し、必要に応じて変更します。スライダーが1回点滅するまで、このポジションを維持します。新しい画像セクションが保存されました。

センサーの選択

右または左のイメージセンサーのライブ画像のみを表示したい場合は、 スライダーを右に動かして  (左センサー)、またはさらに右に動かして  (右センサー) にします。

半球画像の歪みを補正する

半球カメラまたは L12/B016、L23/B036、L25/B041 レンズ付きカメラのライブ画像を表示する場合、異なる表示モードを選択できます。これには、設定で **OpenGL** を有効にする必要があります (Mac: **MxManagementCenter > Settings > General** メニュー、Windows: **Windows: ファイル > 設定 > 一般** メニュー)。自然な画像を得るために、これらのモードではカメラが自動的に歪みを補正します。この歪み補正は、パノラマ補正を使用するとさらに精巧になります。表示モードの選択は常にローカルで行われるため、カメラの設定には影響しません。ただし、選択は他のプログラム表示にも適用されます。ライブ表示で特定のカメラの表示モードを選択すると、グリッド表示のフォーカス・ウィンドウおよびグラフィック表示のライブ画像にカメラが表示される場合、このモードも適用されます。その結果、アラーム・バーおよびスマート・データ検索ビューのアラーム画像も選択した表示モードで表示されます。

ディストーション補正モードの選択

-  **フル画像**: 歪んだフル画像全体を表示します。
-  **通常**: ディストーション補正された画像が表示され、PTZアクションを実行できます。
-  **パノラマ**: 歪み補正された画像全体 (補正された180°パノラマ) を左から右の境界線まで表示します。アスペクト比 (幅と高さの比率) は8:3です。

- 📺 **サラウンド**: このオプションは、4つの画像セクション(各基線方向: N、E、S、W)を1つのジョイントビューに表示します。PTZアクションを使用して、4つのビューを互いに独立して変更できます。
- 📺 **ダブルパンorama**: このモードでは、画像の北半分をパンorama表示し、画像の南半分をアスペクト比(幅と高さの比率) 4:3でパンorama表示する。このモードは、天井に取り付けられた半球カメラに適しています。その後、ローカルPTZを使用するようにカスタマイズできます。
- 📺 **パンoramaフォーカス**: この表示モードは、パンoramaビュー(アスペクト比 8:3)と2つの小さな画像(それぞれアスペクト比 4:3)を1つの大きな画像に合成します。

モードを選択するには、希望の位置に達するまでスライダー👉を右に動かします。このスライダーの位置は、再度変更するまで自動的に保存されます。

パンorama補正

さまざまな表示モードのディストーション補正画像は、さらに微調整することができます。例えば、パンoramaモードの画像が中央に配置されていない場合、台形の歪みが見えることがあります。パンorama補正では、画像の斜め(垂直)ラインを調整することで、より自然な画像にすることができます。補正を行うには、👉スライダーを右に動かし、📏、マウスを使って画像を補正します。補正した設定を保存するには、📏スライダーをクリックし、スライダーのアイコンが画像の中央に短く表示されるまで押し続けます。

ステータス表示

ステータス・バーには、さまざまな状態がアイコンで表示されます。ステータス表示は、常に表示されているカメラを参照しています。これにより、例えば、ドアが再び閉まったか、まだ開いているかが一目でわかるなど、最新の概要が表示されます。

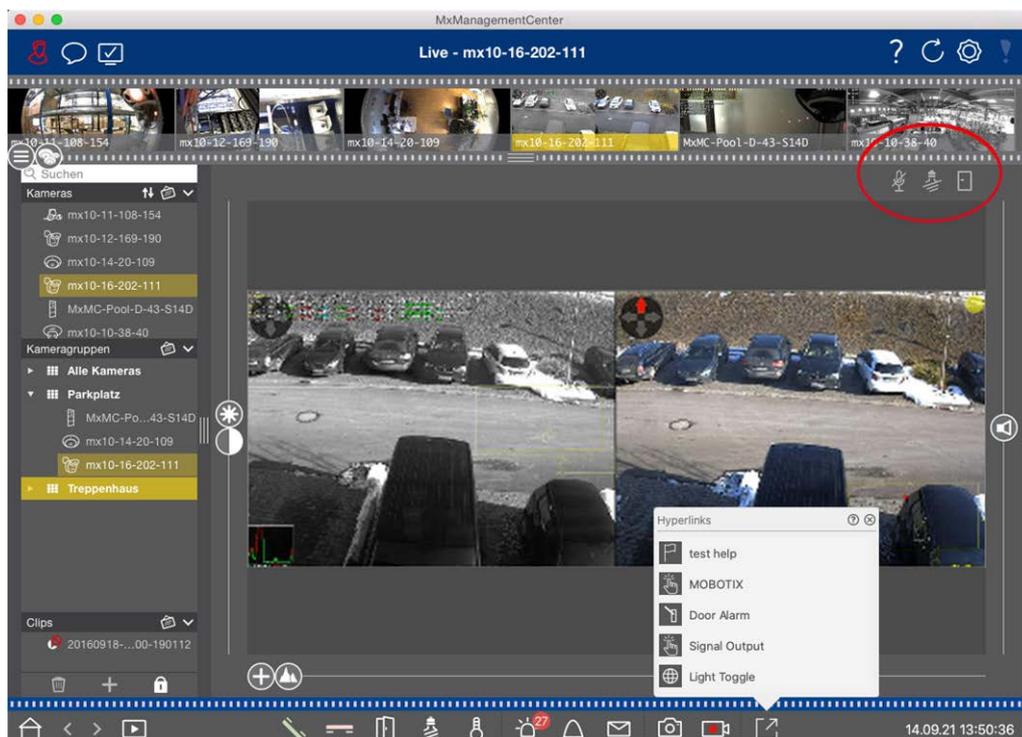


図. 115: ステータス表示

ステータス表示のアイコン

ドア状態表示



ドアが開いている。

ドアがロックされている。

ドアロックスイッチはロックされているが、ドアは開いている!

ライトステータス表示



アイコンが点灯している: 点灯中: 手で消灯する必要があります。

マイクステータス表示



マイク接続がブロックされている。おそらく、別のリモートステーションに接続が確立されているため。

ソフトボタンによる追加デバイスの切り替え

ソフトボタンは、追加デバイスの切り替えやHTTPリクエストの送信に使用できる。

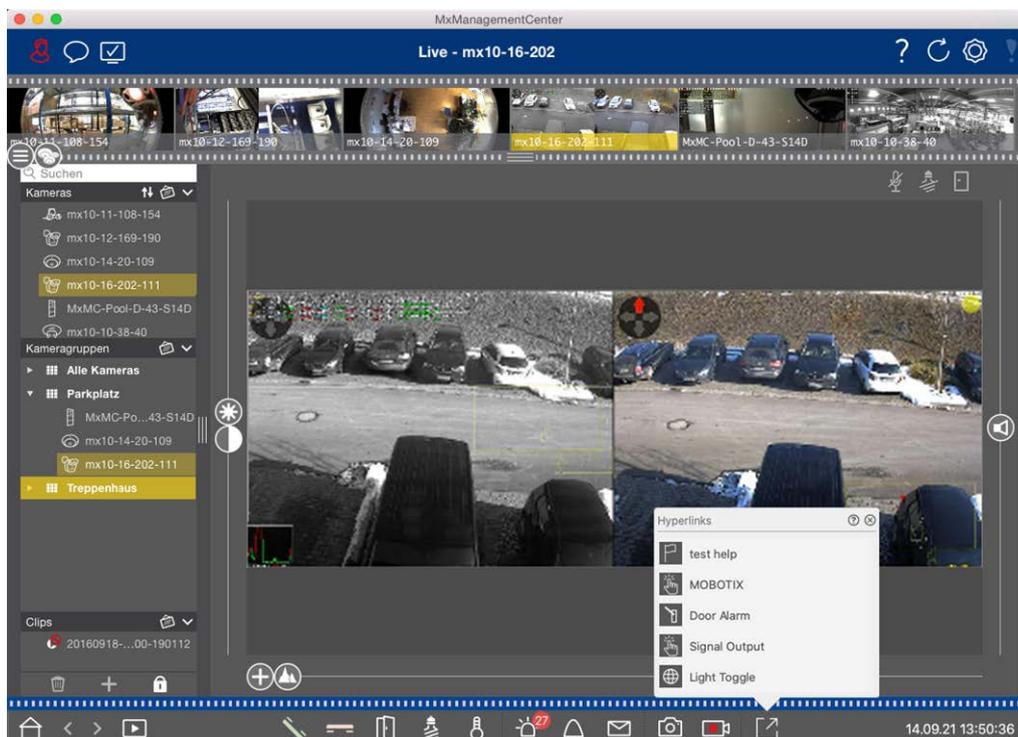


図. 116: ソフトボタンによる追加デバイスの切り替え

ソフトボタンを実行するには、 をクリックしてソフトボタンメニューを開き、ソフトボタンをクリックします。

ソフトボタンを編集するには、[ソフトボタンの設定](#) 参照してください。

ライブ画像を手動で録画

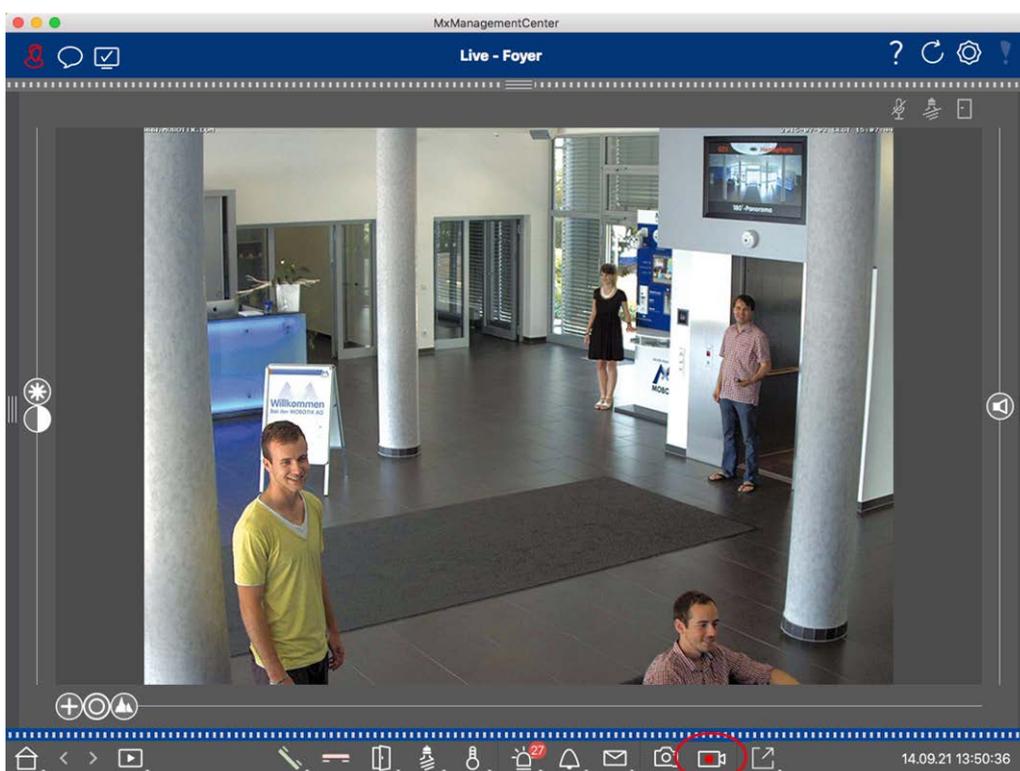
ライブ表示でもグリッド表示でも、録画すべき不審な状況を観察したときなど、いつでも手動録画を開始できます。ライブ画像で状況を追跡している間、画像は録画され、MXGファイルとして保存されます。

管理者権限を持つユーザーは、[プログラム設定](#)でクリップの保存場所と録画時間を指定できます

(Mac: MxManagementCenter > 環境設定 > ライブ・レコーダー・メニュー、Windows: Windows: File > Settings > Live Recorderメニュー)。

注! This feature is not supported by MOBOTIX MOVE cameras and third-party cameras that provide an ONVIF-S-compatible interface. For an overview of how the camera functions differ, see [カメラ機能の概要](#). この条件下でのみ、ライブレコーダーで音声を録音することができます:

- 音声伝送はカメラ側で有効にする必要があります。
- MxManagementCenter のライブビューで、 をクリックしてオーディオ接続を有効にする必要があります。



図。117: ライブ画像を手動で録画

録音の開始と停止

録画を開始するには、[ライブレコーダー](#)  をクリックしてください。番組設定で設定した録画時間が経過すると、録画は自動的に停止します。この時間が切れる直前にメッセージが表示されます。このメッセージの中で録画を停止したり、設定した時間を延長することができます。時間切れ前に録画を停止するには、 を再度クリックします。

注! ビューを変更すると、録画は自動的に停止します。ただし、ライブビュー内でカメラを変更しても録画は停止しません。

プレイクリップ

ライブ画像データは、録画中に番組設定で指定した場所にMXGファイルとして保存されます。クリップファイルは録画が停止すると自動的に現在のプロジェクトにインポートされ、デバイスバーにはクリップセクションの  アイコンと並んで表示されます。クリップ名をクリックすると、デバイスバーからMXGクリップファイルを再生できます。

グリッドビューでの作業

グリッド表示は、ライブ画像のグリッドと1つのフォーカス・ウィンドウで構成されます。このグリッド(タイル)構造は、**グループの全カメラの概要を素早く把握するのに最適**です。最も関心のあるカメラ画像をフォーカス・ウィンドウにドラッグできます。カメラの操作には、下部のコントロールを使用します。

グループの表示

別のグループを表示するには、デバイスバーまたはグループバーを使用します。そのためには、「デバイス」バーから希望のグループを表示エリアにドラッグ&ドロップするか、「グループ」バーで希望のグループをクリックします。表示されたグループは、デバイスバーとグループバーに黄色いバーで表示されます。



図. 118: グループの表示

フォーカスウィンドウの操作

フォーカス・ウィンドウの下部には、フォーカス・ウィンドウ内のカメラを操作できるコントロールがあるコマンド・バーがあります。コマンド・バーの上にマウス・ポインタを移動すると、さらなるコントロールが表示されます。

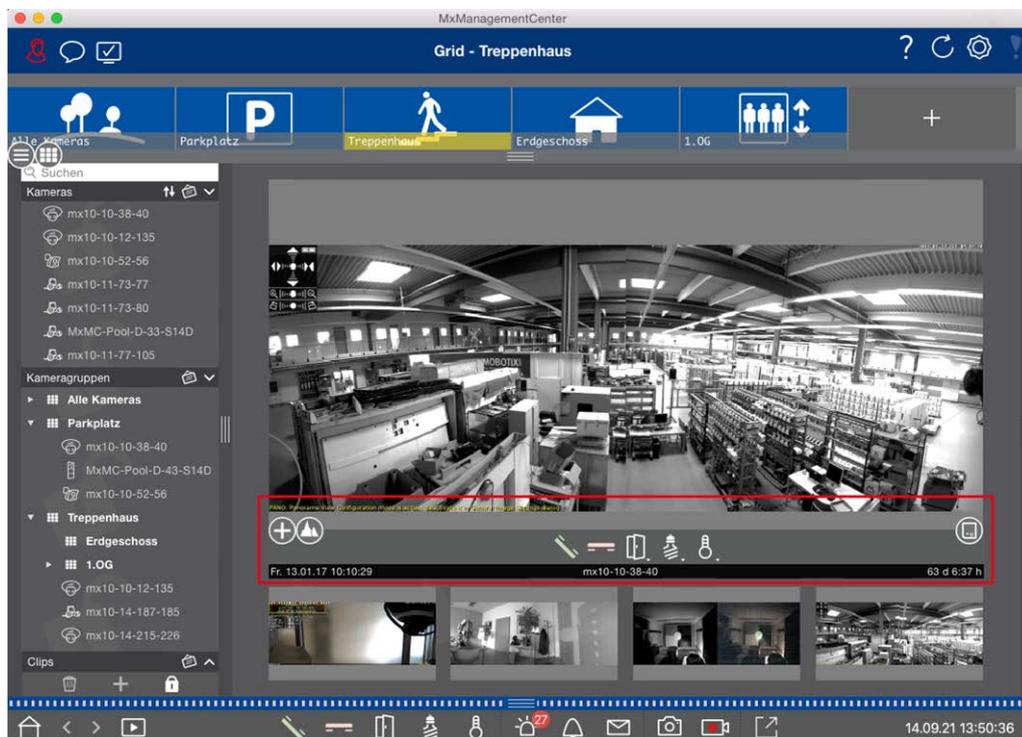


図. 119: フォーカス・ウィンドウ内のカメラ

ズームと動画セクション

スライダー(+) を使ってズームします。ズームした画像部分は、マウスで移動することができます。これらの操作はアプリケーション内で行われます。つまり、現在のライブ画像の画像セクションのみが変更されます。カメラは移動しないため、ズームは生成されたカメラ画像の録画には影響しません。

1. スライダー(+) をドラッグして、ライブ画像を拡大または縮小します。
2. マウスで画像を動かして、個々の画像部分に焦点を合わせる。

定義済みの画像セクションを選択します。

特定の画像セクションに素早くピントを合わせるには、カメラにあらかじめ設定されている工場出荷時の画像ポジションのいずれかを使用します。

- 概要 (📄)、注目ポイント (📍)、プレビュー (📺)、詳細表示 (👤)
- 上 (↑)、下 (↓)、左 (←)、右 (→)

スライダーStandard (📊) を次の位置まで、または適切な位置が見つかるまで動かします。

通話の受付と終了。

入り口で訪問者と話すには、 をクリックしてください。音声接続を終了するには、 をクリックしてください。

ドアの開閉と照明の切り替え

カメラがドア・ステーションに接続され、それに応じて設定されている場合、 をクリックしてドアを開けることができます。カメラが照明スイッチにも接続され、それに応じて設定されている場合は、 をクリックして照明をオン・オフできます。

表示温度

MOBOTIX カメラにはハウジング内部の温度を測定する温度センサーが内蔵されています。ExtIOモジュールまたはMX-GPS-Boxがカメラに接続されている場合、モジュールまたはBoxの周囲温度を測定し、をクリックして表示することもできます。

ソフトボタンの実行

ソフトボタンは、追加デバイスの切り替えやHTTPリクエストの送信に使用できる。

ソフトボタンを実行するには、 をクリックしてソフトボタンメニューを開き、ソフトボタンをクリックします。

ソフトボタンを編集するには、[ソフトボタンの設定](#) 参照してください。

カメラシーケンサー

フォーカス・ウィンドウに別のカメラを表示したい場合は、そのカメラをフォーカス・ウィンドウにドラッグするだけです。カメラ・シーケンサーは自動的にカメラを切り替えることもできます。

指示する:

1. カメラ・シーケンサー・アイコン  をクリックして、自動切り替えを有効にします。
2.  を右クリックして、以下の設定を変更します:
 - **継続時間スライダー**: スライダーを任意の時間 (1秒 ~ 60秒) に動かし、各カメラを表示します。
 - **自動スタート**: グリッド・ビューに切り替えると、シーケンサーは自動的にスタートします。
 - **イベントで停止**: イベントが発生するとシーケンサーは停止し、状況をさらに調査することができます。もう一度始めるには、 をクリックします。
 - **確認後再起動**: 何度も何度もシーケンサーを再起動するのを避けたい場合は、このオプションを有効にします。

グループ・シーケンサー

フォーカス・ウィンドウに別のカメラ・グループを表示するには、そのカメラ・グループをフォーカス・ウィンドウにドラッグ・アンド・ドロップします。グループのすべてのカメラを含むグリッドが表示され、グループの各カメラがグリッドのフォーカス・ウィンドウに定義された時間順次表示されます。グループ・シーケンサーを使用して、このカメラ・グループの変更を自動化できます。

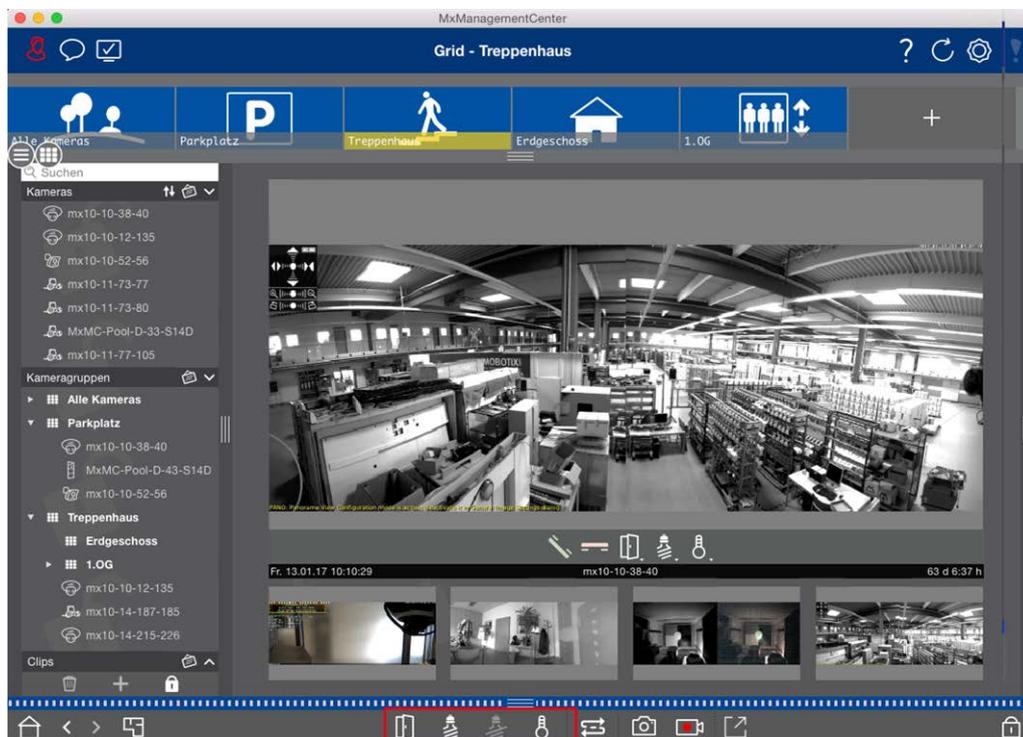
指示する:

1. グループシーケンサーのアイコン  をクリックして、グループシーケンサーを起動します。
2. シーケンサーの設定を変更するには、右クリックします:
 - **Duration:** 各グループを表示する時間を設定します。1 秒から 60 秒の間で設定できます。コンバインド・シーケンサー」はカメラ・シーケンサーと一緒にグループ・シーケンサーを起動します(カメラ・シーケンサーの「オートスタート」は必要ありません)。グループ・シーケンサはグリッドまたはグラフィック上のすべてのカメラが循環するまで待ってから次のグループに切り替えます。コンバインド・シーケンサ"が有効な場合、カメラ・シーケンサの"イベントで停止"と"確認後再起動"はグループ・シーケンサにも適用されます。
 - **自動スタート:** グリッド・ビューに切り替えると、グループ・シーケンサーは自動的にスタートします。

グループ機能の切り替え

プログラム・ウィンドウの下部には、コマンド・バーがあります。グリッド表示では、コマンド・バーのグループ・ボタンを使用して、カメラ・グループの機能を制御できます(前提条件:グループ機能]ダイアログ・ボックスでグループ機能を割り当てます)。つまり、現在表示されているカメラに関係なく、このグループの事前設定されたカメラに対して、照明のオン / オフ、ドアの開閉、アナウンスを行うことができます。

また、このグループの複数のカメラに照明のオン / オフやドアの開閉機能を割り当てることもでき、複数の照明のオン / オフや複数のドアを開けることができます。この操作を行う前に、カメラを適切に設定する必要があります。つまり、ドア・オープナー / 照明接点に接続し、適切に設定する必要があります。



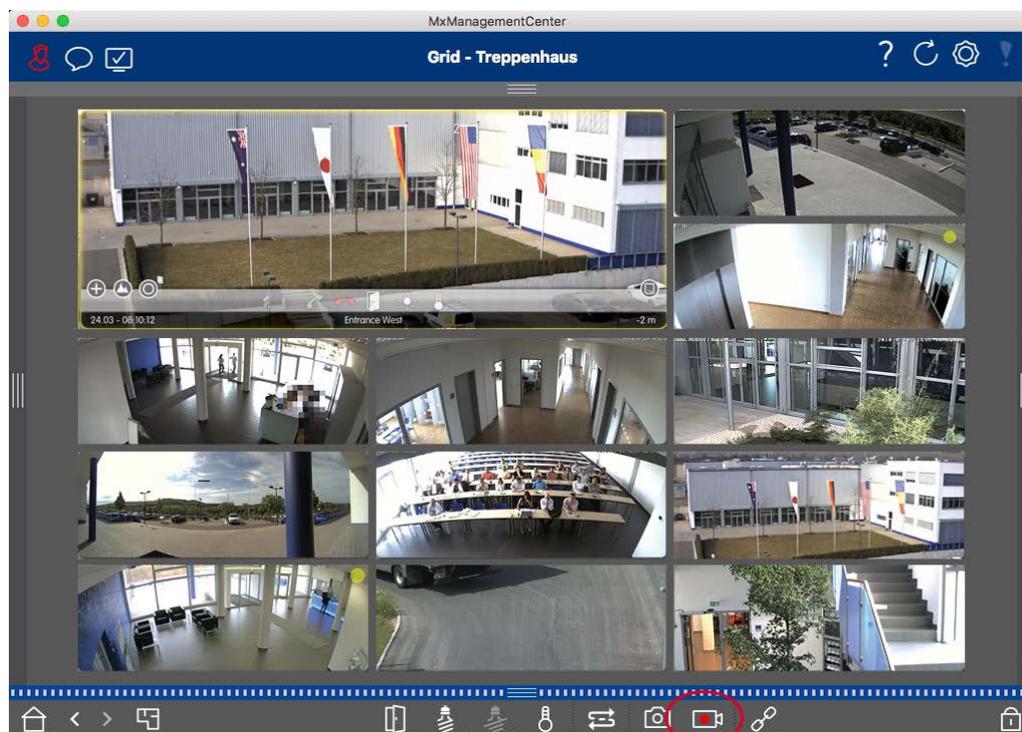
図。120: グループ機能の切り替え

ライブ画像を手動で録画

グリッド表示でもライブ表示でも、録画すべき不審な状況を観察したときなど、いつでも手動録画を開始できます。ライブ画像で状況を把握しながら、画像が記録され、MXGファイルとして保存されます。フォーカス・ウィンドウ内にあるカメラのライブ画像は常に記録されます。このため、ライブ録画はグリッド表示でもフォーカス・ウィンドウがある場合にのみ使用できます。

管理者権限のあるユーザは、[好み, ページ 159](#)(Mac:メニュー:Mac:メニュー:MxManagementCenter > Preferences > Live Recorder、Windows メニュー:Windows メニュー: [ファイル] > 設定] > ライブ・レコーダー))。

注! この機能は、MOBOTIX MOVE カメラおよび ONVIF S 互換 インターフェイスを提供する他社製カメラではサポートされていません。カメラの機能の違いの概要については、[カメラ機能の概要, ページ 11](#)参照してください。



図。121: ライブ画像を手動で録画

録音の開始と停止

録画を開始するには、**ライブレコーダー**  をクリックしてください。番組設定で設定した録画時間が経過すると、録画は自動的に停止します。この時間が切れる直前にメッセージが表示されます。このメッセージの中で録画を停止したり、設定した時間を延長することができます。時間切れ前に録画を停止するには、 を再度クリックします。

注! 他のビューに切り替えると、録画は自動的に終了する。ただし、Gridビュー内でグループを変更しても、そのグループにフォーカスウィンドウがない場合を除き、録画が早期に終了することはありません。後者の場合、録画は終了する。

プレイクリップ

ライブ画像データは、録画中に番組設定で指定した場所にMXGファイルとして保存されます。クリップファイルは録画が停止すると自動的に現在のプロジェクトにインポートされ、デバイスバーにはクリップセクションの  アイコンと並んで表示されます。クリップ名をクリックすると、デバイスバーから*MXGクリップファイルを再生できます。

グラフィック・ビューでの作業

グラフィック表示でフロア・プラン(グランド・プラン) を定義し、カメラまたはカメラ・グループを実際の位置に合わせて配置できます。アラームが発生すると、対応するカメラのアイコンが赤くなります(ベルが鳴ると緑になります)。クリックするだけで、トリガしたカメラの現在のライブ画像が表示され、状況をすばやく確認できます。

カメラのライブ画像の一時表示

カメラのライブ画像を一時的に表示するには、マウス・ポインタをカメラのアイコンに合わせます。さらに、別のカメラ・グループのライブ画像もグラフィック表示に表示できます。カメラ・バーから目的のカメラをフロア・プランにドラッグ・アンド・ドロップします。ビューを変更すると、ライブ画像は消えます。

グループのすべてのライブ画像を自動的に表示

現在のグループのすべてのライブ画像を追跡するには、カメラ・シーケンサまたはグループ・シーケンサをオンにします。シーケンサを起動すると、カメラ・グループのすべてのライブ画像が小さなウィンドウに次々と表示されます。このウィンドウは任意の場所に移動して、拡大または縮小できます。

カメラシーケンサ

フォーカス・ウィンドウに別のカメラを表示したい場合は、そのカメラをフォーカス・ウィンドウにドラッグするだけです。カメラ・シーケンサは自動的にカメラを切り替えることもできます。

指示する:

1. カメラ・シーケンサ・アイコン  をクリックして、自動切り替えを有効にします。
2.  を右クリックして、以下の設定を変更します:
 - **継続時間スライダー**: スライダーを任意の時間(1秒 ~ 60秒)に動かし、各カメラを表示します。
 - **自動スタート**: グリッド・ビューに切り替えると、シーケンサは自動的にスタートします。
 - **イベントで停止**: イベントが発生するとシーケンサは停止し、状況をさらに調査することができます。もう一度始めるには、 をクリックします。

- **確認後再起動**: 何度も何度もシーケンサーを再起動するのを避けたい場合は、このオプションを有効にします。

グループ・シーケンサー

フォーカス・ウィンドウに別のカメラ・グループを表示するには、そのカメラ・グループをフォーカス・ウィンドウにドラッグ・アンド・ドロップします。グループのすべてのカメラを含むグリッドが表示され、グループの各カメラがグリッドのフォーカス・ウィンドウに定義された時間順次表示されます。グループ・シーケンサーを使用して、このカメラ・グループの変更を自動化できます。

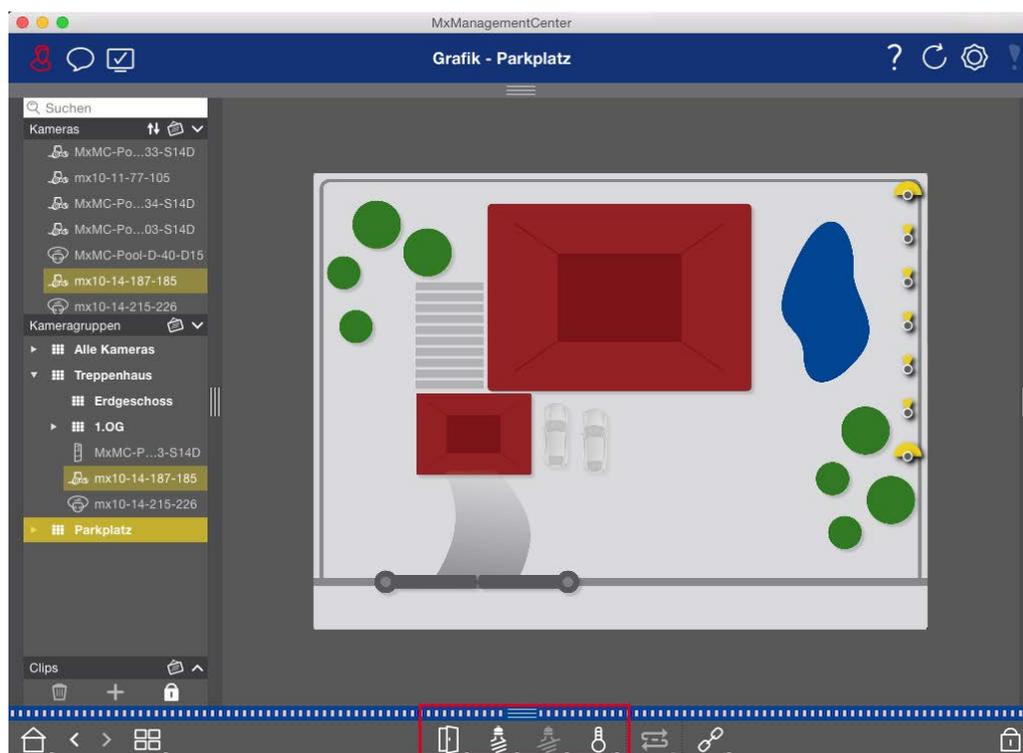
指示する:

1. グループシーケンサーのアイコン  をクリックして、グループシーケンサーを起動します。
2. シーケンサーの設定を変更するには、右クリックします:
 - **Duration**: 各グループを表示する時間を設定します。1秒から60秒の間で設定できます。コンバインド・シーケンサー」はカメラ・シーケンサーと一緒にグループ・シーケンサーを起動します(カメラ・シーケンサーの「オートスタート」は必要ありません)。グループ・シーケンサーはグリッドまたはグラフィック上のすべてのカメラが循環するまで待ってから次のグループに切り替えます。コンバインド・シーケンサー"が有効な場合、カメラ・シーケンサーの"イベントで停止"と"確認後再起動"はグループ・シーケンサーにも適用されます。
 - **自動スタート**: グリッド・ビューに切り替えると、グループ・シーケンサーは自動的にスタートします。

グループ機能の切り替え

プログラム・ウィンドウの下部には、コマンド・バーがあります。グラフィック・ビューでは、コマンド・バーのグループ・ボタンを使用して、カメラ・グループの機能を制御できます(前提条件: [グループ機能](#)]ダイアログ・ボックスでグループ機能が割り当てられていること)。つまり、現在表示されているカメラに関係なく、このグループの事前設定されたカメラに対して、照明のオン / オフ、ドアの開閉、アナウンスを行うことができます。

また、このグループの複数のカメラに照明のオン / オフやドアの開閉機能を割り当てることもでき、複数の照明のオン / オフや複数のドアを開けることができます。この操作を行う前に、カメラを適切に設定する必要があります。つまり、ドア・オープナー / 照明接点に接続し、適切に設定する必要があります。



図。122: グループ機能の切り替え

ドア・ステーションの操作

ドア・ステーションはMxManagementCenterと統合して操作することもできます。このため、カメラのプログラム機能に加えて、ドア・ステーション固有の機能が提供されます。

注!

ドア・ステーションの機能は、MOBOTIX MOVE カメラおよびONVIF-S/G 互換インターフェースを提供する他社製カメラではサポートされていません。カメラの機能の違いの概要については、以下を参照してください:

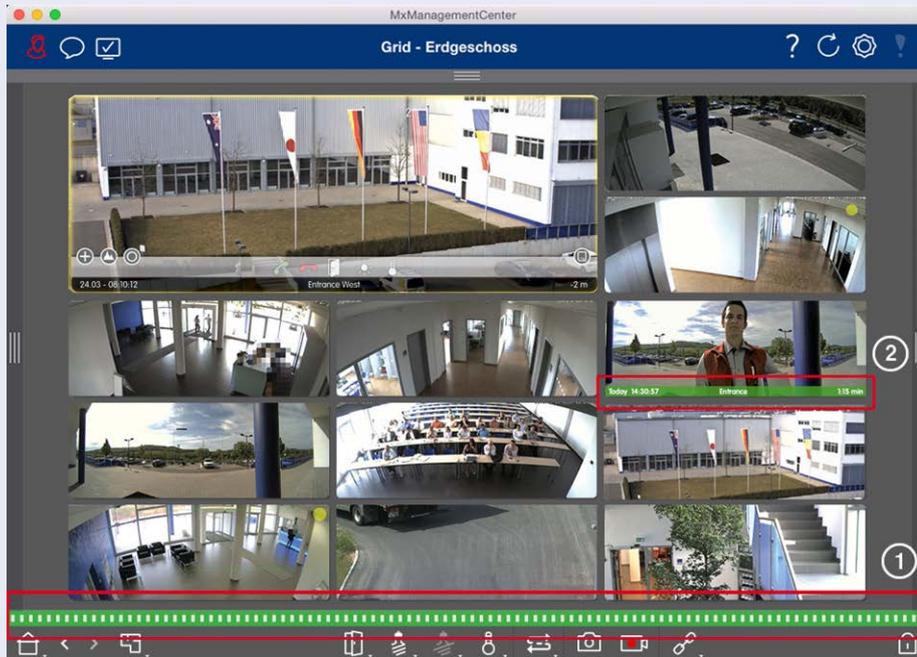
- [カメラ機能の概要, ページ 11。](#)
- [ドアステーションの設定, ページ 117](#)

ベル信号

誰かがドアベルを鳴らすと、アプリケーションのさまざまな場所に表示することができる。

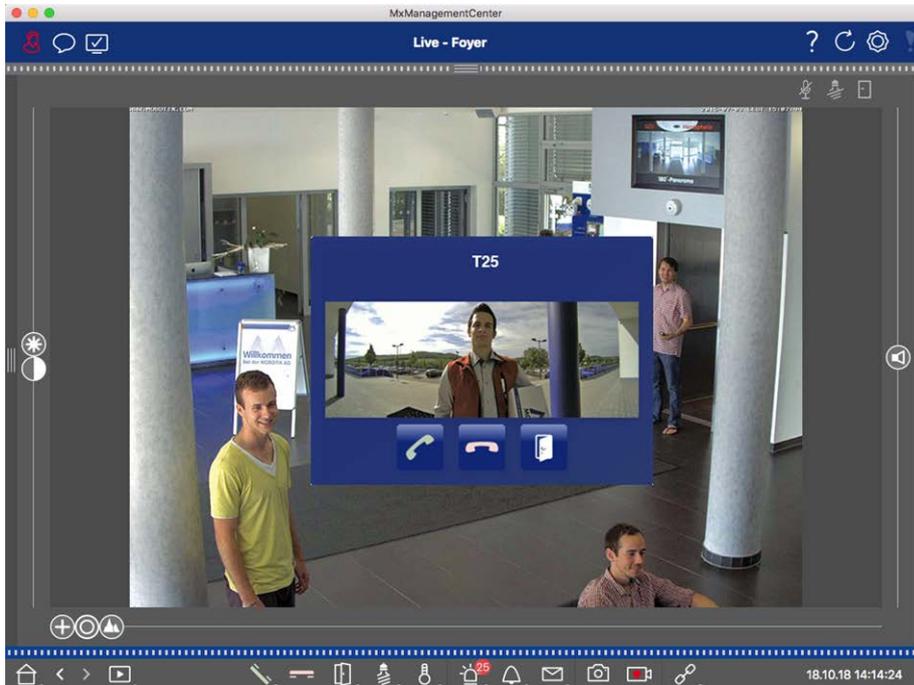
どこで? 説明

アラームバーとアラーム情報バー
アラームバー①はMxManagementCenterの下部にあり、アラーム情報バー②は対応するドア・カメラのカメラ画像の下にあります。



どこで? 説明

ドアベルが鳴ると、どのビューにいても、鳴動通知が表示されます。このためには、カメラ設定ダイアログで通知 ドア・ステーションのベル・イベントがアラームとして設定されていること、およびヘッダで[通知]  が無効になっていないことが前提条件となります。

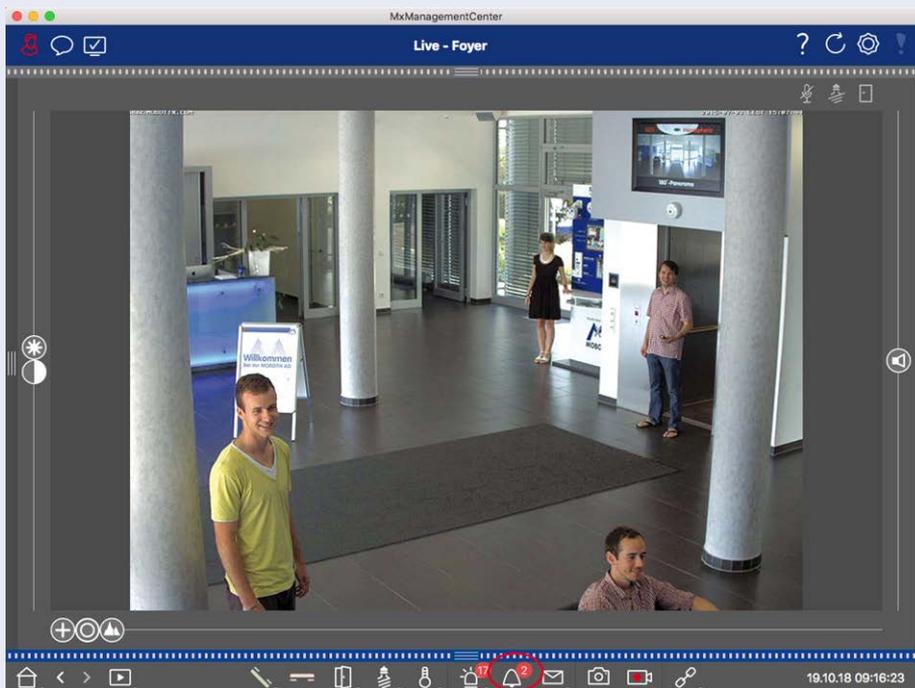


注!

アプリケーションヘッダの通知  をクリックすることで、管理者が通知を一時的に無効にすることができます。

どこで? 説明

鐘のアイコン()の横のカウンターが1つ増える。
コンのカウンターの



ベル信号の設定

ドアステーションの設定, ページ 117」で、どの信号オプションを組み合わせ、どこで設定できるかを確認します。

オープンドアとスイッチライト

ドア・カメラが正しく設定されている場合、MxMC を使用してドアを開け、照明を切り替えることができます。これを行うには、ライブビューのコマンドバーおよびグリッドビューのフォーカスボックスのコマンドバーで、 および  キーを使用します。

マルチモニターでの作業

MxManagementCenter はマルチモニターをサポートしています。カメラのライブ画像は、を実行しているコンピュータに直接接続されたモニターに表示できます。カメラのライブ画像は、MxThinClientを使用して、追加のディスプレイ・デバイスに切り替えることもできます。MxMC

コンピュータに接続されたモニターにライブ画像を表示する

複数のモニターがMxMC を実行しているコンピュータに接続されている場合、各モニターをダブルクリックすることで、個々のカメラのライブ画像を表示できます。をダブルクリックします:

- カメラ・バーのカメラ画像上
- アラームバーのイベント画像上
- グリッド表示のカメラ画像上
- またはグラフィック表示のカメラアイコン上

をクリックし、ライブ画像を表示したいモニターを選択します。

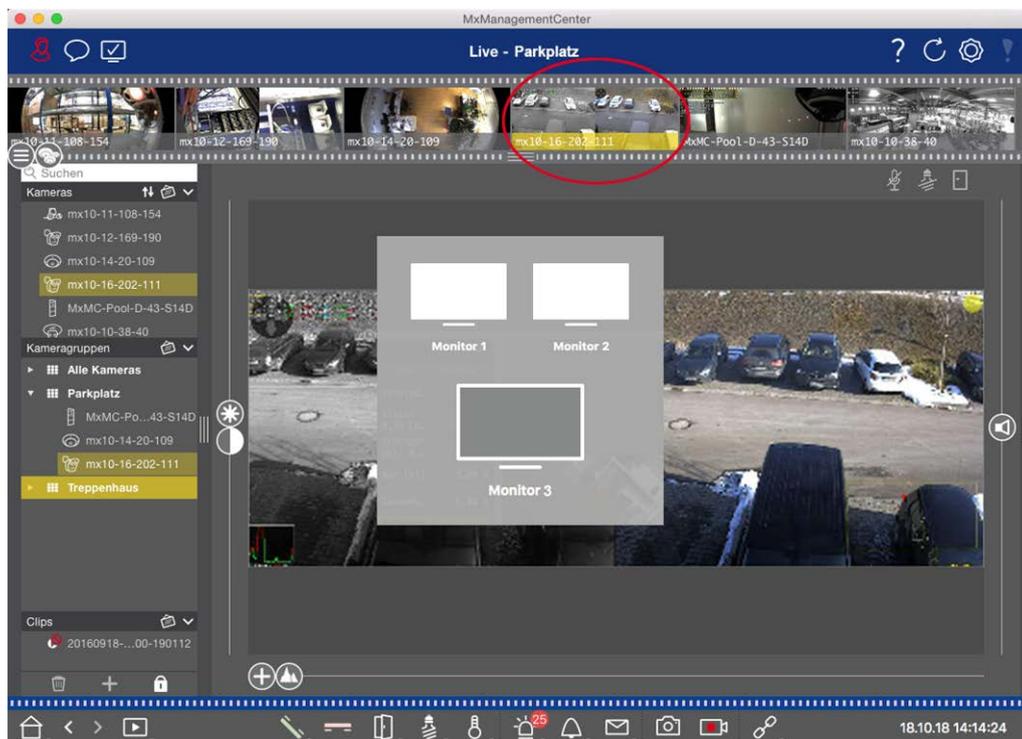


図. 123: コンピュータに接続されたモニターにライブ画像を表示する

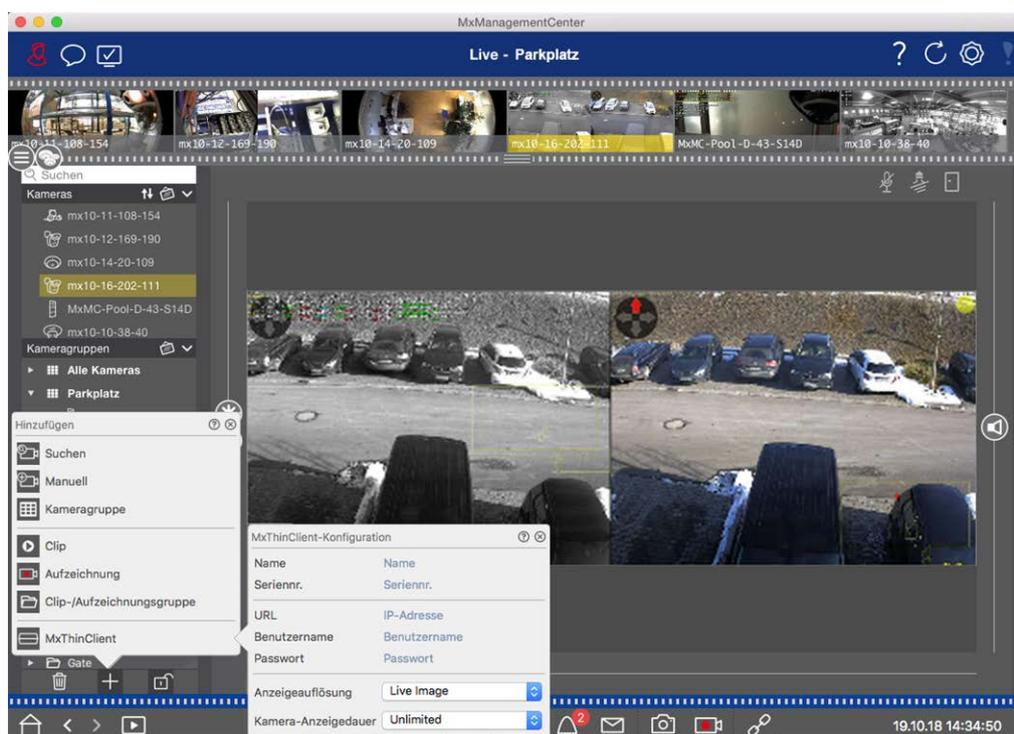
MxThinClientを使用してライブ画像を追加モニターに表示する

MxMC、何台でもモニターを接続して操作することができます。ただし、その数はコンピュータに搭載されているグラフィック・カードによって制限されます。1つまたは複数の MxThinClient デバイスを使用することで、MxMC で使用可能なディスプレイ・デバイスの数を増やすことができます。これにより、例えば、MxMC からカメラのライブ画像をダブルクリックすることで、追加の表示デバイス(モニターまたはテレビ)に切り替えることができます。

注! MxThinClient デバイスは、MOBOTIX MOVE カメラおよび ONVIF-S と互換性のあるインターフェースを提供するサードパーティ製カメラではサポートされません。カメラの機能のの違いの概要については、以下を参照してください。[カメラ機能の概要, ページ 11.](#)

MxThinClientの追加

1. カメラのライブ画像はこのシステム経由で接続されるため、**好み, ページ 159**設定でMxMessageSystemを有効にする必要があります(Mac: Mac: MxManagementCenter>設定>MxMessageSystem、Windows: Windows: **ファイル**> **設定** > **MxMessageSystem**)。また、MxThinClientと同じパラメータが設定されていることを確認します。
さらに、MxThinClientとMxMCを実行しているコンピュータが同じタイム・サーバを使用していることを確認する必要があります。
2. バーの下部にある  をクリックして、デバイスバーの編集モードを開きます。次に、  をクリックします。**Add and Import**ダイアログが開きます。



図。124: MxThinClientの追加

3.  をクリックします。**MxThinClient 設定**]ダイアログ・ボックスが表示されます。
4. デバイス・バーに表示される MxThinClient の名前を入力します。名前は自由に選択できます。
5. **URL**オプションを使用して、現在のIPアドレスまたはDNSドメイン名を入力します。
6. **シリアル番号**]には、MxThinClient の筐体に印刷されている工場出荷時の IP アドレスを入力する必要があります。このIPアドレスはMxMessageSystemでMxThinClientにアクセスする際のアドレスを表すため、正確に入力する必要があります。
7. MxThinClientのインストール時に使用したユーザ名とパスワードを入力します。

8. カメラのライブ画像が追加表示装置にデータを送信するときに使用する解像度を選択します。表示装置がサポートしていない解像度を選択すると、表示装置のディスプレイに「**Resolution Not Supported**」というメッセージが表示されます。この場合は、より低い表示解像度を選択します。
9. 設定されたモードでMxThinClientの実行を継続する前に、カメラのライブ画像を表示する時間を選択します。
表示時間無制限]を選択した場合、カメラのライブ画像は、イベント制御設定に基づいてイベントがトリガされた場合など、MxThinClientが新しいコマンドを受信するまで表示されます。
設定された表示時間が経過する前にカメラのライブ画像の表示を停止する場合は、 アイコンをクリックします。このアイコンは、デバイス・バーのMxThinClientの名前の上にマウス・ポインタを移動すると表示されます。
10. ダイアログボックスを閉じます。次に、 をクリックしてデバイスバーの編集モードを解除します。

MxThinClientの使用

ライブ・カメラ画像を追加の表示デバイスに切り替えるには、目的のカメラ画像をダブルクリックするか、カメラ画像をデバイス・バーのMxThinClientセクションの該当するMxThinClientにドラッグ・アンド・ドロップします。

注！ MxThinClientセクションがデバイス・バーに表示されるのは、MxThinClientが統合されている場合のみです。

MxThinClientを追加、管理、または削除するには、管理者権限が必要です。

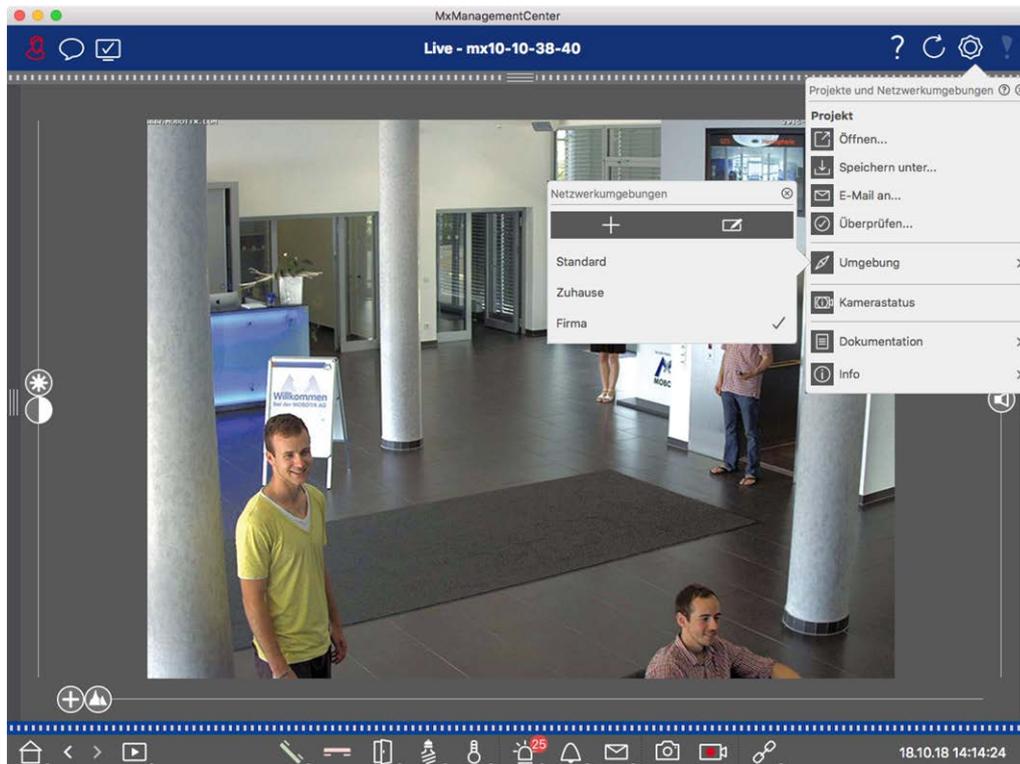
さまざまなネットワーク環境での作業

MxManagementCenterを使用すると、さまざまな場所からカメラにアクセスできます。例えば、ローカル・エリア・ネットワーク(LAN)経由で自宅のカメラを監視したり、事前に設定したインターネット経由のDynDNSアクセス経由で移動中にカメラを監視することができます。

こちらをご覧ください: [ネットワーク環境](#)

環境の選択

別の場所(別のネットワーク)からカメラにアクセスする場合は、以前に作成した該当する環境を選択します。別の環境に切り替えると、カメラに接続するためのネットワークアドレスのデータが自動的に切り替わります。



図。125: 環境の選択

1. ヘッダーバーの  を右クリックします。プロジェクトとネットワーク環境ダイアログが開きます。
2. 「環境」をクリック。
3. ご希望の環境を選択してください。

一時的な帯域幅の調整

環境に帯域幅を割り当てることで、接続速度が異なる場合にカメラからどのように画像を引き出すかを指定できます。これにより、ライブ表示やイベント調査での画像の表示方法が制御されます。帯域幅を選択すると、画質も制御されます。カメラの設定を実際に変更しなくても、帯域幅の設定を一時的に上書きできます。

1. ヘッダーバーの  をクリックする。帯域幅モードダイアログが開きます。
2. 希望の設定を選択する:
 -  ハイレゾ: 画像はカメラの設定を使って転送されます。
 -  LoRes: 画像は、LoRes用のプログラム設定で定義されたフレームレート、解像度、画質で配信されます。
 -  変更なし: カメラの元の設定に戻す場合に使用します。

アラーム処理

ビデオ管理システムの重要なコンポーネントにアラーム機能があります。どのイベントがアラームにつながるか、アラーム発生時にどのように通知されるかを指定できます。さらに、ウィークリープロファイルで個々の時間帯のアラーム動作を定義できます。

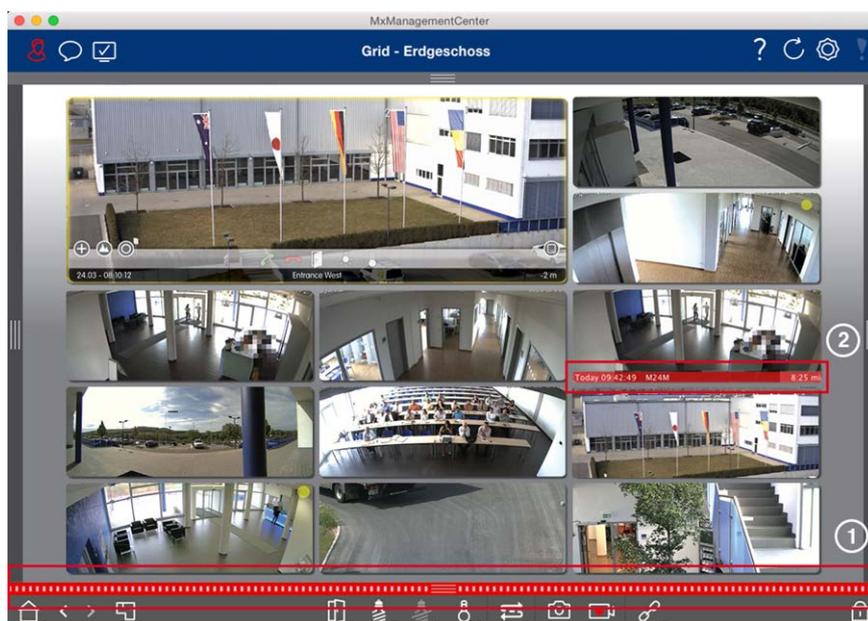
注! アラーム処理機能は、MOBOTIX MOVE カメラおよびONVIF-S 互換インターフェースを提供する他社製カメラではサポートされていません。カメラ機能の違いについては、「[カメラ機能の概要](#)」を参照してください。

アラーム通知

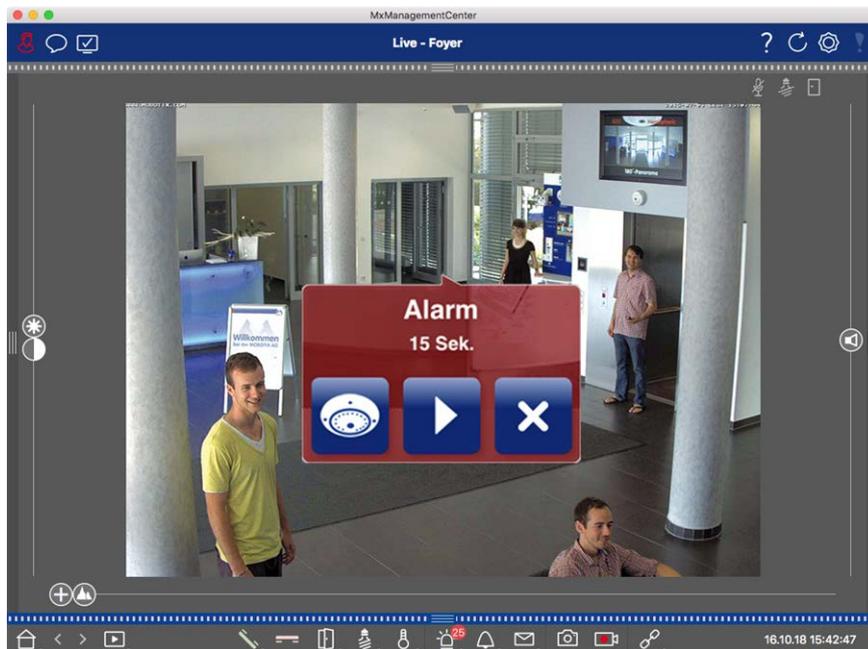
アラーム・トリガー・イベントは、アプリケーションの様々なポイントでシグナルを送ることができる。

どこで? 説明

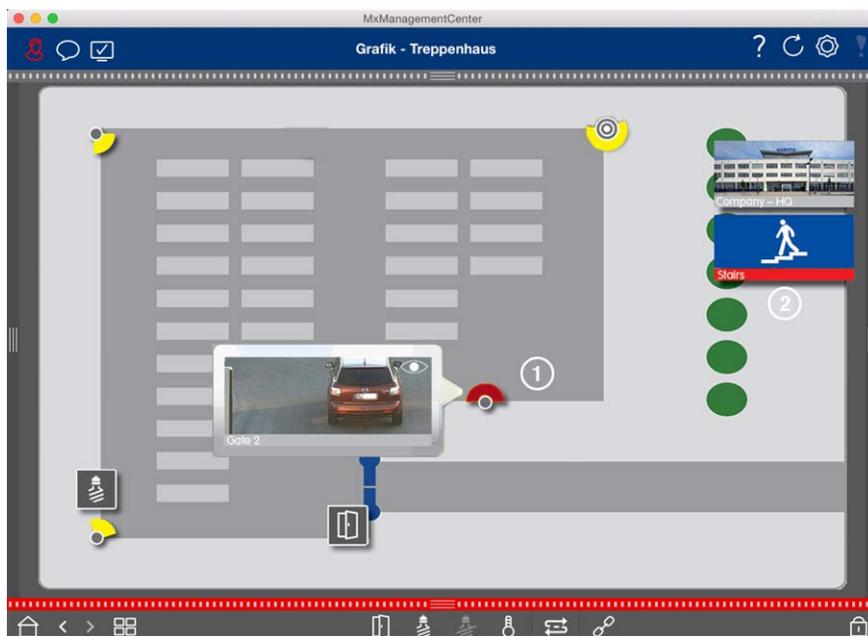
アラームバーとカメラ設定でアラーム通知が有効になっている場合、[アラーム] および [アラーム情報] バーが赤色に変わり、アラームのトリガーとなったイベントに関する情報が表示されます(ベルが鳴った場合は緑色)。アラームバー①はMxManagementCenterの下部にあり、アラーム情報バー②は対応するカメラのカメラ画像の下にあります。



アラーム通知 さらに、アラーム・メッセージとアラーム音の受信を選択できます。このためには、カメラ設定ダイアログでアラーム通知オプションを有効にし、[通知]セクション (Mac:[MxManagementCenter]>[設定]メニュー、Windows:[ファイル]>[設定])メニューで[アラーム]チェックボックスを設定する必要があります。



グラフィック カメラがアラームを検出すると、対応するカメラのアイコンが赤(②)または緑(ベル・イベント)に
ビューのカメラ 変わります。小さなライブ画像を表示するか(マウス・ポインタをアイコンの上に移動)、ライブ画
アイコンとグ 像をセカンド・モニタに表示できます(カメラ・アイコンをダブルクリック)。
ループアイコン 背景画像(フロアプラン)上に追加のカメラ・グループを配置した場合、このカメラ・グループの
 カメラがアラーム・トリガ・イベントを登録すると、カメラ・グループは赤色②または緑色になります。

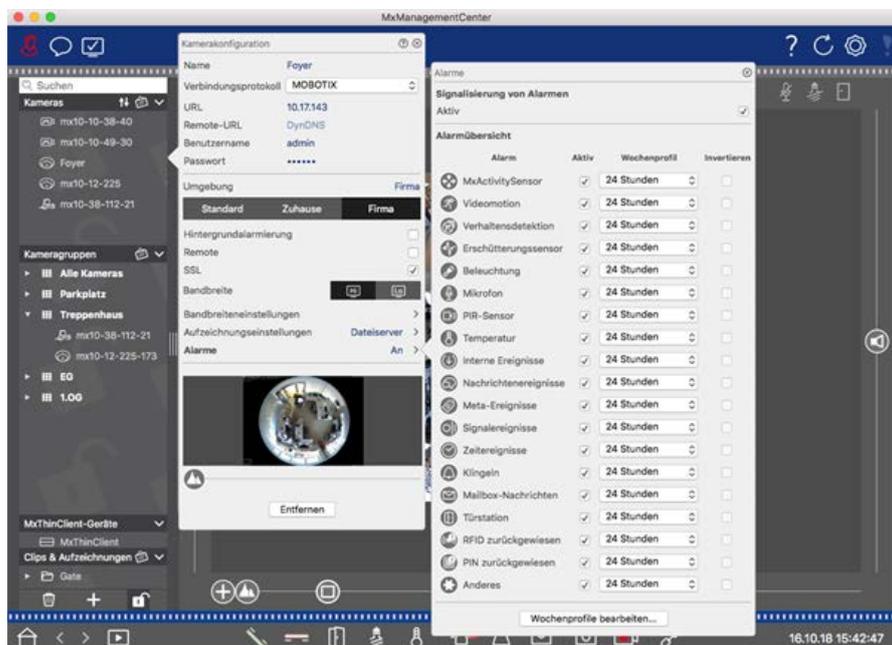


アラーム通知の設定

以下の表は、通知オプションの設定場所と設定方法について説明しています。

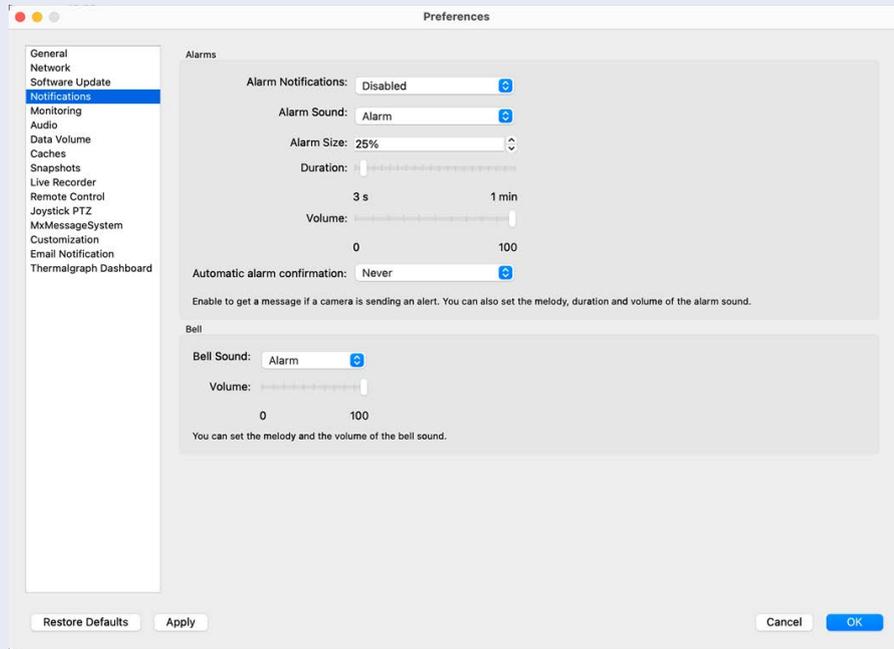
通知 設定

アラームバー、アラーム情報バー、アラーム情報バー
 アラームバーおよびアラーム情報バーでアラームを通知するには、各カメラのアラーム通知を有効にして、アラームをトリガーするイベントを選択する必要があります。

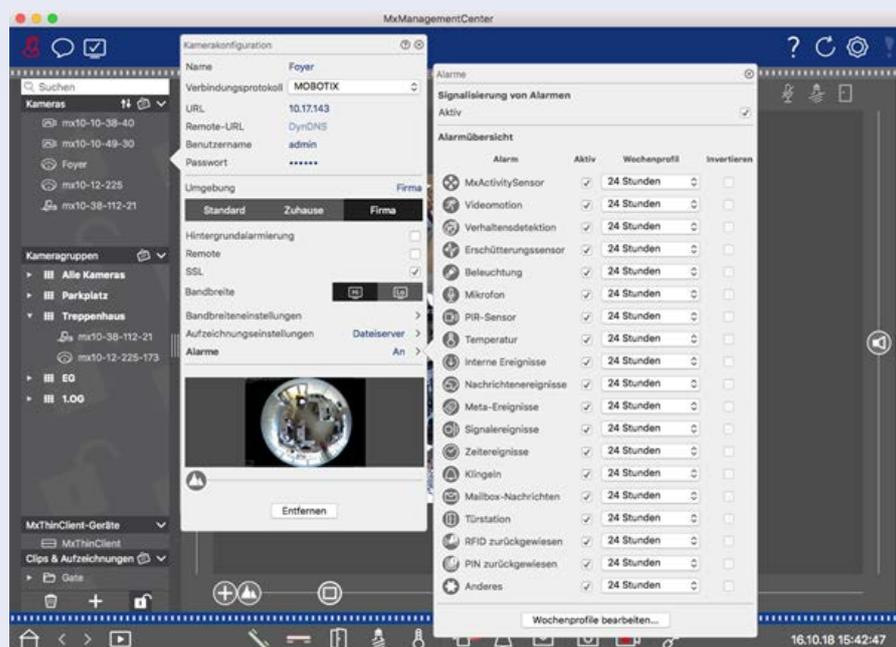


1. これを行うには、[カメラ]バーで対応するカメラを右クリックして、[カメラ設定]ダイアログ・ボックスを開きます。
 オプションで、[デバイス]バーで  をクリックし、対応するカメラを右クリックして、ダイアログ・ボックスを開きます。
2. アラームをクリックし、アラーム通知を有効にし、アラームをトリガーするイベントを設定します。

アラーム通知
アラームバーとアラーム情報バーでの通知に加えて、視覚的および聴覚的なアラートを設定できます。設定するには、通知 (Mac: Mac: [MxManagementCenter] > 設定) メニュー、Windows: [ファイル] > 設定) メニュー)、 [アラーム] オプションを選択し、 [通知] をクリックします: [ファイル] > [設定] メニュー)、 [アラーム] オプションを選択し、アラーム音、アラーム時間、および音量を選択します。



グラフィック
ビューのカ
メラアイコン
とグループ
アイコン
アラームイベントが発生すると、カメラアイコンとグループアイコンがグラフィック表示で赤または緑になるようにするには、アラームバーとアラーム情報バーの通知と同じ設定を行う必要があります。

アラームの
時間範囲
の設定

さらに、アラームをトリガーするイベントタイプごとに、週ごとのプロファイルを選択できます。

1. これを行うには、[カメラ] バーで該当するカメラを右クリックして、[カメラ設定] ダイアログ・ボックスを開きます。
別の方法として、[デバイス] バーで  をクリックし、該当するカメラを右クリックして、ダイアログ・ボックスを開くこともできます。
2. アラームオプションが有効になっていることを確認してください。
3. 他の週プロファイルが選択されていない限り、設定は月曜日 00:00 から日曜日 24:00 まで有効です。
4. イベント・タイプの週間プロファイルを作成するには、**Edit weekly profiles** をクリックしてください。週間プロファイルの作成および選択方法については、[アラームフィルタの設定](#) も参照してください。

アラーム画像のフィルタリング

すべてのアラーム画像は、アラームバーおよびスマートデータ検索ビューに表示されます。素早く概要を把握するために、さまざまな基準に従って画像の表示をフィルタリングできます。

アラームバーのアラーム画像のフィルタリング（「アラーム画像の表示のフィルタリング」セクション）：

アラームバーのアラーム画像は、時系列で並べ替えられます。カメラ、グループ、イベントタイプ、確認ステータスによって、アラーム画像の表示をフィルタできます。

イベントタイプによるスマートデータ検索ビューのフィルタリング：

選択したカメラのすべてのイベント画像が時系列で表示されます。イベントの種類によって表示をフィルタできます。

アラーム録画の再生

アラームの録画は、アラームバー(「録画の再生」セクション) またはスマートなデータ検索ビュー、ページ 34 直接再生できます。

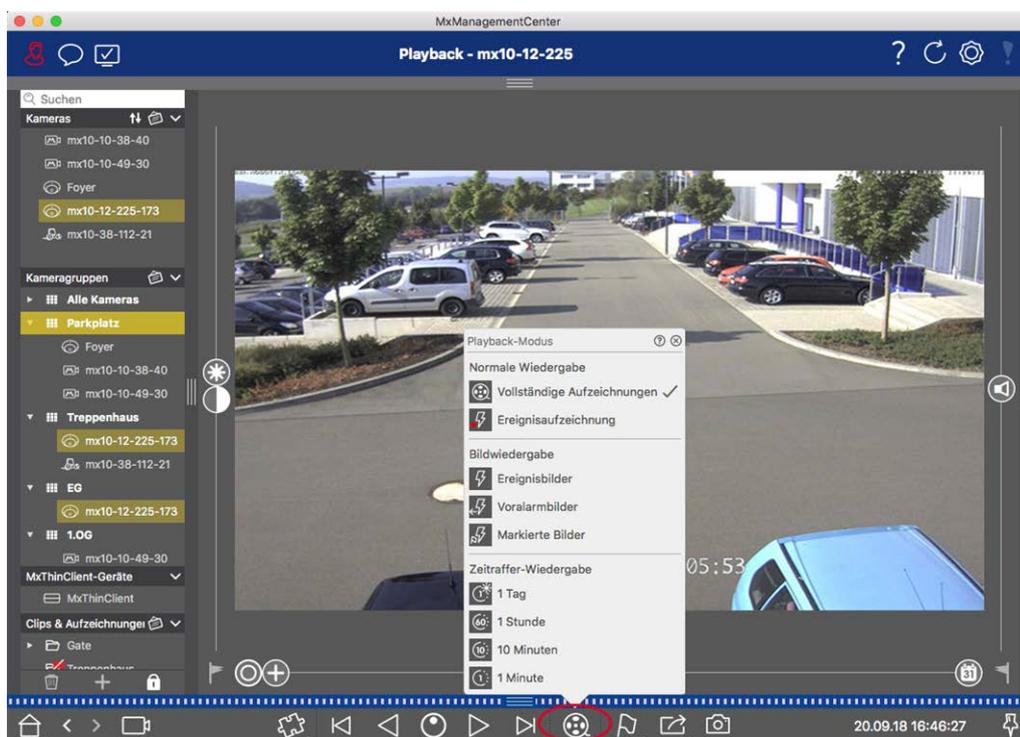
での研究 MxMC

このセクションでは、MxMC の基本的な研究機能について説明する。

再生ビューでの検索と再生

録画したクリップはプレーヤーで再生するだけでなく、検索することもできます。検索方法は、録画したクリップ内の特定のイベントを検索するか、特定の時間帯のイベントを検索するかによって異なります。

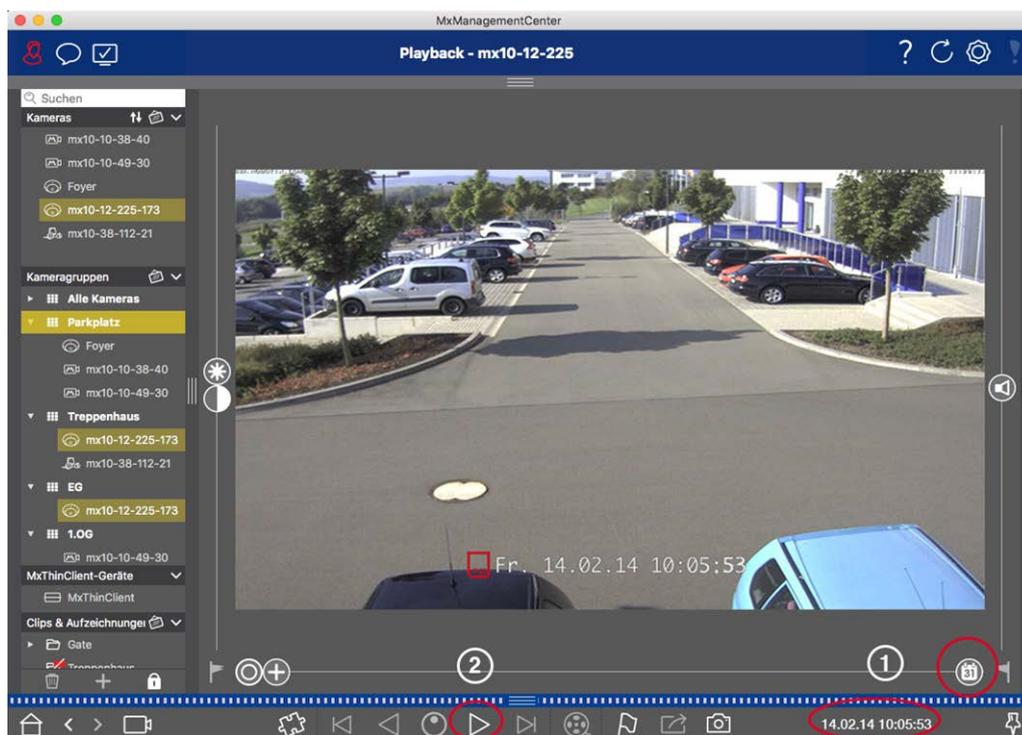
一般的な再生ビューのコントロール



図。126: 一般的な再生ビューのコントロール

録画を検索して再生するには、まず再生モード  を起動するか、日付と時刻を選択してから、「前/次画像」ボタン  を使用して録画をブラウズします。また、「前方/後方再生」ボタン  を使用して再生を開始することもできます。早送り/早戻し再生ボタンを押したまま、0.5倍から最大までの再生速度を選択できます。

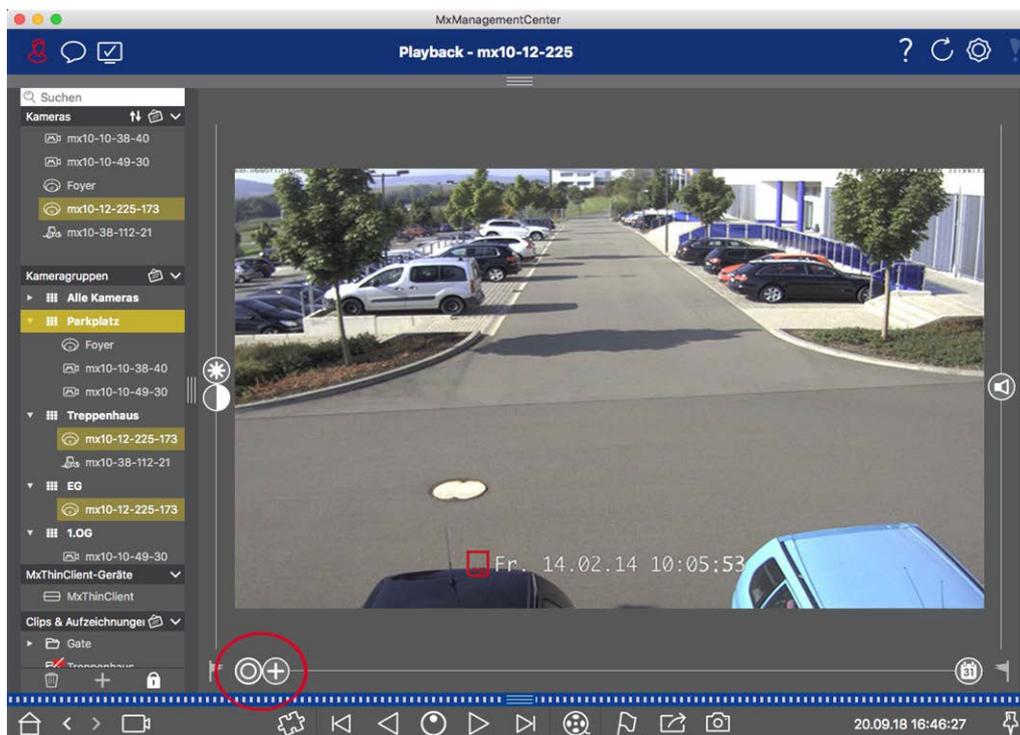
MOBOTIX MOVE およびONVIF-S/G カメラの再生ビューの一般的な操作



図。127: MOBOTIX MOVE およびONVIF-S/G カメラの再生ビューの一般的な操作

注!
SD カード録画が設定されているMOBOTIX MOVE カメラでは、再生時間の前に表示されるカメラアイコンを使用して、再生ビューでSD カード録画の再生を有効にすることができます。
この場合、録画中の時間的な位置決めや、一速前進での再生が可能である。録音内のナビゲーションは、限られた範囲でのみ可能です。プレーヤーが位置決めできるタイムジャンプを決めることができます(前進と後退のアイコンをマウスでロングクリックします)。

録画中のPTZアクションの実行



図。128: 録画中のPTZアクションの実行

注! セカンダリモニタでは、1台のカメラ画像はマウスホイールでズームするか、マウスボタンを押したままパンすることしかできません。PTZコントロールは、MxMCメイン画面またはグリッドビューのセカンダリモニタでのみ使用できます。

ライブ画像だけでなく、録画画像 (PTZ) でも、可視画像領域のズームや移動が可能です。これにより、録画されたビデオストリームの再生中に、特定の画像領域をより詳しく調べることができます。デュアル・カメラでは、 スライダーも表示されます。このスライダーを使用して、右、左、または両方の画像センサーの画像を表示します。半球カメラの録画を再生する場合、さまざまな表示モードを設定できます 。

ズームと動画セクション

スライダー () またはマウスホイールを使ってズームすることができます。他の画像領域を見るには、マウスを使用して記録された画像を移動することができます。

センサーの選択

デュアル・カメラでは、右、左、または両方のイメージ・センサーの録画を表示できます。これを行うには、 スライダーを右に動かし、 (左センサー) またはさらに右に動かし、 (右センサー) にします。

半球画像の歪み補正

半球カメラまたはレンズL12/B016、L23/B036、L25/B041を装着したカメラの記録画像を表示する場合、異なる表示モードを選択することができます。これらのモードでは、自然な画像を得るために、カメラが自動的に歪みを補正します。この歪み補正は、パノラマ補正を使用することでさらに精度を高めることができます。この種の補正は局所的にしか行われないうことに注意してください。つまり、記録された画像の歪み補正は、このコンピュータ上でのみ行われます。保存された録画画像(カメラまたはファイルサーバー)は、いかなる影響も受けません。

- **フル画像**:歪んだ)フル画像全体を表示します。
- **通常**:ディストーション補正された画像が表示され、PTZアクションを実行できます。
- **パノラマ**:このオプションは、左の壁から右の壁まで、部屋全体の歪み補正された画像(補正された180°パノラマビュー)を表示します。アスペクト比(幅と高さの比率)は8:3です。
- **サラウンド**:このオプションは、4つの画像セクション(各基線方向:N、E、S、W)を1つのジョイントビューに表示します。PTZアクションを使用して、4つのビューを互いに独立して変更できます。
- **ダブルパノラマ**:このモードでは、画像の北半分をパノラマ表示し、画像の南半分をアスペクト比(幅と高さの比率)4:3でパノラマ表示する。このモードが意味を持つのは、天井に取り付けられた半球カメラのみである。
- **パノラマフォーカス**:この表示モードは、パノラマビュー(アスペクト比8:3)と2つの小さな画像(それぞれアスペクト比4:3)を1つの大きな画像に合成します。

ディストーション補正モードの選択

スライダー()を右方向に動かして、希望のビューを表示させます。このスライダーの位置は、再度変更するまで自動的に保存されます。

パノラマ補正

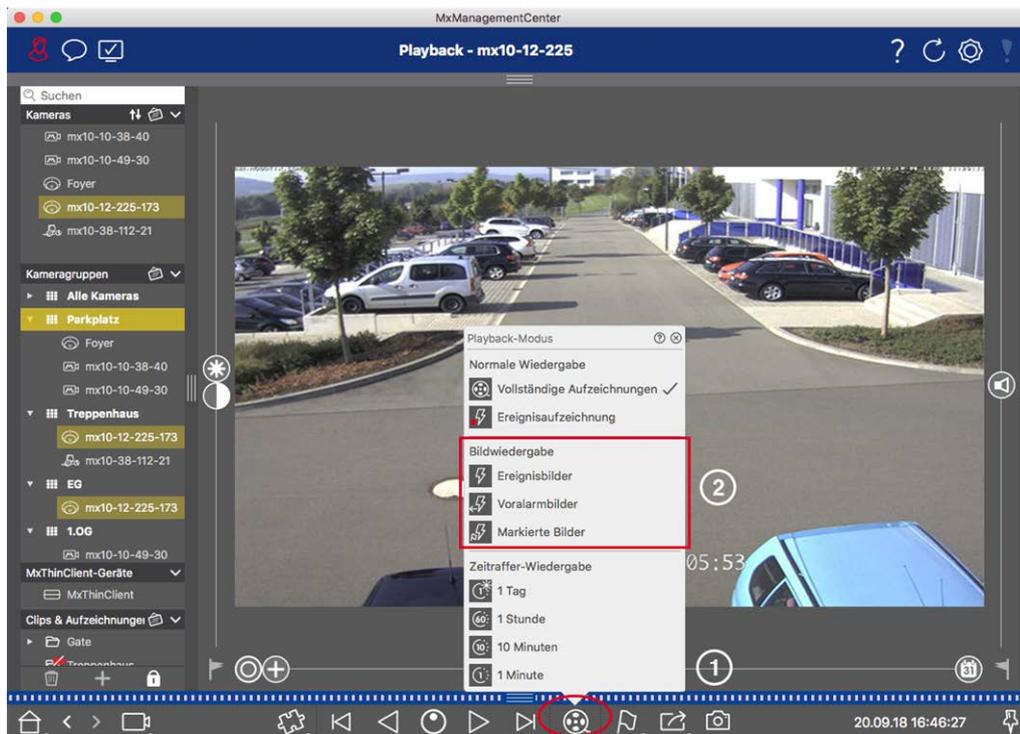
さまざまな表示モードで歪みを補正した画像は、パノラマ補正を使ってさらに精細にすることができます。 スライダーを右に動かし、 、マウスを使用して画像を補正します。補正した設定を保存するには、 スライダーをクリックし、スライダーのアイコンが画像の中央に短く表示されるまで押し続けます。

イベント画像の録画閲覧

イベント画像を検索する場合は、まず画像再生タイプを選択します:

- イベント画像 イベント画像のみを表示します。
- イベント前の画像:各イベントの最初の記録画像のみを表示します。
- ハイライト画像:以前に重要であるとマークされた画像のみが表示されます。

注! この機能は、MOBOTIX MOVE カメラおよびONVIF-S 互換インターフェースを提供する他社製カメラではサポートされていません。カメラ機能の違いについては、「[カメラ機能の概要](#)」を参照してください。



図。129: イベント画像の録画閲覧

1. 再生ビューで、① を右クリックし、希望のモード② を選択して再生モードを選択します。
2. 、。現在のイベント画像から始まって、これらのボタンは前または次のイベント画像を表示します。

特定の日時の録画の閲覧

例えば、ある時間帯の連続録画を設定していて、その時間帯のイベントをチェックしたい場合、検索をその時間帯に限定することができます。タイムリープやタイムラプス再生を使って、指定した時間帯のイベントを検索できます。

特定の日時を検索する

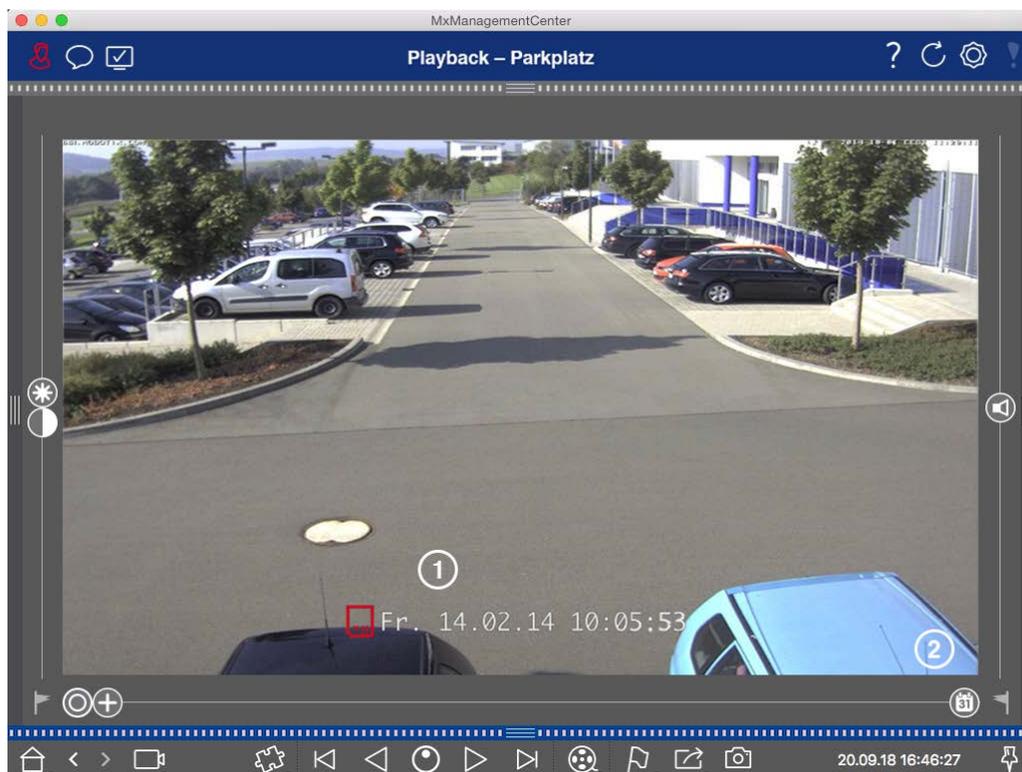


図. 130: 特定の日時を検索する

1. Date/Time① をクリックし、検索したい日付と時刻を入力する。
2. イベント画像は、指定した日時に最も近い録画中のイベントにジャンプする。
3. Playback▶ をクリックする。

または

1. カレンダー-slider② をクリックします。日時がスライダーの上に表示されます。
2. 調べたい時点に最も近い日時になるまでスライダーを動かす。イベント画像は、指定した日時の録画の中のイベントにジャンプします。そのような録画がない場合、イベント画像は指定した時点に最も近い(検索方向に) イベントにジャンプします。後者の場合、スライダーが回転し、指定した時点との時間差がスライダーの上に表示されます。
3. Playback▶ をクリックする。

注! マウスポインターをスライダーから離せば離すほど、より正確な設定が可能になります。

複数のカメラで人や物を探す

シナリオカメラAがゲートを見下ろしており、イベントを通知します。アラームバーのイベント画像には、配送トラックがゲートを通る様子が表示されています。トラックがカメラBの監視領域を通過したかどうかを知りたい。

1. そのためには、マウスポインタをイベント画像の上に移動させます。3つのアイコンが表示されます。
2.  をクリックして再生ビューモードを開きます。
3. 録音を再生する(録音終了)  。



図。131: 録音を再生する

4. カメラバーからカメラBを再生ビューにドラッグ&ドロップします。



- 再生では、カメラAの録画終了後に続く録画が自動的に選択されます②。このプロセスは、カメラの台数に関係なく続けることができます。

特定の時点における複数のカメラの調査

他のカメラが特定の時点で何かを録画したかどうかを知りたい:

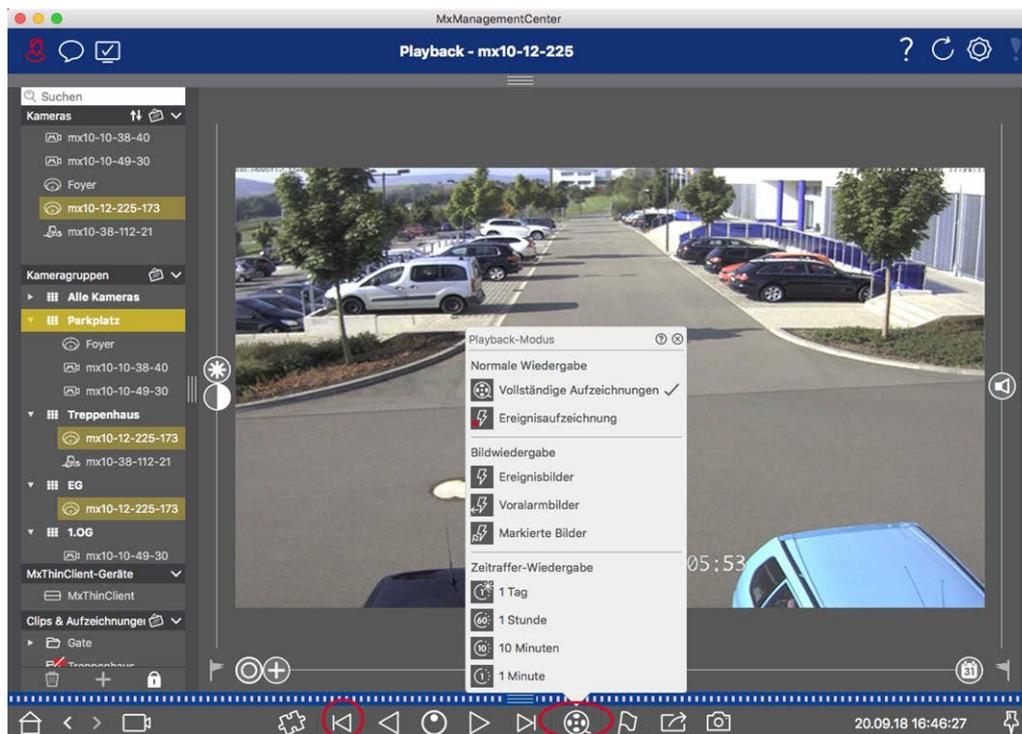


1. ピンボタン(①)を使って基準時間を設定します。
2. カメラ・バー② からカメラを1つずつドラッグします。
3. このアプリケーションは、指定した時点に最も近い各カメラのイベント画像を表示します。

インシデントの検索範囲の制限

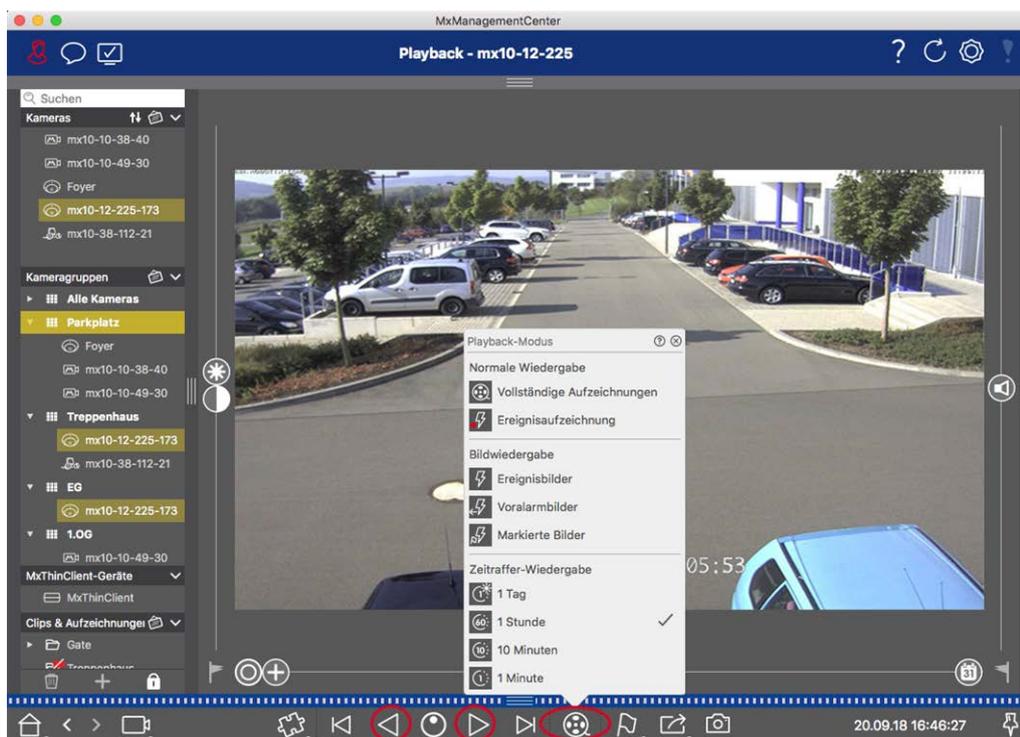
シナリオ日中に車が盗まれた駐車場をカメラが監視しています。以下の手順に従って、できるだけ早くその場所を特定してください:

1. 再生モードを開始し( を右クリック)、間隔を選択します(例:1日 )。
2. クルマが再び画像で確認できるようになるまで、「前の画像」 をクリックし続ける。



3. 今回は短い間隔を選択する(例:1時間 )。
4. 車がフレームから離れるまで、「次の画像」 をクリックし続ける。
5. 事件が起きた正確な時点を見つけるまで、短い間隔を使い続ける。

注! また、「早送り/早戻し再生」 ボタンを使用して、同じタイムリープを使用して再生することもできます。



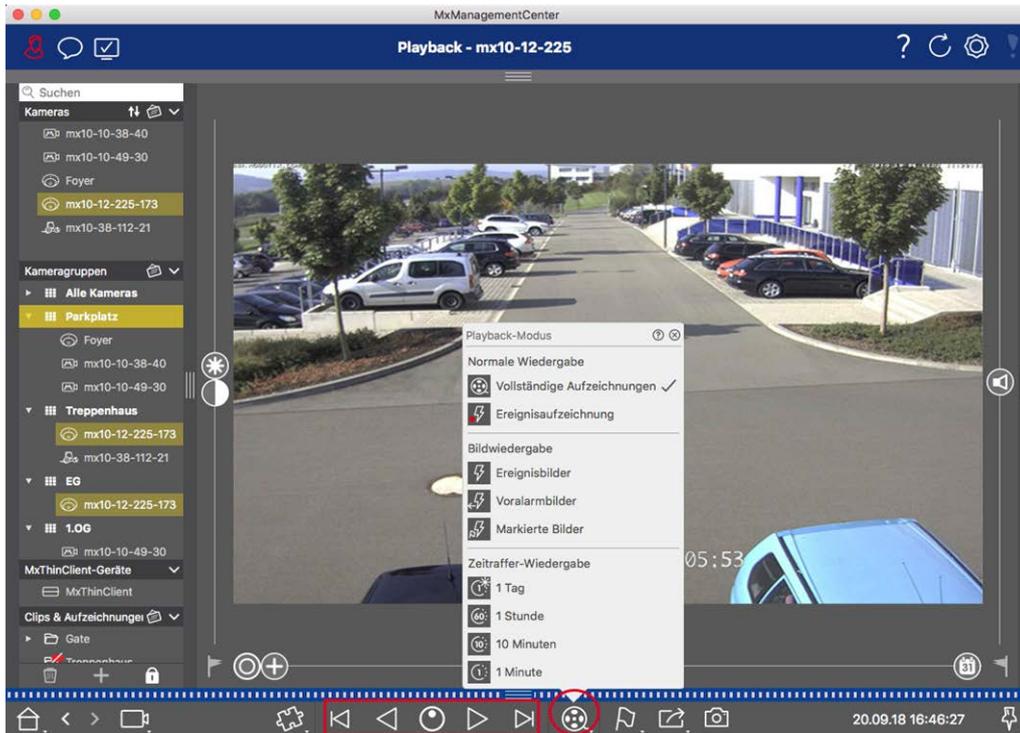
注！ この機能は、MOBOTIX MOVE カメラおよびONVIF-S/G 互換インターフェースを提供する他社製カメラではサポートされていません。カメラ機能の違いについては、「[カメラ機能の概要](#)」を参照してください。

録音の再生

クリップ再生

クリップを再生するには、再生ビューのコマンドバーにある再生ボタン(  ) と再生モードを使用します。まず、再生モードで、イベント画像のみ、または1時間のタイムラプスなど、録画の再生モードを設定します。次に、再生ボタンを使って画像をブラウズし、1枚ずつ再生する( ) か、連続的に再生する( ) 。

注！ MOBOTIX MOVE および ONVIF カメラの再生表示の一般的な操作」で述べたように、MOBOTIX MOVE カメラおよび ONVIF S 互換インターフェイスを提供するサードパーティ製カメラを使用する場合、録画の再生は制限されます。



以下の表は、再生モードに応じて再生ボタンで実行できるアクションをまとめたものです：

再生モード

再生ボタン

コンプリート・レコーディング

画像を前後に1枚ずつジャンプさせる。

すべての録音を後方/前方に再生する。

イベント録画

録音したシーケンスの終了/開始位置にジャンプする。

録音したシーケンスの開始 / 終了に達するまで再生する。

イベント画像

ボタンをクリックするたびに前後の画像を表示します。

プレアラーム画像

ハイライト画像

前後の画像は自動的に次々と表示される。

1日 タイムラプス

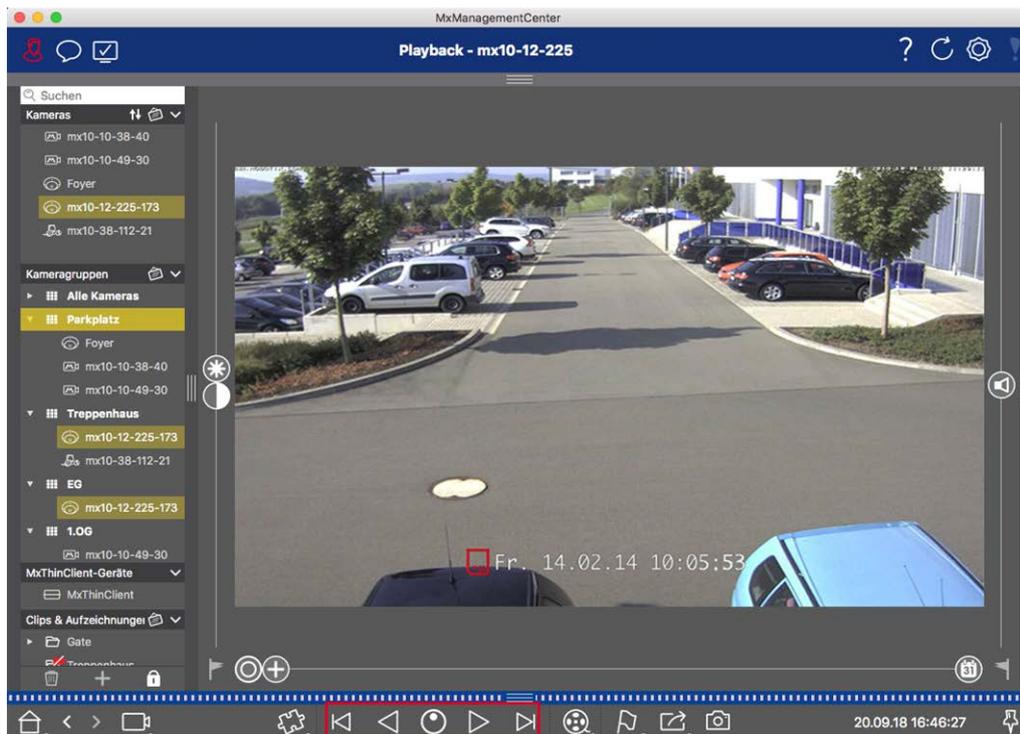
1時間 タイムラプス

10分 タイムラプス

1分 タイムラプス

再生速度の設定

再生速度オプション を使うと、録画の再生速度を速くしたり遅くしたりすることができます。これは、録音を逆再生する場合にも適用されます。



1. 再生速度をクリックします。ボタンの背景が濃いグレーに変わります。
2. 録音を順方向に再生するには、マウスの左ボタンを左クリックしたまま、マウスポインタを右に動かします。マウスポインタを下(右)に動かすほど、再生速度が速くなります。
3. 録音を逆再生するには、マウスの左ボタンを左クリックしたまま、マウスポインタを左に動かします。この場合も、マウスポインタを下(左)に動かすほど、再生速度が速くなります。

画像による正確な位置決め

シーンを詳しく調べたい場合は、録画を1枚ずつ見ることができます。そのためには、再生を停止します(▶ または◀ をクリックします)。次に、▶ (進む) と◀ (戻る) の2つのボタンを使って、画像を1つずつ移動します。

グリッド再生での検索と再生

あるカメラがイベントを登録し、その時間にそのカメラグループ内の他のカメラが録画していたかどうか、またどのような録画をしていたかを知りたい場合、グリッド再生を使用して、複数のカメラの録画を同期して表示できます。

フォーカス・ウィンドウのカメラは先頭のカメラです。そのため、イベントや特定の状況を見つけるためにこのカメラの録画を参照する場合、または録画を再生する場合、再生が一時停止されるとすぐに、他のカメラは先頭のカメラに追従します。プログラムは常に先頭のカメラのタイムスタンプに最も近いイベント画像を表示します。他のカメラの時刻が先頭のカメラの時刻と異なる場合、その差はイベント画像の下枠に表示されます。

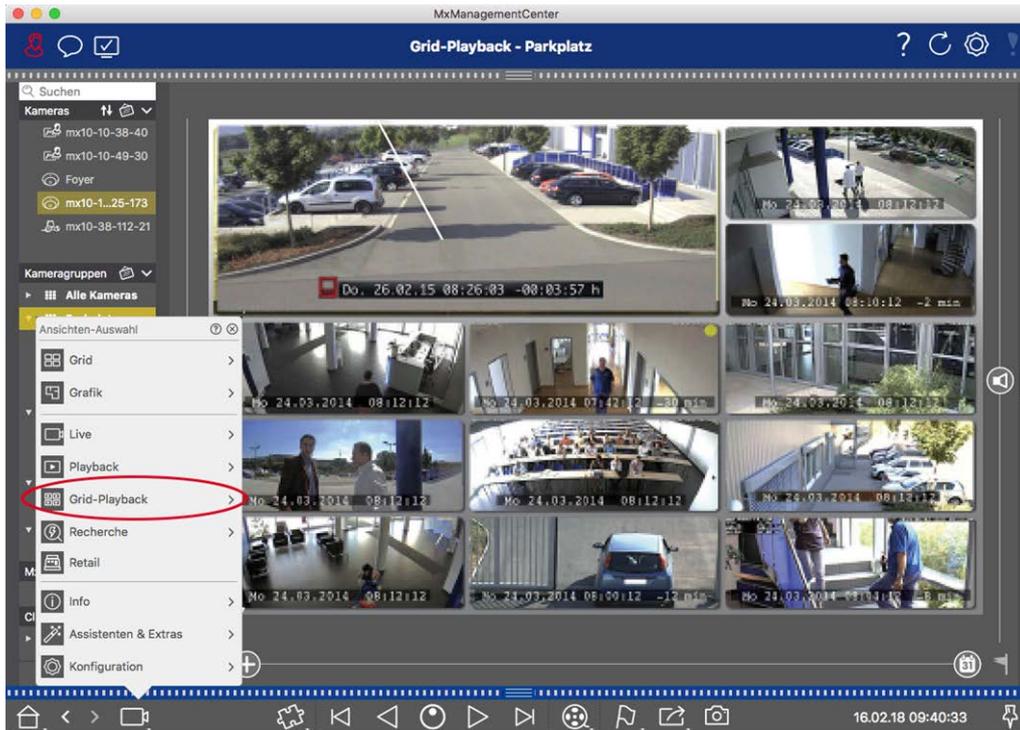


図. 132: グリッド再生

1. ナビゲーションボタンを右クリックし、グリッド再生を選択してグリッド再生を開きます。
2. グループバーから希望のカメラグループをドラッグします。



3. フォーカスウィンドウのタイムスタンプ(①)またはカレンダー-slider(②)を使って時間を設定する。
4. すべてのカメラは指定された時点に最も近いイベント画像にジャンプします。各カメラ画像の下のタイムスタンプは、画像の日付と時刻を示します。基準時刻との差は右側に表示されます。

注！ グループを再生ビューにドラッグして、グリッド再生を使用することもできます。元のカメラはフォーカス・ウィンドウに表示されます。

スマート・データ・システム

MOBOTIX スマート・データ・システムにより、MxMC の取引は、取引時に録画されたビデオとリンクさせることができます。スマートデータ検索を使えば、録画されたすべてのイベントと関連画像を検索できます。検索結果は、「重要」とマークされたイベントに絞り込むことができます。検索結果は、カメラ名、タイムスタンプ、イベント・トリガのタイプを含むリストまたはプレビュー画像として表示されます。イベント画像からイベントの録画を直接再生できます。スマート・データ検索ビューから再生ビューまたはエクスポート・ビューに簡単にアクセスできます([スマートデータ検索ビューでの検索](#), ページ 287再生を参照)。

注！ MOBOTIX スマートデータシステムをサードパーティシステム(キャッシュポイントシステムなど) に使用するには、スマートデータライセンスを購入する必要があります。P7 IoTアプリのデータにはライセンスは必要ありません。MOBOTIX IoTアプリ・インターフェースは、デフォルトでMxMC に統合されています。

注！ スマートデータ検索ビューは、MOBOTIX MOVE カメラおよびONVIF-S 互換インターフェースを提供する他社製カメラでは使用できません。カメラの機能の違いについては、以下を参照してください。 [カメラ機能の概要](#), ページ 11.

スマートデータ検索ビューでの検索

MOBOTIX スマートデータシステムを使用すると、取引データを取引時の録画ビデオにリンクすることができます。スマートデータソースには、MOBOTIX P7 Apps(ライセンス不要)、またはPOSシステムやナンバープレート認識システムなどの一般的なスマートデータソース(ライセンスが必要) を使用できます。

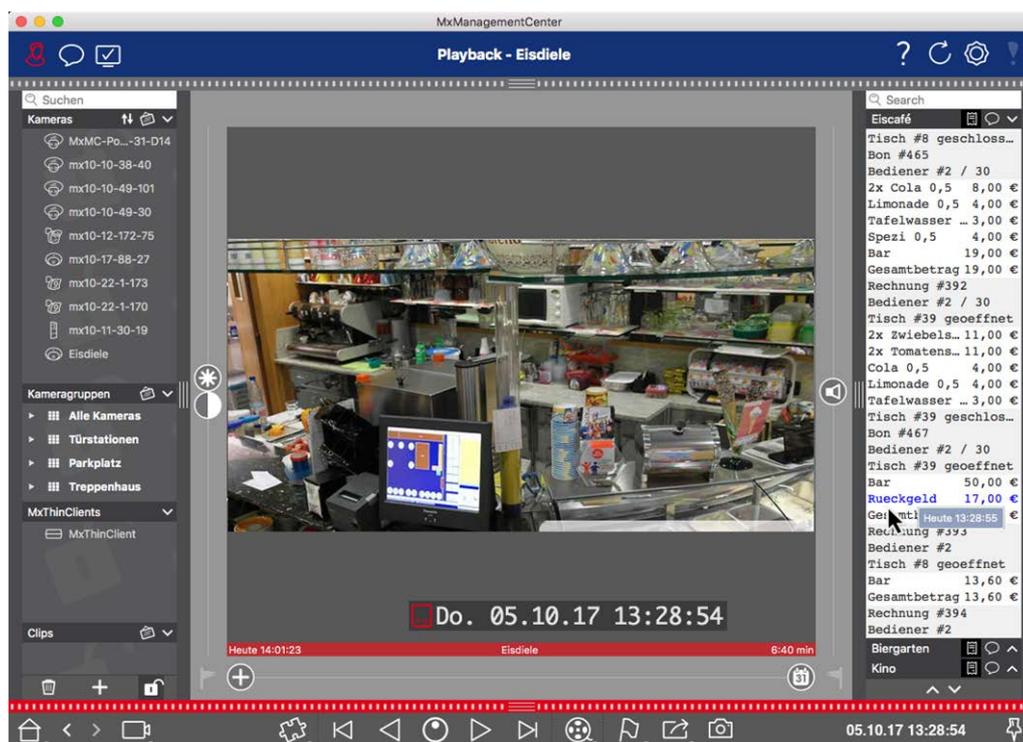
スマート・データ・システムにより、不審な取引を素早く見つけ、確認することができます。スマート・データ・バーと [スマートなデータ検索ビュー](#), ページ 34、取引の検索と分析にご利用いただけます。スマート・データ・バーでは、直近の取引(過去24時間) の概要が直接表示されるため、レビューや検索に便利です。

スマート・データ・ソースは、 [コンポーネント・ビュー](#), ページ 35追加および設定できます。

注！ スマート・データ検索は、MOBOTIX MOVEおよびONVIF-S 互換インターフェースを提供する他社製カメラでは使用できません。カメラの機能の違いについては、以下を参照してください。 [カメラ機能の概要](#), ページ 11.

スマート・データ・バーを開く

スマート・データ・バーはすべてのビューで利用できます。スマート・データ・バーを開くには、アプリケーションの右枠をクリックします。アラームバーが表示された場合は、枠線をもう一度クリックするとスマートデータバーに切り替わります。メニュー(表示 > スマートデータバー) からスマートデータバーを表示することもできます。



図。133: スマート・データ・ビュー

スマート・データ・バーでは、直近の取引(過去24時間)を直接確認することができ、レビューや検索に便利です。

スマート・データ・バーの使用

キャッシュポイントなどのスマート・データ・ソースが新しいデータをカメラに送信すると、スマート・データ・バーが自動的に更新されます。これにより、キャッシュ・ポイントとカメラの小売データのライブ監視が可能になります。トランザクションをグループ化して表示できます。

- **表示される時間範囲:** スマート・データ・バーには過去24時間のデータしか表示されません。24時間より古いデータを検索するには、[検索フィルタの定義](#), ページ 289参照してください。
- **検索機能/フィルタ機能:** 各キャッシュ・ポイントのカメラのエントリを検索語で絞り込むことができます。ヒットした項目は黄色でハイライトされます。下端の2つの矢印を使用して、次/前の検索結果にジャンプできます。
- **システム・トランザクションを表示しない:** デフォルトでは、スマート・データ・バーには対応するカメラに保存されているすべての取引が表示されます。トランザクションの一部(キャッシュ・ポイントなど)には、"合計金額"などの購入および購入に直接関連するイベントが表示されます。その他の取引では、レジ係がログオンしたときなどの管理イベントのみが表示されます。システムトランザクションの表示を有効/無効にするには、 をクリックします。

- レシートをグループ化しない(VECTRONキャッシュポイントのみ) : デフォルトでは、取引はレシート番号または購入ごとにグループ化されます。個々の売上は、キャッシュポイントがレシート番号を作成することで取引の終了を知らせる場合、グループ化することができます。カウンター売上は、カウンターがキャッシュポイントシステムで決済されている場合、カウンターごとにグループ化できます。をクリックすると、グループ別表示が無効になります。データは再読み込みされます。
- トランザクションを再生する: 取引行をダブルクリックして再生ビューを開く。取引が再生されます。

スマートデータビューでの詳細な検索と分析

スマートデータビューでは、1つまたは複数のスマートデータソースのデータを検索およびフィルタリングできます。

図。134: スマートデータビューでの検索

検索フィルタの定義

複数の検索フィルターを定義し、保存することができます。検索条件が変更されるたびに、検索クエリが自動的に保存されます。

1. メニュービューなどでスマートデータ検索ビューを開きます。
2. 検索の名前① をクリックして変更する。
3. 必要なスマート・データ・ソース② を選択する。
4. 検索の期間を指定する③ 。一連のプリセット時間ウィンドウ(「今日」を含む)に加えて、任意の開始および終了タイムスタンプを入力できる期間を入力することもできます。
5. To add another filter criteria click on  ④ .
The criteria can be linked using that all or one filter criteria must match.
 -  を選択すると、すべての条件が一致する必要があります。
 -  を選択し、定義された条件のいずれかが一致しなければならないと定義する。
6. 検索条件を削除するには、 をクリックします。
7. 追加の検索クエリを定義するには、 ⑤ をクリックし、ステップ1~5を繰り返します。
8. 検索を実行するには、⑥ をクリックします。

検索フィルタの削除

フィルタを削除するには、 をクリックしてください。

検索結果の表示

検索結果は、コマンドバー⑦ (リストビュー またはタイルビュー) から選択した表示オプションに応じて、詳細データを含むリストまたはタイルにプレビュー画像とともに表示されます。

ポストビデオ動体検知への切り替え

コマンドバーからポストビデオ動体検知を切り替えるには、ボタン  ⑦ をクリックします。

イベントの再生

インスタント再生:

タイトルビュー()では、イベントの録画をイベント画像で直接見ることができます(インスタント再生)。再生するには、マウス・ポインタを画像の上に移動します。3つのアイコンが表示されます。  、再生を開始します。

注! 再生開始後、画像内をクリックすると、現在の番組ウィンドウの全画面モードで録画が開きます。画像に「TV testpattern」のみが表示されている場合は、録画はできません。

再生ビュー:

プレイバック・ビューで録画を再生することもできます。再生するには、イベント画像の上にマウスポインタを移動します。  、プレイバック・ビューに切り替えます。

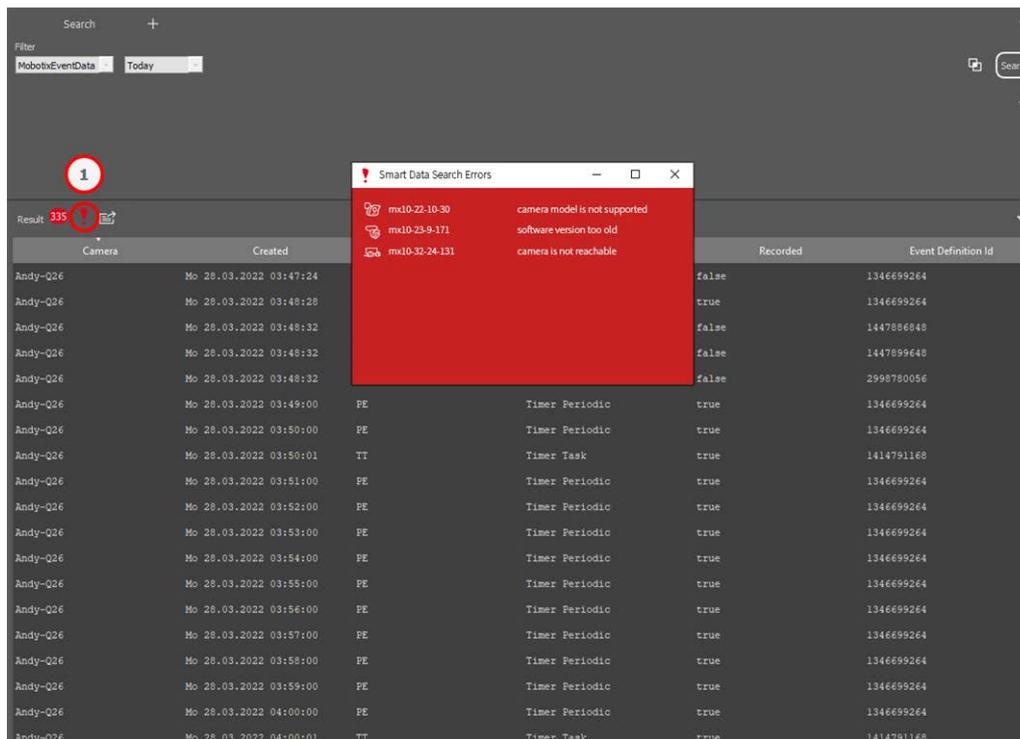
マーキング・イベント

タイトルビュー でイベント画像をブラウズする場合、画像を右クリックして、そのイベントを "重要" としてマークすることができます。同じことが、プレイバック・ビューまたはアラーム・バーで "重要"  としてマークしたイベントにも適用されます: スマート・データ検索ビューでコレクションとして表示できます。

エラー処理

感嘆符 ① が結果リストバーに表示されます。このマークが赤色の場合、エラーが発生しています。感嘆符をクリックすると、それぞれのカメラと関連するエラーのリストが表示されるウィンドウが開きます。表示されるエラーは以下のとおりです:

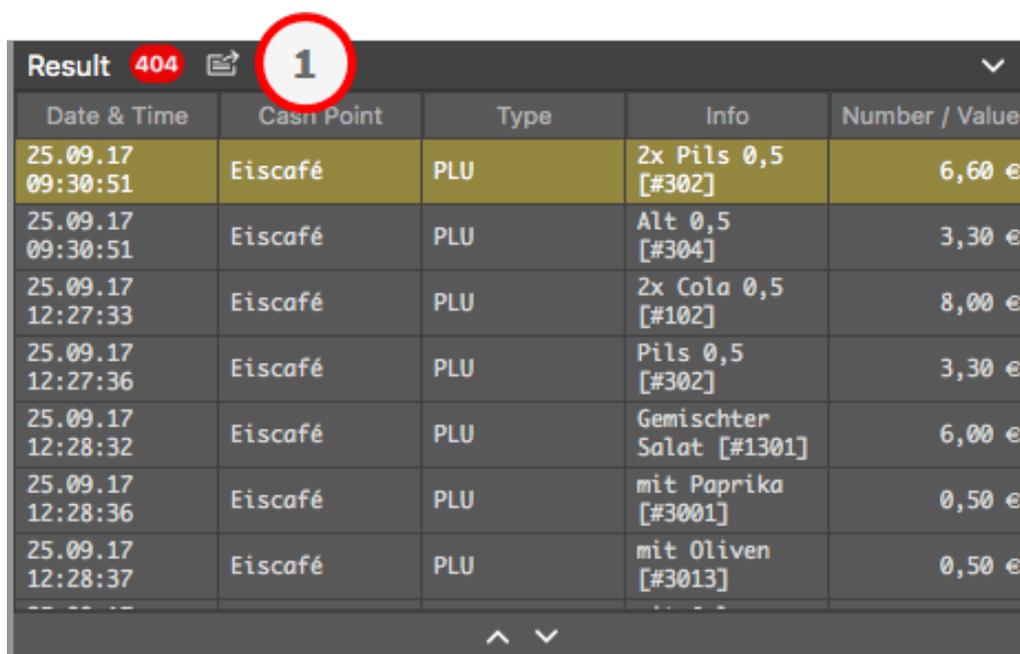
- 一般通信エラー
- ソフトウェアのバージョンが古すぎる
- カメラのモデルはサポートされていません
- カメラに届かない



図。135: スマート・データ・サーチのエラー処理

検索結果のCSVファイル出力

例えば、外部アプリケーションでさらに調査したり、スマートデータ検索の結果をCSVファイルとしてエクスポートすることができます。



図。136: スマートデータ検索結果のエクスポート

1. **エクスポートアイコン**① をクリックします。
2. 必要に応じて、ファイル名とエクスポート ディレクトリを変更してください。
3. **保存**をクリックする。

ヒストグラム・バー

ヒストグラムは**イベント頻度の分布**を示すため、1台または複数のカメラのイベントの概要を素早く把握できます。

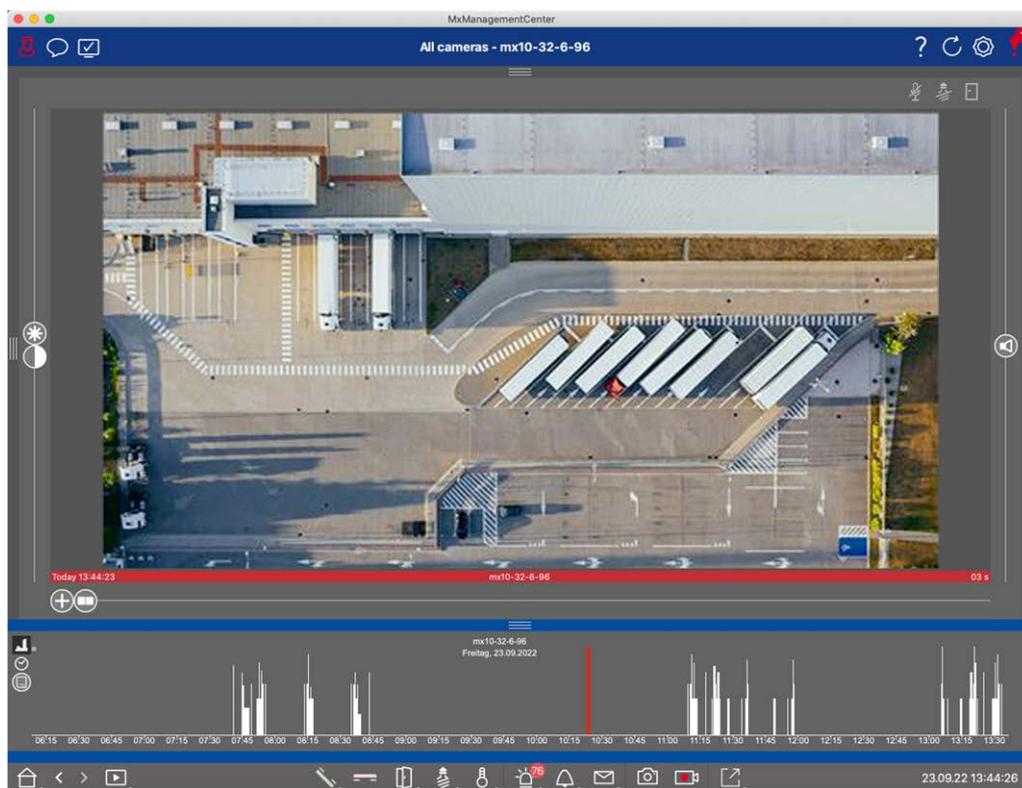


図. 137: ヒストグラム・バー

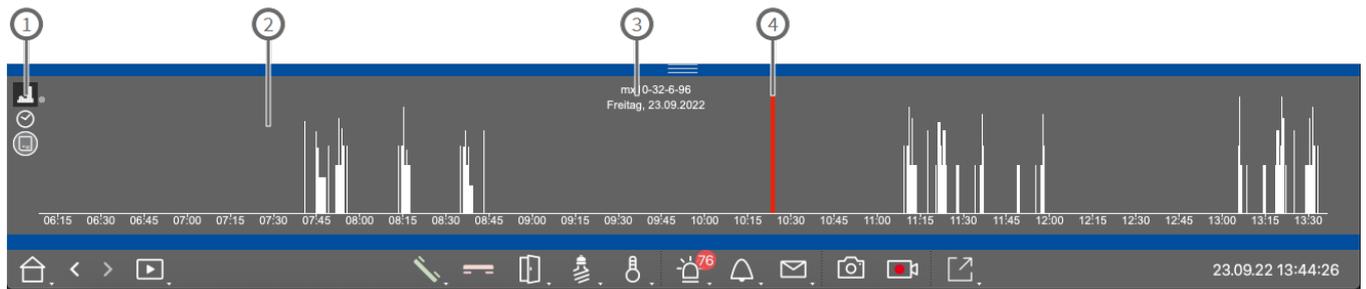
ヒストグラム・バーには、選択したソースと選択した時間範囲のイベントが表示されます。

注! ログに記録されるイベントの範囲は、録画よりもさかのぼることができる。

ヒストグラムバーを開く

ヒストグラム・バーを開くには、[メニュー表示] - [ヒストグラム・バー]を選択するか、MxMC の下端にある青いリボンを上ドラッグします。はじめに、ヒストグラムは常にカメラによって記録されたイベントの全範囲を表示します。

ヒストグラムを使う



図。138: ヒストグラム・バーの詳細

ヒストグラム要素

- ①: ズーム領域の解像度(高 / 低)、 ヒストグラムのズーム範囲を設定、 イベントフィルターの選択。
- ②: イベントエリア
- ③: 時間範囲と選択したカメラ/グループ
- ④: 選択されたイベント

イベント頻度に関する洗練された見解

をクリックすると、ズームされた領域の詳細な解像度に切り替わります。

バーの長さは、時間単位あたりのログされたイベントの頻度を示す。表示が高解像度に切り替わります。

特定の時点に関するより詳細な情報は、ズーム領域または概要領域で関連するスポットをクリックします。イベント上にマウス・ポイントを移動すると、ツール・チップに詳細情報が表示されます。

再生ビューでは、現在位置を示す赤いマーカも表示されます。

表示時間範囲

をクリックして、表示される時間範囲を設定します(例: 1日または6ヶ月)。カスタム時間範囲を定義するには、ヒストグラム・バー上でマウスホイールをスクロールします。

プレイバックでは、イベントをクリックすると、そのイベントや最も近い録画にジャンプすることができます。

イベントフィルター

をクリックして、イベントフィルターを選択する。

- Select event filter ⓧ
-  MxActivitySensor
 -  Video Motion
 -  Behavioral Detection
 -  Shock Detector
 -  Illumination
 -  Microphone
 -  Passive Infrared Detector
 -  Temperature
 -  Internal Events
 -  Message Events ✓
 -  Meta Events
 -  Signal Events
 -  Time Events
 -  Ringing

これらのイベントを選択することができる:

- MxActivitySensor イベント
- ビデオ・モーション・イベント
- 行動検出イベント
- 衝撃検知イベント
- イルミネーション・イベント
- マイクイベント
- パッシブ赤外線検出器のイベント
- 温度イベント
- 内部イベント
- メッセージイベント
- メタイベント
- 信号イベント
- 時間イベント
- イベント
- メールボックス・メッセージ イベント
- ドアステーションのイベント
- RFID拒否 イベント
- ピン却下 イベント
- サーマルイベント
- すべてのイベントタイプ(デフォルト)

ポストビデオ動体検知(ポストVM)による検索

ポスト・ビデオ動体検出では、カメラの1つまたは複数の画像領域の変化について録画を検索できます。この機能はスマート検索オプションとして統合されています。レガシーバージョン機能も利用できます。

- [ポストビデオ動体検知\(ポストVM\)](#) , ページ 296
- [ポストビデオ動体検知\(ポストVM\) -レガシー](#) , ページ 300

ポストビデオ動体検知 (ポスト VM)

ポスト・ビデオ動体検知では、カメラの1つまたは複数の画像領域の変化について録画を検索することができる。これは "モーション・ウィンドウ" の助けを借りて行われる。

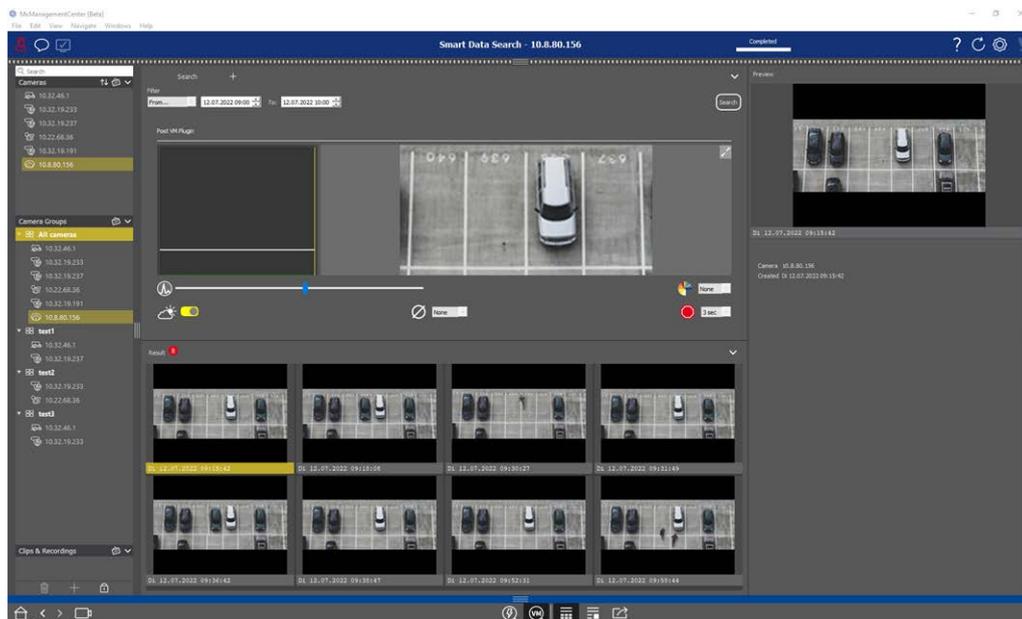
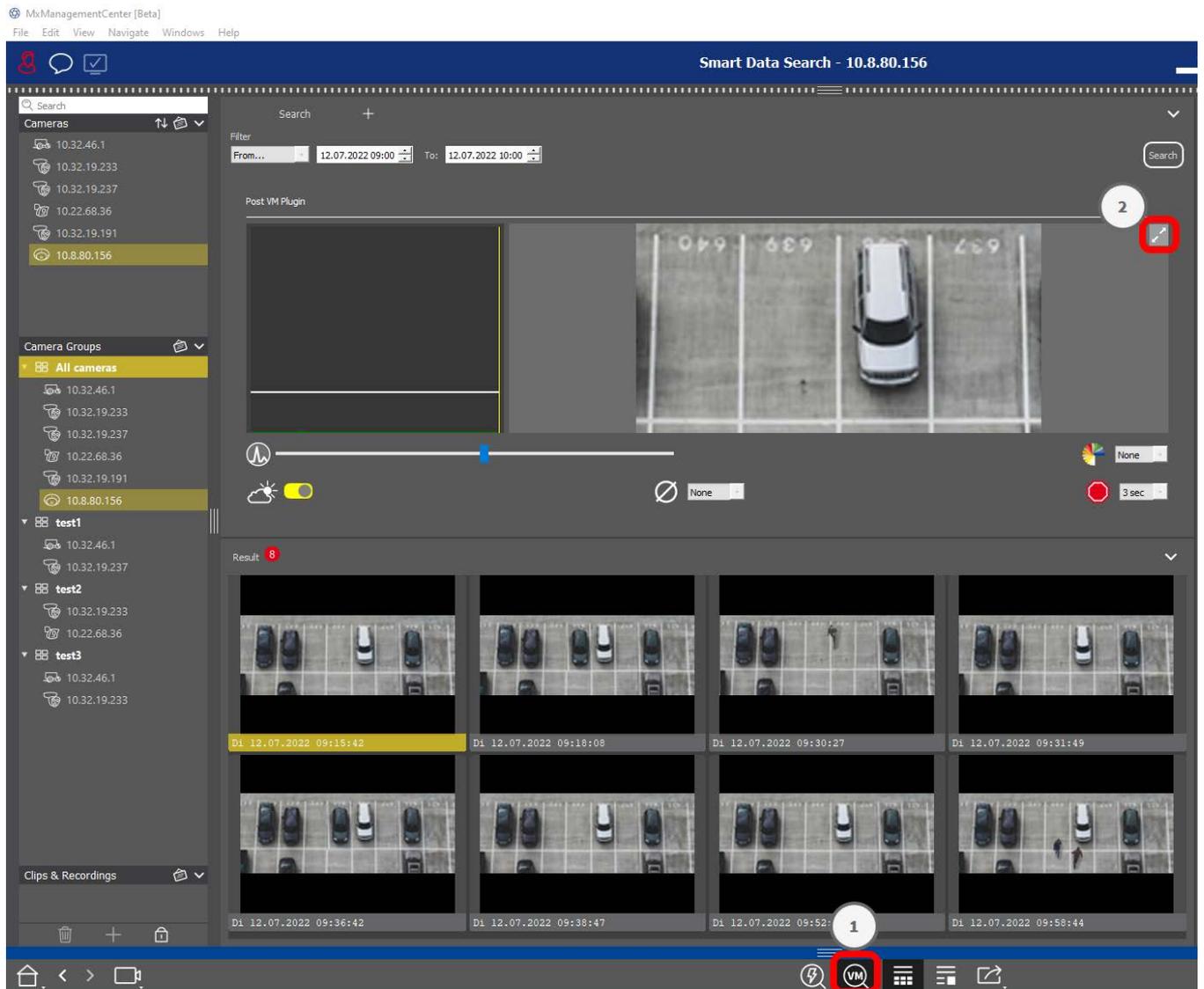


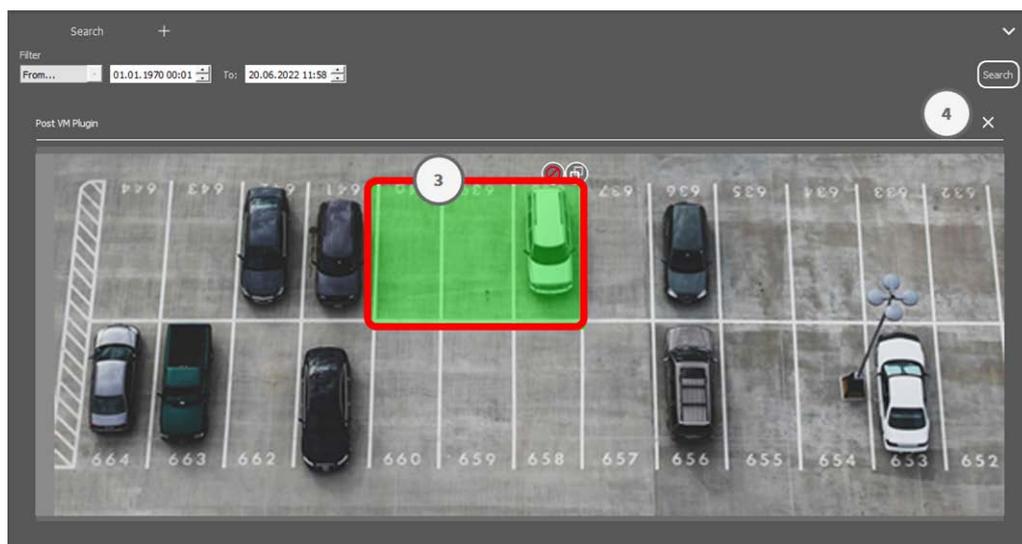
図. 139: 統合ポストビデオ動体検知

オープニング・ポスト・ビデオ動体検知



1. メニュービューなどでスマートデータサーチビューを開く。
2. コマンドバーでボタン  ① をクリックする。

モーショントウの作成

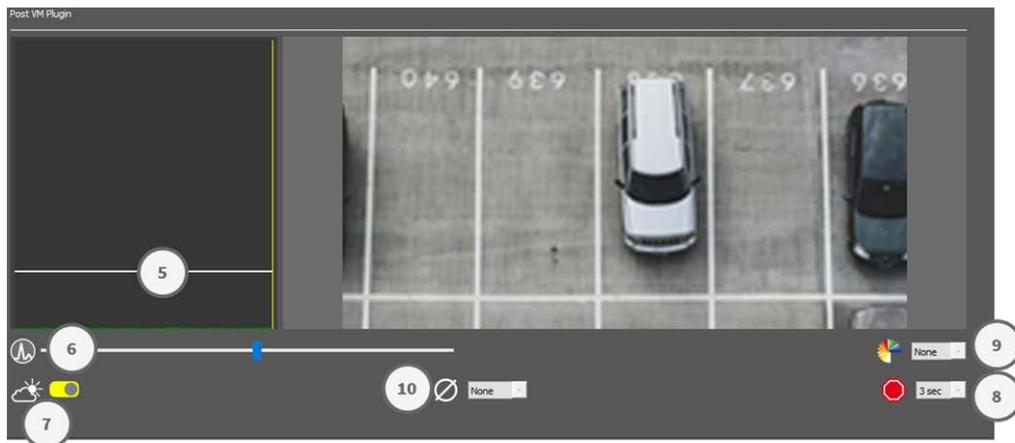


図。140: モーショントウの作成

1. 設定ダイアログの右側の画像領域の右上にある  ② をクリックします。事前に設定されたビデオモーショントウ③、選択したカメラの画像が表示されます。
2. 以下のコマンドを実行できる:
 - ビデオモーショントウのサイズを変更します: ウィンドウの側面またはコーナーを移動します。
 - 追加のビデオモーショントウを作成します: マウスで新しいウィンドウを描画します。
 - ビデオモーショントウを複製します:  をクリックしてください。
 - ビデオモーショントウを削除する:  をクリックしてください。
 - ビデオモーショントウを無効にする:  をクリックしてください。
3. エディター・ウィンドウを閉じるには、ウィンドウの右上にある  ④ をクリックしてください。

トリガー条件の設定

Post VMウィンドウには、動体検知結果に影響を与えるさまざまなパラメータを設定するためのオプションが用意されています。

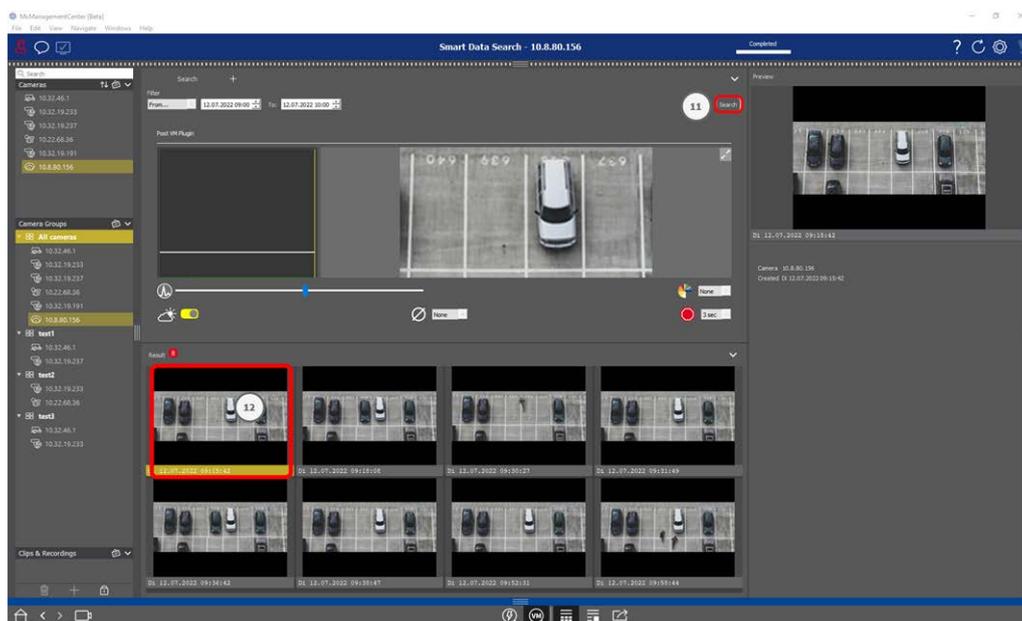


図。141: トリガー条件の設定

- **トリガーレベル:**(図の白いバー⑤)
ビデオモーションウィンドウのトリガーしきい値を制御します。バーを下に動かすと、1つの画像から次の画像へ数ピクセルしか変化していない場合に動きを認識します。バーを上を動かすと、多くのピクセルが変化した場合のみ動きを認識します。
- **Sensitivity:**⑥
この設定は、ビデオモーションウィンドウ内の各ピクセルの変化が、動きとしてカウントされるために必要な大きさを制御します。低いしきい値と一緒に、この設定を使用して、ビデオ動きの検出を微調整することができます。スライダを右に動かすと、検出感度が上がり、より小さな変化でも検出されるようになります。
- **照明の変化を補正する:**⑦
このオプションを有効にすると、照明条件が急激に変化した場合(例えば、太陽から曇り空)などに、誤ったアラームが発せられるのを防ぐことができます。
- **Deadtime:**⑧
ビデオモーションウィンドウのピクセル変化が無視される、最後に検出されたポストビデオモーションイベント後の時間を設定します。
- **Median Value:**⑨
長い継続時間(例えば2.0秒)を入力して、遅い動きの検出を向上させる。

高すぎる値を設定すると、プレビュー・ウィンドウでスミアが発生することがある。
- **Color Filter:**⑩
モーション検出を特定の範囲または色に制限する色を選択します。ポストビデオ動体検出中にこの色が変わると、ポストVMイベントがトリガーされます。

ビデオ・モーション・ウィンドウの変化を検索する



ビデオモーションウィンドウを定義し、トリガ条件を設定したら、ビデオモーションウィンドウの変化を録画から検索できます。

1. 検索⑪ をクリックする。

注！ 検索実行中は、「検索」ボタンが「キャンセル」ボタンに変わり、検索を停止 / キャンセルできる。

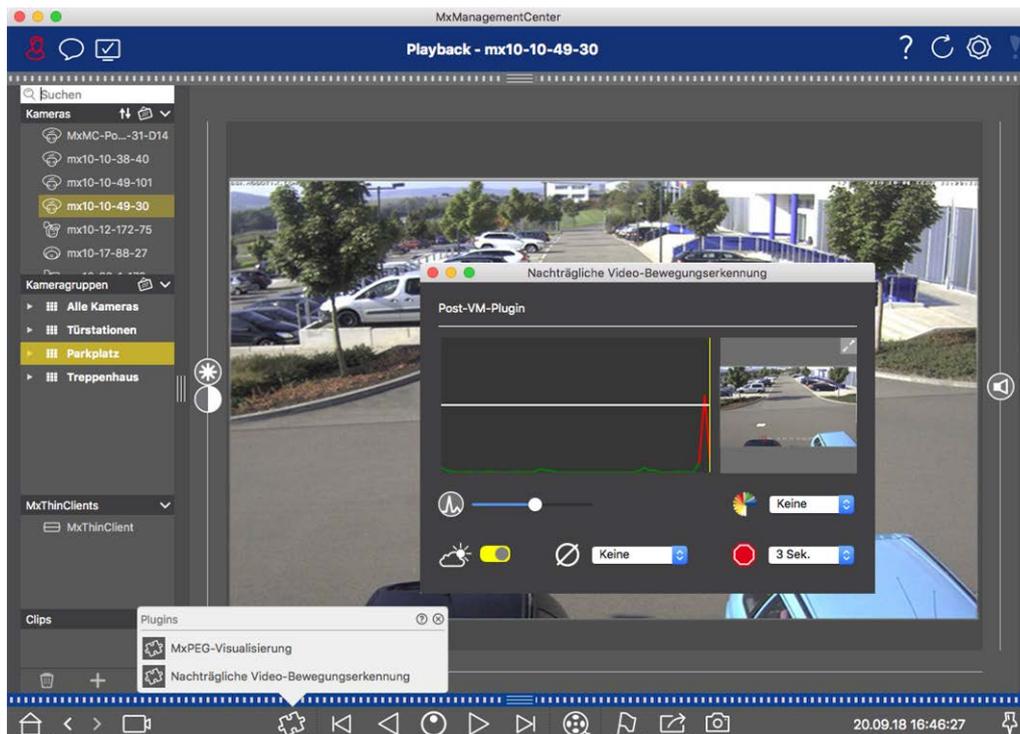
2. 検索結果の画像⑫ をクリックすると、右上隅⑬ にプレビュー画像が表示されます。

ポストビデオ動体検知 (ポストVM) -レガシー

ポスト・ビデオ動体検知では、カメラの1つまたは複数の画像領域の変化について録画を検索することができます。これは "モーション・ウィンドウ" の助けを借りて行われる。

モーションウィンドウの作成

1.  を右クリックして、プラグインのコンテキストメニューを開きます。**Post Video Motion detection**を選択します。ポストVM設定のダイアログが開きます。



図。 142: モーションウィンドウの作成

2. 設定ダイアログの右側にある画像エリアの  をクリックします。定義済みのビデオモーションウィンドウが開きます。
3. 以下のコマンドを実行できる:
 - ビデオモーションウィンドウのサイズを変更します: ウィンドウの側面またはコーナーを移動します。
 - 追加のビデオモーションウィンドウを作成します: マウスで新しいウィンドウを描画します。
 - ビデオモーションウィンドウを複製します:  をクリックしてください。
 - ビデオモーションウィンドウを削除する:  をクリックしてください。
 - ビデオモーションウィンドウを無効にする:  をクリックしてください。

To close the editor window, click on  in the top right corner of the window.

トリガー条件の設定

Post VMウィンドウには、動体検知結果に影響を与えるさまざまなパラメータを設定するためのオプションが用意されています。



図. 143: トリガー条件の設定

- **トリガーレベル:** (図中の白いバー)
ビデオモーションウィンドウのトリガーしきい値を制御します。バーを下に動かすと、1つの画像から次の画像へ数ピクセルしか変化していない場合に動きを認識します。バーを上動かすと、多くのピクセルが変化した場合のみ動きを認識します。
- **感度:**
この設定は、ビデオモーションウィンドウ内の各ピクセルの変化が、動きとしてカウントされるために必要な大きさを制御します。低いしきい値と共に、この設定はビデオモーション検出を微調整するために使用することができます。スライダを右に動かすと検出感度が上がり、より小さな変化でも検出されるようになります。
- **照明の変化を修正します:**
このオプションを有効にすると、照明条件が急激に変化した場合(例えば、太陽から曇り空)などに誤報が発生するのを防ぐことができます。
- **デッドタイム:**
これは、最後に検出されたポストビデオモーションイベントの後、ビデオモーションウィンドウ内のピクセル変化が無視される時間を設定します。
- **中央値:**

注: 高すぎる値を設定すると、プレビュー・ウィンドウでスミアが発生することがあります。

■  カラーフィルター:

動体検知を特定の範囲または色に制限するために色を選択します。ポストビデオ動体検出中にこの色
が変化すると、ポストVMイベントがトリガされます。

ビデオ・モーション・ウィンドウの変化を検索する

ビデオモーションウィンドウを定義し、トリガ条件を設定したら、ビデオモーションウィンドウの変化を録画から検索
できます。下部のコマンドバーにある再生ボタンを使用します。

連続録画を検索する場合は、[戻る/進む] 再生ボタン を使用するのが最適です。イベント画像の検索
には、前/次画像 ボタンを使用します。MxMC が動画モーション・ウィンドウ内の変化を検出すると、その
ウィンドウのフレームが赤色に変わり、検索が停止します。

バックドア・イベントの検索と再生

ドア・ステーション固有のイベントや録画は、他のイベントや録画と同様に、MxMC で検索および再生できます。
ただし、若干の違いがありますので、詳しくは後述します。

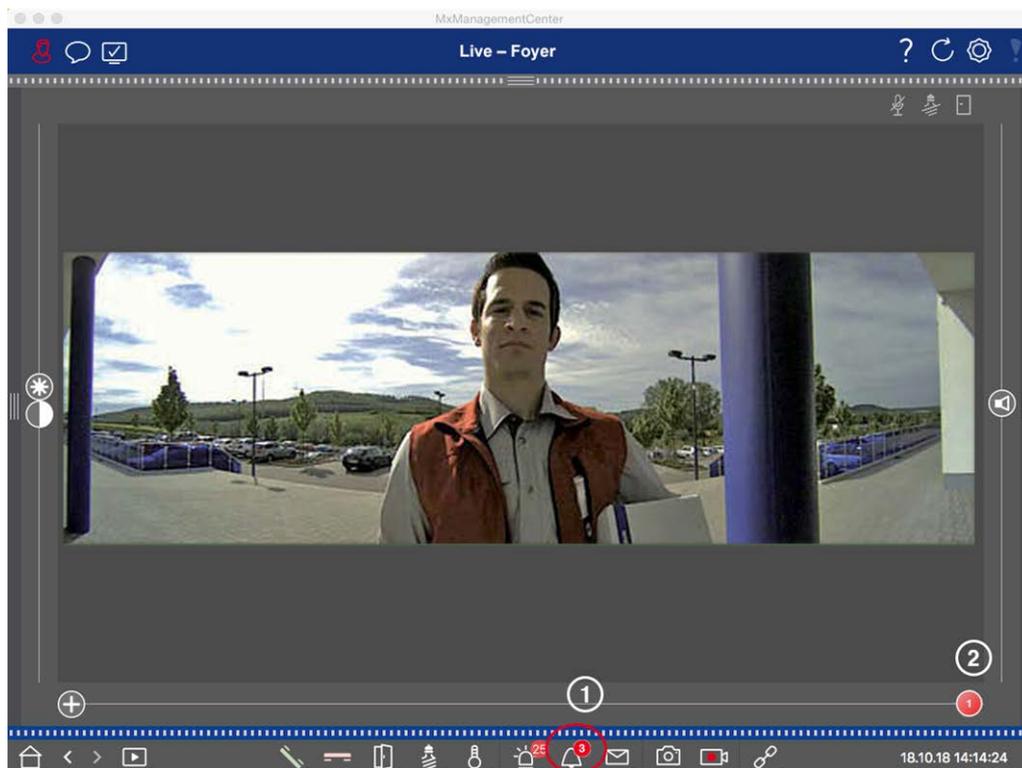
注! ドア・ステーションの機能は、MOBOTIX MOVE カメラおよびONVIF-S/G 互換インターフェースを提供する他
社製カメラではサポートされていません。カメラ機能の違いについては、「[カメラ機能の概要](#)」を参照してくださ
い。

ドアベル録画の視聴と再生

ベル設定

不在時に訪問者が鳴動していた場合は、ライブビューのベル設定  ① の近くにあるカウンターをチェックするこ
とで確認できます。

注! カウンターに表示される数値は、アラームバーで設定されたフィルター設定によって異なります。



1.  をクリックすると、誰が鳴ったか確認できます。ライブ画像の代わりに、最後にベルが鳴ったときのイベント画像が表示され、マルチスライダー②の右側に「1」と書かれた赤いスライダーが表示されます。
2. 複数のドアベルが記録されている場合は、赤いスライダーをクリックし、スライダーに次の数字が表示されるまで左にドラッグします。同時に、イベント画像も前のベル作動の画像に変わります。
3. それぞれのドアベル録音を再生するには、 を再度クリックします。ビューが再生ビューに切り替わります。
 をクリックします。録画が再生されます。

アラームバー

ベルが作動しなかった場合、緑色のアラームバーが表示されます。これは、カメラ設定ダイアログで対応するカメラのアラームオプションが有効で、ベルイベントがアラームのトリガイベントとして選択されている場合にのみ発生します。アラームバーが開くと、イベント画像の下に緑色のバーが表示され、ベルが作動しなかったことを示します。インスタント再生機能を使用すると、アラームバーでベルが鳴らなかったときの録画を直接見ることができます。

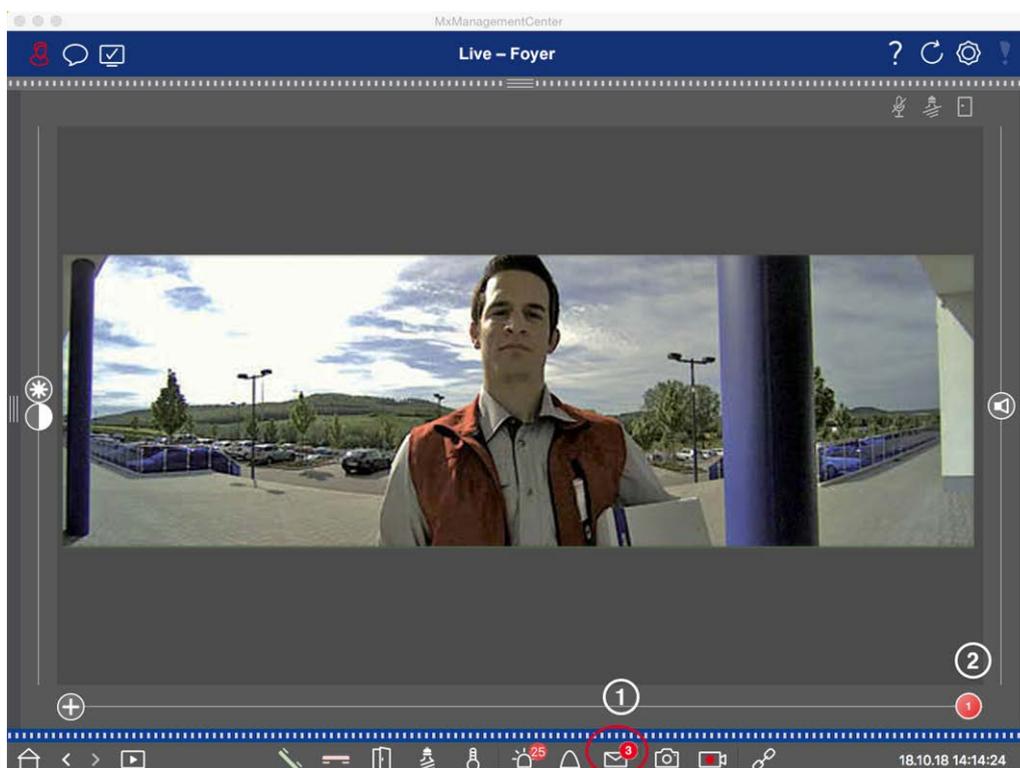


1. そのためには、イベント画像の上にマウスポインタを移動させます。3つのアイコンが表示されます。▶ をクリックします。アラームバーで録画が直接再生されます。
2. アラームバーから再生ビューの録画に直接ジャンプし、検索せずに再生することもできます。これを行うには、もう一度マウスポインタをイベント画像の上に移動し、◻ をクリックします。

ボイスメールボックスメッセージを見る・聞く

ボイスメールボックスメッセージ

不在時に訪問者がメッセージを残した場合、ライブビューのボイスメールボックスメッセージ  ① の横にカウンターが表示されます。



1. 誰がメッセージを残したかを見るには、 をクリックしてください。ライブ画像の代わりに、最後のメッセージのイベント画像が表示され、マルチスライダー② の右側に「1」と書かれた赤いスライダーが表示されます。
2. メッセージが複数ある場合は、赤いスライダーをクリックし、スライダーに次の数字が表示されるまで左にドラッグしてください。同時に、イベント画像も前のメッセージの画像に変わります。
3. それぞれのメッセージを再生して聞くには、 を再度クリックします。ビューが再生ビューに切り替わります。
 をクリックします。録音が再生されます。

アラームバー

また、ボイスメールボックスメッセージはアラームバーで赤く点灯して通知され、新しいイベント画像には  アイコンが表示されます。これは、カメラ設定ダイアログで対応するカメラの**アラームオプション**が有効になっていて、ボイ

スメールボックスメッセージがアラームのトリガイベントとして選択されている場合にのみ発生します。メッセージを再生するには、イベント画像の上にマウスポインタを移動します。つのアイコンが表示されます。▶ をクリックします。メッセージはアラームバーで直接再生されます([アラームバー](#), ページ 54 参照)。

バックドア・イベントの検索と再生

すべてのイベントと同様に、ドア固有のイベント(無効な暗証番号でドアを開けようとしたなど)も検索および再生できます。再生および検索オプション・オプションは以下で利用できます:

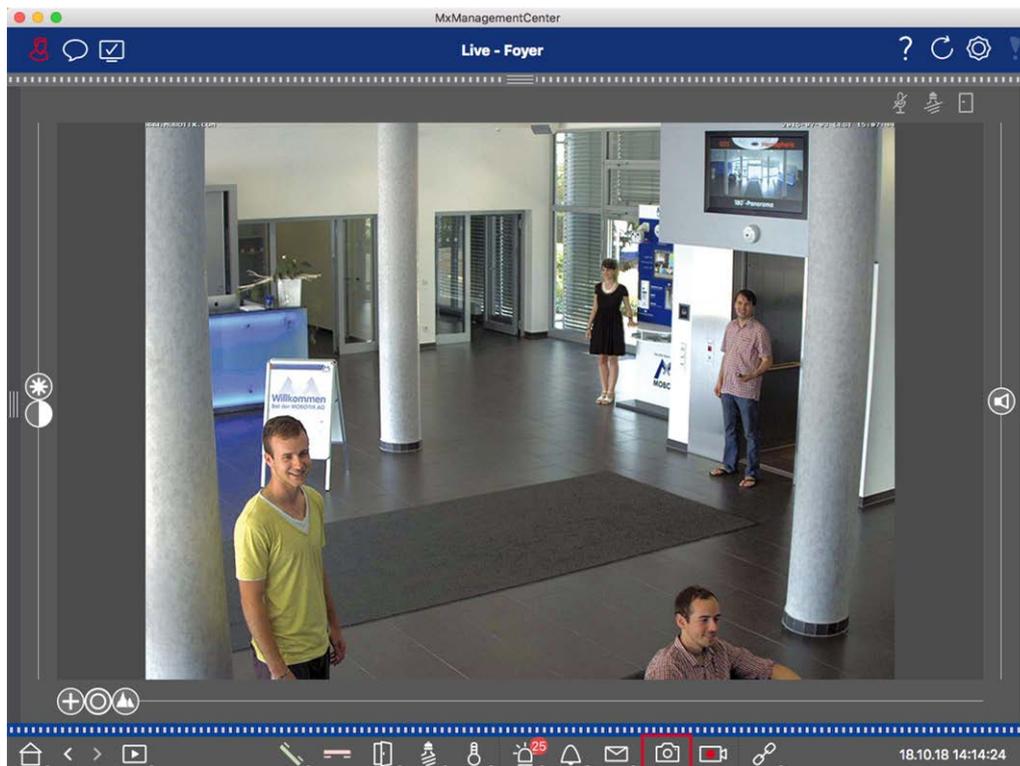
- [再生ビューでの検索と再生](#), ページ 273
- [グリッド再生での検索と再生](#), ページ 285
- [スマートデータ検索ビューでの検索](#), ページ 287

録音のエクスポート

再生ビューを使用すると、1台のカメラから録画したビデオデータをエクスポートでき、グリッド再生では複数のカメラから一度にエクスポートできます。エクスポート・バーを使用して、複数のクリップを1つのエクスポートにまとめます。スナップショット機能を使用して、個々の画像を保存できます。

スナップショット画像の保存

スナップショット画像は、表示されているカメラのライブ表示と再生表示、および表示されているすべてのカメラのグリッド表示とグリッド再生で作成できます。



図。144: スナップショット画像の保存

これを行うには、コマンドバーのスナップショット  ボタンをクリックします。デフォルトでは、画像はユーザ・アカウントの画像フォルダに保存されます。保存先のパスおよび保存画像の設定は、**MxManagementCenter > 設定 > スナップショット画像 (Mac)** または **ファイル > 設定 > スナップショット画像 (Windows)** メニュー項目で選択できます。

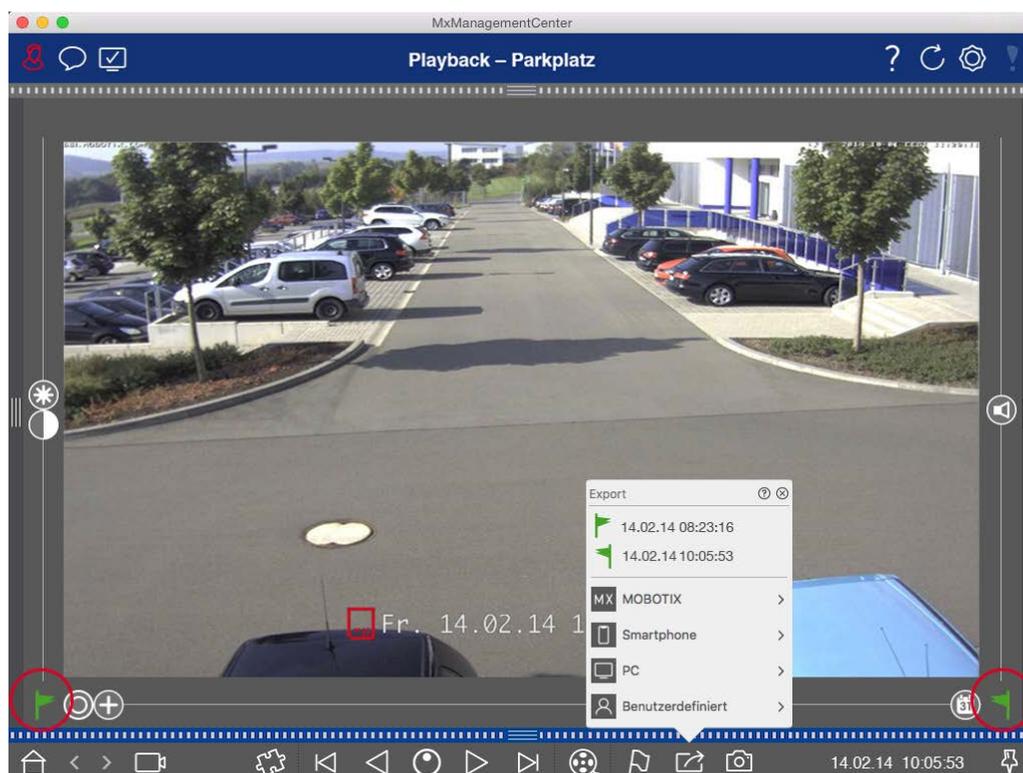
カメラ録画のエクスポート

プレイバック・ビューでは、録画 (イベント録画または連続録画) の時間範囲を設定して、エクスポート用に選択することができます。

1. プレイバック・ビューを開く。
2. カメラバーまたはデバイスバーから目的のカメラをドラッグします。
3. 該当する録音の開始部分を探す。
4. エクスポート範囲を指定します。このエクスポートには2つの可能性があります：

ビジュアルマーカーを使用してエクスポート範囲を選択します：

1. 左の  にあるグレーの旗をクリックしてクリップの開始をマークします。
2. エクスポートしたいクリップの終わりまで録音を再生します。右側のグレーの旗をクリックして、クリップの終わりをマークします。両方の旗が緑色になります。
3. **Export** をクリックし、エクスポート・プロファイルを選択する。

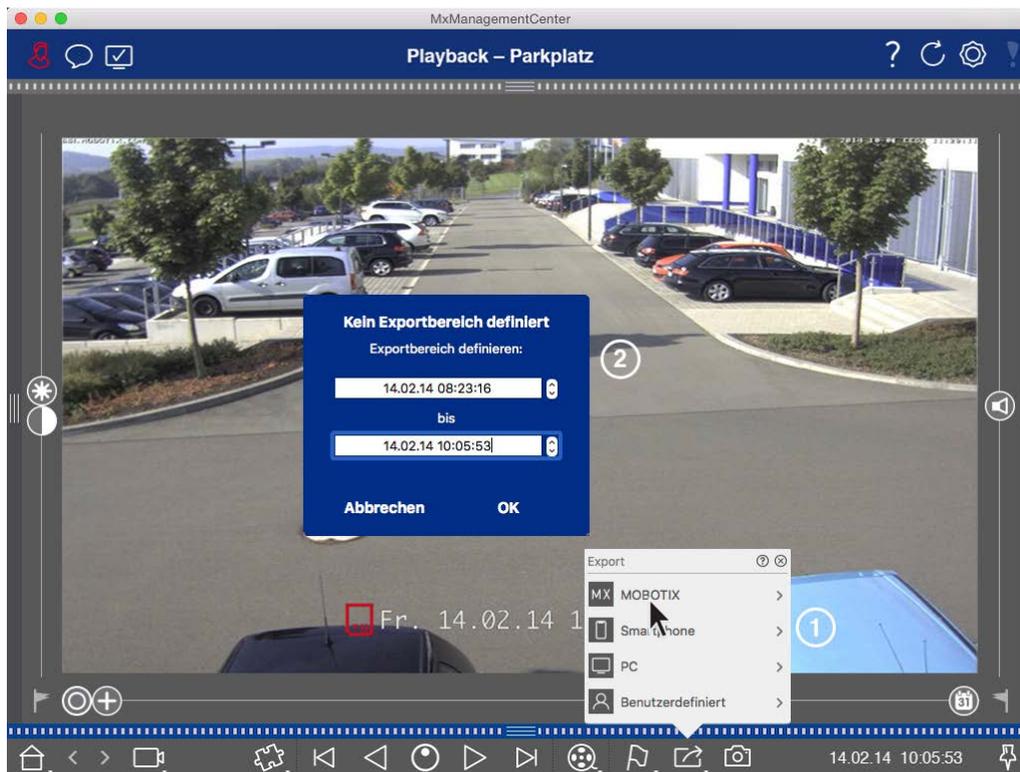


4. エクスポート・ダイアログ・ボックスが表示されます。エクスポート先のフォルダを選択し、ファイル名を入力します。

手動でエクスポート範囲をキャプチャします：

まず、"エクスポート・フラグ"を使って、エクスポート・エリアがまだ設定されていないことを確認する。すでにエクスポート・エリアが定義されている場合は、それを削除することができます。フラグを右クリックし、"**Delete Time Range**"を選択します。

1. **エクスポート**  をクリックします。次に、目的のエクスポート・プロファイル① をクリックします。エクスポート範囲を定義するためのダイアログ・ボックスが表示されます。



2. 輸出範囲の指定②.
3. **OK**をクリックし、**[保存]**をクリックします。

注! エクスポート ダイアログで **Automatically Import After Export** チェックボックスを選択すると、エクスポートされたクリップは自動的にカメラバーとデバイスバーの **Clips & Recordings** セクションに追加されます。

カメラグループ録画のエクスポート

グリッド再生では、録画(イベントまたは連続録画) の時間範囲を設定して、複数のカメラからエクスポートするために選択することができます。

1. グリッド再生を開く。
2. グループバーまたはデバイスバーから目的のカメラグループをドラッグ&ドロップします。
3. フォーカス・ウィンドウ内のカメラの関連する録画の開始を検索します。同時に、検索はグループ内の他のカメラにも拡張され、フォーカス・ウィンドウの録画に最も近い関連性のある録画がタイルに表示されます。
4. エクスポート範囲を指定します。このエクスポートには2つの可能性があります：

ビジュアルマーカを使用してエクスポート範囲を選択します：

1. 左の  にあるグレーの旗をクリックしてクリップの開始をマークします。
2. エクスポートしたいクリップの終わりまで録音を再生します。右側のグレーの旗をクリックして、クリップの終わりをマークします。両方の旗が緑色になります。

- このグループのすべてのカメラをエクスポートする代わりに、1台または複数のカメラを選択してエクスポートすることもできます。を右クリックします。左上隅のカメラ画像に円が表示されます。対応する円をクリックして、必要なカメラを選択します(①)。
- 次に、エクスポート()をクリックし、エクスポート・プロファイル(②)を選択します。エクスポート・ダイアログ・ボックスが表示されます。

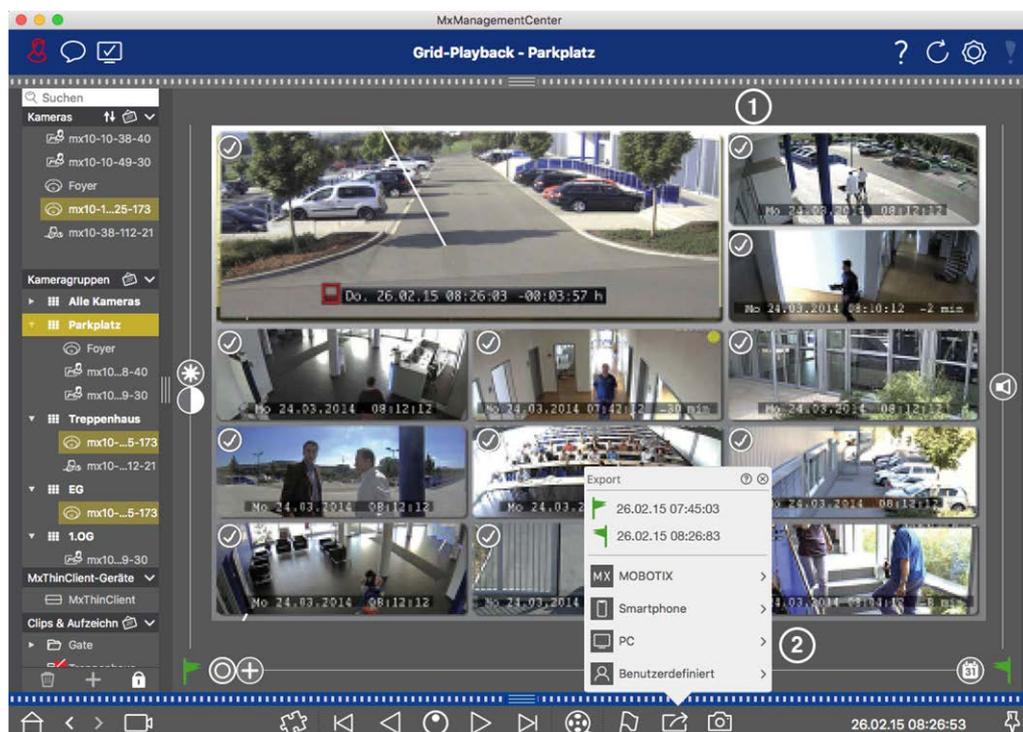


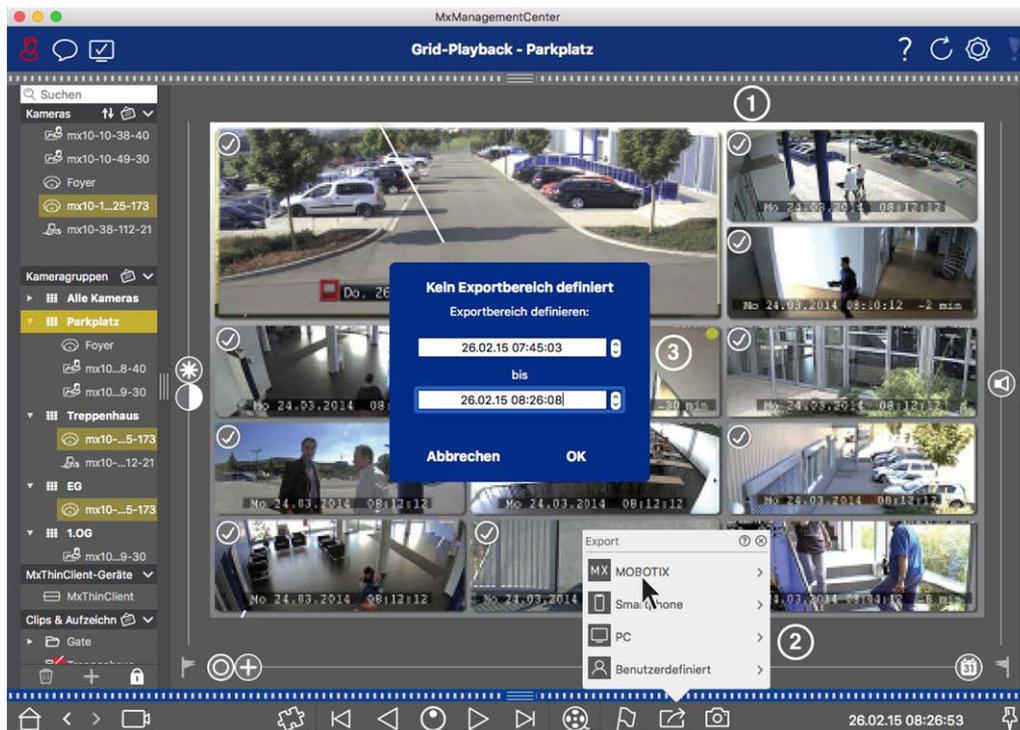
図. 145: ビジュアルマーカで輸出範囲を選択

- ターゲットフォルダを選択し、ファイル名を入力します。

手動でエクスポート範囲をキャプチャします:

"エクスポート・フラグ"を使って、まだエクスポート・エリアが設定されていないことを確認する。すでにエクスポート・エリアが設定されている場合は、それを削除することができます。フラグを右クリックし、"Delete Time Range"を選択します。

- エクスポート範囲を定義する前に、タイトルに表示されるすべての録音をエクスポートしたくない場合は、選択範囲を制限することができます。これを行うには、**Export** を右クリックします。左上隅のタイトルに円が表示されます。対応する円をクリックして、必要なカメラを選択します(①)。
- Export** をクリックし、エクスポート・プロファイル②を選択する。エクスポート範囲を定義するためのダイアログ・ボックスが表示されます。



図。146: 輸出範囲を手動でキャプチャ

3. 輸出範囲の指定③.
4. **OK**]をクリックし、**[保存]**をクリックします。

注! Automatically Import After Exportオプションを有効にすると、エクスポートしたクリップが自動的にグループバーに追加されます。

エクスポートバーから録音をエクスポートする

エクスポートバーでは、カメラの録画やMXGクリップをドラッグ&ドロップで素早く簡単に取り込み、録画リストを作成して、その後にエクスポートすることができます。このバーから、録画時間範囲を結合クリップとしてエクスポートできます。クリップは再生ビュー、グリッド再生、スマートデータ検索ビューで追加できます。エクスポート後、クリップは自動的に削除されません。プログラムを終了すると削除されます。

プレイバックビューに書き出し用のクリップを追加する

1. カメラバーまたはデバイスバーから目的のカメラまたはクリップをドラッグします。
2. 興味のある録音を探す。

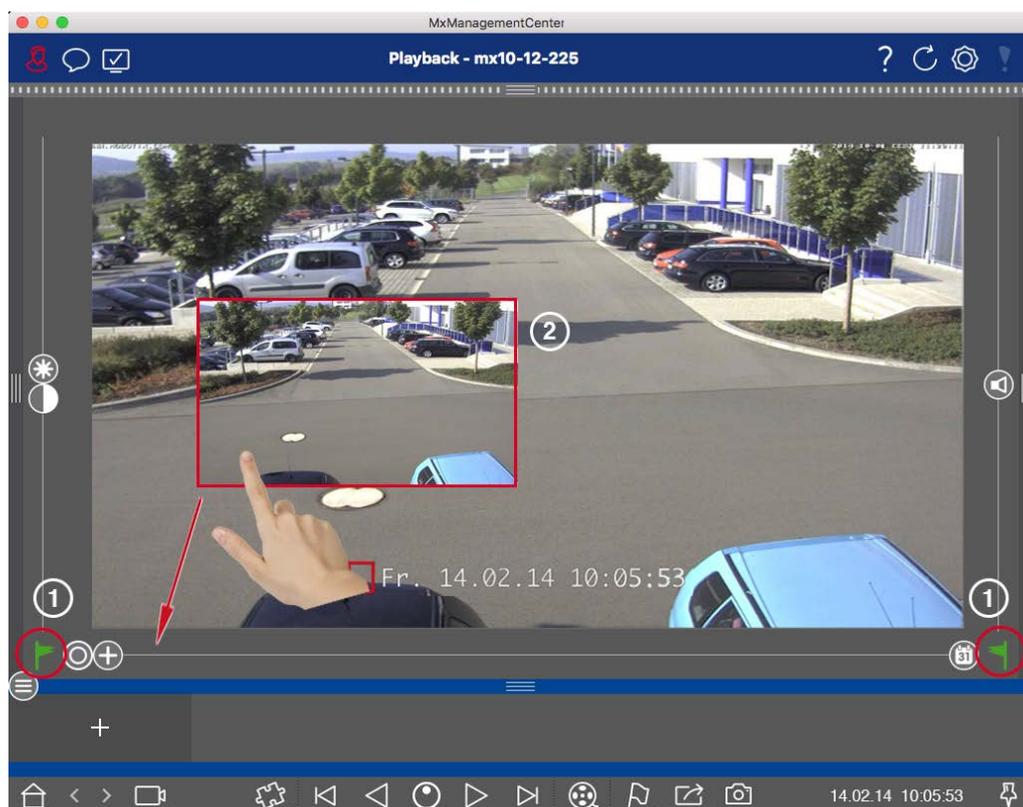


図. 147: プレイバックビューに書き出し用のクリップを追加する

3. 左側の  にある灰色の旗をクリックして、時間範囲の開始をマークします。エクスポートしたいクリップの終わりまで録音を再生します。右側の灰色のフラグ  をクリックして、時間範囲の終了をマークします。どちらのフラグも緑色になりました。①
最初に終了マーカ(右側の灰色のフラグ)を設定してから、録画を最初から再生して、開始マーカ(左側の灰色のフラグ)を希望のポイントに設定することができます。
4. 録画の画像をクリックし、録画の縮小画像が表示されるまでその位置を維持する②。
5. この画像を(開いているかどうかに関係なく)アラームバーにドラッグします。エクスポート・バーが自動的に開き、そこに画像を保存できます。

グリッド再生での書き出し用クリップの追加

グリッド再生のエクスポート・バーは、異なるカメラの連続した時間範囲を結合するのに便利です。

1. 目的のカメラをグリッド内のフォーカス・ウィンドウにドラッグし、該当する録画を見つけます。
2. 左側の  にある灰色の旗をクリックして、時間範囲の開始をマークします。エクスポートしたいクリップの終わりまで録音を再生します。右側のグレーの旗() をクリックして、時間範囲の終わりをマークします。両方のフラグが緑色になります。

3. フォーカス・ウィンドウの録画画像をクリックし、縮小された画像が表示されるまでその位置を維持します。この画像を(開いているかどうかに関係なく)アラームバーにドラッグします。エクスポート・バーが自動的に開き、そこに画像を保存できます。
4. 時間範囲の終了マーカを設定すると、他のすべてのカメラの録画は同じ時刻を表示するように再配置されます。一連のイベントの次の録画があるカメラをフォーカス・ウィンドウにドラッグします。上記のようにクリップの開始と終了をマークし、録画をエクスポート・バーにドラッグします。
5. エクスポートしたいすべての録音を追加するまで、この手順を繰り返します。

エクスポート・バーで複数のカメラの時間範囲を追加することもできます。

1. グループ・バーまたはデバイス・バーから希望のカメラ・グループをドラッグし、関連する録画を検索します。
2. 上記のようにクリップの開始と終了をマークします。他のカメラの録画はそれに応じて再配置されます。
3. **Export**  を右クリックする。録画の左上にチェックマーク付きの選択ボックスが表示されます。特定のカメラの録画範囲をリストに追加しない場合は、そのカメラの選択ボックスのチェックを外します。
4. フォーカス・ウィンドウの録画画像をクリックし、縮小された画像が表示されるまでその位置を維持します。この画像を(開いているかどうかに関係なく)アラームバーにドラッグします。エクスポート・バーが自動的に開き、そこに画像を保存できます。選択したクリップがエクスポート・バーにコピーされます。
5. エクスポートしたいすべての時間範囲を追加するまで、この手順を繰り返します。

また、選択したトランザクションの個々のプレビュー画像のクリップをエクスポートバーに追加することもできます:

1. **プレビュー画像**セクションのトランザクションプレビュー画像をドラッグし、エクスポートバーにドロップします。

注! If the following image is shown in the player view, there is no video data saved for the selected export period.

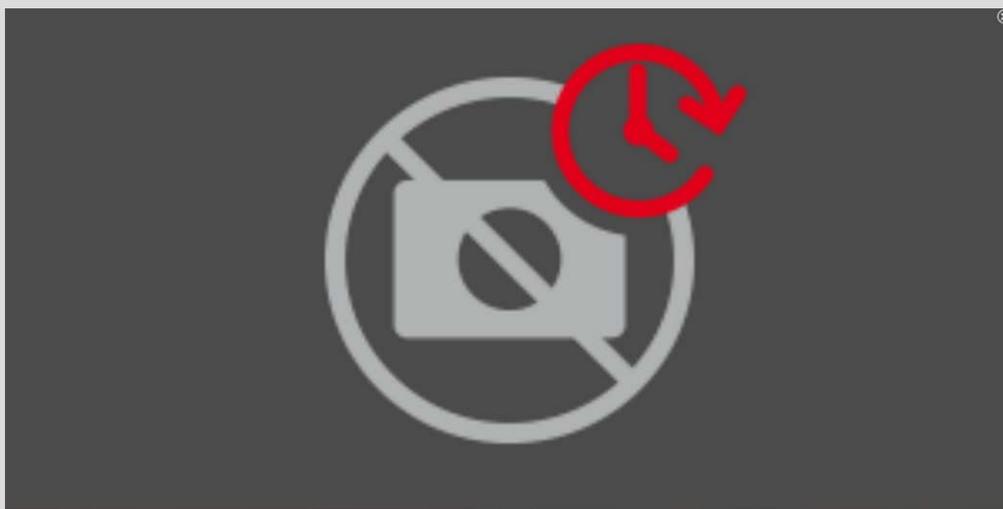
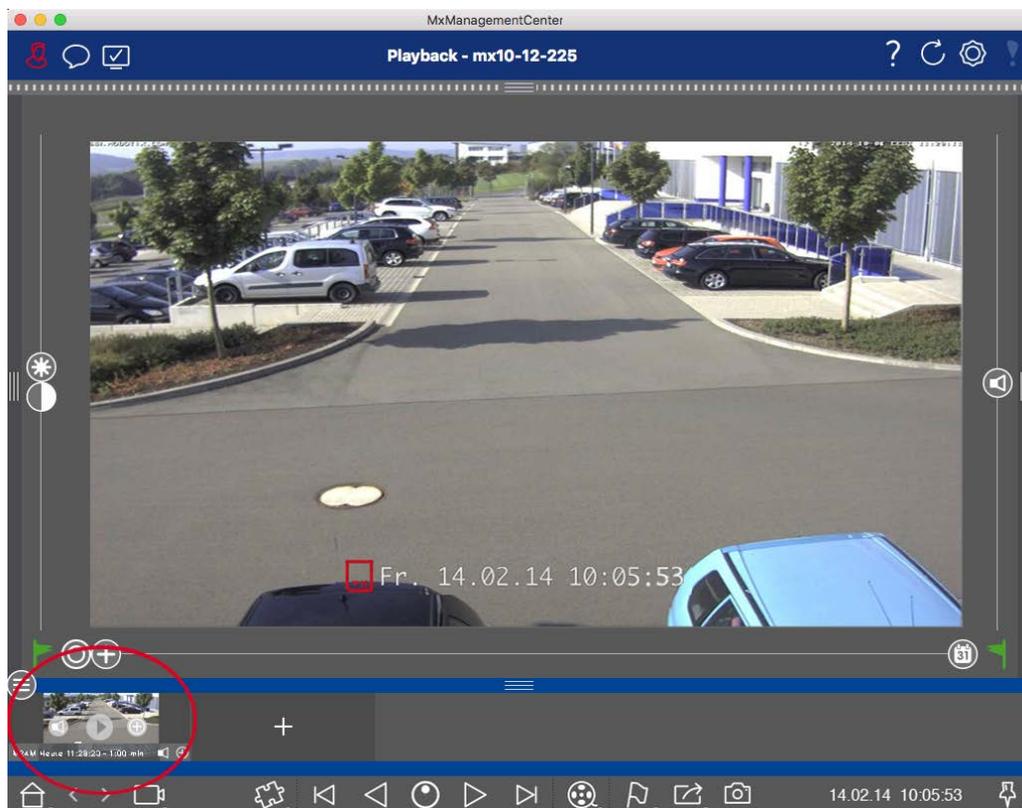


図. 148: エクスポート可能なビデオデータがない

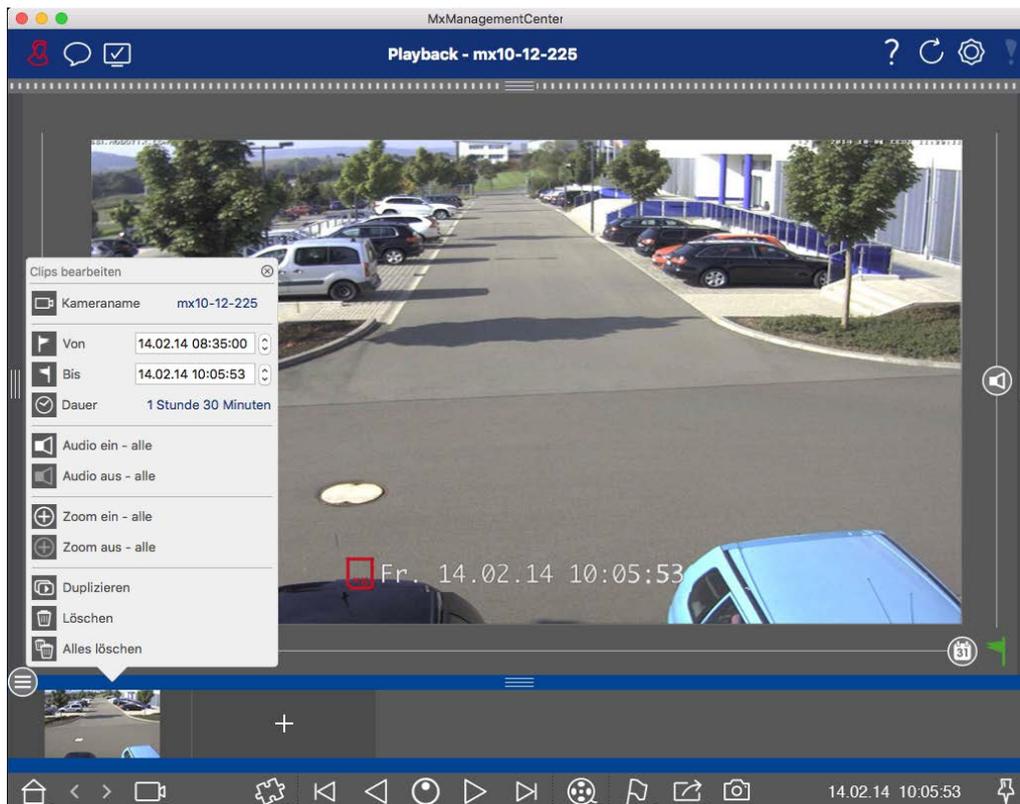
クリップの編集

再生時に歪み補正やズーム機能を使用した録音を書き出しバーに追加した場合、そのクリップをズーム付きで書き出すか、ズームなしで書き出すかを選択できます。同様に、クリップをオーディオ付きで書き出すことも、オーディオなしで書き出すこともできます。書き出すには、マウスポインタを書き出しバーの録画の上に移動します。3つのアイコンが表示されます：



- :
 をクリックすると、クリップがズームなしでエクスポートされます。アイコンは無効になります。
- : デフォルトでは、クリップは音声付きでエクスポートされます(音声録音されている場合)。音声なしでエクスポートするには、 をクリックします。アイコンは無効になります。
- :
 をクリックしてください。

クリップを右クリックすると、コンテキストメニューが表示されます: 時間範囲の手動調整、すべてのクリップのオーディオとズームの有効化/無効化、クリップの複製、1つまたはすべてのクリップの削除。



クリップのエクスポート

Export  をクリックし、MOBOTIX を選択して MXG クリップをエクスポートします。AVI、MP4、または MKV ファイルを作成するには、別のプロファイルを選択します。ただし、データソース(例: MOBOTIX NAS)によっては、すべてのエクスポートプロファイルが利用できるわけではありません。

エクスポートダイアログで保存先パスを選択し、ファイル名を入力します。ファイル選択ダイアログの **Automatically Import After Export** チェックボックスをオンにすると、エクスポート後にMXGクリップが自動的にエクスポートバーに追加されます。

ジョイスティックの使用 MxMC

このセクションでは、MxMC におけるジョイスティックの使用法と統合について説明します。

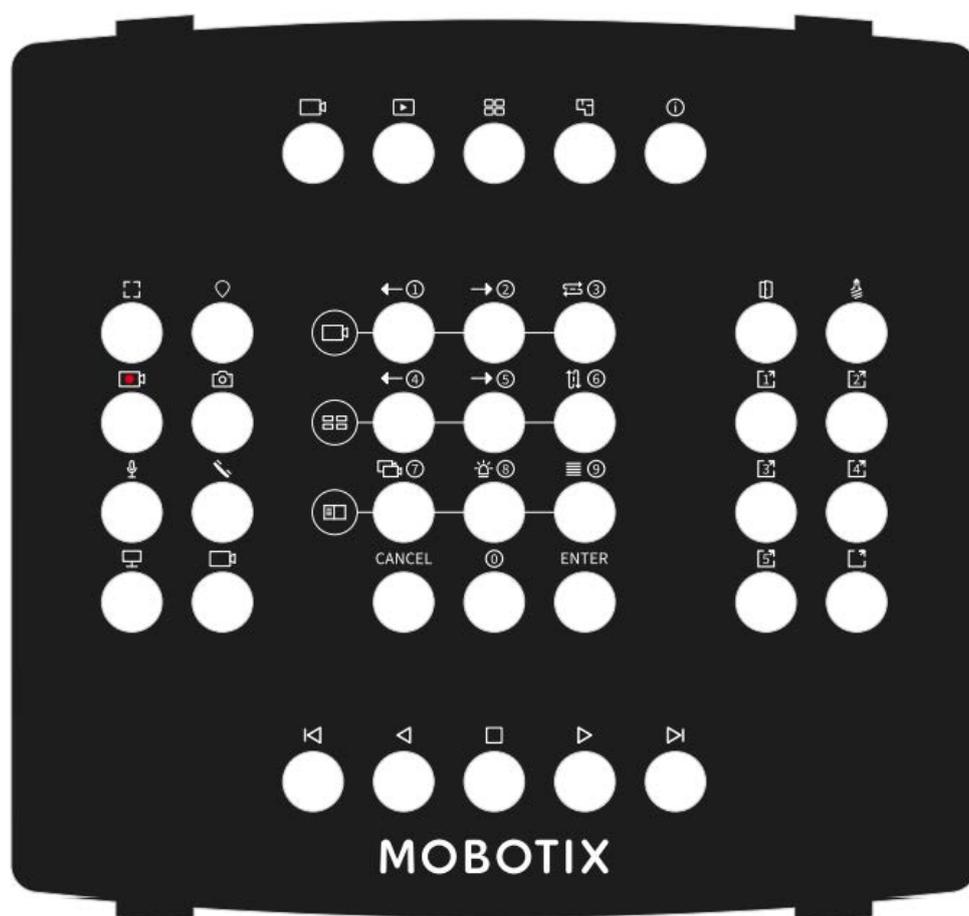
ジョイスティックの一般的な使い方

ジョイスティックの機能範囲はモデルによって異なります。使用する前に、メーカーのマニュアルを参照するなどして、機能の範囲をよく理解してください。

注！ 使用前にジョイスティックとキーパッドをキャリブレーションする必要があります [好み, ページ 159](#)

MOBOTIX PTZキーボードの統合 MxManagementCenter

MOBOTIX PTZ Keyboard はMxManagementCenter に完全に統合されています。詳細については、マニュアル (www.mobotix.com > サポート > ダウンロードセンター > マーケティング&ドキュメンテーション を参照) をお読みになることをお勧めします。



図。149: MOBOTIX PTZキーボード

注！ 使用前にジョイスティックとキーパッドをキャリブレーションする必要があります [好み, ページ 159](#)

MxMC 関連キー割り当て

ボタン番号	プライマリMxMC機能	二次機能(「SELECT」ボタン押下後)
中 セクション		
0	前のカメラ	1
1	次のカメラ	2
2	カムシーケンサー	3
3	前のグループ	4
4	次のグループ	5
5	グループ・シーケンサー	6
6	デバイスツリー	7
7	アラームバー	8
8	スマート・データ・バー	9
9	キャンセル	キャンセル
10	0	0
11	入る	入る
右 セクション		
12	ドアオープナー	
13	ライトトグル	
14	ソフト ボタン1	
15	ソフト ボタン2	
16	ソフト ボタン3	
17	ソフト ボタン4	
18	ソフト ボタン5	
19	ソフト ボタンSELECT *(ボタンの組み合わせ)	
左 セクション		

ボタン番号 プライマリMxMC機能

二次機能(「SELECT」ボタン押下後)

中セクション

24	フルウィンドウ	
25	PTZ SELECT *(ボタンの組み合わせ)	
26	ライブ録音 START / STOP	
27	スナップショット	
28	マイクロフォン オン/オフ	
29	ハンドセット・ピックアップ/ハングアップ	
30	モニターの選択(ボタンの組み合わせ)	
31	カメラの選択(ボタンの組み合わせ)	

ボトムセクション

20	前の画像	
21	後方プレー	
22	停止/一時停止	
23	前進プレー	
39	次の画像	

トップ

34	ライブ表示	
35	プレイバック・ビュー	
36	グリッドビュー	
37	グラフィックビュー	
38	インフォ・ビュー	

ジョグダイヤル

右折	次の画像	
左折	前の画像	

ジョグ・ホイール

右折	再生速度を上げる	第4軸	
左折	再生速度を後方に上げる	第4軸	

サーマルダッシュボードの使用

MOBOTIX MxManagementCenter のThermal Dashboardは、主に温度が重要なプロセスのライブモニタリングに使用され、MOBOTIX Thermal-TRカメラから供給される温度値を中心とした温度カーブのその後の分析も可能です:

- 複数のカメラによる、温度が重要なプロセスのグラフィカルなライブ監視とモニタリング。
- その後の温度履歴の分析。

注! Thermal Dashboardを有効にするにはライセンスが必要です(「[ライセンス](#), ページ 228」を参照)。

グラフの表示とカメラで定義された熱放射測定イベントへの割り付けは以下の通りです:

- サーマル・ダッシュボード・ウィンドウには可変グリッド構造があり、そこに任意の数のダイアグラム・エリアを挿入することができます。各カメラはドラッグ&ドロップで各ダイアグラムエリアに追加できます。
- 各カメラについて、複数のグラフを含む図が表示される。グラフは温度値の推移を示す。温度値はThermal Radiometryタイプのイベントプロファイルの温度測定ウィンドウでカメラによって測定された。
- スポットメーター」グラフが常に表示されます。これは、サーマルスポット計測タイプのイベントがカメラに定義されていない場合でも、サーマルセンサ画像の中心部の温度曲線を表示します。
- アラームタイプが「温度範囲」の熱放射計イベントでは、対応する測定ウィンドウに2つのグラフが表示されます。
- アラームタイプが「温度値」の熱放射計イベントでは、対応する測定ウィンドウにグラフが1つだけ表示され、比較設定に応じて、測定ウィンドウで測定された温度値の最高値(比較=より大きい)または最低値(比較=より小さい)のいずれかが表示されます。
- グラフは、関連する熱事象のプロファイルがカメラで定義されたのと同じ順序で上から下に並んでいる。
- グラフの値は、関連するカメラがサーマルダッシュボードに追加された時点から表示されます。
- 温度値はカメラから読み込まれ、MxMCを閉じるまで処理または保存されます。MxMCを再起動すると、温度ダッシュボードに表示されていた温度データは使用できなくなります。

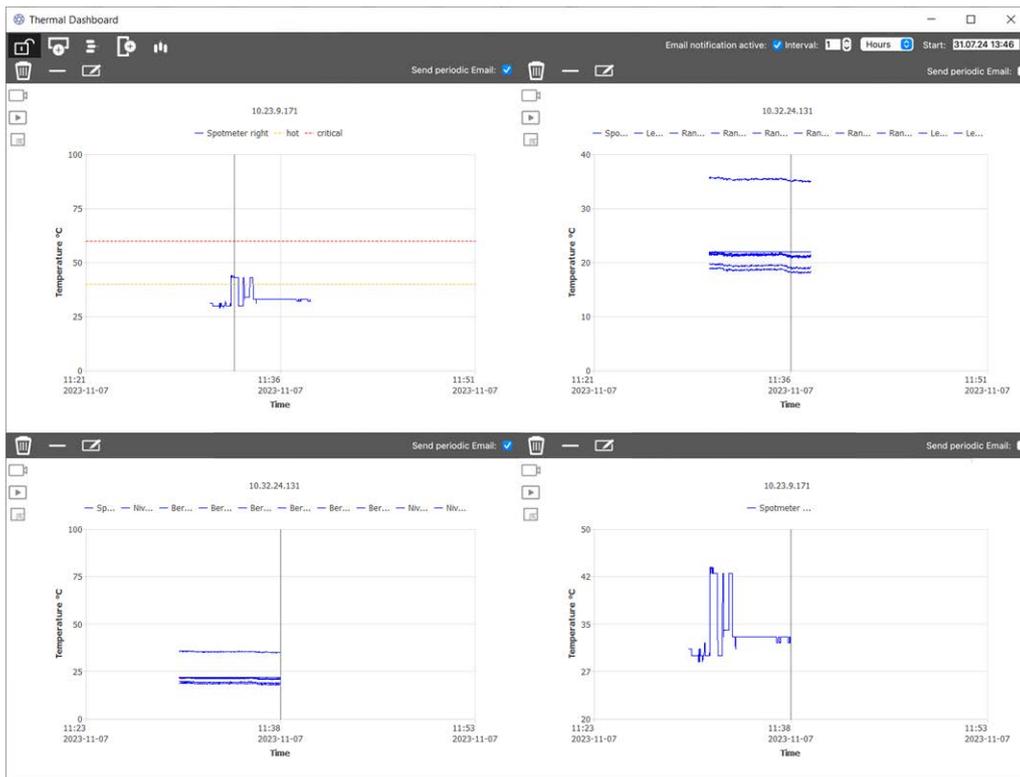
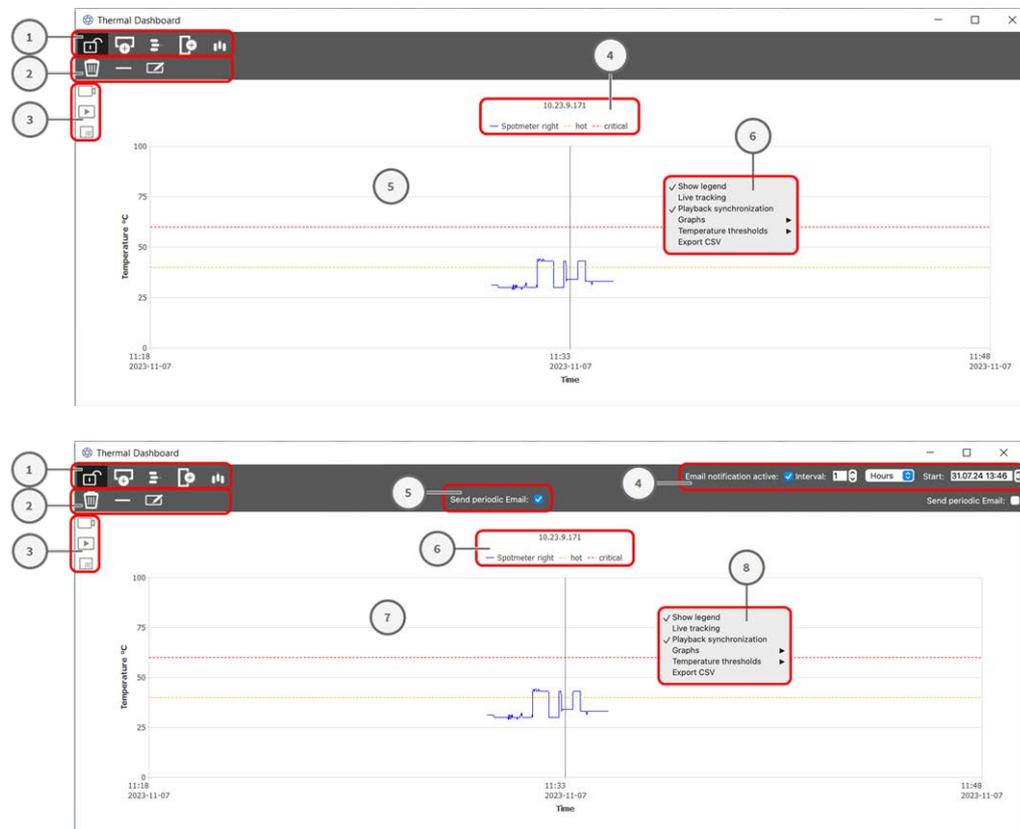


図. 150: サーマル・ダッシュボード

サーマル・ダッシュボード・エリアのユーザー・インターフェース要素



UI要素	説明 / 機能
① ツールバー	ツールバーには、ダッシュボードの一般的な設定を行う機能があります。
	編集モード
	行を追加
	行の削除
	列の追加
	列の削除
② 管理ツールバー	管理ツールバーには、各ダイアグラムを個別にコントロールする機能があります。
	ダッシュボード要素の削除
	ダッシュボード要素からカメラを削除
	トグルユーザーバー
③ ユーザーバー	
	でライブビューにジャンプMxMC
	でプレイバック・ビューにジャンプMxMC
	ダッシュボード要素をフルスクリーンに設定する
メール通知設定	電子メール通知を送信する間隔を有効にし、設定します。
	注！ ヘルスチェックの結果をEメールで送信するには、Eメール送信を有効にし、プログラム環境設定の基本要件として設定する必要があります(Eメール通知 , ページ 174 参照) 。
定期的なEメール通知の送信	ダイアグラム・エリアごとにこのオプションをチェックして、設定で定義された定期通知を送信します。
④ レジェンド	
	カメラ名
	温度測定ポイント
	温度しきい値の名称
⑤ 図エリア	
	時間軸

UIエレメント	説明 / 機能
	温度軸
	熱グラフ
	マーカ
⑥ コンテキストメニュー	
	伝説を表示
	ライブトラッキング
	グラフ
	温度しきい値
	CSVエクスポート

サーマルダッシュボードを開く

メニューのWindows > Thermal Dashboard です。サーマルダッシュボードウィンドウが表示されます。

図の領域にカメラを追加する

1. サーマルダッシュボードのツールバーでをクリックし、編集モードのロックを解除します。
2. MxMC のデバイスバー, ページ 48、MOBOTIX カメラをダイアグラム・エリアの四分円にドラッグ&ドロップします。

図エリアの一般的な機能

温度軸をスケーリングする: マウスホイールをスクロールする。

時間軸の移動 マウスの右ボタンを押したまま、タイムラインを左右にドラッグします。

時間軸にマーカを設定する マーカを設定したいダイアグラム・エリアの位置をダブルクリックする。

注! 1つのダイアグラムに設定できるマーカは1つのみ

アラームの確認 温度がしきい値を上回ったり下回ったりした場合、ダッシュボードでアラームを確認する必要があります。温度しきい値, ページ 324参照してください。

アラームはサーマル・ダッシュボード, ページ 175設定で設定できます。

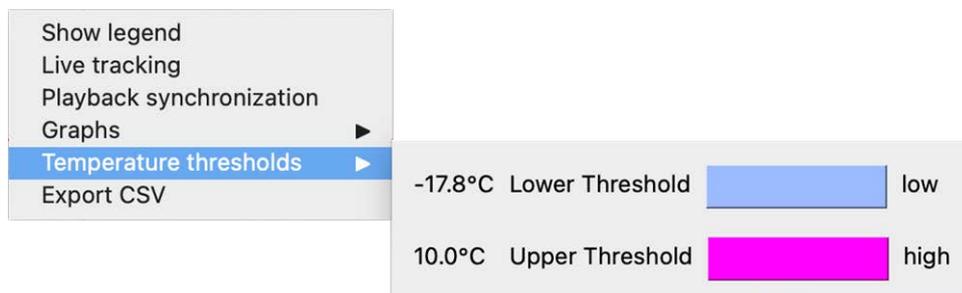
コンテキストメニューの機能

注! 標準モードでは、コンテキストメニューの機能は限られています。

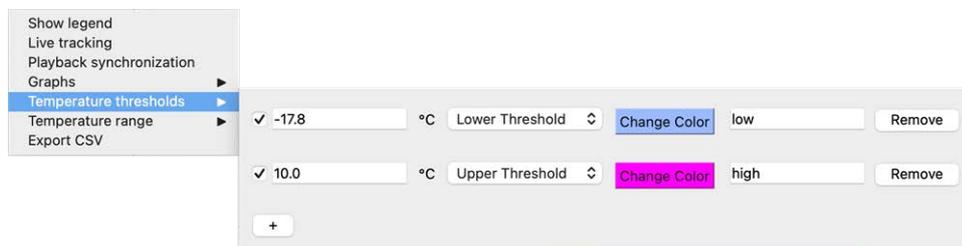
1. テキストメニューの編集機能を有効にするには、サーマルダッシュボードのツールバーのをクリックし、編集モードのロックを解除します。
2. 右クリックでコンテキストメニューを開きます。
 - **伝説を表示**
ダイアグラムの凡例を表示する
 - **ライブトラッキング**
マーカーを現在の時刻に設定する。
 - **再生の同期**
MxMC、[再生ビューでの検索と再生](#)、[ページ 273](#)現在のマーカー位置に同期させる。
 - **グラフ**
標準モード: 設定された可視グラフの名前を表示します。
編集モード: グラフの名前、色、表示を編集する機能。
 - **表示** グラフの表示・非表示を切り替える。
 - **名前** グラフの名前を変更します。
 - **Change Color:** グラフの色を選択します。

■ 温度しきい値

標準モード: 設定された温度しきい値を表示します。



編集モード: 温度軸のしきい値を編集する機能。



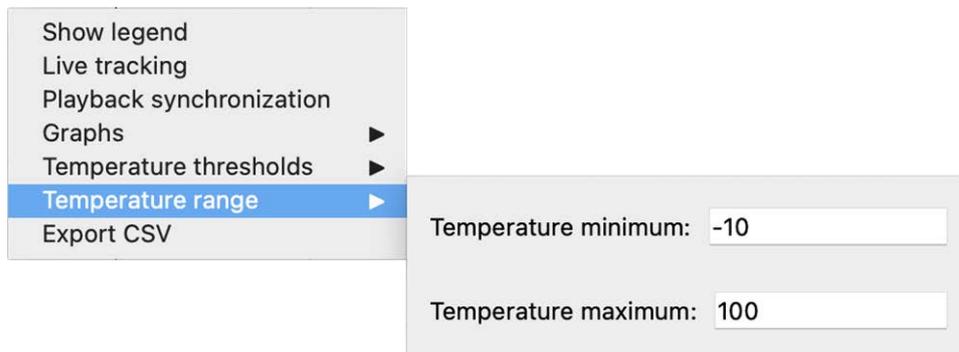
- **プラスアイコン** 閾値の追加をクリック
- **タイプ:** しきい値が上限しきい値か下限しきい値かを選択する。
- **Change Color:** しきい値の色を選択します。
- **名前:** 閾値の名前を入力します。
- **削除する:** 閾値を削除する場合はクリックしてください。

■ 温度範囲

ダイアグラムのデフォルトの温度範囲は0 ~ 200°です。

スタンダードモードではこの機能は使用できません。

編集モード: 温度軸のしきい値を編集する機能。



■ 温度の最小値: ダイアグラムに表示する最低温度を設定します。

■ 温度の最大値: ダイアグラムに表示する最低温度を設定します。

■ CSVエクスポート

エクスポート機能により、ダイアグラムの可視エリアの温度データとエクスポート時のスクリーンショットを保存することができます。

システム構成

MxManagementCenter を使用すると、カメラを直接設定できます。このセクションでは、MOBOTIX 管理者とシステム設置者を対象としています。設定]ビューと[設定]バーの操作の概要、およびグラフィカル要素の操作方法について説明します。

トピックス	説明
コンフィギュレーション概要, ページ 327	コンフィギュレーション・ビューとコンフィギュレーション・バーの構造と操作の概要
グラフィカルな操作, ページ 335	グラフィカルなコンフィギュレーション・エレメントの操作方法の説明。

コンフィギュレーション概要

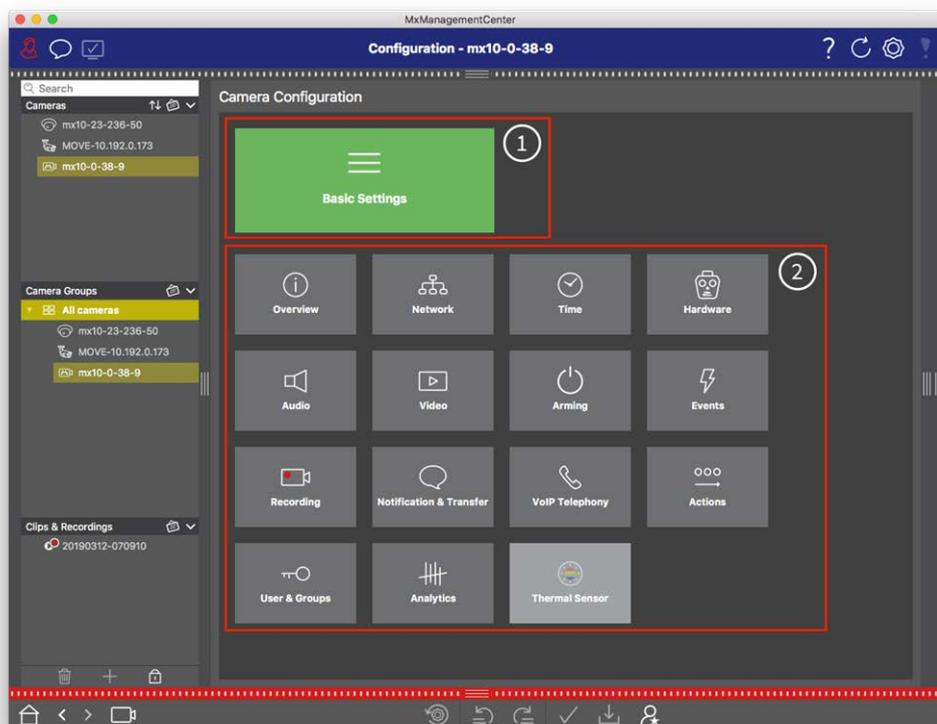
設定]ビューでは、MOBOTIX カメラに直接アクセスして設定できます。一般に、この表示は基本設定セクションと設定グループを含む詳細設定セクションに分かれています。

下部のコントロールは、変更した設定を永久に保存したり、パラメータ値を工場出荷時の設定にリセットするなどの操作に使用できます。

設定は一度に1台のカメラに対して行われます。右側の設定バーでは、カメラまたはカメラグループを変更することなく、グループの複数のカメラの設定を同時に変更できます。

注！ 設定]ビューは、MOBOTIX MOVE カメラおよびONVIF-S/G 互換 インターフェイスを提供する他社製カメラではサポートされていません。カメラの機能の違いの概要については、[カメラ機能の概要](#)、[ページ 11](#)参照してください。

カメラ設定ビューの構造



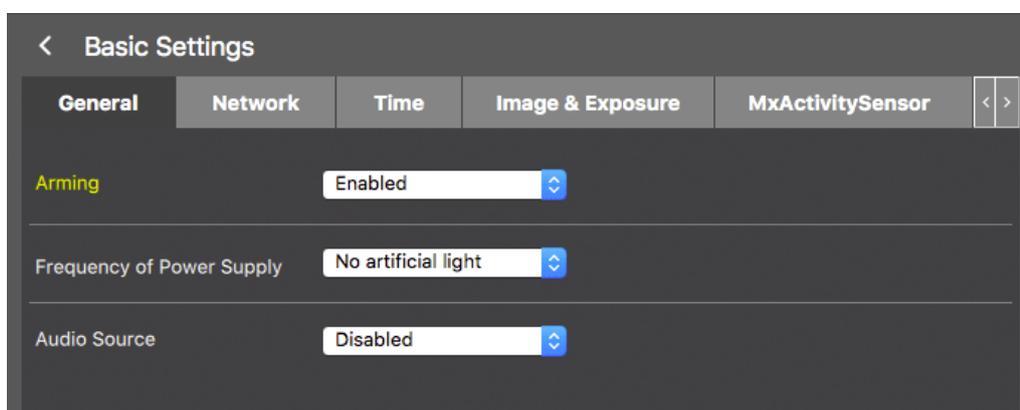
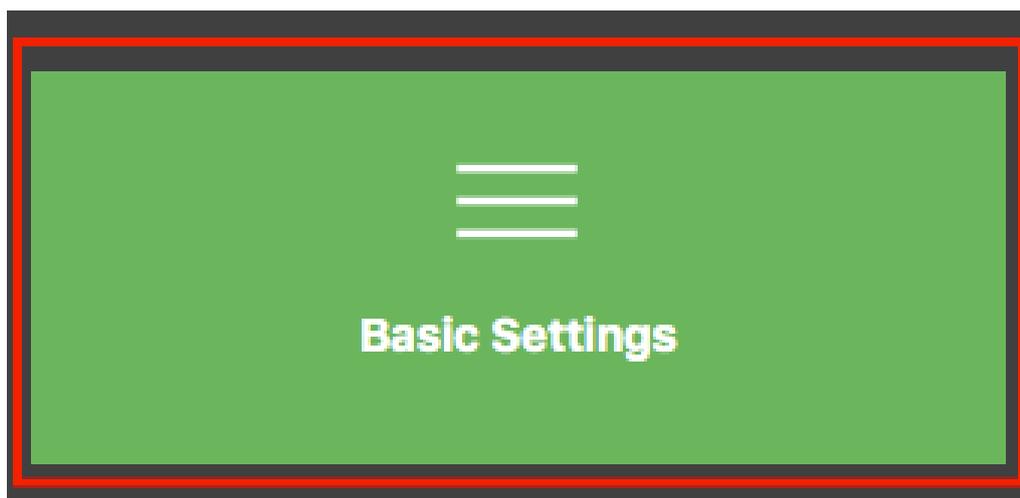
図。151: カメラ設定ビューの構造

基本設定

基本設定① には、カメラおよびカメラシステムの設定に重要な基本設定が含まれています。基本設定には以下の領域があります：

- 一般設定、
- ネットワーク
- 時間だ、
- 画像設定、
- MxActivitySensorと記録。

それぞれのトピック・エリアのパラメータはタブでグループ化されています。各タブについては、[カメラの基本設定](#)、[ページ 80](#)参照してください。



図。152: 基本設定

高度な設定

利用可能な設定パラメータは、テーマごとにタイル^②にグループ化されています。タイルをクリックすると、トピックエリアと関連するサブトピックのタブが開きます。

トピックの中には、露光ウィンドウや検出エリアを定義するためのものなど、グラフィカルな設定項目があります。これらの設定項目の操作方法の詳細については、「[グラフィカルな操作, ページ 335](#)」を参照してください。

個々の被写体領域の設定オプションおよびパラメータに関する広範な情報は、現在のところ、カメラのヘルプページからのみ入手できます。**CMD+Shift+H**(Mac) / **CTRL+Shift+H**(Windows) を押すと、MxMC からカメラのヘルプ目次に直接アクセスできます。

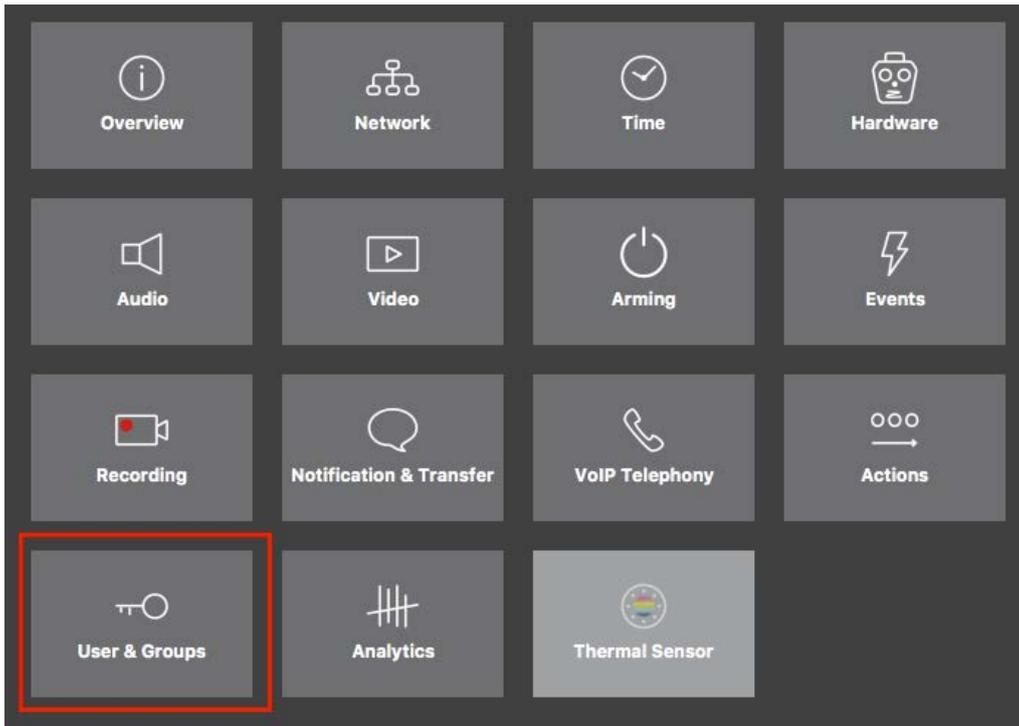


図. 153: 高度な設定

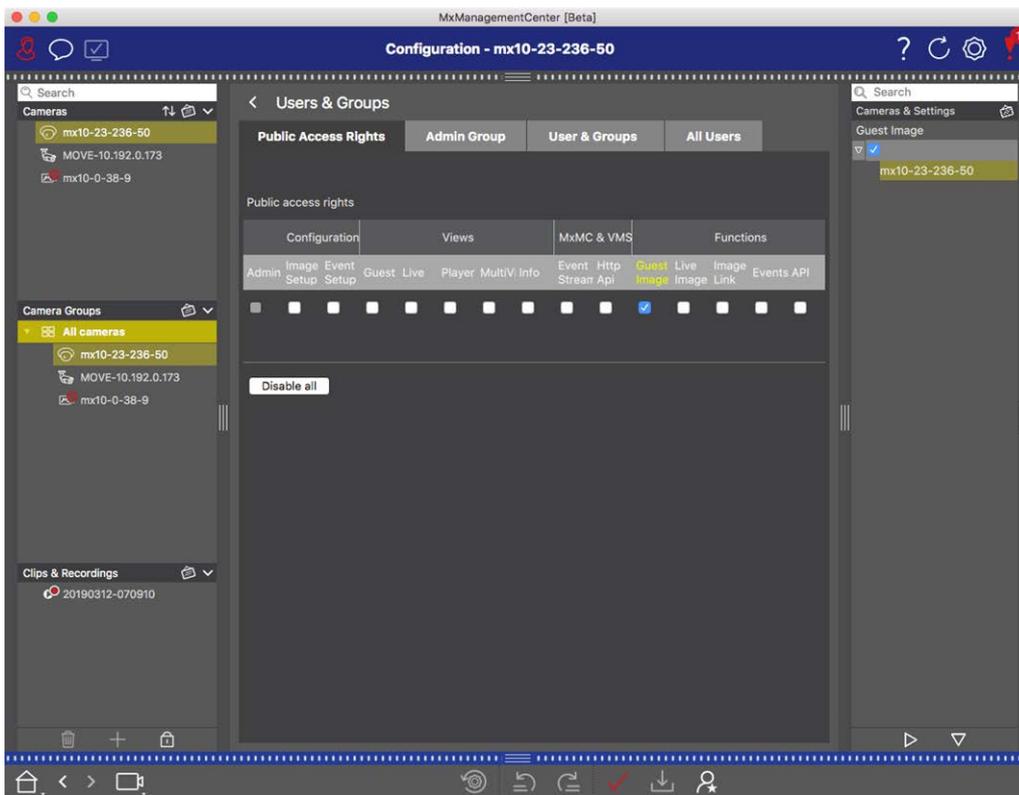


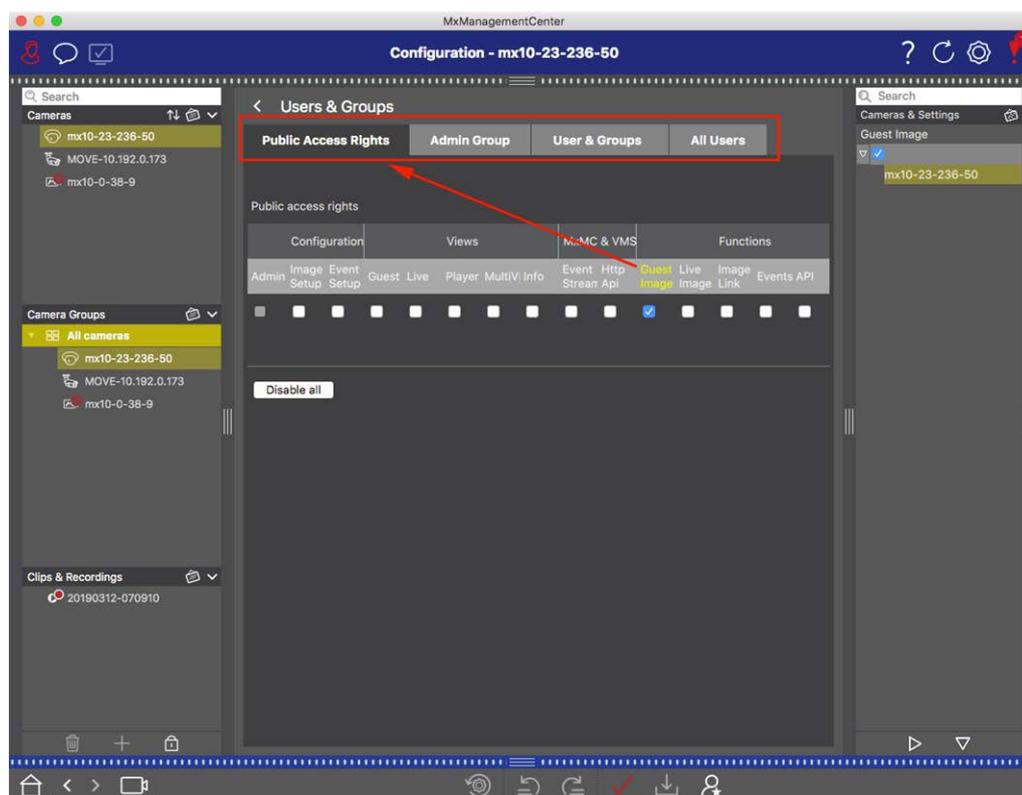
図. 154: 詳細設定 - ユーザーとグループ

詳細設定の設定

注意！ ユーザー設定を変更すると、カメラにアクセスできなくなることがあります。知らないユーザやパスワードを削除したり、移動したりしないようにしてください！

1. それぞれのタブをクリックすると、対応するトピックエリアが開きます。
2. トピックごとに必要な設定を行う。

注！ 表の該当するトピックエリアをクリックすると、詳細設定設定の各トピックエリアの情報ページが開きます。



図。155: 詳細設定 - ユーザーとグループ

変更した設定の適用と保存

注意！ ユーザー設定を変更すると、カメラにアクセスできなくなることがあります。知らないユーザやパスワードを削除したり、移動したりしないようにしてください！

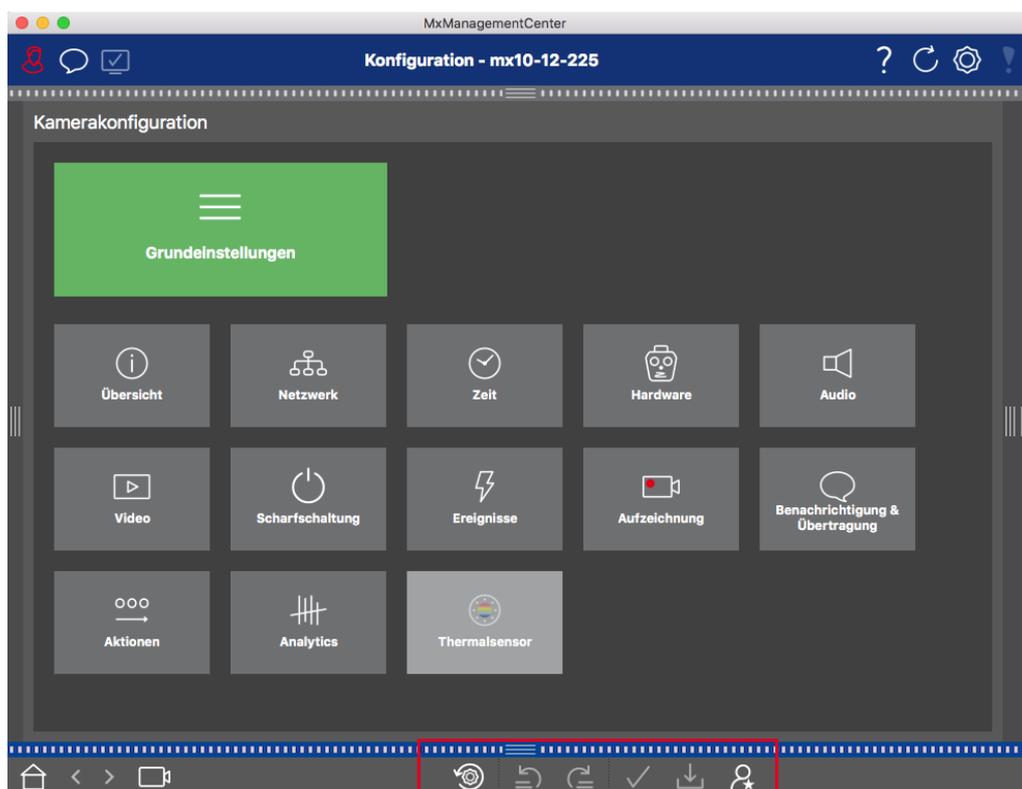


図. 156: 変更した設定の適用と保存

ビューの下部にあるコントロールを使って、変更した設定を永久保存したり、パラメータ値を工場出荷時の設定にリセットしたりすることができます:

工場出荷時設定へのリセット

現在のカメラタブのすべてのパラメータを工場出荷時設定にリセットするには、 をクリックします。

最後の変更の取り消し/やり直し

 をクリックすると、前回の変更を取り消すことができます。元に戻した変更をやり直すには、 をクリックしてください。

変更を適用する

Enter] キーを押すか、[Configuration] ビューで新しい値を選択することで変更できます。

値が変更されると、コマンドバーのチェックマークが赤くなり、変更がまだ実行されていないことを示します。この変更を行うには、 をクリックします。

設定の保存

パラメータ値が変更されると、[設定を保存]  アイコンがコマンドバーで赤くなります。初期状態では、変更内容は常にカメラに一時的に保存されます。次の再起動後も現在の設定が使用されるように、変更は永久に保存する必要があります。

1. そのためには、**Store configuration**  をクリックします。プロンプトが表示されます。プロンプトで「Store」をクリックします。
2. 変更を保持したくない場合は、**Discard**をクリックします。これにより変更が破棄され、最後に永久保存された全体設定が復元されます。

エキスパート設定

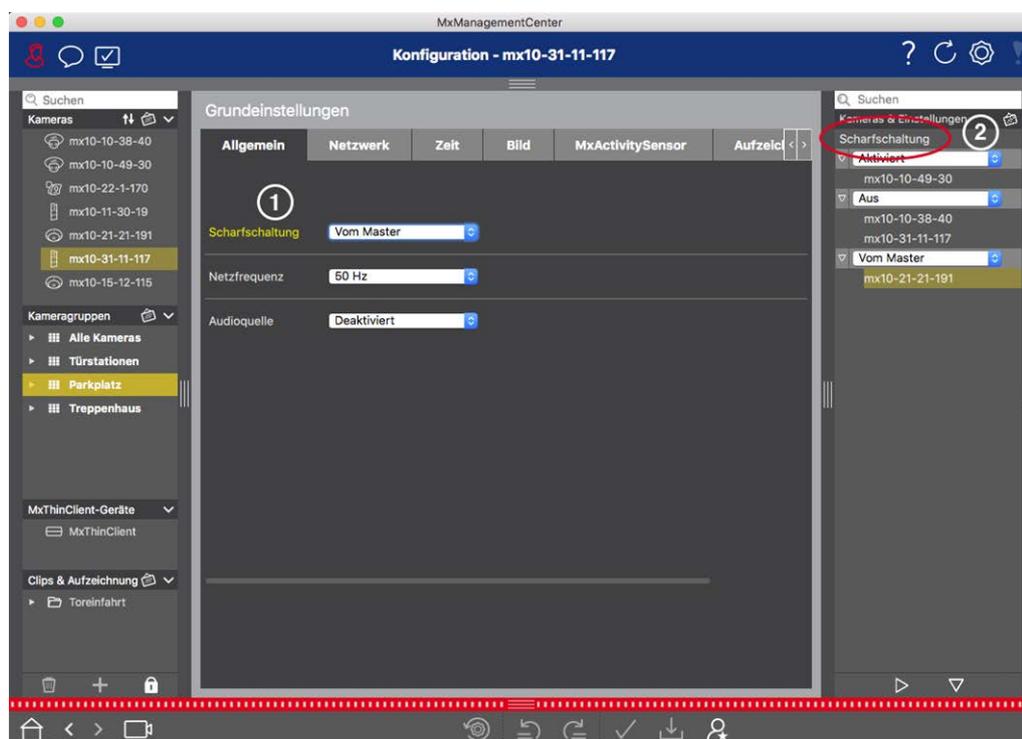
コンフィギュレーションのさまざまなセクションには、MxMC を使用した日常的な作業には必要のないパラメーターを変更するための追加設定が用意されています。これらの設定は、各セクションのエキスパート設定としてまとめられていることに注意してください。エキスパート設定を開くには、 をクリックします。

設定バーで複数のカメラのパラメータ値を変更する

注意！ ユーザー設定を変更すると、カメラにアクセスできなくなることがあります。知らないユーザーやパスワードを削除したり、移動したりしないようにしてください！

設定] 表示では、1 台のカメラのパラメータを入力できます。設定バーを使用して、グループ内の他のカメラで使用できるパラメータ値を確認できます。また、別のカメラまたはカメラグループに切り替えることなく、グループ内の1台または複数のカメラの設定を変更できます。

グループ内の他のカメラのパラメータ値のチェック



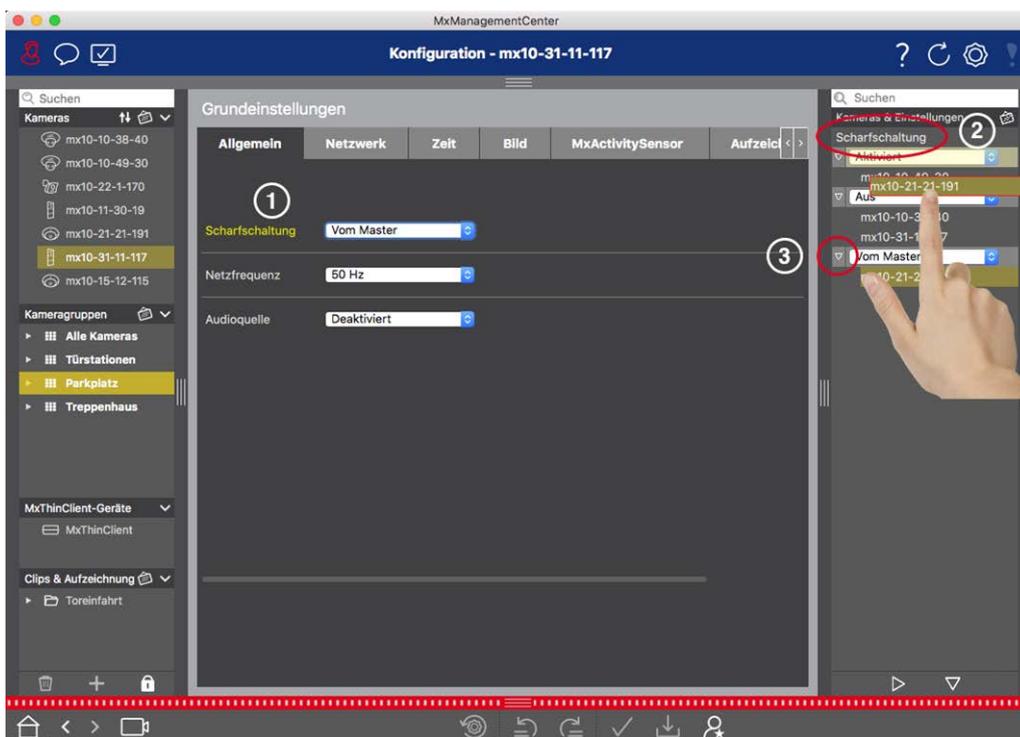
図。157: グループ内の他のカメラのパラメータ値のチェック

例

複数カメラのアーミングをチェック

1. 該当するパラメータ名をクリック①。
2. 黄色に変わり、設定バーにはこのグループのカメラに定義されたこのパラメータに関連するすべての値が表示されます②。

1台のカメラまたは複数のカメラの値の変更



図。158: 1台のカメラまたは複数のカメラの値の変更

例

設定バーを使って値を変更する

1. コンフィギュレーションビューの該当するパラメータ名① をクリックする。黄色に変わり、[設定] バーにこのグループのこのパラメータに関連するすべての値が表示されます②。この値が設定されているカメラは、個々の値に割り当てられます。
2. 目的のカメラをハイライトし、設定したいパラメータ値の上にドラッグします。ドラッグ先の領域が黄色に変わります。
3. 複数のカメラに同じ値が設定されていて、この値を変更したい場合は、設定バー③ のパラメータ選択フィールドをクリックします。次に、必要な値を選択します。

グラフィカルな操作

コンフィギュレーションでは、露光 ウィンドウや検出エリアなどのグラフィック要素をマウスで簡単に編集できるようになりました。これらのグラフィック要素の処理には、次の表で説明する統一された操作コンセプトが適用されます。

アクション	説明
露光 / 検出 ウィンドウの 作成	マウスポインタを使ってウィンドウを描く。
露光 ウィンド ウ/検出エリア の移動	露光 ウィンドウ/検出エリアを左クリックし、希望の位置に移動する。
露光 ウィンド ウ/検出エリア の変更	 のアイコンが表示されるまで、白い "ハンドル" の上にマウスポインタを移動させる。マウスを左クリックし、ウィンドウをドラッグして大きくしたり小さくしたりします。
露光 ウィンド ウ/検出エリア を回転させる	 をクリックし、マウスボタンを押したまま、緑色のエリアを時計回りまたは反時計回りに回転させる。
露光 ウィンド ウ/検出エリア の形状を変 更する	 をクリックしてポリゴンモードに切り替えます。角に白いコーナーポイントが表示されます。コーナーポイントを好きな位置にドラッグします。新しいコーナーポイントを挿入するには、白線または緑色の領域を右クリックします。コーナーポイントを削除するには、点を右クリックします。次に  をクリックします。
露光 / 検出 ウィンドウの 削除	 をクリックする。
分析から地 域を除外す る	分析から除外する位置に適切なサイズのウィンドウを開く。ウィンドウ内をクリックし、2つのアイコンが表示されるまでマウスボタンを押したままにする。  をクリックして除外ウィンドウを決定する。ウィンドウが赤くなる。

注! グラフィカル・ウィンドウ要素の処理状態は、ウィンドウの色が黄色または緑色で示される。ウィンドウが黄色の場合、編集はできません。この例は、定義済みの露光ウィンドウです。一方、カスタム露光ウィンドウのような緑色のウィンドウは、グラフィカルに編集することができます。

トラブルシューティング

このセクションでは、アクション・ログへの対応など、解決へのアプローチを紹介する。

行動ログ

MxMC のすべてのユーザーアクションは、アクションログに時系列で保存されます。これは暗号化されたXMLストリームとして"MxManagementCenter.xml"として保存されます。ターゲット ディレクトリは、環境設定の[監視, ページ 164](#)」>「アクションログ」で設定できます。CSVおよびPDFファイルとしてエクスポートできます。以下のアクションがアクションログに記録されます。

名称	アイド	ログカ テゴ リー	で使用される。	テキスト
グッバイログエントリー	GdBy	エルク システ ム	申し込み	MxManagementCenter.
ウェルカムログエントリ	へロ	エルク システ ム	申し込み	立ち上げ MxManagementCenter
ログインログエントリ	ジン	エルク アクセ ス	プロジェクト ユーザー	<TYPE> <USER> (<USERROLE>) のログインに成 功しました。
ユーザーパスワード変更エントリ	ウスプ コ	エルク アクセ ス	プロジェクト ユーザー	ユーザー <USER> のパスワード が変更されました。
ログアウトログエントリ	エルゴ	エルク アクセ ス	プロジェクト ユーザー	<USER>(<USERROLE>) からログ アウトしました。
SwitchPageLogEntry	ページ	エルク ビュー イング	ホームウィンドウ	ビュー < VIEW > に切り替える。

名称	アイド	ログカ テゴ リー	で使用される。	テキスト
SwitchViewLogEntry	ビュー	エルク ビュー イング	ホームウィンドウ	カメラに切り替える <CAMERA>.
SwitchCameraLogEntry	来た	エルク ビュー イング	ホームウィンドウ	カメラに切り替える <CAMERA>.
SwitchGroupLogEntry	グルー プ	エルク ビュー イング	ホームウィンドウ	グループ<GROUP>に切り替える。
オートログアウトエントリ	オーロ	エルク アクセ ス	申し込み	<MINUTES> 分間アクティビティがないため、ユーザーがログアウトしました。
スーパーバイザーオンエントリ	スヴォ ン	エルク アクセ ス	セキュリティマネージャー	スーパーバイザーモードが有効。
スーパーバイザーオフエントリ	スヴォ フ	エルク アクセ ス	セキュリティマネージャー	スーパーバイザーモードを解除。
ExportRangeEntry	ExRa	エルク エク スポ ート	輸出設定カテゴリ	<CAMNAME>の録音は <STARTDATE>から<ENDDATE>までエクスポートされます。
オーディオエントリ	アウ ディ	エル シー オー ディオ	シーンストリーム	<CAMNAME>(<CAMURL>) の <SOURCE>を<STATUS>に変更しました。
トリガーエントリ	トリグ	ソフト ボタン	CameraActionController	<CAMNAME> (<CAMURL>): <TARGET> がトリガーされました。
ソフトボタンエントリ	ソトル	ソフト ボタン	CameraActionController	ソフトボタン <SOFTBUTTON_NAME> が押された <SOFTBUTTON_URL>

名称	アイド	ログカ テゴ リー	で使用される。	テキスト
InstantPlaybackEntry	アイ ピーラ	エルク プレイ バック	イベントプレーヤーコン ローラー	カメラ<CAMNAME>の再生開始 時刻:<TIMESTAMP>。
ユーザー作成エントリ	Uscr (ユー エス シー アール	エルク アクセ ス	プロジェクトユーザー	<USER>(<USERROLE>) が作成 された。
ユーザー削除エントリ	ウスレ	エルク アクセ ス	プロジェクトユーザー	<USER>(<USERROLE>)が削除 された。
シングルアラーム確認	SCfm	エルク アラ ーム	イベントテーブルビュー	カメラアラームを確 認:<CAMNAME>、<DATE>、 <ALARMTYPE>、<COMMENT>。
オールアラーム確認	ACfm	エルク アラ ーム	イベントテーブルビュー	カメラアラームを確 認:<CAMNAME>、 <STARTDATE>...<STOPDATE>、 <COMMENT>。
アラームタイプ確認	TCfm	エルク アラ ーム	イベントテーブルビュー	カメラアラームを確 認:<CAMNAME>、 <STARTDATE>...<STOPDATE>、 <ALARMTYPE>、<COMMENT>。
シンククライアントトリガー	TCSw	エルク ビュー イング	CameraActionController	MxThinClient <THINCLIENTNAME>: "<CAMNAME>"カメラに切り替え ます。
シンククライアント停止	TCSt	エルク ビュー イング	CameraActionController	MxThinClient <THINCLIENTNAME>: 正常な 動作を再開します。
ライブレコーダー開始	LRSa	エルク エク ポート	ライブレコーダー	<CAMNAME>のライブ録音を開 始しました。

名称	アイド	ログカ テゴ リー	で使用される。	テキスト
ライブレコーダー停止	LRSO	エルク エクス ポート	ライブレコーダー	<CAMNAME>のライブ録音が停止しました。
LiveRecorderChanged	LRCh	エルク エクス ポート	ライブレコーダー	ライブ録音が<CAMNAME>に切り替わった。
ライセンス更新ログエントリ	リアッ プ	エルク アクセ ス	ライセンスハンドラー	ライセンスサーバーでライセンスが更新されました。
LicenseFileWroteLogEntry	LiWr	エルク アクセ ス	ライセンスハンドラー	能力 リクエストファイルをディスクに書き込む。
LicenseFileReadLogEntry	LiRe	エルク アクセ ス	ライセンスハンドラー	能力 ディスクからのレスポンスファイル読み込み。
FlashConfigLogEntry	Flsh	エルク システ ム	コンフィグビューウィジェ ット	<CAMNAME>のコンフィギュレーションが保存される。
DeviceDirtyLogEntry	ダート	エルク システ ム	蔵衛門ビューウィジェ ット	<CAMNAME>の設定が変更されました。
セキュアシステムチェック	SeCh	エルク システ ム	セキュアシステムマネー ジャ	デバイス<CAMNAME>のセキュリティチェックを実行しています。
システムセキュア	SySe	エルク システ ム	セキュアシステムマネー ジャ	デバイス<CAMNAME>のシステムが保護されました。
ActionLogContextSwitchEntry	ALog	エルク ジェネ ラル	アクションログ	ロギングを<LOGNAME1>から<LOGNAME2>に切り替えた。
ActionLogReadingFail	アラー	エルク ジェネ ラル	アクションログ	ファイルが壊れているか、見つからない。

名称	アイト	ログカ テゴ リー	で使用される。	テキスト
無効パスワードログエントリ	クレド	エルク アクセ ス	スタートアップダイアログ	<USER>(<USERROLE>) に入 力されたパスワードが無効です。
SupervisorPasswordChangeEntry	エスブ イピー ダブ リユー	エルク アクセ ス	プロジェクトユーザー	スーパーバイザーのパスワードが 変更された。
CameraPlaybackEntry	CPla	エルク プレイ バック	プレイヤー・ビュー・ウィ ジェット	カメラ"<CAMNAME>"の再生が 開始されました。
GroupPlaybackEntry	ジーブ ラ	エルク プレイ バック	プレイヤー・ビュー・ウィ ジェット	グループ"<GROUPNAME>"の再 生を開始した。
ActionLogReconnectEntry、	ReCo	エルク システ ム	申し込み	アクション ログ バックアップ パス の再接続。<STARTDATE>から <ENDDATE>までのパスが使用 できませんでした。
ActionLogDisconnectEntry	ディス ク	エルク システ ム	申し込み	アクションログバックアップパスが <DATE>以降使用できません。
IdentifyLogEntry	WSID	エルク システ ム	申し込み	ワークステーション= <MACHINENAME>によって作成 されたアクションログ。
変更ALPathLogEntry	チャン	エルク システ ム	環境設定ダイアログ	アクション ログパスが<NEW= PATH>に変更されました。
PathNotFoundLogEntry	パナ	エル シーア クショ ンログ	ActionLogFileWriter	パス <PATH> が見つかりませ ん。アクションログを書き込めま せんでした。

名称	アイド	ログカ テゴ リー	で使用される。	テキスト
デフォルトパス使用ログエントリ	パナ	エル シーア クショ ンログ	ActionLogFileWriter	パス <PATH> が見つかりませ ん。デフォルトパス <DEFAULTPATH> を使用しま す。
自動アラーム確認	AtCm	エルク アラ ーム	イベントテーブルモデル	カメラアラームを確認" <camname>、<timestamp>、 <type>。
メール送信	MSen	エル シーア クショ ンログ	EmailAdapter	メールが送信されました: <ADDRESS>, 件名: <SUBJECT>.
スナップショット ログエントリ	スナッ プ	エルク システ ム	ホームビューウィジェット	スナップショットを保存。
SnapshotErrorLogEntry	SErr	エルク システ ム	ホームビューウィジェット	スナップショットの保存に失敗し ました。
スナップショット 自動ログエントリ	ソート	エルク システ ム	ホームビューウィジェット	自動スナップショット生成(非イ ベントストリーム・ストリーム 用)。
ParseXMLLogEntry	エック スエム エル ピー	エル シーエ ラー	ログエントリ	行 '%3'、列 '%4' のアクション・ ログ '= %2' の読み取りエラー '%1' です。
輸出理由エントリ	ExCo	エルク エク ポート	エクスポート マネージャー	エクスポートのコメント: %1
ResearchViewReasonEntry	スワコ	エルク ビュー イング	ホームウィンドウ	リサーチビューに切り替えるため のコメント: %1

MOBOTIX

Beyond Human Vision